堀町遺跡（第５次）発掘調査報告

～松阪市朝田町～

２０１６（平成28）年３月

三重県埋蔵文化財センター

調査地周辺航空写真（2006年撮影三重県共有デジタル地図、上が北、矢印先が遺跡中心）

２区全景（北から）

5-2 区全景（北から）

6-3、7-1 区全景（南西から、写真奥が朝田寺）

7-5 区　掘立柱建物

ＳＥ 5187 井戸枠（縦板・横板組、北から）

同　縦板（東から）

ＳＥ 5067 水溜（曲物）

井戸枠に転用された建築部材（闕、1337・1338）

ＳＥ 5316・5323 井戸枠（縦板組）

ＳＥ 5218（結物１段）

ＳＥ 5328（結物積み上げ）

出土した曲物（左手前：１類、右奥：２類）

ＳＥ5015上層出土土器

墨書土器「盛法寺」（コントラストは調整）

刻書土器

円形被熱痕のある皿

結物の楔

井戸枠に転用された建築部材（矢筈矧ぎ）

結物部材の縦挽きノコギリ痕

ＳＤ5285・5297、ＳＫ5308出土南伊勢系土師器

例　言

1　本書は、高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴う堀町遺跡（第５次）の発掘調査報告書である。同事業で実施した、大角遺跡の工事立会調査成果も掲載した。

2　調査地は、三重県松阪市朝田町字大角・斎宮・堀町・里辺・東浦に位置する。

3　発掘調査は、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて実施した。発掘調査および整理作業の経費は、国庫補助金を得て三重県教育委員会が一部負担し、他は三重県農林水産部から執行委任を受けた。

4　堀町遺跡の発掘調査期間は平成 24 年５月 23 日～平成 25 年２月 22 日である。この他、工事の進捗に合わせて、随時工事立会調査を実施している。

5　第５次調査の発掘調査面積は、4,396㎡である。

6　第５次調査の体制は以下の通りである。

調査主体　三重県教育委員会

[現地調査　平成 24 年度]

調査担当　　三重県埋蔵文化財センター　調査研究１課

技　師　櫻井　拓馬

主　査　谷口　文隆・岩脇　成人

主　幹　中井　良和

研修員　門野　隆一

土工委託　安西工業株式会社

[平成 25・26 年度整理作業]

整理担当　　三重県埋蔵文化財センター　調査研究１課

技　師　櫻井　拓馬

保存処理委託　木製品　（株）吉田生物研究所、（株）古環境研究所

自然科学分析委託　　（株）パレオ・ラボ（樹種同定）

7　本書の編集は櫻井があたった。第Ⅵ章（大角遺跡）は相場さやか、それ以外は櫻井が執筆した。遺物の写真撮影は櫻井、田中久生が行った。

8　発掘調査および整理作業に際しては、地元朝見上地区の方々をはじめ、下記の諸氏や機関に御指導・御協力を賜った。記して感謝したい。

今西敏典、海野聡、大山幹成、榎本義譲、木之本和之、鈴木伸哉、西田尚史、藤澤良祐、星野安治、朝見上地区土地改良区、松阪市立朝見小学校、松阪市教育委員会、松阪市文化財センター、宗教法人朝田寺（敬称略、順不同）

9　調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。ご活用願いたい。

凡　例

1　本書では、国土地理院発行の 1:25,000 数値地図（「松阪」相当、平成 20 年 10 月発行）、三重県共有デジタル地図の 1:2,500 地形図を用いた。

三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合の承認を得て使用した（三総合地第 181 号）。

2　標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。

3　本書で用いた座標は世界測地系に基づくものである。方位は第Ⅵ座標系の座標北で示した。

掘立柱建物の方位は、飯野郡条里地割（N15° E）との対応を示すため、南北軸を東偏角で示した。

4　本書で用いる遺構略号は以下のとおりである。

ＳＢ：掘立柱建物　ＳＥ：井戸　ＳＫ：土坑　ＳＤ：溝　Pit：柱穴　ＳＲ：自然流路

5　土色の標記は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1967 年初版）に拠った。遺物観察表における土器の色調表記もこれに従う。

6　遺物実測図の縮尺は 1:4 を基本とし、その他の縮尺を適宜用いた。

7　註は各章の文末に付し、参考文献も註に記した。

8　遺構一覧表、遺物観察表は各章末に付した。

9　遺物観察表の凡例は以下のとおりである。

・実測番号は、当センター所蔵の遺物実測図番号である。

・色調は外面のみ、標準土色帖の色名（「黄橙色」など）を記す。マンセル記号の表記は省略した。

・土器の残存率は全周を 12 分割して示す（例：口縁部 3/12）。1/12 以下のものは「口縁部片」など。

・胎土の緻密さは、粗・やや粗・やや密・密の４段階である。

・焼成具合は陶器のみ、良・やや良・やや不良・不良の４段階で示す。

・法量は完存ないし復元の値である。口径･底径は実測時の接地面ではなく、外周で計測した値とした。また、土師器皿の底径は記していない。

・出土砥石の粒度は、JIS 研磨剤の規格に準拠するサンドペーパーに対比して示す。粒度は＃ 40 以下、80（粗目）、120、180（中目）、320、600（細目）、1000、2000 以上（極細目）の８段階とした。

10　写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告番号と対応する。遺物写真は縮尺不同である。

11　古代（飛鳥時代除く）・中世の時期区分は、明和町斎宮跡における土師器編年（斎宮歴史博物館 2001）、南伊勢系土師器を中心とした中世土器の編年（伊藤 2008）に即して示した（第Ⅲ章）。共伴陶磁器などでさらに年代の絞り込みが可能な場合は、各陶磁器編年や暦年代観を記している。

平安時代	前期（斎宮Ⅱ期１～３段階）	８世紀末～９世紀	
	中期（斎宮Ⅱ期４段階）	10 世紀前半	古代
	後期（斎宮Ⅲ期１～２段階）	10 世紀後半～ 11 世紀前半	
中世Ⅰ期（ａ・ｂ）		11 世紀後半～ 12 世紀後半、平安末期	中世前期
Ⅱ期（ａ・ｂ）		12 世紀末～ 14 世紀前葉、平安末～鎌倉時代	
Ⅲ期（ａ・ｂ）		14 世紀中葉～ 15 世紀前半、南北朝～室町時代	中世後期
Ⅳ期（ａ・ｂ・ｃ）		15 世紀後半～ 16 世紀末、戦国期	

目　次

巻頭図版
例言・凡例 …… i・ii
目　次 …… iii～viii

Ⅰ　前　言 …… 1
1．調査の経緯と経過 …… 1
2．調査の方法 …… 5

Ⅱ　位置と環境 …… 7
1．櫛田川と沖積平野 …… 7
2．海岸線と的形（的潟）…… 7
3．古道と条里の展開 …… 10
4．朝田寺と中世朝田郷 …… 11

Ⅲ　遺　構 …… 13
1．基本層序と微地形 …… 13
2．検出遺構の概要 …… 13
3．調査地西側 …… 15
4．調査地中央（朝田寺西側）…… 27
5．調査地中央（朝田寺南側）…… 40
6．調査地東側 …… 49
遺構一覧表 …… 69

Ⅳ　遺　物 …… 75
1．出土遺物の概要 …… 75
2．範囲確認調査の遺物 …… 75
3．弥生・古墳時代の遺物 …… 75
4．飛鳥時代の遺物 …… 80
5．平安～室町時代の遺物 …… 81
（1）土器・瓦・土製品・石製品 …… 81
（2）金属製品 …… 114
（3）木製品 …… 116
遺物観察表 …… 151

Ⅴ　自然科学分析 …… 179
1．分析の種類と対象 …… 179
2．樹種同定 …… 179
3．大型植物遺体（種実）同定 …… 183

Ⅵ　大角遺跡 …… 193
1．調査の経緯と経過 …… 193
2．基本層序・遺構 …… 193
3．出土遺物 …… 193
4．結語 …… 193

Ⅶ　総　括 …… 195
1．弥生～飛鳥時代の集落 …… 195
2．平安時代の集落と祭祀 …… 195
3．井戸と木材資源利用 …… 198
4．中世集落の形成と画期 …… 206
5．条里地割と生業 …… 207
6．今後の課題と展望 …… 207

巻末図版

挿図目次

第 1 図　遺跡範囲および範囲確認調査坑位置図 …… 3
第 2 図　調査区位置およびグリッド割付図… 6
第 3 図　遺跡分布図 …… 8
第 4 図　地形分類図 …… 9
第 5 図　基本層序および土層柱状図 …… 14
第 6 図　1-4 西、2-1 区中央～北　遺構全体図 …… 16
第 7 図　1-1 ～ 1-4 区東、2-1 区南、2-2 区遺構全体図 …… 17
第 8 図　3 区　遺構全体図 …… 18
第 9 図　1 ・ 2 区土層断面図 …… 19
第 10 図　2 ・ 3 区土層断面図 …… 20
第 11 図　1 ～ 3 区　弥生時代の土坑 …… 22
第 12 図　1 ～ 3 区　掘立柱建物 …… 23
第 13 図　1 ～ 3 区　井戸 …… 24
第 14 図　1 ～ 3 区　井戸 …… 25
第 15 図　1 ～ 3 区　井戸・土坑・溝 …… 26
第 16 図　5-1 ～ 5-3 区、8-2 区南　遺構全体図 …… 29
第 17 図　5-4 区、6-1 区西　遺構全体図 …… 30
第 18 図　6-1 区東、6-2 区　遺構全体図 …… 31
第 19 図　5-1 ～ 5-3 区、8-2 区土層断面図 …… 32
第 20 図　5-4 区、 6 区土層断面図 …… 33
第 21 図　5 ・ 6 区　掘立柱建物・井戸・土坑 …… 35
第 22 図　5 ・ 6 区　井戸 …… 36
第 23 図　5 ・ 6 区　土坑 …… 37
第 24 図　5 ・ 6 区　溝・自然流路 …… 38
第 25 図　5 ・ 6 区　溝断面図 …… 39
第 26 図　4 区　遺構全体図 …… 41
第 27 図　6-3 区、7-1 区、8-1 区　遺構全体図 …… 42
第 28 図　7-1 区、8-1 区土層断面図 …… 43
第 29 図　6-3 区、7-1 区、8-1 区　掘立柱建物・土坑 …… 44
第 30 図　7-1 区、8-1 区　井戸 …… 45
第 31 図　7-1 区、8-1 区　井戸 …… 46
第 32 図　7-1 区、8-1 区　井戸・土坑 …… 47
第 33 図　7-1 区、8-1 区　土坑 …… 48
第 34 図　7-2 ～ 7-7 区　遺構全体図 …… 53
第 35 図　7-8 ～ 7-9-2 区　遺構全体図…… 54
第 36 図　7-9-3 ～ 7-10 区　遺構全体図…… 55
第 37 図　7-2 ～ 7-10 区土層断面図…… 56
第 38 図　7-2 ～ 7-5 区　掘立柱建物 …… 58
第 39 図　7-2 ～ 7-5 区　井戸 …… 59
第 40 図　7-9 区　井戸 …… 60
第 41 図　7-9 区　井戸 …… 61
第 42 図　7-9 区　井戸 …… 62
第 43 図　7-9 区　井戸・土坑 …… 63
第 44 図　7-7 ～ 7-8 区　井戸・土坑 …… 64
第 45 図　7-2 ～ 7-9 区　土坑 …… 65
第 46 図　7-9 区　土坑 …… 66
第 47 図　7-9 区　溝・自然流路 …… 67
第 48 図　7-9 区　溝断面図 …… 68
第 49 図　範囲確認調査出土遺物 …… 76
第 50 図　弥生時代の遺物 1 …… 77
第 51 図　弥生時代の遺物 2 …… 78
第 52 図　弥生・古墳時代の遺物 …… 79
第 53 図　飛鳥時代の遺物 …… 80
第 54 図　掘立柱建物・その他 Pit 出土遺物 … 85
第 55 図　井戸出土遺物 1 …… 86
第 56 図　井戸出土遺物 2 …… 87
第 57 図　井戸出土遺物 3 …… 88
第 58 図　井戸出土遺物 4 …… 89
第 59 図　井戸出土遺物 5 …… 90
第 60 図　井戸出土遺物 6 …… 91
第 61 図　井戸出土遺物 7 …… 92
第 62 図　井戸出土遺物 8 …… 93
第 63 図　井戸・土坑出土遺物 …… 94
第 64 図　土坑出土遺物 1 …… 95
第 65 図　土坑出土遺物 2 …… 96
第 66 図　土坑出土遺物 3 …… 97
第 67 図　土坑出土遺物 4 …… 98
第 68 図　土坑出土遺物 5 …… 99
第 69 図　土坑出土遺物 6 …… 100
第 70 図　土坑出土遺物 7 …… 101
第 71 図　土坑出土遺物 8 …… 102
第 72 図　溝出土遺物 1 …… 103
第 73 図　溝出土遺物 2 …… 104
第 74 図　溝出土遺物 3 …… 105
第 75 図　溝出土遺物 4 …… 106
第 76 図　溝出土遺物 5 …… 107

第 77 図　溝出土遺物６ …… 108
第 78 図　溝出土遺物７ …… 109
第 79 図　溝出土遺物８ …… 110
第 80 図　溝出土遺物９ …… 111
第 81 図　溝出土遺物 10 …… 112
第 82 図　自然流路出土遺物１ …… 113
第 83 図　自然流路出土遺物２ …… 114
第 84 図　表土等出土遺物、鉄製品・銭貨 … 115
第 85 図　木製品　井戸枠材１ …… 117
第 86 図　木製品　井戸枠材２ …… 118
第 87 図　木製品　井戸枠材３ …… 119
第 88 図　木製品　井戸枠材４ …… 120
第 89 図　木製品　井戸枠材５ …… 121
第 90 図　木製品　井戸枠材６ …… 122
第 91 図　木製品　井戸枠材７ …… 123
第 92 図　木製品　井戸枠材８ …… 124
第 93 図　木製品　井戸枠材９ …… 125
第 94 図　木製品　井戸枠材 10 …… 126
第 95 図　木製品　井戸枠材 11 …… 127
第 96 図　木製品　井戸枠材 12 …… 128
第 97 図　木製品　井戸枠材 13 …… 129
第 98 図　木製品　井戸枠材 14 …… 130
第 99 図　木製品　井戸枠材 15 …… 131
第 100 図　木製品　井戸枠材 16 …… 132
第 101 図　木製品　井戸枠材 17 …… 133
第 102 図　木製品　井戸枠材 18 …… 134
第 103 図　木製品　井戸枠材 19 …… 135
第 104 図　木製品　井戸枠材 20 …… 136
第 105 図　木製品　井戸枠材 21 …… 137
第 106 図　木製品　井戸枠材 22 …… 138
第 107 図　曲物分類図 …… 139
第 108 図　木製品　曲物１ …… 140
第 109 図　木製品　曲物２ …… 141
第 110 図　木製品　曲物３ …… 142
第 111 図　木製品　曲物４ …… 143
第 112 図　木製品　曲物・曲物底板 …… 144
第 113 図　木製品　曲物底板・蓋 …… 145
第 114 図　木製品　楔１ …… 146
第 115 図　木製品　楔２ …… 147
第 116 図　木製品　楔３ …… 148
第 117 図　木製品　その他 …… 149
第 118 図　木製品　籠 …… 150
第 119 図　大角遺跡調査位置図 …… 194
第 120 図　大角遺跡遺構全体図 …… 194
第 121 図　大角遺跡出土遺物 …… 194
第 122 図　堀町遺跡概略図 …… 196
第 123 図　井戸の分類と変遷 …… 198
第 124 図　ＳＥ 5187 井戸枠の構成 …… 200
第 125 図　堀町遺跡・朝見遺跡出土建築部材… 201
第 126 図　ＳＥ 5187 出土閾の復原想定図 …… 202
第 127 図　結物井戸の変遷 …… 203
第 128 図　結物井戸の分布 …… 204
第 129 図　井戸枠材・曲物樹種の変遷 …… 205
写真１　現地説明会風景 …… 4
写真２　調査参加者 …… 5
写真３　堀町遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（１）
…… 188
写真４　堀町遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（２）
…… 189
写真５　堀町遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（３）
…… 190
写真６　出土した大型植物遺体（１）…… 191
写真７　出土した大型植物遺体（２）…… 192
写真８　大角遺跡調査地全景 …… 193

表目次

第１表　高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴う調査一覧表 …… ２
第２表　範囲確認調査結果一覧表 …… ２
第３表　遺構一覧表 …… 69
第４表　遺物観察表 …… 151
第５表　器種別の樹種構成 …… 180
第６表　井戸枠材の時期別樹種構成 …… 180
第７表　出土した大型植物遺体 …… 184
第８表　モモ・ウメ・スモモの大きさ …… 187
第９表　朝見上地区の遺跡消長 …… 197

写真図版

巻頭図版

・巻頭図版１（航空写真）
調査地周辺航空写真
・巻頭図版２（調査区全景）
２区全景、5-2 区全景
・巻頭図版３（調査区全景・作業風景）
6-3、7-1 区全景、7-5 区　掘立柱建物
・巻頭図版４（井戸）
ＳＥ 5187 井戸枠
同　縦板、ＳＥ 5067 水溜
井戸枠に転用された建築部材
・巻頭図版５（井戸）
ＳＥ 5316・5323 井戸枠、ＳＥ 5218、ＳＥ 5328
・巻頭図版６（出土遺物）
出土した曲物
・巻頭図版７（出土遺物）
ＳＥ 5015 上層出土土器、墨書土器「盛法寺」
刻書土器、円形被熱痕のある皿
・巻頭図版８（出土遺物）
結物の楔、井戸枠に転用された建築部材
結物部材の縦挽きノコギリ痕
ＳＤ 5285・5297、ＳＫ 5308 出土南伊勢系土師器

巻末図版

・写真図版１（航空写真）
1948 年米軍撮影航空写真
・写真図版２（調査前風景①）
１・２区調査前、３区調査前、４～６区調査前
・写真図版３（調査前風景②）
５区調査前、7-1・８区調査前
・写真図版４（１区全景）
1-1 ～ 1-2・1-4 区全景、1-3 区全景
・写真図版５（２・３区全景）
２区全景、2-1 区南端、2-2 区全景
3-2 区全景
・写真図版６（１区掘立柱建物）
ＳＢ 5059・ＳＢ 5060、ＳＢ 5069
・写真図版７（１～３区井戸①）
ＳＥ 5008 曲物検出状況、同　井戸枠検出状況
同　土居桁の枘結合、同　土居桁除去後
同 縦板除去後
・写真図版８（１～３区井戸②）
ＳＥ 5067 井戸枠検出状況、同　上層埋土
同　水溜検出状況、同　縦板除去後
同　曲物取り上げ後
・写真図版９（１～３区井戸③）
ＳＥ 5015 井戸枠、ＳＥ 5015 南側一括遺物
ＳＥ 5026 土居桁、ＳＥ 5065、ＳＥ 5037 水溜
ＳＥ 5018 水溜
・写真図版 10（１～３区土坑）
ＳＫ 5003、同　上層遺物出土状況、ＳＫ 5001
ＳＫ 5042、ＳＫ 5017、ＳＫ 5025、ＳＫ 5033
ＳＫ 5035
・写真図版 11（１～３区土坑・溝）
ＳＫ 5002、ＳＫ 5007、ＳＫ 5036、ＳＫ 5041
ＳＥ 5037 上層、ＳＤ 5013、ＳＤ 5006、ＳＤ 5039
・写真図版 12（１～３区溝）
ＳＤ 5022・5023、ＳＤ 5072、ＳＤ 5021
ＳＤ 5016、ＳＤ 5043
・写真図版 13（５区全景）
5-2 区全景、5-2 区北側
・写真図版 14（５区井戸・土坑等）
ＳＢ 5181、ＳＥ 5135・5136・5142、ＳＫ 5139・
5141、ＳＥ 5136 水溜、ＳＫ 5139・ＳＥ 5142
ＳＥ 5142 曲物底板出土状況、ＳＥ 5150
・写真図版 15（５区溝等）
ＳＤ 5138、ＳＢ 5182、ＳＤ 5143、ＳＤ 5148
・写真図版 16（４・５区溝等）
ＳＤ 5165、ＳＤ 5165 獣骨出土状況
5-1-3 区全景、4-1 区全景、5-1-1 区全景
・写真図版 17（５・８区全景）
8-2 区全景、5-3-1 区全景
・写真図版 18（５・８区遺構）
ＳＫ 5133、ＳＫ 5119、ＳＤ 5132
G-e6 Pit3 遺物出土状況
5-3-2 区　ＳＲ 5080 下層杭列
・写真図版 19（５・６区全景）
5-4 区 ＳＲ 5080、6-2 区全景
・写真図版 20（６区全景）
6-1 区東側、6-1 区西側
・写真図版 21（６区土坑）
ＳＫ 5093、ＳＫ 5091、ＳＫ 5089、ＳＫ 5117
ＳＫ 5107 遺物出土状況、ＳＫ 5081、ＳＫ 5115
ＳＫ 5110
・写真図版 22（６区溝①）

ＳＤ 5095、ＳＤ 5095 断面、ＳＲ 5128 下部
ＳＤ 5098、ＳＤ 5083・5087 断面
ＳＤ 5098 断面
・写真図版 23（６区溝②）
ＳＤ 5116、ＳＤ 5106、ＳＤ 5102、ＳＤ 5101
・写真図版 24（７・８区全景）
6-3・7-1・8-1 区全景、8-1 区全景
・写真図版 25（７・８区掘立柱建物）
ＳＢ 5177、ＳＢ 5177 Pit 断面
・写真図版 26（７・８区井戸①）
ＳＥ 5187 井戸枠検出状況、 同　断割後
・写真図版 27（７・８区井戸②）
ＳＥ 5187 井戸枠、同　縦板
同　最下段および横桟
同　水溜内小型曲物出土状況
・写真図版 28（７・８区井戸③）
ＳＥ 5201 井戸枠、同　縦板
同　井戸枠検出状況、同　水溜
・写真図版 29（７・８区井戸・土坑）
ＳＥ 5198、ＳＫ 5193・5196
ＳＥ 5195 井戸枠検出状況、ＳＥ 5195 水溜
ＳＫ 5167、ＳＫ 5168、ＳＫ 5197、ＳＫ 5202
・写真図版 30（７・８区溝）
ＳＤ 5172、ＳＤ 5166
・写真図版 31（7-2 ～ 5 区）
7-2 ～ 4 区、7-5 区
・写真図版 32（7-2 ～ 7 区）
7-5 区掘立柱建物群、7-2 ～ 7 区全景
・写真図版 33（7-8 区）
7-8 区北側、7-8 区南側
・写真図版 34（7-2 ～ 7 区井戸・土坑）
ＳＥ 5219、ＳＥ 5230、ＳＫ 5226
ＳＫ 5345 断面、ＳＫ 5241・5249、ＳＫ 5238
ＳＫ 5245、ＳＫ 5212
・写真図版 35（7-7 ～ 9 区土坑・溝）
ＳＫ 5248、ＳＫ 5314、ＳＫ 5261、ＳＤ 5243
ＳＫ 5268、ＳＫ 5260、ＳＫ 5277、ＳＫ 5278
・写真図版 36（7-8 区自然流路）
ＳＲ 5080
同　土層断面
・写真図版 37（7-9 区溝・自然流路）
ＳＤ 5285・ＳＲ 5080
ＳＤ 5279 井堰検出状況
・写真図版 38（7-9 区溝）
ＳＤ 5279 井堰検出状況、土層断面
ＳＤ 5279　筵
・写真図版 39（7-9 区井戸①）
ＳＥ 5218 井戸枠、同　井戸枠閉塞状況
同　曲物取り上げ後、同　水溜検出状況
・写真図版 40（7-9 区井戸②）
ＳＥ 5319 井戸枠、同　井戸枠検出状況
同　結物上段箍・楔、同　井戸枠材の線刻
同　水溜検出状況
・写真図版 41（7-9 区井戸③）
ＳＥ 5323 井戸枠検出状況
ＳＥ 5316・5323 井戸枠
・写真図版 42（7-9 区井戸④）
ＳＥ 5316・5323 水溜検出状況
ＳＥ 5316 結物箍、ＳＥ 5323 井戸枠縦板
ＳＥ 5323 土居桁仕口、ＳＥ 5323 水溜
・写真図版 43（7-9 区井戸⑤）
ＳＫ 5302・5303、ＳＥ 5304・5305・5329
ＳＥ 5305 水溜、結物箍検出状況
ＳＥ 5325 結物箍検出状況
ＳＥ 5325 結物箍詳細、ＳＥ 5325 水溜
・写真図版 44（7-9 区井戸⑥）
ＳＥ 5328 井戸枠、同　井戸枠検出状況
同　上段結物、同　下段箍と楔
・写真図版 45（7-9 区井戸・土坑）
ＳＥ 5317 籠出土状況、ＳＫ 5295 籠出土状況
ＳＥ 5317 籠詳細、ＳＫ 5295 籠詳細
ＳＥ 5317 水溜、ＳＫ 5312 曲物出土状況
・写真図版 46（7-9 ～ 10 区）
7-9 ～ 10 区全景、7-9-2 区
7-9-4 区全景、7-9-3 区全景
7-10 区全景
・写真図版 47（7-9 区溝）
ＳＤ 5289、ＳＤ 5289 土器出土状況、ＳＤ 5290
ＳＤ 5297 断面、ＳＤ 5320、ＳＤ 5297・5306
・写真図版 48（7-9 区土坑・溝）
ＳＤ 5306 土層断面
ＳＤ 5327、ＳＫ 5308
7-9-4 区　ＳＲ 5080 土層断面
7-9-4 区　ＳＲ 5080
・写真図版 49（弥生土器　壺・鉢）
・写真図版 50（弥生土器　壺）

・写真図版 51（弥生土器　高杯）
・写真図版 52（弥生土器・土師器　甕等）
・写真図版 53（飛鳥時代の土器）
・写真図版 54（墨書・刻書土器）
・写真図版 55（墨書土器）
・写真図版 56（平安時代の土器）
土師器杯・皿
・写真図版 57（平安時代の土器）
線刻・刻書、土師器椀、て字状口縁皿
黒色土器
・写真図版 58（土師質土器）
・写真図版 59（平安時代の土器）
甕・鉢
・写真図版 60（灰釉陶器・山茶碗他）
灰釉陶器、山茶碗等煤付着状況
・写真図版 61（山茶碗）
ＳＥ 5015 上層・南側一括
・写真図版 62（山茶碗）
その他井戸・土坑出土
・写真図版 63（灰釉陶器・山茶碗）
底部詳細
・写真図版 64（陶器）
壺・甕・片口鉢
・写真図版 65（中世前期の土器）
土師器・土師質土器皿
・写真図版 66（中世前期の土器）
土師器鍋
・写真図版 67（中世後期の土器）
土師器皿
・写真図版 68（中世後期の土器）
土師器鍋等
・写真図版 69（中世後期の土器）
土師器鍋
・写真図版 70（中世後期の土器）
土師器鍋等
・写真図版 71（瀬戸美濃産陶器他）
・写真図版 72（常滑産陶器）
・写真図版 73（磁器・瓦質土器他）
磁器、瓦質土器、鉄製品、緑釉陶器、瓦
・写真図版 74（銭貨・加工円盤）
銭貨、加工円盤
・写真図版 75（石製品）
砥石
・写真図版 76（鍛冶関連遺物）
ＳＤ 5095 出土鉄滓・鞴羽口
ＳＲ 5080 他出土鉄滓
・写真図版 77（その他の遺物）
志摩式製塩土器、土錘・紡錘車、獣骨
ＳＥ 5319 出土貝
・写真図版 78（木製品　井戸枠材）
ＳＥ 5187　井戸枠横板・横桟
・写真図版 79（木製品　井戸枠材）
ＳＥ 5187　井戸枠横板
・写真図版 80（木製品　井戸枠材）
ＳＥ 5187　井戸枠横板（閾転用）
・写真図版 81（木製品　井戸枠材）
ＳＥ 5187　井戸枠横板・横桟
・写真図版 82（木製品　井戸枠材）
ＳＥ 5187　井戸枠横板・横桟詳細
・写真図版 83（木製品　井戸枠材）
ＳＥ 5187　井戸枠縦板
・写真図版 84（木製品　井戸枠材）
ＳＥ 5187　井戸枠縦板
・写真図版 85（木製品　井戸枠材）
ＳＥ 5008・5201　井戸枠材（閾・扉転用）
・写真図版 86（木製品　井戸枠材）
ＳＥ 5201　井戸枠横板・横桟詳細
・写真図版 87（木製品　井戸枠材）
ＳＥ 5201　井戸枠縦板詳細
・写真図版 88（木製品　井戸枠材）
ＳＥ 5026 他　土居桁詳細
榑板、縦板
・写真図版 89（木製品　井戸枠材）
井戸枠（結物）詳細
・写真図版 90（木製品　曲物）
・写真図版 91（木製品　曲物）
・写真図版 92（木製品　曲物詳細）
・写真図版 93（木製品　曲物）
曲物底板・蓋
・写真図版 94（木製品　曲物・その他）
・写真図版 95（木製品　その他）
火付木、棒状具、ＳＥ 5305 楔　接合関係
・写真図版 96（木製品　その他）
楔（板状）、楔（杭状）

Ⅰ　前　言

１．調査の経緯と経過

（１）調査に至る経緯

堀町遺跡は、松阪市街地より約１㎞東の田園地帯に位置する遺跡で、周辺には今なお条里型地割がよく残っている。ここで、朝見上地区（朝田・立田・和屋・幸生・上七見・上川町）を対象とした県営ほ場整備事業（高度水利機能確保基盤整備事業）が計画されたため、調査の原因者である三重県松阪農林事務所と保護措置について協議を行った。事前協議の詳しい経過は、刊行済みの『朝見遺跡（第１・２次）発掘報告』をあわせて参照されたい。

ほ場整備の事業区域は159haに及んだため、平成21年度に分布調査、範囲確認調査は平成22～25年度の４ヶ年に分割して実施した（第１表）。

（２）範囲確認調査の概要

堀町遺跡・四常遺跡・大角遺跡は平成23年度に範囲確認調査を行い、計71ヶ所の調査坑を設定した（第１図）。その結果、現耕土の直下で平安時代から室町時代の溝や井戸とみられる大型土坑などを検出した（第２表）。

出土遺物（第49図）でも、平安時代から室町時代の遺物が満遍なく出土しており、該期の遺構が広範囲に及ぶことがうかがえる。

範囲確認調査の結果、遺跡の北東側は遺構が希薄であると判断されたため、調査対象地から一端外していたが、その後の調査で、当地にも飛鳥時代など、古代・中世の遺構が広がることが判明している。

協議の結果、田面については極力保護層を確保するよう図り、農業集落道路・幹線用水路を主たる調査対象とした。最終的に、堀町遺跡は事業地内の約10,000㎡、大角遺跡は約60㎡について発掘調査が必要であると判断された。

（３）既往の調査

堀町遺跡では、国道42号バイパス敷設に伴い調査が実施され（第１～４次）、弥生時代後期や平安・鎌倉時代の集落跡が確認された。弥生時代では銅鐸型土製品の出土、平安時代は多数の掘立柱建物や井戸、流路から多数の墨書土器や木製祭祀具が出土したことが特筆される。墨書土器には平仮名の可能性をもつものがあり、櫛田川の対岸に位置する斎宮ないし斎宮寮の官人層との関わりも考えられる。

（４）調査の経過

調査期間は、平成24年５月23日～平成25年２月22日である。運土や耕作との関係上、国道42号バイパス西側の３区より調査を開始し、１・２区、５・６区、４・８区、７区へと順次進めた。また本調査終了後に里道部分の工事立会調査を随時実施した。

その後、平成25年度には第６次調査が実施され、縄文時代中期から江戸時代にわたる多種多様な遺構・遺物が確認された。第５次調査７区と第６次調査３～５区は隣接している部分がある。

以下に調査日誌（抄）を記す。

調査日誌（抄）

・平成24（2012）年

５月23日　事前準備開始
　30日　調査前写真撮影
６月11日　３区表土掘削開始
　18日　３区遺構検出・掘削開始
　19日　台風４号、襲来
７月　２日　ＳＥ5008井戸枠検出
　４日　３区全景写真撮影
　５日　１・２区重機掘削と並行して３区井戸の断ち割り。湧水の冷たさが心地よい。
　13日　１区遺構検出・掘削開始
　18日　３区井戸完掘、終了
　24日　２区の調査開始
　26日　１区全景写真撮影
８月　１日　台風10号、襲来
　16日　２区全景写真撮影
　21日　１・２区井戸断ち割り開始
　30日　1-3区全景写真撮影
９月　５日　5-4区表土掘削開始
　６日　ＳＥ5067曲物取り上げ、１・２区遺構掘削終了
　10日　5-4区遺構検出・掘削開始

第１表　高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴う調査一覧表

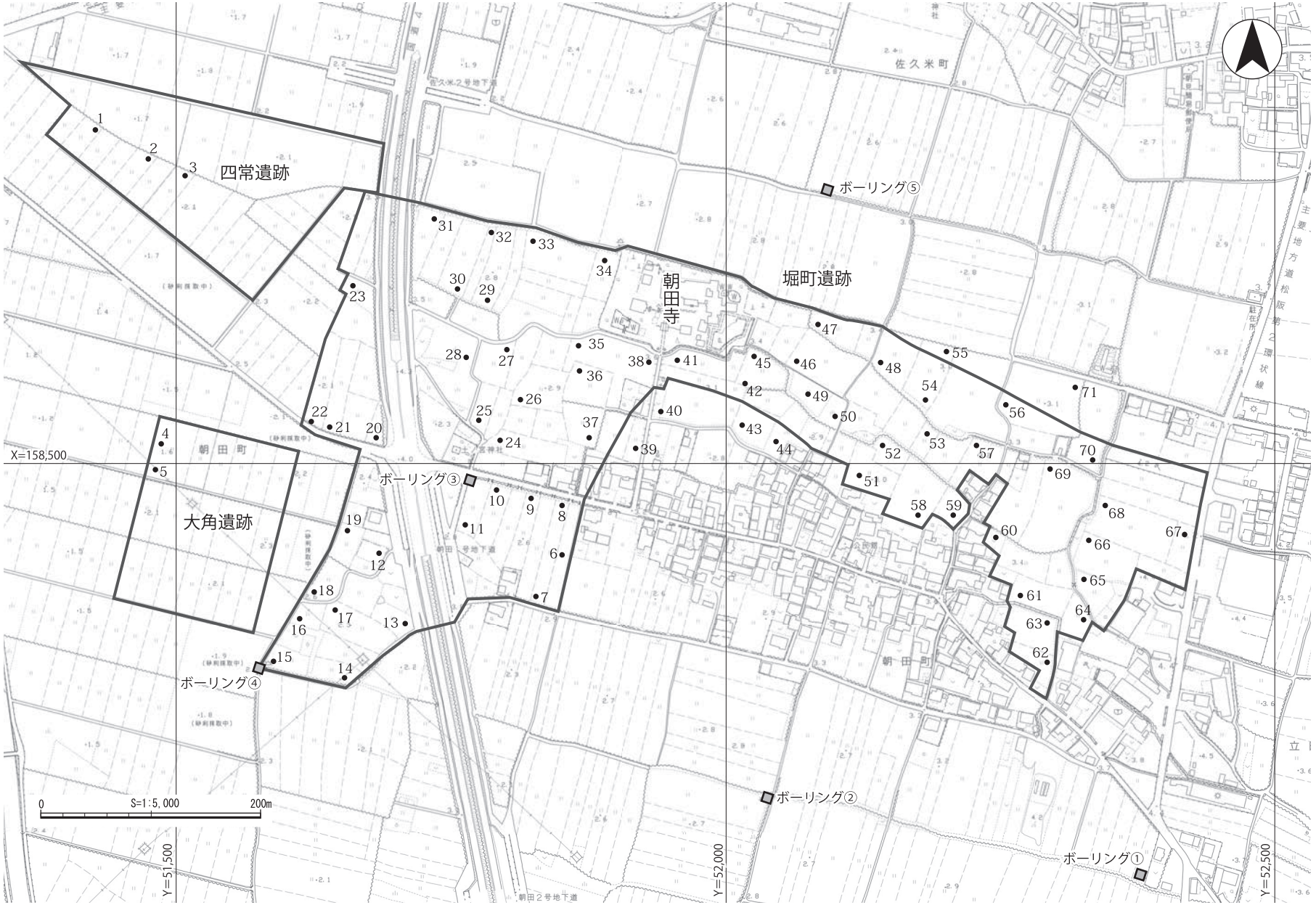
調査年度	範囲確認調査							発掘調査		
	遺跡名（所在地）	確認面積	範囲確認調査坑数	現状	調査期間	主な遺構	対応	遺跡名・次数	調査面積	形式
平成 22 年度	朝見遺跡（和屋町）	162,000 ㎡	160 ヶ所（1,437 ㎡）	水田	20100914 ～ 20101006	溝	要調査	朝見遺跡（第１次）	205 ㎡	工事立会
平成 23 年度	堀町遺跡（朝田町）	123,020 ㎡	66 ヶ所（396 ㎡）	水田	20111219 ～ 20111227	溝 土坑 井戸	要調査	朝見遺跡（第２次）	3,412 ㎡	本調査 工事立会
	四常遺跡（朝田町）	4,900 ㎡	3 ヶ所（18 ㎡）	水田	20111214	なし	施工可			
	大角遺跡（朝田町）	1,060 ㎡	2 ヶ所（12 ㎡）	水田	20111214	溝	要調査			
	朝見遺跡	40,080 ㎡	29 ヶ所（248 ㎡）	水田	20111214 ～ 20111219	溝	要調査			
平成 24 年度	中坪遺跡（立田町）	131,000 ㎡	74 ヶ所（444 ㎡）	水田	20121203 ～ 20121208	溝 土坑	要調査	堀町遺跡（第５次）	4,396 ㎡	本調査
								大角遺跡（第１次）	64 ㎡	工事立会
	朝見遺跡	150,000 ㎡	55 ヶ所（330 ㎡）	水田	20121211 ～ 20121214	溝	要調査	朝見遺跡（第３次）	236 ㎡	工事立会
平成 25 年度	朝見遺跡	187,000 ㎡	64 ヶ所（384 ㎡）	水田	20130904 ～ 20130913	溝 土坑	要調査	堀町遺跡（第６次）	5,463 ㎡	本調査
								中坪遺跡（第１次）	1,955 ㎡	本調査
								朝見遺跡（第４次）	452 ㎡	工事立会
平成 26 年度								中坪遺跡（第２次）	1,100 ㎡	本調査
								朝見遺跡（第５次）	9,996 ㎡	本調査
								堀町遺跡（第７次）	720 ㎡	工事立会
平成 27 年度								朝見遺跡（第６次）	8,446 ㎡（予定）	本調査
平成 28 年度以降								未定	未定	本調査

第２表　範囲確認調査結果一覧表

調査坑No.	包含層上面の深さ	遺構上面の深さ	遺　構	遺　物
1	－	－	－	土師器
2	－	－	－	－
3	－	－	－	土師器
4	－	－	－	－
5	－	30cm	溝	土師器
6	20cm	40cm	溝	土師器・須恵器
7	20cm	40cm	溝	－
8	－	29cm	－	須恵器（ＳＤ埋土）
9	－	－	－	－
10	－	－	－	－
11	－	30cm	溝	－
12	30cm	48cm	落ち込み	土師器
13	17cm	58cm	溝	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器
14	－	20cm	溝・土坑	灰釉陶器
15	18cm	25cm	溝	土師器・灰釉陶器
16	14cm	35cm	ピット・土坑	－
17	19cm	20cm	溝	－
18	22cm	40cm	土坑・井戸？	土師器・須恵器・灰釉陶器
19	19cm	30cm	－	－
20	17cm	30cm	ピット・溝	－
21	25cm	42cm	－	土師器
22	25cm	35cm	－	土師器
23	17cm	48cm	落ち込み	弥生土器？・土師器
24	21cm	24cm	－	－

調査坑No.	包含層上面の深さ	遺構上面の深さ	遺　構	遺　物
25	24cm	40cm	溝	－
26	－	20cm	ピット・井戸？	土師器・須恵器
27	－	20cm	ピット・土坑	土師器
28	－	25cm	－	－
29	24cm	30cm	溝	土師器・灰釉陶器
30	20cm	30cm	ピット・溝	土師器
31	28cm	35cm	土坑・井戸？	－
32	27cm	33cm	溝	－
33	23cm	36cm	溝	土師器・須恵器灰釉陶器
34	－	26cm	ピット	－
35	20cm	27cm	－	－
36	－	20cm	溝・井戸	土師器
37	－	20cm	溝	－
38	－	20cm	溝	土師器・灰釉陶器陶器（近世）
39	－	－	－	－
40	－	－	－	－
41	20cm	37cm	ピット	土師器
42	22cm	40cm	土坑	土師器・山茶碗陶器
43	－	－	－	－
44	－	－	－	－
45	19cm	25cm	ピット	－
46	20cm	24cm	土坑・溝	－
47	20cm	24cm	ピット	－
48	20cm	26cm	－	土師器

調査坑No.	包含層上面の深さ	遺構上面の深さ	遺　構	遺　物
49	20cm	42cm	ピット	土師器・須恵器陶器（古瀬戸）・鉄器
50	28cm	35cm	ピット？	土師器・須恵器土錘
51	22cm	38cm	溝	土師器・須恵器山茶碗・陶器（常滑）
52	25cm	40cm	溝	土師器・須恵器
53	－	－	－	－
54	－	－	－	－
55	－	－	－	－
56	28cm	35cm	溝	－
57	23cm	27cm	土坑か井戸	土師器
58	－	28cm	土坑	土師器
59	－	25cm	ピット	陶器
60	18cm	25cm	全面流路	土師器・須恵器
61	－	22cm	ピット・土坑か井戸	土師器
62	－	30cm	ピット・溝	－
63	－	22cm	土坑？	－
64	20cm	30cm	全面流路	土師器
65	－	－	－	－
66	－	－	－	土師器
67	－	－	－	－
68	－	－	－	土師器
69	－	－	－	－
70	－	18cm	ピット	－
71	－	－	－	－



第１図　遺跡範囲および範囲確認調査坑位置図（1:5,000）

12 日　ＳＲ 5080 掘削
13 日　5-4 区全景写真撮影、６区重機掘削開始
21 日　6-1 区遺構検出・掘削開始
10 月 1 日　台風 17 号、襲来
4 日　6-1 区全景写真撮影、6-2 区遺構検出・掘削開始
9 日　５・８区重機掘削開始
12 日　6-2 区全景写真撮影
19 日　5-2 区、ＳＲ 5080 杭列検出
墨書土器「盛法寺」出土
24 日　大角遺跡の工事立会調査､平安時代の溝･柱穴を確認。
11 月 2 日　5-2 区全景写真撮影
7 日　7-1 区・8-1 区検出・掘削開始
9 日　大型建物ＳＢ 5177 検出
19 日　４区重機掘削開始
29 日　7-1 区・8-1 区全景写真撮影
12 月 1 日　現地説明会開催
3 日　7-1・8-1 区井戸断ち割り開始、４区遺構検出・全景写真撮影
4 日　7-2 区以東の検出・掘削開始
7 日　極寒の中、ＳＥ 5201 断ち割り。井戸に氷が張っていて暗澹たる気持ち。
14 日　ＳＥ 5201 曲物取り上げ
18 日　ＳＥ 5187 断ち割り
20 日　井戸断ち割り終了
28 日　ＳＤ 5279 より筵出土。樹種同定用のサンプルを採取する。
・平成 25（2013）年
1 月 7 日　作業再開
8 日　ＳＤ 5080 より墨書土器「今林」出土
9 日　ＳＫ 5295 より籠出土
11 日　7-4 ～ 7-8 区全景写真撮影
25 日　極寒の中、井戸断ち割り開始。外気より湧水の方が温かく感じるほど。
2 月 1 日　ＳＫ 5295 籠切り取り、取り上げ
7 日　ＳＥ 5323 曲物取り上げ、すべての遺構掘削を完了。
8 日　資機材撤去、７区最終埋戻し開始
12 日　撤収完了
22 日　調査終了

（５）文化財保護法にかかる諸手続

本発掘調査に伴う法規上の手続きは以下の通り。
①文化財保護法第 94 条に基づく三重県文化財保護条例第 48 条第１項（土木工事等のための発掘に関する通知）
・平成 22 年９月９日付、松農環第 4236－１号
②文化財保護法第 99 条第１項（発掘調査の着手報告）
・平成 24 年５月 23 日付、教埋第 47 号
③文化財保護法第 100 条第２項（文化財の発見・認定通知）
堀町５次　・平成 25 年３月 11 日付、教委第 12-4441 号（松阪警察署長あて県教育長通知）
大角遺跡　・平成 24 年 11 月 14 日付、教委第 12-4414 号（松阪警察署長あて県教育長通知）

（６）普及公開

発掘調査成果説明会や普及啓発パンフレットの刊行等の普及公開活動を行った。また、学校教員の研修を発掘現場および普及公開活動の中で実施した。
・現地説明会
平成 24 年 12 月１日、79 名参加
・発掘成果報告会
「おもろいもん出ましたんやわ@三重 2012」
平成 25 年３月９日、於:三重県埋蔵文化財センター嬉野分室、33 名参加
・刊行物（パンフレット）
三重県埋蔵文化財センター「堀町遺跡」『県営農業基盤整備事業と発掘調査』2013 年
三重県埋蔵文化財センター『水と大地といにしえの人びと～松阪市朝見地区の発掘調査から～』2015 年

写真１　現地説明会風景

2．調査の方法

（1）調査区の設定

今回の調査地は、平成 26 年度工事対象部分のうち、用排水路敷設箇所と一部の田面を対象とし、多くの調査区が線状を呈する。国道 42 号バイパスの西側から、朝田寺の約 200 ｍ東方まで、調査区の総延長は約 1,650 ｍに及んだ。

調査面積は、当初 4,100㎡として着手したが、早期着工への地元の強い要望から一部を前倒しし、合計 4,396㎡となった。また調査区は、井戸や大型掘立柱建物など重要遺構の調査にあわせ適宜拡張した。

調査区は便宜上１～７区と名付け、各調査区の内部は枝番を付して管理した（例：7-1 区）。

平面直角座標系は世界測地系を採用した。調査区内のグリッド分割方法は第１～４次調査と異なり、Ｘ＝－ 158,234.288、Ｙ＝ 51,664.023 を原点とし、旧飯野郡条里（N15° E）を主軸とする 100 ｍ四方の大地区を設定した（第２図）。大地区は以降の調査に対応するため遺跡全体を覆うものとし、大地区内は東西を１～ 25、南北をａ～ｙに 25 分割した４ｍ四方の小地区を設け、大・小地区とも、北西隅を基点とした地区名（例：B-g25）を付与した。遺物の取り上げにはこのグリッドを用いている。ただし、大地区Ｄ・Ｅのみ小グリッドの設定ミスがあり、東端が 24 までとなっている。

（2）遺構検出・掘削

表土から遺構面までの堆積土を重機（バックホー）で除去し、遺構検出・掘削は人力で行った。井戸の断ち割りや自然流路の掘削においては重機を補助的に用いている。

（3）記録・図化

遺構実測は調査員による手測りである。遺構検出段階は小地区単位の 1/40 略測図（遺構カード）を作成し、これをもとに 1/100 の遺構配置図を作成した。ただし、ピットや土坑が少ない４～６区、８区では遺構カード作成を省略し、1/100 の遺構略図を主に用いた。遺構平面図・土層断面図については原則 1/20 で作成し、適宜その他の縮尺を適用した。これらの図面に加えて現場の作業日誌も当センターで保管している。

遺構番号はピットを除き、全てに通し番号を付与した。調査次数ごとの遺構を区別するため、第５次調査の５を冒頭に付して5000番台としている。なお、報告書作成にあたり、遺構番号の加除訂正を行ったが、原則として調査時の番号をそのまま用いている。

ピットの遺構番号は、当センターの調査標準に従い、小地区ごとの通し番号としているが、遺物実測図を掲載した掘立柱建物の柱穴については別に番号を付した（例：ＳＢ 5059-P1）。

遺構写真は、６×７判（モノクロ・カラーリバーサル）で撮影し、35㎜判（モノクロ・カラーリバーサル）を補助的に用いた。使用したカメラは、６×７判：ペンタックス、35㎜判：ニコンＦＭ２、デジタル：ニコンＤ 300 である。遺物の写真撮影は主にデジタルカメラを用いた。

（4）出土遺物の整理

出土遺物は出土年月日と遺構･層位の区別を行い、小地区単位で取りあげている。整理作業終了後は報告書掲載遺物およびその参考資料（Ａ遺物）と未掲載遺物（Ｂ遺物）に区分して保管した。

保存処理は、Ａ遺物の一部に限定した。木製品は小型製品のうち残りの良いもの、大型品はＳＥ 5187 井戸枠一括と、建築部材転用の井戸枠、曲物良品に限定し、その他は樹種同定・同位体分析・年輪年代測定などの破壊・非破壊分析に供する予定である。予算執行上の都合もあり、保存処理や一部遺物の分析はまだ終了していない。

金属製品はＡ遺物の全てを保存処理対象とした。

（櫻井）

写真２　調査参加者（朝田寺山門前にて）

第２図　調査区位置およびグリッド割付図（1:5,000）

Ⅱ　位置と環境

１．櫛田川と沖積平野

（１）遺跡の位置

堀町遺跡（１）は南北に細長く伸びた三重県のほぼ中央、松阪市朝田町にある縄文時代から近世の集落跡である（第３・４図）。遺跡は松阪市の中心市街地から約２km 東方の田園地帯にあり、一帯には古代以来の条里型地割が今なおよく残っている（巻頭図版１、写真図版１）。

当地は櫛田川とその支流・分流が形成した沖積平野（櫛田川低地）にあたり、西を松阪市街地（松阪低地）、南を丘陵、東を明野台地に囲まれている。その母体となった櫛田川は、高見山地を水源とし、上流では中央構造線に沿って流れている。下流は松阪・玉城丘陵に挟まれた低地を東に流下したのち、松阪市豊原町・早馬瀬町付近で広い平野に達し、伊勢湾に向かって北流する[1]。

（２）乱流する櫛田川

一帯は今でこそ起伏の少ない平坦な地形となっているが、櫛田川の流路は度重なる洪水で幾度も大きく変化し、各所に自然堤防を発達させている。特に、永保３年（1083）に櫛田川中流域を襲った大洪水は、多気・飯野の郡界が変わるほどの大規模な流路変遷を生ぜしめた。また、保安２年（1121）の洪水は、東寺領大国荘（多気郡多気町弟国周辺）に甚大な被害を与えた[2]。これらの災害が、櫛田川下流域にも大きく影響したことは想像に難くない。

かつては現在の祓川が櫛田川本流であり、伊勢神宮・斎宮との関係から、櫛田川は神域の境界線と認識されていた（「神之近堺」）。これに対して「下樋小川」が「神之遠堺」と称された[3]。「下樋小川」は金剛川など堀町遺跡の西側を流れる小河川の通称ともされ[4]、後述の「飯野・飯高郡条里絵図」には、金剛川が飯高・飯野郡の郡界として描かれている。

（３）櫛田川の分流

この櫛田川本流とは別に、松阪市和屋町・立田町・朝田町付近には、北西－南東方向に斜行する自然堤防がある。また中坪遺跡の位置する立田町から大宮田町・古井町に向かって北伸する、規模の大きな自然堤防が発達し、かつて松阪市豊原町付近から北西に流れた櫛田川分流があったことがわかる。

朝見遺跡（２）の発掘調査では、この櫛田川分流に平行する方向の溝や流路が、弥生後期以降、位置をわずかに変えながら、現在まで連綿と続くことが判明している[5]。

２．海岸線と的形（的潟）

（１）低地の縄文集落

近年の大きな調査成果として、堀町遺跡・中坪遺跡（３）・朝見遺跡で縄文時代中期中葉（咲畑式）から後期中葉（元住吉山Ⅰ式）の遺構・遺物が出土し、およそ半径２km の範囲に縄文時代中・後期の集落が点在している状況が判明した[6]。なかでも、中期後葉の遺物量が突出して多い。朝見遺跡・堀町遺跡では石囲炉や埋設土器などの遺構や、石皿など定住を示す遺物が認められ、県内の臨海平野では初の成果として注目される。

今回報告する第５次調査では、縄文時代の遺構・遺物は得られていないものの、埋没地形の予察を行うため、公共事業にともなうボーリングデータを収集した（第５図）。第Ⅲ章で詳しく述べるように、沖積層（洪積層の可能性もある）は下部の砂礫層が大きく凹凸を見せており、微高地上では比較的安定した居住が可能であったと推測される。

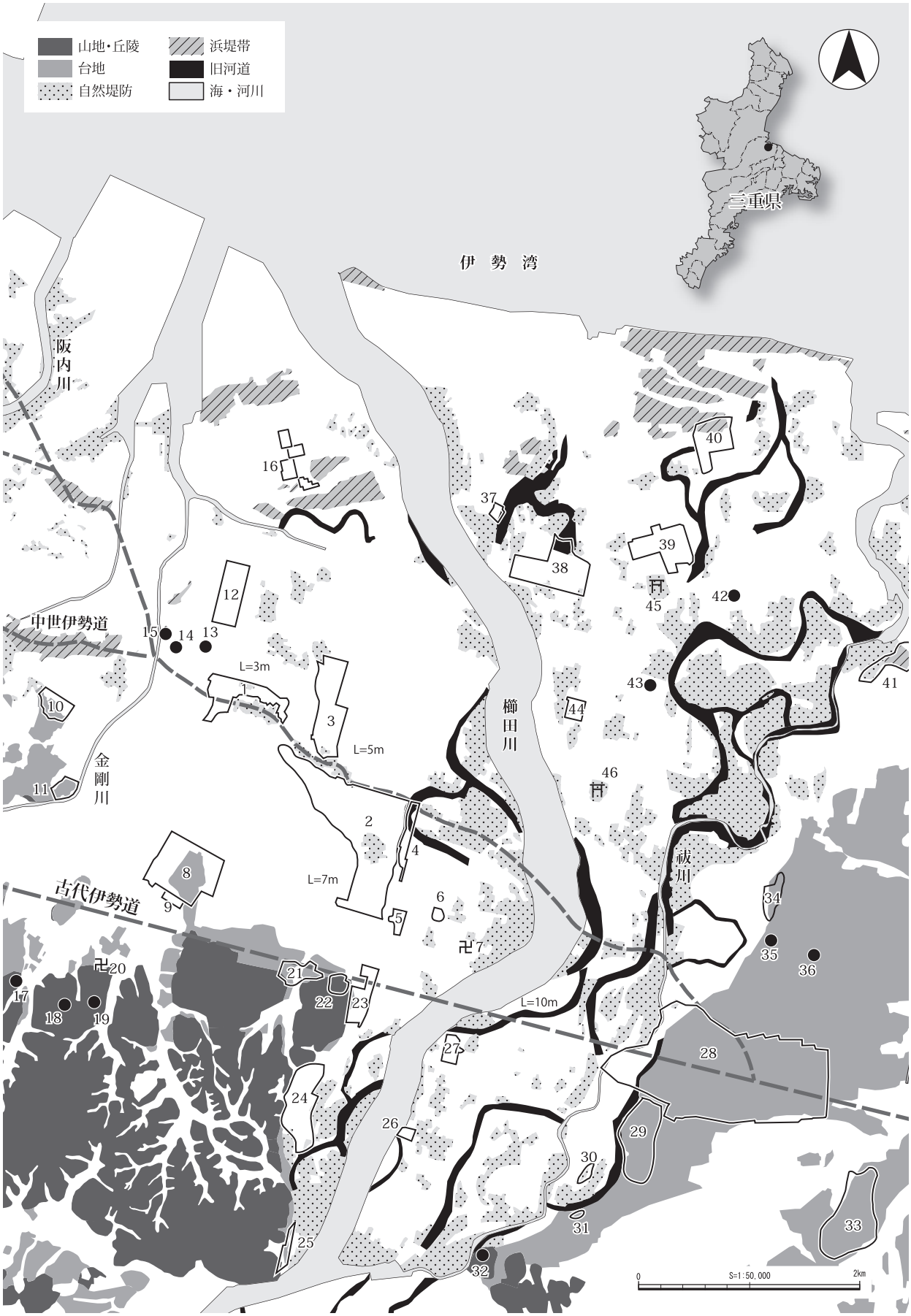
また、明和町西浦遺跡（41）では、基盤層と見られていた砂層中から里木Ⅱ式に相当する深鉢（埋設土器か）が出土した点も注目される[7]。櫛田川下流域は伊勢湾沿岸の縄文研究の上で瞠目すべきフィールドとなりつつある。

（２）弥生時代の集落と墓域

弥生時代の櫛田川河口付近の海岸線については、遺跡の分布や浜堤帯の位置などから論じた石黒立人氏の研究があり、弥生時代の海岸線を、松阪市幸生町付近の浜堤帯と明野台地の先端を結ぶラインに想定している[8]。このラインは、先の縄文遺跡の分

1. 堀町遺跡　2. 朝見遺跡　3. 中坪遺跡　4. 瀬干遺跡　5. 大蓮寺遺跡　6. 櫛田遺跡群（かん志ゆう地区）
7. 大雷寺廃寺　8. 村竹コノ遺跡　9. 甘チ遺跡　10. 湧早崎遺跡　11. 杉垣外遺跡　12. 御堂山遺跡
13. 佐久米大塚山古墳　14. 丸山古墳　15. 糠塚古墳　16. 西黒部遺跡群（池ノ上遺跡・小狐遺跡・西黒部西山遺跡）
17. 権現山１・２号墳　18. 坊山１号墳　19. 高田２号墳　20. 貴田寺廃寺　21. 丸野遺跡・中谷遺跡
22. 天王山遺跡・天王山古墳群　23. 琵琶垣内遺跡　24. 山添遺跡・山添古墳群　25. 大川上遺跡　26. 横地西ノ垣内遺跡
27. 古轡通りＢ遺跡　28. 斎宮跡　29. 金剛坂遺跡　30. 寺垣内遺跡　31. 織糸遺跡　32. 神前山１号墳　33. 北野遺跡
34. 粟垣内遺跡　35. 坂本古墳群　36. 東垣外古墳群　37. 東久保北浦遺跡　38. 川島遺跡　39. 服部遺跡　40. 南山遺跡
41. 西浦遺跡　42. 北浦古墳　43. 狐椚古墳　44. 魚見下起遺跡　45. 神服織機殿神社　46. 神麻績機殿神社

第３図　遺跡分布図（1:50,000、国土地理院発行1:25,000数値地図に加筆）



第４図　地形分類図（1:50,000、註５文献を一部改変）

布域ともほぼ合致しており、首肯できるものである。

弥生時代の遺跡は、金剛川左岸から櫛田川にかけての段丘上に湧早崎遺跡（10）、杉垣外遺跡（11）、村竹コノ遺跡（８）や天王山遺跡（22）など中・後期の集落が展開する。堀町遺跡・湧早崎遺跡は銅鐸形土製品、松阪市草山遺跡は小銅鐸を保有する点でも興味深い地域である[9]。櫛田川低地においては、朝見遺跡、瀬干遺跡（4）で終末期～古墳時代初頭の方形周溝墓群が見つかっている[10]。これらの墓域に対応する集落は今のところ明確でないが、方形周溝墓の検出範囲は径１㎞と広く、本来は複数の集落が点在していたのであろう。

（３）古代の的形（的潟）

古墳時代以降の海岸線については、『万葉集』、『風土記』逸文の記述や松阪市南山遺跡（40）[11]の調査成果などから、かつて「的形」と呼ばれた胃袋状の潟湖が櫛田川河口部に存在し、外洋船も停泊可能な良港があったとする説がある[12]。現在の櫛田川両岸の古墳の分布（13～15、42・43）からみても、概ね同様の海岸線が復元されよう。

古墳時代前期の首長墳は、高田２号墳（19）、坊山１号墳（18）などが丘陵上に位置し、櫛田川低地への進出は古墳時代中期に入ってからである。全国でも出土例が稀少な金銅装眉庇付冑（メトロポリタン美術館蔵）をもつ佐久米大塚山古墳（13）の被葬者は、海上交通にも関わった有力首長と目される[13]。

後期古墳では、丘陵裾部に金銅装馬具や捩り環頭太刀を保有する山添２号墳（24）などがあり、６世紀後半の有力豪族の存在が知られる[14]。

３．古道と条里の展開

（１）古代の飯野郡

古代の飯野郡は、７世紀に多気郡から分離され、一端神宮膝下から離れるが、８世紀末にふたたび神郡に加えられ、度会・多気郡と合わせて神三郡と称された。神郡内は祭主・宮司のもと、地方豪族である郡司や検非違使が統治し、加えて東寺領荘園や、在地寺院など雑多な勢力が利を競っていたが、飯野郡域では、郡衙や下級官衙の様相は不明である。

堀町遺跡近辺は、のちの条里絵図に「長田里」の名があり、和名抄に記載された「長田郷」とみられる[15]。また、遺跡内に所在する土ノ宮神社は、今日、延喜式内社（意非多神社）とされ、神社周辺には、「斎宮」の字が残るなど、斎宮との関係でも注目できる。しかし、松阪市西黒部にも意非多神社が存在することから、式内社の位置は確定が難しい。

（２）古代伊勢道と中世参宮古道

飯野郡域では、南側の段丘上に古代伊勢道が、平安時代後半から中世には、三渡川河口付近から浜堤帯を結び神宮へ至る中世参宮古道が所在していた。堀町遺跡も中世参宮古道の通過点にあり、街道沿いの朝田・立利・清水などの各郷には関が置かれ、関銭が徴収されていた。

直線規格道であることを至上命題とした古代伊勢道に対して、中世参宮古道は地形に即した自然発生的な海沿いの道とみられるが[16]、佐久米古墳群の立地などからみて、古代以前にも同様のルートが用いられていた可能性は高いといえよう。

（３）平安時代の朝見遺跡と堀町遺跡

その両者が接する衝地にあるのが、朝見遺跡（２）であり、近年の調査で多数の重要遺物が得られている。列挙すると、平安前期には初期貿易陶磁、多数の緑釉陶器（緑釉緑彩含む）、製塩土器、石帯、墨書土器、転用硯、木製祭祀具などがある。これらの構成は櫛田川対岸の斎宮ともよく似ることから、斎宮寮の貴族・官人層が経営に関与した可能性がある[17]。また、平安時代中期には、二面庇付大型建物（10世紀前半）を中心とした建物群があり、柱穴掘形の大きさは斎宮や国府にも匹敵する。平安後期（10世紀後半）には、複数の青銅鏡が水辺祭祀に供されたほか、鏡検出地に隣接する大蓮寺遺跡で四面庇付建物や陰刻花文をもつ緑釉陶器が確認された[18]。

朝見遺跡はいわゆる官衙関連遺跡であるが、その性格を限定しうる文字資料を欠いている。しかし、方六町におよぶ規模、館（荘所）的な大型建物が広範囲に展開するなど、有力寺社の古代荘園に似た空間構成をとる点は注意される[19]。

これに対して、堀町遺跡は墨書土器や木製祭祀具が出土するという共通性はあるものの、緑釉陶器の少なさ、石帯など官衙的色彩の強い遺物に乏しいなど、遺跡の性格は朝見遺跡と若干異なる[20]。これ

ら近隣遺跡を含めた遺跡の比較検討、一帯の景観の復原は、朝見上地区の調査を通じた重要な課題の一つである。

（４）櫛田川下流域の条里

飯野郡条里（Ｎ 15° Ｅ）は、古代伊勢道を基準線としており、松阪市西黒部付近まで広がっている[21]。かねてより、飯野郡における条里施工の進展は、『沢氏古文書』内の「飯野・飯高郡条里絵図」が 15 世紀末の段階を示すものとされてきた[22]。ところが近年、稲本紀昭氏は、当絵図の作成が 13 世紀に遡るという見方を示している[23]。この説に拠るならば、鎌倉時代には現況とさほど変わらない範囲に条里地割が及んでいたこととなる。堀町遺跡の付近は六条「長田里」に相当するため[24]、本次調査の中世遺構は、長田里の内実を示すものとして重要である。

一方、隣接する朝見遺跡では、11 世紀前半以降に条里坪境溝の開削がすすんだと考えられ[25]、坪境溝以外の条里方向の溝も、平安末期以降のものが多いようである。一帯の条里プランの諸段階や特徴を細かく明らかにすることが求められる。

４．朝田寺と中世朝田郷

（１）朝田寺の成立期をめぐる問題

堀町遺跡の中央には、松阪で「朝田の地蔵さん」と親しまれている古刹、朝田寺がある。現在は光福山延命院朝田寺と号し、江戸時代以降は天台宗延暦寺派に属するが、真言宗・曹洞宗など数度の改宗を経ているという。

当寺の本尊は木造地蔵菩薩立像（国重文）で、作風から 10 世紀初頭の作とされる[26]。他にも平安時代の木造僧形坐像や曾我蕭白筆獅子図、唐人物図など、多くの貴重な文化財を有することで知られる。

朝田寺の縁起を記した「朝田地蔵菩薩堂之記」（光福山朝田寺旧記、江戸時代か）[27]によれば、平安時代前期、光福長者なる人物が、七間檜皮葺の地蔵堂を建てたことに由来し、正応元年（1288）ごろに比叡山大乗院の僧都、尊重が中興開山したと伝える。また、別の縁起「朝田寺地蔵菩薩記」では、尊重の往時は本堂のほか三間四方の千手堂、六坊などを有し、「壱町四方四至堺」ありという。また徳治３年（1308）、門前より出火して本堂・千手堂ほか悉く焼失し、仮の草屋堂を建てたともある。

これら縁起には、「朝田村」の表記と正応２年（1289）の年号、僧都尊重の花押があり、これを根拠に 13 世紀末には朝田寺を中核とした「朝田村」が成立していた可能性が指摘されている[28]。しかしながら、当縁起は天台僧である尊重の業績を殊更に強調し、天台宗への改宗を正統化することに重きを置いて編纂されたと考えられるから、正応元年当時の朝田寺や「朝田村」（この「村」は近世村を指すか）の実態を正確に伝えるものかどうかは疑わしい。

他方で、寺域を現地に移したのは、元亀年間のことであるともいい、このころ曹洞宗に転宗、元和以降は紀州藩主徳川頼宜の帰依により寺領は増加、本瓦葺きの本堂・山門（県指定有形文化財）は慶安５年（1652）建立で、以後天台宗となる[29]。

現状では、朝田寺の成立・画期は、大きく平安前期・中世前期・中世末～近世初頭の３時期が考えられ、これに現地成立説と移転説が組み合わさるのである。今回の調査は、初めて朝田寺の周辺に及ぶものであり、朝田寺の成立過程を明らかにすることを目的の一つとしている。

（２）朝見上地区の集落形態

14 世紀代には「太神宮法楽寺棚橋領」として「朝田郷・立理郷・宮田郷」など、当地付近の郷村名が史料上に現れ、中世においても神宮の膝下にあったことが知られる[30]。先述のように、こうした中世集落「朝田郷」の成立と変遷、宗教的中核である朝田寺との関係についてはなお検討を要しよう。

朝見上地区の朝田･立田（旧立利村）の現集落は、櫛田川分流の旧河道が形成した自然堤防上に立地し、中世参宮古道沿いに発達した街村的形態をとる。これに対し、和屋・上七見・下七見などは、条里地割に即した方形の集村となっている（写真図版１）。和屋町では、集落内に戦国期の一石五輪塔や江戸時代の墓標をもつ集団墓地もみられる。

通説的には、中世村落は散村・疎開村から集村へと発展するとされているが[31]、室町時代以降の集落は宅地化しているところが多く、県内では良好な調査事例が乏しい。堀町遺跡の第５次・６次調査では、幸いにも平安時代から中世末期までの遺跡変遷

を広範囲でみることができた。

近世には紀州藩領に属し、明治２年指出帳では家数48、人数226を数える。産物に木綿・煙草などがあった[32]。（櫻井）

註

（1）山本威「櫛田川低地」『松阪市史』第１巻史料編（自然）、松阪市、1977年。

（2）水野章二「大国・川合荘」『講座日本荘園史』６、吉川弘文館、1993年。

（3）『神宮雑令集』（編者未詳、13世紀初頭成立か）

（4）平松令三編『三重県の地名』平凡社、1983年。

（5）本書内で報告書未刊行の近年の発掘調査成果について触れる際は、各年度の現地説明会資料、および三重県埋蔵文化財センター『水と大地といにしえの人びと～松阪市朝見地区の発掘調査から～』2015年、に拠る。

（6）註５前掲。

（7）明和町教育委員会『西浦遺跡を発掘調査中です』（地元回覧）2014年。

（8）石黒立人「伊勢湾周辺地域における弥生時代の平野地形について」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第７号、愛知県埋蔵文化財センター、2006年。

（9）新田剛「銅鐸」『三重県史』資料編考古１、三重県、2005年。

(10) 三重県埋蔵文化財センター2000『瀬干遺跡』および註５前掲。

(11) 松阪市教育委員会『南山遺跡発掘調査報告』1980年。

(12) 穂積裕昌「伊勢湾西岸域における古墳時代港津の成立」『考古学に学ぶⅡ』同志社大学考古学シリーズ刊行会、2005年、ほか。

(13) 註12前掲。

(14) 松阪市教育委員会『山添２号墳発掘調査報告書』1998年。

(15) 斎宮歴史博物館『斎王のおひざもと －斎宮をめぐる地域事情－』2006年。

(16) 伊藤裕偉「海岸線の変動と交通環境」『環境の日本史』２、吉川弘文館、2013年。

(17) 三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第１・２次）発掘調査報告』2014年、および註５前掲。

(18) 三重県埋蔵文化財センター『大蓮寺遺跡発掘調査報告』2014年。

(19) 宇野隆夫氏のいう「有力寺社荘園２型」を指す。
宇野隆夫『荘園の考古学』青木書店、2001年。

(20) 三重県埋蔵文化財センター『堀町遺跡』2000年。以下、文中で第１～４次調査について触れる際はすべて本書に拠る。

(21) 伊藤裕偉「斎宮寮・伊勢道・条里」『斎宮歴史博物館研究紀要』13、2001年。

(22) 谷岡武雄「飯野・多気郡の条里制」『伊勢湾沿岸地域の古代条里制』東京堂出版、1979年。

(23) 稲本紀昭「飯野・飯高郡条里図について」『三重県史研究』26、三重県、2011年。

(24) 星野利幸「神三郡の土地利用について－条里復元を中心に－」『斎宮歴史博物館研究紀要』16、2007年。

(25) 註18前掲。

(26) 本地蔵菩薩立像を９世紀初頭の作とする見方（『三重県史』別編美術工芸解説編、三重県、2014年など）もあるが、ここでは下記に従った。
松島健『日本の美術４　地蔵菩薩像』至文堂、1986年。

(27)「朝田地蔵菩薩堂之記」（光福山朝田寺旧記 上）および「朝田寺地蔵菩薩記」（光福山朝田寺旧記　下）『松阪市史』第３巻史料編（古代･中世）、松阪市、1980年。

(28) 註４前掲。

(29) 松阪市教育委員会『松阪の文化財案内』1990年。

(30) 註４前掲。

(31) 金田章裕『微地形と中世村落』吉川弘文館、1992年 / 佐久間貴士「発掘された中世の村と町」『岩波講座日本通史』９、岩波書店、1994年ほか。

(32) 註４前掲。

補註

脱稿後、国土地理院が公開する治水地形分類図（2014年更新版）に接した。当図には、櫛田川分流の旧河道が明示されており、堀町遺跡の中央を横断する東西方向の旧河道とは別に、遺跡西側を縦断する南北方向の旧河道があることがわかる。こうした旧河道や自然堤防の動向は、弥生～中世の遺構分布とも大きく関係していると考えられる。

Ⅲ　遺　構

1．基本層序と微地形

（1）基本層序

当地の基本層序は以下の通りである。基盤層を中心とする調査区間の層序の対比は、土層柱状図（第５図）に示した。

Ⅰ：現代耕土・床土等（表土）

Ⅱ：マンガン粒を多く含む灰褐色シルト。中世以降の水田耕土に由来するものと推測される。弥生～中世の遺物を包含。

Ⅲ：弥生～室町時代の遺構の基盤層。黄褐色系シルトや砂を主体とする沖積層。

今回の調査では、すべての遺構をⅢ層上面で検出した。また、遺構面までの深度が非常に浅いため、古代･中世の水田畦畔などは削平されたとみられる。

（2）調査地の微地形・埋没地形

現地表の調査地東側の７・８区は地表高約３m、調査地西側の１～３区は約2.3 mと、地形は東から西に向かって緩やかに傾斜している（第５図）。遺跡の南北中央付近は､条里地割が大きく乱れており、当地を東西方向に走る旧河道ないし谷地形が存在したことがうかがえる（第１図）。平安時代以降の自然流路ＳＲ5080はその名残であろう。

遺跡内と遺跡外（南北）では、約30～40cmの標高差がある。遺跡外では条里地割が貫徹され、水田が広がるのに対し、遺跡内には畠地や雑種地が多く含まれる。

埋没地形は第５図に示す。遺跡近辺で実施された土木工事のボーリングデータ[1]によれば、標高－10 m付近で「洪積層」に達し、これが緩やかに西側へと傾斜している（第５図上)。「沖積層」は砂・シルトなどを主体とする上部と、標準貫入試験Ｎ値50以上の固い砂礫層を主体とする下部に大別される（洪積・沖積の区別は註１文献によるが、堆積年代については検討を要する)。下部沖積層の砂礫層は厚さ５mを超え、顕著な起伏がある。上部沖積層は厚さ２～３mほどで、弥生時代後期以前の堆積である。これが下部沖積層の凹地を埋め、現況の平坦な地形を形成している。

次に、各調査区の井戸等で確認した基盤層の状況を見ておきたい（第５図下)。遺跡西側は砂礫や粗～細砂が卓越し、中央～東側ではシルトとなる。砂礫が表出する箇所は現在でも微高地となっている。

いずれの調査区でも、標高１m付近で固い砂礫層に達し、湧水が認められた。この砂礫層が沖積層下部の砂礫層に対応するとみられるが、具体的な検証は今後の大きな課題である。調査地西側は遺構面から約１mで湧水層に達するが、中央～東側は約２m弱を要し、地下水位は場所により大きく異なる。

2．検出遺構の概要

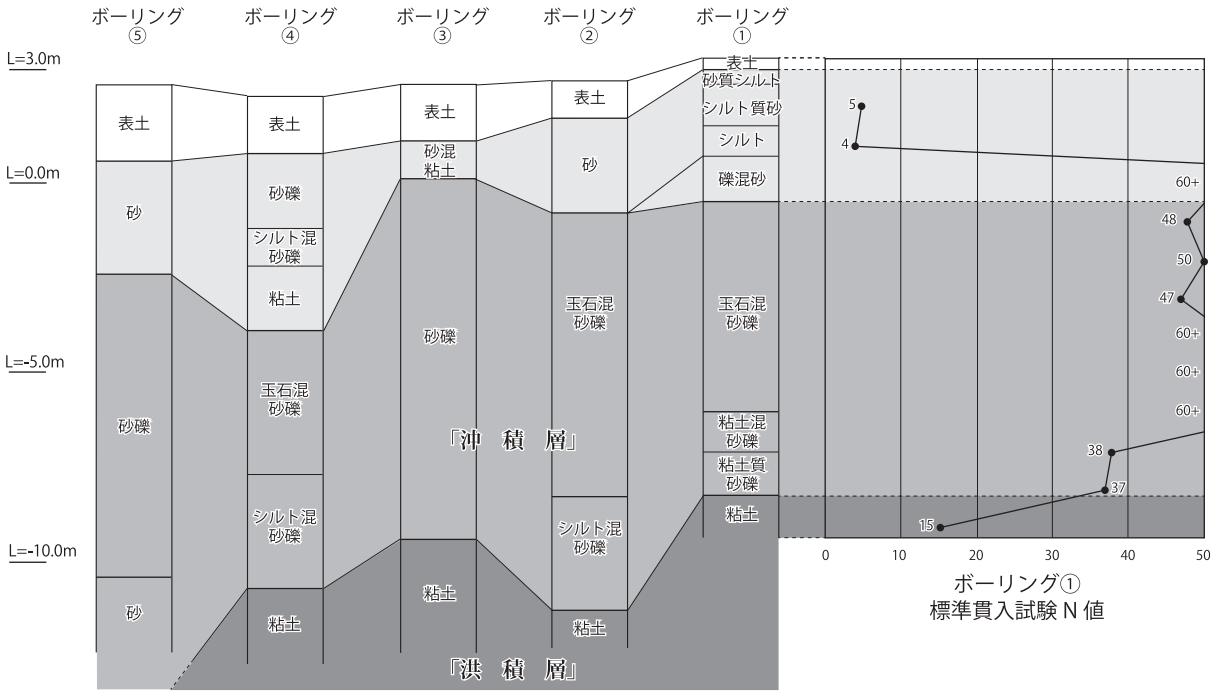
今回の調査では､弥生時代から室町時代（戦国期）の遺構を多数検出した。鎌倉時代までの遺構は既往の調査でも多数得られているが、今回は戦国期の遺構が目立っている。なお、奈良時代、南北朝期の遺構はほとんど認められなかった。

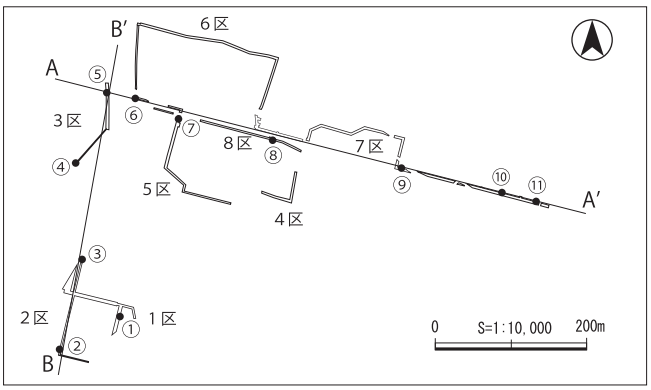
以下では、大きく調査地西側（１～３区)、調査地中央・朝田寺西側（５・６・8-2区)、同・朝田寺南側（４・7-1区・8-1区)、調査地東側（7-2～7-10区）の４エリアに分け、遺構種別ごとに記述する。その際、弥生時代・飛鳥時代の遺構は時代ごとにまとめて示し､平安時代から室町時代の遺構は、長期間存続する遺構もあるため、一括して扱う。

溝の断面は調査区壁面の土層内で極力示し、壁面にかかっていないものは個別に断面図を示した。

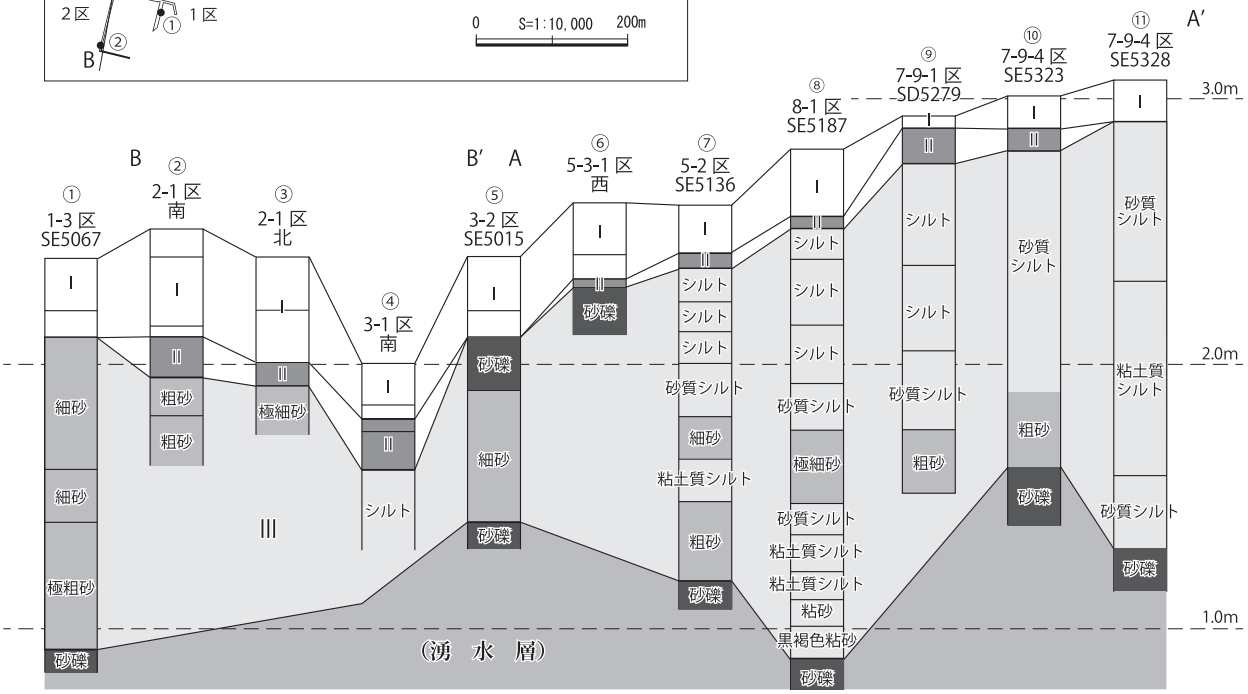
なお、平安時代は斎宮跡の土器編年[2]に即し、前（Ⅱ－１～３段階)･中（Ⅱ－４段階)･後期（Ⅲ期）に区分する。また、平安末以降は、南伊勢系土師器を中心とした中世土器の時期区分[3]に従い、中世Ⅰ～Ⅳ期と表記する。概ね中世Ⅰ＝平安末、Ⅱ＝平安末～鎌倉時代、中世Ⅲ＝南北朝～室町時代、中世Ⅳ＝戦国期に相当する。詳しい暦年代観などは、凡例に示したのであわせて参照されたい。

遺構の詳細は、章末の遺構一覧表（第３表）を参照されたい。また、大角遺跡は第Ⅵ章で扱う。





基本層序
Ⅰ：表土（現代耕作土および床土）
Ⅱ：弥生～中世遺物包含層（中世耕作土）
Ⅲ：基盤層



第５図　基本層序および土層柱状図

3．調査地西側

国道42号バイパス以西の１～３区を扱う（第６～８図）。基盤層や遺構の様相は第１～４次調査と類似している。当地は砂礫層や砂層を基盤とする箇所が多く、特に1-4区中央や２区南では、現耕土直下で固い砂礫層に達した（第９・10図）。この付近では弥生時代の遺構が多く認められ、調査前も畠地として利用されるなど、弥生時代以来の安定した微高地が存在した可能性が高い。また、湧水層が浅いため､井戸や井戸状の土坑が多いことも特筆される。

3-1区は湿地状となり、明確な遺構はなかった。

（１）弥生・古墳時代の遺構（第11図）

①土坑

ＳＫ5001（写真図版10） 3-2区で検出した径約1.7ｍ、深さ約50㎝の円形土坑である。埋土は粗砂を多く含むシルトで、中央付近から弥生後期の高杯・壺などが出土した。

ＳＫ5003（写真図版10） 3-2区で検出した径約2.6ｍ、深さ約80㎝の円形土坑である。上層から、残りの良い弥生後期の高杯や甕等がまとまって出土した。底面から少量の湧水がみられたことから、井戸の可能性が考えられる。

ＳＫ5025（写真図版10） 1-4区中央で検出した径１ｍ、深さ24cmの小型土坑である。弥生後期の甕片が出土している。

ＳＫ5042（写真図版10） 1-4区西で検出した径約2.4ｍ、深さ約40㎝の円形大型土坑である。弥生後期の甕等が出土している。現状で湧水はなかった。

②溝

ＳＤ5021・5022・5023・5027（写真図版12）

1-2・1-4区で検出した弥生後期の溝群で、地形の傾斜と直交し南北方向に流れる。残りは悪く浅い。

ＳＤ5016・5072（写真図版12） 1-1区から南西方向に流れる一連の不定形な流路である。Ｓ字甕をはじめ弥生終末期から古墳時代初頭の土器片が数多く出土した。当該期の遺構は堀町遺跡では数少ない。

（２）平安～鎌倉時代の遺構（第12～15図）

①掘立柱建物（第12図）

ＳＢ5059（写真図版６） 1-4区西側で確認した梁行２間以上、桁行３間の総柱建物で、主軸はＮ15°Ｅの東西棟である。柱穴から、中世前期の土師器・山茶碗などが出土している。

ＳＢ5060（写真図版６） ＳＢ5059と重複する梁行２間、桁行２間の側柱建物で、主軸はＮ５°Ｅの東西棟である。平安前期の灰釉段皿などが出土した。

ＳＢ5068 1-3区北側で一部を検出した、古代の側柱建物である。主軸はＮ70°Ｅの南北棟である。

ＳＢ5069（写真図版６） 1-3区中央で検出した梁行２間・桁行３間の古代の側柱建物である。

②井戸（第13～15図）[(4)]

ＳＥ5008（写真図版７） 3-2区で検出した径約1.8ｍ、深さ1.2ｍの縦板組井戸である。検出面から約80㎝下で湧水層に達する。井戸枠は一辺約80㎝の土居桁を枘で組み、内外に縦板を立てる。井戸枠内から別の土居桁部材が出土しており、上下に土居桁をもつタイプの井戸枠であると考えられる。また、縦板の内外にも横板・横桟を添えて補強している。井戸枠材には扉板など建築部材が含まれる。水溜は径約40㎝の曲物であるが、腐朽のため崩壊した。

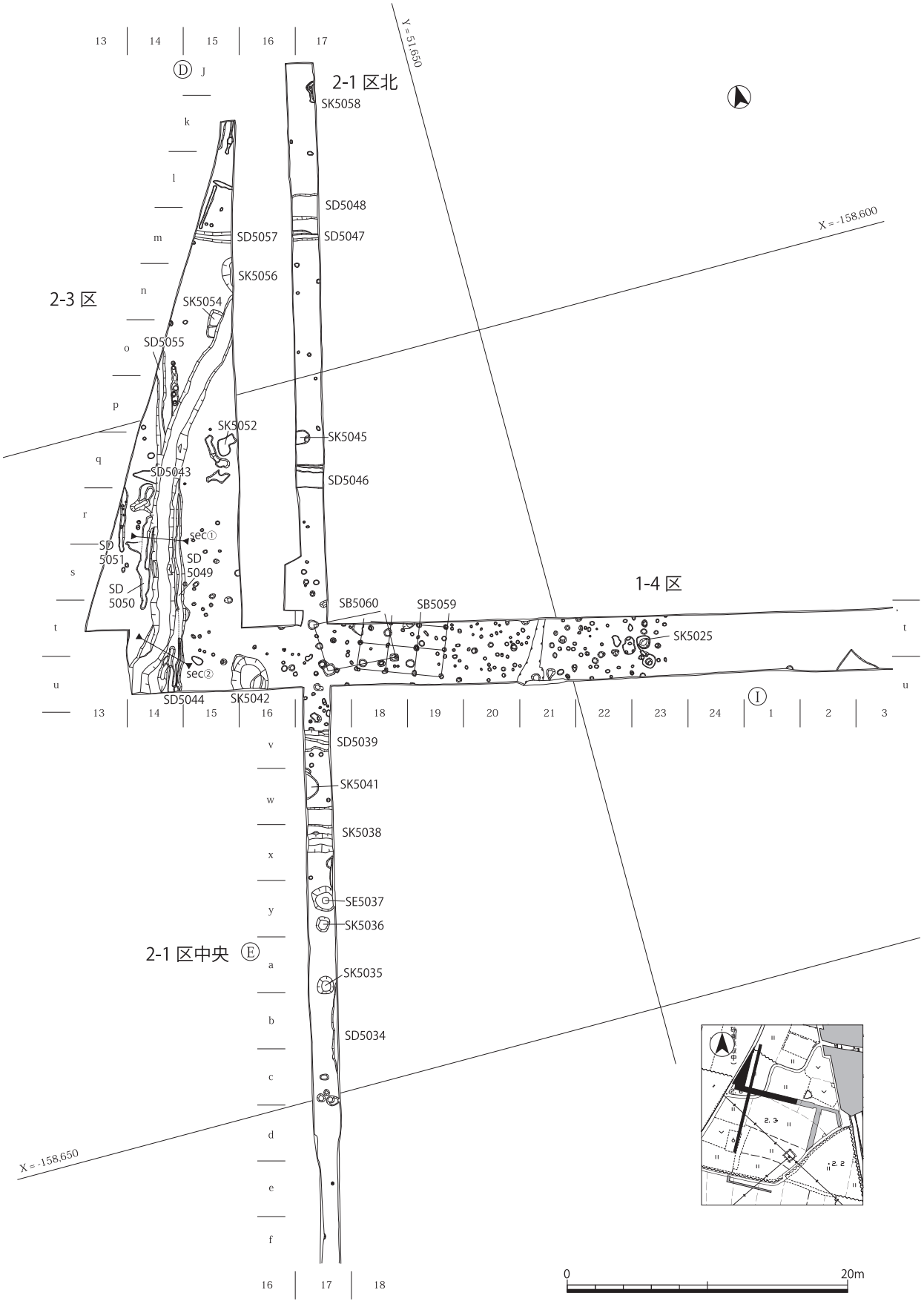
井戸上層・井戸枠内から、山茶碗や土師質土器など、平安後～末期の遺物が得られている。また、曲物内からウメ・スモモ核等が出土した。

ＳＥ5015(写真図版９） 3-2区で検出した径約２ｍ、深さ1.3ｍの円形井戸である。井戸枠は大半が失われ、最下部と水溜のみが残存していた。湧水層は検出面から70㎝下である。井戸枠は横板を角杭で固定する。縦板組井戸の土居桁を簡素にしたものか。水溜は直径約45㎝の曲物である（腐朽のため崩壊）。

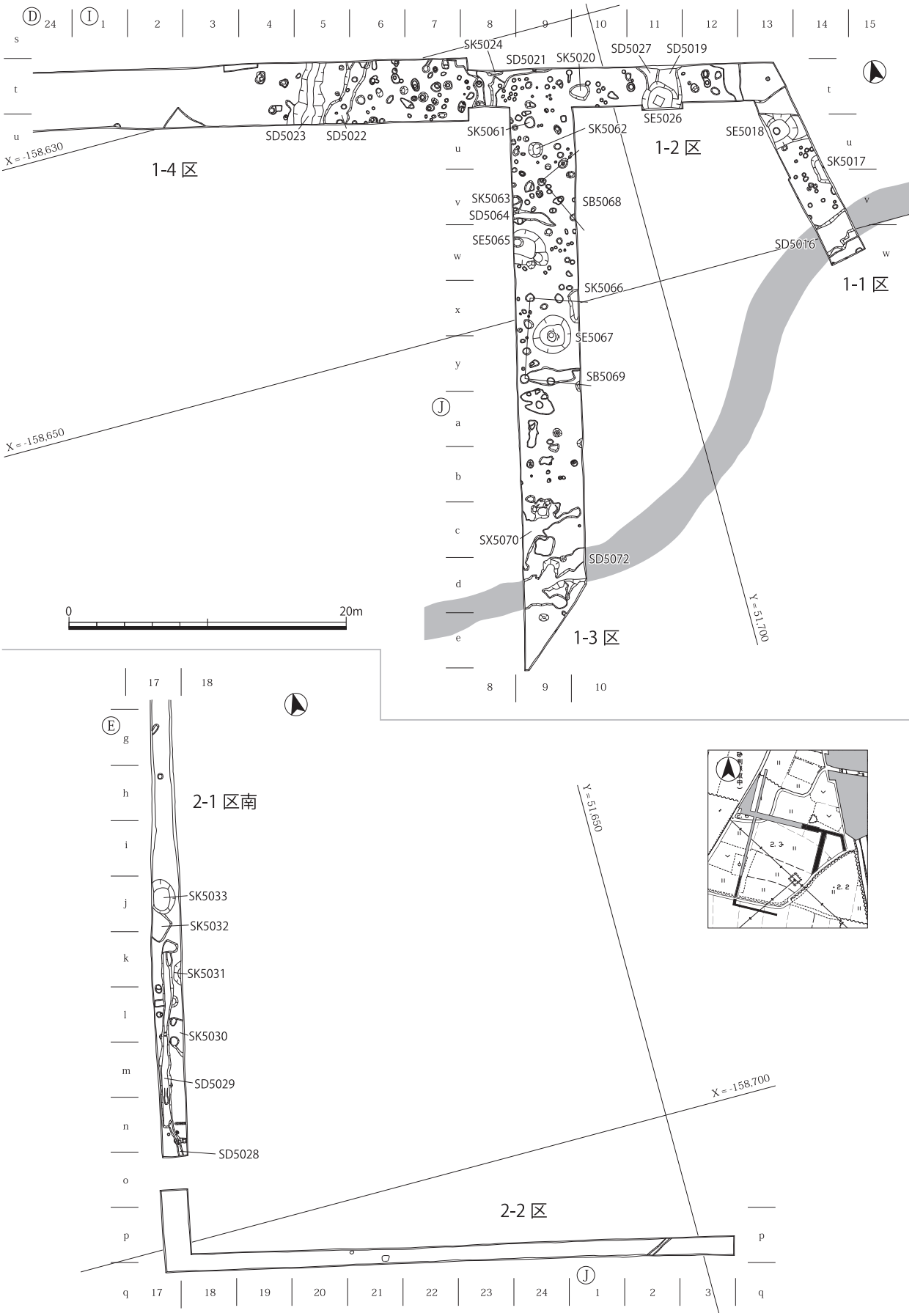
上層には、大量の土器・陶器が廃棄されていた。遺物は北から流れ込むように投じられており、大きく２ヶ所にまとまっているが、遺物の様相からは比較的一括性の高い土器群とみてよいと思われる。出土遺物から、12世紀末に廃絶されたと判断しうる。

ＳＥ5018(写真図版９） 1-1区で検出した径2.2ｍ、深さ90㎝の円形井戸である。井戸枠は確認できず、水溜の曲物のみ残存していた。湧水層は検出面から70㎝下である。平安後～末期の遺物が出土した。

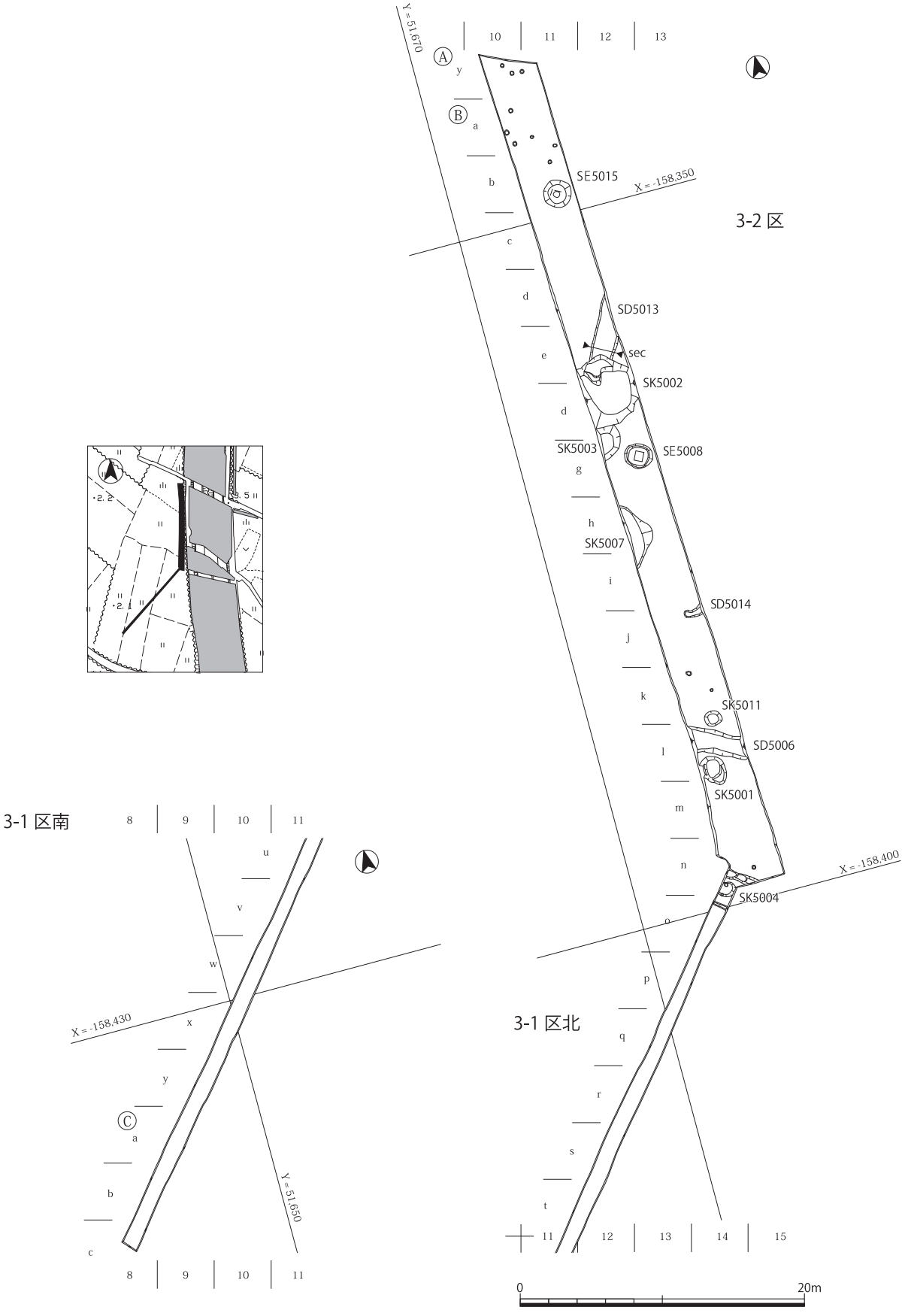
ＳＥ5026（写真図版９） 1-2区東で検出した径2.9ｍ、深さ85㎝の井戸である。ＳＤ5019・5027より後出する。掘形の平面形は隅丸方形で、井戸枠は最下部のみ残存している。土居桁は、相欠き仕口で結



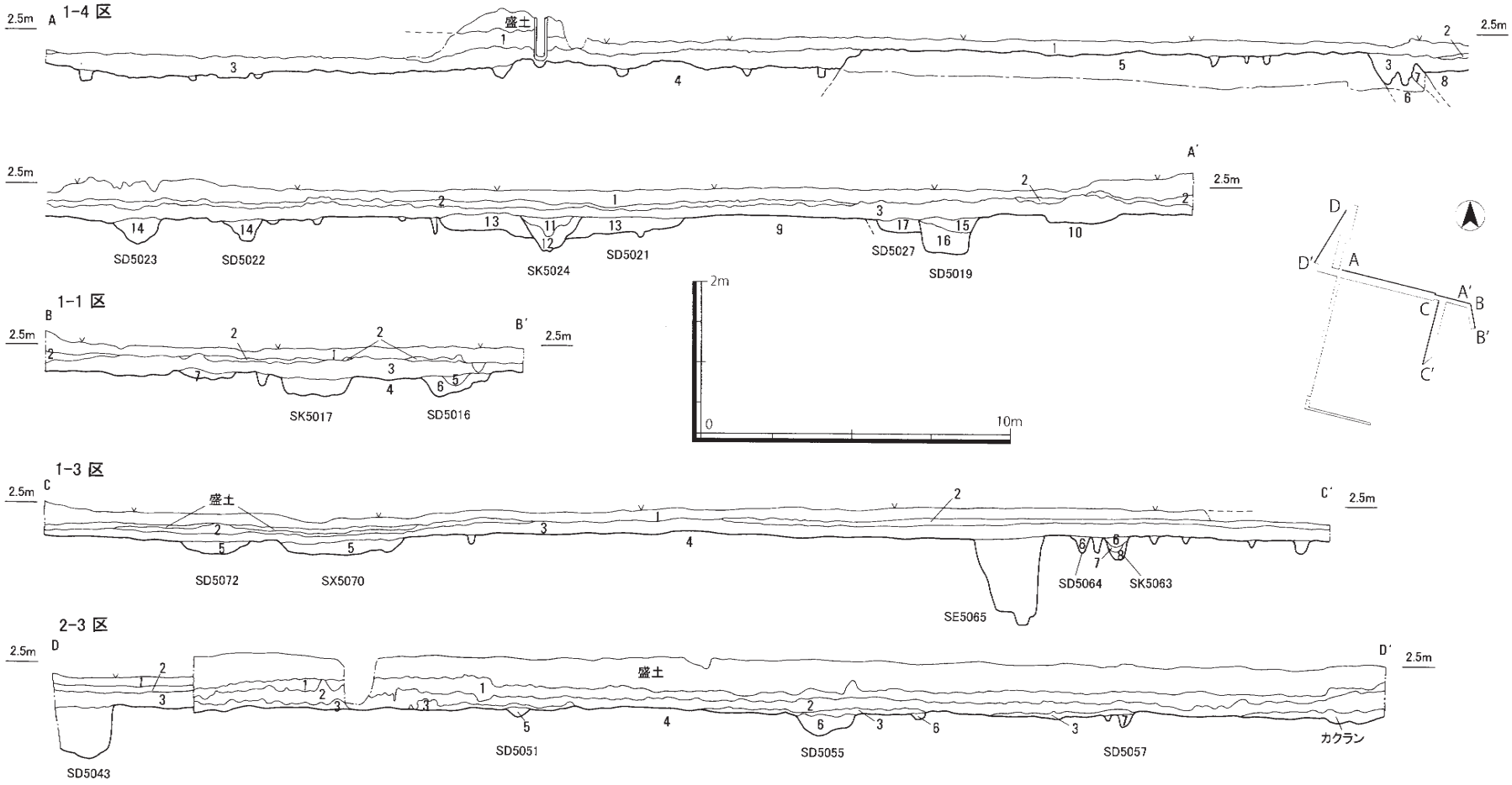
第６図　1-4西、2-1区中央～北　遺構全体図（1:400）



第７図　1-1～1-4区東、2-1区南、2-2区　遺構全体図（1:400）



第８図　３区　遺構全体図（1:400）



1-2 区　北壁（A－A'）
1．10YR4/1 褐灰色粘質土（耕土）
2．10YR6/2 灰黄褐色粘質土（床土）
3．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
4．2.5Y6/2 灰黄色細砂（2cm 大礫含む）
5．砂礫（1～5cm 大、硬く締まる）
6．7.5Y5/2 灰オリーブ色極細砂
7．10YR4/1 褐灰色砂礫
8．5Y5/2 灰オリーブ色極細砂
9．2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂（2cm 大礫含む）
10．7.5Y5/2 灰オリーブ色細砂
} 基盤層

11．10YR3/1 黒褐色粘質土
12．10YR3/1 黒褐色砂質土
} SK5024
13．10YR4/1 褐灰色粘質土（SD5021）
14．10YR3/2 黒褐色砂質土（SD5022・5033）
15．10YR4/1 褐灰色砂質土
16．10YR3/1 黒褐色砂質土
（灰オリーブ色細砂ブロック混）
} SD5019
17．10YR3/1 黒褐色砂質土（SD5027）

1-1 区　東壁（B－B'）
1～3．1－2 区と共通

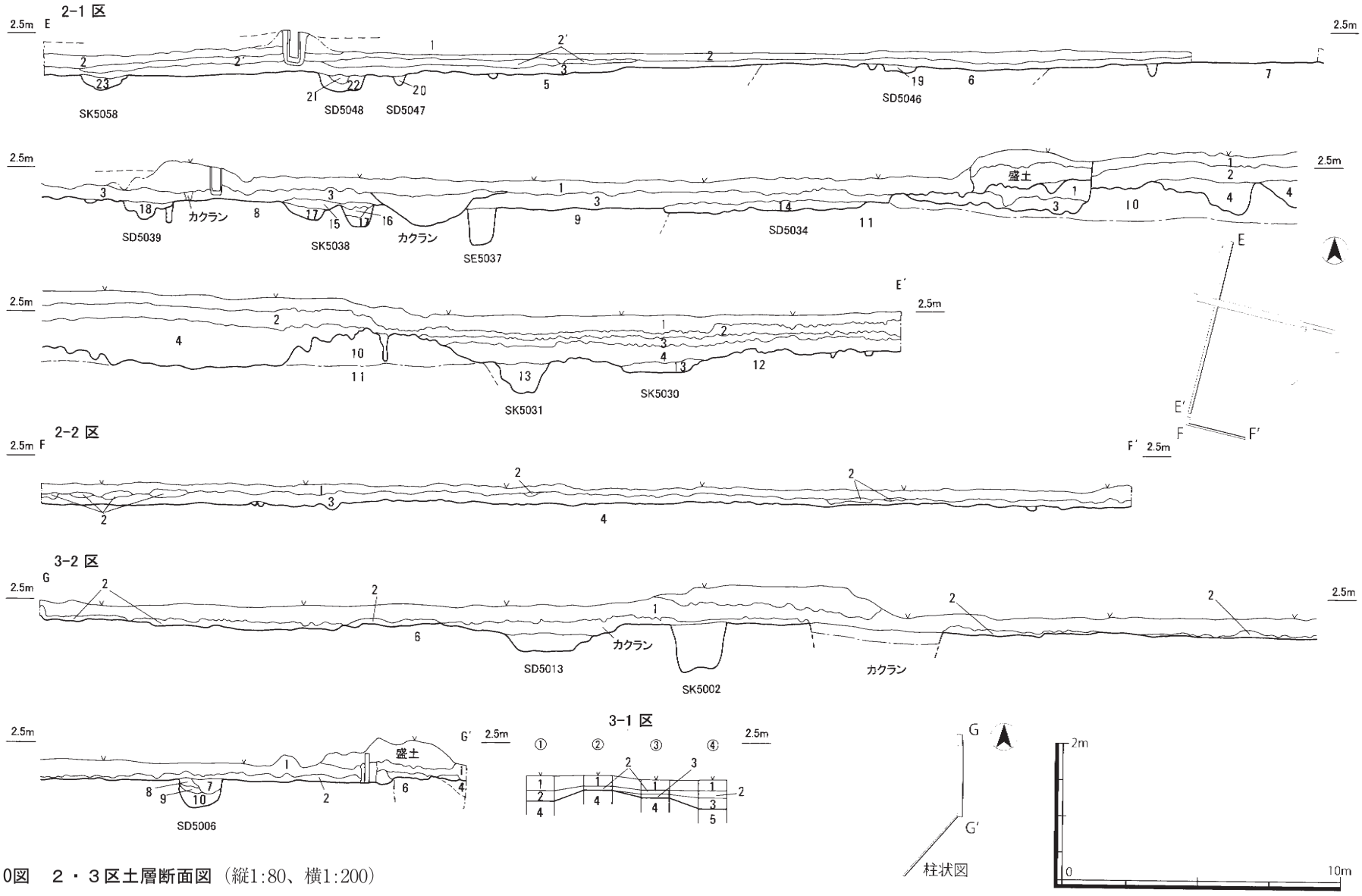
4．5Y5/2 灰オリーブ色細砂（基盤層）
5．10YR4/1 褐灰色砂質土
6．10YR5/1 褐灰色細砂
} SD5016
7．5Y4/1 灰色砂質土
（灰オリーブ色細砂ブロック混、SK5018）

1-3 区　西壁（C－C'）
1～3．1－2 区と共通
4．5Y6/3 オリーブ黄色細砂（基盤層）
5．7.5YR4/1 褐灰色砂質土（SX5070・SD5072）

6．10YR4/1 褐灰色砂質土
7．2.5Y6/3 にぶい黄色砂礫
8．2.5Y3/1 黒褐色砂質土
} SK5063・SD5064

2-3 区　西壁（D－D'）
1～3．1－2 区と共通
4．5Y5/2 灰オリーブ色細砂～極細砂（基盤層）
5．10YR3/1 黒褐色砂質土（SD5051）
6．10YR3/1 黒褐色粘質土（SD5055・Pit）
7．7.5YR4/1 褐灰色粘質土（SD5057）

第９図　１・２区土層断面図（縦1:80、横1:200）



第10図　２・３区土層断面図（縦1:80、横1:200）

合し、角杭で補強する。底面には水溜の抜き取り痕が確認できた。検出面から約 70cm下で湧水層に達する。

出土遺物は、上層から平安前期の土師器杯・皿、井戸枠内から甕が出土した。陶器類は出土せず、土師器のみを選んで廃棄しているとみられる。

ＳＥ 5037（写真図版９） 2-1区中央で検出した径1.7ｍ、深さ80cmの井戸である。井戸枠は確認できず、水溜の曲物のみが残存していた（曲物は腐朽のため崩壊）。検出面から約 80cm下で湧水層に達する。

水溜の下部は拳大の礫を充填して浄水施設としている。曲物内から完形の土師質土器椀（244）が出土している。他に、平安後期の灰釉陶器などがある。

ＳＥ 5065（写真図版９） 1-3区で検出した径 2.4ｍ、深さ 1.3ｍの円形井戸である。井戸枠等は残っていなかったが、水溜の抜き取り痕が明瞭だった。遺物は平安後期の土師器等のほか、上層から志摩式製塩土器の細片が多く得られている。

ＳＥ 5067（写真図版８） 1-3区で検出した径 2.7ｍ、深さ 1.5ｍの円形井戸である。検出面から 1.2ｍで湧水層に達する。井戸枠は縦板組であったとみられるが、大半が抜き取られていた。水溜の曲物は良好に残存していた。曲物は２段積み上げられ、上段は径約 70cm の大型品、下段は径約 45cm の中型品である。上段曲物の周囲は、厚さ１～２cm、長さ 50～ 60cm の榑板で囲み、土圧で押さえて補強する。

出土遺物は平安後～末期にかけての土器が主体である。京都系のて字状口縁皿（383・384）や黒色土器（394）、陶製の土錘（395・396）も特筆される。稀少な遺物を井戸に捧げたものであろう。また、最上層からは完形の山茶碗が２個出土した。

この他、水溜内から小型曲物（釣瓶か）や、モモ核やカキノキ種子などの種実、火付木が出土した。

③土坑（第 15 図）

ＳＫ 5002（写真図版 11） 3-2区で検出した径 4.7ｍ、深さ１ｍの大型土坑である。底面から激しく湧水し、井戸の可能性も考えられたが、土層断面から確証は得られなかった。下層の埋土にはマツの葉・球果が多く混じり、付近でのマツの生育が知られる。

出土遺物には山茶碗や土師質土器のほか、中層から出土した馬歯がある（写真図版 77）。

④溝（第 15 図）

ＳＤ 5013（写真図版 11） 3-2区で検出した東西方向の溝で、幅 1.7ｍ、深さ 40cm を測る。ＳＫ 5002 に切られる。平安後期の土師器杯が出土した。

ＳＤ 5039（写真図版 11） 2-1区で検出した東西方向の溝である。平安後期の灰釉陶器等が出土した。

ＳＤ 5043（写真図版 12） 2-3区で検出した比較的大型の溝で、南西から北東方向に蛇行している。幅 2.3ｍ、深さ 50cmを測る。平安後期～鎌倉時代の土器や加工円盤などが出土した。

土層断面図注記（第10図）

2-1区　東壁（Ｅ－Ｅ’）

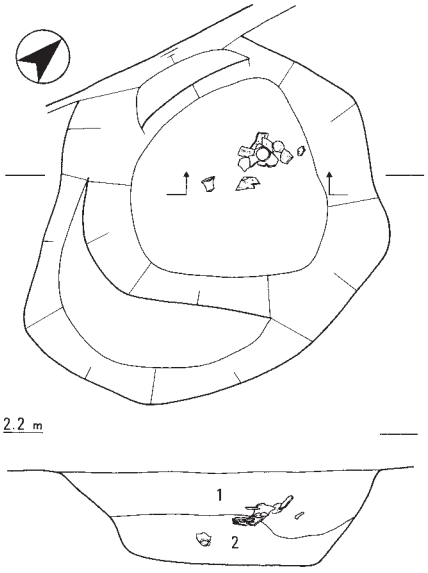
1．10YR4/1 褐灰色粘質土（耕土）
2．10YR5/2 灰黄褐色粘質土 / 砂質土（床土１）
2’10YR4/1 褐灰色砂質土（床土２）
3．10YR4/1 褐灰色粘質土 / 砂質土
4．7.5YR3/1 黒褐色砂質土
5．7.5Y5/2 灰オリーブ色極細砂
6．2.5Y6/2 灰黄色細砂
7．10YR5/2 灰黄褐色細砂（2 ㎝大礫多い）
8．10YR5/2 灰黄褐色砂礫
9．7.5Y5/2 灰オリーブ色極細砂
10．2.5Y6/3 にぶい黄色砂礫
11．2.5Y6/3 にぶい黄色粗砂
12．7.5YR4/1 褐灰色細砂
　　→基盤層
13．7.5YR3/1 黒褐色粘質土（SK5030・SK5031）
14．10YR4/1 褐灰色粘質土（SD5034）
15．10YR3/1 黒褐色粘質土
16．5Y6/2 灰オリーブ色シルト
17．5Y4/1 灰色砂質土
　　→SK5038
18．10YR3/1 黒褐色砂質土（1 ㎝大礫含む、SD5039）
19．10YR3/1 黒褐色粘質土（SD5046）
20．10YR4/1 褐灰色シルト（SD5047）
21．10YR3/1 黒褐色シルト
22．10YR3/1 黒褐色シルト
（灰オリーブ色極細砂ブロック混）
　　→SD5048
23．10YR4/1 褐灰色砂質土（SK5058）

3区　東壁（Ｇ－Ｇ’）

1．2.5Y4/1 黄灰色粘質土（耕土）
2．10YR4/1 褐灰色砂質土（5cm 大礫多い）
3．5YR4/1 褐灰色粘土質シルト（落ち込み）
4．5Y6/2 灰オリーブ色シルト
5．2.5Y7/1 灰白色シルト（締まりなし）
6．10YR4/1 褐灰色砂礫
　　→基盤層
7．10YR5/1 褐灰色砂質土（2 ～ 5cm 大礫多い）
8．10YR5/1 褐灰色砂質土（礫少ない）
9．7.5YR5/1 褐灰色粘砂
10．10YR5/1 褐灰色粘土質シルト
（微細な植物遺体を含む）
　　→SD5006

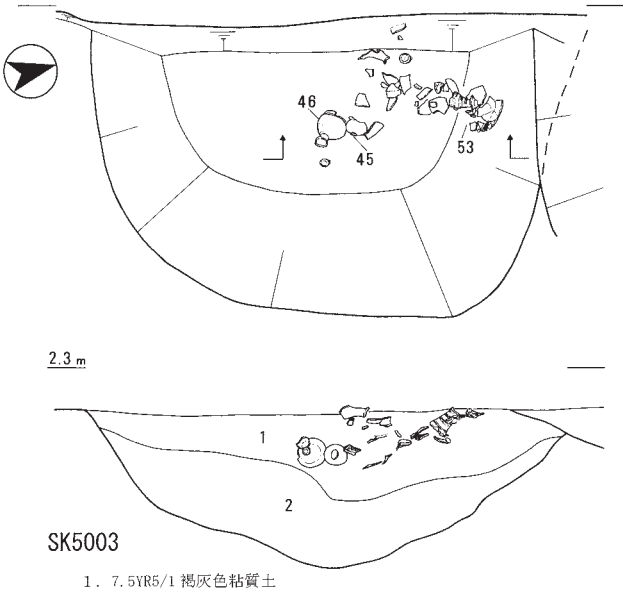
2-2区　北壁（Ｆ－Ｆ’）

1．5YR4/1 褐灰色粘質土（耕土）
2．10YR5/1 褐灰色粘質土（床土）
3．10YR5/1 褐灰色シルト
4．7.5GY5/1 緑灰色細砂（基盤層）



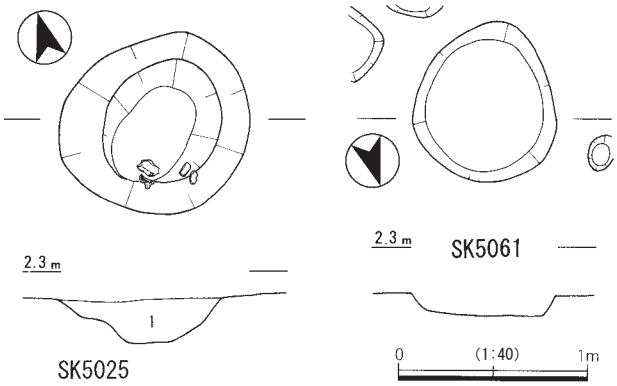
SK5001

1．7.5YR5/1 褐灰色粘質土（2～5㎝大礫、粗砂を含む）
2．7.5YR4/1 褐灰色シルト（2～5㎝大礫、粗砂を含む）

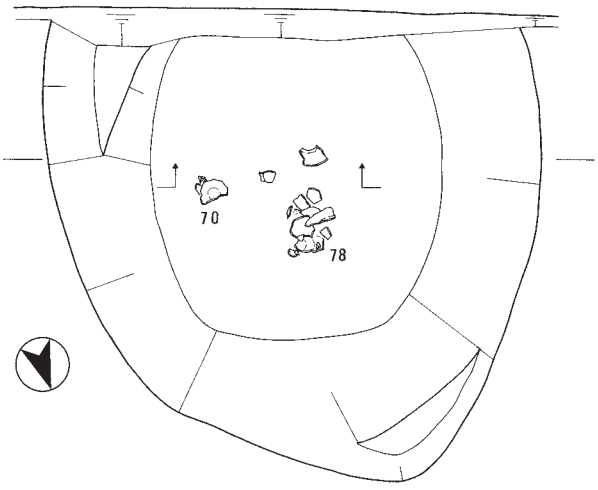


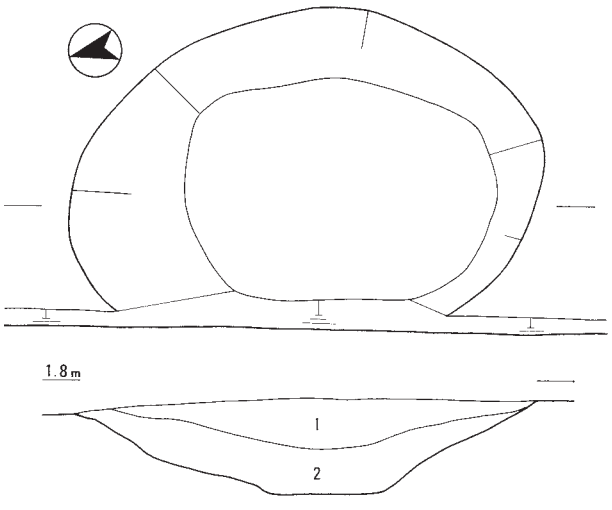
SK5003

1．7.5YR5/1 褐灰色粘質土
（2～5㎝大礫、黒褐色粘質土ブロック混）
2．10YR4/1 褐灰色粘質土（1に比べ礫少ない）



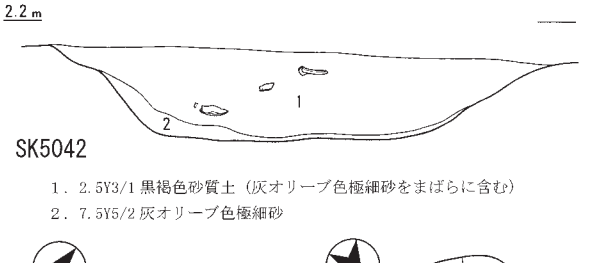
1．10YR3/1 黒褐色砂質土





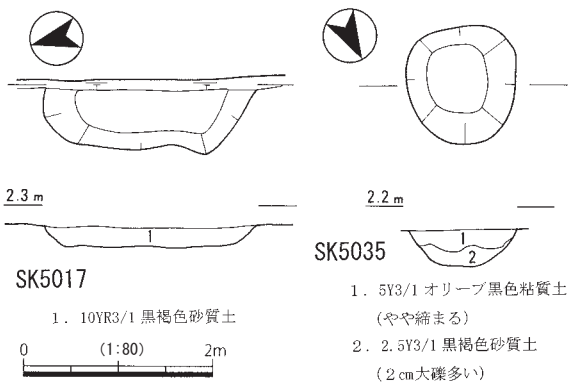
SK5033

1．5Y3/1 オリーブ黒色シルト
2．5Y4/1 灰色細砂（オリーブ黒色シルトブロック混）



SK5042

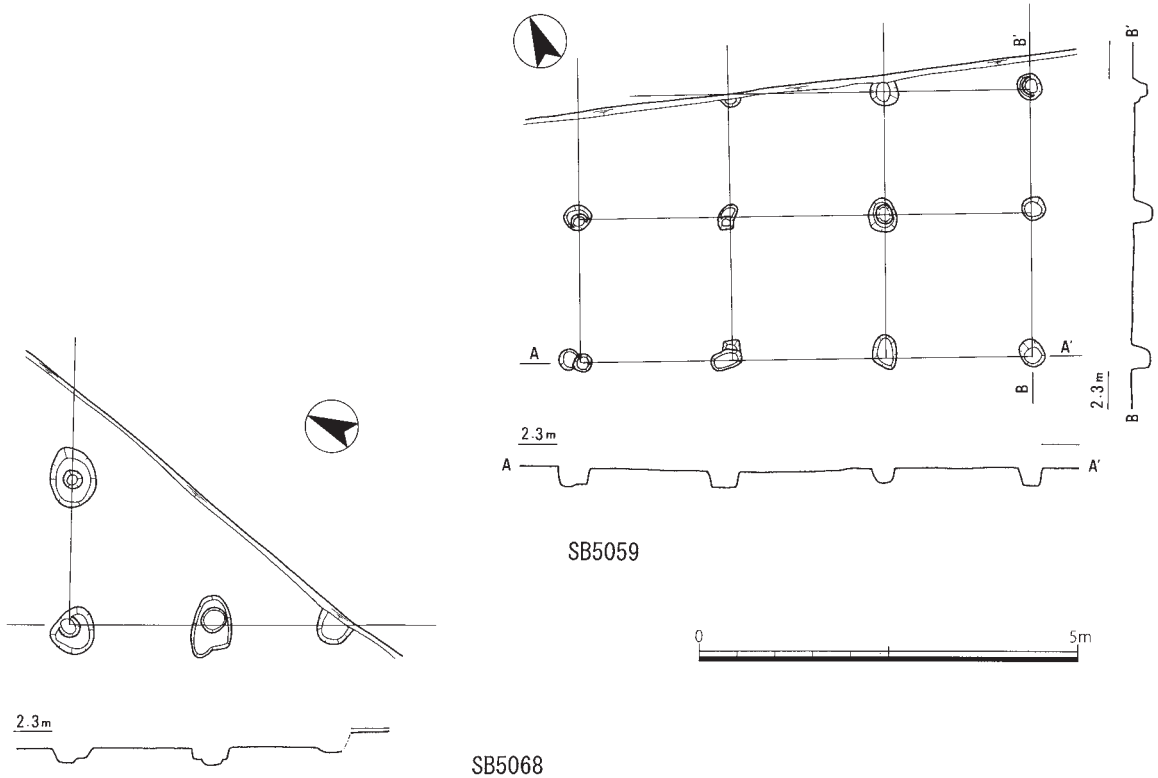
1．2.5Y3/1 黒褐色砂質土（灰オリーブ色極細砂をまばらに含む）
2．7.5Y5/2 灰オリーブ色極細砂

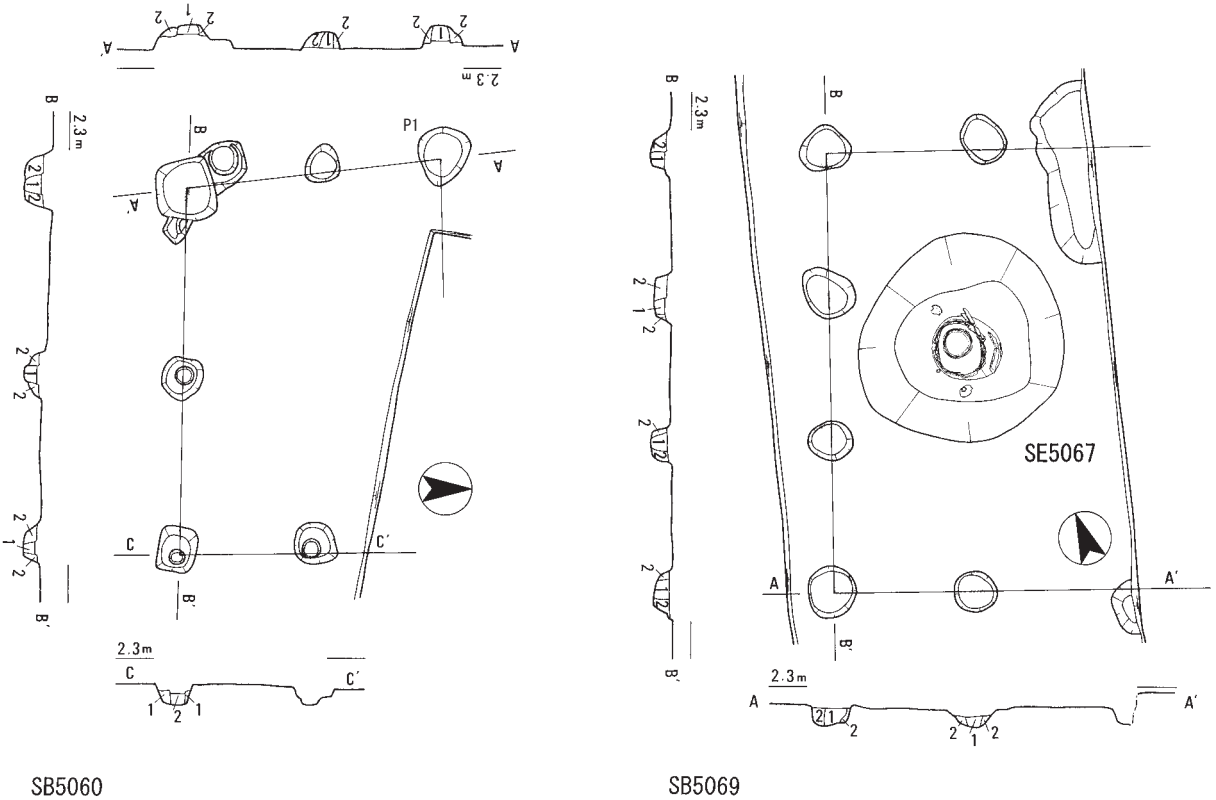


1．10YR3/1 黒褐色砂質土

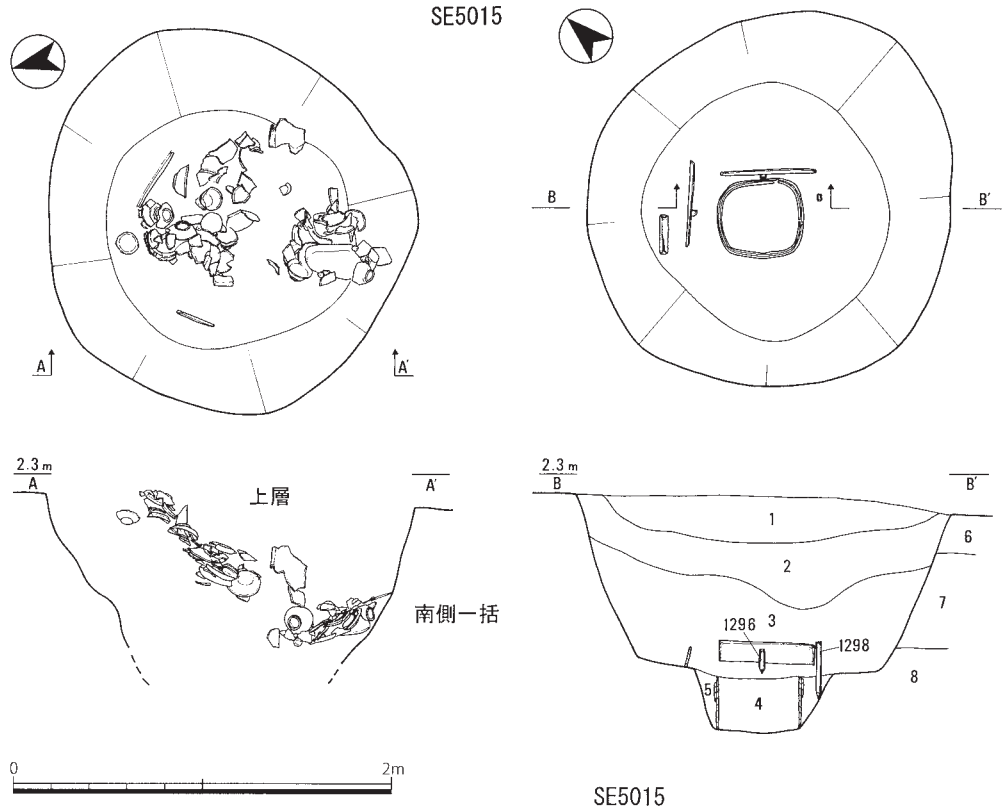
1．5Y3/1 オリーブ黒色粘質土
（やや締まる）
2．2.5Y3/1 黒褐色砂質土
（2㎝大礫多い）

第11図　1～3区　弥生時代の土坑（1:40、SK5017・5035は1:80）





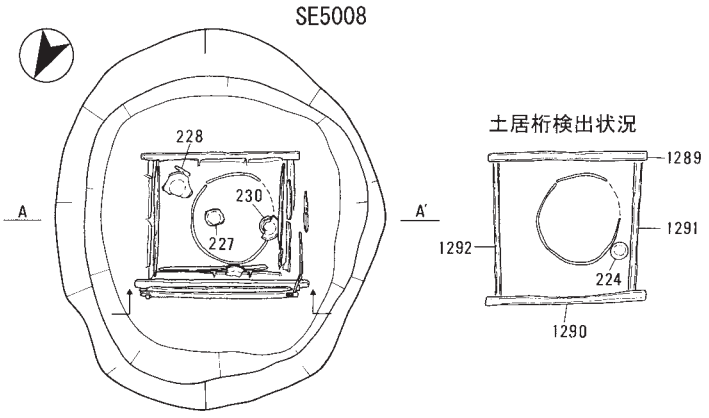
第12図　１～３区　掘立柱建物（1:100）



SE5015

1．7.5YR5/2 灰褐色粘質土（5cm 大礫多い）
2．7.5YR4/1 褐灰色砂質土（1に比べ粘性強い）
3．2.5Y5/1 黄灰色粘砂
4．10YR2/3 黒褐色粘砂（曲物内埋土）
5．10YR5/1 褐灰色砂礫（曲物裏込め）
6．10YR5/2 灰黄褐色砂礫
7．2.5Y5/1 黄灰色細砂
8．5Y6/3 オリーブ黄色砂礫（硬い、湧水層）

6〜8：基盤層



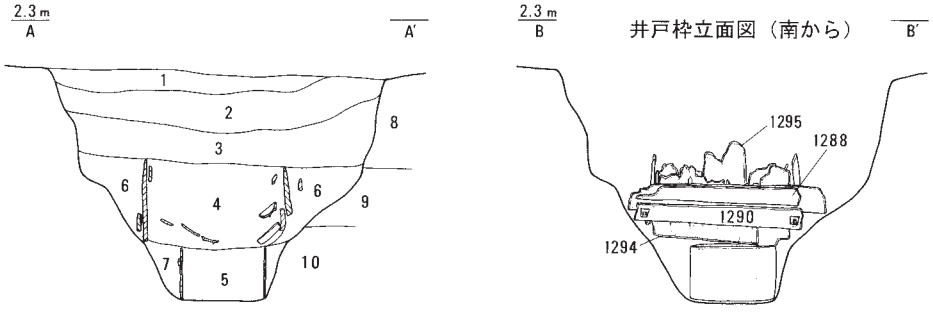
SE5008

1．7.5YR5/1 褐灰色粘質土（2〜5cm 大礫多い）
2．7.5YR5/1 褐灰色粘質土（1に比べ砂多い）
3．2.5Y4/1 黄灰色粘砂（締まり弱い）
4．10YR4/1 褐灰色粘土質シルト（井戸枠内埋土）
5．10YR3/2 黒褐色粘砂（曲物内埋土）
6．10YR5/1 褐灰色粘砂
7．10YR5/1 褐灰色砂礫

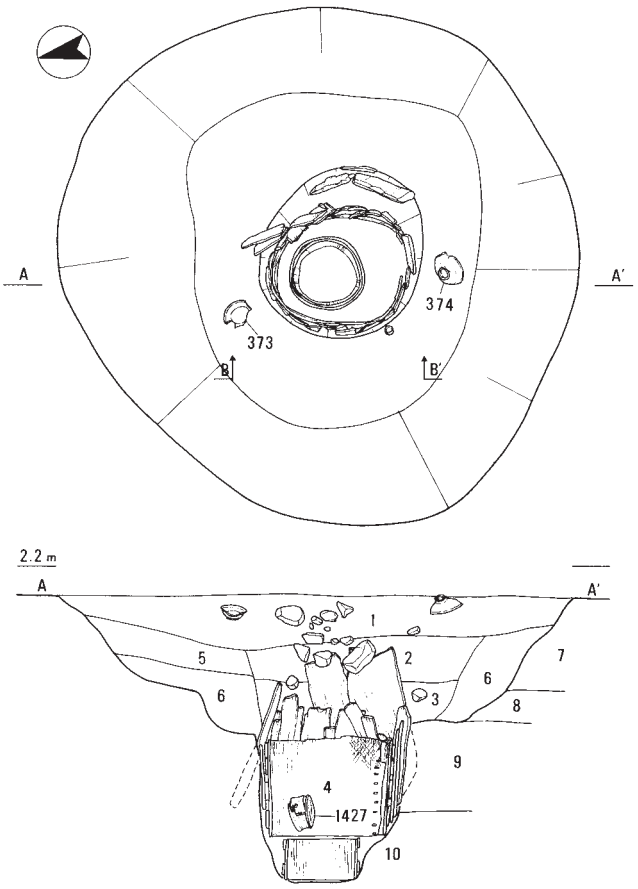
6〜7：裏込め土

8．10YR5/2 灰黄褐色砂礫
9．2.5Y5/1 黄灰色細砂
10．5Y6/3 オリーブ黄色砂礫（硬い、湧水層）

8〜10：基盤層



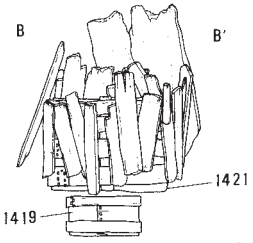
第13図　1〜3区　井戸（1:40）



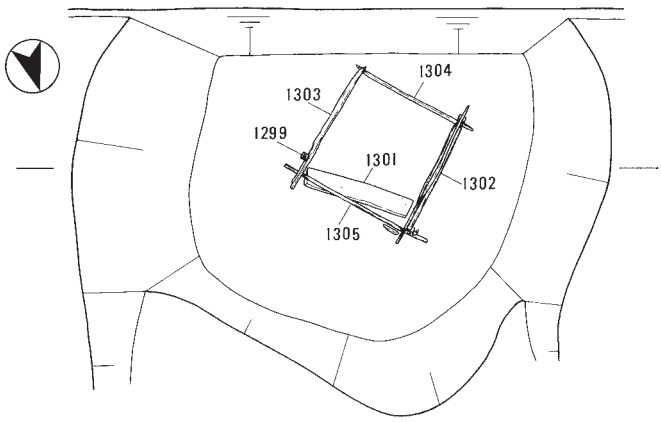
SE5067

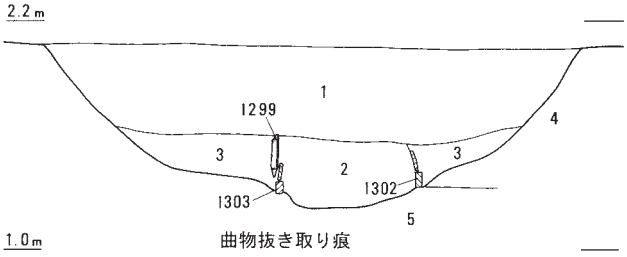
1．10YR3/1 黒褐色砂質土
2．2.5Y4/1 黄灰色粘質土
3．2.5Y4/1 黄灰色粘砂（粘性強い）
4．10YR3/1 黒褐色粘砂（曲物内埋土、締まりなし）
5．10YR4/1 褐灰色粘質土（Fe多、木片を含む）
6．10YR4/1 褐灰色粘質土（暗灰黄色細砂混）
7．5Y6/3 オリーブ黄色細砂
8．2.5Y5/2 暗灰黄色細砂
9．5Y6/3 オリーブ黄色極粗砂（1cm大の礫多く含む）
10．5Y7/3 浅黄色砂礫（Fe集積し硬い、湧水層）

裏込め土
基盤層



井戸枠立面図（西から）





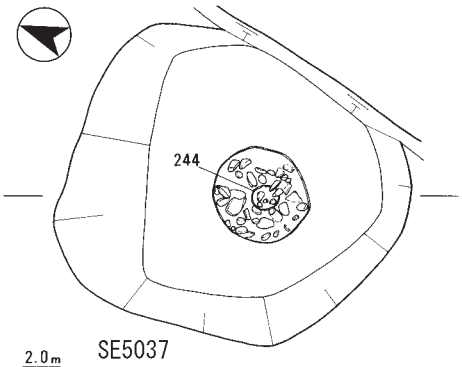
曲物抜き取り痕

SE5026

1．10YR3/1 黒褐色砂質土（土師器杯多量）
2．10YR3/1 黒褐色粘土（井戸枠内埋土）
3．10YR4/1 褐灰色粘砂（裏込め土）
4．7.5Y5/2 灰オリーブ色細砂
5．5Y6/3 オリーブ黄色砂礫（硬い、湧水層）

基盤層

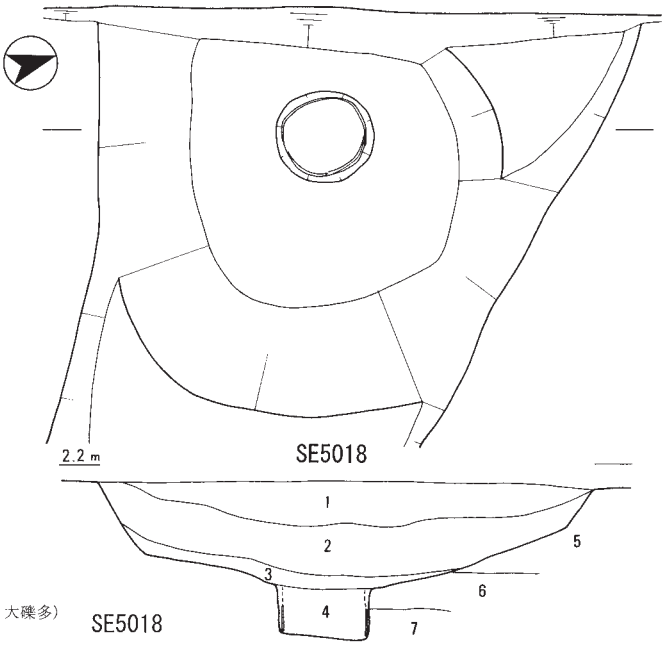
第14図　1～3区　井戸（1:40）



SE5037

1．2.5Y3/1 黒褐色粘質土（2～5cm 大礫多い）
2．2.5Y3/1 黒褐色砂質土（灰オリーブ色極細砂ブロック混、2～5cm 大礫多）
3．10YR4/1 褐灰色粘砂（曲物内埋土）
4．7.5YR5/2 灰オリーブ色極細砂
5．7.5YR4/1 褐灰色砂礫
6．2.5Y6/3 にぶい黄色粗砂
7．5Y6/3 オリーブ黄色砂礫（硬い、湧水層）

基盤層

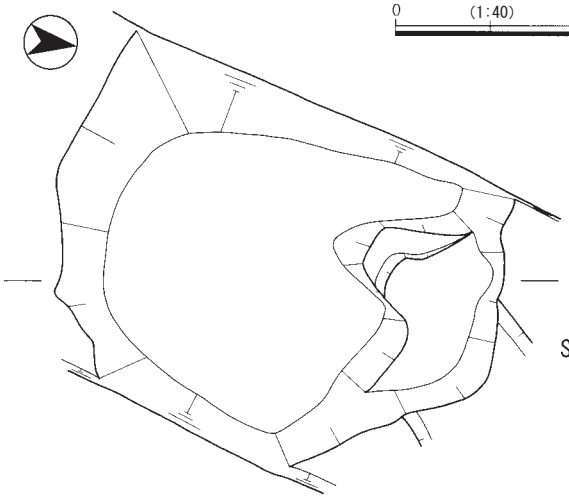


SE5018

1．10YR4/1 褐灰色砂質土 2.5Y3/1 黒褐色粘質土（2～5cm 大礫多い）
2．10YR4/1 褐灰色砂質土（灰オリーブ色細砂ブロック混）
3．5Y3/1 オリーブ黒色細砂
4．10YR3/1 黒褐色粘土（曲物内埋土）
5．7.5Y5/2 灰オリーブ色細砂
6．2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂（2cm大礫を含む）
7．5Y6/3 オリーブ黄色砂礫（硬い、湧水層）

基盤層

0 (1:40) 1m

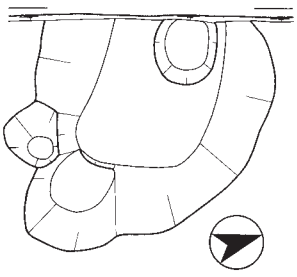


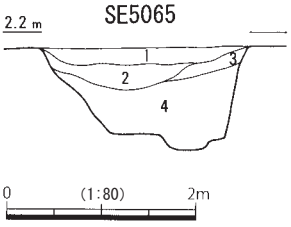
SK5002

1．10YR6/3 にぶい黄橙色粘質土
（5cm 大礫を多い、よく締まる）
2．7.5YR5/1 褐灰色粘質土
（5cm 大礫を多い、よく締まる）
3．7.5YR4/1 褐灰色粘質土
（5cm 大礫を多い、やや締まる）
4．2.5Y5/2 暗灰黄色砂礫
5．10YR6/2 灰黄褐色シルト
（締まり弱い、植物遺体多い）
6．2.5Y6/1 黄灰色シルト
（締まり弱い、植物遺体多い）

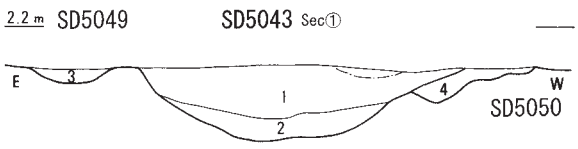
SE5065

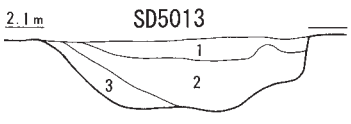
1．10YR4/2 灰黄褐色細砂
2．10YR4/4 褐色粗砂
3．N3/0 暗灰色粘質土（締まり弱い）
4．10YR4/1 褐灰色粘砂





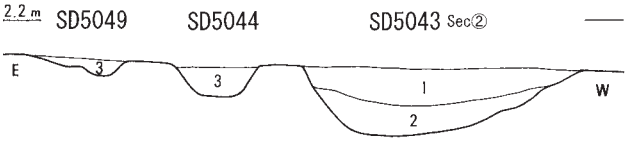
0 (1:80) 2m





SD5013

1．10YR5/2 にぶい黄褐色シルト
（2～5cm大礫、粗砂を含む）
2．10YR6/1 褐灰色シルト
（よく締まる）
3．10YR5/1 褐灰色砂礫
（よく締まる）



SD5043・5044・5049・5050

1．10YR4/1 褐灰色砂質土（2cm大礫多い）
2．10YR3/1 黒褐色粘質土（灰オリーブ色極細砂をまばらに含む）
3．7.5YR3/1 黒褐色砂質土（2cm大礫を多い）
4．5Y3/1 オリーブ黒色砂質土

第15図　1～3区　井戸・土坑・溝（1:40、SK5002・SE5065は1:80）

4．調査地中央（朝田寺西側）

国道42号バイパス以東、朝田寺までの間の調査区であり、5区(5-1～5-4区)、6区(6-1～6-2区)、8-2区が該当する（第16～18図)。

当地の基盤層は、5-2区の南側や5-3-1区のみ砂礫層がみられ、5-4区以北はシルト、5-1-2区以南は細砂・極細砂となる（第19・20図)。

遺構の様相は、遺跡中央を流れる自然流路ＳＲ5080を挟み、南北で大きく異なっている。南側の5-1～5-3区、8-2区は比較的遺構密度が高く、柱穴など住居関連遺構や井戸が認められる。また、当地付近が弥生後期集落の東限とみられる。

一方、遺跡北側の5-4区、6-1・6-2区では、大型土坑や溝以外の遺構はきわめて少なく、上述した基盤層の変化と合わせて、北側に至るほど低湿な環境であったと推測される。また、遺跡南端付近の5-1-2区以南も遺構は希薄であった。

朝田寺に西接する6-2区では、朝田寺に関わる寺域溝や瓦などは確認できなかった。

（1）弥生時代の遺構

ＳＤ5143（第24図、写真図版15） 5-2区で検出した幅約1.2ｍ、深さ約40㎝の東西溝である。主に上層から後期の広口壺や高杯などが出土した。

（2）飛鳥時代の遺構

下記に挙げたもののほか、8-2区では当該期のピットなどを確認している（写真図版18)。

ＳＤ5095（写真図版22） 6-1区中央で検出した幅約1.5ｍ、深さ30㎝の溝である。７世紀後半の土器とともに、鞴羽口や椀形鍛冶滓の小片などが出土した。付近に鍛冶関連遺構の存在が疑われる。

ＳＲ5128（写真図版22） 6-1区で幅５ｍ以上、深さ65cmを測る自然流路であり、粗砂で埋没している。ＳＤ5095と同じく、７世紀後半の土器片や鞴羽口の小片、椀形滓の破片などが出土した。

（3）平安～室町時代の遺構

①掘立柱建物（第21図）

ＳＢ5181 5-2区北で検出した梁行２間、桁行２間以上の古代の側柱建物で、主軸は正方位に即した東西棟である。SK5141に切られている。

ＳＢ5182（写真図版15） 5-2区南で検出した梁行２間、桁行２間以上の中世総柱建物である。主軸はＮ33°Ｅをとる東西棟で、建替えの柱穴がみられる。

②井戸（第21・22図）

ＳＥ5135 5-2区北にある径約1.3ｍ、深さ1.25ｍの円形井戸である。井戸枠・水溜は抜き取られており、中央に水溜の設置痕とみられる凹みが確認できた。底面は湧水層に達する。平安後～末期の土師質土器や山茶碗片、砥石などが出土した。

ＳＥ5136（写真図版14） 5-2区で検出した径約1.9ｍ、深さ1.6ｍの円形井戸である。検出面から約1.2㎝下で湧水層に達する。井戸枠は抜き取られていたが、水溜の曲物が残存していた。曲物は２段重ねられており、上段の曲物は箍のみである。曲物の裏込めには拳大の礫が充填されている。

遺物は、上層から渥美第６型式の山茶碗や土師器鍋、下層から墨書のある山茶碗（433・436）や土師器鍋などが出土した。

ＳＥ5142（写真図版14） 5-2区で検出した径約1.7ｍ、深さ1.25ｍの円形井戸である。ＳＫ5139に切られる。検出面から約1.1ｍ下で湧水層に達する。井戸枠・水溜は抜き取られており、内壁は崩落のため袋状を呈する。最下層から方形曲物の底板が出土した。他に中世Ⅱａ期の土師器などが出土している。

ＳＥ5150（写真図版14） 径約1.6ｍ、深さ0.7ｍの円形井戸である。5-2区南の、基盤層が砂礫層に変化した箇所で検出したため、やや浅い。井戸枠・水溜は失われ、中央に水溜の抜き取り痕とみられる凹みが確認できた。現状では湧水はみられない。

③土坑（第21～23図）

ＳＫ5077・5089・5091・5093（写真図版21） 5-4区、6-1区で検出した直径２ｍ以上の大型土坑である。井戸枠などはみられず、いずれもブロック土で埋没する、遺物がほとんど出土しないなど共通点が多い。井戸枠抜き取り後の井戸や溜井などであろうか。

ＳＫ5081（写真図版21） 6-1区東で検出した径約1.0ｍ、深さ約30㎝の土坑で、早桶が据え付けられている。底板は板を並べただけの簡易なもので、角杭状の木栓で固定されている。溜井ないし肥溜めであろう。江戸時代の瓦や陶磁器片がみられた。

ＳＫ5107（写真図版21） 6-2区で検出した径約90cm、深さ約1.5ｍの円筒形土坑である。湧水はみら

れない。中～下層から内面に煤が付着した山茶碗や片口鉢がまとまって出土しており、火を用いた儀礼等の存在をうかがわせる。中世Ⅱｂ期の遺構である。

ＳＫ 5110・5115（写真図版 21） 6-1 ～ 6-2 区で検出した長径約 1.2 ｍ、短径 80cm、深さ約 35cmの楕円形土坑である。遺物は出土していない。

ＳＫ 5119（写真図版 18） 8-2 区西で北半部を検出した径 1.5 ｍ、深さ 80cmの土坑である。中層から、中世Ⅱａ期の残りの良い土師器が多く出土している。

ＳＫ 5133（写真図版 18） 5-3-1 区で検出した径 2.6 ｍ、深さ 65cmの円形土坑である。中世Ⅲｂ期の土師器や古瀬戸花瓶などが出土した。

ＳＫ 5141（写真図版 14） 5-2 区北側にある長さ 4.1 ｍ、深さ 25cm の浅い方形土坑である。底面はやや凹凸があり、ブロック土で埋没している。

④溝（第 24・25 図）

ＳＤ 5083・5087・5092・5094・5098（写真図版 22）

6-1 区で検出した、東西方向の溝である。いずれも幅は 1 ｍ、深さ 30 ｍ前後と似通っている。SD5098 は延長 80 ｍ以上続いている。ＳＤ 5098 は平安前期、ＳＤ 5092 は平安後期の灰釉陶器、ＳＤ 5083・5087・5094 からは第４～６型式の山茶碗などが出土した。

これらの溝は、遺跡北縁の条里坪境に近接した位置にあるが、朝見遺跡で確認された坪境溝に比して規模が非常に小さく、坪境溝とするには違和感がある。6-1 区以北は南側に比べ基盤が低くなっていくため、微高地と低地部を画する必要があろう。飛鳥時代のＳＤ 5095 はそうした区画溝であったと推測される。平安前期から中世前期にかけて累代的に掘削されたこの溝群も、ＳＤ 5095 と同じ意図・機能を持つものと考えておきたい。

ＳＤ 5101（写真図版 23） 6-2 区で検出した東西方向の溝で、幅 2.2 ｍ、深さ 60cm を測る。中世Ⅱａ期の土器が出土している。

ＳＤ 5106（写真図版 23） 6-2 区で検出した東西方向の溝で、幅 1.9 ｍ、深さ 70 ｍを測る。溝断面はＶ字状を呈する。古代の土器片が出土している。

ＳＤ 5132（写真図版 18） 5-3-1 区東端にある遺構で、上部の溝と下部の土坑を一連のものと誤認して掘削した。土坑部分から墨書土器「盛法寺」、被熱痕や油煙のある土師器皿など、11 世紀の土器が出土しており、祭祀的な性格も想定される。

ＳＤ 5138（写真図版 15） 5-2 区北側で検出した幅 65cm、深さ 50cm の平面Ｕ字状の溝である。墳墓周溝の可能性も考えられるが、葬送に関連する遺物は得られておらず推測の域を出るものではない。出土遺物は第６型式の山茶碗などがある。

ＳＤ 5148（写真図版 15） 5-2 区で延長 48 ｍにわたってみられた南北条里方向の溝である。幅 1.2 ｍ、深さ 40cm を測る。5-2 区南側で収束する。中世Ⅱａ期の土器や土錘などが出土した。

ＳＤ 5155 5-1-3 区で検出した現耕地の地割に即する溝である。平安後期の土器などが出土している。

ＳＤ 5165（写真図版 16） 5-1 区で検出した比較的規模の大きなＴ字状の溝で、幅 2.2 ｍ、深さ 80cm を測る。主軸は条里方向に概ね合致し、条里坪境溝の可能性もある。獣骨、中世Ⅳａ期の土師器皿、中世の平瓦片などが出土した。

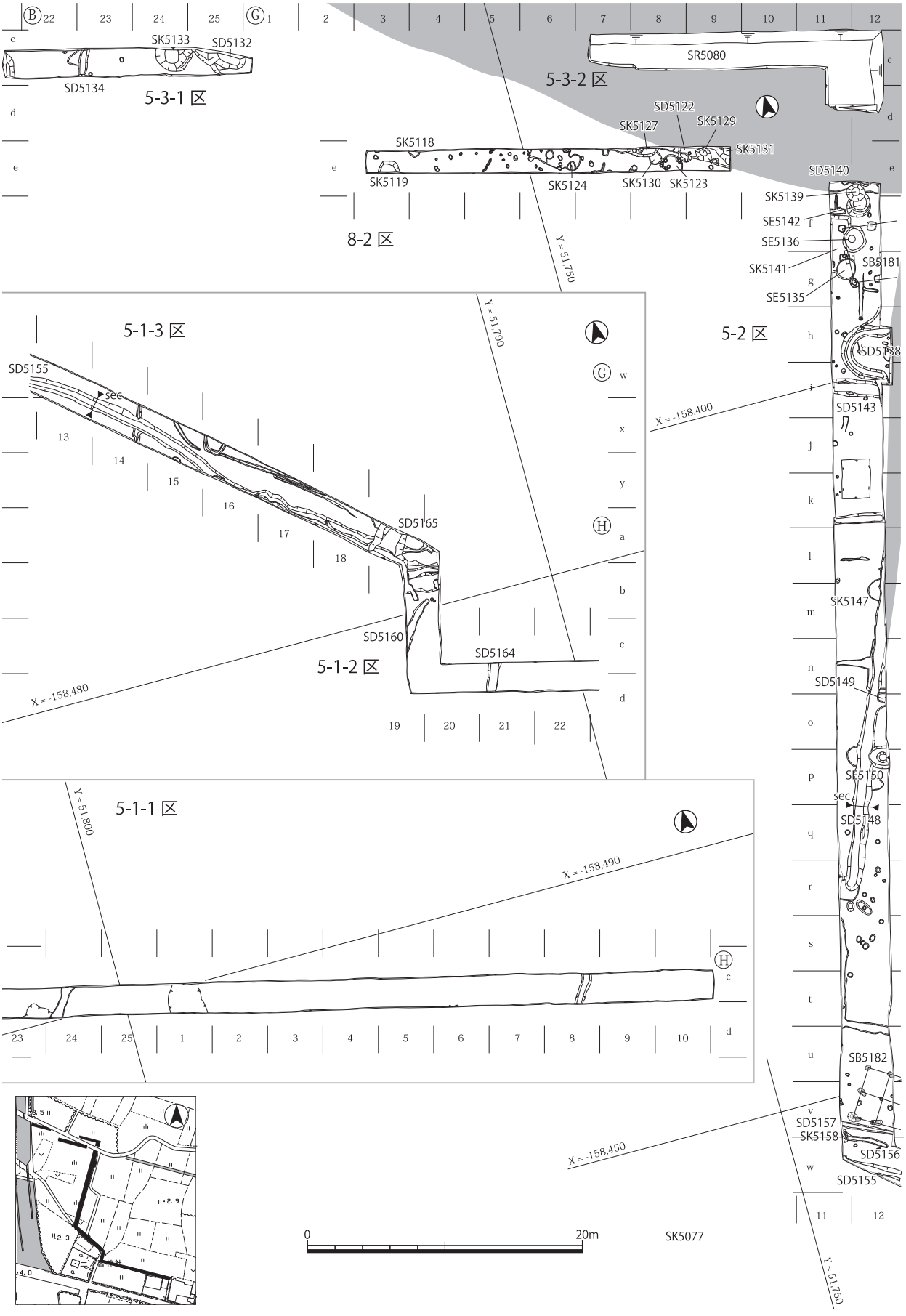
⑤自然流路

ＳＲ 5080（写真図版 18・19） 第２次調査ＳＲ 201 へと続く自然流路で、5-4 区では幅 19 ｍを測る。深さは 1.8 ｍ以上あり、調査区の制約から完掘を断念したところが多い。5-3-2 区は調査区全体が流路内に相当し、6-2 区南端へと続く。また、検出範囲が狭いものの、8-2 区ＳＤ 5122、5-2 区ＳＤ 5140 は、当流路の南岸上層にあたると推測される。

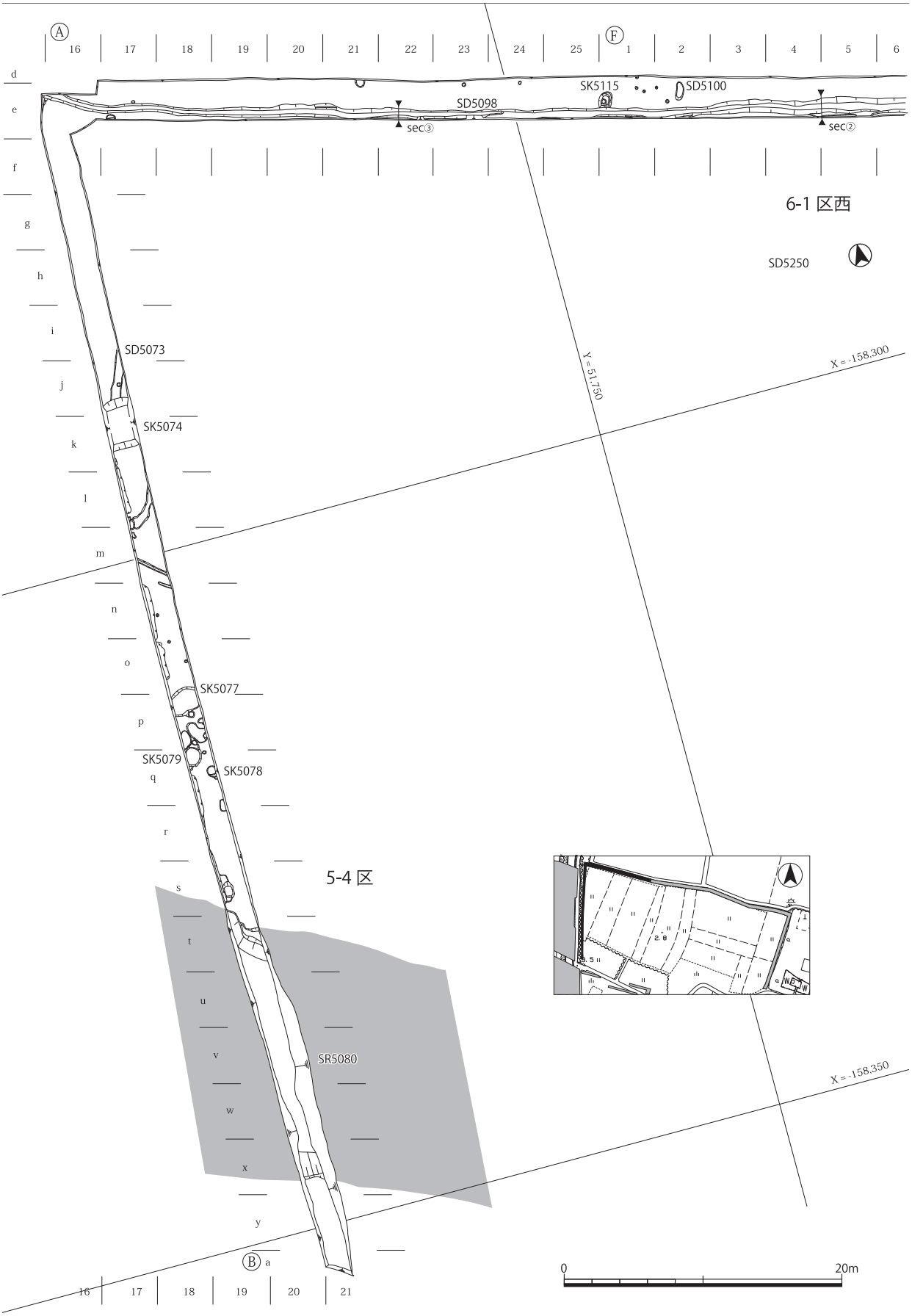
5-3-2 区では、埋土は上・中・下層に大別でき、上層は平安末～鎌倉以降、中層は平安後期、下層は平安前期や奈良時代の遺物を含んでいる。下層は粗砂を中心とする流水堆積で、中層以上はシルトとなる。

下層では流路の走行方向に平行する、東西方向の杭列を確認した（第 24 図、写真図版 18）。杭は先端付近のみ残っており、さらに上層から打ち込まれたもの、つまり平安後期以降の施工によるものと推測される。同様の杭列は 7-9-1 区でも確認されている。

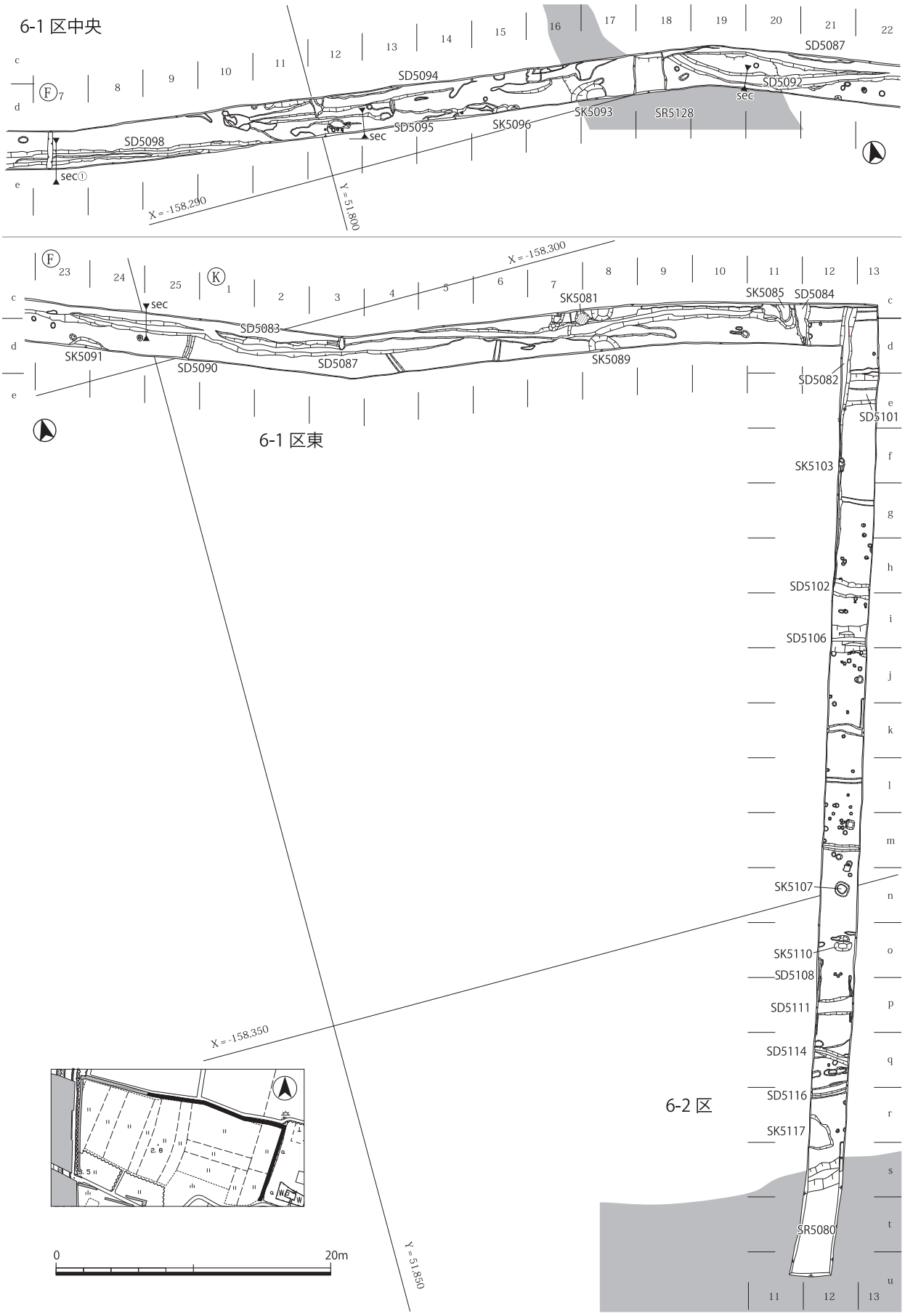
遺物には、平安前期の墨書土器や刻書土器、中世の山茶碗などがあり、層序と遺物の対応をよく知ることができた（第Ⅶ章）。5-4 区では最上層から中世後期の陶器片が出土しており、最終埋没期はこのころと考えられる。こうした所見は、調査地東側（7-8 ～ 7-9 区）におけるＳＲ 5080 の埋没過程ともよく合致している。



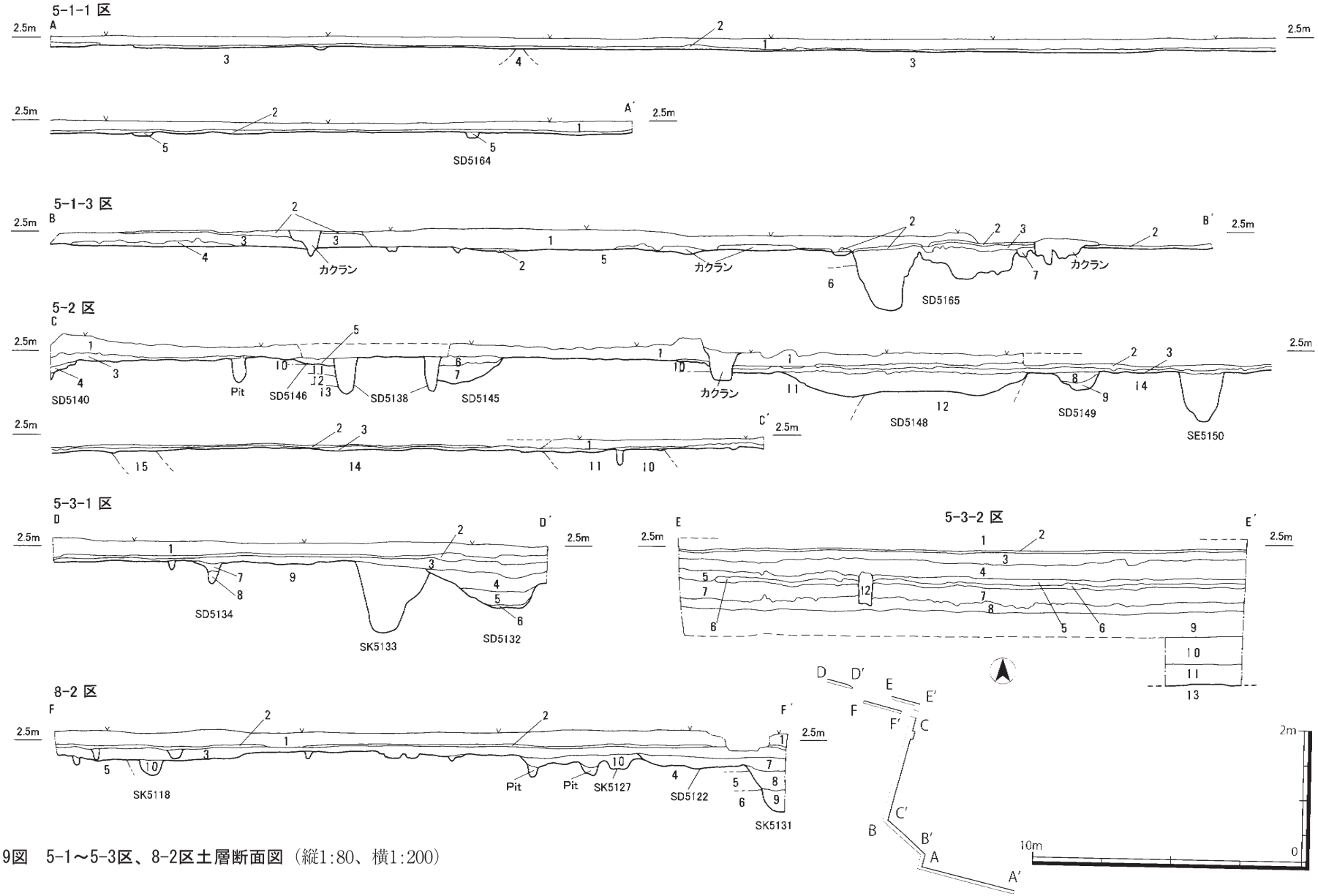
第16図　5-1～5-3区、8-2区南　遺構全体図（1:400）



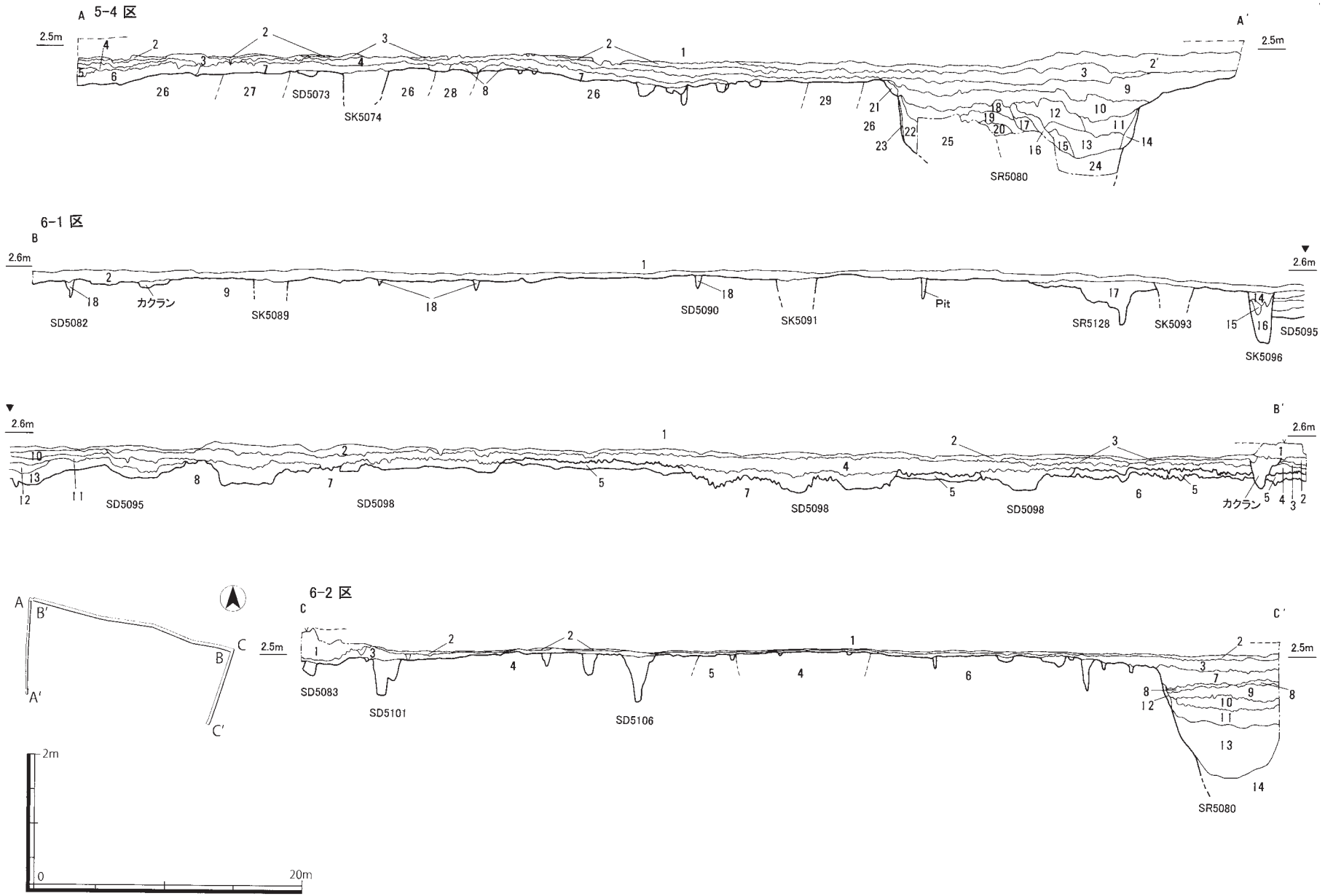
第17図　5-4区、6-1区西　遺構全体図（1:400）



第18図　6-1区東、6-2区　遺構全体図（1:400）



第19図　5-1～5-3区、8-2区土層断面図（縦1:80、横1:200）



第20図　5-4区、６区土層断面図（縦1:80、横1:400）

土層断面図注記（第19図）

5-1-1区　南壁（A－A'）

1．10YR5/1 褐灰色粘質土（耕土）
2．7.5YR6/3 にぶい褐色シルト（床土）
3．10BG4/1 暗青灰色極細砂 ┐基盤層
4．7.5YR4/2 灰褐色細砂 ┘
5．5YR5/1 褐灰色粘質土（SD5164 他埋土）

5-1-3区　北壁（B－B'）

1．10YR6/2 灰黄褐色粘質土（耕土）
2．10YR5/2 灰黄褐色砂質土（床土）
3．10YR6/2 灰黄褐色粘質土
4．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
5．10YR6/6 明黄褐色シルト ┐基盤層
6．2.5Y5/2 暗灰黄色中砂 ┘
7．10YR4/4 褐色砂質シルト（SD5162）

5-2区 東壁（C－C'）

1．2.5Y4/1 黄灰色粘質土（耕土）
2．2.5Y5/1 黄灰色シルト（床土）
3．2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土（Mn 多い）
4．10YR4/1 褐灰色シルト（SD5140）
5．10YR5/2 灰黄褐色シルト（Mn 多い、SD5146）
6．10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト（Mn 多い） ┐SD5145
7．10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト ┘
8．7.5YR4/1 褐灰色砂質土（2 ㎝大礫多い） ┐SD5149
9．10YR4/1 褐灰色シルト ┘
10．2.5Y7/6 明黄褐色シルト ┐
11．7.5YR4/1 褐灰色砂質シルト
12．2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト
13．2.5GY6/1 オリーブ灰色シルト ┐基盤層
14．10YR4/1 褐灰色砂礫
15．7.5YR6/3 にぶい褐色中砂 ┘

5-3-1区　北壁（D－D'）

1．2.5Y4/1 黄灰色粘質土（耕土）
2．10YR6/6 明黄褐色砂質土（床土）
3．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土（2cm 大礫多い）
4．10YR4/1 褐灰色砂質土 ┐
5．2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト（1cm 大礫混じる） ┐SD5132
6．10YR3/1 黒褐色シルト（木片など有機物集積） ┘
7．10YR4/1 褐灰色砂質土（2cm 大礫混じる） ┐SD5134
8．10YR4/2 灰黄褐色砂質土（2cm 大礫混じる） ┘
9．10YR5/2 灰黄褐色砂礫（基盤層）
10．N6/0 灰色粗砂と 10YR5/1 褐灰色粘土質シルトの互層

5-3-2区　北壁（E－E'）

1．2.5Y3/1 黒褐色粘質土（耕土）
2．10YR6/6 明黄褐色シルト（床土）
3．2.5Y5/2 暗灰黄色シルト（Mn 多い）
4．2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト ┐
5．10YR5/1 褐灰色砂質シルト ┐SR5080 上層
6．5Y6/1 灰色シルト（Fe 集積） ┘
7．2.5Y5/1 黄灰色シルト（斑鉄みられる） ┐SR5080 中層
8．5B6/1 青灰色粘土質シルト（植物遺体まばらに含む） ┘
9．10YR5/1 褐灰色粘土質シルト（植物遺体をまばらに含む、締まりなし、平安期遺物多い） ┐SR5080 下層
10．N6/0 灰色粗砂と 10YR5/1 褐灰色粘土質シルトの互層 ┘
11．N6/0 灰色粘土質シルト（締まりなし）
12．N5/0 灰色粗砂（中世の溝か）
13．N6/0 灰色粗砂（湧水層）

8-2区　北壁（F－F'）

1．2.5Y4/1 黄灰色粘質土（耕土）
2．10YR5/2 灰黄褐色シルト（床土、Mn 多い）
3．10YR5/2 灰黄褐色シルト
4．2.5Y6/3 にぶい黄色シルト ┐
5．10YR3/1 黒褐色シルト（5 ㎜大礫多い） ┐基盤層
6．10Y6/2 オリーブ灰色シルト ┘
7．10YR4/1 褐灰色シルト（Mn 多い、SD5122）
8．10YR4/1 褐灰色シルト（土器多い） ┐SD5131
9．N4/0 灰色粘土質シルト ┘
10．10YR4/1 褐灰色シルト（SD5127・SK5118・Pit）

土層断面図注記（第20図）

5-4区　東壁（A－A'）

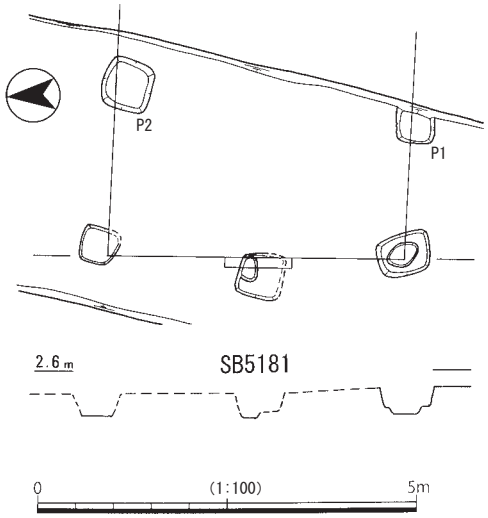
1．2.5Y4/1 黄灰色粘質土（耕土）
2．2.5Y6/3 にぶい黄色シルト（床土１）
2'．10YR4/2 灰黄褐色砂質土（床土２）
3．2.5Y6/1 黄灰色シルト（Fe・Mn まばらに含む）
4．2.5Y6/2 灰黄色シルト
5．10YR6/1 褐灰色シルト
6．10YR4/1 褐灰色シルト
7．2.5Y5/2 暗灰黄色シルト
8．10YR5/2 灰黄褐色細砂
9．10YR6/2 灰黄褐色シルト（Fe 集積） ┐
10．2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト
11．2.5Y6/2 灰黄色粗砂
（青灰色シルトブロック混）
12．5B7/1 明青灰色シルト
13．5PB6/1 青灰色シルト
14．10YR4/1 褐灰色粘砂
15．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト
16．2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト
17．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト
18．7.5Y6/1 灰色砂質シルト
19．7.5Y6/1 灰色シルト質砂
20．10YR4/1 褐灰色極細砂
（植物遺体多い）
21．7.5YR4/1 褐灰色シルト
22．2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
23．2.5Y5/1 黄灰色シルト
24．5Y5/1 灰色砂質シルト
（植物遺体多い）
25．5B6/1 青灰色極細砂 ┘SR5080
26．5Y6/3 オリーブ黄色砂質シルト ┐
27．5Y5/1 灰色極細砂
28．10YR5/1 褐灰色細砂
29．10YR3/1 黒褐色シルト ┘基盤層

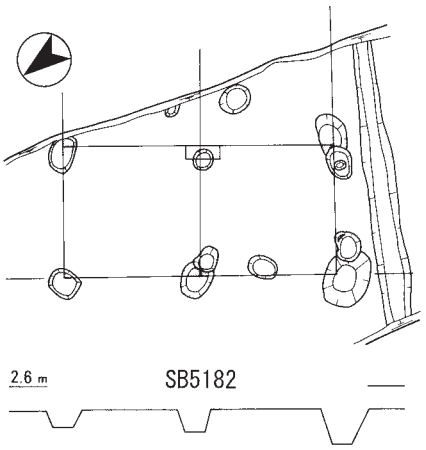
6-1区　南壁（B－B'）

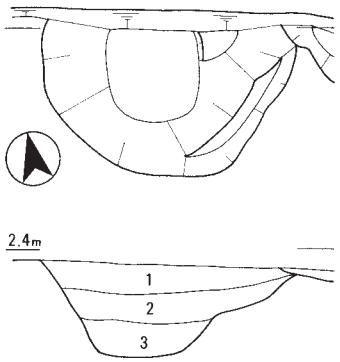
1．2.5Y4/1 黄灰色粘質土（耕土）
2．10YR6/1 褐灰色シルト（床土）
3．10YR5/1 褐灰色シルト
4．10YR5/2 灰黄褐色シルト（中世遺物含む）
5．7.5YR3/1 黒褐色シルト ┐
6．7.5Y6/3 オリーブ黄色砂質シルト
7．10YR4/1 褐灰色シルト～細砂
8．5Y6/3 オリーブ黄色砂質シルト
9．5Y6/1 灰色シルト（Fe 多い） ┘基盤層
10．7.5Y4/1 灰色中砂 ┐
11．2.5Y4/1 黄灰色中砂
12．N4/0 灰色細砂（Fe 多い）
13．N4/0 灰色細砂
（灰色シルトブロック混） ┘SD5095
14．2.5Y5/1 黄灰色シルト ┐
（黄灰色シルトブロック混）
15．2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト
（黄灰色シルトブロック多い）
16．2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト
（黄灰色・暗灰色シルト
ブロック多い） ┘SK5096
17．10YR4/1 褐灰色粗砂
（灰色シルトブロック混、SR5128）
18．7.5Y6/1 灰色砂質シルト（SD5082 他）

6-2区　西壁（C－C'）

1．2.5Y4/1 黄灰色粘質土（耕土）
2．5Y7/6 黄色シルト（床土）
3．2.5Y6/4 にぶい黄色シルト
4．5Y6/3 オリーブ黄色シルト ┐
5．5Y6/1 灰色極細砂 ┐基盤層
6．7.5YR5/1 褐灰色粘土質シルト ┘
（腐植強い）
7．7.5YR5/1 褐灰色シルト
（Mn まばらに含む）
8．7.5YR5/4 にぶい褐色シルト（Fe 集積）
9．5PB5/1 青灰色シルト（締まり弱い）
10．5PB5/1 青灰色砂質シルト
11．N4/0 灰色粘土質シルト（締まりなし） ┐SR5080
12．2.5Y7/4 浅黄色シルト
（褐色シルトブロック混）
13．2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト
（植物遺体多い）
14．N5/0 灰色粗砂と暗灰色シルトの互層 ┘

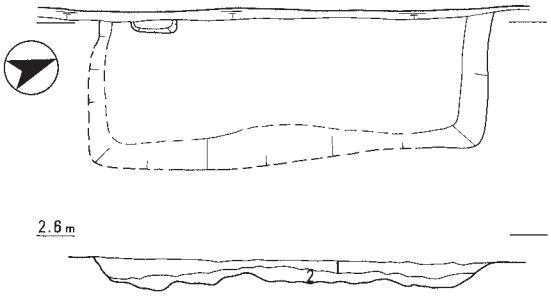






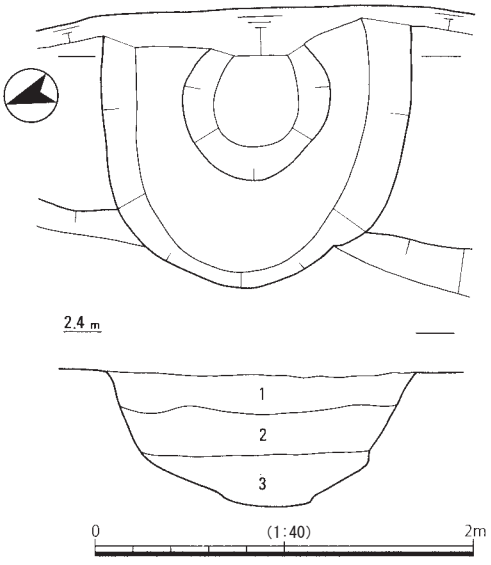
SK5133

1．10YR4/1 褐灰色粘質土
（2～5cm 大礫多い）
2．2.5Y4/1 黄灰色砂質土
（5cm 大礫まばらに含む）
3．5Y4/1 灰色粗砂



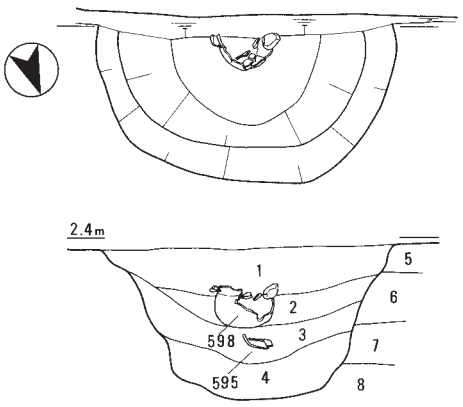
SK5141

1．2.5Y5/1 黄灰色砂質土
2．2.5Y5/1 黄灰色砂質土（黄褐色・褐灰色シルトブロック多く混じる）



SE5150

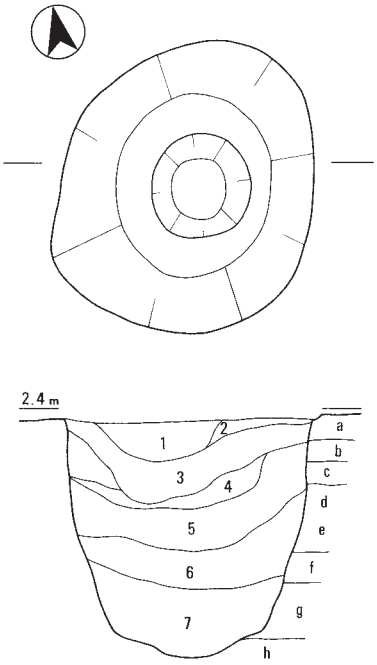
1．7.5Y5/2 灰褐色砂質土
2．10YR4/1 褐灰色シルト（2～5cm 大礫まばらに含む）
3．7.5Y4/2 灰褐色粘砂



SK5119

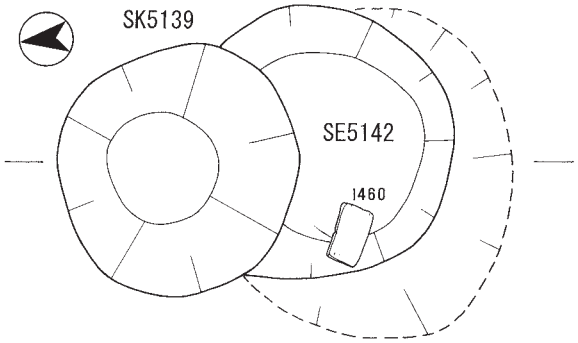
1．7.5YR4/1 褐灰色砂質土（1cm大礫、Mn 多）
2．7.5YR3/1 黒褐色砂質土
3．N3/0 暗灰色砂質シルト
4．N3/0 暗灰色粘砂
5．7.5YR6/1 褐灰色シルト
6．10YR3/1 黒褐色シルト（5mm大礫多い）　} 基盤層
7．N3/0 暗灰色粘砂
8．10Y6/2 オリーブ灰色極細砂

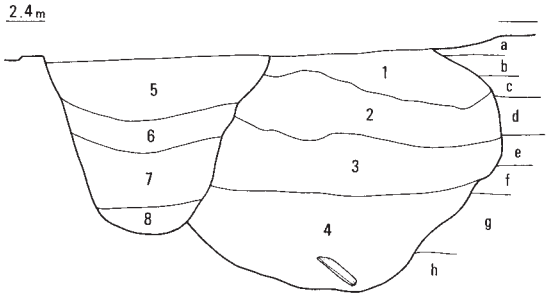
第21図　５・６区　掘立柱建物（1:100）**・井戸・土坑**（1:40、ＳＫ5133・5141のみ1:80）



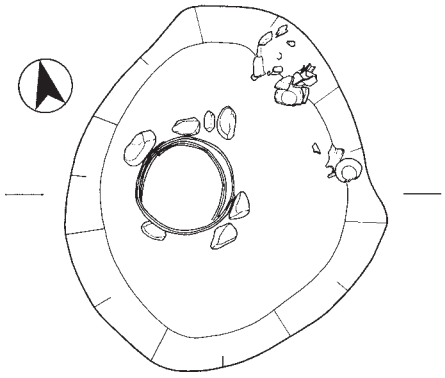
SE5135

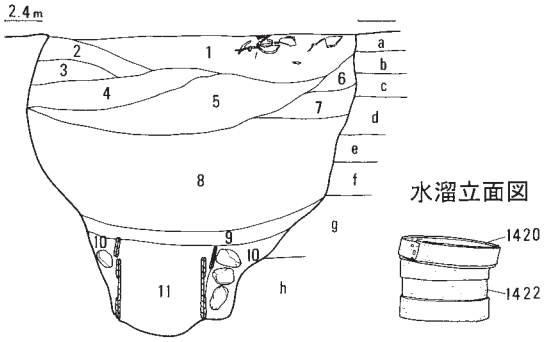
1．10YR5/2 灰黄褐色粘質土（Mn 多）
2．2.5Y7/6 明黄褐色シルト（暗褐色砂質シルトブロック混）
3．10YR4/1 褐灰色粘質土
4．N5/0 灰色粘土質シルト
5．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土（暗褐色・灰色シルトブロック混）
6．N5/0 灰色粘砂（暗褐色・灰色シルトブロック混）
7．N5/0 灰色粘砂
※基盤層は SE5136 と共通





第22図　５・６区　井戸（1:40）





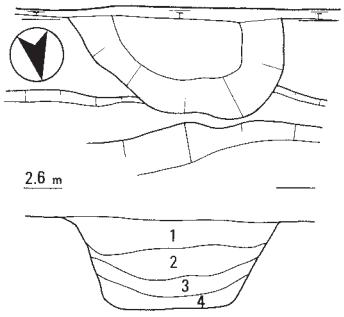
水溜立面図

SE5136

1．5Y6/1 灰色極細砂（黄褐色シルトブロック混）
2．10YR5/2 灰黄褐色粘質土
3．1と同じ
4．5Y6/1 灰色極細砂（灰褐色シルトブロック混）
5．10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土（炭・焼土混）
6．10YR5/2 灰黄褐色粘質土
7．2.5Y5/1 黄灰色粘質土
8．10YR4/1 褐灰色粘土質シルト（土器多量）
9．5GY6/1 オリーブ灰色粘土質シルト
10．10YR5/1 褐灰色粘砂（曲物内埋土）
11．5GY6/1 オリーブ灰色粘砂（裏込め土）
a．2.5Y7/6 明黄褐色シルト
b．7.5YR4/2 灰褐色シルト
c．2.5Y7/6 明黄褐色シルト
d．10YR6/1 褐灰色砂質シルト
e．2.5Y6/1 オリーブ灰色細砂
f．5Y7/3 浅黄色粘土質シルト
g．5Y5/1 灰色粗砂
h．5Y6/2 灰オリーブ色砂礫（湧水層）
} 基盤層（SE5135・5142 と共通）

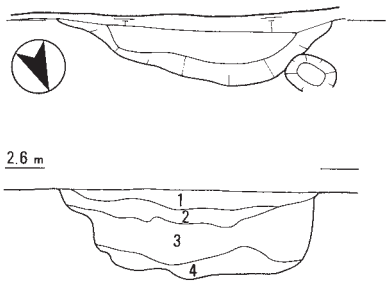
SK5139・SE5142

1．2.5Y4/1 黄灰色細砂（黄褐色シルトブロック混）
2．5Y5/1 灰色粘質土
3．5Y5/1 灰色粘砂
4．10GY 緑灰色粘土質シルト（暗灰色粘土質シルトブロック混）
5．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土（黄褐色シルトブロック混）
6．10Y5/2 オリーブ灰色粘砂（黄褐色・灰褐色シルトブロック混）
7．5Y5/1 黄灰色粘砂
8．N3/0 暗灰色粘土質シルト
※基盤層は SE5136 と共通



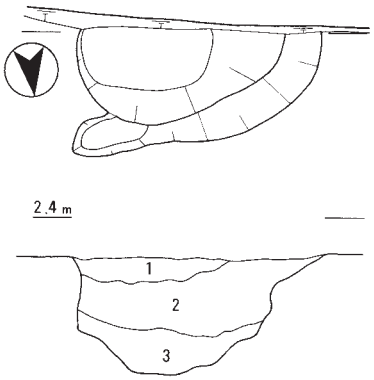
SK5089

1．10YR5/2 灰黄褐色粘質土
2．10YR5/1 褐灰色粘質土
3．10YR6/1 褐灰色粘土質シルト
4．2.5Y4/1 黄灰色シルト



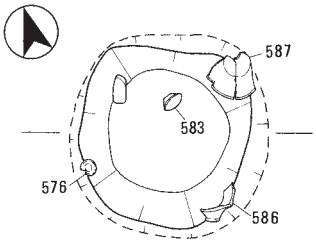
SK5091

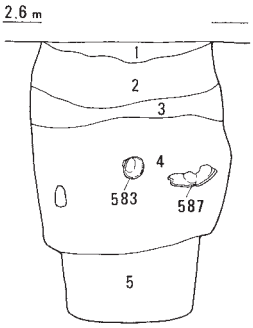
1．5Y6/4 オリーブ黄色砂質土
2．5Y6/4 オリーブ黄色砂質土
（黄褐色シルトブロック混）
3．5Y6/4 オリーブ黄色砂質土
（暗灰色シルトブロック混）
4．5Y5/2 灰オリーブ色極細砂



SK5093

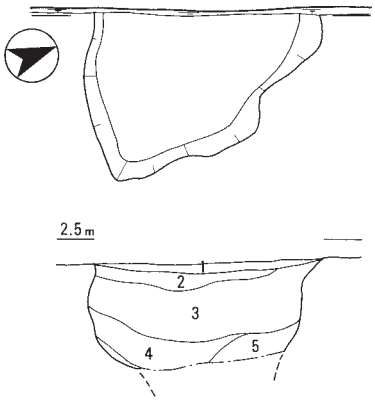
1．5Y5/2 灰オリーブ色砂質土
2．5Y5/2 灰オリーブ色砂質土
（灰色・黄灰色シルトブロック混）
3．5Y5/2 灰オリーブ色粘砂





SK5107

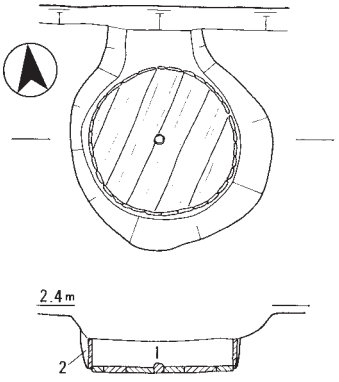
1．10YR6/2 灰黄褐色シルト
2．10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト
3．10YR4/1 褐灰色砂質シルト
4．N5/0 灰色シルト（灰色極細砂混）
5．5B4/1 暗青灰色シルト



SK5117

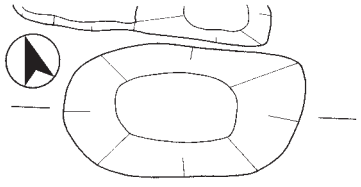
1．10YR5/2 灰黄褐色シルト
（土器まばらに含む）
2．10YR5/2 灰黄褐色シルト
（黄褐色・暗褐色シルトブロック混）
3．N4/0 灰色粘土質シルト
（オリーブ灰色粘土、灰色粗砂混）
4．N5/0 灰色粘砂
5．10YR5/1 褐灰色粗砂

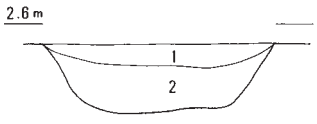
0 (1:80) 2m



SK5081

1．N5/0 灰色細砂（結桶埋土）
2．10YR6/1 褐灰色粘土質シルト（裏込め土）





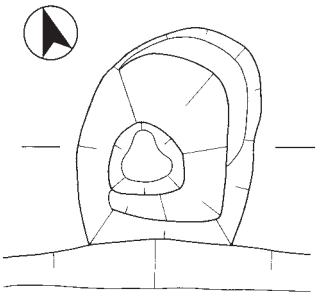
SK5110

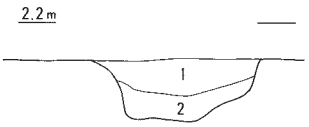
1．10YR5/2 灰黄褐色シルト
2．10YR5/1 褐灰色粘土質シルト

SK5115

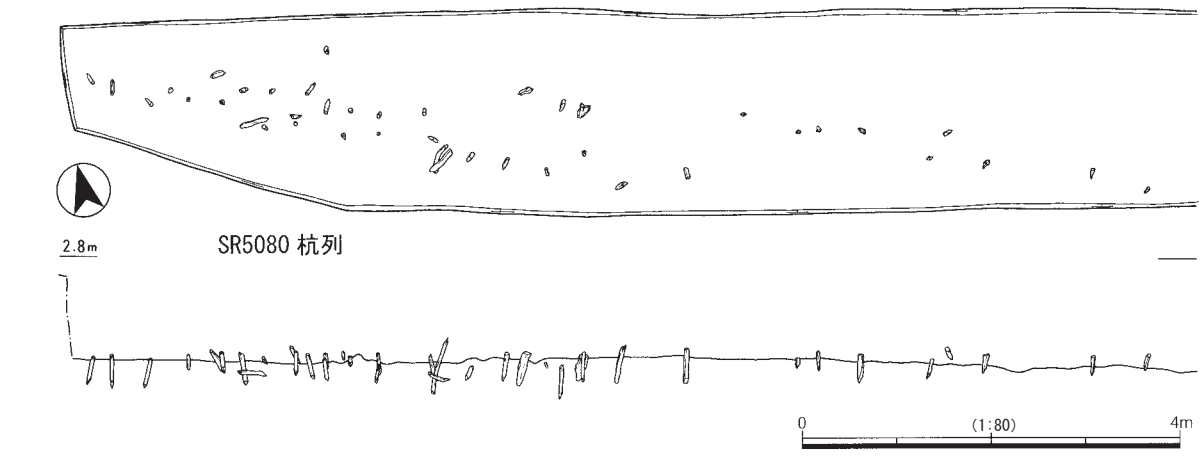
1．10YR4/1 褐灰色粘土質シルト
2．10YR3/1 黒褐色粘土質シルト

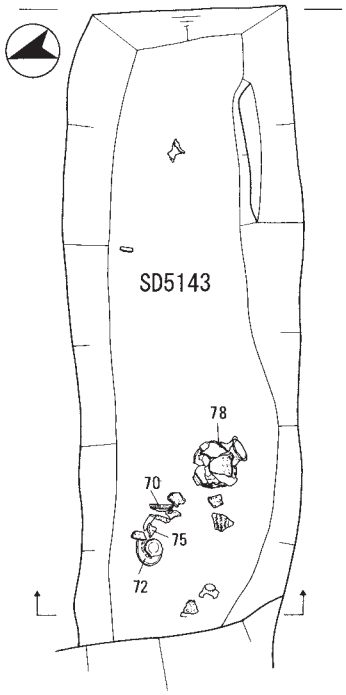
0 (1:40) 1m





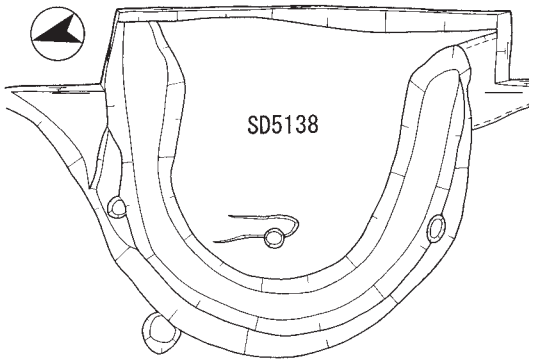
第23図　５・６区　土坑（1:40、ＳＫ5089・5091・5093・5117は1:80）





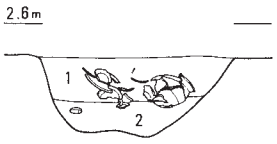
SD5138

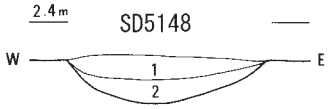
1．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
（1cm未満の礫まばらに含む）
2．10YR5/2 灰黄褐色シルト
（黄褐色シルトブロック混）
3．10YR5/1 褐灰色シルト



SD5143

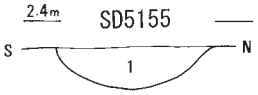
1．10YR4/1 褐灰色粘質土（Mn 多）
2．10YR4/1 褐灰色シルト
（黄褐色シルトブロック混）





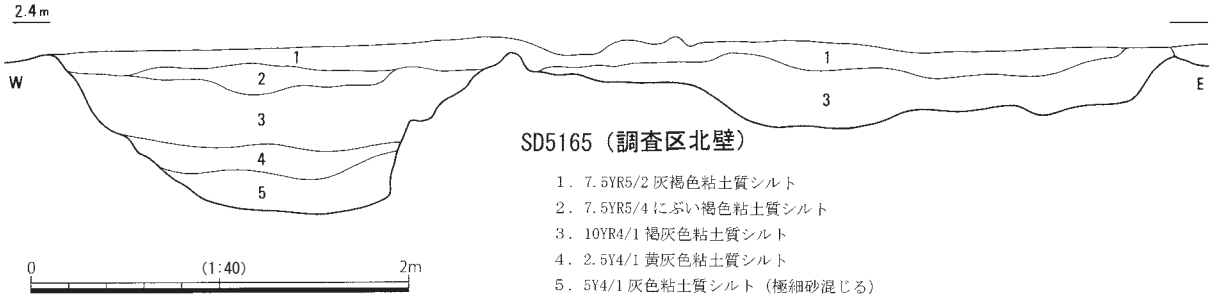
SD5148

1．10YR5/2 灰黄褐色砂質土（2～5cm 大礫多い）
2．10YR4/1 褐灰色シルト（2～5cm 大礫多い）



SD5155

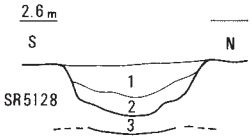
1．10YR5/1 褐灰色シルト
（Mn まばらに含む）



SD5165（調査区北壁）

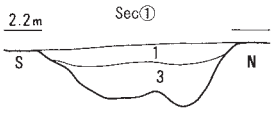
1．7.5YR5/2 灰褐色粘土質シルト
2．7.5YR5/4 にぶい褐色粘土質シルト
3．10YR4/1 褐灰色粘土質シルト
4．2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト
5．5Y4/1 灰色粘土質シルト（極細砂混じる）

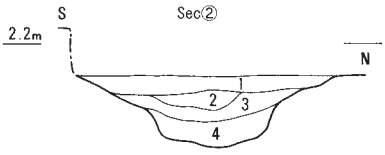
第24図　５・６区　溝・自然流路（1:40、ＳＲ5080・ＳＤ5138は1:80）

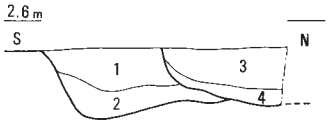


SD5092

1．10YR6/2 灰黄褐色シルト
2．10YR5/1 褐灰色砂質シルト
3．10YR4/1 褐灰色粗砂（SR5128 埋土）

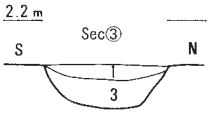


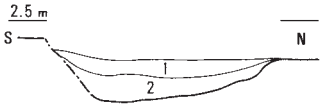




SD5087・5083

1．10YR5/1 褐灰色砂質シルト
2．10YR4/1 褐灰色シルト質砂
3．10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト
4．10YR5/1 褐灰色シルト



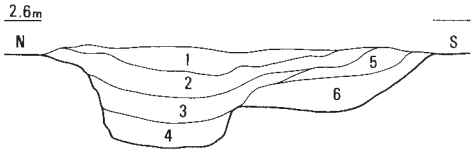


SD5095

1．10YR5/1 褐灰色シルト
2．10YR4/1 褐灰色粗砂混シルト

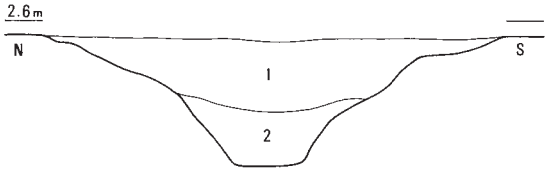
SD5098

1．10YR5/2 灰黄褐色シルト
2．10YR4/1 褐灰色細砂
3．10YR5/1 褐灰色シルト
4．10YR4/1 褐灰色シルト



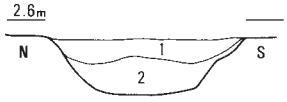
SD5101（調査区東壁）

1．10YR5/2 灰黄褐色シルト
2．10YR5/1 褐灰色シルト
3．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト（Fe 多い）
4．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト（締まり弱い、植物遺体含む）
5．2.5Y6/2 灰黄色シルト（暗褐色・灰色シルトブロック混）
6．10YR5/1 褐灰色シルト（Fe 多い）



SD5106（調査区東壁）

1．10YR4/2 灰黄褐色シルト（Fe・Mn 多い）
2．10YR5/1 褐灰色シルト（Fe 多い）



SD5102（調査区東壁）

1．10YR5/3 にぶい黄褐色シルト（灰色極細砂混）
2．10YR4/2 灰黄褐色シルト（暗褐色シルトブロック混）

第25図　５・６区　溝断面図（1:40）

5．調査地中央（朝田寺南側）

朝田寺南側の４区、6-3区、7-1区、8-1区が該当する（第26・27図）。

当地の基盤層は、５区からみられた黄褐色系シルトである（第28図）。湧水層は凹凸が顕著で、井戸も極端に深いものと浅いものがある。

6-3区、7-1区、8-1区では遺構密度はさほど高くないが、平安前期の大型建物（ＳＢ5177）、平安後～末期の井戸・土坑、中世前期の大溝など重要な遺構がある。大型建物柱穴の残存度から、一帯は大きく削平を受けているとみられ、小規模なピット等は消失した可能性が高い。条里方向の溝はいずれも中世Ⅱ期以降である。朝田寺に直接関連する遺構・遺物はここでも確認できない。

４区では遺構はまったく認められなかった。下層には谷状の落ち込みが認められるなど、比較的低湿な環境にあったと考えられる。

（１）掘立柱建物（第29図）

ＳＢ5177（写真図版25） 6-3～7-1区で検出した桁行５間、梁行２間以上の側柱建物で、堀町遺跡で最大級の建物となる。東側は中世の溝ＳＤ5172に切られている。削平のため柱穴は非常に浅い。また、南側柱は痕跡的にしか確認できなかった。

柱穴掘形は一辺約80ｍの方形で、柱痕は径約30cmの円形である。柱穴から須恵器杯や土師器皿の小片が出土しており、９世紀前半の建物とみられる。

ＳＢ5211 8-1区西端で検出した２×３間以上の中世総柱建物で、柱穴には根石が認められる。

（２）井戸（第30～32図）

ＳＥ5187（写真図版26・27） 8-1区中央で検出した一辺約2.1ｍ、深さ2.3ｍの方形井戸で、南側をＳＫ5210に切られる。検出面から1.9ｍで湧水層に達する。井戸枠は縦板・横板組横桟止めで、非常に残りがよい（巻頭図版４）。横桟を横板に咬ませ、横桟に縦板を立て土圧で止めている。材には閾など多くの建築部材が含まれており、これらを半裁して対向配置し、井戸枠の不陸を防いでいる（第Ⅶ章で詳述）。

下部の水溜めには曲物を２段積み上げる。上段は径約60cmの大型品、下段は径約40cmの中型品である。

水溜内から釣瓶に用いたであろう小型曲物、上層～井戸枠内から山茶碗第６型式を中心とする中世Ⅱ期の土器、種実などが出土した。また上層から白磁水注の注口片が出土しており、注目される。

ＳＥ5194・5195（写真図版29） ＳＥ5195は8-1区西側で検出した一辺約1.3ｍ、深さ1.35ｍの隅丸方形の井戸で、廃絶後、ＳＥ5194が掘り直されている。検出面から80cmで湧水層に達する。井戸枠は幅10cmほどの薄板を用いた縦板組であるが、大半が崩壊し、上層に井戸枠や曲物の残骸が廃棄されていた。

水溜は曲物を２段積み上げる。上段は上部が崩壊しているが、下段は良好に残存していた。

遺物はＳＥ5194・5195とも第６型式の山茶碗などがみられる。記号を墨書するものは、上層・下層からそれぞれ出土した。

ＳＥ5198（写真図版29） 8-1区西側で検出した径約1.6ｍ、深さ1.2ｍの円形井戸で、井戸枠は抜き取られている。あるいは曲物積み上げの井戸かもしれない。検出面から85cmで湧水層に達する。曲物は２段積み上げられていた（腐食のため崩壊）。埋土から中世Ⅱａ期の土器片等が出土している。

ＳＥ5201（写真図版28） 8-1区西側で検出した径約2.7ｍ、深さ2.0ｍの円形井戸である。検出面から1.8ｍで湧水層に達する。井戸枠はＳＥ5187と同じく縦板・横板組横桟止めで、材には多くの建築部材が含まれている。総じて材の残りはよい。

水溜は曲物を３段積み上げる。上段は径52cm、高さ35cmの大型品である。下２段は高さ10～15cmであるが、同一個体が上下に割れたものかもしれない。

井戸枠の最上部には、あたかも井戸を閉塞するように完形の土師質土器椀(481)が伏せ置かれていた。掘形から上層まで、平安後期の土器が出土している。

（３）土坑（第29・32・33図）

ＳＫ5167（写真図版29） 7-1区中央で検出した径約1.5ｍ、深さ1.1ｍの土坑で、４層に加工痕がなく樹皮の残る丸木が投棄されていた。原材貯蔵穴であろうか。上層から中世Ⅱｂ期の土器が出土している。

ＳＫ5168（写真図版29） 7-1区中央で検出した径約2.0ｍ、深さ1.3ｍの円形土坑で、底は湧水層に達していない。中世Ⅱｂ期の土器が出土している。

ＳＫ5193・5196（写真図版29） 8-1区、ＳＥ5195の付近で検出した径約1.7ｍ、深さ1.2ｍの円形土

坑である。ＳＫ5193が新しく、いずれも底面は湧水層に達しない。両遺構とも中世Ⅱ期の土師器等が出土している。また、ＳＫ5196上層から、底部穿孔した完形の土師器鍋（658）が出土した。

ＳＫ5189　8-1区中央で検出した径約1.3ｍ、深さ1.2ｍの円形土坑である。底面は湧水層に達しない。中世Ⅱ期の土師器等が出土している。

ＳＫ5197（写真図版29）　8-1区、ＳＥ5198に隣接する円形土坑である。径約1.7ｍ、深さ1.3ｍを測り、湧水層には達しない。埋没時は西側から土が流入している。中世Ⅱ期の土師器等が出土した。

ＳＫ5202（写真図版29）　8-1区西側で検出した隅丸方形の浅い土坑である。長約2.1ｍ、深さ30㎝を測る。主に上層から、油煙が付いた平安前期の杯、甕などが出土した。

ＳＫ5207　8-1区西側で検出した径約1.7ｍ、深さ1.4ｍの円形土坑である。底面が段状に掘り込まれており、曲物等が据えられていた可能性もある。主に上層から中世Ⅱ期の土器等が出土した。

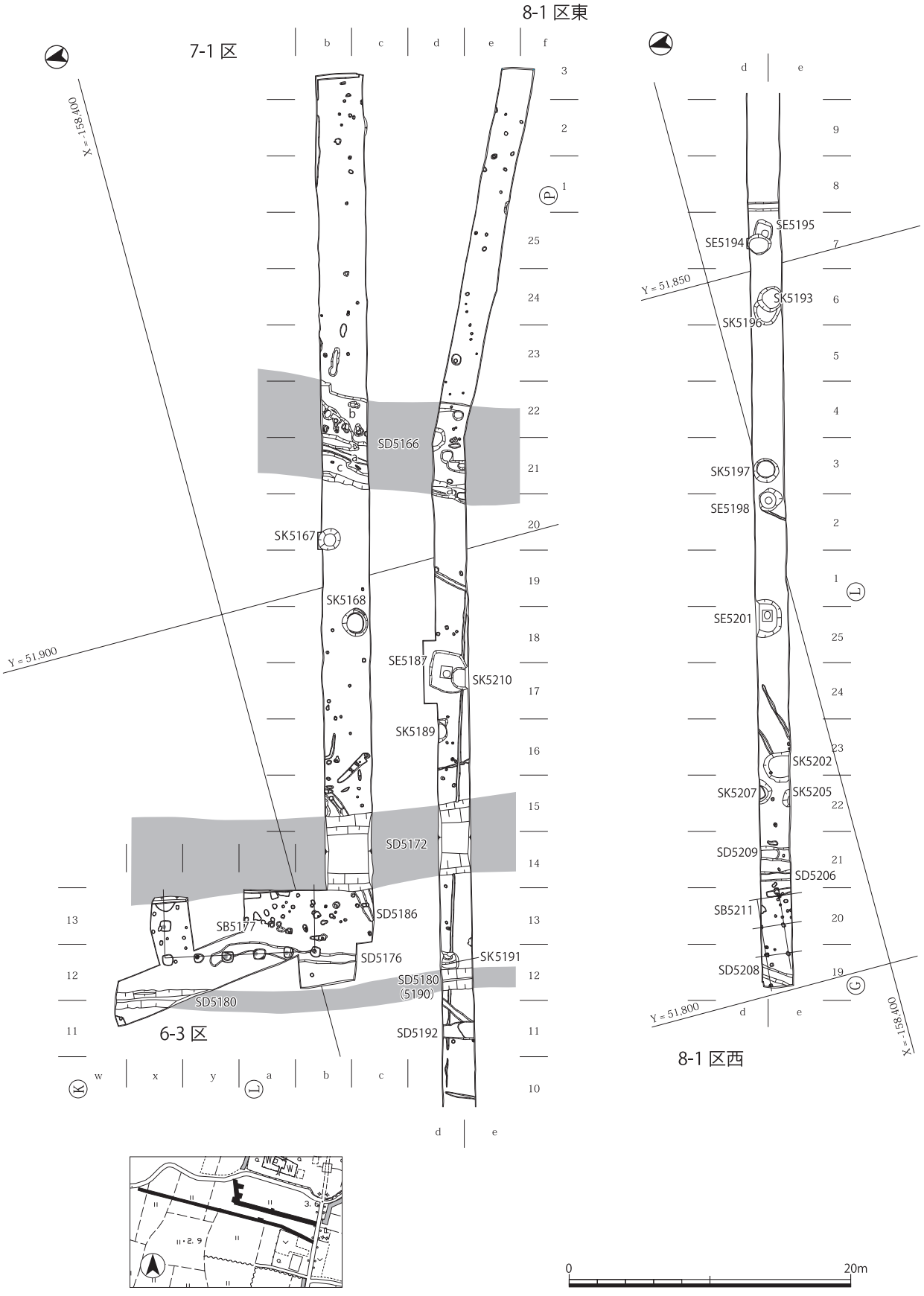
（4）溝（第27・28図）

ＳＤ5166（写真図版30）　7-1区・8-1区を南北方向に走る浅い溝で、幅6.2ｍ、深さ40cmを測る。形状は道路遺構にも似るが、複数の溝（ａ～ｃ）が重複したものであり（第27図）、溝の底面にある凹凸面も流水によって抉られたものと考える。溝の中央～西側には幅40cmほどの小溝（ＳＤ5166ａ）がある。埋土は粗砂を多く含むシルトで、各溝から平安後～末期の灰釉陶器や山茶碗、土師器が出土した。

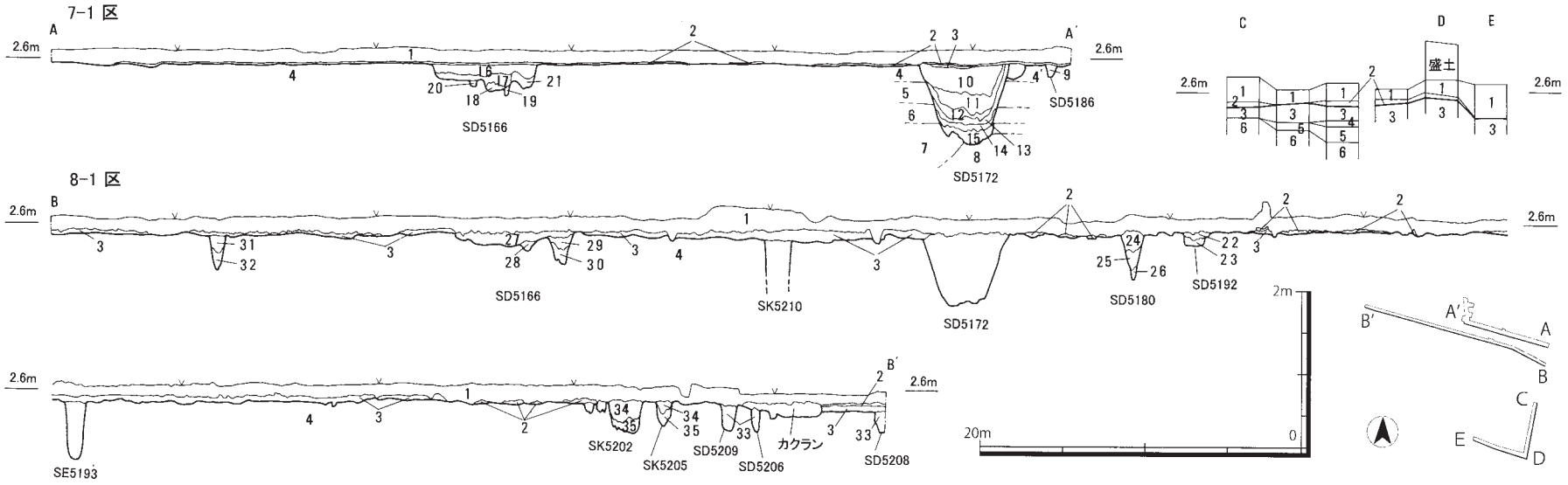
ＳＤ5172（写真図版30）　7-1区・8-1区を南北方向に走る大溝で、条里坪境溝の可能性がある。幅5.4ｍ、深さ1.0ｍを測る。調査区の北でＳＲ5080と合流するとみられる。埋土は下層が粘土質シルト、上層はブロック土を多く含むシルトである。出土遺物は少ないが、中世Ⅱ期の土師器や山茶碗などがある。朝田寺に程近いが、瓦は得られていない。

ＳＤ5180・5190　ＳＤ5172に平行する断面Ｖ字状の溝で、幅1.2ｍ、深さ40cmを測る。山茶碗や13世紀代の常滑壺などが出土している。

第26図　４区　遺構全体図（1:400）



第27図　6-3区、7-1区、8-1区　遺構全体図（1:400）



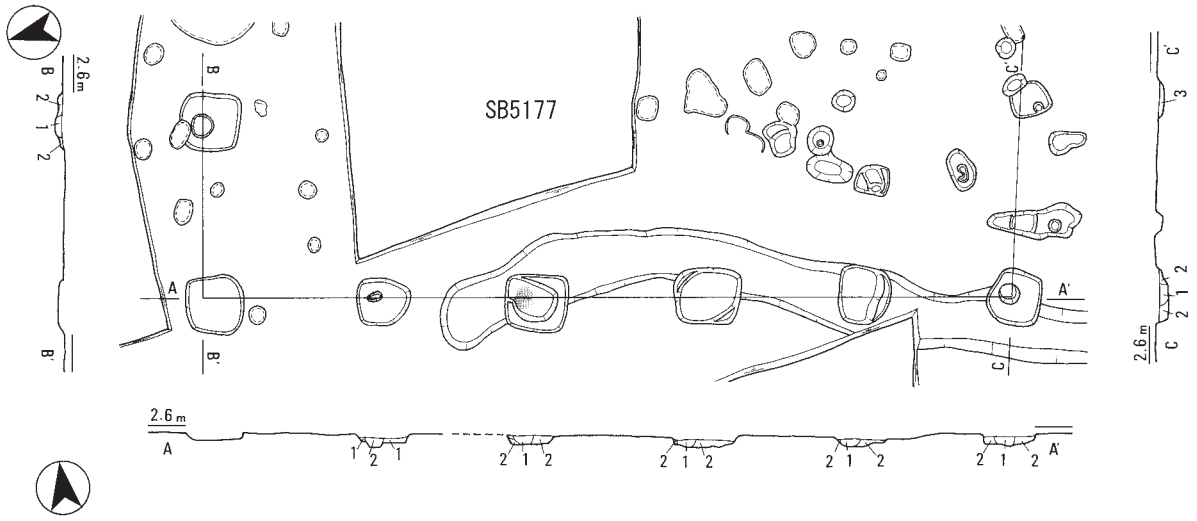
第28図　7-1区、8-1区土層断面図（縦1:80、横1:400）

7-1区　南壁（A－A'）、8-1区　南壁（B－B'）

1．10YR4/1 褐灰色粘質土（耕土）
2．10YR4/6 褐色シルト（床土１）
3．10YR5/1 褐灰色シルト（床土２）
4．10YR6/4 にぶい黄橙色シルト
4'．7.5YR4/1 褐灰色砂質シルト（腐植強い）
5．2.5Y6/2 灰黄色シルト
6．2.5GY6/1 オリーブ灰色粘土質シルト
7．5B5/1 青灰色極細砂
8．5PB3/1 暗青灰色粘土質シルト
　} 基盤層
9．10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト（SD5186）
10．10YR5/2 灰黄褐色粘質土（にぶい黄橙色シルトブロック混）
11．10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト（にぶい黄橙色シルトブロック混）
12．N5/0 灰色砂質シルト
13．10YR5/1 褐灰色粘土質シルト
14．5PB4/1 暗青灰色粘土質シルト
15．5B5/1 青灰色粘土質シルト（青灰色極細砂・オリーブ灰色シルトブロック混）
　} SD5172
16．10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト（Mn 多い）
17．10YR6/1 褐灰色粘土質シルト
18．10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト
19．10YR5/1 褐灰色粘土質シルト
20．10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト
21．10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト（粗砂多い）
　} SD5166 ①
22．10YR5/1 褐灰色シルト（Mn 多い）
23．10YR5/1 褐灰色シルト
　} SD5192
24．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
25．10YR5/1 褐灰色シルト
26．N4/0 灰色粘土質シルト
　} SD5190
27．2.5Y6/2 灰黄色シルト
28．2.5Y6/2 灰黄色シルト（黄褐色シルトブロック混）
29．2.5Y6/1 黄灰色シルト
30．N5/0 灰色シルト
　} SD5166 ②
31．5Y5/2 灰オリーブ色シルト（黄褐色シルトブロック混）
32．2.5Y5/2 暗灰黄色シルト
33．10YR4/1 褐灰色シルト（SD5206・5208・5209）
34．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
35．2.5Y5/1 黄灰色粘質土（黄褐色シルトブロック混）
　} SK5202・5205

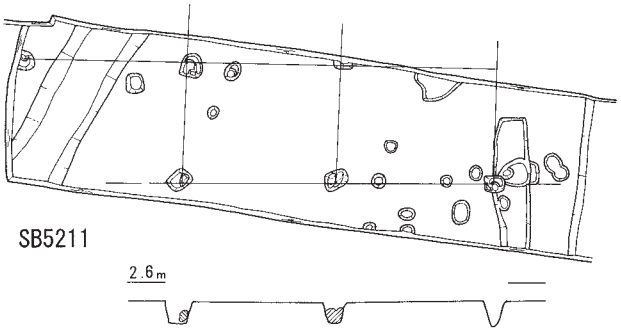
４区柱状図（C－D－E）

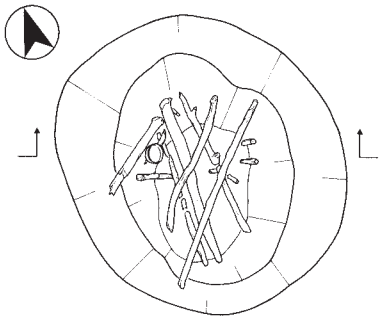
1．5Y4/1 灰色粘質土（耕土）
2．2.5Y6/4 にぶい黄色シルト（床土）
3．2.5Y5/2 暗灰黄色粘土質シルト
4．7.5Y4/1 褐灰色粘土質シルト
5．10YR3/1 黒褐色粘土質シルト
　} 谷
6．2.5Y6/2 灰黄色粘土質シルト
　} 基盤層



SB5177

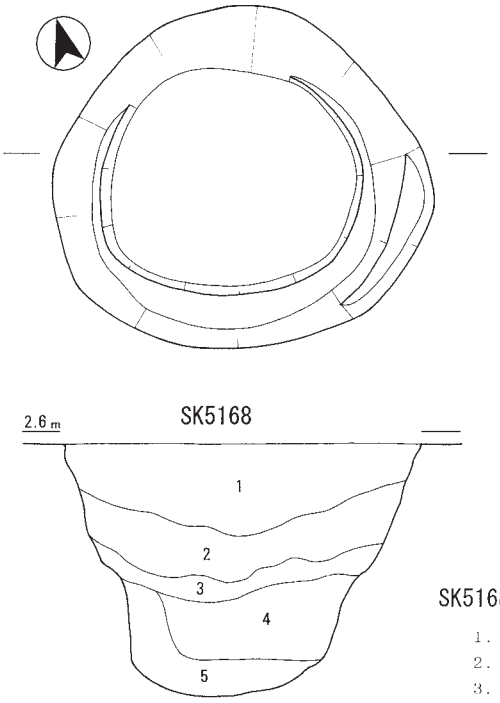
1．10YR5/1 褐灰色粘質土（柱痕）
2．2.5Y5/1 黄灰色粘質土（柱掘形埋土）
3．10YR5/1 褐灰色砂質土





SK5167

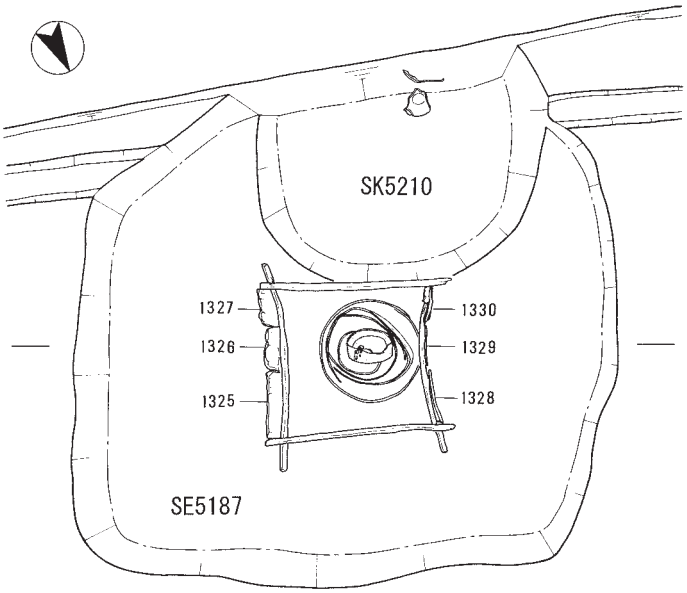
1．10YR5/2 灰黄褐色粘質土（Mn まばらに含む）
2．10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土
3．10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
4．10YR5/1 褐灰色粘土質シルト
5．N5/0 灰色粘土質シルト



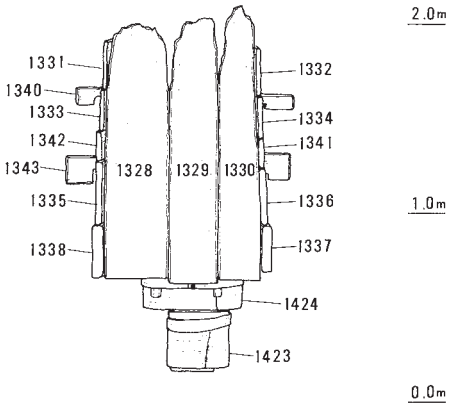
SK5168

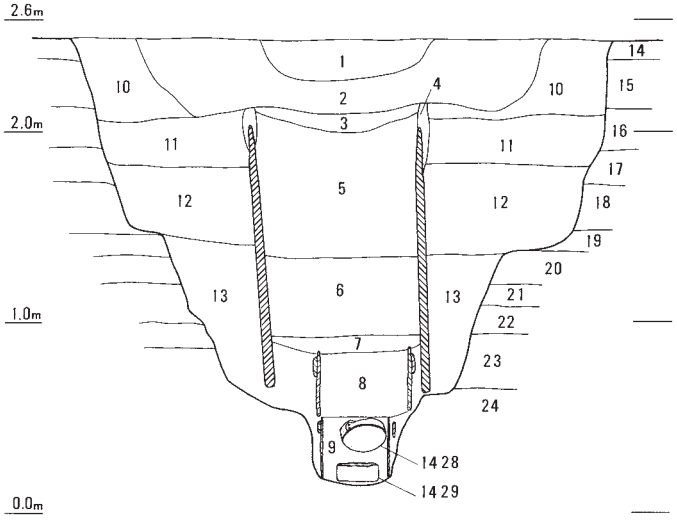
1．10YR5/2 灰黄褐色砂質土（黄橙色シルトブロック混）
2．10YR4/1 褐灰色砂質土（黄橙色シルトブロック混、下面に Fe 集積）
3．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト（締まり弱い）
4．10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト（締まり弱い）
5．5BG4/1 暗青灰色粘土質シルト（締まり弱い）

第29図　6-3区、7-1区、8-1区　掘立柱建物（1:100）**・土坑**（1:40）

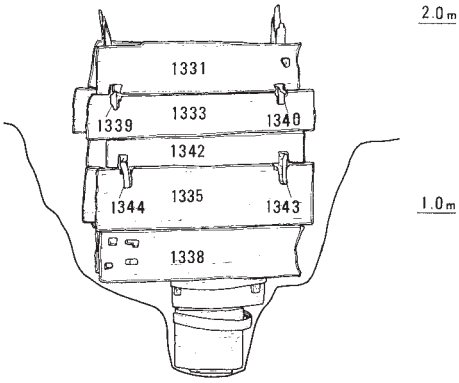


井戸枠立面図（西から）





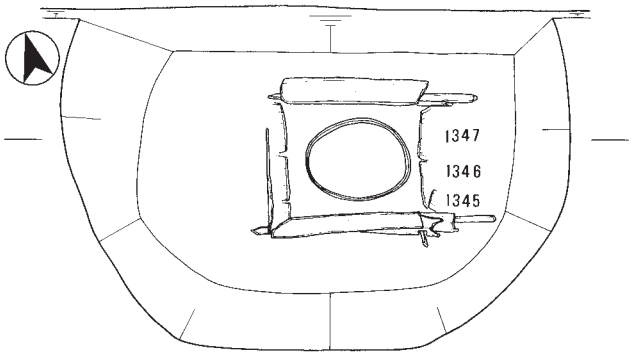
井戸枠立面図（北から）



SE5187

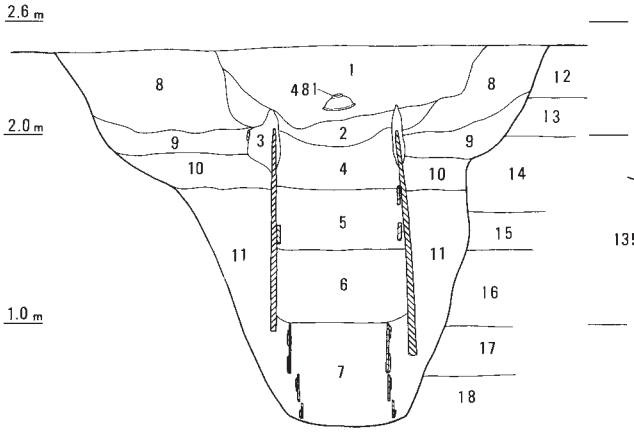
1．10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土
2．10YR5/2 灰黄褐色砂質土（下面に Fe 集積）
3．10YR5/1 褐灰色シルト
4．N5/0 灰色粘土（井戸枠腐食痕）
5．2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト
6．N5/0 灰色粘砂
7．2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト（植物遺体多い）
　井戸枠内埋土
8．2.5Y5/1 黄灰色粘砂（植物遺体多い）
9．2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト
　曲物内埋土
10．10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土（黄橙色シルトブロック混 Mn 多い）
11．10YR5/2 灰黄褐色粘質土（黄橙色シルトブロック混）
12．N5/0 灰色粘土質シルト（オリーブ灰色シルトブロック混）
13．5Y4/1 灰色粘土質シルト（青灰色シルトブロック混）
　裏込め土
14．2.5Y7/4 浅黄色シルト
15．7.5YR5/2 灰褐色シルト（腐植質）
16．2.5Y7/6 明黄褐色シルト
17．5Y7/1 浅黄色砂質シルト
18．10Y6/2 オリーブ灰色極細砂
19．5GY6/1 オリーブ灰色砂質シルト
20．5GY6/1 オリーブ灰色粘土質シルト
21．5BG5/1 青灰色粘土質シルト
22．2.5Y4/1 黄灰色粘砂（植物遺体多い）
23．2.5Y3/1 黒褐色粘砂
24．5Y6/1 灰色砂礫（湧水層）
　基盤層

第30図　7-1区、8-1区　井戸（1:40）

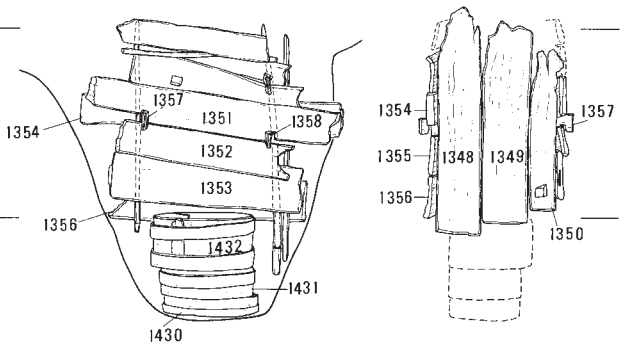


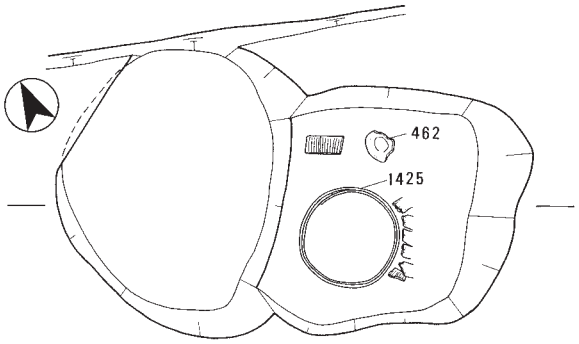
SE5201

1．10YR4/1 褐灰色粘質土
2．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
3．N5/0 灰色粘土（井戸枠腐食痕）
4．2.5Y5/1 黄灰色粘質土
5．2.5Y4/1 黄灰色粘砂（植物遺体をまばらに含む）
6．10YR3/1 黒褐色粘砂（植物遺体多い）
　　} 井戸枠内埋土
7．10YR3/1 黒褐色粘砂（曲物内埋土）
8．2.5Y5/3 黄褐色粘質土（灰白色シルトブロック多い）
9．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土（灰白色シルトブロック混）
10．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
11．5B6/1 青灰色粘土質シルト
　　} 裏込め土
12．2.5Y7/4 浅黄色シルト
13．7.5YR5/2 灰褐色シルト（腐植質）
14．2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
15．5Y6/2 灰オリーブ色粘土質シルト
16．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト
17．N6/0 灰色極細砂
18．5Y6/1 灰色砂礫（湧水層）
　　} 基盤層



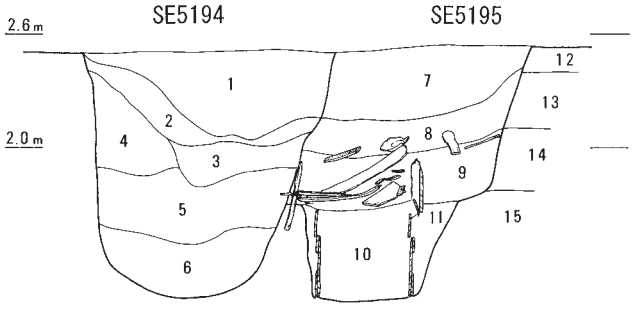
井戸枠立面図（南から）　井戸枠立面図（西から）





SE5194

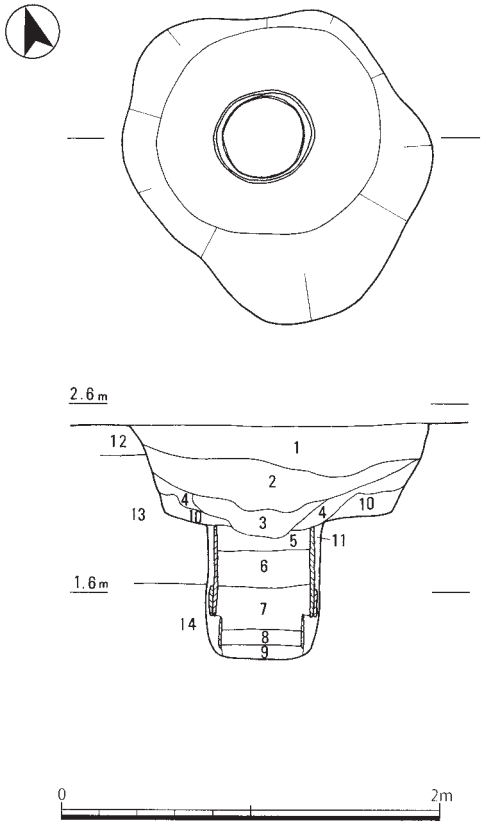
1．2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（黄褐色・灰褐色シルトブロック混）
2．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
3．2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト
4．2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト（黄褐色・灰褐色シルトブロック混）
5．5Y6/2 灰オリーブ色シルト（斑鉄みられる）
6．10Y6/2 オリーブ灰色粘土質シルト



SE5195

1．2.5Y5/3 黄褐色砂質土（灰褐色シルトブロック混）
2．10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土（黄褐色・灰褐色シルトブロック混）
3．10Y4/1 灰色粘土質シルト
4．5GY6/1 オリーブ灰色粘砂（曲物内埋土）
5．5BG5/1 青灰色極細砂（緑灰色シルトブロック混、裏込め土）
6．7.5YR5/1 褐灰色シルト
7．10YR6/3 にぶい黄橙色シルト
8．5GY6/1 オリーブ灰色砂質シルト
9．10YR6/2 灰黄褐色砂礫（湧水層）
　　} 基盤層

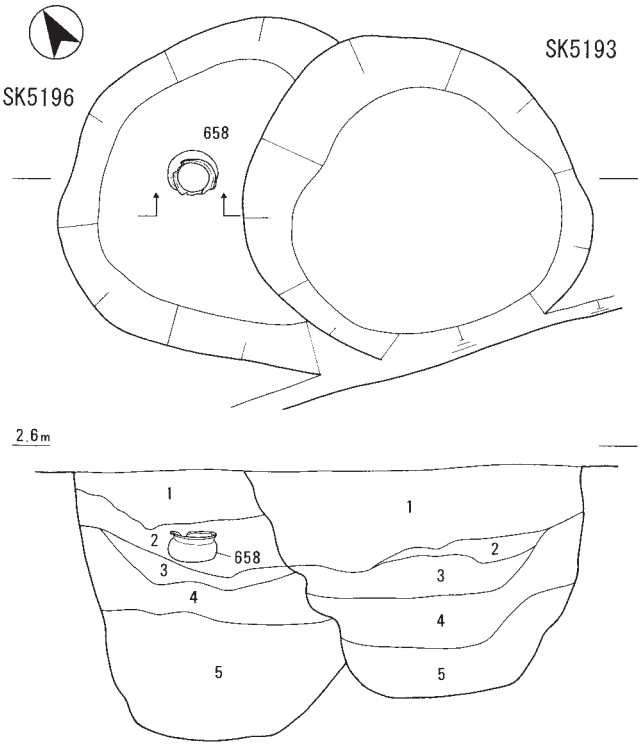
第31図　7-1区、8-1区　井戸（1:40）



SE5198

1．2.5Y5/4 黄褐色砂質土
2．2.5Y5/1 黄灰色細砂（黄褐色シルトブロック混）
3．2.5Y4/1 黄灰色粘砂
4．10YR5/2 灰黄褐色粘砂
5．7.5YR4/1 褐灰色粘土質シルト
6．10YR4/1 褐灰色砂質シルト
7．5YR4/1 褐灰色砂質シルト
8．10YR4/4 褐色中砂
9．2.5Y4/1 黄灰色中砂
10．2.5Y6/4 にぶい黄色シルト（灰色中砂含む）
11．7.5YR4/1 褐灰色粘土質シルト
12．2.5Y7/2 灰黄食シルト
13．5Y5/2 灰オリーブ色中砂
14．5Y5/1 灰色中砂（下部から徐々に湧水）

裏込め土
基盤層

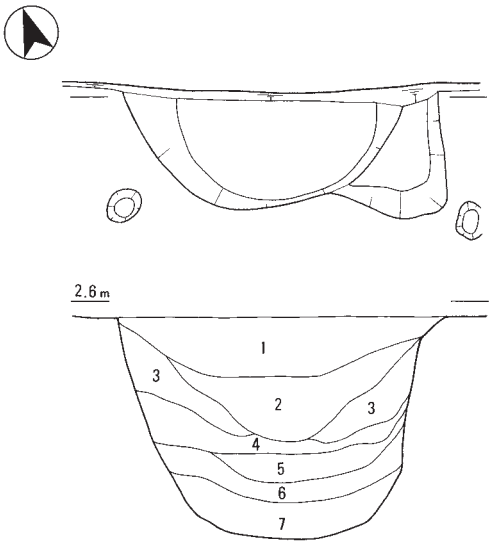


SK5193

1．2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（黄褐色・暗褐色シルトブロック混）
2．2.5Y5/1 黄灰色粘質土（黄褐色・暗褐色シルトブロック混）
3．2.5Y5/1 黄灰色シルト（オリーブ灰色シルトブロック混）
4．10Y6/2 オリーブ灰色粘土質シルト
5．2.5GY6/1 オリーブ灰色粘砂

SK5196

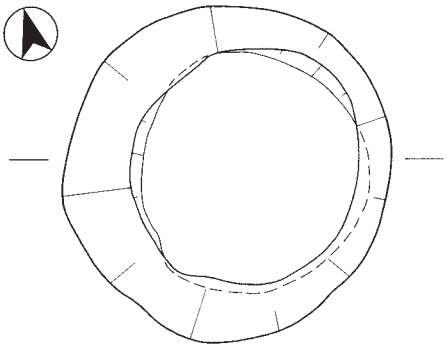
1．10YR5/2 灰黄褐色砂質土（黄褐色シルトブロック少ない）
2．10YR5/1 褐灰色砂質土
3．2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト
4．2.5Y6/1 黄灰色シルト（やや締まる）
5．2.5GY5/1 オリーブ灰色粘土質シルト

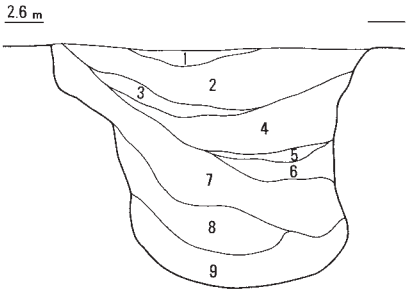


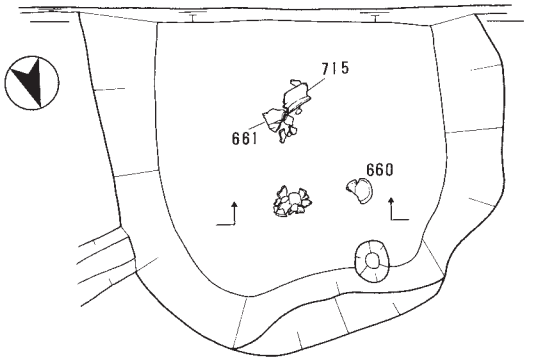
SK5189

1．10YR6/2 灰黄褐色砂質土（黄橙色シルトブロック混）
2．10YR6/2 灰黄褐色粘質土（灰白色シルトブロック混）
3．10YR4/4 褐色砂質シルト（Mn 多い）
4．2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘土質シルト（灰白色シルトブロック混）
5．5B4/1 暗青灰色粘土質シルト
6．5G4/1 暗緑灰色粘土質シルト
7．5PB4/1 暗青灰色粘土質シルト

第32図　7-1区、8-1区　井戸・土坑（1:40）





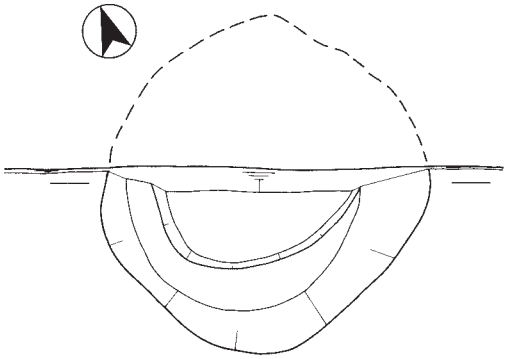


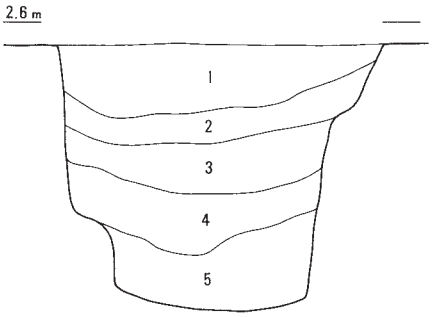
SK5202

1．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
2．2.5Y5/1 黄灰色粘質土（黄褐色シルトブロック混）

SK5197

1．10YR4/1 褐灰色砂質土
2．2.5Y5/3 黄褐色極細砂（灰白色・褐灰色シルトブロック多い）
3．2.5Y4/1 黄灰色極細砂
4．2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（灰白色・褐灰色シルトブロック混）
5．2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト
6．5Y5/1 灰色シルト（オリーブ黄色シルトブロック混）
7．N4/0 灰色砂質シルト（オリーブ黄色シルトブロック混）
8．5GY6/1 オリーブ灰色砂質シルト（粘性高い）
9．N5/0 灰色粘土質シルト（締まり弱い）





SK5207

1．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
2．5Y5/2 灰オリーブ色粘質土
3．5Y5/2 灰オリーブ色粘質土（黄褐色シルトブロック混）
4．5Y5/2 灰オリーブ色粘質土（灰白色シルトブロック混）
5．5B5/1 青灰色粘土質シルト

第33図　7-1区、8-1区　土坑（1:40）

6．調査地東側

朝田寺南側の 7-2 ～ 7-10 区が該当する（第 34 ～ 36 図）。当地の基盤層は、５区からみられた黄褐色系シルトである（第 37 図）が、局所的により下層の褐灰色シルトが露出するところがある。湧水層は概して深いものの、砂礫層の凹凸は著しく、井戸の深さも浅深さまざまである。

遺構の時期や密度は地区によって大きく異なる。朝田寺南面の 7-4 ～ 7-5 区では、中世Ⅱ期を中心としたピットが密集し、南東隅土坑を有する複数の掘立柱建物が認められる。一方、古代の遺構はＳＲ 5080 を除き希薄になる。

7-9-2 区以東は中世Ⅲ～Ⅳ期の溝・井戸・土坑のみとなり、ピットは 7-8 区、7-9-1 区の一部に多く認められる。7-8 区、7-9-2 区では、ＳＲ 5080 の埋没後、中世Ⅳｂ・ｃ期（16 世紀）の土坑や溝が形成される。当該期には、方形の区画溝ＳＤ 5297・5306 等が掘削されるが、土師器鍋の出土量は非常に多い。このことから、当地は中世後期集村の北縁に当たると考えられる。また、中世Ⅲｂ期以降、当地に結物井戸が目立つようになる。集村化の進展は当該期以降のことであろう。

本調査区の南側隣接地は、平成 26 年度に調査を実施しているので、最終的な遺構や集落の評価は第６次調査の報告の中で行うことにしたい。

（１）掘立柱建物（第 38 図、写真図版 31）

7-4 ～ 7-5 区で主に中世Ⅱ期の掘立柱建物や柱列を多数検出した（ＳＢ 5334 ～ 5343、ＳＡ 5341）。調査区の狭さから十分に建物を復元できないが、柱穴の密集度は本次調査で随一であり、一帯に中世前期集落のひとつの核があったと考えられる。建物主軸は飯野郡の条里地割に概ね合致する。なお、柱穴がやや大きいＳＢ 5342 は、平安後期の掘立柱建物である。

建物の柱穴は、方形に近い掘形をもつものが多い。また、ＳＢ 5335・5336・5340 等、根石を持つ柱穴も複数認められる。ＳＫ 5226・5227・5228 はいわゆる南東隅土坑であろう。底面硬化や埋土に目立った特徴はない。ＳＫ 5226 からは中世Ⅱｂ期の土器・陶器が、ＳＫ 5227・5228 からも中世Ⅱ期の土器が出土している。

その他、ピットから泥岩製の仕上砥（190）が出土しており、加工痕などから鳴滝砥の可能性がある。居住者の性格の一端がうかがえよう。

一方、7-8 ～ 7-9-1 区では中世Ⅳ期のピットが多数見つかっており、染付など貿易陶磁が出土している。

（２）井戸（第 39 ～ 44 図）

ＳＥ 5218（写真図版 39） 7-4 区で検出した長径 1.7 ｍ、短径 1.2 ｍ、深さ 1.8 ｍの結物井戸である。検出面から 1.6 ｍで湧水層に達する。本遺構と重複するＳＥ 5221 も湧水層に達する井戸であるが、井戸枠の抜き取り痕などは明確にできなかった。

井戸枠はスギ柾目板を 14 枚用いた高さ 1.3 ｍ以上、径 50cm の結物（結筒）で、掘形の南端に設置されている。上段の箍は腐朽していたが、遺構検出面から約 30cm 下で楔がまとまって出土したことから、上段箍の位置が復元できる。下段箍は検出面から 1.4 ｍ下で確認した。箍は竹を一方向に捻じり編みする[(5)]。水溜は曲物を１段据える。

井戸枠内から、中世Ⅲｂ期の土師器鍋や 14 世紀後半～末の常滑甕、陶器片口鉢、15 世紀の瓦質土器火鉢などが出土した。井戸の廃絶時期は 14 世紀末から 15 世紀初めごろと考えられる。

なお、井戸廃絶時には、枠内に拳大よりやや大ぶりの礫を充填していた。同様の廃絶パターンはＳＥ 5328 等でも確認できる。

ＳＥ 5219（写真図版 34） 7-5 区西で検出した長径 1.5 ｍ、深さ 1.5 ｍの井戸である。調査区内で井戸枠は確認できないが、検出面から 1.3 ｍで湧水層に達した。出土遺物は渥美第６型式の山茶碗などがある。

ＳＥ 5230（写真図版 34） 7-6 区で検出した径 1.4 ｍ、深さ 1.6 ｍの結物井戸である。検出面から 1.5 ｍで湧水層に達する。井戸枠は抜き取られており、底面付近に結物の箍と楔がほぼ原位置で残存していた。このような井戸枠の抜き取りパターンが生じるのは、ＳＥ 5218 のような長大な結筒を用いたためであろう。

出土遺物には渥美第６型式の山茶碗が複数あるが、中世Ⅲ期の土師器片もわずかに認められ、井戸の廃絶時期はこのころと考えられる。

ＳＥ 5304・5305 他（写真図版 43） 7-9-4 区中央では複数の井戸・土坑が重複していた。確実に井戸といえるのは水溜の残るＳＥ 5305、湧水層に達する

ＳＥ 5304･5329 だが､その他も井戸の可能性がある。ＳＥ 5305 は径 1.6 ｍ、深さ 2.0 ｍ前後の井戸で、水溜の曲物１段と、そのやや上部に結物の箍・楔が残存していたことから、長大な結物１段の井戸である可能性が高い。ＳＥ 5305 曲物内から中世Ⅲ期の土師器皿が出土している。

ＳＥ 5316（写真図版 41・42） 7-9-4 区中央で検出した径 2.0 ｍ、深さ 1.2 ｍの井戸で、ＳＥ 5323 に切られる。底は湧水層に達する。

井戸枠は結物で、下部に抜き取り後の箍と楔が残存していた。抜き取り穴の形状などから、長手の結筒を用いた井戸であろう。

出土遺物は中世Ⅱ期の土師器や、花押状の墨書をもつ尾張第６型式の山茶碗（510）などがある。県内の結物井戸としては最古相の例となるが、中世後期の遺構に山茶碗が混入するケースは少なくないため､結物出現時期については今後の検討を要しよう。

ＳＥ 5317（写真図版 45） 7-9-4 区東で検出した径 1.2 ｍ、深さ 0.8 ｍの円形井戸で、水溜の曲物のみ確認された。曲物は倒立させて据えている。下層から、笊目編み、網代編みした籠の残骸（腐朽のためいずれも崩壊）や中世Ⅲｂ期の土師器皿が出土した。

ＳＥ 5319（写真図版 40） 7-9-4 区東側で検出した長径 2.5 ｍ、短径 1.9 ｍ、深さ 2.4 ｍの結物井戸である。検出面から 2.2 ｍで湧水層に達する。

井戸枠は掘形の南側寄りに設置され、北側に作業空間が確保されている。掘形下部の幅は井戸枠幅と大差ない。井戸枠は長さ約２ｍのコウヤマキ厚板を９枚結合したもので、広島県草戸千軒町遺跡にみられる多角形縦板組井戸[6]に類似している（第Ⅶ章）。

板外面に線刻を持つものがあるが、設置時の高さや位置はまちまちで、井戸の設置に直接関係する線刻ではなかろう。箍は上下２段で、竹を捻じり編みし楔で留める。水溜は曲物を１段据え、水入れ穴を穿つ。出土遺物には中世Ⅲｂ期の土師器皿、古瀬戸後期の折縁鉢、水滴等があり、いずれも 15 世紀前半に位置づけられる。

ＳＥ 5323（写真図版 41・42） 7-9-4 区中央で検出した径 2.2 ｍ、深さ 1.2 ｍの井戸で、ＳＥ 5316 の後に構築されている。底で湧水層に達し、付近の井戸に比べてやや浅い。

井戸枠は縦板組で、枠内下部に三枚組接ぎした土居桁を据え、土圧で縦板を止めるタイプである。縦板の隙間は、さらに小さな板材を添えている。これら井戸枠材には、ヒノキ製の建築部材が多く含まれていた。水溜は曲物を一段据える。

遺物は中世Ⅲｂ期の土師器や、曲物底板などが出土した。本井戸は、室町時代におけるヒノキの利用状況を知る上で重要である。

ＳＥ 5325（写真図版 43） 7-9-4 区東で検出した長径 2.0 ｍ、短径 1.5 ｍ、深さ 1.8 ｍの結物井戸で、ＳＥ 5326 に切られる。検出面から 1.3 ｍで湧水層に達する。井戸枠は、上部の裏込め土を掘り崩して一気に抜き取られている。このため、上下２段の箍と楔が原位置のまま残っていた。箍は竹を捻じり編みする。水溜は曲物である。中世Ⅲ期の土器片が出土した。

ＳＥ 5326 7-9-4 区東で検出した径 3.8 ｍの井戸である。隣接地への影響を考慮し完掘はしていないが、第６次調査で南半部分を完掘している。中央に長大な結物部材が１枚残されていた。結物部材はオガの痕跡が認められ、挽き割り製材の様相が判明する。出土遺物は中世Ⅳ期の土師器皿などがある。

ＳＥ 5328（写真図版 44） 7-9-4 区東で検出した径 2.1 ｍ、深さ 1.6 ｍの井戸で、結物を２段に積み上げている。底面で湧水層に達する。

井戸枠は掘形の北側に偏って設置される。井戸廃絶時には内部に拳大の礫が充填されていた。上段結物は箍２段で筒状、下段結物は３段の箍で逆位の桶状を呈するが、いずれも底板の圧痕や内面の加工はなく､当初から結筒として作られたものとみられる。また、上段結物は別井戸、おそらくＳＥ 5326 から抜き取られた材を転用した可能性が高い。いずれの箍も竹を捻じり編みする。枠内から 16 世紀の常滑鉢や中世Ⅳ期の土師器などが出土した。

（３）土坑（第 43 ～ 46 図）

井戸様の円筒形の土坑が各所で見られた。特に 7-5 区ＳＲ 5080 肩部ではこうした土坑が密集している。また、大型の土坑だけでなく、枠を設置できないような小型の土坑も、一定の深さがあるものが多い。

この他、中世Ⅳ期の浅い楕円形土坑が、7-7 区東から 7-9-1 区にかけて複数みられた（ＳＫ 5314・5277・5248・5247 など）。概ね同形同大であり、土

壙墓の可能性も含め精査したが、遺構の性格は明らかにできなかった。

ＳＫ 5212（写真図版 34） 7-3 区にある大型の土坑で、大半が調査区外のため全容は不明である。径 3.5 m、深さ 1.2 mを測る。中世Ⅱ期の土器やウマ歯（写真図版 77）などが出土した。

ＳＫ 5213 7-2 区にある円筒形の土坑で、径 1.0 m、深さ 1.7 mを測る。底からの湧水はごく弱いため、井戸には含めていない。中世の土器片が出土した。

ＳＫ 5223 7-4 区にある隅丸方形の土坑で、一辺 1.2 m、深さ 20cmを測る。中世Ⅲ期の土器片がみられた。

ＳＫ 5238（写真図版 34） 7-5 区東、ＳＲ 5080 肩部付近にある円筒形土坑である。径 1.3 m、深さ 1.1 mを測る。下層から中世Ⅱ期の南伊勢系土師器鍋が２個体出土した。

ＳＫ 5241・5249（写真図版 34） 7-5 区東にある円筒形の土坑で、ＳＫ 5249 が後出である。径 90cm、深さ 1.2 mを測る。ＳＫ 5241 から中世の土器が出土した。

ＳＫ 5245（写真図版 34） 7-5 区東にある土坑で、大半が調査区外にある。中世Ⅲｂ期の南伊勢系土師器がまとまって出土している。

ＳＫ 5260（写真図版 35） 7-7 区東にある大型の土坑で、径 3.3 m、深さ 35cm を測る。平面径は不整方形である。中世Ⅳ期の土器片が出土した。

ＳＫ 5261（写真図版 35） 7-7 区東にある大型の土坑で、平面径は不整方形である。径 3.4 m、深さ 70cmを測る。出土遺物は中世末ごろの土師器がある。

ＳＫ 5268（写真図版 35） 7-8 区にある円筒形の土坑で、径 1.3 m、深さ 1.1 mを測る。底面は湧水層には達していない。中世の土器片が出土している。

ＳＫ 5278（写真図版 35） 7-9-1 区西端にある大型の土坑で、平面形は円形である。径 2.6cm、深さ 1.2 mを測る。西半が調査区外にあり全容は不明。中世Ⅳ期の土師器などが出土した。

ＳＫ 5277（写真図版 35） 7-8 区南にある楕円形の土坑である。長径 2.0 m、短径 1.2 m、深さ 35cm を測る。出土遺物は中世Ⅳ期の土師器などがある。

ＳＫ 5295（写真図版 45） 7-9-4 区にある円形の土坑で、径 1.5 m、深さ 1.3 mを測る。下層は強くグライ化しており、籠（1543）が残存していた。出土遺物は中世Ⅲ期の土師器皿や墨書の山茶碗などがある。

ＳＫ 5299 7-9-4 区にある円筒形の土坑で、径 2.3 m、深さ 1.3 mを測る。中世Ⅱ期の土器片などが出土した。

ＳＫ 5301 7-9-4 区にある小型の円筒形土坑である。径 90cm、深さ 1.2 mを測る。中世Ⅲ期の土師器片などが出土している。

ＳＫ 5308（写真図版 48） 7-9-2 区にある大型の土坑で、径 2.5 m、深さ 45cm を測る。中世Ⅳｂ期の南伊勢系土師器が大量に出土した。

ＳＫ 5312（写真図版 45） 7-9-4 区西にある円筒形の土坑である。径 1.7 m、深さ 1.3 mを測る。下層から小型曲物が２個体と曲物蓋が出土した。他に中世Ⅲ期の土師器皿がある。

ＳＫ 5313 7-9-4 区にある円筒形の土坑である。径 1.1 m、深さ 1.3 mを測る。中世Ⅲｂ期の土師器などが出土した。

ＳＫ 5314（写真図版 35） 7-7 区東にある楕円形土坑である。長径 1.9 m、短径 1.2 m、深さ 20cm を測る。遺物は中世Ⅳ期の土師器鍋や瀬戸美濃産陶器がある。

ＳＫ 5321 7-9-4 区にある円形土坑で、ＳＫ 5301 に似る。径は 1.0 mと小さい。中世の土器片が出土した。

ＳＫ 5345（写真図版 34） 7-5 区西にある小型の土坑である。径 60cm の被熱土坑の前面に、炭灰の掻き出し口がある。奥壁から底面にかけて強く被熱する。カマドないし炉の下部構造であろうか。出土遺物はなく時期は不明。

（４）溝（第 47・48 図）

ＳＤ 5243（写真図版 35） 7-7 区東にある幅 3.9 m、深さ 1.0 mの大溝で、周辺条里との位置関係から条里の坪境溝の可能性も想定されるが、第６次調査では北側の延長部分を確認できなかった。中世Ⅳ期の遺物が出土している。

ＳＤ 5279（写真図版 37・38） 7-9-1 区東端にある大溝で、ＳＲ 5080 とＴ字状に接続する。現地調査時は、ＳＲ 5080 相当部分もＳＤ 5279 として掘削を開始したため、各遺構の遺物が混在して取り上げられている。

南北方向の部分は深さ 1.0 mを測る。断面観察によれば大きく３時期の変遷が復元でき（第 47 図）、下層は山茶碗片などを含み中世Ⅱ期、東側上層は中世Ⅳ期、西側上層は近現代であると考えられる。ＳＲ 5080 との合流点は堤状に地山を掘り残し、そ

の上に井堰を設けている。井堰は底に筵を敷いて土留めとし、その上から杭などを打ち込んでいる。また、周辺にも多数の杭や杭痕がみとめられる。調査時には筵より上位の盛土等は把握できなかった。樹種同定によれば､筵にはヒノキのヒゴを用いている。

井堰の構築時期は限定できないが、中世以降のＳＲ5080から取水するためのものであろう。

ＳＤ5285　7-9-1区東端、ＳＲ5080（ＳＤ5279）の埋没後に掘削された溝である（第47図）。中世Ⅳ期の土師器鍋や青磁椀など､まとまった遺物がある。

ＳＤ5289（写真図版47）　7-9-2区中央で確認した東西方向の溝で、延長24ｍに及ぶ。ＳＲ5080（ＳＤ5298）埋没後の遺構である。中世Ⅳ期の土師器鍋などが大量に出土しており、完形に近いものも多いことから、屋敷地の区画溝である可能性が高い。溝の走行方向は条里地割とは異なり、当地の自然地形に即したもの（Ｎ35°Ｅ）となっている。

ＳＤ5290（写真図版47）　7-9-2区中央で確認した南北方向の幅広い溝で、ＳＲ5080（ＳＤ5298）埋没後に掘削されている。中世最終末の常滑鉢や土師器鍋等が出土した。

ＳＤ5297・5306（写真図版47）　7-9-2区中央で確認したコの字状の区画溝である。ＳＤ5306は深さ30㎝とやや浅いが、ＳＤ5327は幅1.4ｍ、深さ70cmと一定の規模を有する。ともに中世Ⅳ期の土器等が出土しているが、ＳＤ5297では灯明皿を含む完形の土師器小皿が多くみられた。

ＳＤ5320（写真図版47）　7-9-4区中央で確認した南北方向の溝である。一端埋没した後、やや規模を縮小して掘り直されている。中世Ⅳ期の土師器・瀬戸美濃天目茶椀等が出土した。

ＳＤ5327（写真図版48）　7-9-4区東で確認した幅2.4ｍ、深さ45cmの大溝である。埋土にはブロック土が多く含まれており、人為的に埋められたと推測される。周辺地割との関係から、条里の坪境溝ないし屋敷地の区画溝に相当しよう。中世Ⅳ期の土師器・常滑鉢等が出土した。

（５）自然流路

ＳＲ5080（写真図版36・37・48）　7-9-2区（ＳＤ5298）から7-9-1区（ＳＤ5279）・7-8区南端を経て7-6区､現朝田寺境内へと蛇行しながら東流する。

7-9-1区では、流路と平行する方向に杭列が認められる（第47図）。杭は下層で検出したが、先端付近を残すのみであった。さらに上層より打ち込まれたものであり、平安後半期以降の施工によるものと推測される。流路から派生する平安時代の小溝ＳＤ5330も認められた。

7-9-2区（ＳＤ5298）では深さ約1.8ｍを測り（第48図）、最下層は植物遺体を多く含む極細砂～粘土質シルト、中層以上は灰色系粘土質シルトとなる。主に下層から平安前期の土師器などが出土した。

当流路埋没後、ＳＤ5289など中世Ⅳ期の遺構群が形成されている。　（櫻井）

註

（１）三重県松阪農林商工環境事務所『朝見上地区県営経営体育成基盤整備事業地質調査業務委託報告書』2011年。

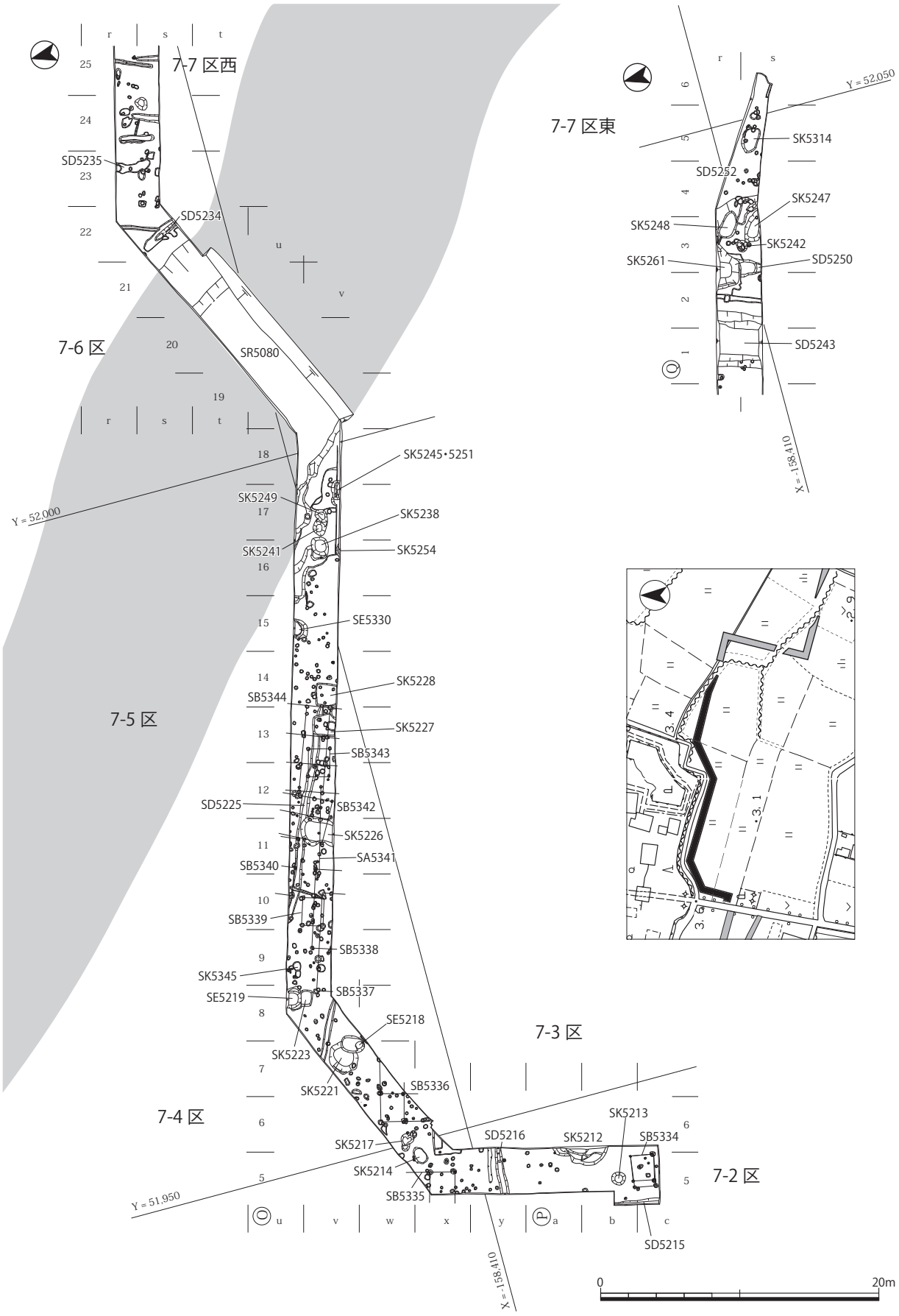
（２）斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』2001年。

（３）伊藤裕偉「南伊勢･志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古２、2008年。

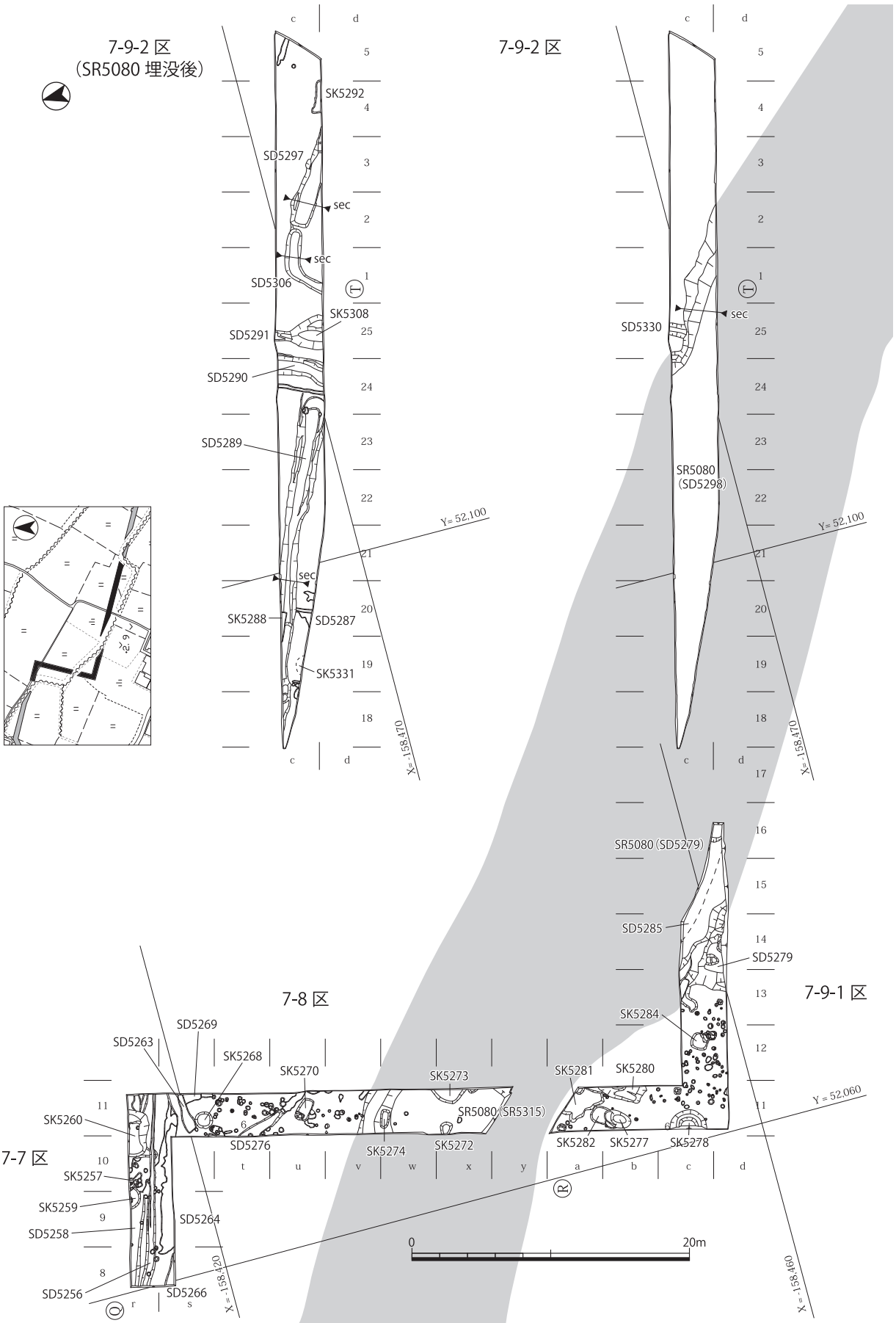
（４）井戸の分類名称は、第Ⅶ章に示したのであわせて参照されたい。本書では、Ａ：井戸枠等の施設（残骸含む）を有する、Ｂ:底面が湧水層に達している、Ｃ:井戸に重複し、再掘削の可能性が高い、などの基準を満たすものを井戸としている。しかし、井戸枠が抜き取られたり、湧水を必要としない溜井の場合は土坑との分別が困難であり、実際にはさらに多くの井戸が存在したはずである。

（５）堀町遺跡の結物の箍は、いずれも竹を捩じり編みとしており、19世紀の宮ノ腰遺跡例でも各段に２条、捩じり編みの箍がある。一方、18世紀前半の常滑製井戸枠には、Ｖ字形の組編みを元にした文様が認められ、浮世絵などの絵画資料に描かれた結桶の箍も組編みのものが多い。こうした中近世における箍締め技術の系譜差は、今後の検討課題としておきたい。三重県埋蔵文化財センター『宮ノ越遺跡発掘調査報告Ⅰ』1997年／伊藤裕偉「近世以降の陶器井戸枠について」『安濃津』三重県埋蔵文化財センター､1997年。

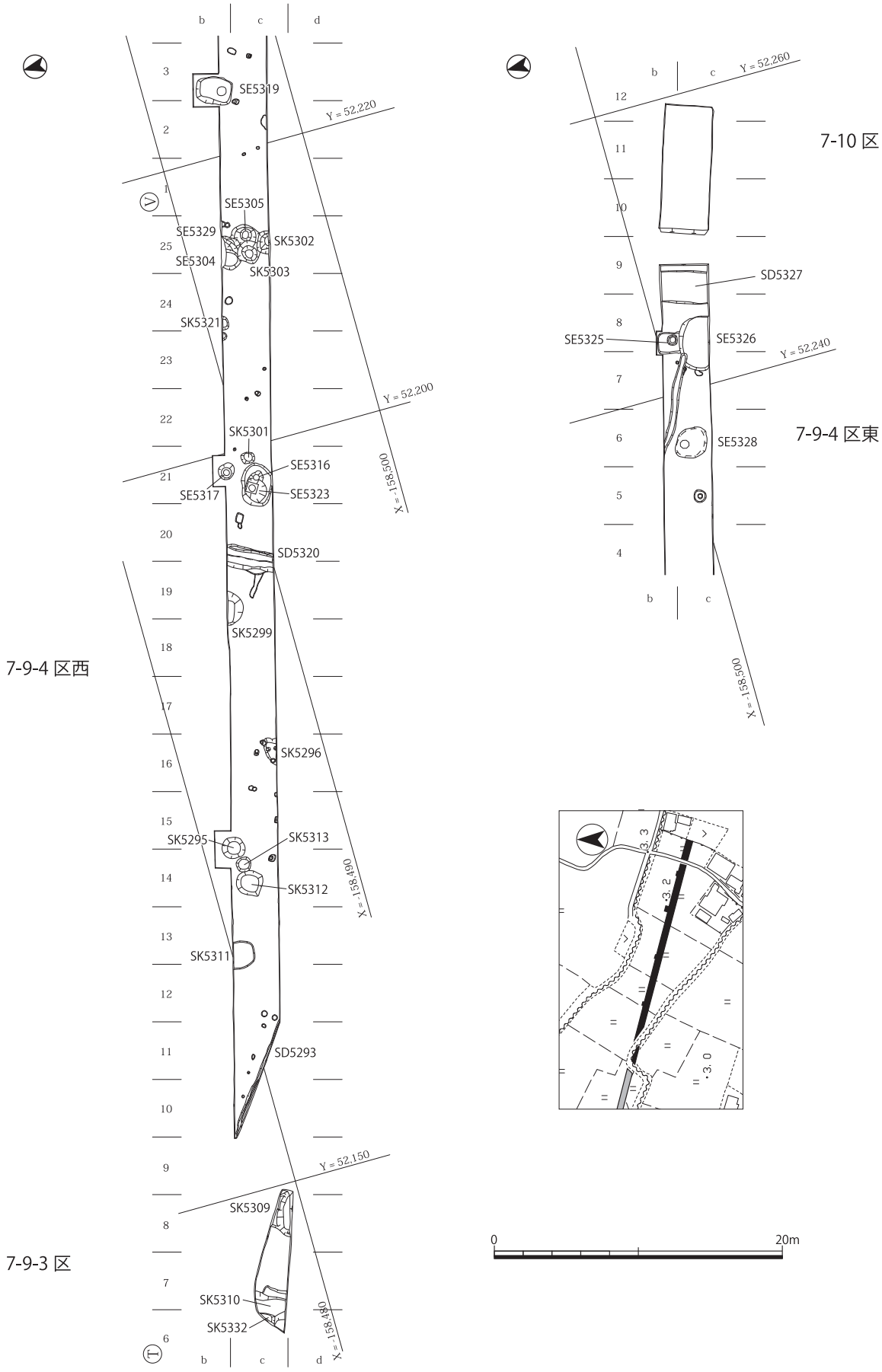
（６）鈴木康之「港湾集落における木材加工技術－草戸千軒町遺跡の井戸材を中心に－」『木の中世－資源・技術・製品－』（第12回考古学と中世シンポジウム資料）、考古学と中世史研究会、2014年。



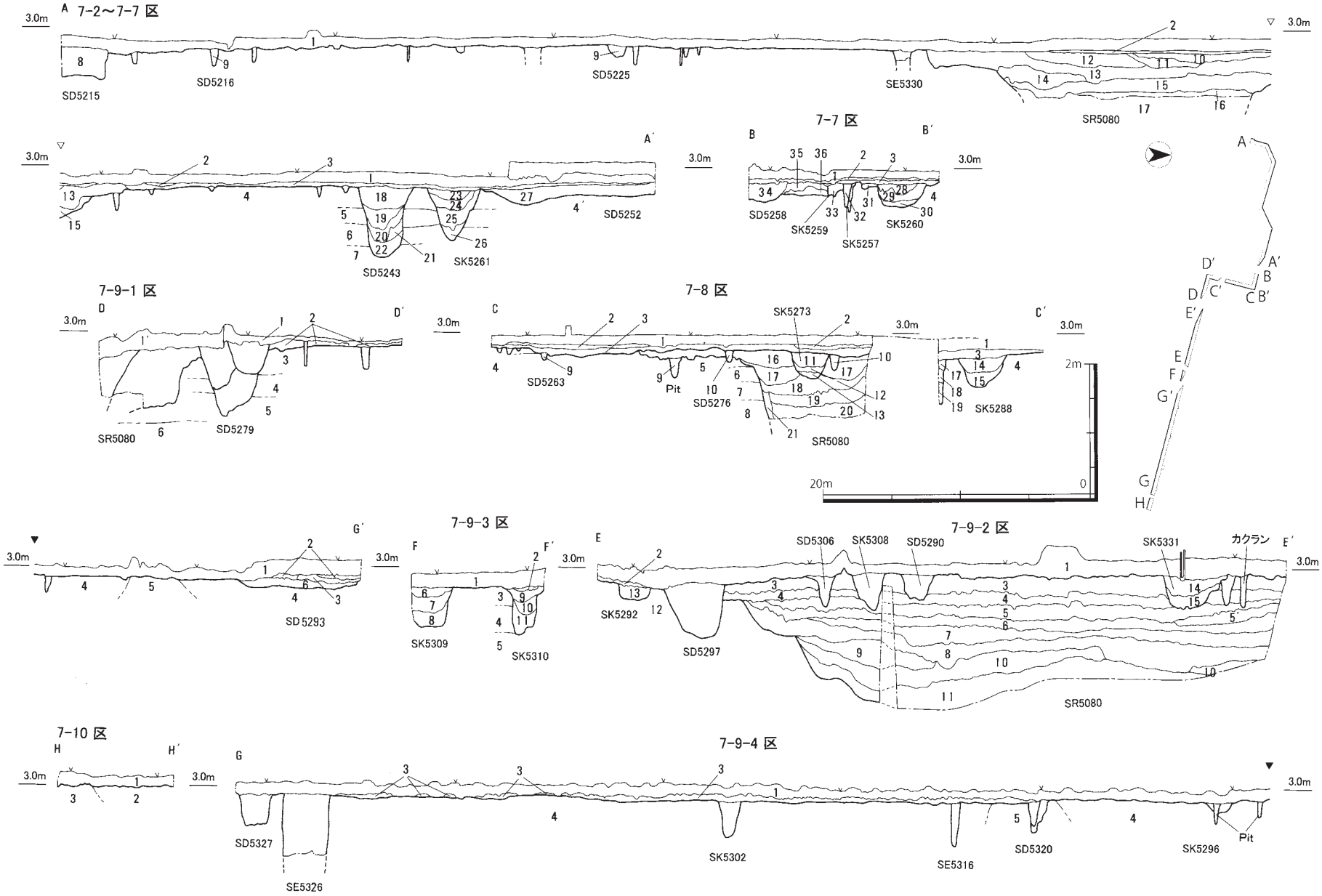
第34図　7-2～7-7区　遺構全体図（1:400）



第35図　7-8～7-9-2区　遺構全体図（1:400）



第36図　7-9-3～7-10区　遺構全体図（1:400）



第37図　7-2～7-10区土層断面図（縦1:80、横1:400）

土層断面図注記（第37図）

7-2区　西壁～7-7区　北壁（A－A'・B－B'）

1．10YR5/1 灰褐色粘質土（耕土）
2．10YR4/6 褐色粘質土（床土）
3．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
4．10YR6/4 にぶい黄色シルト
4'．5YR6/4 褐灰色シルト（腐植強い）
5．2.5GY6/1 オリーブ灰色砂質シルト
6．10GY5/1 緑灰色粘土質シルト
7．5PB4/1 暗青灰色粘土質シルト
　→基盤層
8．10YR5/2 灰黄褐色砂質土（SD5215）
9．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土（SD5216・SD5225）
10．10YR7/3 にぶい黄橙色砂質土
11．10YR6/3 にぶい黄橙色砂質土
12．10YR6/3 にぶい黄橙色砂質土（Mn 多い）
13．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
14．10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土
15．10YR5/2 灰黄褐色シルト（斑鉄みられる）
16．5BG4/1 暗青灰色粘土質シルト（極細砂ブロック混）
17．2.5Y3/1 黒褐色シルトと粗砂の互層（植物遺体多い）
18．2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土
19．10YR6/1 褐灰色砂質土
20．10YR6/1 褐灰色砂質土
（青灰色粘土質シルトブロック混）
21．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
　→SD5243
22．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト
23．2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土
24．10YR6/2 灰黄褐色砂質土（底面に Fe 集積）
25．7.5YR5/1 褐灰色シルト
26．7.5YR4/1 褐灰色粘土質シルト
　→SK5261
27．7.5YR4/4 褐色砂質土（SD5252）
28．10YR4/6 褐色砂質土
29．10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土
30．10YR6/3 にぶい黄橙色粘質土
31．10YR4/6 褐色砂質土
　→SK5261
32．10YR4/1 褐灰色粘質土（黄灰色シルトブロック混、SK5257）
33．10YR4/1 褐灰色粘質土（SK5259）
34．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
35．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
（明黄褐色シルトブロック混）
36．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
　→SD5258

7-8区　東壁（C－C'）

1．10YR4/1 褐灰色砂質土（耕土）
2．10YR4/4 褐色粘質土（床土）
3．10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土
4．10YR6/6 明黄褐色シルト
5．5YR6/4 褐灰色シルト（腐植強い）
6．10YR6/6 明黄褐色シルト
7．7.5YR5/1 褐灰色シルト
8．10GY5/1 緑灰色シルト
　→基盤層
9．10YR4/2 灰黄褐色砂質土（下層遺構埋土）
10．10YR6/2 灰黄褐色砂質土（上層遺構埋土）
11．10YR5/2 灰黄褐色粘質土
12．10YR4/6 褐色粘質土
13．10YR6/1 褐灰色粘質土
　→SK5273
14．10YR4/2 灰褐色砂質土
15．10YR4/1 褐灰色砂質土
　→SK5288
16．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土（Mn 多い）
17．10YR5/4 にぶい黄褐色シルト（粗砂混じる）
18．10YR5/6 黄褐色シルト（斑鉄著しい）
19．10BG5/1 青灰色シルト
20．5PG5/1 青灰色粘土質シルト（植物遺体多い）
21．5B4/1 暗青灰色砂質シルト
　→SR5080

7-9-1区　南壁（D－D'）

1．10YR4/2 灰黄褐色砂質土（腐植土）
1'．10YR4/1 褐灰色砂質土（耕土）
2．10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土
3．10YR7/6 明黄褐色シルト
4．2.5Y7/6 明黄褐色シルト
5．5BG5/1 青灰色砂質シルト
6．N5/0 灰色粗砂
　→基盤層

7-9-2区　南壁（E－E'）

1．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土（耕土）
2．10YR5/1 褐灰色砂質土（床土）
3．10YR6/2 灰黄褐色シルト（Mn まばらに含む）
4．10YR5/2 灰黄褐色シルト（底面に Fe 集積）
5．2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト（斑鉄著しい）
6．10Y6/1 灰色粘土質シルト
7．2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト
（微細な植物遺体をまばらに含む）
8．N4/0 灰色極細砂
9．2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト（植物遺体多い）
10．5B6/1 青灰色極細砂（植物遺体多い）
11．2.5Y2/1 黒褐色極細砂
　→SD5298 埋土
12．5Y6/2 灰オリーブ色シルト（基盤層）
13．10YR5/1 褐灰色粘質土（Fe・Mn 多い、SK5292）
14．2.5Y6/2 灰黄色粘質土（Fe・Mn 多い）
15．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土（締まり弱い）
　→SK5331 埋土

7-9-3区　南壁（F－F'）

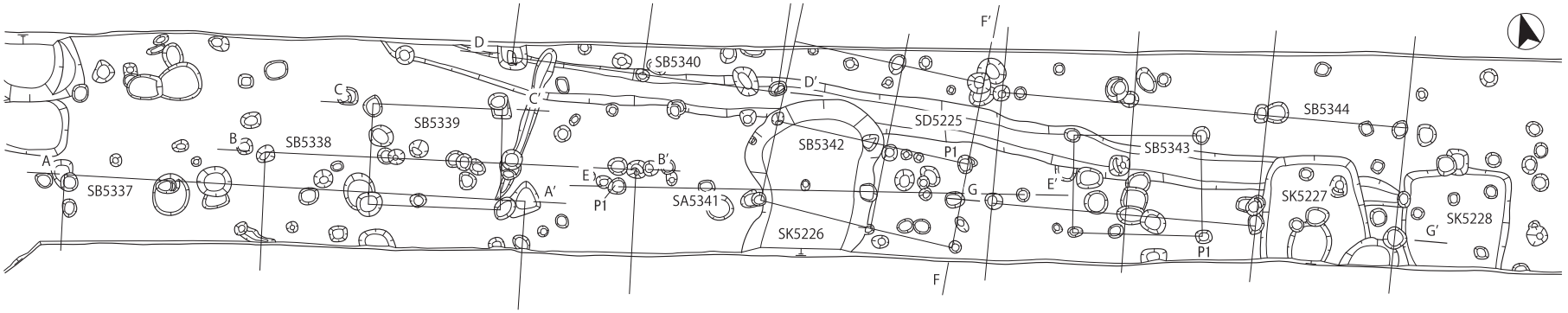
1．10YR3/1 黒褐色粘質土（耕土）
2．10YR4/2 灰黄褐色砂質土（床土）
3．2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
4．2.5GY6/1 オリーブ灰色シルト
5．5B6/1 青灰色砂質シルト
　→基盤層
6．10YR5/1 褐灰色シルト（Mn 多い）
7．10YR4/1 褐灰色シルト
8．10YR4/1 粘土質シルト（締まりやや弱い）
　→SK5309
9．10YR4/1 褐灰色粘質土
10．10YR6/2 灰黄褐色粘質土
（にぶい黄色シルトブロック混）
11．2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト
（灰白色シルトブロック混）
　→SK5310

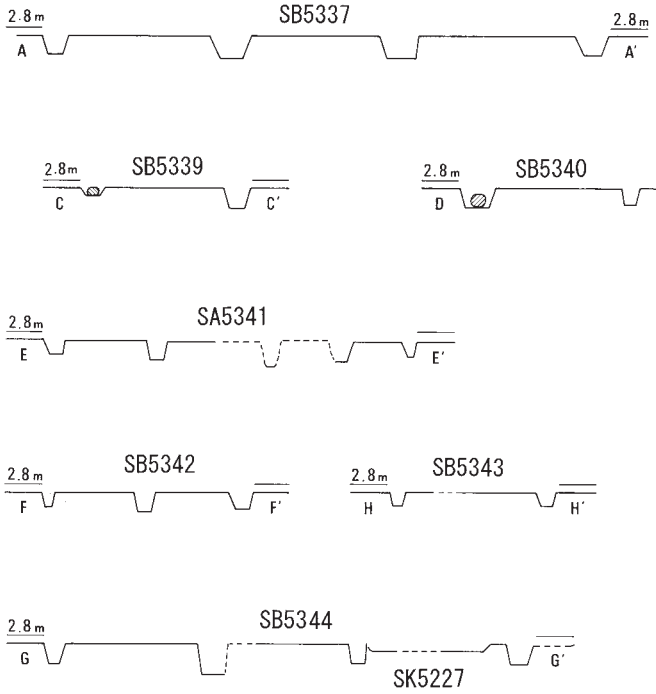
7-9-4区　南壁（G－G'）

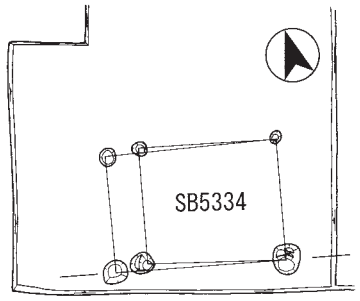
1．2.5Y5/1 黄灰色粘質土（耕土）
2．10YR5/1 褐灰色粘質土（床土）
3．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
4．2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト
5．7.5YR4/1 褐灰色砂質シルト
（5 ㎜大橙色粘土ブロックをまばらに含む、腐植強い）
　→基盤層
6．2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土（Mn 多い、SD5293）

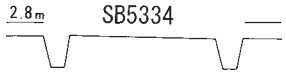
7-10区　南壁（H－H'）

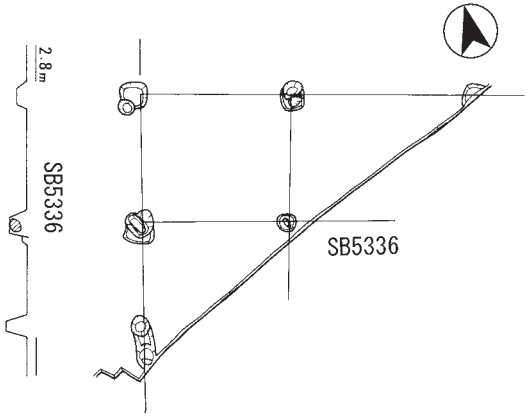
1．2.5Y3/2 黒褐色砂質土（耕土）
2．2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト
3．2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト（礫混）
　→基盤層

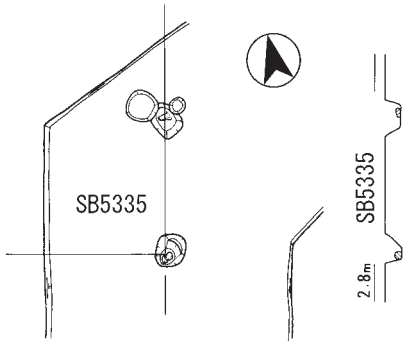




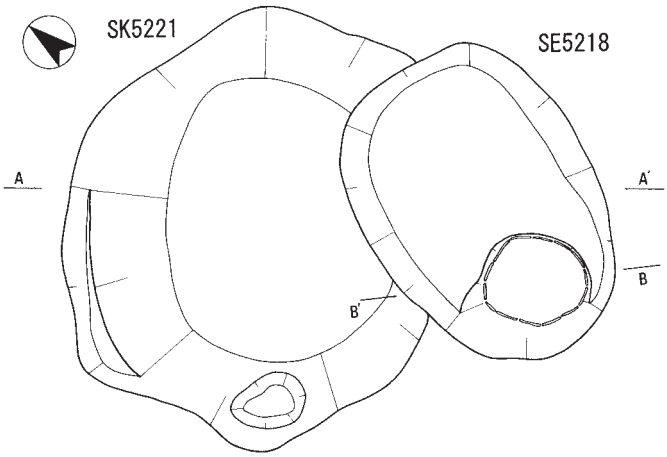




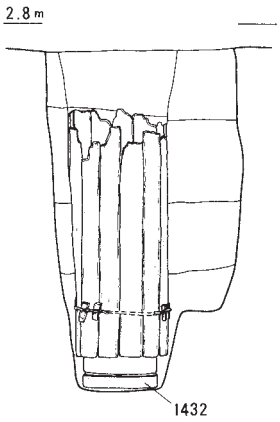


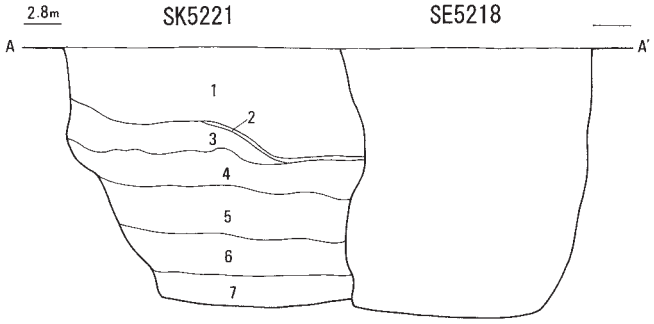


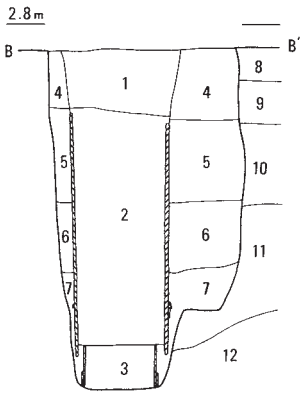
第38図　7-2～7-5区　掘立柱建物（1:100）



井戸枠立面図（北から）

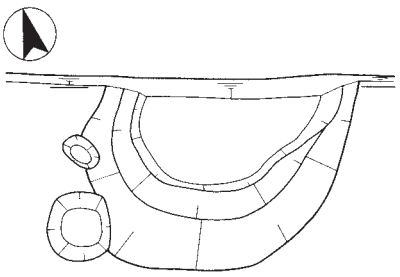






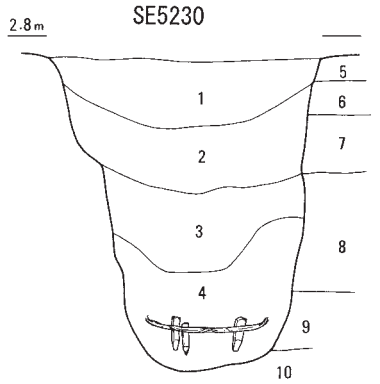
SK5221

1．10YR5/2 灰黄褐色粘質土
2．炭層
3．10YR5/1 褐灰色粘質土（褐色粗砂ブロック混）
4．N5/0 灰色粘土質シルト
5．N5/0 灰色粘土質シルト（褐色粗砂ブロック混）



SE5218

1．2.5Y5/1 黄灰色粘砂（5cm 大礫多い）
2．5PB4/1 暗青灰色粘土質シルト（5cm 大礫多い）
　　} 井戸枠内埋土
3．N5/0 灰色粘砂（曲物内埋土）
4．2.5Y6/2 灰黄色シルト（オリーブ灰色、灰褐色シルトブロック混）
5．N5/0 灰色粘質土（灰白色シルトブロック混）
6．N5/0 灰色粘土質シルト
7．5B6/1 青灰色粘土質シルト（褐色粗砂ブロック混）
　　} 裏込め土
8．2.5Y7/4 浅黄色シルト
9．7.5YR5/2 灰褐色シルト（腐植質）
10．5Y6/2 灰オリーブ色シルト
11．N5/0 灰色粘土質シルト
12．N6/0 灰色極粗砂（湧水層）
　　} 基盤層

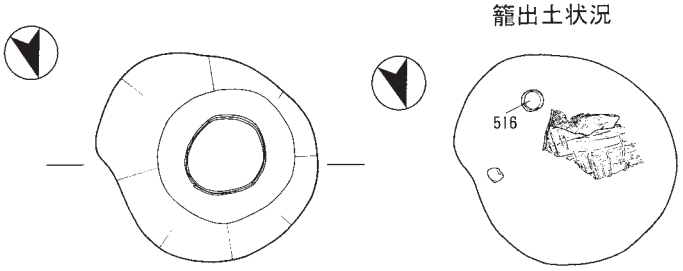


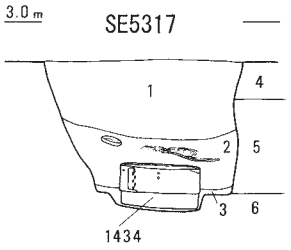
SE5230

1．10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土
2．10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土（黄褐色シルトブロック混、下面に Fe 集積）
3．10YR5/1 褐灰色粘質土（灰白～青灰色シルトブロック混）
4．2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト（緑灰色シルトブロック混）
5．2.5Y7/4 浅黄色シルト
6．7.5YR5/2 灰褐色シルト（腐植質）
7．2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
8．5B6/1 青灰色粘土質シルト
9．5B6/1 青灰色極細砂
10．N6/0 灰色極粗砂（湧水層）
　　} 基盤層

第39図　7-2～7-5区　井戸（1:40）

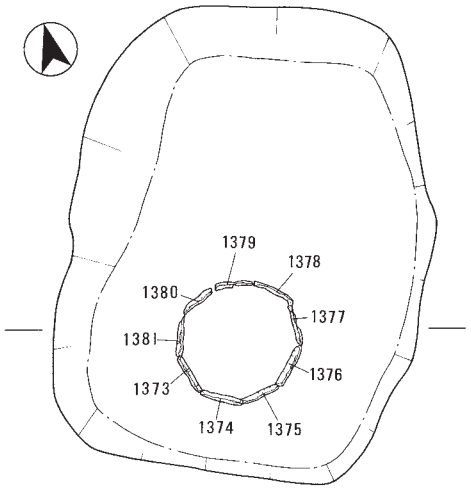
籠出土状況





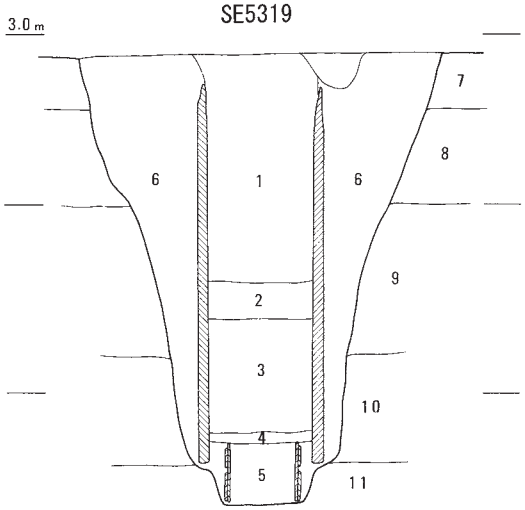
SE5317

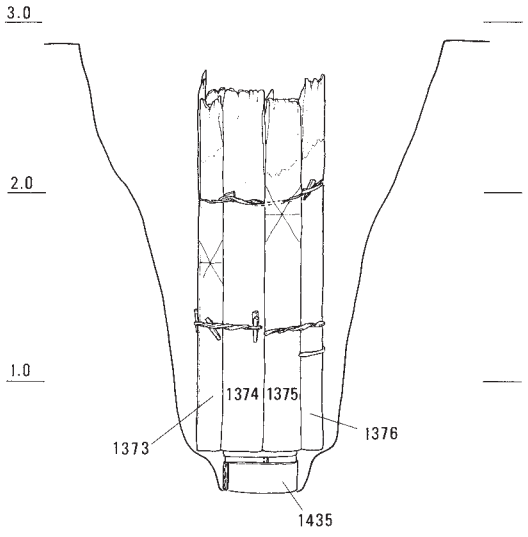
1．10YR5/2 灰黄褐色粘質土（灰白色シルトブロック混）
2．10YR4/1 褐灰色粘質土（オリーブ灰色シルトブロック混、植物遺体多い）
3．5BG6/1 青灰色粘土質シルト（裏込め土）
4．2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
5．5Y6/1 灰色粘土質シルト　　基盤層
6．N5/0 灰色砂礫（下位より湧水）



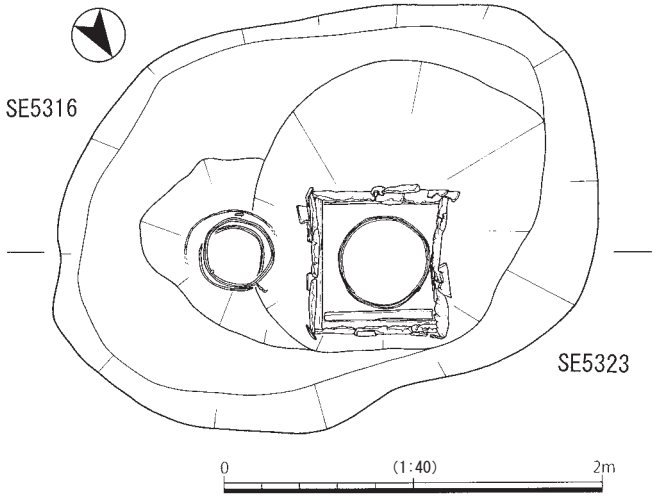
SE5319

1．10YR5/1 褐灰色粘質土（Mn 多い）
2．7.5Y4/1 灰色粘土質シルト
3．10Y4/1 灰色粘土質シルト
4．10YR4/1 褐灰色極細砂（貝殻含む）
5．10YR4/1 褐灰色粘砂（曲物内埋土）
6．5Y6/2 灰オリーブ色砂質シルト
（にぶい黄色シルトブロック混、裏込め土）
7．2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
8．2.5Y6/1 オリーブ灰色砂質シルト
9．10GY5/1 緑灰色砂質シルト　　基盤層
10．5BG5/1 青灰色粘土質シルト
11．N5/0 灰色砂礫（湧水層）

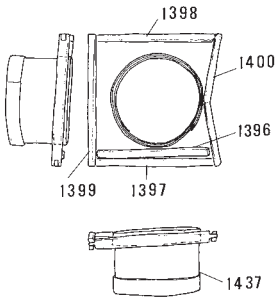


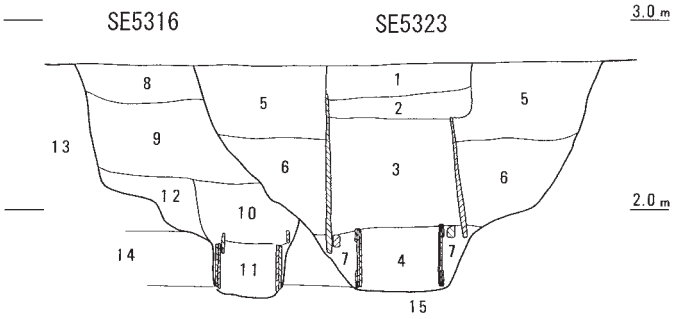


第40図　7-9区　井戸（1:40）

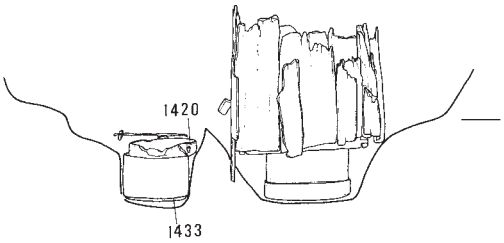


土居桁検出状況



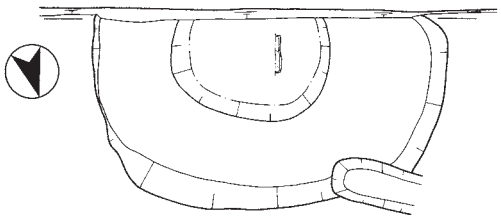


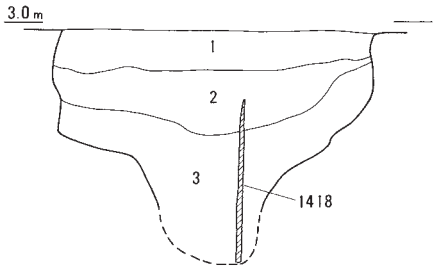
井戸枠立面図（北から）



SE5323・5316

1．10YR5/1 褐灰色シルト
2．10YR4/1 褐灰色シルト
3．2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト（オリーブ灰色シルトブロック混）
4．5GY6/1 オリーブ灰色粘砂（曲物内埋土）
5．10YR4/1 褐灰色砂質土（灰オリーブ色シルトブロック混）
6．5Y6/3 オリーブ黄色砂質シルト
7．5B5/1 青灰色極細砂（オリーブ灰色粘土質シルトブロック混）　} 裏込め土
8．10YR4/1 褐灰色砂質土（灰オリーブ色シルトブロック混）
9．10YR4/1 褐灰色砂質土（灰オリーブ色シルトブロック混）
10．10YR5/2 灰黄褐色中砂（青灰色シルトブロック混）
11．5PB5/1 青灰色粘砂（曲物内埋土）
12．5PB4/1 暗青灰色砂質シルト（暗灰色シルトブロック混、裏込め土）
13．2.5Y6/6 明黄褐色砂質シルト
14．2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂　} 基盤層
15．2.5Y5/1 黄灰色砂礫（湧水層）



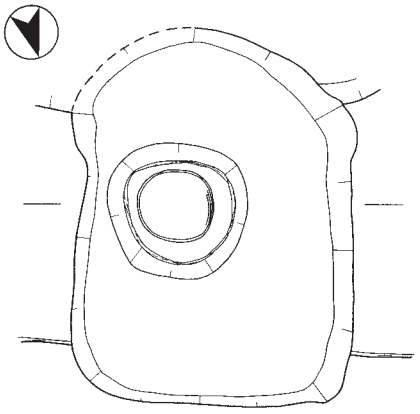


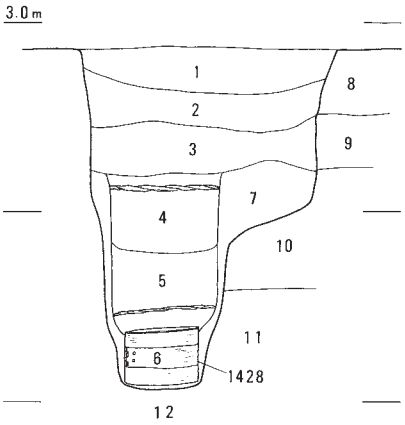
SE5326

1．10YR5/2 灰黄色砂質土（明黄褐色シルトブロック混）
2．10YR5/1 褐灰色粘質土（にぶい黄橙色シルトブロック混）
3．N5/0 灰色粘土質シルト（緑灰色シルトブロック混）

0 (1:80) 2m

第41図　7-9区　井戸（1:40、SE5326は1:80）

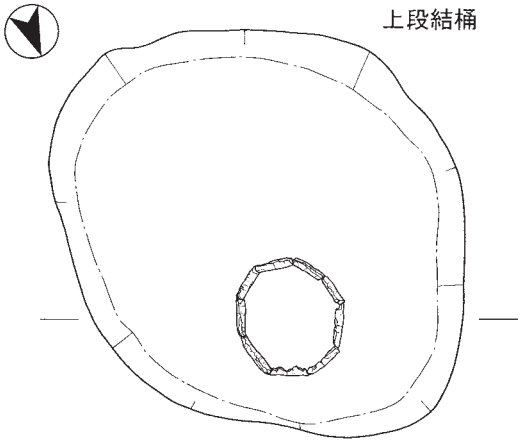




SE5325

1．10YR5/2 灰黄褐色砂質土（にぶい黄色シルトブロック混）
2．2.5Y5/1 黄灰色極細砂（にぶい黄色シルトブロック混）
3．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト（オリーブ灰色シルトブロック混）
4．10GY6/1 緑灰色粘土質シルト（灰色シルトブロック混）
5．10GY6/1 緑灰色粘土質シルト（灰色シルトブロック混、5cm 大礫多い）
6．5Y6/1 灰色粘砂（曲物内埋土）
7．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト（灰色極細砂多い、裏込め土）
8．2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
9．5PB5/1 青灰色粘土質シルト
10．2.5Y6/4 にぶい黄色粗砂
11．5B6/1 青灰色粘土質シルト
12．N5/0 灰色砂礫（湧水層）

基盤層



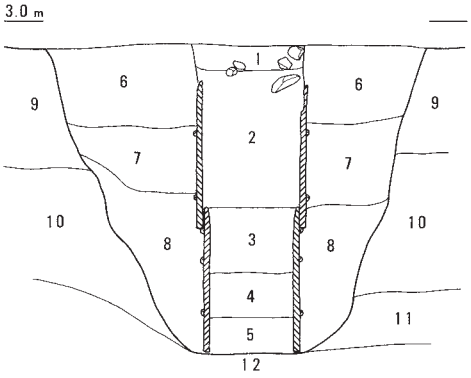
SE5328

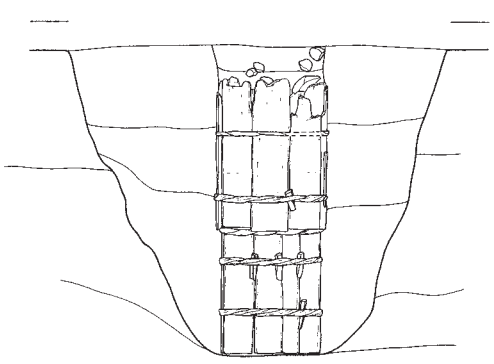
1．10YR5/1 褐灰色粘質土（5cm 大礫多い）
2．5Y5/1 黄灰色砂質土（オリーブ灰色シルトブロック混、10cm 大礫多い）
3．10G5/1 緑灰色粘土質シルト（オリーブ灰色シルトブロック混、礫多い）
4．10BG4/1 暗青灰色粘土質シルト（青灰色シルトブロック混）
5．5B3/1 暗青灰色極細砂（10cm 大礫多い）
6．5Y5/1 黄灰色極細砂（にぶい黄色砂質シルトブロック混）
7．5PB4/1 暗青灰色シルト（青灰色シルトブロック混）
8．5B4/1 暗青灰色シルト（青灰色シルトブロック混）

裏込め土

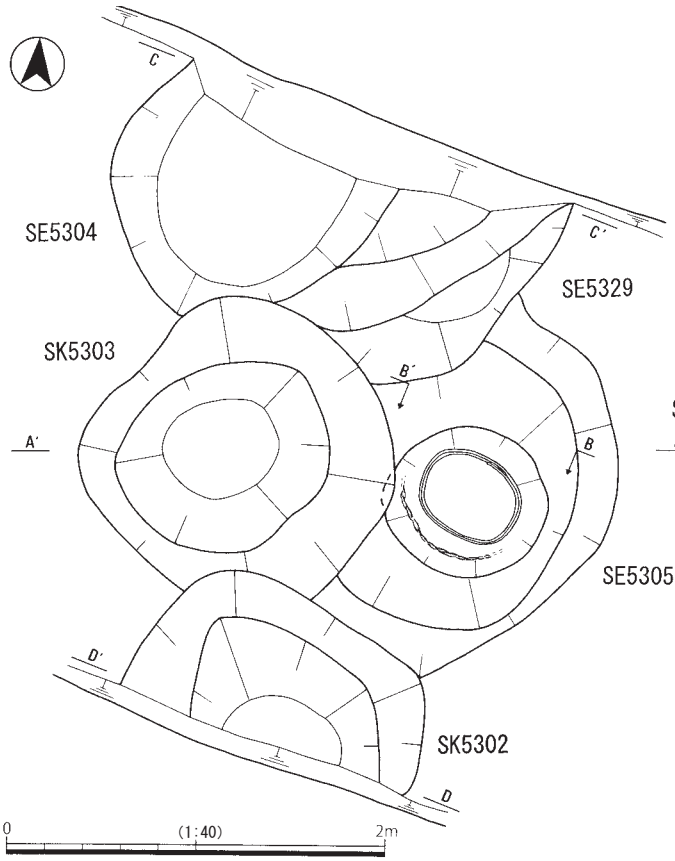
9．2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト
10．5B6/1 青灰色粘土質シルト
11．5B5/1 青灰色砂質シルト
12．N6/0 灰色砂礫（湧水層）

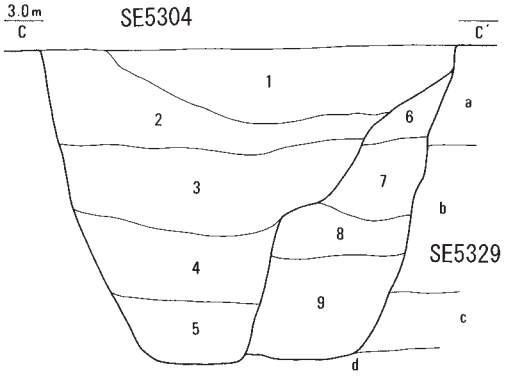
基盤層





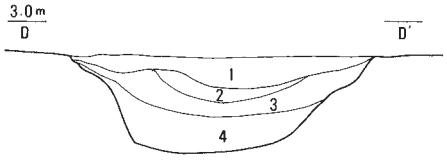
第42図　7-9区　井戸（1:40）





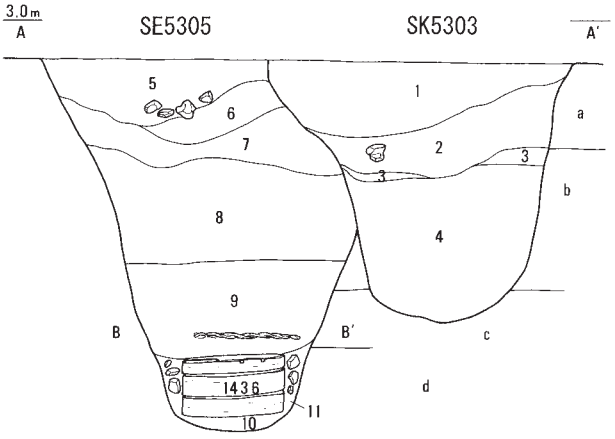
SE5304・5329

1．10YR5/2 灰黄褐色砂質土（にぶい黄色シルトブロック混）
2．2.5Y5/1 黄灰色極細砂（にぶい黄色シルトブロック混）
3．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト（オリーブ灰色シルトブロック混）
4．10GY6/1 緑灰色粘土質シルト（灰色シルトブロック混）
5．10GY6/1 緑灰色粘土質シルト（灰色シルトブロック混、5cm 大礫多い）
6．5Y6/1 灰色粘砂（曲物内埋土）
7．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト（灰色極細砂多い、裹込め土）
※基盤層は SK5303・SE5305 と共通



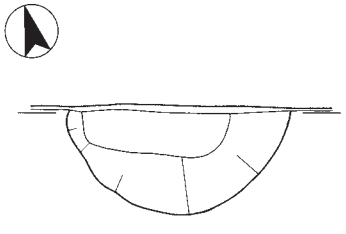
SK5302

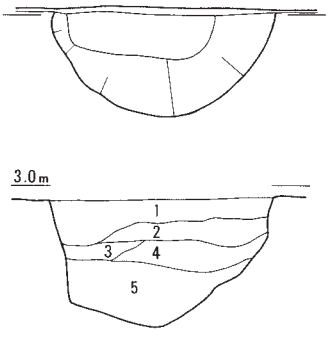
1．10YR5/1 褐灰色粘質土
2．5Y6/2 灰オリーブ色粘質土
3．10YR5/1 褐灰色粘質土
4．10YR5/1 褐灰色粘質土（灰オリーブ色シルトブロック混）



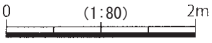
SK5303・SE5305

1．7.5YR5/2 灰褐色砂質土（灰白色シルトブロック混）
2．2.5Y5/2 黄灰色砂質土（灰白色シルトブロック混）
3．7.5Y5/1 灰色極細砂（緑灰色シルトブロック混）
4．7.5Y5/1 灰色極細砂
5．7.5Y5/1 灰色粘土質シルト
6．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
7．10YR4/1 褐灰色砂質土（灰白色シルトブロック混）
8．7.5Y5/1 灰色極細砂（緑灰色シルトブロック混）
9．7.5Y5/1 灰色粘土質シルト
10．10YR4/1 褐灰色粘砂（5cm 大礫多い）
11．10YR4/1 褐灰色粘砂（拳大礫・暗灰色シルトブロック混）
a．2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
b．5B6/1 青灰色砂質シルト
c．5B6/1 青灰色極細砂　　基盤層
d．N5/0 灰色砂礫（湧水層）



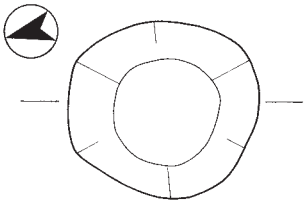


SK5299



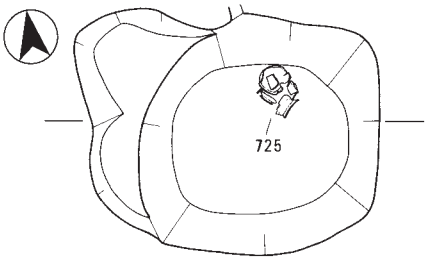
1．10YR5/3 にぶい黄橙色砂質土
2．10YR6/8 明黄褐色砂質土
3．10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土
4．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
5．10YR4/1 褐灰色粘質土

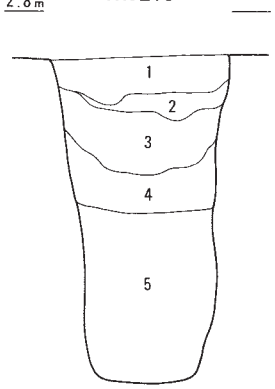
第43図　7-9区　井戸・土坑（1:40、SK5299のみ1:80）



SK5213

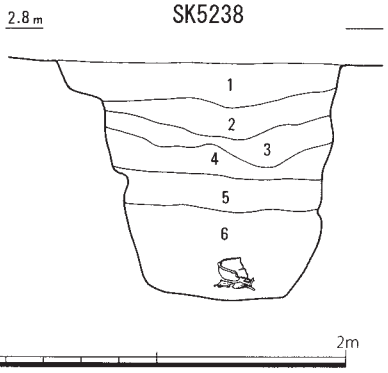
1．2.5Y6/2 灰黄色砂質土
（灰褐色シルトブロック混）
2．2.5Y5/1 黄灰色砂質土
3．2.5Y7/6 明黄褐色粘質土
（灰褐色シルトブロック混）
4．2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト
5．N4/0 灰色粘土質シルト

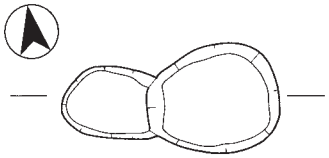


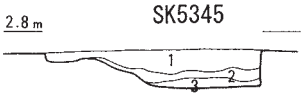


SK5238

1．10YR6/2 灰黄褐色砂質土
（黄褐色シルトブロック混）
2．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
（黄褐色シルトブロック混）
3．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
（黄褐色シルトブロック混）
4．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
（黄褐色シルトブロック混）
5．10YR4/2 灰黄褐色粘質土
6．5G4/1 暗緑灰色粘質土

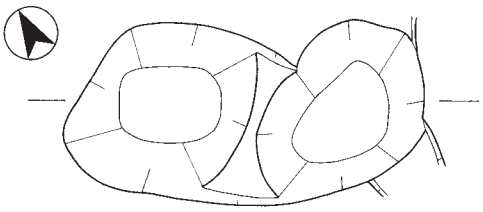


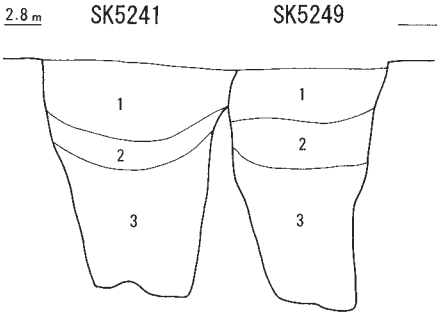




SK5345

1．2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（焼土わずかに含む）
2．炭層
3．1と同じ
4．5YR5/4 にぶい赤褐色粘質土（被熱）



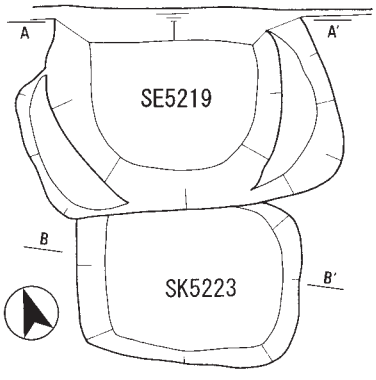


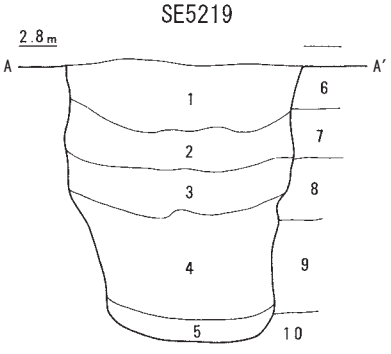
SK5241

1．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
（黄褐色シルトブロック混）
2．10YR5/1 褐灰色砂質土
（黄褐色シルトブロック混）
3．5PB4/1 暗青灰色粘質土

SK5249

1．10YR6/2 灰黄褐色砂質土
（黄褐色シルトブロック混）
2．10YR4/1 褐灰色砂質土
（黄褐色シルトブロック混）
3．5PB4/1 暗青灰色粘質土





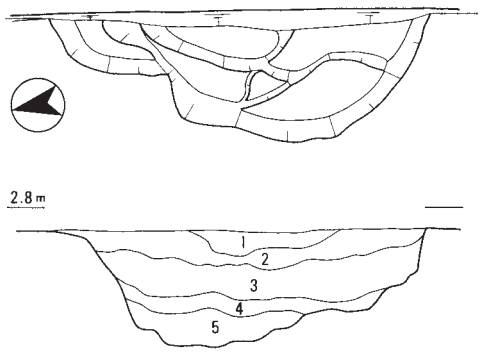
SE5219

1．10YR5/2 灰黄褐色粘質土
（黄褐色シルトブロック混）
2．10YR5/1 褐灰色粘質土
（黄褐色シルトブロック混）
3．2.5Y5/1 黄灰色粘質土
（オリーブ灰色シルトブロック混）
4．N5/0 灰色粘土質シルト（しまり弱い）
5．N5/0 灰色粘砂
6．2.5Y7/4 浅黄色シルト
7．7.5YR5/2 灰褐色シルト（腐植質）
8．5Y6/2 灰オリーブ色シルト
9．5B6/1 青灰色粘土質シルト
10．N6/0 灰色極粗砂（湧水層）
} 基盤層

SK5223

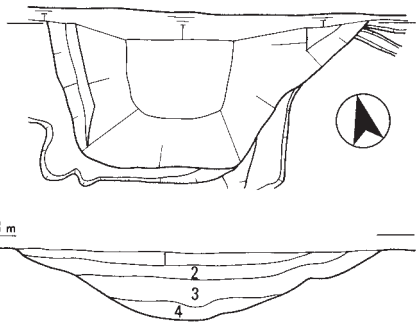
1．2.5Y5/1 黄灰色粘質土
（黄褐色・灰褐色シルトブロック混）
2．10YR5/1 褐灰色粘質土

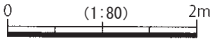
第44図　7-7～7-8区　井戸・土坑（1:40）



SK5261

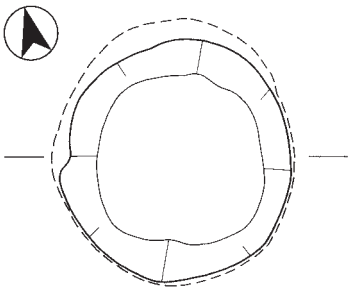
1．2.5Y6/3 にぶい黄褐色砂質土
2．10YR6/2 灰黄褐色砂質土
（下面に Fe 集積）
3．7.5YR5/1 褐灰色シルト
4．7.5YR5/1 褐灰色粘土質シルト

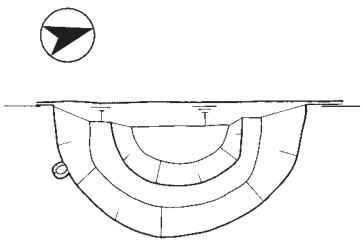




SK5212

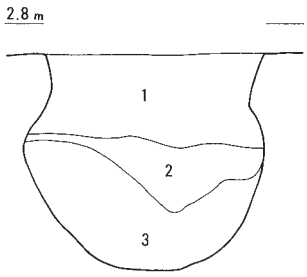
1．10YR5/1 褐灰色粘質土
2．10YR5/1 褐灰色粘質土（黄褐色・灰褐色シルトブロック混）
3．2.5Y5/1 黄灰色シルト（にぶい黄色シルトブロック混、斑鉄みられる）
4．7.5Y5/1 灰色粘土質シルト
5．2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト

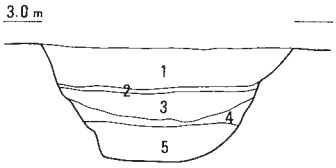




SK5268

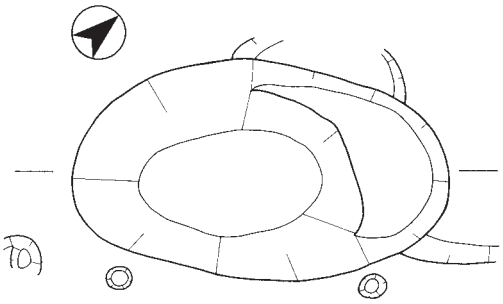
1．10YR5/6 黄褐色砂質土
（褐色シルトブロック混）
2．10YR4/1 褐灰色粘土質シルト
3．10YR3/1 黒褐色粘土質シルト

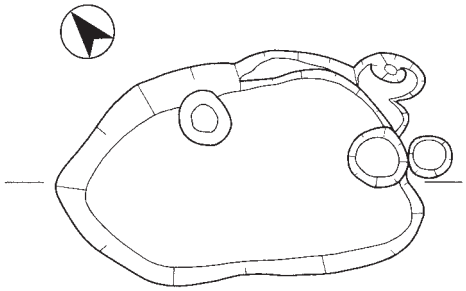


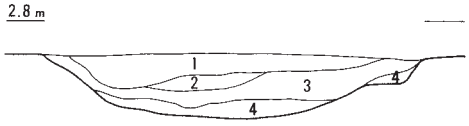


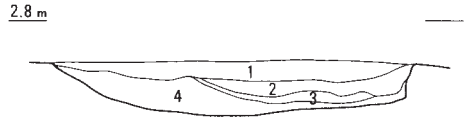
SK5278

1．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
2．10YR5/8 黄褐色砂質土
3．10YR4/1 褐灰色砂質土
4．5B3/1 暗青灰色粘土質シルト（礫混じる）
5．5B3/1 暗青灰色粘土質シルト







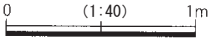


SK5277

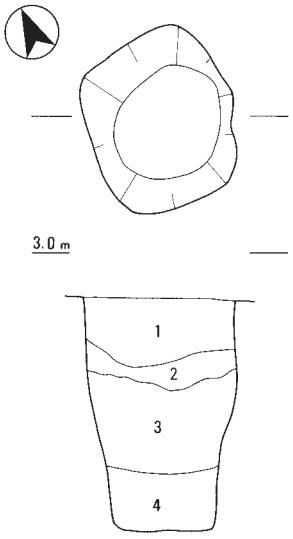
1．10YR6/2 灰黄褐色砂質土
2．10YR5/1 褐灰色砂質土
3．10YR4/2 灰黄褐色砂質土
4．10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土（明黄褐色シルトブロック混）

SK5314

1．10YR6/2 灰黄褐色砂質土
2．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
3．10YR2/1 黒色シルト
4．10YR3/4 暗褐色シルト

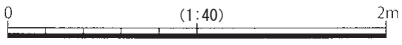


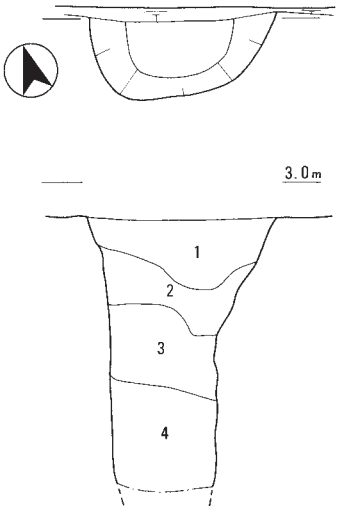
第45図　7-2～7-9区　土坑（1:40、SK5212・5261・5278は1:80）



SK5301

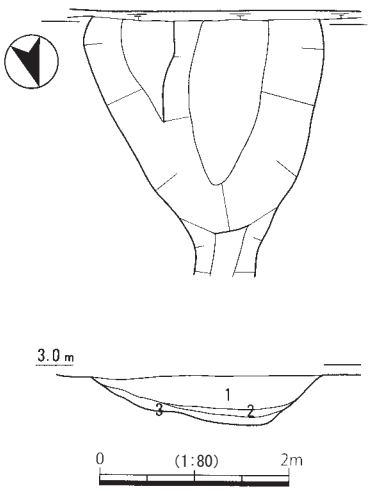
1．2.5Y5/1 黄灰色砂質土（浅黄色シルトブロック混）
2．2.5Y5/1 黄灰色砂質土（浅黄色シルトブロック多い）
3．2.5Y6/1 黄灰色砂質土（オリーブ灰色シルトブロック混）
4．5BG5/1 青灰色粘土質シルト





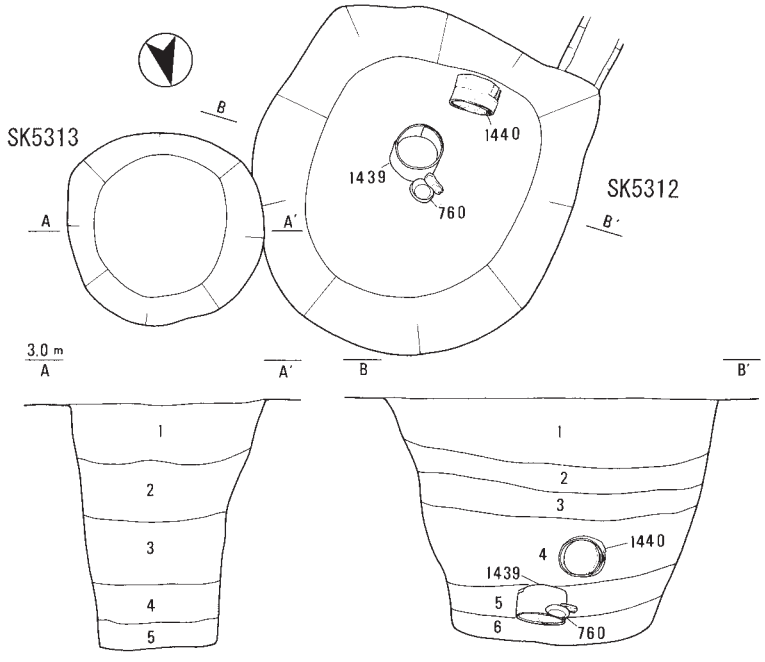
SK5321

1．2.5Y5/1 黄灰色砂質土
（にぶい黄色シルトブロック混）
2．10YR5/2 灰黄褐色粘質土
（Mn 多く含む）
3．5Y5/1 灰色粘土質シルト
（灰白色シルトブロック混）
4．10G4/1 暗緑灰色粘土質シルト
（青灰色シルトブロック混）



SK5308

1．2.5Y6/2 灰黄色シルト
（黄灰色シルトブロック混）
2．10YR6/1 褐灰色シルト（斑鉄みられる）
3．10YR5/1 褐灰色シルト（斑鉄みられる）

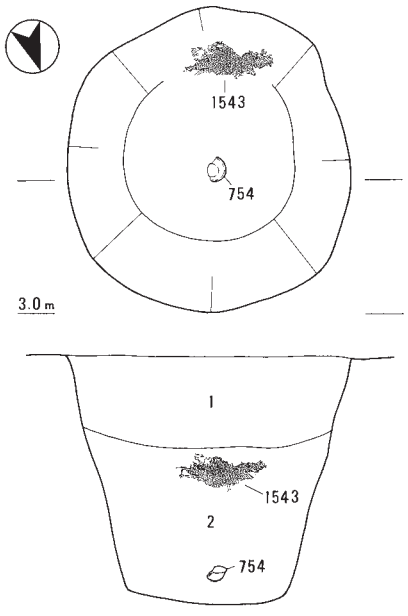


SK5313

1．10YR6/1 褐灰色粘質土（灰白色シルトブロック混）
2．10YR5/1 褐灰色粘質土（灰白色シルトブロック混）
3．10BG4/1 暗青灰色粘土質シルト
4．5BG5/1 青灰色粘土質シルト
5．7.5GY6/1 緑灰色砂質シルト

SK5312

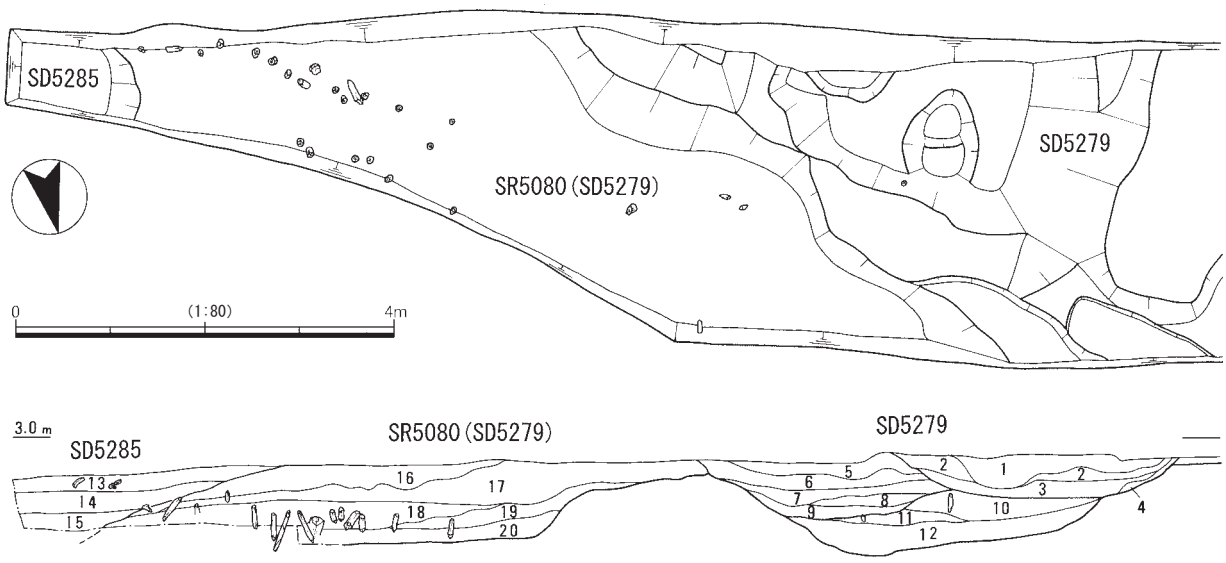
1．10YR5/2 灰黄褐色砂質土
2．5YR4/1 褐灰色粘質土
3．2.5Y4/1 黄灰色シルト（灰白色シルトブロック混）
4．2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト（緑灰色シルトブロック混）
5．5BG5/1 青灰色砂質シルト
6．7.5GY6/1 緑灰色砂質シルト



SK5295

1．10YR5/2 灰黄褐色粘質土
（灰白色シルトブロック混）
2．5B4/1 暗青灰色粘土質シルト

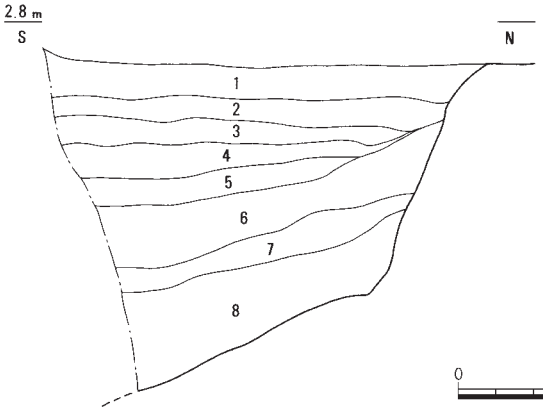
第46図　7-9区　土坑（1:40、SK5308は1:80）



SR5080・SD5279・5285

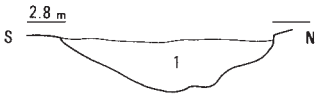
1．10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土
2．10YR3/4 暗褐色砂質土
3．10YR3/3 暗褐色砂質土
4．10YR3/2 黒褐色砂質土（腐植土）
5．10YR6/2 灰黄褐色砂質土
6．10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
7．10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土
8．10YR5/1 褐灰色シルト
9．10YR4/1 褐灰色シルト
（黄褐色シルトブロック混）
10．10YR5/6 黄褐色砂質土
11．10YR5/2 灰黄褐色シルト
12．10YR5/1 褐灰色粘土質シルト
（黄褐色シルトブロック混）
13．10YR5/2 灰黄褐色シルト（礫混）
14．10YR5/1 褐灰色シルト（礫混）
15．10YR4/1 褐灰色シルト（礫混）
16．10YR5/6 黄褐色砂質土
17．5PB4/1 暗青灰色粘土質シルト（細砂多い）
18．5B4/1 暗青灰色粘土質シルト
（植物遺体、流木を多く含む、「今林」墨書土器出土）
19．2.5Y5/1 黄灰色シルト（細砂多い）
20．5PB5/1 青灰色シルト

第47図　7-9区　溝・自然流路（全体図1:80、詳細図1:40）



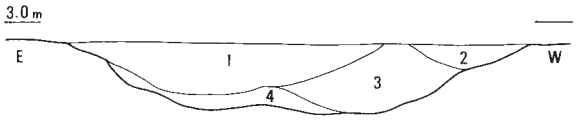
SR5080(SD5298)

1．10YR5/2 灰黄褐色シルト（底面に Fe 集積）
2．2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト（斑鉄著しい）
3．10Y6/1 灰色粘土質シルト
4．2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト
（微細な植物遺体をまばらに含む）
5．7.5Y4/1 灰色砂質シルト
6．2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト（植物遺体多い）
7．5B6/1 青灰色極細砂（植物遺体多い）
8．2.5Y2/1 黒褐色極細砂（植物遺体多い）



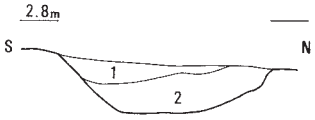
SD5289

1．10YR5/1 褐灰色粘質土



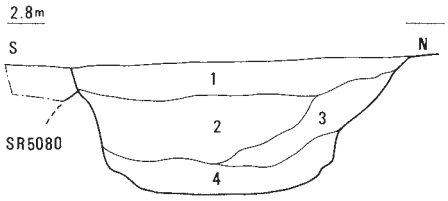
SD5290（調査区南壁）

1．2.5Y6/2 灰黄色粘質土
2．2.5Y6/2 灰黄色粘質土
3．2.5Y5/1 黄灰色粘質土
4．2.5Y6/1 黄灰色シルト



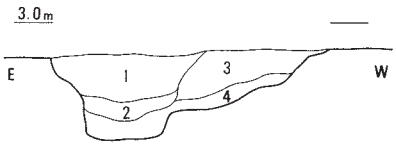
SD5306

1．10YR4/1 褐灰色粘質土（Mn 多い）
2．2.5Y4/1 黄灰色シルト



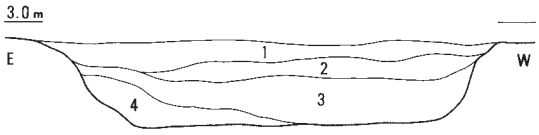
SD5297

1．10YR4/1 褐灰色粘質土
2．N4/0 灰色シルト（木片多い）
3．5Y5/1 灰色シルト（斑鉄みられる）
4．5PB4/1 暗青灰色粘土質シルト



SD5320（調査区南壁）

1．10YR5/1 褐灰色粘質土
2．10YR5/1 褐灰色粘質土（Fe 多い）
3．2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
4．N4/0 灰色砂質シルト



SD5327（調査区南壁）

1．5Y6/2 灰オリーブ色粘質土（にぶい黄色シルトブロック混）
2．2.5Y6/1 黄灰色粘質土（にぶい黄色シルトブロック混）
3．2.5Y5/1 黄灰色シルト（にぶい黄色シルトブロック混）
4．2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト

第48図　7-9区　溝断面図（1:40）

第３表　遺構一覧表

遺構番号	調査区	地区	時代・時期	規模（m）			主な出土遺物	備考（切り合いは古→新）
				長（径）	幅	深		
SK 5001	3-2	B-l14	弥生後	1.7	-	0.5	弥生土器高杯等	
SK 5002	3-2	B-ef12	中世Ⅱa	4.7	-	0.9	山茶碗、マツ球果 獣骨片	井戸かは不確実。SK5013 →
SK 5003	3-2	B-fg12	弥生後	2.6	-	0.8	弥生土器	→ SK5002
SK 5004	3-1	B-n14	古代	1.1	-	0.05	須恵器壺	
SD 5006	3-2	B-l13,14	中世Ⅱa	4.0	1.6	0.35	山茶碗	
SK 5007	3-2	B-h12,13	平安後	4.7	-	0.36	灰釉陶器	
SE 5008	3-2	B-g12	平安後～末	1.8	-	1.2	土師器、土師質土器、灰釉陶器、山茶碗等	縦板組、水溜は曲物１段（崩壊） 井戸枠材は扉板の転用あり
SK 5011	3-2	B-k14	中世	1.2	-	0.4	土師器片	
SD 5013	3-2	B-de12	平安後	5.0	1.7	0.4	土師器	→ SK5002
SD 5014	3-2	B-j14		1.2	0.6	0.15	土師器片	
SE 5015	3-2	B-b11	中世Ⅱa	2.0	-	1.3	土師器、山茶碗、白磁椀、渥美甕等多量	井戸枠最下部のみ残存、曲物１段（崩壊） 上層遺物は良好な一括資料
SD 5016	1-1	I-w14	弥生末～古墳初	2.5	2.3	0.25	土師器台付甕等	自然流路か
SK 5017	1-1	I-uv13	弥生後	2.2	-	0.2	弥生土器高杯	
SE 5018	1-1	I-u13	平安後～末	2.2	-	0.9	土師質土器、灰釉陶器、山茶碗	曲物１段（崩壊）
SD 5019	1-2	I-t11	平安前	-	1.5	0.4	土師器杯・皿 志摩式製塩土器片 墨書土器「南」、土錘	
SK 5020	1-2	I-t10	平安	1.4	1.1	0.1	土師器	
SD 5021	1-2	I-t8	弥生後	2.6	1.5	0.2	弥生土器	→ SK5024
SD 5022	1-4	I-t6	弥生後	4.6	1.5	0.1	弥生土器	
SD 5023	1-4	I-t5	弥生後	4.5	1.8	0.25	弥生土器	
SK 5024	1-2	I-t8	弥生後	1.2	-	0.4	弥生土器	SD5021 →
SK 5025	1-4	D-t23	弥生後	1.0	-	0.25	弥生土器	
SE 5026	1-2	I-t11	平安前	2.9	-	0.85	土師器杯・皿多数	井戸枠は最下部のみ残存。材は別の井戸枠材を転用。水溜は抜き取りか
SD 5027	1-2	I-t11	弥生後	-	-	0.15	弥生土器甕	SD5027 → SD5019 → SE5026
SD 5028	2-1	E-n17,18	平安	2.4	0.3	0.1	土師器、須恵器	SD5029 と連続する溝
SD 5029	2-1	E-mn17 他	平安	2.7	0.8	0.25	土師器、須恵器	
SK 5030	2-1	E-lm18	平安	2.2	-	0.1	土師器、須恵器	→ SD5029
SK 5031	2-1	E-k17	平安	1.7	-	0.35	土師器皿	
SK 5032	2-1	E-jk17	平安	1.8	-	0.1	土師器、須恵器片	→ SK5033
SK 5033	2-1	E-j17	平安	2.5	-	0.5	土師器片	
SD 5034	2-1	E-a17 他		6.5	-	0.1		
SK 5035	2-1	E-a17	弥生後	1.2	-	0.4	弥生土器甕	
SK 5036	2-1	D-y17	平安	1.0	-	0.7	土師器	
SE 5037	2-1	D-y17	平安後	1.7	-	0.8	灰釉陶器 完形の土師質土器椀	水溜は曲物１段（崩壊）、内部に礫を充填
SK 5038	2-1	D-wx17	平安	-	3.2	0.25	土師器	溝か
SD 5039	2-1	D-v17	平安後	1.8	1.4	0.2	土師器、灰釉陶器、黒色土器等	
SK 5041	2-1	D-x17	中世前期	2.3	-	0.35	土師器片	
SK 5042	1-4	D-u15,16	弥生後	2.4	-	0.4	弥生土器	
SD 5043	2-3	D-tu14	平安後～中世Ⅱ	29.0	2.3	0.5	土師器、山茶碗 加工円盤	蛇行する溝 SD5055・SD5049 →
SD 5044	1-4	D-u14	平安	3.4	0.5	0.15	土師器杯	
SK 5045	2-1	D-q17	中世前期	1.0	-	0.05		
SD 5046	2-1	D-q17	中世前期	1.9	1.2	0.05		
SD 5047	2-1	D-m17	中世前期	1.9	0.7	0.15	土師器甕	
SD 5048	2-1	D-lm17	中世前期	1.9	1.8	0.2		
SD 5049	2-3	D-t14	中世前期	23.2	0.5	0.05		SD5049 → SD5043
SD 5050	2-3	D-s14	中世前期	6.6	0.9	0.1		
SD 5051	2-3	D-r13	中世前期	4.6	0.35	0.1		
SK 5052	2-3	D-q15	中世Ⅱa	1.4	-	0.05	山茶碗	不定形
SK 5054	2-3	D-no15		2.0	-	0.2		→ SD5043
SD 5055	2-3	D-op14 他		6.1	0.6	0.15		→ SD5043
SK 5056	2-3	D-mn15		2.5	-	0.3		
SD 5057	2-3	D-m15		2.6	0.7	0.15		

遺構番号	調査区	地区	時代・時期	規模（m）			主な出土遺物	備考（切り合いは古→新）
				長（径）	幅	深		
SK 5058	2-1	D-j17		1.5	-	0.1	土師器片	
SB 5059	1-4	D-tu18 他	中世Ⅱ	2 × 3 間以上			土師器、山茶碗	N15° E 東西棟、総柱建物
SB 5060	1-4	D-tu17 他	平安前	2 × 2 間以上			土師器、須恵器 灰釉段皿	N5° E 東西棟、側柱建物
SK 5061	1-3	I-u9	弥生後	0.7	-	0.06	弥生土器	
SK 5062	1-3	I-u9	平安	1.0	-	0.25	土師器甕	
SK 5063	1-3	I-v9	平安	1.0	-	0.3		
SD 5064	1-3	I-v9	平安	3.1	0.6	0.2		
SE 5065	1-3	I-w9	平安後	2.4	-	1.3	土師器、灰釉陶器 志摩式製塩土器	曲物抜き取り痕
SK 5066	1-3	I-x9	平安	2.4	-	0.4	土師器、須恵器片	
SE 5067	1-3	I-xy9	平安後～末	2.7	-	1.5	黒色土器、緑釉陶器、小型曲物、陶製土錘、て字状口縁皿、小型曲物、火付木、紡織具？、モモ・スモモ核等	縦板組、水溜は曲物２段。曲物の周囲を榑板で補強する。比較的稀少な遺物が多い
SB 5068	1-3	I-v9	平安（古代）	1 × 2 間以上			土師器片	N70° E 東西棟、側柱建物
SB 5069	1-3	I-xy9	平安（古代）	3 × 2 間以上			土師器片	N21° E 南北棟、側柱建物
SX 5070	1-3	J-c9		4.4	2.0	0.05		不定形落ち込み
SD 5072	1-3	J-d9	弥生末～古墳初	4.6	3.0	0.1	土師器台付甕、高杯等	自然流路か。SD5016 の延長
SD 5073	5-4	A-j17		3.5	0.7	0.1		→ SK5074
SK 5074	5-4	A-jk17		3.6	-	-		完掘できず
SK 5077	5-4	A-p18	平安	1.8	-	0.1	土師器・須恵器	
SK 5078	5-4	A-q18	中世Ⅱa	0.8	-	0.15	山茶碗	
SK 5079	5-4	A-q18	飛鳥	1.2	-	0.2	土師器・須恵器	
SR 5080	5-4 他	A-t19 他	平安～室町	-	19.0	1.8	墨書・刻書土器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、志摩式製塩土器、加工円盤、鉄滓等	大規模な自然流路。複数地点で検出 第２次調査 SR210 の延長
SK 5081	6-1	K-cd7 他	江戸～	1.0	-	0.3	瓦、陶磁器	早桶を据える。溜井ないし肥溜めか
SD 5082	6-1	K-cd12	中世Ⅱ	20.0	1.0	0.2	山茶碗	SD5101 →
SD 5083	6-1	K-cd13	中世Ⅱ	57.0	1.0	0.3	山茶碗、墨書土器、青磁	→ SD5082・SD5084
SD 5084	6-1	K-cd12 他	中世Ⅱ	2.9	1.1	0.2	山茶碗、青磁椀	
SK 5085	6-1	K-cd11	中世Ⅲ	-	1.0	0.3	古瀬戸天目茶碗	SD5083 →
SD 5087	6-1	K-d9	平安後～末	60.0	1.2	0.3	土師器、灰釉陶器、山茶碗、加工円盤	SD5092 → SD5087 → SD5083
SK 5089	6-1	K-d8	中世	2.3	-	1.0		
SD 5090	6-1	F-d25	古代	1.8	0.5	0.2		
SK 5091	6-1	F-d23,24	古代	2.9	-	0.9		
SD 5092	6-1	F-d22	平安後	17.0	1.0	0.25	灰釉陶器	
SK 5093	6-1	F-d16,17		2.5	-	1.2		
SD 5094	6-1	F-d14	中世Ⅱ	15.0	-	0.1	山茶碗	
SD 5095	6-1	F-d13 他	飛鳥	21.0	1.5	0.3	鞴羽口、鉄滓片多数	
SK 5096	6-1	F-d15	中世	1.9	-	0.8		
SD 5098	6-1	F-e11	平安前	83.0	1.1	0.35	土師器杯・皿	SK5115 →
SD 5100	6-1	F-e2	古代？	1.3	0.5	0.15		
SD 5101	6-2	K-e12,13	中世Ⅱ	-	2.2	0.6	土師器、山茶碗、鉄滓	→ SD5082
SD 5102	6-2	K-h12,13 他	古代	2.7	1.1	0.3	土師器	
SK 5103	6-2	K-f12	中世Ⅱ	0.8	-	0.6	山茶碗	
SD 5106	6-2	K-i12	古代	2.4	1.9	0.7		
SK 5107	6-2	K-n12	中世Ⅱb	0.9	-	1.5	土師器、山茶碗 陶器片口鉢	内面煤付着する土器多い
SD 5108	6-2	K-o12	中世	-	-	-		SD5102 の延長か
SK 5110	6-2	K-o12	中世	1.2	0.8	0.35		
SD 5111	6-2	K-p12	中世	2.5	1.1	0.05		
SD 5114	6-2	K-q12	中世	2.5	0.6	0.15		
SK 5115	6-1	F-e1		1.1	0.5	0.3		
SD 5116	6-2	K-r12	中世Ⅱ	2.5	0.8	0.4		
SK 5117	6-2	K-r12	中世Ⅱa	2.5	-	-	山茶碗	完掘できず
SK 5118	T8-2	G-e4	古代	0.8	-	0.2	土師器鍋片	
SK 5119	T8-2	G-e3	中世Ⅱa	1.5	-	0.8	山茶碗、土師器鍋 火付木等	残りの良い土器がまとまって出土
SD 5122	8-2	G-e9	古代	5.0	-	0.1	土師器片	
SK 5123	8-2	G-e8	平安	1.5	-	0.05	土師器片	

遺構番号	調査区	地区	時代・時期	規模（m）			主な出土遺物	備考（切り合いは古→新）
				長（径）	幅	深		
SK 5124	8-2	G-e6	飛鳥	0.6	-	0.2	須恵器杯、壺	
SK 5127	8-2	G-e7,8	古代	2.3	-	0.15	土師器、須恵器片	
SR 5128	6-1	F-cd18	飛鳥	-	5.0	0.65	鉄滓、土師器片	→ SD5092・SK5093 等
SK 5129	8-2	G-e9	中世	1.0	-	0.35	山茶碗、土師器片	
SK 5130	8-2	G-e8	中世Ⅱa	0.9	-	0.05	山茶碗	
SK 5131	8-2	G-e9	平安後～末	-	-	0.6	土師器、灰釉陶器、山茶碗、志摩式製塩土器等	
SD 5132	5-3	B-d25	平安後～末	-	-	0.5	墨書土器「盛法寺」、被熱痕のある土師器皿、土師質土器	浅い溝と土坑（径 2.7m）が重複するが、調査時は一連の遺構として掘削。 遺物は土坑部分のもの。祭祀関係遺物か
SK 5133	5-3	B-d24	中世Ⅲb	2.6	-	0.65	土師器、古瀬戸花瓶等	
SD 5134	5-3	B-d23	古代	1.9	0.65	0.35		
SE 5135	5-2	G-g11	平安後～末	1.3	-	1.25	土師質土器、山茶碗 砥石	曲物抜き取り痕
SE 5136	5-2	G-f11	中世Ⅱa	1.9	-	1.6	墨書土器（山茶碗）等	曲物２段、礫裏込め 山茶碗は内面煤付着するもの多い
SD 5138	5-2	G-f11	中世Ⅱ	-	0.65	0.5	山茶碗	U字形（芯心間 3.0m）、墳墓周溝？
SK 5139	5-2	G-e12	中世Ⅱ	1.4	-	0.9		
SD 5140	5-2	G-e11	中世前期	3.6	-	0.05		→ SK5139 SR5080 南岸か
SK 5141	5-2	G-g11	平安？	4.1	-	0.25		浅い方形大型土坑、井戸・土坑群に切られる SB5181 →
SE 5142	5-2	G-f12	中世Ⅱa	1.7	-	1.25	方形曲物底板、山茶碗等	曲物抜き取り痕 → SK5139
SD 5143	5-2	G-i11	弥生後	3.2	1.2	0.4	弥生土器壺・高杯等	
SK 5145	5-2	G-i12	中世Ⅱ	-	-	-		
SK 5146	5-2	G-h12	中世前期	-	-	0.1		
SK 5147	5-2	G-m12		1.6	-	0.05		
SD 5148	5-2	G-l12 他	中世Ⅱa	42.0	1.2	0.4	土師器、山茶碗、土錘 渥美甕、砥石	SE5150 → SD5148 → SK5147
SD 5149	5-2	G-no12		-	1.4	0.25		
SE 5150	5-2	G-p12	中世Ⅱ	1.6	-	0.7	山茶碗	曲物抜き取り痕
SD 5155	5-1-3	G-w12,x13	平安後	32.0	0.9	0.25	土師器、土錘等	
SD 5156	5-2	G-w12	中世Ⅱ	3.2	0.4	0.1		
SD 5157	5-2	G-v12		3.7	0.4	0.1		
SK 5158	5-2	G-v11	中世前	1.0	-	0.2	土師器皿	
SD 5160	5-1-2	H-b20	古代	2.9	0.7	0.05	須恵器	
SD 5162	5-1-3	H-b20		2.2	0.6	0.15		
SD 5164	5-1-1	H-cd21		2.0	0.7	0.1		
SD 5165	5-1-3	H-b19,20	中世Ⅳa	2.0	2.2	0.8	土師器皿、平瓦、獣骨	二股の溝、SD5161・5163 を統合
SD 5166	7-1	L-bc21,22	平安後～末	10.0	6.2	0.4	土師器、土師質土器 灰釉陶器、山茶碗	A ～ C の三時期あり
SK 5167	7-1	L-b20	中世Ⅱb	1.5	-	1.1	土師器、山茶碗	
SK 5168	7-1	L-bc18	中世Ⅱb	2.0	-	1.3	土師器、山茶碗 陶器片口鉢	
SD 5170	7-1		平安後～末	-	-	-	灰釉陶器、山茶碗、土錘	SD5166 底面の小溝
SD 5172	7-1	L-bc14,15	中世Ⅱb	22.0	5.4	1.0		条里坪境の可能性あり
SD 5176	7-1	L-a12	古代	10.0	0.8	0.1		→ SB5177
SB 5177	7-1 6-3	L-a12 K-y12	平安前	5 × 2 間以上			須恵器杯、土師器皿片	柱穴掘形は１辺 80cm の方形、柱痕径約 30 cm N14° E、南北棟、側柱建物 堀町遺跡で最大級の建物 SD5176 → SB5177 → SD5172
SD 5180	7-1	K-x12	中世Ⅱ	25.0	1.2	0.4	山茶碗、常滑壺	断面Ｖ字状
SB 5181	5-2	G-g12	平安（古代）	2 × 2 間以上			土師器、土錘 志摩式製塩土器片	N0° E 東西棟、側柱建物 → SK5141
SB 5182	5-2	G-v12	平安	2 × 2 間以上				N33° E、建替えあり
SD 5186	7-1	L-c13		2.3	0.6	0.15		
SE 5187	8-1	L-d17	中世Ⅱa	2.1	-	2.3	白磁水注、山茶碗 土師器、小型曲物 オニグルミ核、鉄滓等	縦横板組横桟止め、曲物２段 井戸枠は建築部材（闥など）を多く含み、構築過程が明確である → SK5210
SK 5189	8-1	L-d16	中世Ⅱa	1.3	-	1.2	土師器、山茶碗	SD5087・5083 →
SD 5190	8-1	L-e11		-	-	-		SD5180 の延長
SK 5191	8-1	L-e12		0.9	-	0.3		→ SD5190
SD 5192	8-1	L-d11		1.6	0.9	0.1		
SK 5193	8-1	L-e6	中世Ⅱa	1.7	-	1.2	山茶碗	SK5196 →

遺構番号	調査区	地区	時代・時期	規模（m）			主な出土遺物	備考（切り合いは古→新）
				長（径）	幅	深		
SE 5194	8-1	L-d7	中世Ⅱa	1.7	1.4	1.3		井戸枠は抜き取りか SK5195 →
SE 5195	8-1	L-d7	中世Ⅱa	1.3	-	1.35		縦板組、曲物２段（上段は崩壊） → SK5194
SK 5196	8-1	L-e6	中世Ⅱ	1.8	-	1.4	土師器、山茶碗	→ SK5193
SK 5197	8-1	L-e3	中世Ⅱa	1.7	-	1.3	土師器、山茶碗	
SE 5198	8-1	L-e2	中世Ⅱa	1.6	-	1.2	山茶碗	曲物２、ともに崩壊
SE 5201	8-1	G-e25	平安後	2.7	-	2.0	灰釉陶器、青磁杯 完形の土師質土器椀	縦板・横板組横桟止め、曲物３段 井戸枠材は建築部材（閾など）を多く含む
SK 5202	8-1	G-e23	平安前	2.1	-	0.3	土師器杯・甕、須恵器瓶	
SK 5205	8-1	G-e22		1.2	-	0.2		
SD 5206	8-1	G-e21	中世Ⅱb	2.0	0.7	0.3	土師器、山茶碗	
SK 5207	8-1	G-d22	中世Ⅱa	1.7	-	1.4	土師器、山茶碗	
SD 5208	8-1	G-e19	中世Ⅱ	2.1	0.8	0.1		
SD 5209	8-1	G-e21	中世Ⅱ	2.0	1.0	0.4	山茶碗	
SK 5210	8-1	L-d17	中世Ⅱ	1.2	-	-	山茶碗	SE5187 →
SB 5211	8-1	G-e19,20	中世Ⅱ	１×２間以上				N10° E 東西棟、総柱建物
SK 5212	7-3	P-b5	中世Ⅱ	3.5	-	1.2	ウマ歯	
SK 5213	7-2	P-b5	中世	1.0	-	1.7		
SK 5214	7-4	O-X5	中世	1.3	0.9	0.25		
SD 5215	7-2	P-b5	中世	3.3	-	0.4		
SD 5216	7-3	O-Y5	中世	3.3	0.6	0.15		
SK 5217	7-4	O-w6	中世前期	0.8	-	0.2		
SE 5218	7-4	O-v7	中世Ⅲb	1.7	1.2	1.8	土師器鍋、常滑甕 陶器片口鉢、瓦質土器	結物１段・曲物１段 SK5221 →
SE 5219	7-5	O-u8	中世Ⅱa	1.5	-	1.5	山茶碗、木槌	底面から湧水 SK5223 →
SK 5220	7-4	O-w7	-	-	-	-	-	SE5218 井戸枠内を別遺構としていたもの
SK 5221	7-4	O-v7	中世Ⅱb	2.2	-	1.4	土師器、山茶碗、青磁椀	→ SK5218
SK 5223	7-5	O-v8	中世Ⅲ	1.2	0.9	0.2	土師器	→ SK5219
SD 5225	7-5	O-u10	中世Ⅱ	18.0	0.6	0.2	土師器鍋	
SK 5226	7-5	O-v11	中世Ⅱb	2.3	2.0	0.3	土師器、山茶碗、鉄滓	SD5225 →
SK 5227	7-5	O-v13	中世Ⅱ	1.6	-	0.1	土師器、山茶碗	SB5344 の南東隅土坑 SD5225 →
SK 5228	7-5	O-v14	中世Ⅱ	1.6	-	0.1	土師器、山茶碗	掘立柱建物の南東隅土坑か SD5225 →
SE 5230	7-6	O-u15	中世Ⅱ～Ⅲ	1.4	-	1.6	土師器、山茶碗	結物抜き取りか（楔・箍残存）
SD 5234	7-6	O-s22	平安前	2.9	0.7	0.1	土師器甕	
SD 5235	7-7	O-rs23	中世	2.5	0.6	0.03	土師器甕	
SK 5238	7-5	O-v16	中世Ⅱ	1.3	-	1.1	土師器鍋	
SK 5241	7-5	O-v17	中世	0.9	-	1.2		→ SK5249
SK 5242	7-7	Q-s3	中世	0.8	-	0.4		
SD 5243	7-7	Q-rs1,2	中世Ⅳ	3.1	3.9	1.0		
SK 5245	7-5	O-v17	中世Ⅲb	1.3	-	1.0	土師器鍋、羽釜、陶器鉢	
SK 5247	7-7	Q-s3	中世Ⅲ	2.2	1.2	0.55		楕円形
SK 5248	7-7	Q-r3	中世Ⅳ	2.0	1.1	0.2	巴文軒丸瓦	楕円形
SK 5249	7-5	O-v17		0.9	-	1.2		SK5241 →
SD 5250	7-7	Q-s3	中世後期	-	1.0	0.3		
SK 5251	7-5	O-v17	中世Ⅲ	-	-	0.2	土師器鍋	
SD 5252	7-7	Q-r3 他	中世Ⅲ	-	-	0.1	土師器、古瀬戸	落ち込み状
SK 5254	7-5	O-v16	中世Ⅱ	0.9	-	0.45		
SD 5256	7-7	Q-r8 他	中世Ⅳ	18.0	0.6	0.18	土師器、瀬戸美濃花瓶 常滑鉢等	
SK 5257	7-7	Q-r10	中世Ⅱa	1.3	0.7	0.35	山茶碗	
SD 5258	7-7	Q-r8 他	中世Ⅳ	7.0	-	0.25	土師器、信楽擂鉢	
SK 5259	7-7	Q-r9	中世Ⅳ	1.7	-	0.2		
SK 5260	7-7	Q-r10,11	中世Ⅳ	3.3	-	0.35		方形の大型土坑
SK 5261	7-7	Q-s3	中世	3.4	-	0.7		SK5246、5255 を統合
SD 5263	7-8	Q-s11	中世後期	2.8	0.8	0.05		
SD 5264	7-7	Q-s9	古代	-	0.8	0.03		不定形
SD 5266	7-7	Q-s8	平安前	-	-	0.1	土師器皿	
SK 5268	7-8	Q-s11	中世	1.3	-	1.1		
SD 5269	7-8	Q-s11	中世	-	-	0.05		

遺構番号	調査区	地区	時代・時期	規模（m）			主な出土遺物	備考（切り合いは古→新）
				長（径）	幅	深		
SK 5270	7-8	Q-u11	中世	1.7	0.9	0.2		隅丸長方形
SK 5272	7-8	Q-x11	中世	2.8	-	0.4		SR5080 埋没後
SK 5273	7-8	Q-x11	中世Ⅳ	0.9	-	0.15		SR5080 埋没後
SK 5274	7-8	Q-w11	中世	1.3	0.6	0.1		SR5080 埋没後
SD 5276	7-8	Q-t11	中世Ⅱ	5.0	0.8	0.2		
SK 5277	7-8	R-b11	中世Ⅳ	2.0	1.2	0.35	土師器	楕円形 SK5282 →
SK 5278	7-8	R-c11	中世	2.6	-	1.2		
SD 5279	7-9-1	R-c13	中世Ⅱ～Ⅳ	2.5	5.0	1.0	墨書土器「今林」 漆器椀、砥石、モモ核等	SR5080 との境界に井堰・杭列あり。下部は筵敷き（ヒノキ製）。断面で時期の変遷を確認調査時は SR5080 相当部も含めて掘削したため、遺物が混在している
SK 5280	7-8	R-b11	中世Ⅳ	3.2	-	0.45	常滑鉢、加工円盤	
SK 5281	7-8	R-a11	中世	2.5	-	0.15		不定形
SK 5282	7-8	R-a11	中世	1.2	-	0.1		→ SK5277
SK 5284	7-9-1	R-c12	中世	1.2	1.2	0.1		隅丸方形
SD 5285	7-9-1	R-c14,15	中世Ⅳb・c	-	-	-	土師器、瀬戸美濃皿 常滑甕、青磁椀、下駄等	SR5080 埋没後
SD 5287	7-9-2	R-c20	中世後期	-	0.2	0.05	土師器皿	SD5289 →
SK 5288	7-9-2	R-c20	中世Ⅳ	2.1	-	0.1	土師器皿	SR5080 埋没後
SD 5289	7-9-2	R-c20 他	中世Ⅳb	24.0	1.7	0.3	土師器、常滑甕 加工円盤等	SR5080 埋没後
SD 5290	7-9-2	R-c24	中世Ⅳc	3.3	2.4	0.3	土師器、常滑鉢 加工円盤等	SR5080 埋没後
SD 5291	7-9-2	R-c25	中世Ⅳ	-	0.7	0.25	土師器	
SK 5292	7-9-2	T-c4	平安後	2.4	-	0.15	灰釉陶器	
SD 5293	7-9-4	T-c10,11	中世Ⅳ	8.5	-	0.1		
SK 5295	7-9-4	T-c15	中世Ⅲ	1.5	-	1.3	土師器、山茶碗、籠	
SK 5296	7-9-4	T-c16	中世Ⅲ	1.8	-	0.05		
SD 5297	7-9-2	T-c2 他	中世Ⅳc	7.0	1.4	0.7	灯明皿含む完形の土師器皿等	SR5080 埋没後
SD 5298	7-9-2	T-c1 他	平安～	-	-	1.8	墨書土器「戌亥」ヵ等	SR5080 の延長
SK 5299	7-9-4	T-c19	中世Ⅱa	2.3	-	1.3	山茶碗	
SK 5301	7-9-4	T-c21	中世Ⅲ	0.9	0.8	1.2		
SK 5302	7-9-4	T-c25	中世Ⅳ	1.6	-	0.5		
SK 5303	7-9-4	T-c25	中世Ⅲb	1.6	-	1.4	土師器、瓦質土器片	SE5329 → SK5303 → SK5302
SK 5304	7-9-4	T-c25	中世Ⅲ	1.4	-	1.7	土師器、瓦質土器片	SE5329 →
SE 5305	7-9-4	T-c25	中世Ⅲb	1.8	-	2.0	土師器、砥石	結物抜き取り、曲物１段 SE5305 → SK5329、SK5303、SK5302
SD 5306	7-9-2	T-c1,2	中世Ⅳb・c	5.5	1.1	0.3	土師器、常滑鉢	SR5080 埋没後
SK 5308	7-9-2	R-c25	中世Ⅳb	2.5	-	0.45	土師器鍋多量、漆器椀	SR5080 埋没後
SK 5309	7-9-3	T-c8	中世Ⅳ	3.1	-	0.6	土師器	
SK 5310	7-9-3	T-c6,7	中世Ⅳ	-	-	0.6	土師器鍋	
SK 5311	7-9-4	T-c13	中世Ⅲb	2.0	-	0.03		
SK 5312	7-9-4	T-c14	中世Ⅲb	1.7	-	1.3	小型曲物２、曲物蓋	SK5312 → SK5313
SK 5313	7-9-4	T-c14	中世Ⅲb	1.1	-	1.3		SK5312 → SK5313
SK 5314	7-7	Q-s5	中世Ⅳ	1.9	1.2	0.2	土師器、瀬戸美濃	楕円形
SR 5315	7-8	Q-wx11		-	-	-		SR5080 の延長
SE 5316	7-9-4	T-c21	中世Ⅱ？	2.0	-	1.2	山茶碗、常滑広口壺 火付木	結物抜き取り、曲物２段（上段は崩壊） SK5301 → SE5316 → SE5323
SE 5317	7-9-4	T-b21	中世Ⅲb	1.2	-	0.8	土師器皿	曲物１段、籠２（腐朽）
SE 5319	7-9-4	V-b3	中世Ⅲb	2.5	1.9	2.4	古瀬戸折縁鉢・水滴 青磁椀、土師器、火付木 貝	結物１段、曲物１段
SD 5320	7-9-4	T-c20	中世Ⅳb・c	3.1	1.5	0.5	土師器、常滑鉢 瀬戸美濃天目茶椀	SK5324・SD5300 を統合
SK 5321	7-9-4	T-b24	中世	1.0	-	-		完掘せず
SE 5323	7-9-4	T-c21	中世Ⅲb	2.2	-	1.2	土師器、曲物底板	縦板組、曲物１段 井戸枠材は建築部材を多く含む SE5316 →
SE 5325	7-9-4	V-b8	中世Ⅲ	2.0	1.5	1.8	土師器片	結物抜き取り、曲物１段 → SE5326
SE 5326	7-9-4	V-c8	中世Ⅳ	3.8	-	-	常滑片口鉢、瀬戸美濃天目茶椀、火付木	結物の板材１枚残存 SE5325 →
SD 5327	7-9-4	V-bc9	中世Ⅳ	3.1	2.4	0.45	土師器、常滑鉢 土製支脚、加工円盤	

遺構番号	調査区	地区	時代・時期	規模（m）			主な出土遺物	備考（切り合いは古→新）
				長（径）	幅	深		
SE 5328	7-9-4	V-c6	中世Ⅳ	2.1	-	1.6	常滑片口鉢、土師器 瓦質火鉢	結物積み上げ（２段） 上段結物は SE5326 井戸枠材を転用した可能性
SE 5329	7-9-4	T-c25	中世	-	-	1.7	土師器	
SD 5330	7-9-2	R-c25	古代	-	0.8	0.3		
SK 5331	7-9-2	R-c19	中世Ⅳ	4.0	-	0.4	青磁椀	SR5080 埋没後の遺構、断面でのみ確認
SK 5332	7-9-3	T-c6	中世	-	-	-		SK5310 内（一連の遺構か？） 遺物は SK5310 として取り上げ
SB 5334	7-2	P-bc5		1 × 1 間以上				N10° E、柱穴重複
SB 5335	7-3	O-x5	中世	1 間以上の柱列			土師器	N12° E、根石あり
SB 5336	7-4	O-w6,7	中世	1 × 1 間以上			土師器、山茶碗	N13° E、根石あり
SB 5337	7-5	O-v8 他	平安後	3 間分の柱列			土師器、黒色土器	N16° E 東西棟、柱穴やや大きい
SB 5338	7-5	O-v8 他	中世Ⅱ	3 間分の柱列			土師器、山茶碗	N16° E 東西棟
SB 5339	7-5	O-v10	中世Ⅱb	1 × 1 間			土師器皿、山茶碗	N14° E
SB 5340	7-5	O-u10,11	中世Ⅱ	2 間分の柱列			土師器皿、山茶碗	N20° E
SA 5341	7-5	O-v11 他	中世Ⅱ	5 間分の柱列			土師器皿、山茶碗	N15° E 東西
SB 5342	7-5	O-v12	中世Ⅱ	2 × 2 間			土師器	N24° E 南北棟
SB 5343	7-5	O-v12	中世Ⅱ	1 × 1 間			土師器	N13° E
SB 5344	7-5	O-v8 他	中世Ⅱ	3 × 1 間以上			土師器	N19° E 東西棟、南東隅土坑 SK5227 あり
SK 5345	7-5	O-u9		1.1	0.6	0.1		底～壁面被熱。カマドないし炉の下部構造か Pit2・3 を変更。

Ⅳ　遺　物

1．出土遺物の概要

第５次調査の出土遺物は土器･陶磁器･瓦･石製品･鉄製品・木製品などで、総量はコンテナ換算で189箱、537.3kg（整理前、木製品を除く）である。他に、井戸枠材を中心とする大量の木製品がある。

遺物の時期は弥生時代後期から室町時代に及び、ごくわずかに江戸時代のものも含む。遺物は種類ごとに分け、土器（土製品・石製品含む）、金属製品、木製品の順に記す。各遺物の詳細については遺物観察表（第４表）を参照されたい。大角遺跡の出土遺物（第121図）は別に示す。

各時代の出土遺物は以下のとおりである(1)。

弥生・古墳時代　主に土坑や溝から弥生後期、弥生末～古墳時代初頭の土器が出土している。

飛鳥時代　6-1区ＳＤ5095から、鞴羽口や椀形滓の小片などが出土していることが特筆されよう。

平安時代　平安前期、平安後期の遺物が多い。緑釉陶器はごく少なく、灰釉陶器や黒色土器もさほど多くないが、井戸出土遺物には、完形の土師質土器（ロクロ土師器）椀や、京都系のて字状口縁皿などの良好なものがある。

平安末～鎌倉時代　南伊勢系土師器の成立期である中世Ⅱａ期（12世紀末～）から遺物量が増加する。

山茶碗はすべて南部系であり、尾張型、渥美型（湖西窯産は不明）の別を記す。本遺跡における両者の比率は、中・南勢地域の一般的なあり方といえ(2)、わずかに尾張第３型式がみられた後は渥美型が卓越し、第６型式以降は尾張型の比率が高まる。

室町時代　中世Ⅲａ期（南北朝期）の遺物は少なく、中世Ⅲｂ期（室町時代）に至って遺物量は増加する。中世Ⅳ期（戦国期）の南伊勢系土師器は特に多い。その中でも、鍋Ｃと呼ばれる寸胴形の鍋が目立ち、比較的完形に近い状態で出土している。貿易陶磁は青磁や粗製の染付皿がみられる。古瀬戸～瀬戸美濃、常滑等も含め、量は少ない。

2．範囲確認調査の遺物

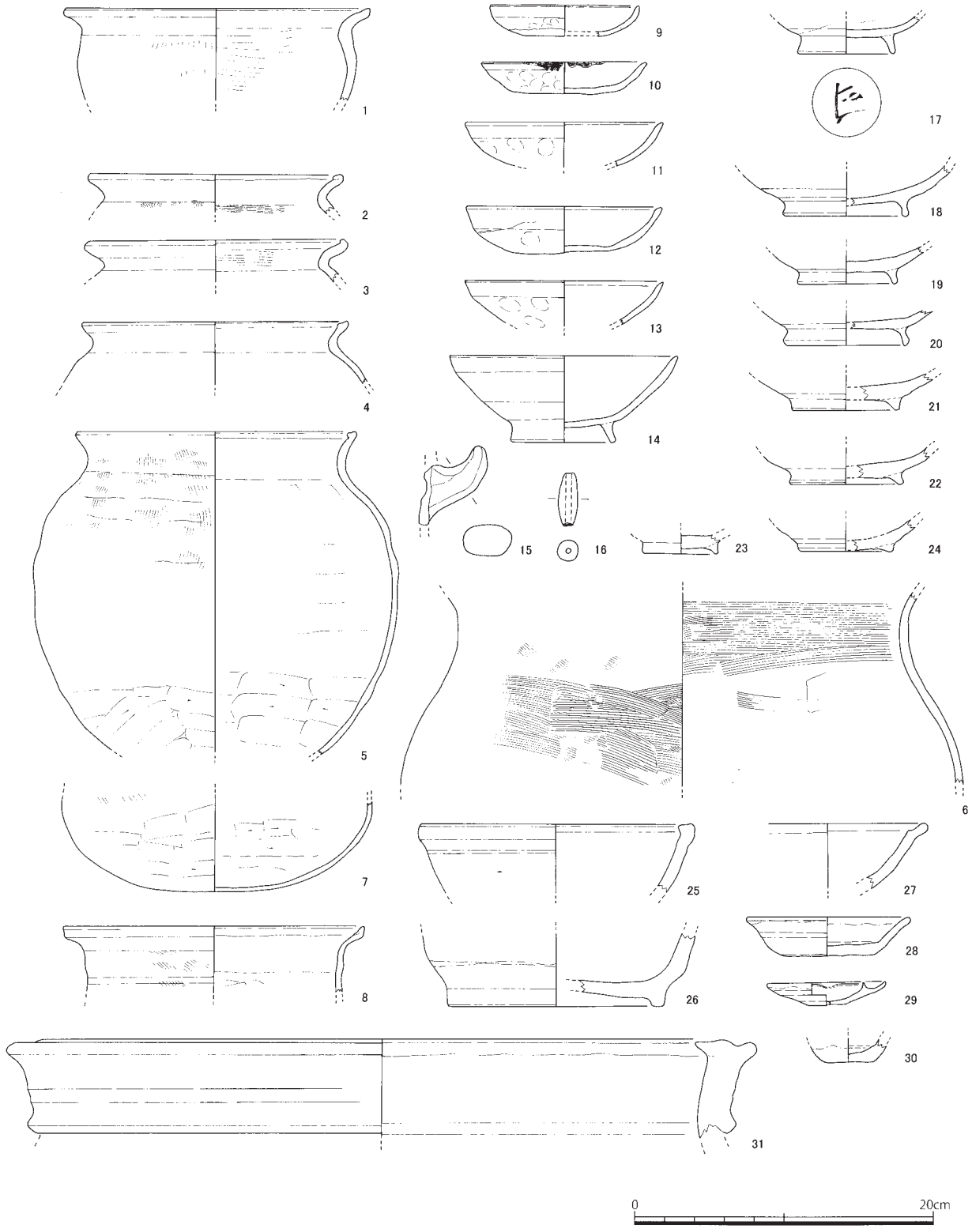
古代から近世の遺物が出土している（第49図）。遺物の出土傾向は本調査の結果とも概ね合致する。4・5、11～14はいずれも調査坑No.41で出土した平安後期の土器で、14は土師質土器椀。17は底部に記号様の墨書を有する灰釉陶器。31は常滑12型式の甕で焼成は真焼。25～29は朝田寺付近の調査坑38・42で出土した近世の陶器である。

3．弥生・古墳時代の遺物

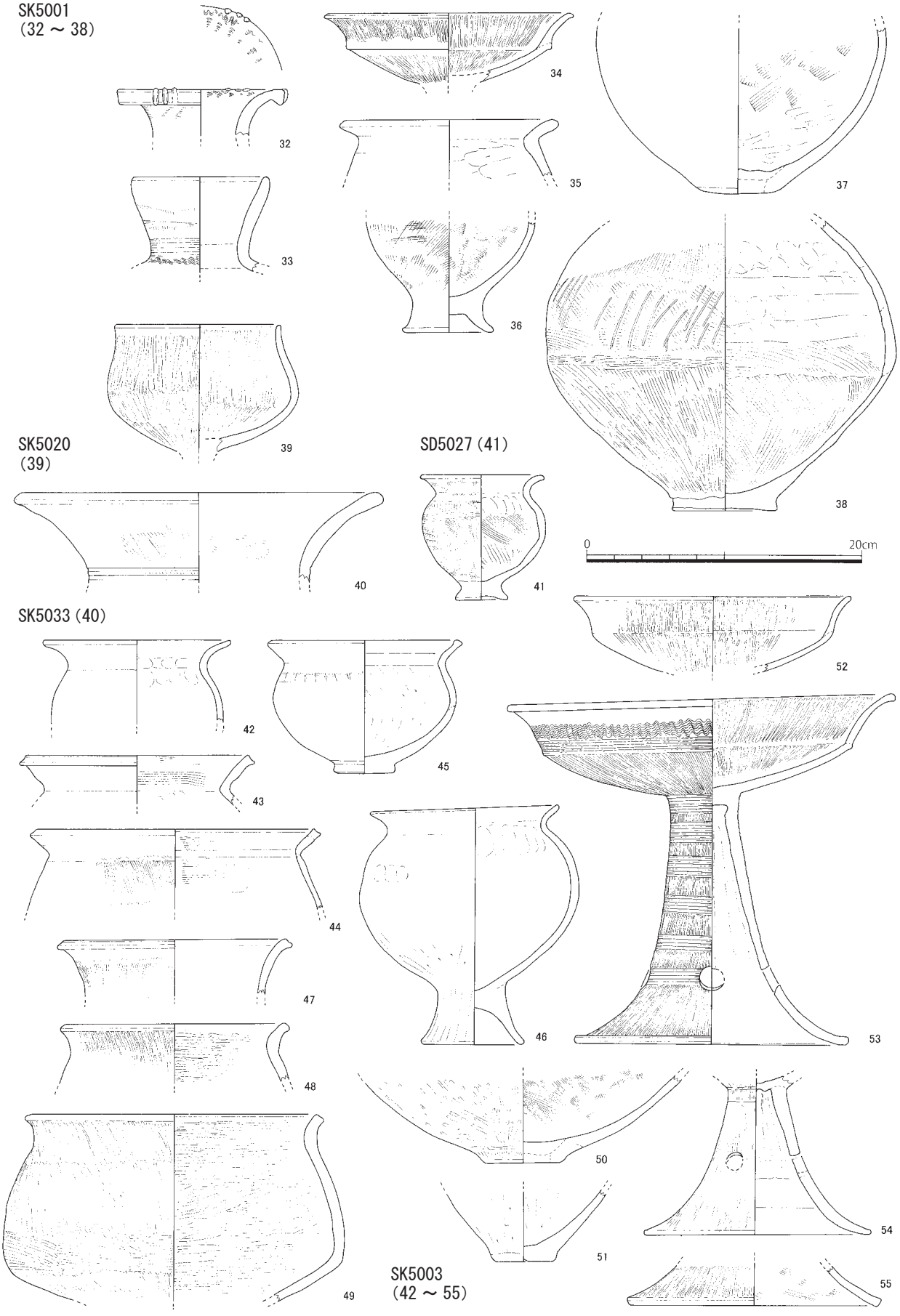
土坑出土資料が中心で、後期の良好な土器がある（第50～52図）。32～38はＳＫ5001出土土器。38の壺は胴部の屈曲部に横方向、肩部は斜め方向のミガキで飾る。42～55はＳＫ5003出土土器。甕･台付甕もあるが、全体としては壺（50・51）・台付鉢（47～49、54）、高杯（52・53）などの供膳具が多い。有稜高杯（53）はほぼ完形で、後期後葉に位置付けられる。69～78はＳＤ5143出土土器で、後期の有稜高杯（69･70）、ワイングラス形高杯（71）、蓋（74）、無文の広口壺（78）などがある。

79～100はＳＤ5072、101～104はＳＤ5016出土土器である。両者は一連の溝または流路で、埋土は砂であったが、土器はさほど磨滅していない。甕口縁の形状は受口状・Ｓ字甕Ａ～Ｂ類の各種がある。概ね濃尾平野の廻間Ⅰ～Ⅱ式に併行するものである。

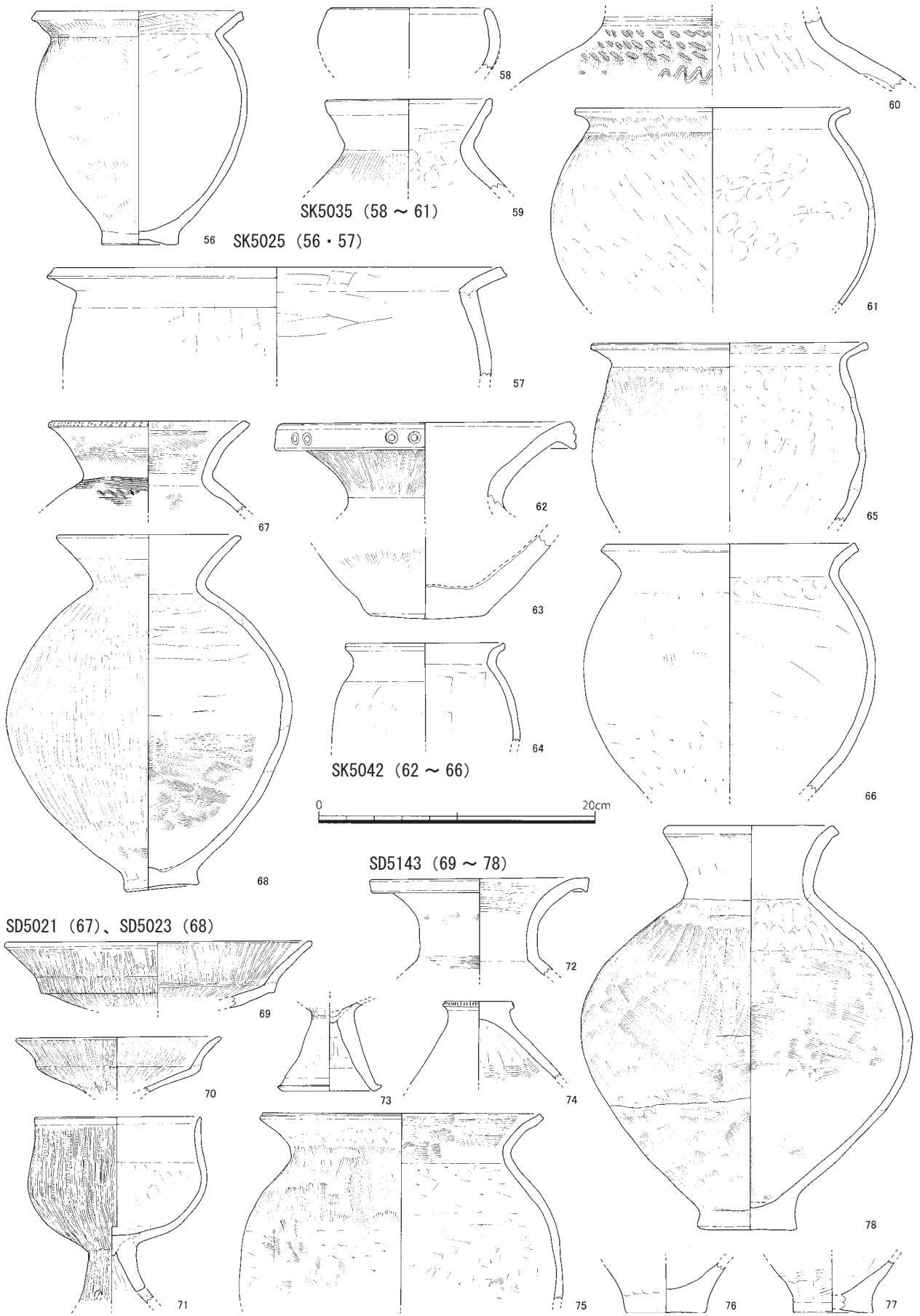
105～115は表土や混入遺物である。105は敲石で、２面に敲打痕が残る。106はサヌカイトのＲＦで、背部に二次加工がみられるものの、刃部角は調整のない側が鋭い。111～114は広口壺で、竹管文や櫛歯状工具の刺突文などで飾る。111・114はＳＫ5035付近で出土したもので、垂下口縁を付加したのち、さらに外側に粘土を付加して整える。114は60の壺肩部と同一個体かもしれない。115はミニチュア土器で、外面はミガキ仕上げとする。



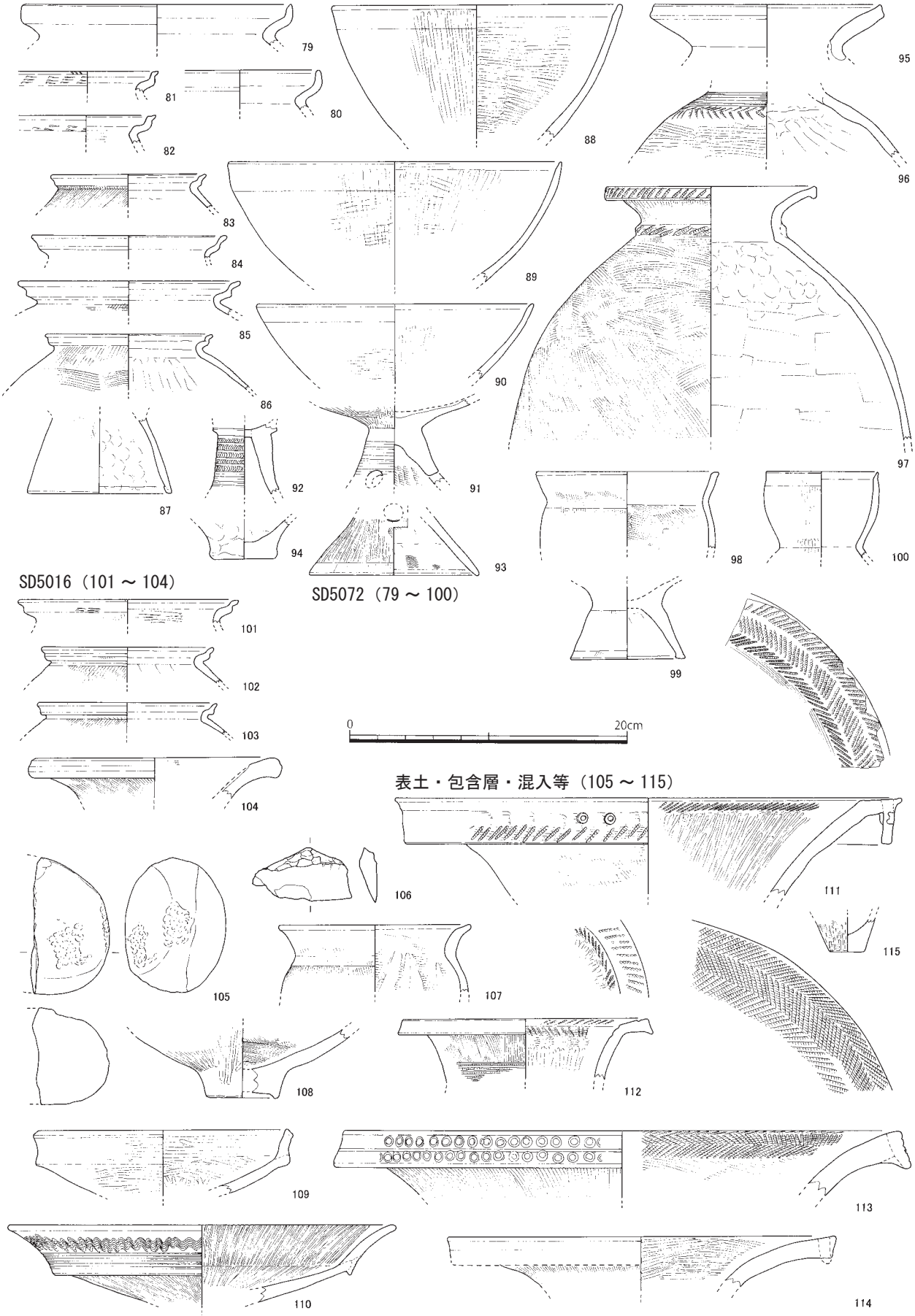
第49図　範囲確認調査出土遺物（1:4）



第50図　弥生時代の遺物１（1:4）



第51図　弥生時代の遺物２（1:4）



第52図　弥生・古墳時代の遺物（1:4）

4．飛鳥時代の遺物（第 53 図）

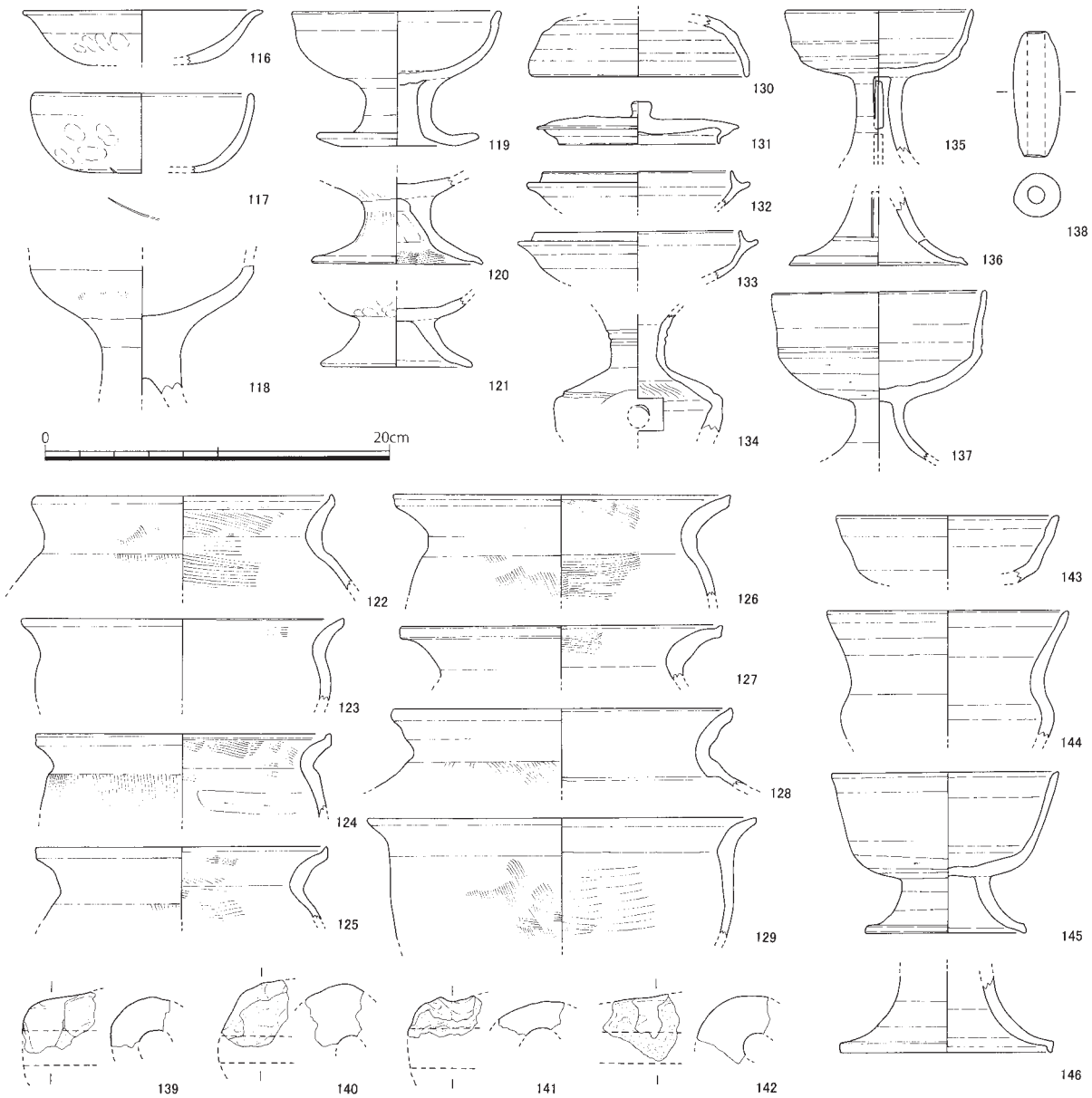
116 ～ 142 はＳＤ 5095 出土遺物で、７世紀中～後葉の土器がみられる。土師器は杯（116・117）、短脚高杯（118 ～ 121）、甕（122 ～ 128）、鉢（129）がある。短脚高杯は、杯部が深椀状で柱状の脚部を付すもの（118・120）と、筒またはハ字状の脚部を杯部に接合するもの（119・121）がある。119 は杯部と脚部の接合部にランダムにヘラで刻みを入れ、粘土接合の助けとしている（写真図版 53）。甕はいずれも色調がにぶい黄色を呈し、やや軟質のもの。

130 ～ 137 は須恵器である。蓋杯は杯Ｈと杯Ｇが伴う。高杯（135）は長脚２段、２方向透しである。

139 ～ 142 は鍛錬鍛冶に伴う鞴羽口の先端で、外径は復元径で４～５cm ほどと小さい。内面には芯棒巻き付け時の棒圧痕が残る。先端には鉄滓が付着し、よく磁着する。また図示はしていないが、他に椀形鍛冶滓の小片が一定量出土している（写真図版 76）。

ＳＲ 5128 の遺物は、小片が多く図示できるものはなかったが、ＳＤ 5095 とほぼ同様のものがある。

145 は 8-2 区ピット出土の土師器高杯で、焼成以外は須恵器高杯の製作技法による。



SD5095（116 ～ 142）　　その他（143 ～ 146）

第53図　飛鳥時代の遺物（1:4）

5．平安～室町時代の遺物

遺構ごと、主要な遺物群のみ記述する。

（1）土器･瓦･土製品･石製品（第 54 ～ 84 図）

①掘立柱建物・その他ピット（第 54 図）

147 ～ 158 は掘立柱建物の柱穴出土遺物。147 ～ 149・153 はＳＢ 5342-P1 からまとまって出土した平安後期の土器である。

159 ～ 205 はその他ピット出土遺物である。調査地と出土遺物の傾向を見ると、１～５区周辺では平安時代の土師器や灰釉陶器（177 ～ 183）、7-5 区周辺で中世Ⅱ期の土器（159・160）、7-7 区東から 7-9-1 区付近は中世Ⅳ期の南伊勢系土師器皿（164 ～ 176）が多い。181 は土師器杯で、記号様の墨書がみられる。

189 ～ 191 は砥石である。189 はホルンフェルスの転石を用いたもの。190 は 7-5 区で出土した極細目の泥岩製砥石で、側面と小口にノコギリの切断痕を残す。石質・製作技法・幅の規格から、鳴滝砥の可能性があろう（3）。鳴滝砥とすれば、安濃津などの主要湊津を介してもたらされた可能性が高く、7-5 区周辺の建物群の性格を考える上で重要な遺物となる。191 は白色凝灰岩製で中目、主面・小口にはノミの加工痕がある。

197 は 7-8 区出土の中国産粗製染付皿で 16 世紀前半。202 は青磁椀を加工円盤としたもので、7-7 区東で出土した。剥離によるエッジは鋭い。

②井戸（第 55 ～ 63 図）

ＳＥ 5008（第 55 図） 上層・井戸枠内ともに、灰釉陶器末期から山茶碗第３・４型式、土師器は平安後期から中世Ⅰ期の甕・鍋（215・216）・皿（210、223 ～ 225）、土師質土器皿・台付皿・椀などが出土している。

掘形出土としたもの（232 ～ 235）は、井戸枠や曲物の裏込め土から出土したものだが、上層の遺物よりも新しいもの（234・235）がみられる。このことから、井戸は補修を経ている可能性があろう。

ＳＥ 5015（第 56 ～ 58 図、巻頭図版７） 上層からまとまった量の土器が出土している。これらは、井戸の北側に廃棄された一群（上層）と、井戸南側に固まっていた一群（南側一括）があり、出土状況から一応分けて実測図を提示しているが、土器の様相に差は認められない。両者を合わせて比較的短期間に廃棄された、一括性の高い資料と考えられる。

南伊勢系土師器は中世Ⅱａ期の古相に位置付けられよう。鍋の口縁端部内面はナデにより浅く凹むが、端部形状はいまだ丸みが強い。調整はハケ調整するものは稀で、主にナデ・板状工具ナデとする。口縁部が直立気味に内湾しながら立ち上がる、やや古手ととれるものもある（306・307）。

皿は口径８cm 前後の小皿と、口径 15cm 前後の皿があり、ともに口縁部外端面を強くヨコナデする。土師質土器皿の口径も土師器皿にほぼ対応するが、出土量は土師器皿に比べて少ない。

山茶碗（写真図版 61）は大半が渥美型で、第４型式新段階ないし第５型式古段階に相当し、口縁を輪花や灰釉浸け掛けとするものが多い。315 は口縁部の一ヶ所を片口状に拡張している。282 は内面に稲藁等を燃やした痕跡が残る。皿は、渥美型（293）は有高台、尾張型（294･295･320）は無高台である。こうした山茶碗の型式差を時期差と見なすことができるかは一考の余地があろう。

これらに白磁椀Ⅳ類（322）や、陶器瓶または壺（321）が伴う。また、上層・井戸枠内からそれぞれ渥美産甕（296・326）が出土している。

以上は、12 世紀末頃の良好な遺物群であろう。

ＳＥ 5026（第 58 図） 出土遺物は土師器のみで、特に杯・皿が多い。杯・皿は、338・344 を除き上層から出土した。335 ～ 338 はヘラミガキや放射状･螺旋状暗文をもち、杯 335・336、皿 342 は底部外面をヘラケズリする。334 は見込みに記号様の刻書がある。下層では主に甕が出土したが、上層に比べ遺物量は少ない。球胴の甕（343）は井戸最下部より出土したもので、釣瓶の可能性があろう。

これらの土器は斎宮編年のⅡ－２段階（９世紀前葉）に相当しよう。

ＳＥ 5018（第 55 図） 236 など明らかな混入を除くと、平安後期の土師質土器椀や灰釉陶器、山茶碗は渥美第５型式のものがある。237 は底部外面にヘラ状の工具あたりがみられる。

ＳＥ 5037（第 55 図） 百代寺窯式の灰釉陶器や、平安後期の土師器、土師質土器がある。244 は曲物内から出土した完形の土師質土器椀で、器壁は薄く

胎土は精良である。247は見込みに墨痕が付着する転用硯である（写真図版60）。

ＳＥ5065（第60図） 平安後期の土師器皿・甕、灰釉陶器のほか、上層から志摩式製塩土器の小片（416～419）が出土している。

ＳＥ5067（第59図） 平安前期・中期の土器が混じっているが、掘形内も含め、主体は土師質土器出現以後の平安後～末期の遺物である。349～378は上層出土土器。完形の山茶碗373・374は最上層から出土した。尾張第３型式ないし灰釉山茶碗か。土師器は斎宮編年Ⅲ期､灰釉陶器は百代寺窯式のもの。364～366は黒色土器椀である。

379～398は井戸枠～曲物内の遺物で、少量ながらも特筆すべきものがある。井戸の儀礼にかかり、比較的希少な器物を投入したのであろう。383・384は京都系のて字状口縁皿である。口径は8.8㎝と小さく、津市雲出島貫遺跡で多くみられる在地産であろう。堀町遺跡では本例に限られており、中核的な遺跡から伝達された情報や器物が地域社会にどのように受容されたかをよく示している。392は近江産の緑釉陶器。393・394は両黒の黒色土器である。394は完形の皿で内外面にヘラミガキがある。395～398は土錘で、特に395・396は窯製品とみられる堅緻なもの。近隣遺跡の調査では例がない。端部は刀子で面取りされ、手づくね成形による通常の土錘とは一線を画する。

ＳＥ5136（第60図） 上下層とも、渥美第６型式の山茶碗、南伊勢系土師器鍋は中世Ⅱ期のものがある。下層出土の山茶碗432・434～436は内面全体に煤が付着している（写真図版60）。井戸に関わる火を用いる儀礼の痕跡であろうか。なお、６～７区の土坑や井戸出土の山茶碗には内面が黒化するものが多い。433・436には底部に×印の墨書がある。

ＳＥ5187（第61図） 450・453は井戸枠内、その他は上層出土遺物である。山茶碗は６型式のもので、尾張型と渥美型が半々である。451には×印の墨書がみられる。

出土例の稀少な白磁水注（454）は、特筆される遺物である。井戸枠材に含まれていた閾の存在も考慮すると、当井戸の所有者は、集落の上位層である可能性が高いといえよう。大宰府の出土例から、製作年代は平安後期に遡るものかもしれない。

ＳＥ5195（第61図） 中世Ⅱ期の南伊勢系鍋に渥美第５～６型式の山茶碗が伴う。山茶碗462・469には記号墨書がある。

ＳＥ5201（第62図） いずれも平安後期の土器である。478は内黒の黒色土器椀、479は龍泉窯系の青磁杯で器壁は薄く精良なつくりのもの。

481は井戸枠最上層で出土した完形の土師質土器椀である（写真図版58）。色調は灰白色で、低温焼成で無釉であることを除けば灰釉陶器とほぼ同じもの。ＳＥ5037においても完形品が出土しているが、灰白色の土師質土器椀は、他の土師質土器皿類や灰釉陶器椀とは扱いが若干異なっており､別の用途(例えば､平安京における白色土器のような儀器的扱い)を想定しておく必要があるかもしれない。

ＳＥ5218（第62・67図） 中世Ⅲｂ期の南伊勢系土師器鍋と、14世紀末ごろの片口鉢（501・502）、常滑８型式（503）の甕、瓦質土器（690）などが出土している。中世前期の山茶碗はいずれも混入。

ＳＥ5219（第61図） 山茶碗は渥美第６型式で、473は外面と底部に記号墨書がある。476は内面に煤が付着している。

ＳＥ5230（第63図） 渥美第６型式の山茶碗があるが、他に中世Ⅲ期の土師器皿片が出土しており、中世Ⅱ期の遺物は混入の可能性もある。

ＳＥ5305（第62図） 中世Ⅲ期の土師器皿がある。507は凝灰岩製砥石で、全面に使用痕がある。

ＳＥ5316（第62図） 510は尾張第６型式の山茶碗で､外面に花押状の墨書がある。511は常滑５型式。

ＳＥ5317（第62図） 中世Ⅲｂ期の土師器皿がまとまって出土している。

ＳＥ5319（第62図） 中世Ⅲｂ期の南伊勢系土師器皿、青磁椀（532）、古瀬戸後Ⅱ期の折縁鉢や水滴がある。15世紀前半の遺物群と考えられる。

ＳＥ5328（第63図） 瓦質土器火鉢（543）や常滑11～12型式の軟質の片口鉢(544)が出土している。外面は工具ナデが顕著である。

③土坑（第63～71図）

ＳＫ5002（第63図） 山茶碗は渥美第４型式、他に中世の土師質土器が出土している。

ＳＫ5107（第64図） 575～582は中世Ⅱｂ期の南

伊勢系土師器である。皿 575 ～ 579 はやや薄手となる。山茶碗は尾張６～７型式で、583 は底部外面に「米」字状の墨書がみられる。椀 583、片口鉢 586・587 ともに内面は煤の付着が著しい（写真図版 60）。585 は青磁椀である。

ＳＫ 5119（第 64 図） 中世Ⅱａ期の南伊勢系土師器、第６型式の山茶碗がある。590 は灯明皿。山茶碗は渥美（600・601・605）・尾張型（602 ～ 604）がほぼ同数となっている。

ＳＫ 5133（第 65 図） 中世Ⅲｂ期の土師器に古瀬戸中Ⅳ期の花瓶（611）が伴う。606 ～ 608 は混入。

ＳＫ 5168（第 65 図） 中世Ⅱｂ期の土器群である。小皿は器高の低いものが多い。山茶碗は第６型式である。片口鉢（641）は器壁が直線的にのびる。

ＳＫ 5196（第 66 図） 中世Ⅱａ期の土器群である。658 はほぼ完形の鍋で、底部に焼成後穿孔がある。

ＳＫ 5202（第 66 図） 斎宮Ⅱ－３段階（９世紀後半）の土師器がみられる。660 は口縁部に油煙が付着する。668 は須恵器瓶で、底部にヘラ記号がある。

ＳＫ 5207（第 66 図） 中世Ⅱａ期のまとまった土器群である。山茶碗は尾張型第６型式が主体である。

ＳＫ 5210（第 67 図） 山茶碗 686 は○を２つ重ねたような記号墨書、688 は十字の記号がある。

ＳＫ 5220（第 67 図） 中世Ⅲｂ期の南伊勢系土師器鍋（689）に、15 世紀の瓦質火鉢（690）が伴う。

ＳＫ 5221（第 67 図） 中世Ⅱｂ期の良好な資料である。上下層とも遺物の様相は変わらない。山茶碗は第６型式で、墨書や墨痕（701 ～ 705）がみられる。

ＳＫ 5226（第 68 図） 中世Ⅱｂ期の南伊勢系土師器、尾張第７型式の山茶碗がある。724 には太い「つ」字状の墨書がみられる。

ＳＫ 5245（第 68 図） 中世Ⅲｂ期の南伊勢系土師器鍋（730 ～ 732）、羽釜（733）が出土している。

ＳＫ 5248・5259・5261（第 69 図） 735 は巴文軒丸瓦で、共伴土器片から 16 世紀代のものと考えられる。南伊勢系土師器鍋は中世末～近世のものか。

ＳＫ 5308（第 70 ～ 71 図） 中世Ⅳｂ期（16 世紀前半）の土器がまとまって出土している。中型の鍋Ｂには、口径 25cm 前後、35cm前後、40cm前後の各種があるが、その他の鍋はほぼ同一規格である。煤は厚く付着するが、完形に近いものが多くみられる。

④溝（第 72 ～ 81 図）

ＳＤ 5019（第 72 図） ＳＥ 5026 を識別する前に出土したものも多く含まれる。遺物の様相もＳＥ 5026 とほぼ同じで、特に杯・皿が多く、斎宮編年のⅡ－２段階に位置付けられる。812 は墨書土器「南」。

ＳＤ 5039（第 63・72 図） 平安後期の土師器皿、黒色土器（853・854）、土師質土器などがある。灰釉陶器椀は百代寺窯式で、瓶（562・563）もある。

ＳＤ 5043（第 73 図） 平安各期の土師器皿、陶器が出土している。868 は山茶碗の加工円盤。

ＳＤ 5132（第 74 図） 11 世紀代の遺物がまとまって出土している。土師器皿は斎宮編年Ⅲ－２段階で、口縁端部に油煙の付くもの（903・907）、不定形な被熱痕をもつもの（908・909）がある。908・909 は、被熱痕の外縁に煤が付着し、特に 909 は３ヶ所円形となる。灯明皿の使用痕としては不自然であり、抹香を焚くなど、やや特殊な用途を想定しておきたい。

913 は土師質土器椀。914・915 は初期の山茶碗ないし最終末の灰釉。915 は底面に墨書「盛法寺」がある。胎土は精良で、色調は灰白色を呈する。

遺物の様相から、仏教系の儀礼も想定しうる。

ＳＤ 5148（第 74 図） 中世Ⅱａ期の土器がまとまって出土している。山茶碗は第５型式。渥美産甕（944）、壺（945）が伴う。

ＳＤ 5165（第 75 図） 中世Ⅳａ期（15 世紀後半～末）の土師器皿がみられる。959・960 は本次調査では稀少な中世瓦で、いずれも燻しはない。960 はコビキＡがみられる。

ＳＤ 5166（第 75 図） 平安後期の土器や灰釉陶器が主にみられ、溝内の小単位ごとの遺物差はない。

ＳＤ 5243・5256・5258（第 76 図） いずれも中世Ⅳ期の遺物が出土している。常滑片口鉢（997・1006）は 10 型式に相当する。1005 は古瀬戸後Ⅳ期の丸皿、1010 は信楽擂鉢である。

ＳＤ 5266（第 76 図） 1011・1012 とも平安前期の土師器皿である。

ＳＤ 5279（第 76 図） いずれもＳＲ 5080 相当部で出土したもので、上層から中世Ⅳ期の遺物（1021 ～ 1033）が出土している。

平安～中世前期のもの（1013 ～ 1020）は、ＳＲ

5080の遺物であろう。1013は平安前期の土師器皿で、底部外面に墨書「今林」とある。

ＳＤ5285（第77・78図） 中世Ⅳｂから Ⅳｃ期の遺物群である。南伊勢系土師器が大半で、わずかに大窯期の瀬戸美濃（1038）や常滑甕（1040）、中国産の青磁椀（1039）が伴う。

小型の土師器鍋Ａは、頸部の屈曲が弱い新相のもの（1041～44）と、形態やハケ調整が顕著で丸底傾向の強い古相のもの（1045～1047）がある。中～大型の鍋Ｂは底部を欠くものが多く、時期の識別が難しいが、体部下半が直線的となる1054なども含まれる。1055・1056は羽釜形鍋で、他の調理具に比べると出土量は少ない。1062・1063は茶釜形鍋で、1063は肩部に装飾的なヨコハケがみられる。

ＳＤ5289（第78・79図） 中世Ⅳｂ期の新相を中心とする遺物群である。特に、土師器皿1065～1067、1069～1071、1073・1074、鍋1078・1080・1081、1089・1090・1093・1095は溝の一角に集中廃棄されていた一括性の高い資料で、完形品に近いものが多い。

土師器皿（1064～1074）は３形態あり、胎土や調整手法のよく似た薄手の椀（1075）もみられる。小型の鍋Ａは体部下半が直線的なものが多い。

1096は常滑甕で10型式。1097～1099は常滑製品を加工円盤としたもの。1099は11型式の片口鉢口縁部を用いている。加工円盤は、総じて径４㎝前後のものが多く、両極技法による折り取りで成形している。中世前期までの加工円盤とは大きさ・製作技法の両面で差がみられる。

ＳＤ5290（第79図） 南伊勢系土師器はⅣｃ期のもの。調理具は鍋Ｃ（1103～1107）が主体で、深さはやや浅くなっている。常滑片口鉢（1111・1112）は、いずれも口縁端部が丸みを帯び、軟質焼成のもので、中世最終末に位置づけられる。

ＳＤ5297（第80図） 南伊勢系土師器はⅣｃ期で、灯明皿を含む完形の皿が多く出土している。1147・1148のような椀もみられる。常滑片口鉢1149は摺目がみられ、中世最終末に位置付けられる。

ＳＤ5298（第80図） ＳＲ5080の一部であり、後述する。1127は中世後期の遺構から混入したものか。

ＳＤ5306（第81図） 中世Ⅳ期の遺物がある。

ＳＤ5320（第81図） 中世Ⅳｂ～ｃ期の遺物である。1167は天目茶椀で、高台は露胎とする。1171は鍋Ａと鍋Ｃの折衷的なものである。

ＳＤ5327（第80図） 中世Ⅳ期の土器がみられる。1128は土製支脚、1129は11型式の常滑片口鉢で、焼成は真焼。1131は常滑を転用した加工円盤。

⑤自然流路

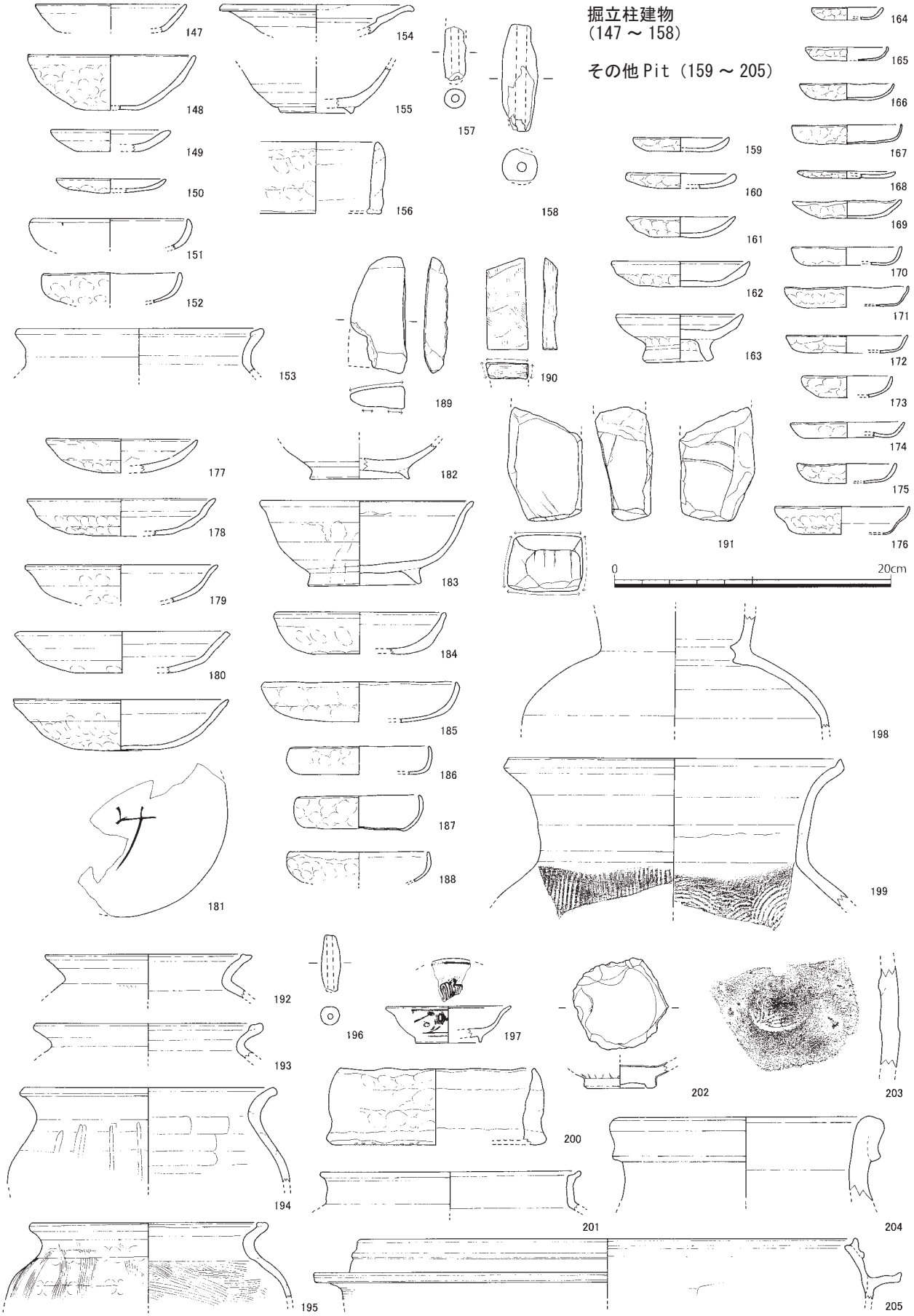
ＳＲ5080（第82・83図） 5-3区では、層位的な遺物の変遷がよくわかっているので、これを基軸に他の調査区を加えて見ていくことにする。

上層（1179～1195）は第４～６型式の山茶碗を主体とし、中世Ⅲ･Ⅳ期の遺物もわずかにみられる。また、白磁椀や山茶碗の加工円盤（1192～1195）が出土している。加工円盤は、いずれも外面側から加撃する。1195は山本編年の白磁椀Ⅳ類で、加工痕は鋭く縁辺はエッジが立つ。中世後期の常滑転用の加工円盤（1127など）は、エッジをつぶすように加撃・研磨するが、これとは対照的である。1238は7-6区から出土した尾張第６型式の山茶碗で、墨書がみられる。1222は5-4区最上層から出土した瀬戸美濃擂鉢の小片である。古瀬戸後期～大窯期のものか。1232は中世Ⅲ期の南伊勢系鍋である。

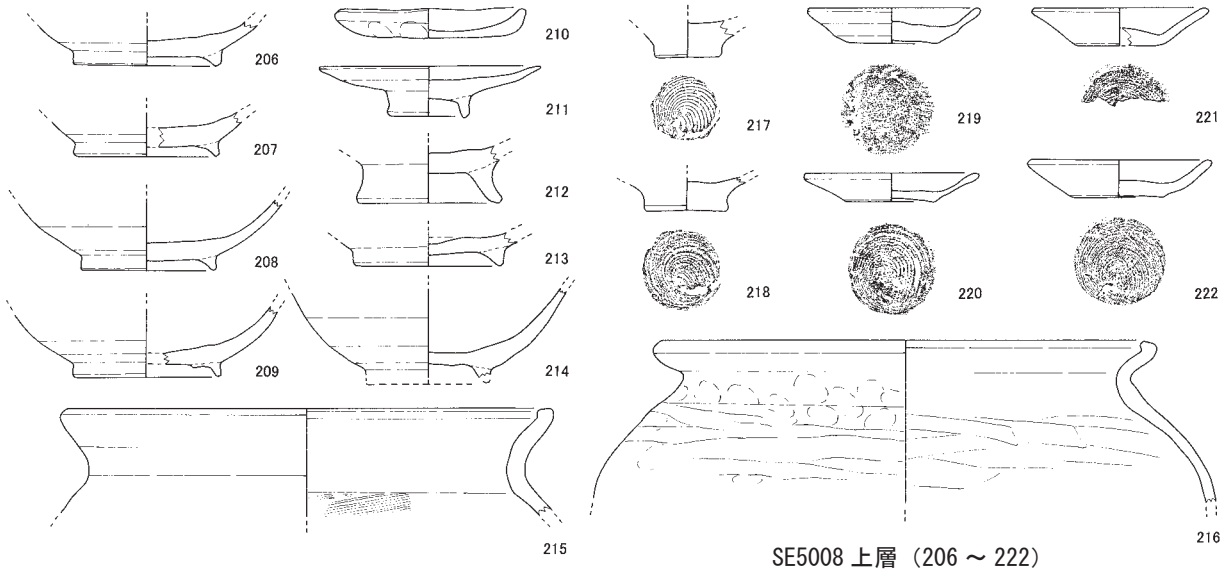
中層（1196～1205）は、平安後期の灰釉陶器や土師器甕が主体で、志摩式製塩土器（1203・1204）などもみられる。1205は紡錘車で、外面を面取りする。

下層は平安前期で、一部奈良時代のものも含まれる。土器は残りの良い遺物が多く、流水による磨滅はあまり生じていない。土師器は杯（1206～1211）、皿（1212～1214）、平底鉢（1215～1217）がある。斎宮編年のⅡ－２段階に相当しよう。須恵器は壺や瓶（1218～1221）のみで杯類はない。1218は糸切り底のいわゆる壺Ｌで、９世紀のもの。

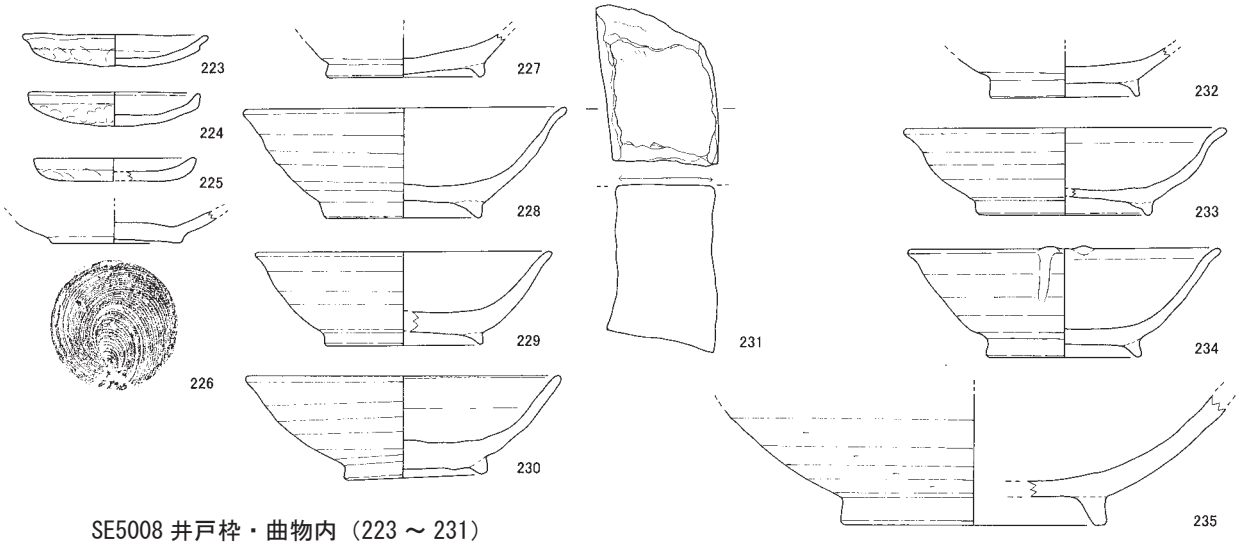
他の調査区でも、墨書・刻書土器はいずれも下層から出土している。5-4区では墨書1226・1228・1229、1227は内面に六角形、外面に五角形の刻書がある。1230は口縁部内面側に油煙が付着する灯明皿で、刻書もみられる。1241は「継」ないし「経」か。1243は外面に刻書があるが判読できない。7-9区（ＳＤ5298、第80図）でも平安各期の遺物が出土しているが、墨書土器を含む杯（1118～1122）や下層出土の甕1123は平安前期のものである。1119は油煙が付く灯明皿。1121は「戌亥」か。



第54図　掘立柱建物・その他Pit出土遺物 (1:4)

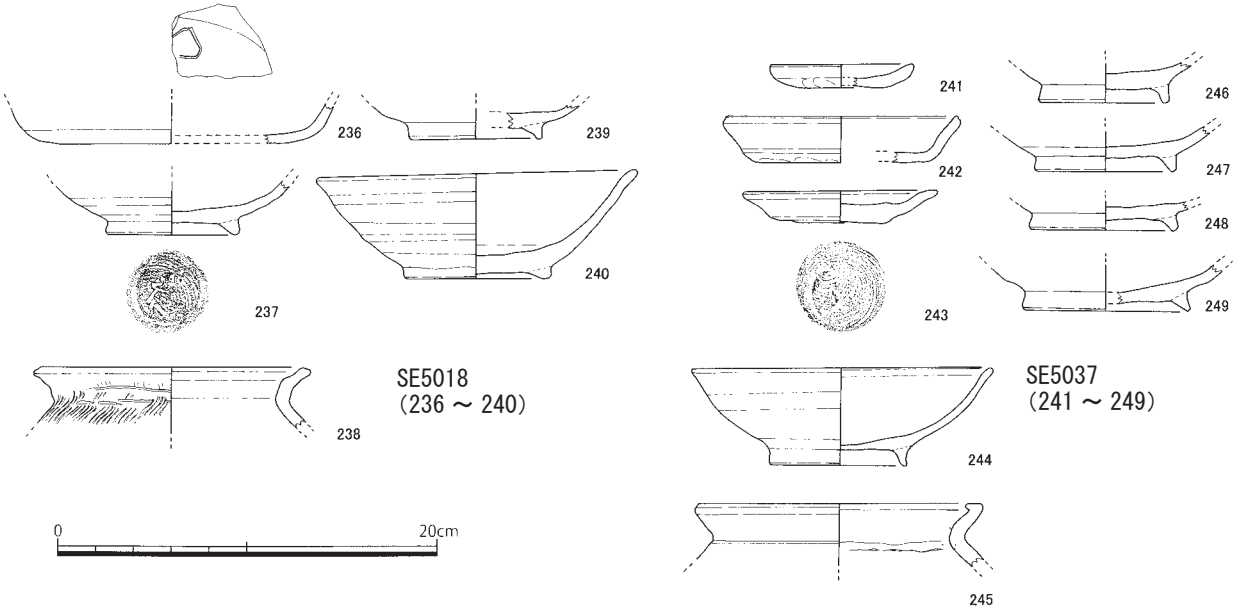


SE5008 上層（206 ～ 222）



SE5008 井戸枠・曲物内（223 ～ 231）

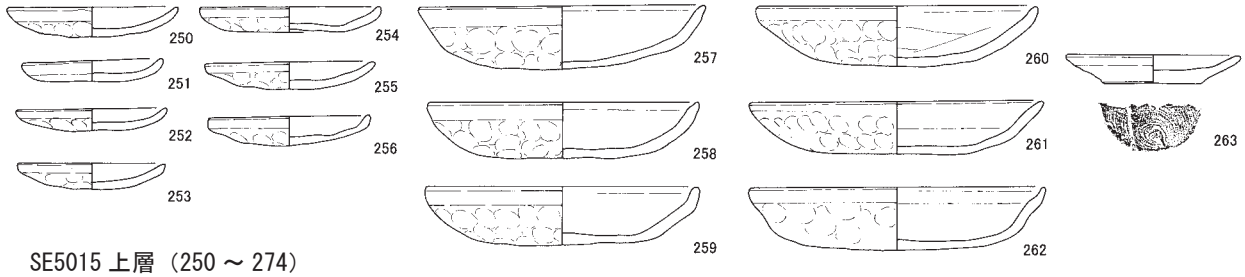
SE5008 掘形（232 ～ 235）



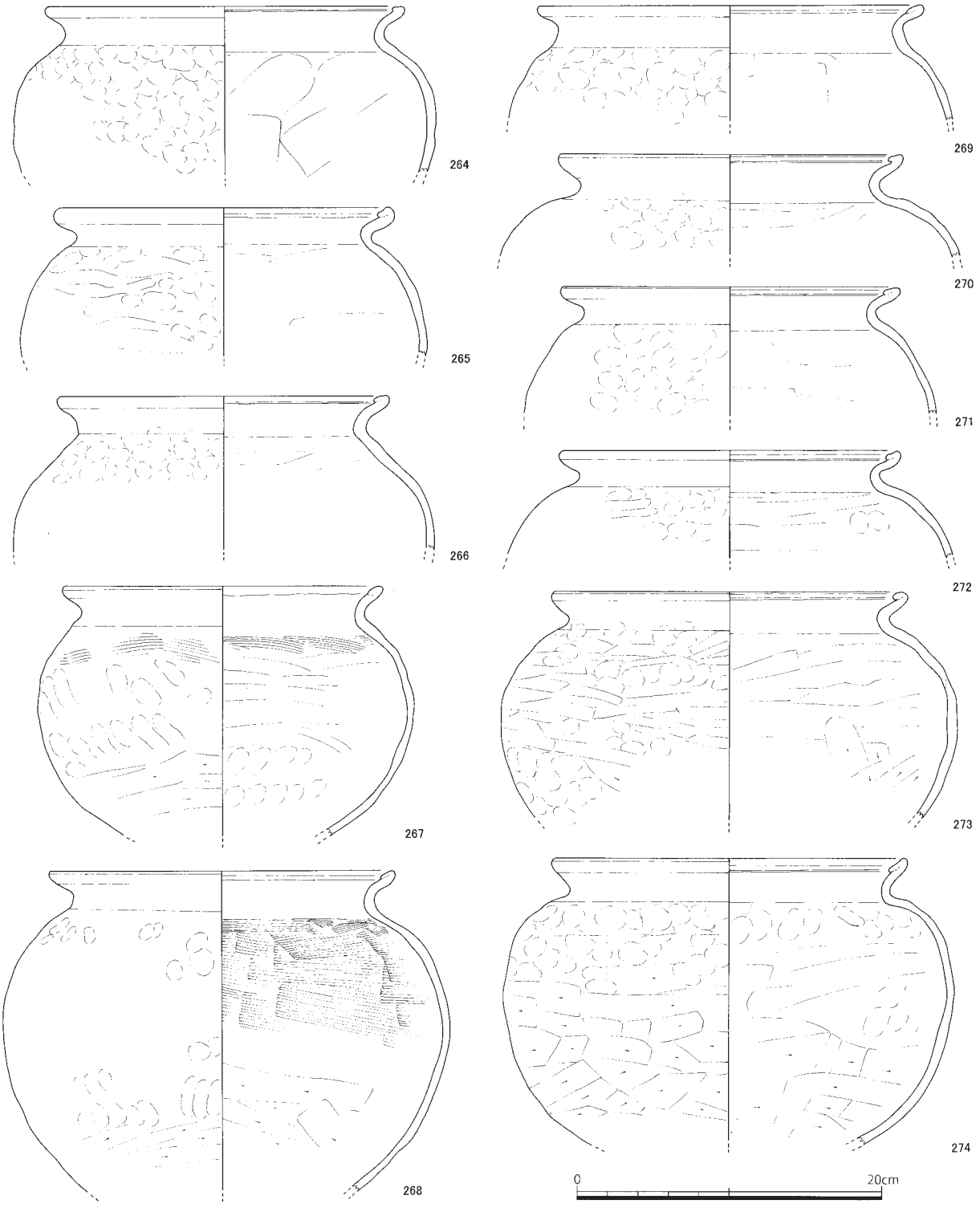
SE5018
（236 ～ 240）

SE5037
（241 ～ 249）

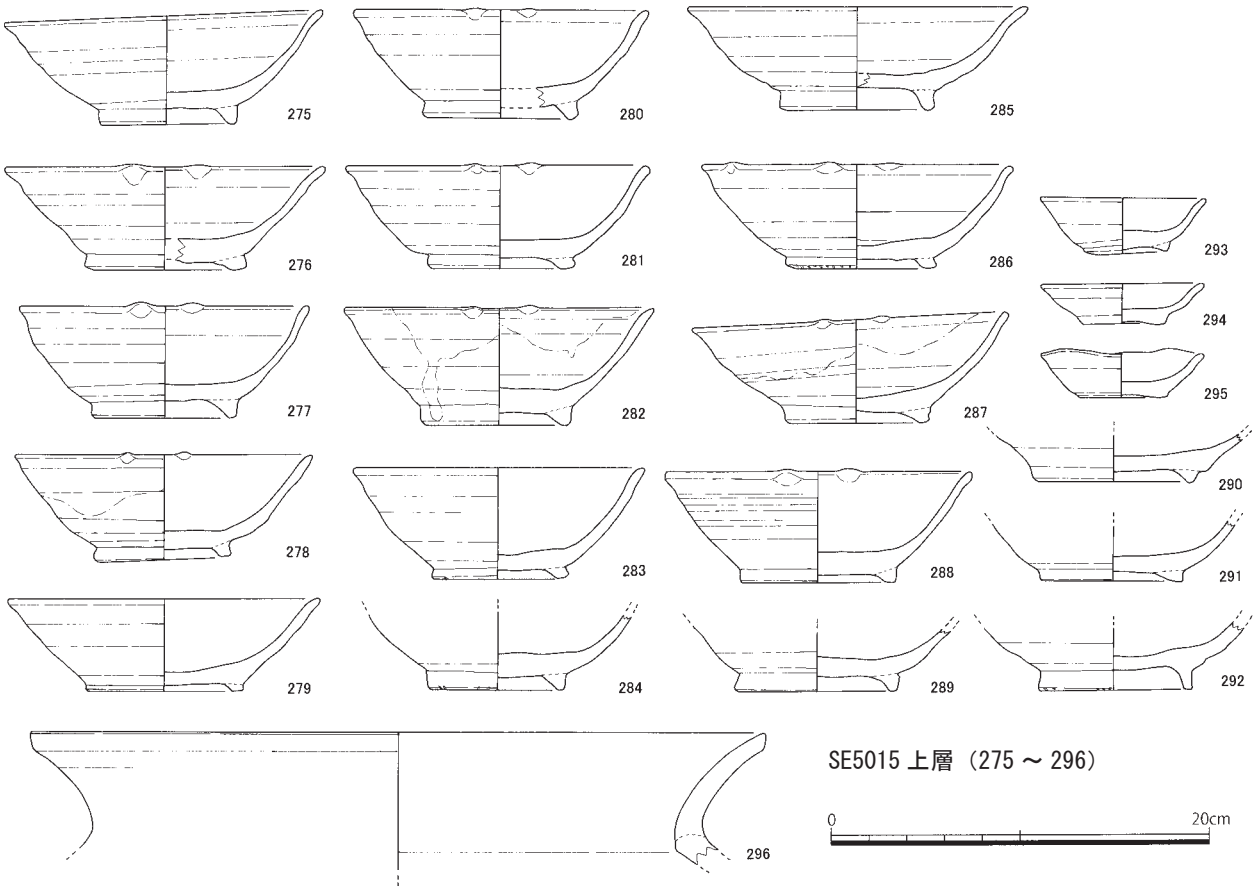
第55図　井戸出土遺物１（1:4）

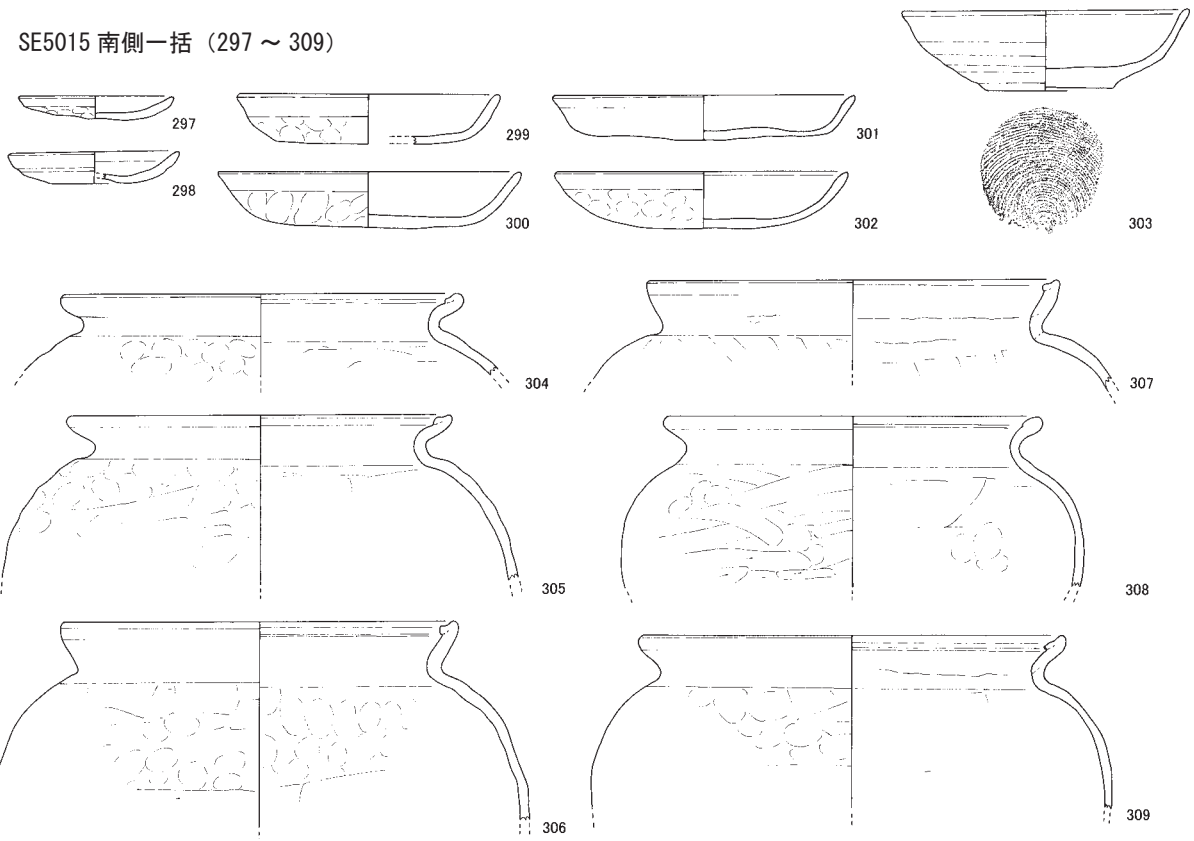


SE5015 上層（250 ～ 274）

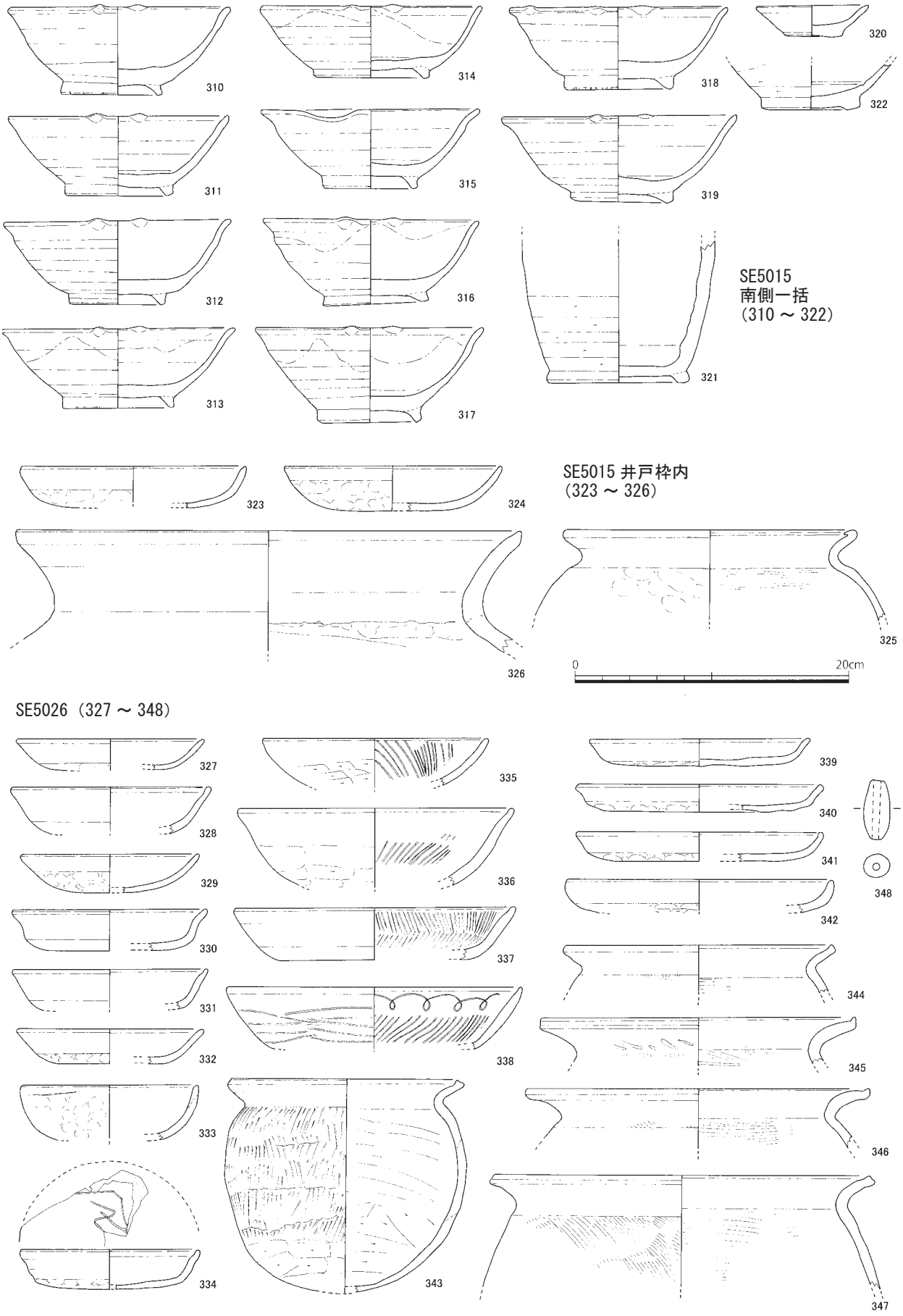


第56図　井戸出土遺物２（1:4）

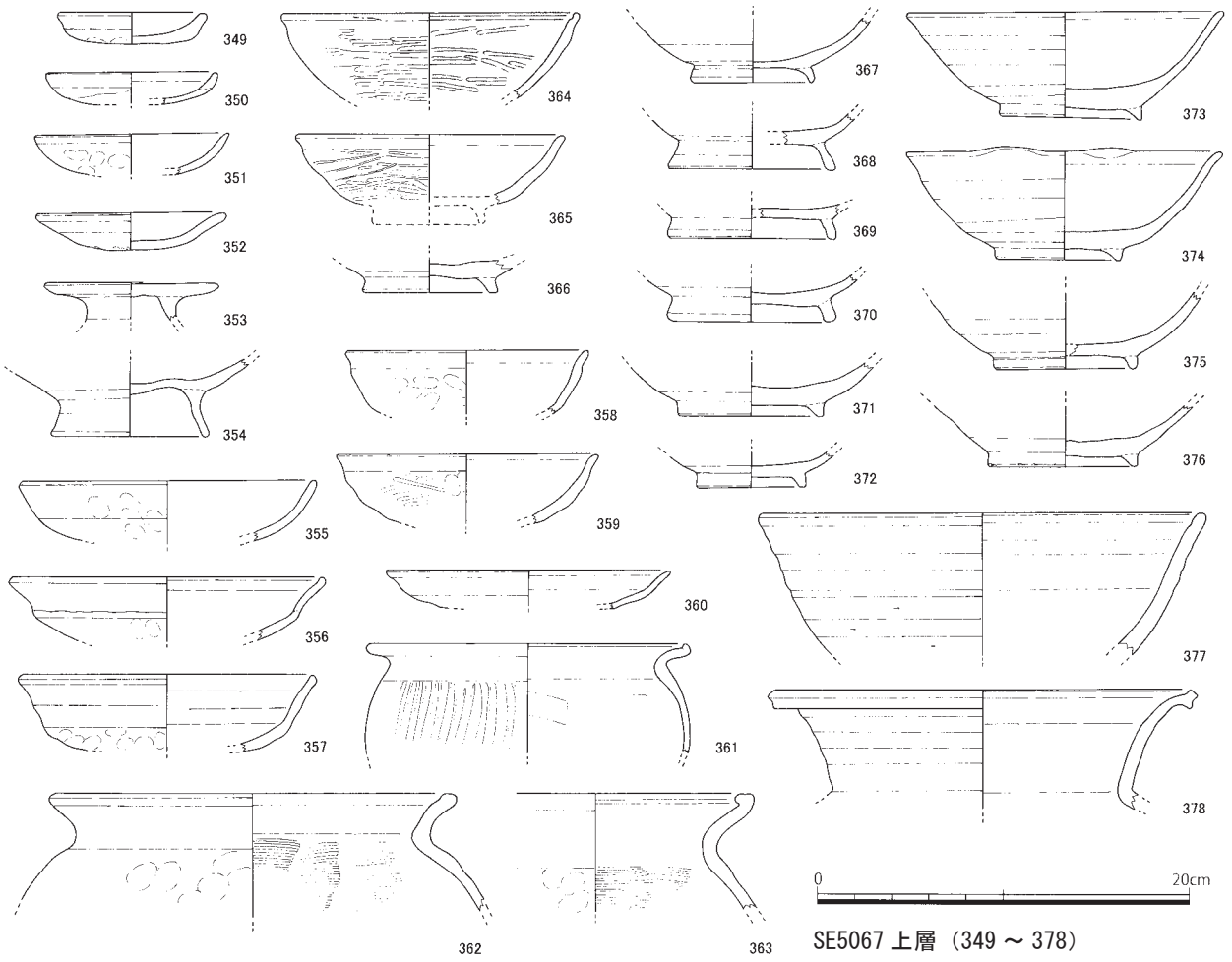




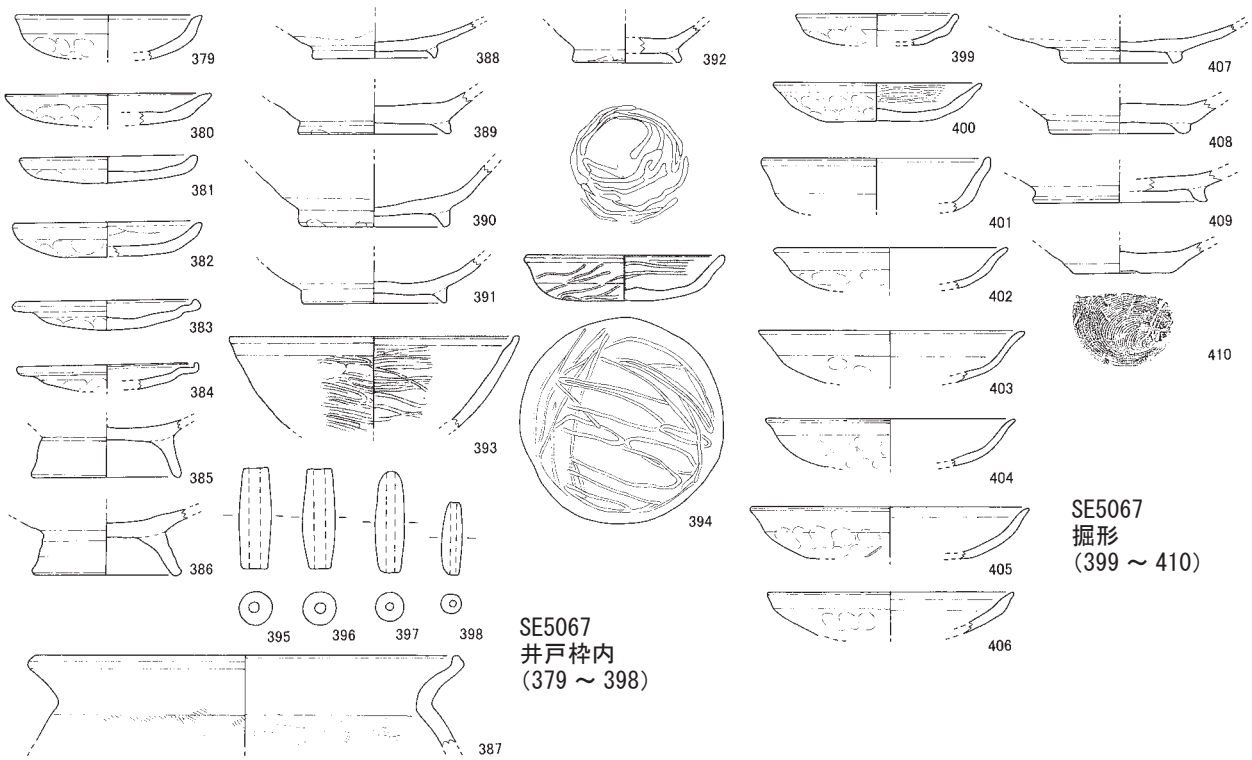
第57図　井戸出土遺物３（1:4）



第58図　井戸出土遺物４（１：４）



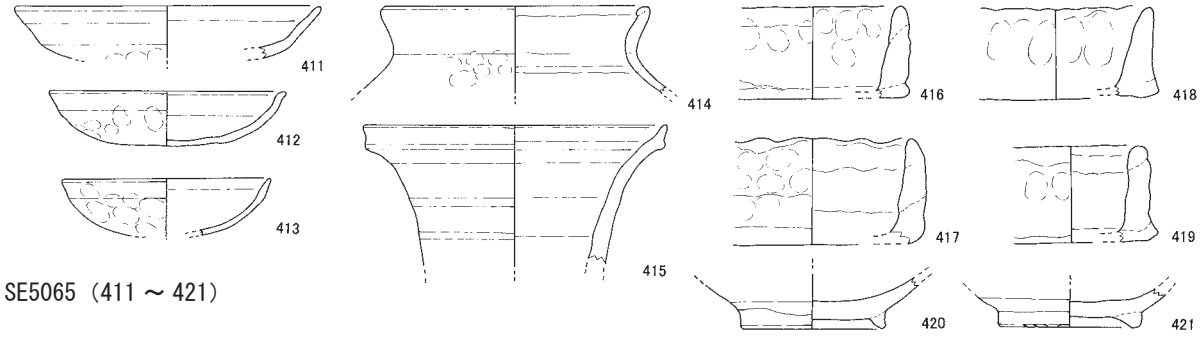
SE5067 上層（349 ～ 378）



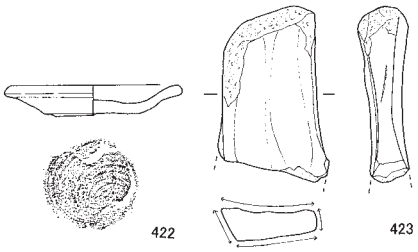
SE5067
井戸枠内
（379 ～ 398）

SE5067
掘形
（399 ～ 410）

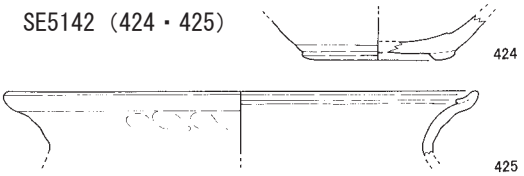
第59図　井戸出土遺物５（1:4）



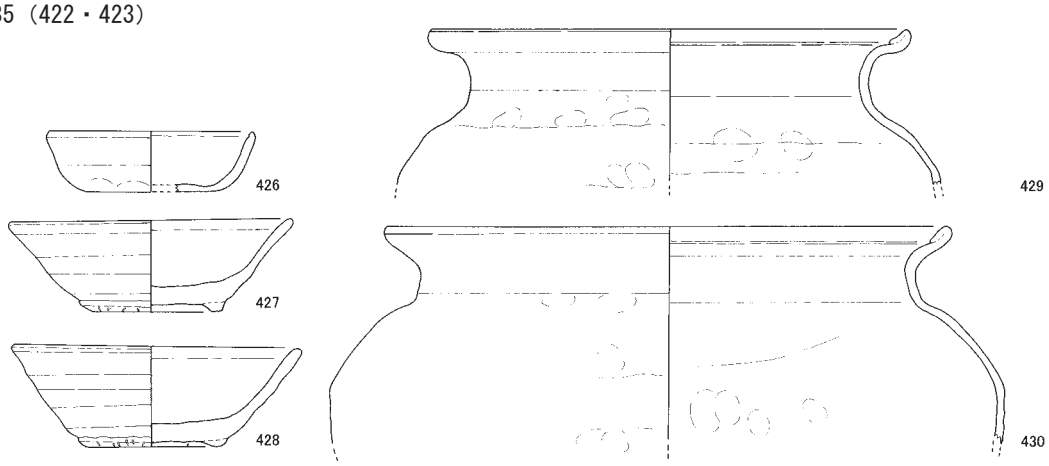
SE5065（411 ～ 421）



SE5135（422・423）

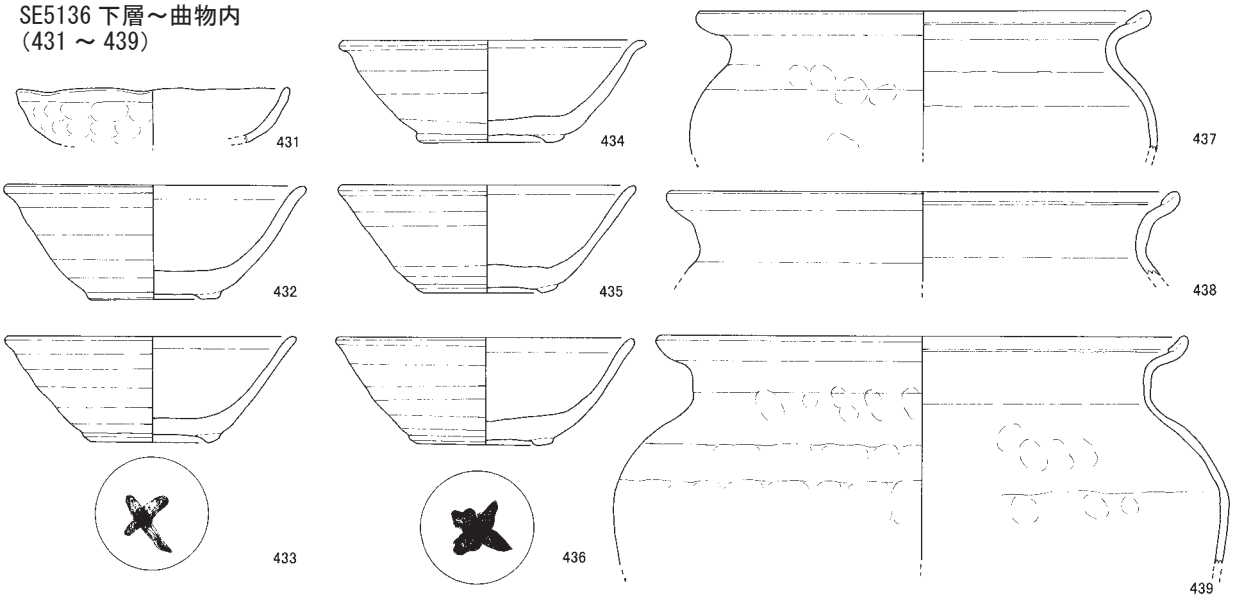


SE5142（424・425）

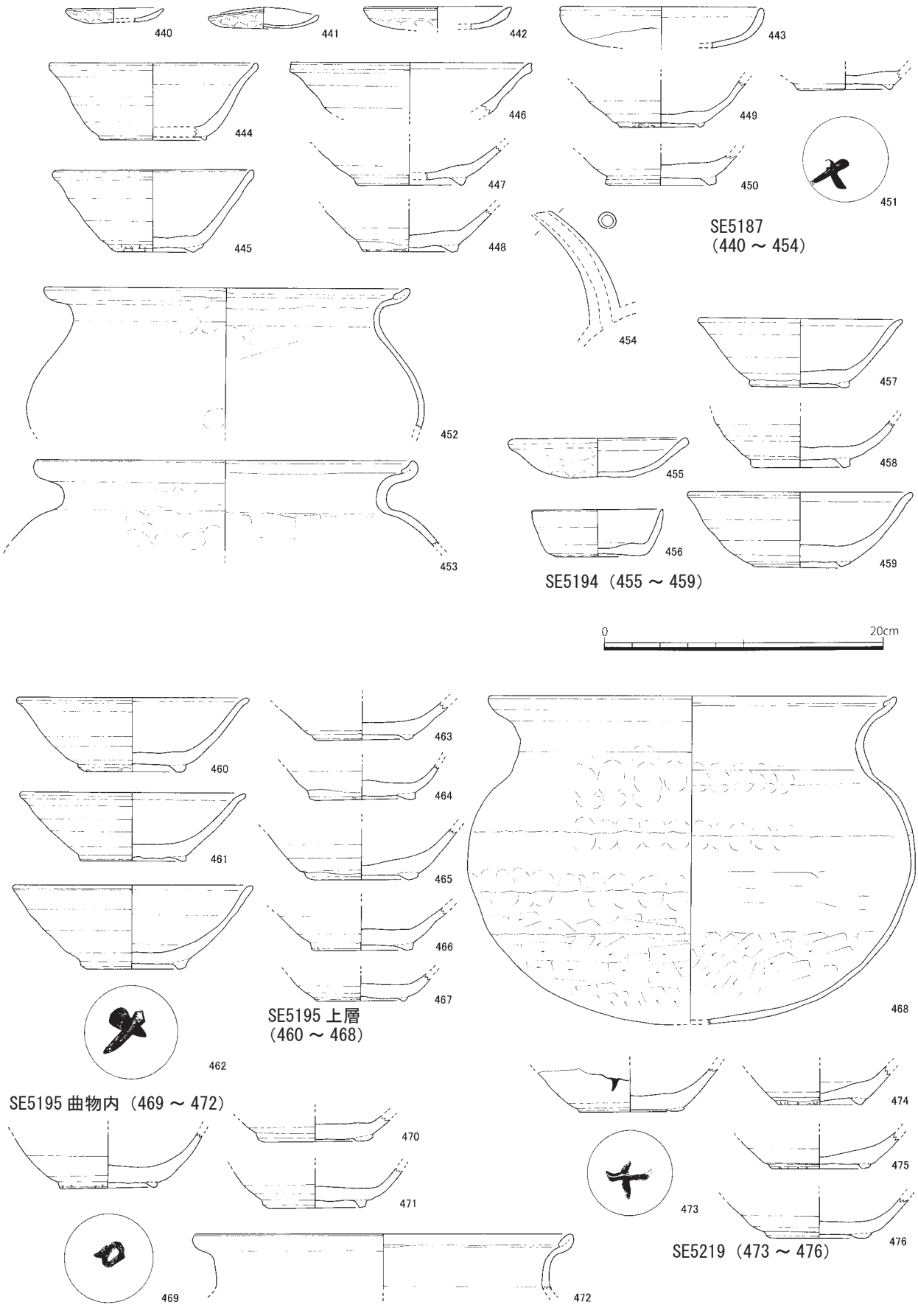


SE5136 上層（426 ～ 430）

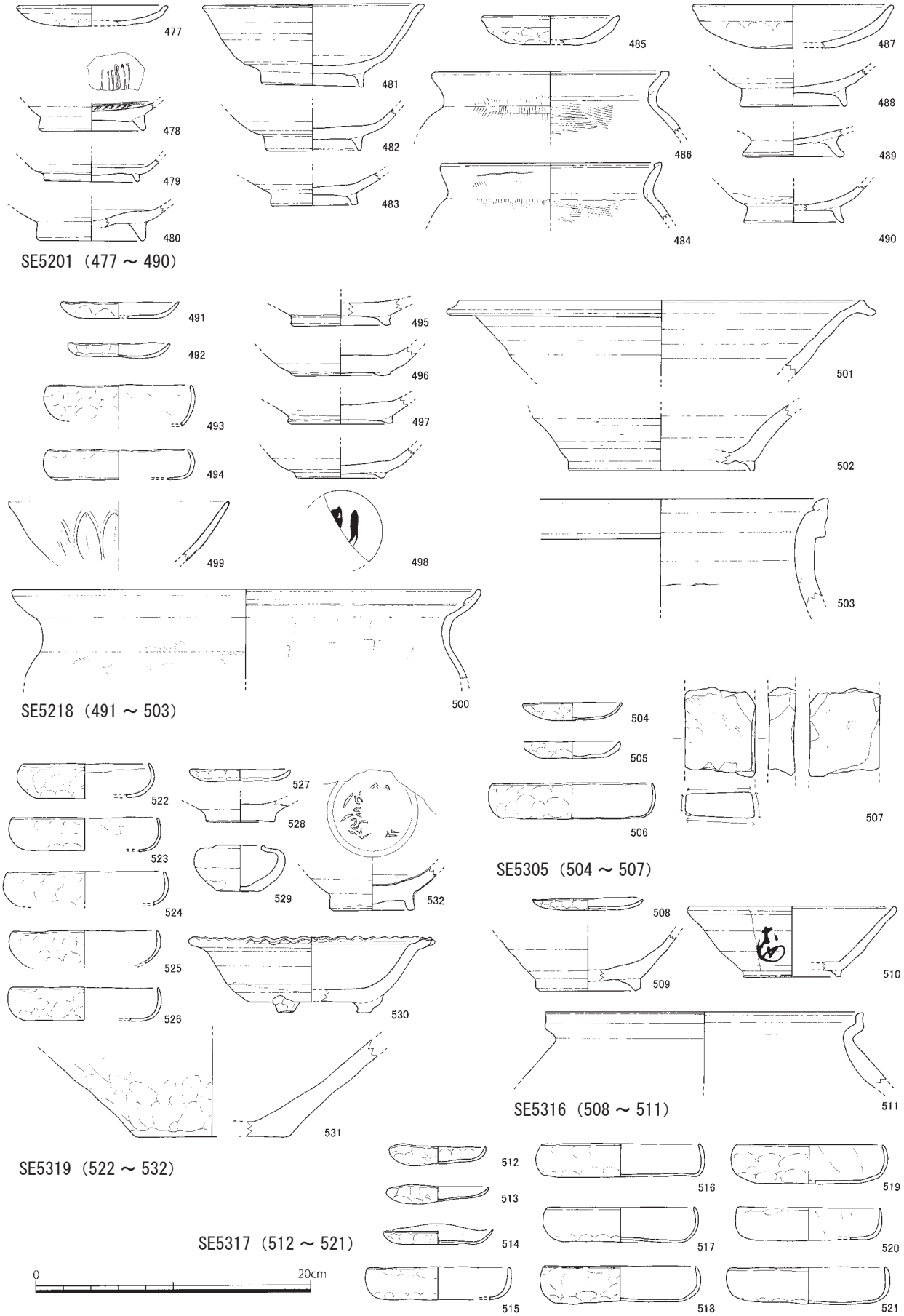
SE5136 下層～曲物内
（431 ～ 439）



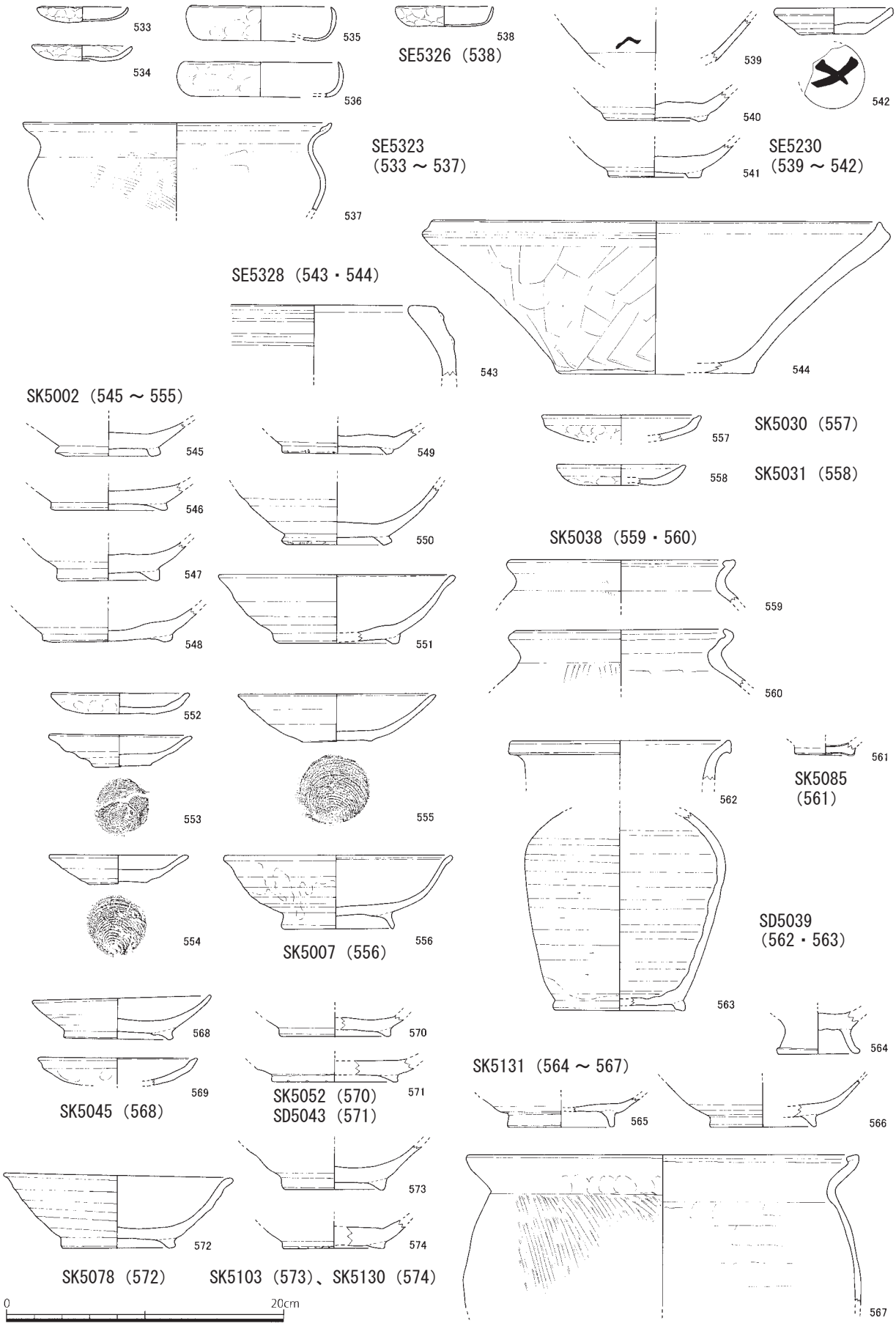
第60図　井戸出土遺物６（1:4）



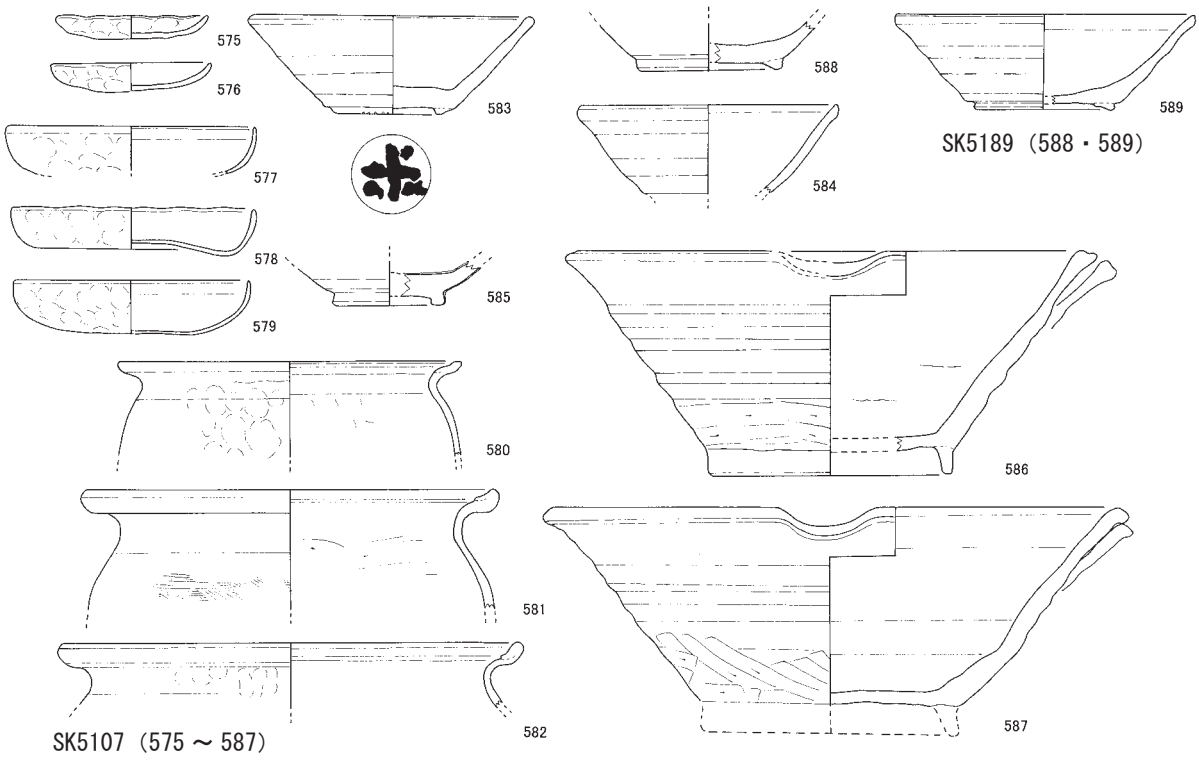
第61図　井戸出土遺物７（1:4）

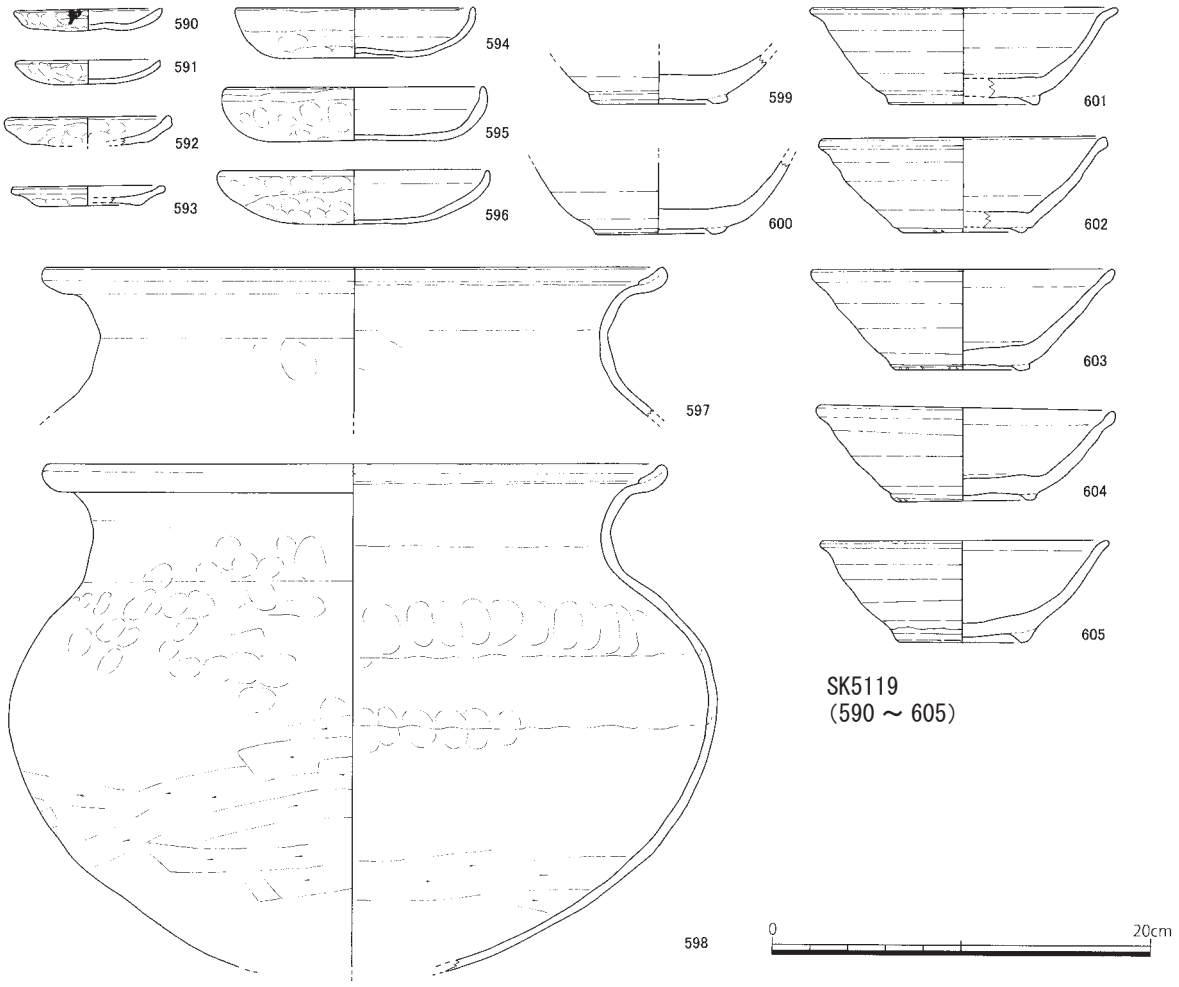


第62図　井戸出土遺物８（1:4）

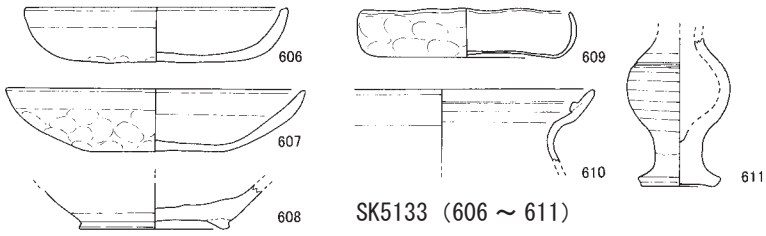


第63図　井戸・土坑出土遺物（1:4）





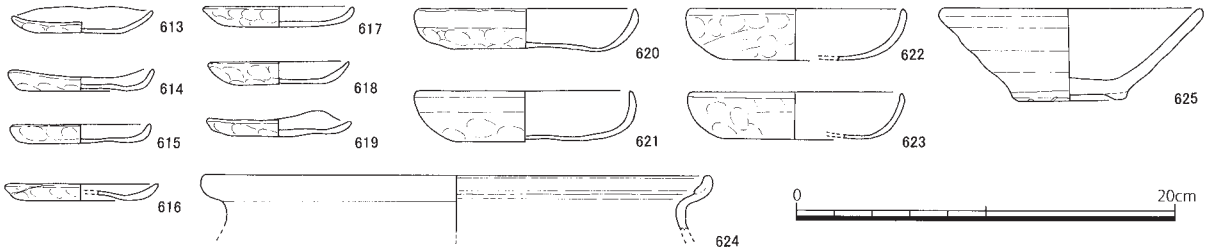
第64図　土坑出土遺物１（1:4）

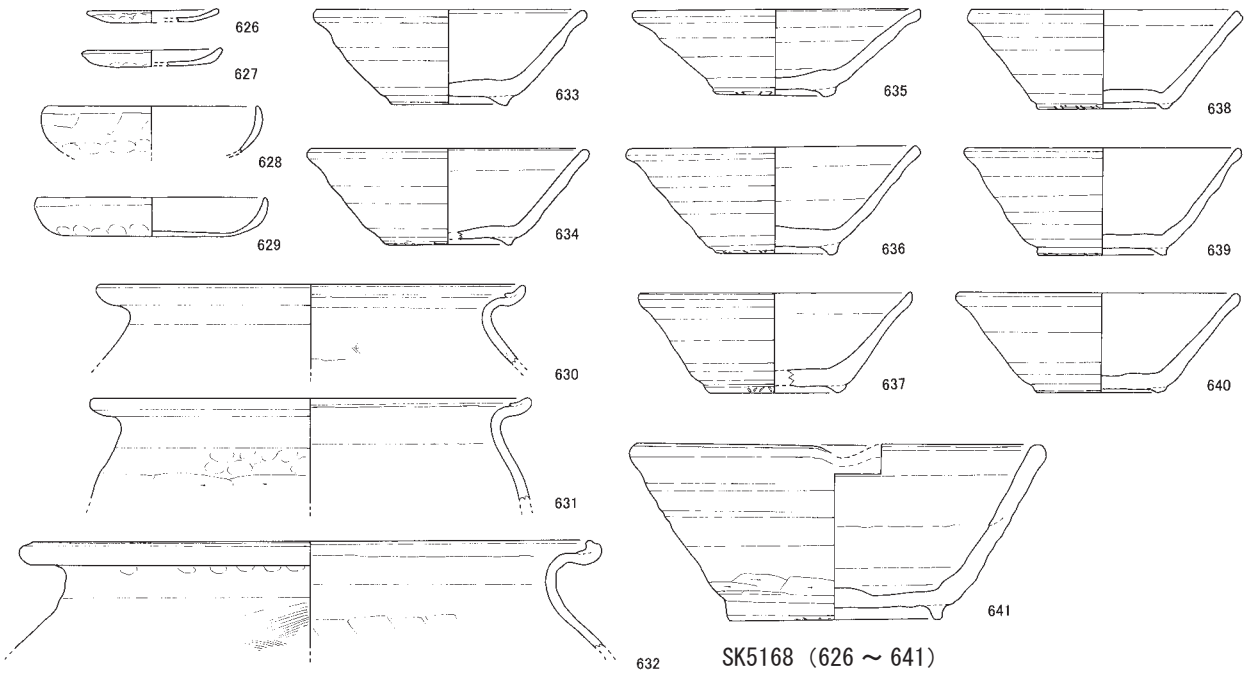


SK5133（606 ～ 611）

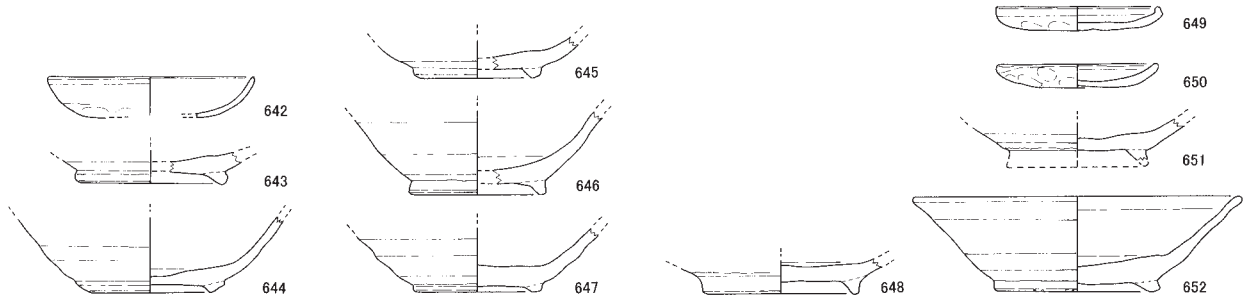
SK5158（612）

SK5167（613 ～ 625）





SK5168（626 ～ 641）



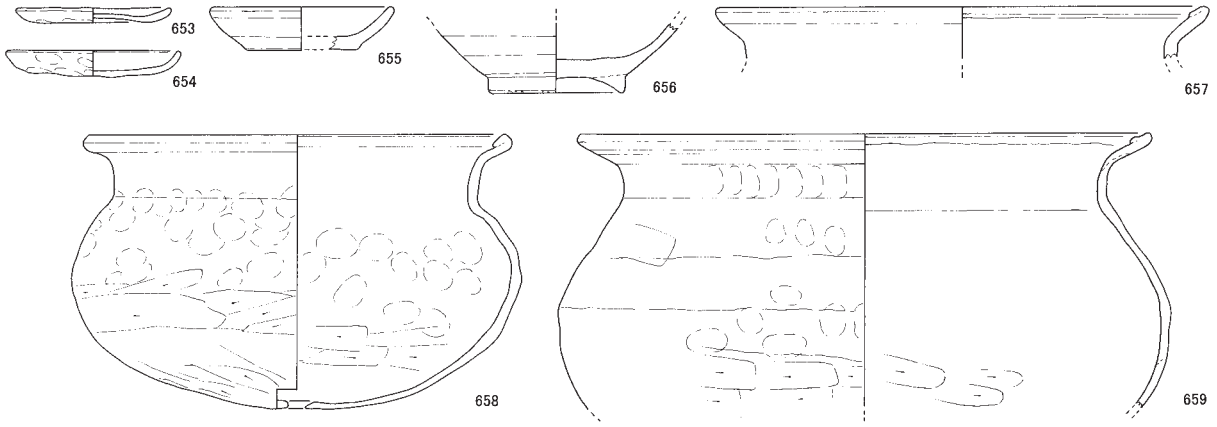
SK5189
（642 ～ 644）

SK5193
（645 ～ 647）

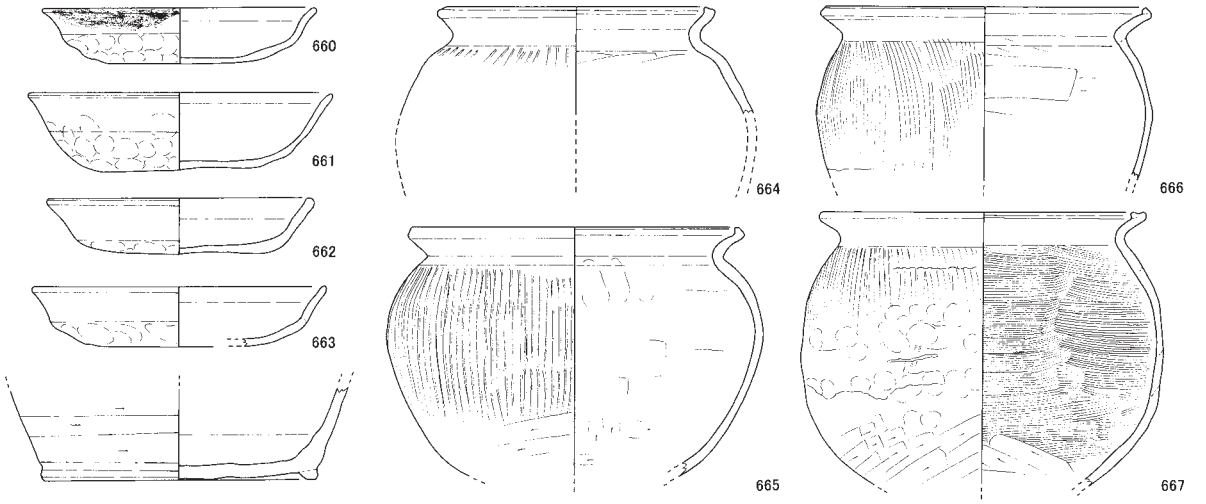
SK5198（648）

SK5197
（649 ～ 652）

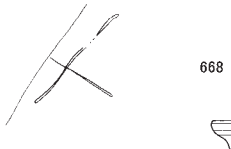
第65図　土坑出土遺物２（1:4）

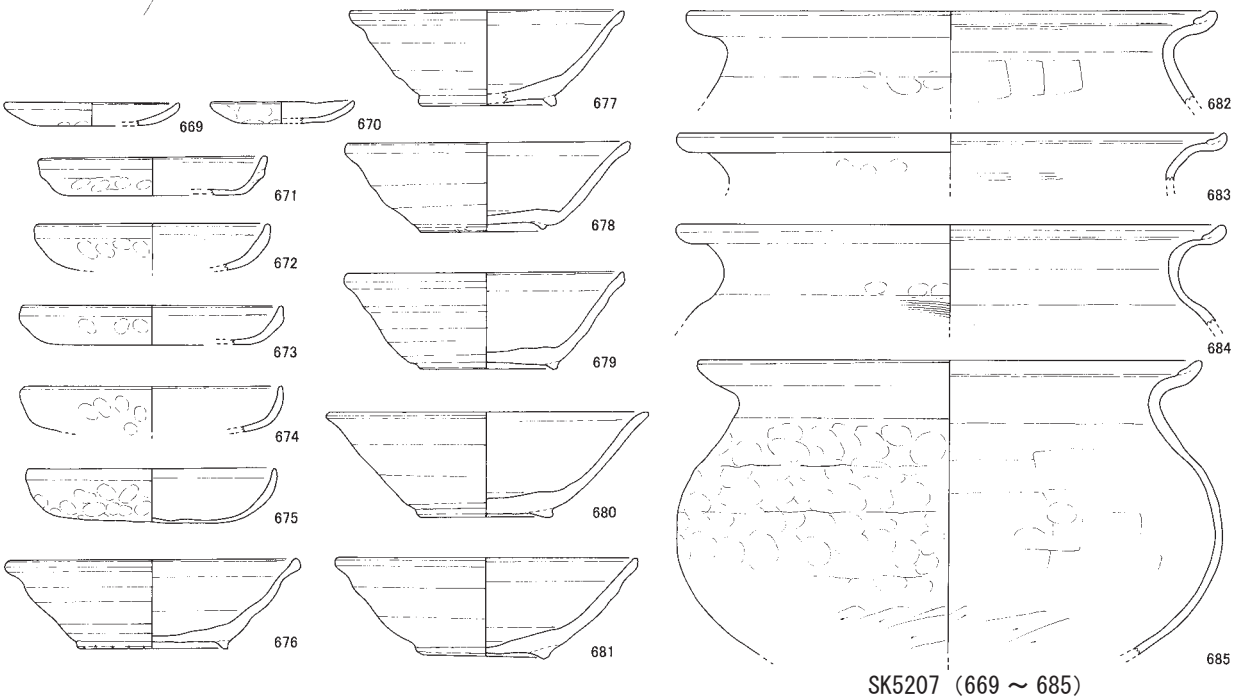


SK5196（653 ～ 659）



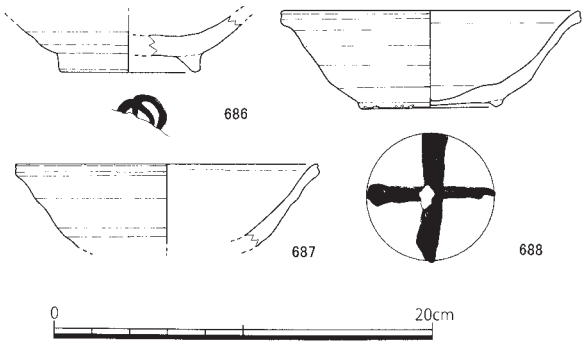
SK5202（660 ～ 668）



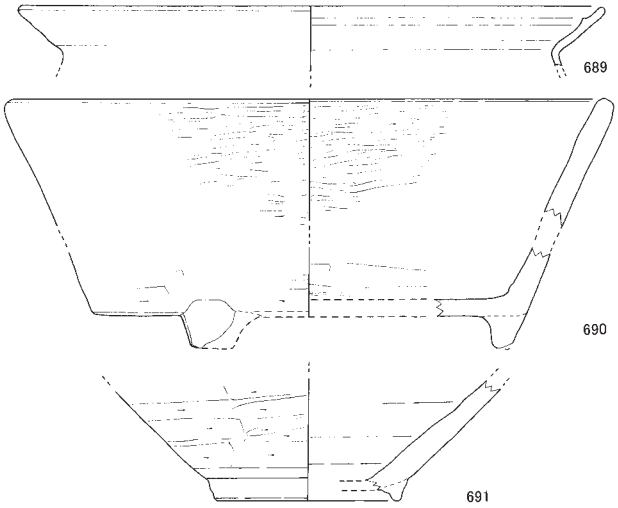


SK5207（669 ～ 685）

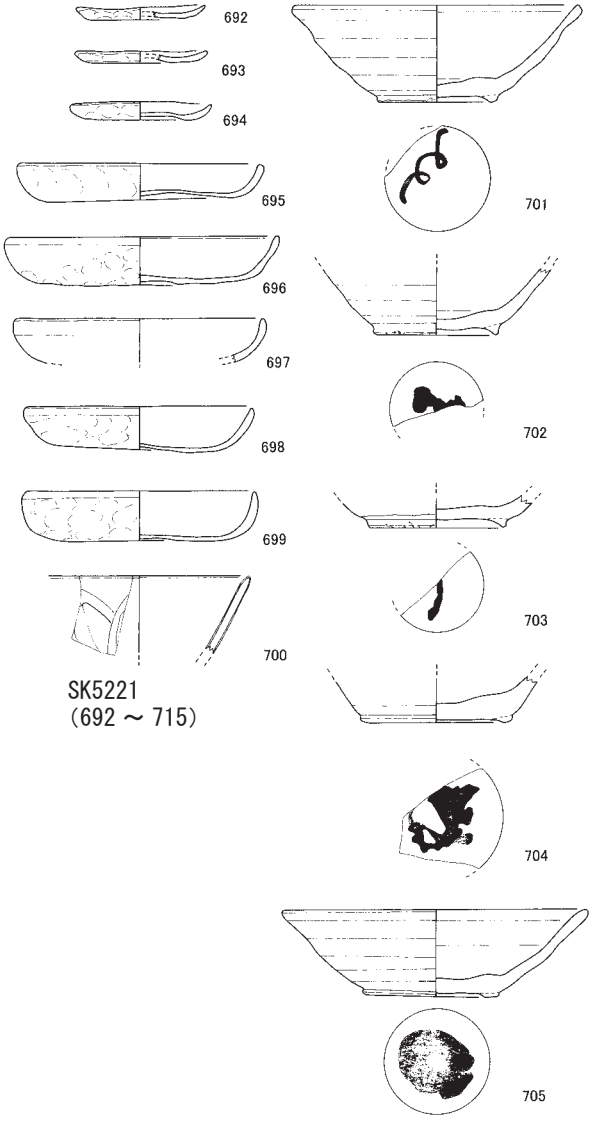
第66図　土坑出土遺物３（1:4）



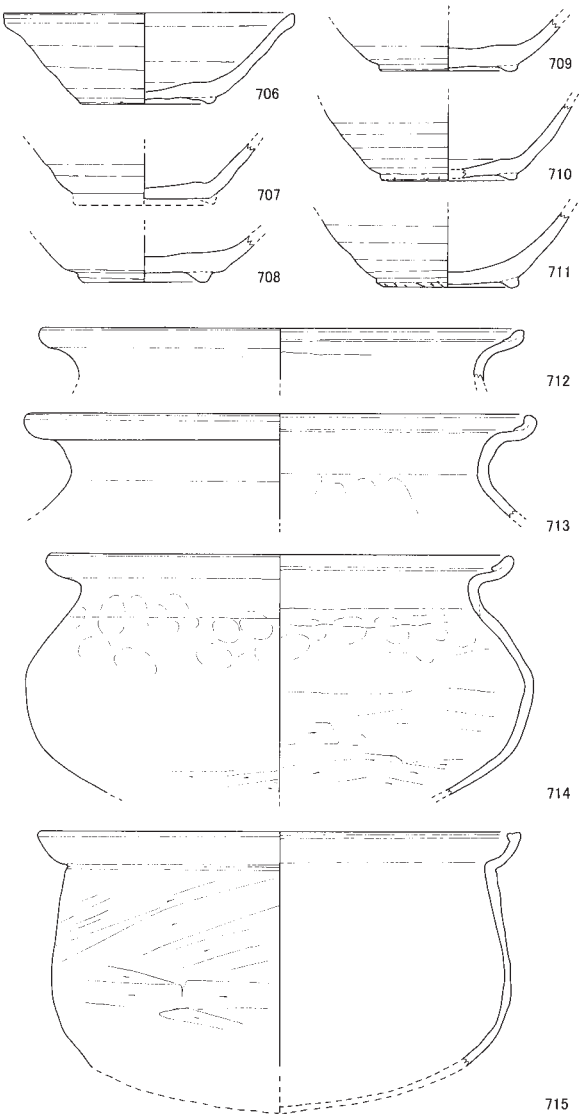
SK5210（686 ～ 688）



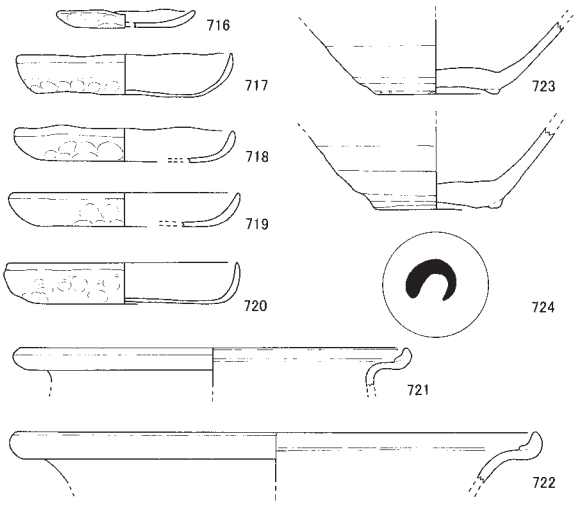
SK5220(SE5218 井戸枠内)
（689 ～ 691）



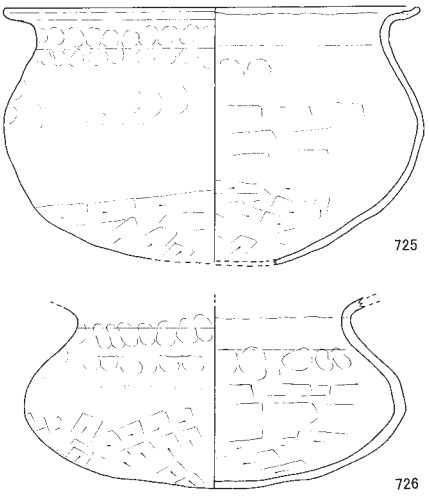
SK5221
（692 ～ 715）



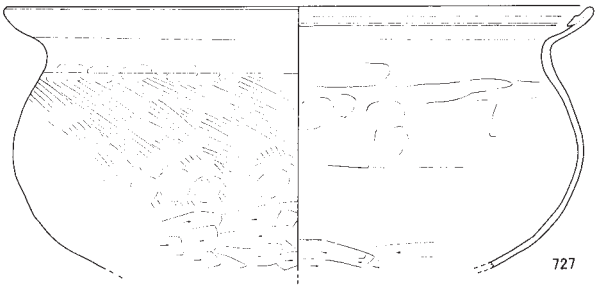
第67図　土坑出土遺物４（1:4）



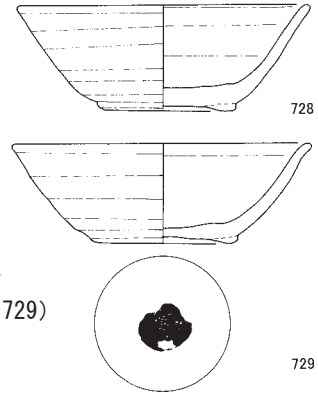
SK5226（716 ～ 724）



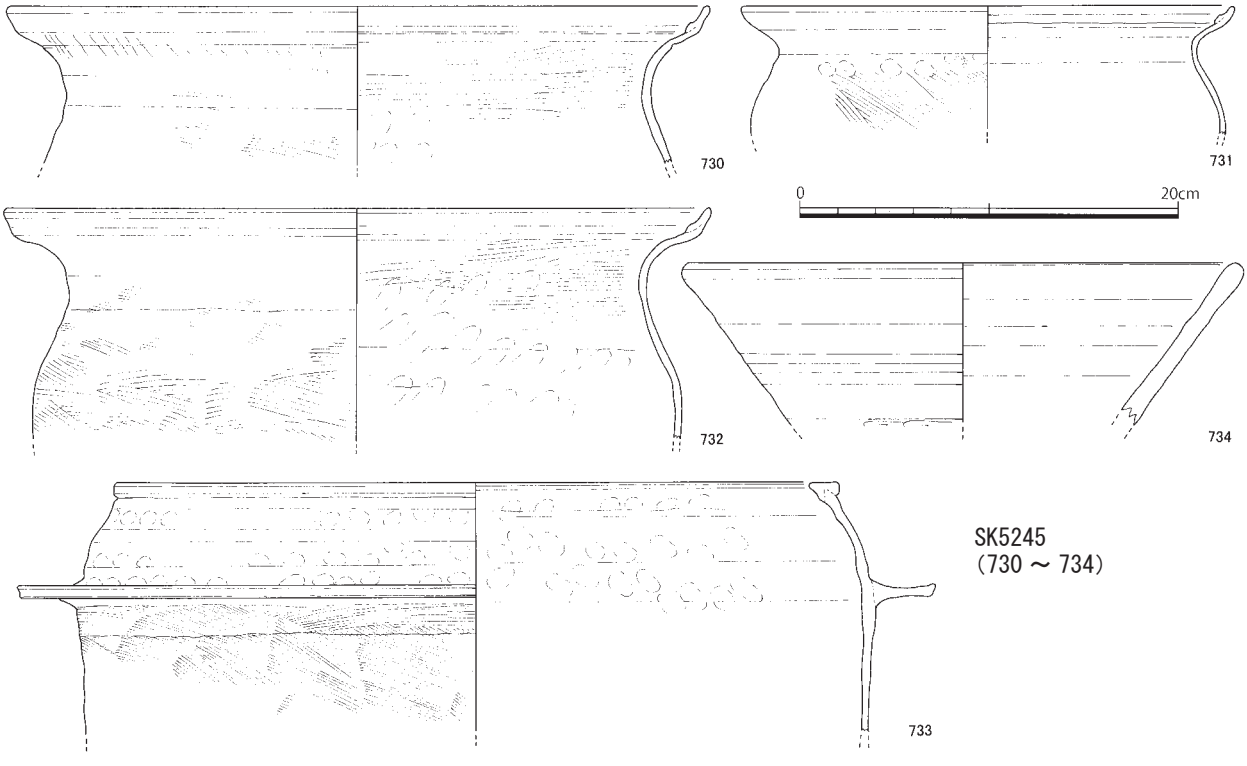
SK5238（725・726）



SK5251（727）

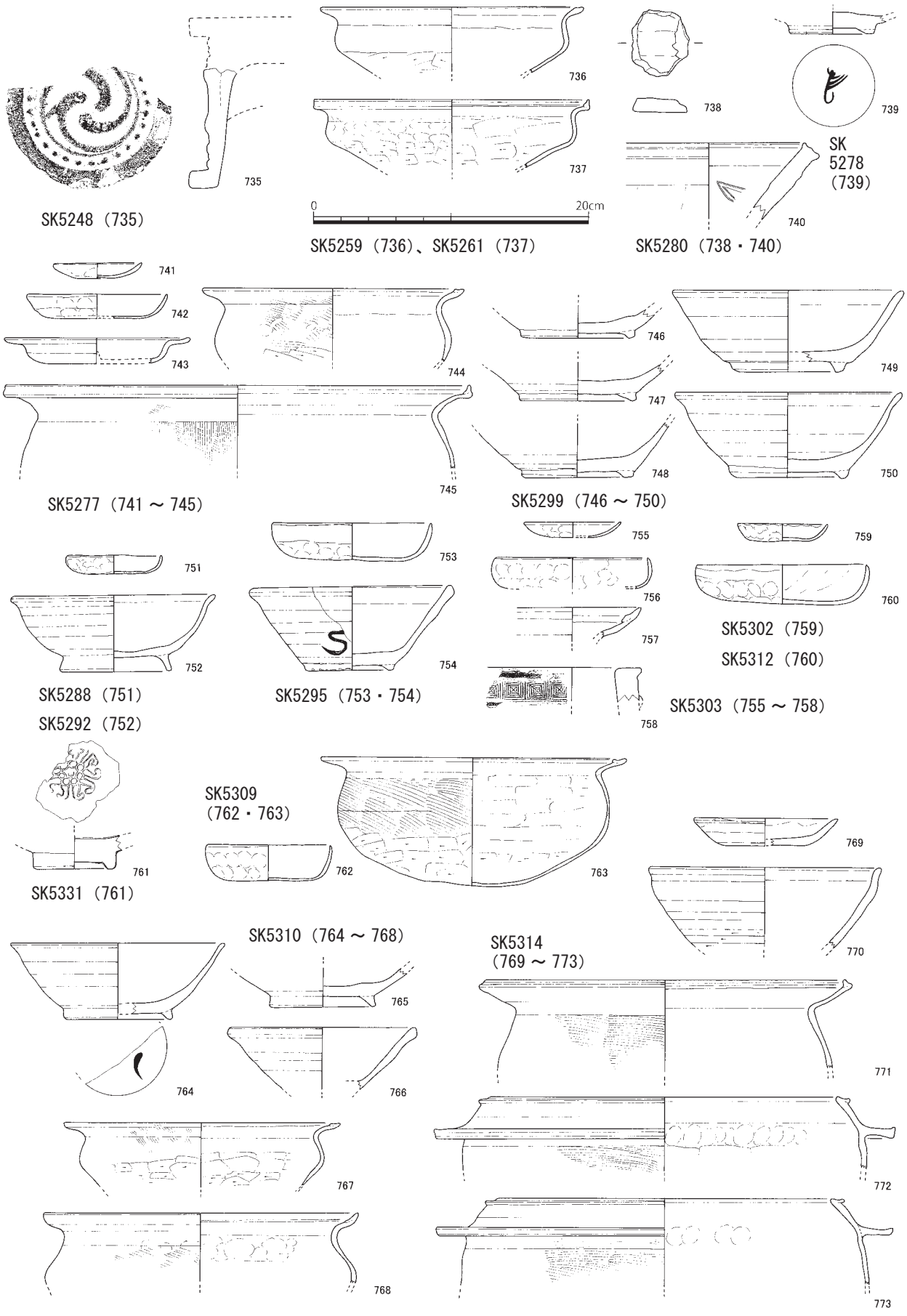


SK5257
（728・729）

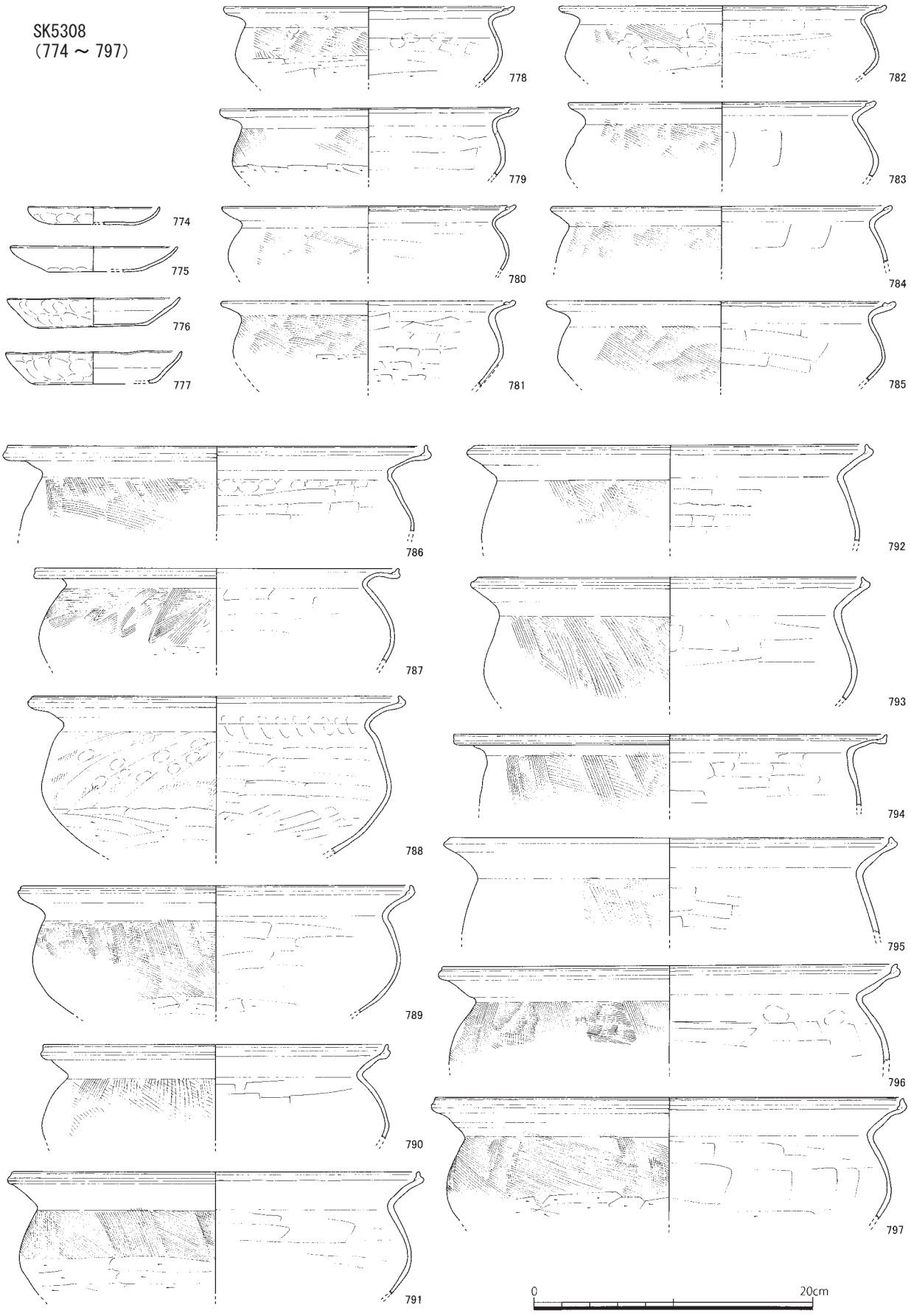


SK5245
（730 ～ 734）

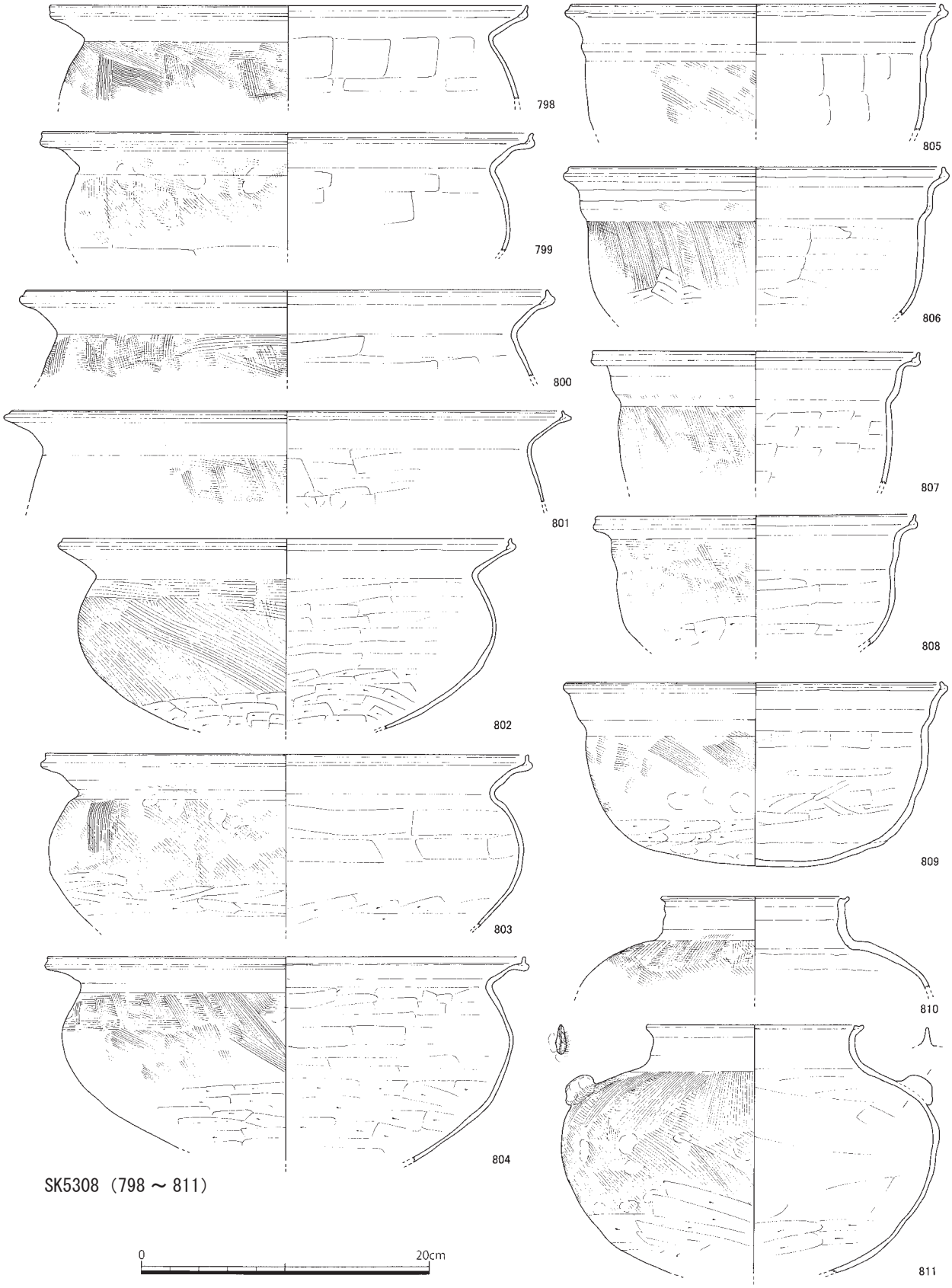
第68図　土坑出土遺物５（1:4）



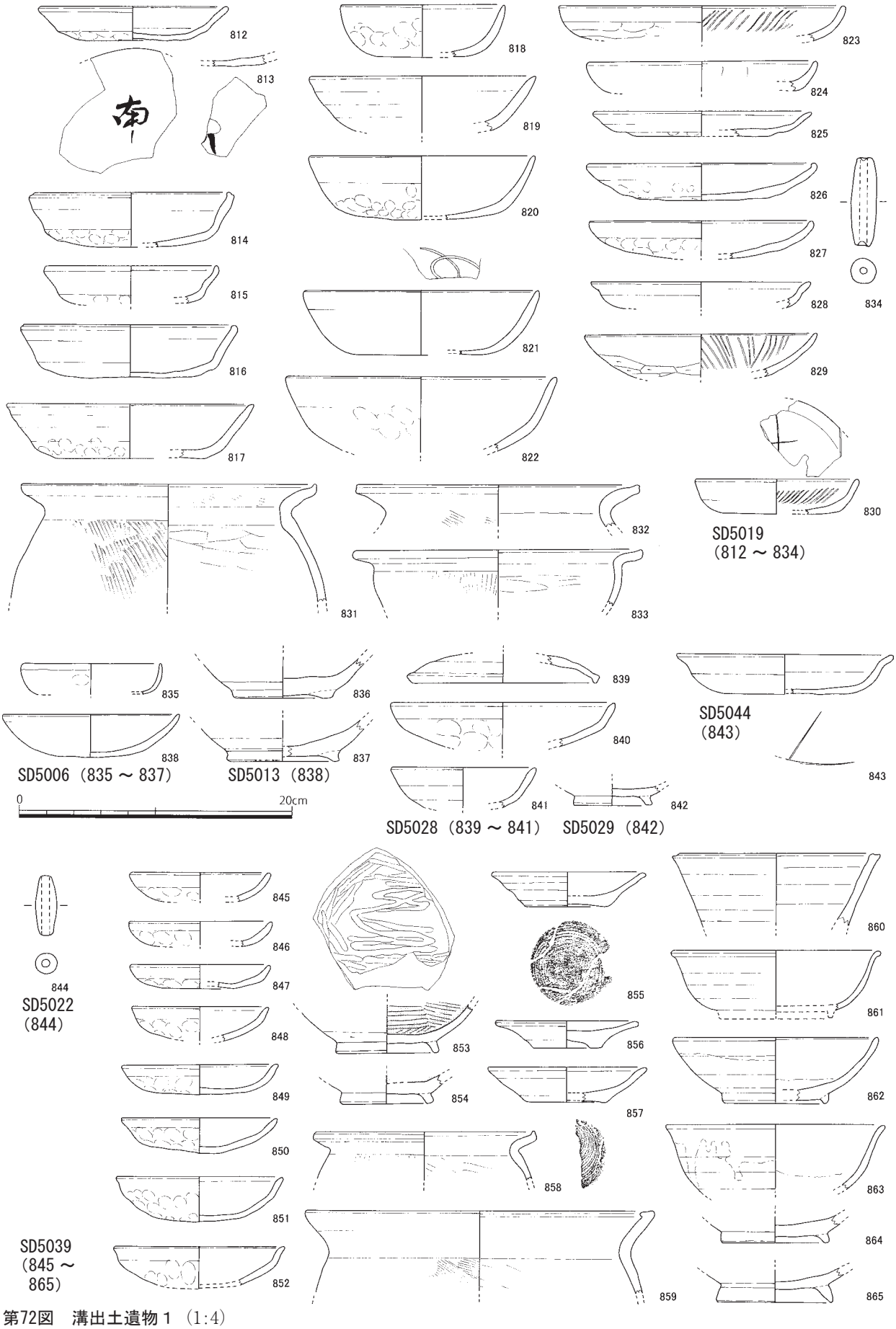
第69図　土坑出土遺物６（1:4）



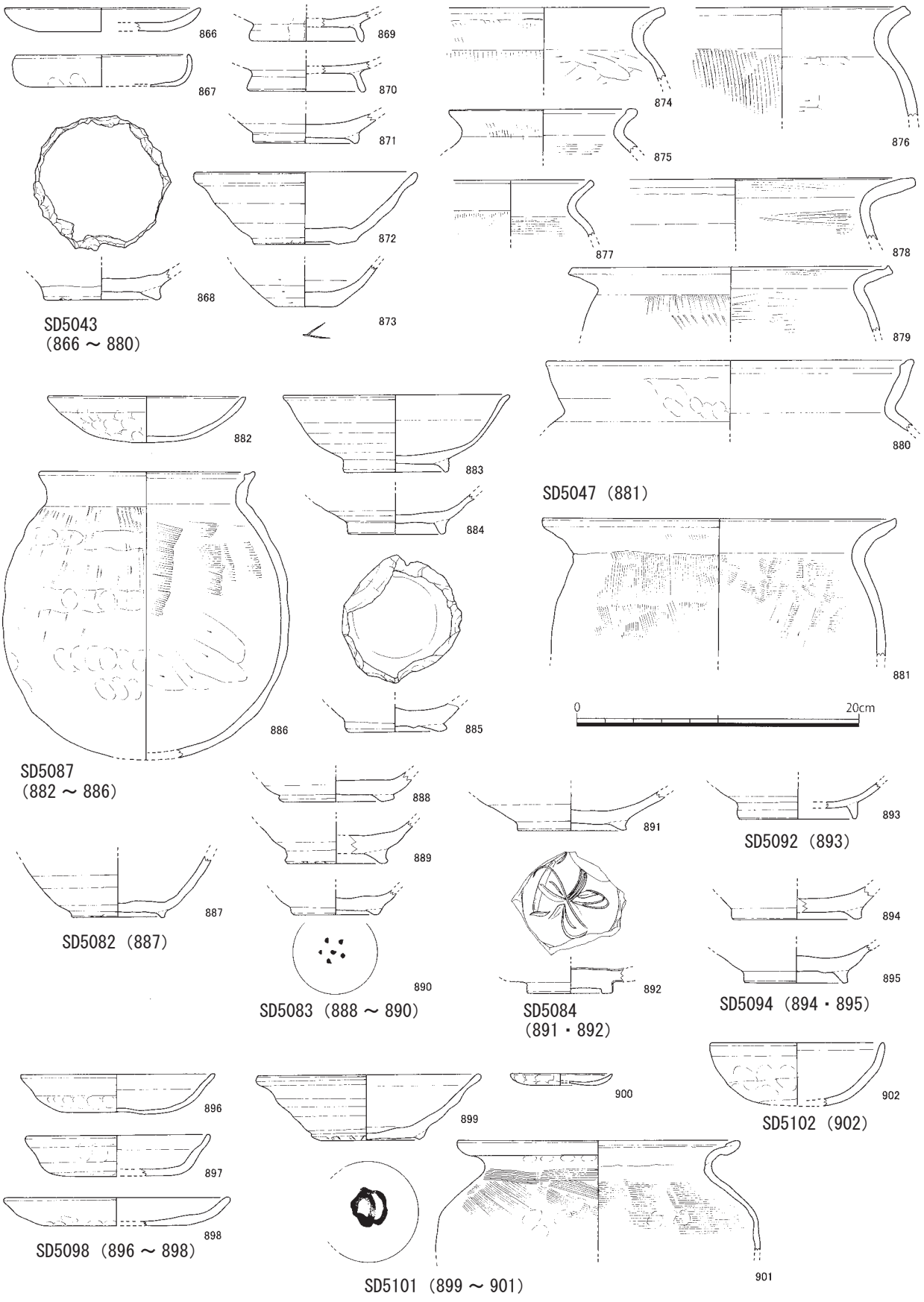
第70図　土坑出土遺物７（1:4）



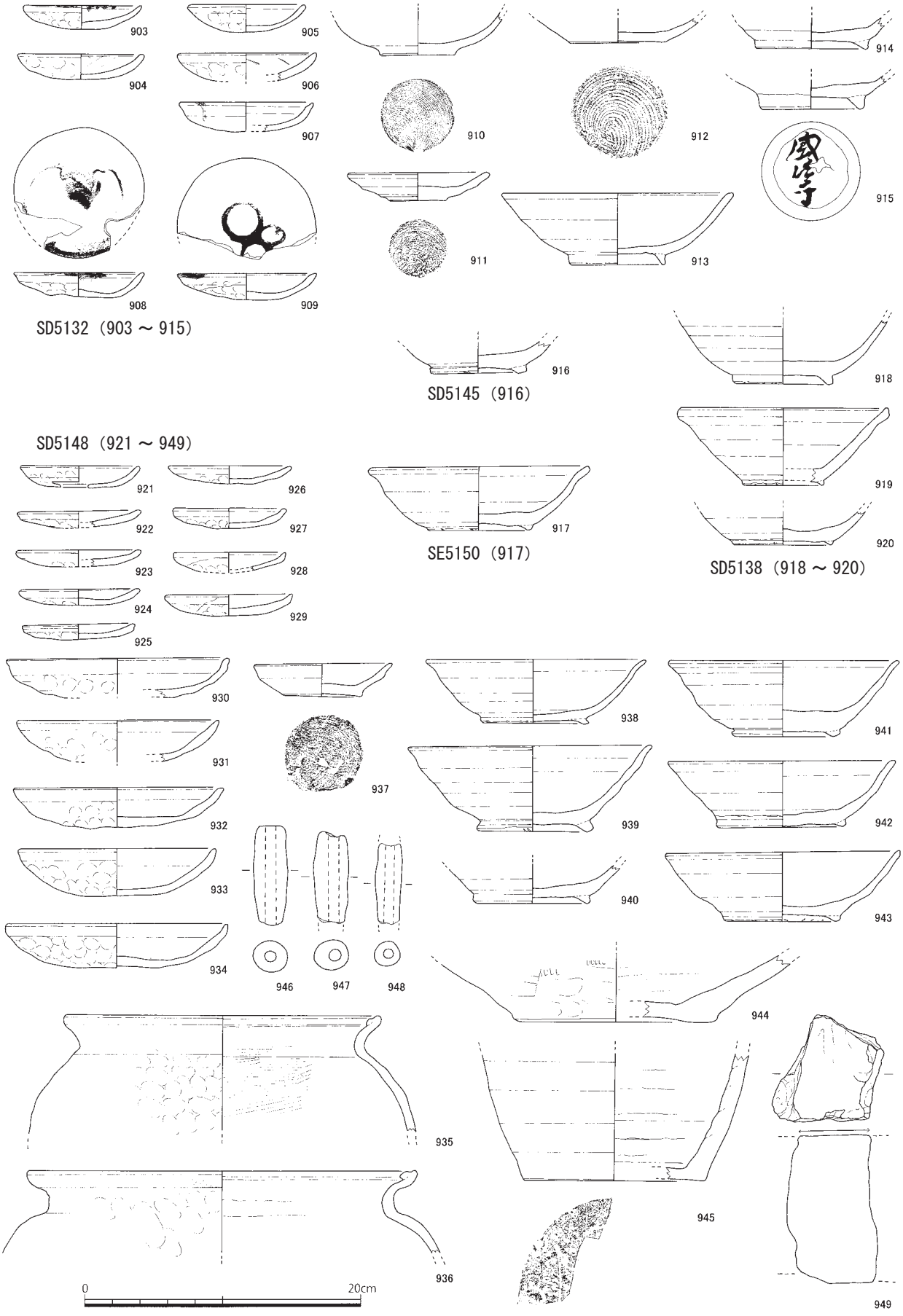
第71図　土坑出土遺物８（1:4）



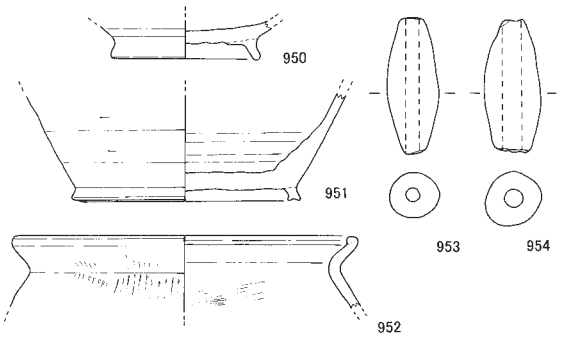
第72図　溝出土遺物１ (1:4)



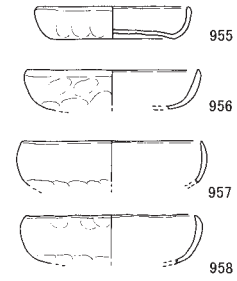
第73図　溝出土遺物２（1:4）



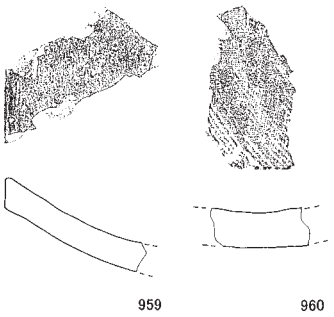
第74図　溝出土遺物３（1:4）

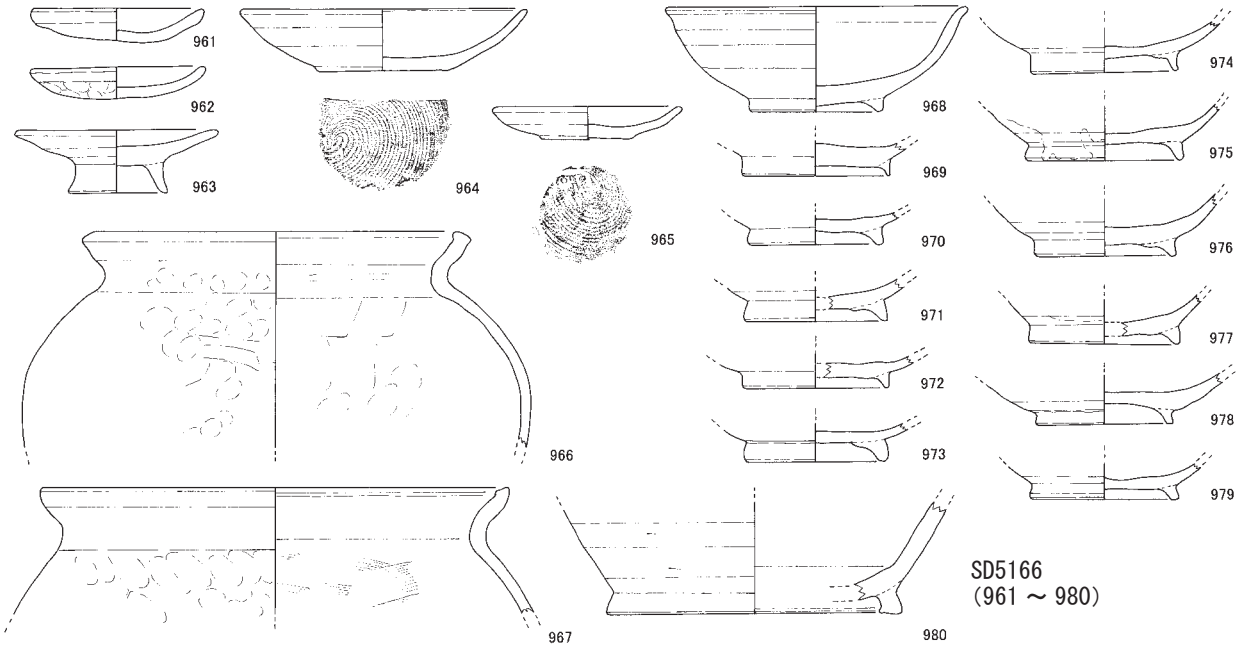


SD5155（950 ～ 954）



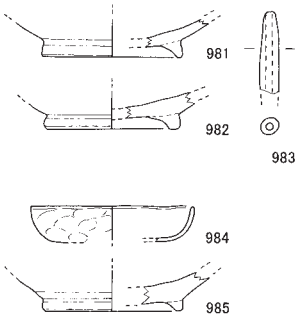
SD5165（955 ～ 960）





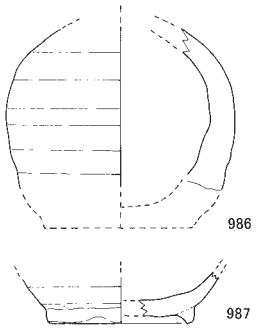
SD5166
（961 ～ 980）

SD5170（981 ～ 983）



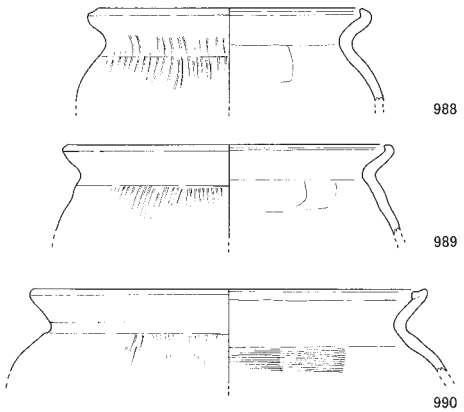
SD5172（984・985）

SD5180（986）



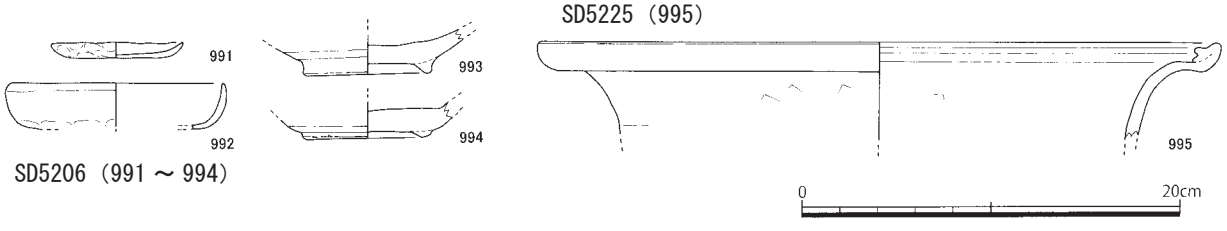
SD5209（987）

SD5234（988・989）



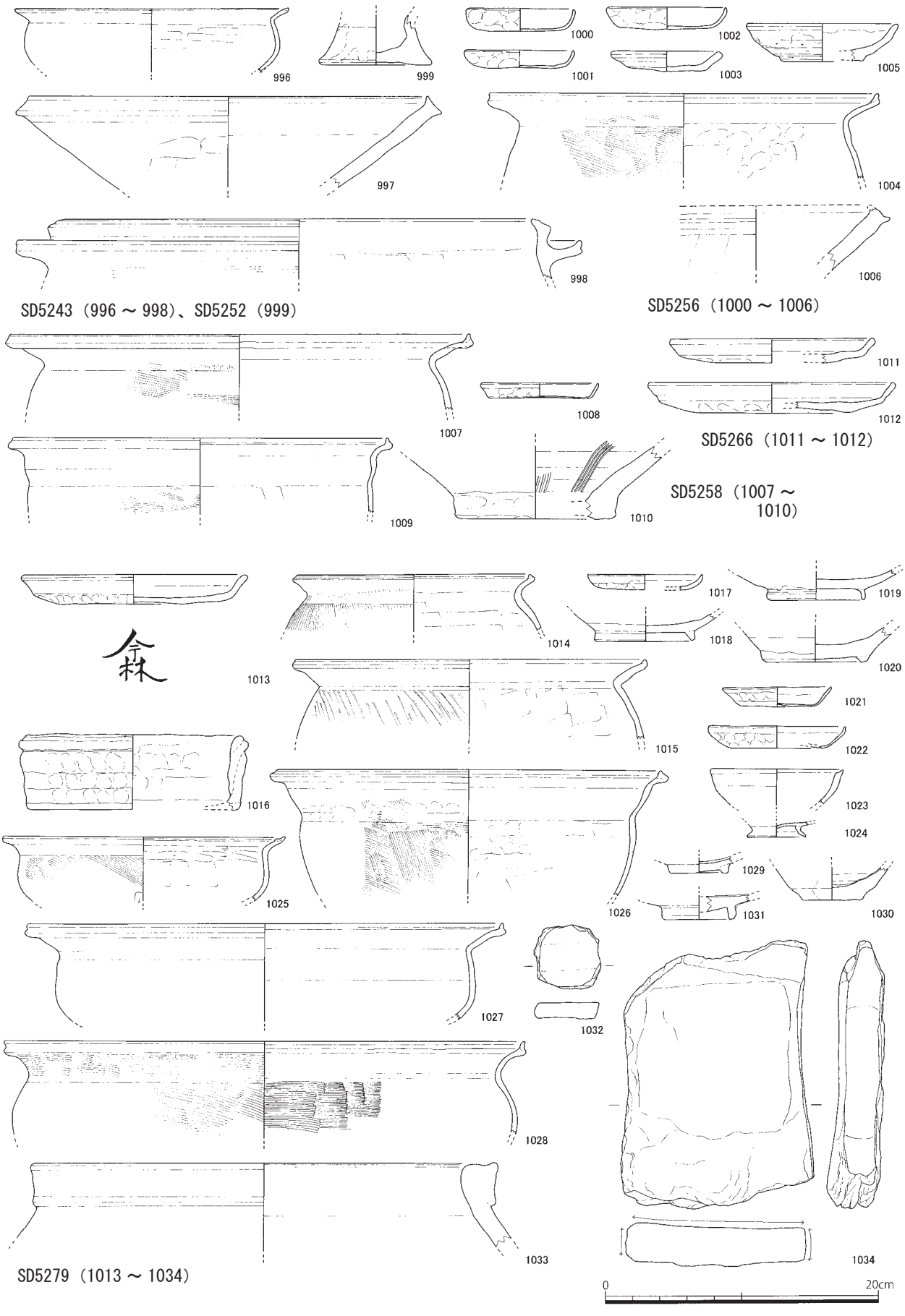
SD5235
（990）

SD5225（995）

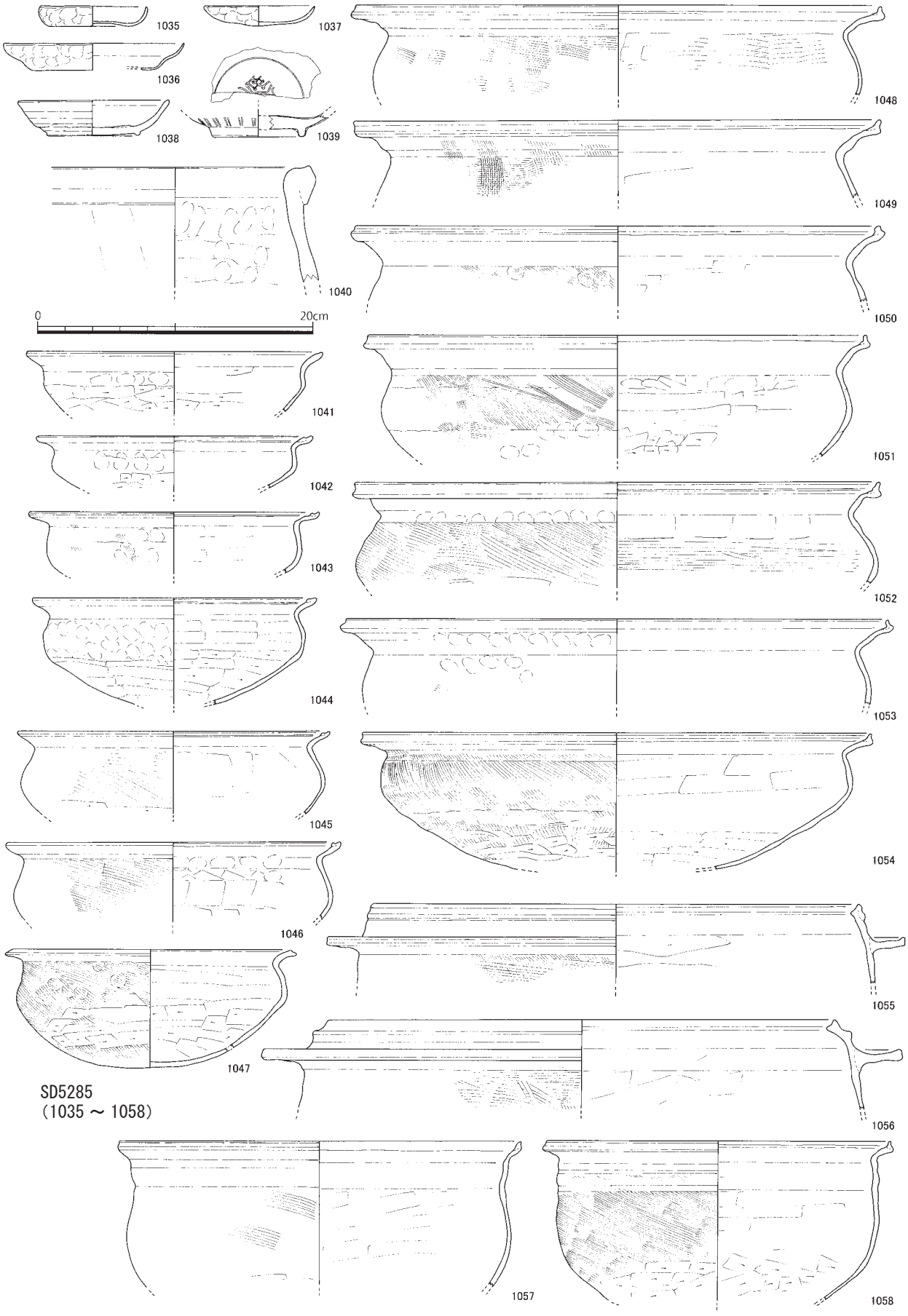


SD5206（991 ～ 994）

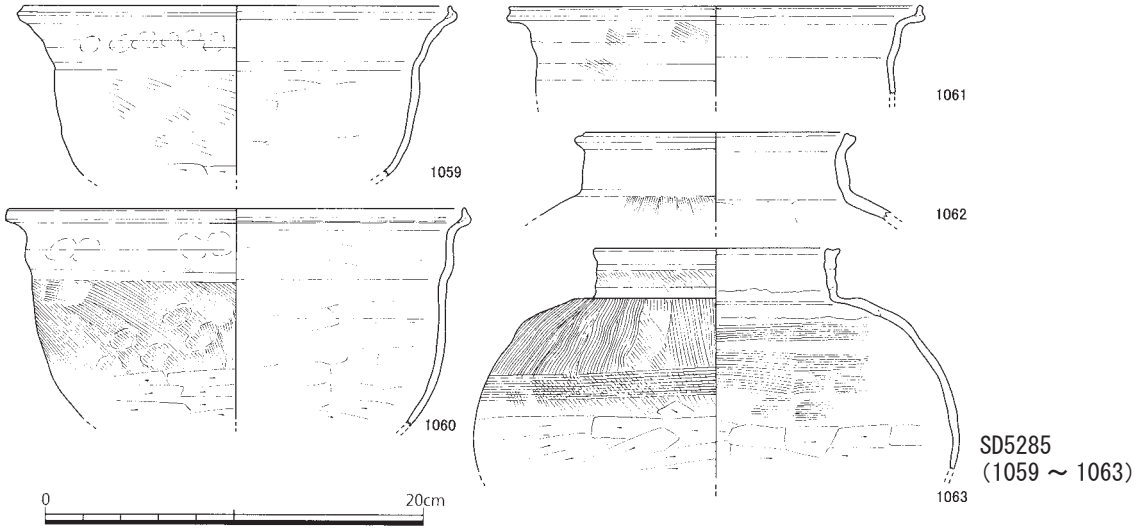
第75図　溝出土遺物４（1:4）



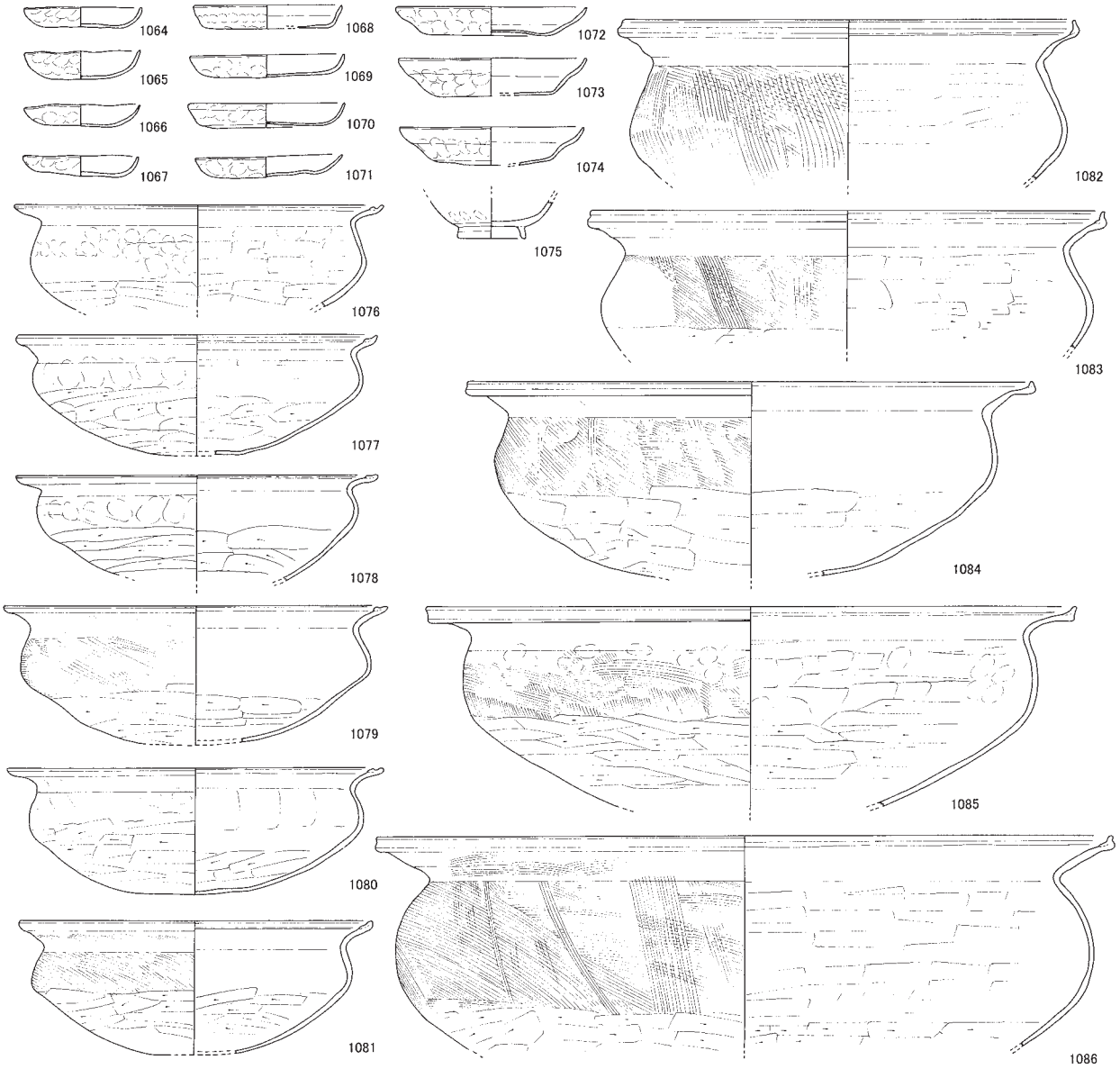
第76図　溝出土遺物５（1:4）



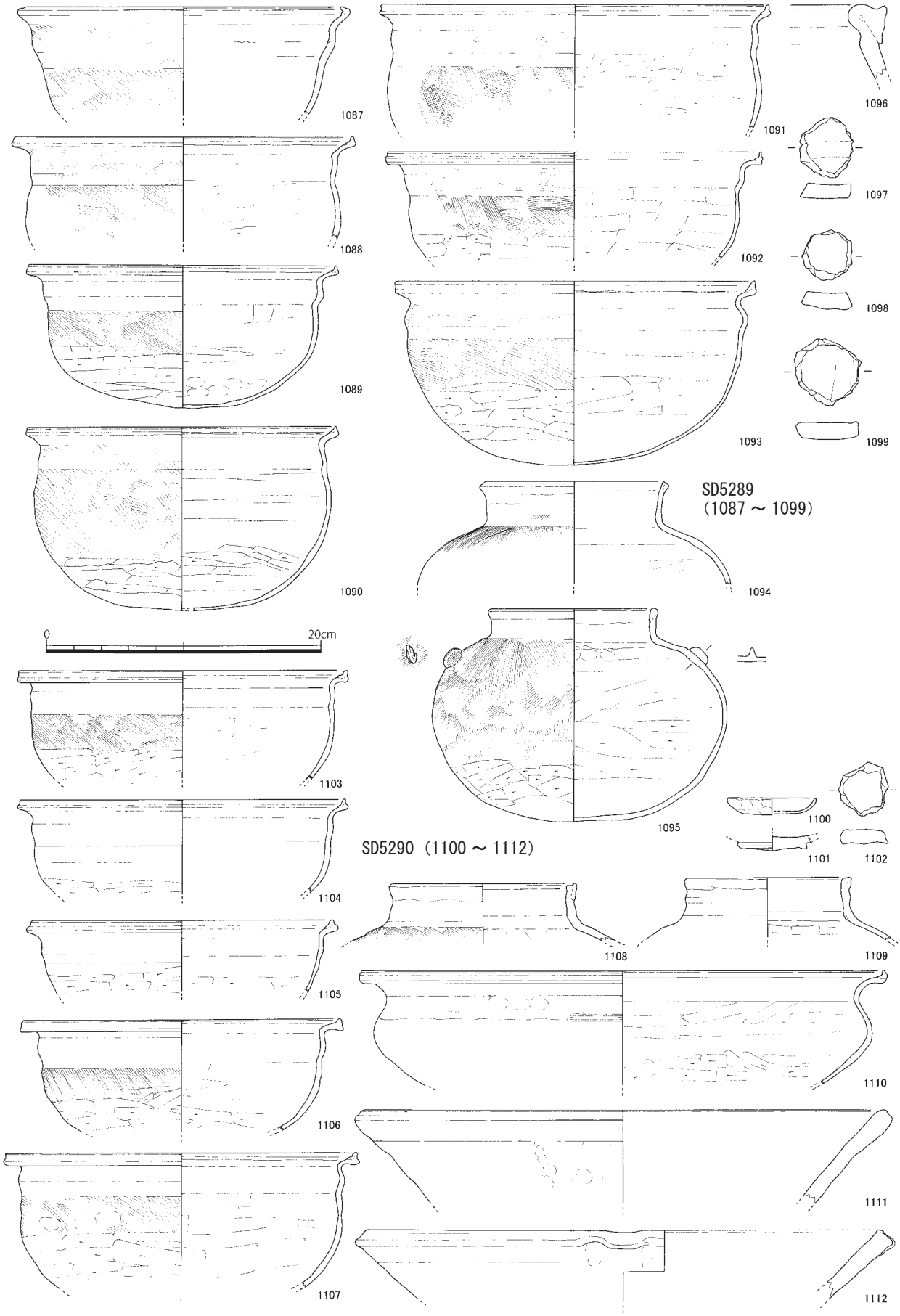
第77図　溝出土遺物６（1:4）



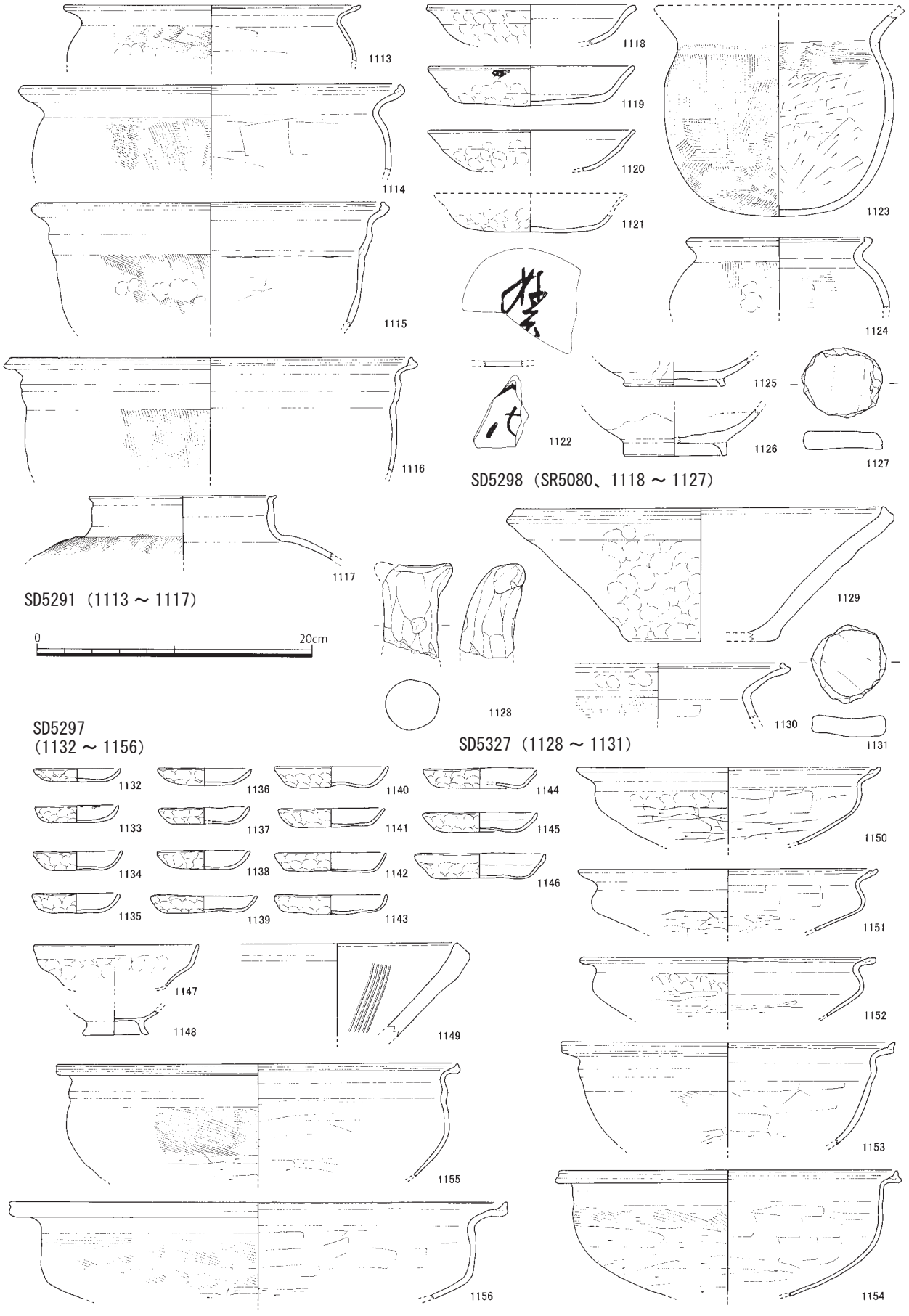
SD5289（1064 ～ 1086）



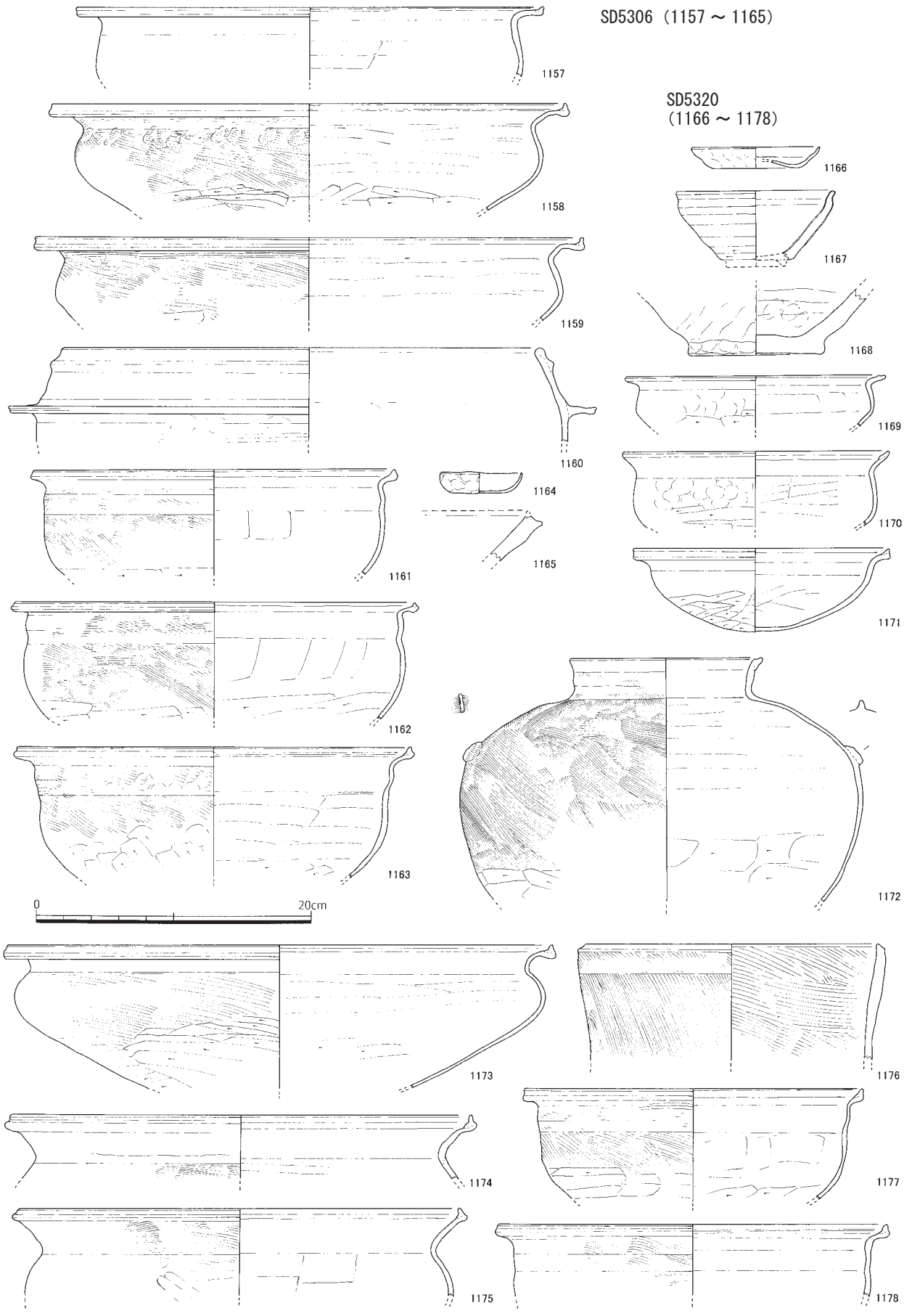
第78図　溝出土遺物７（1:4）



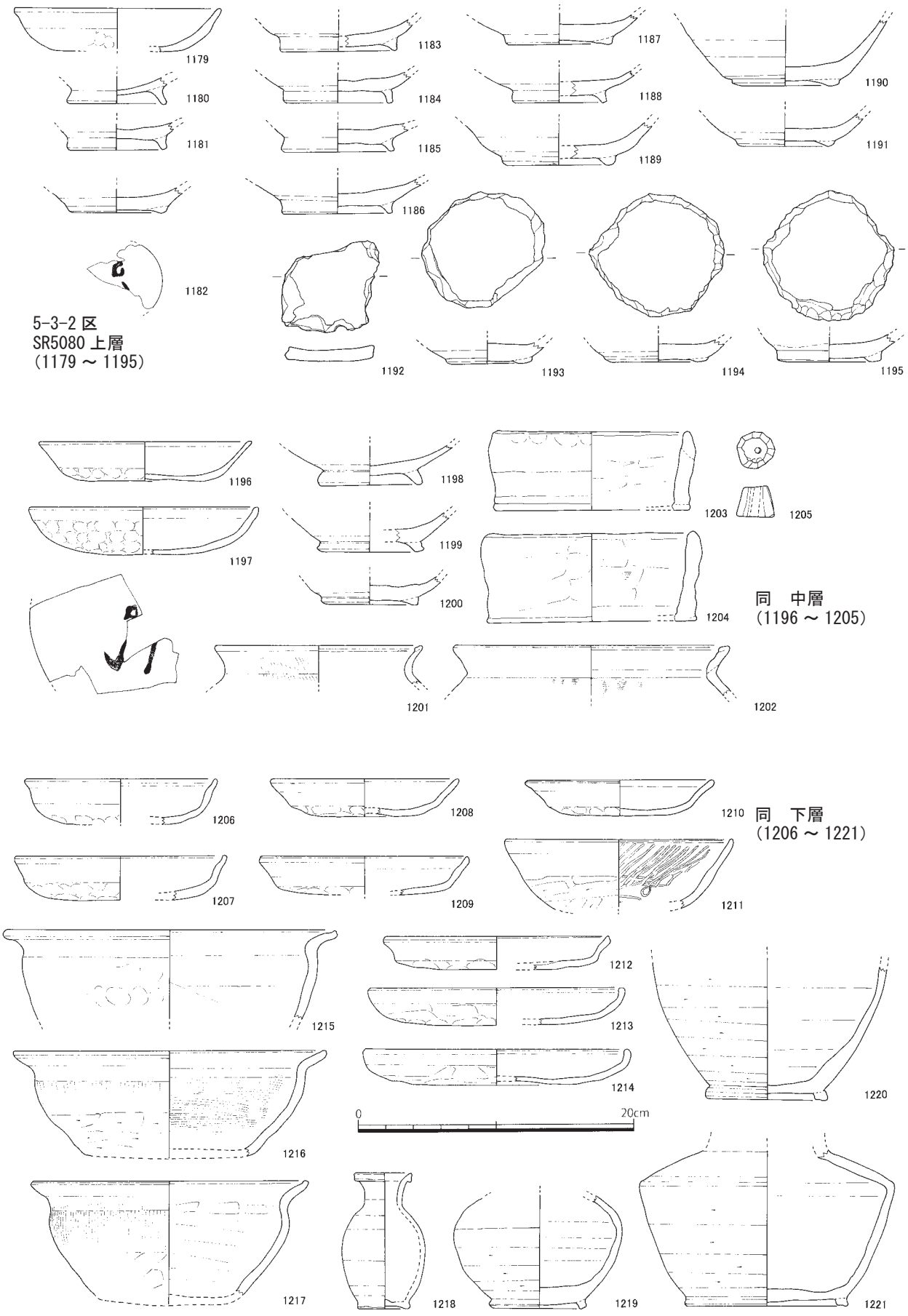
第79図　溝出土遺物８（1:4）



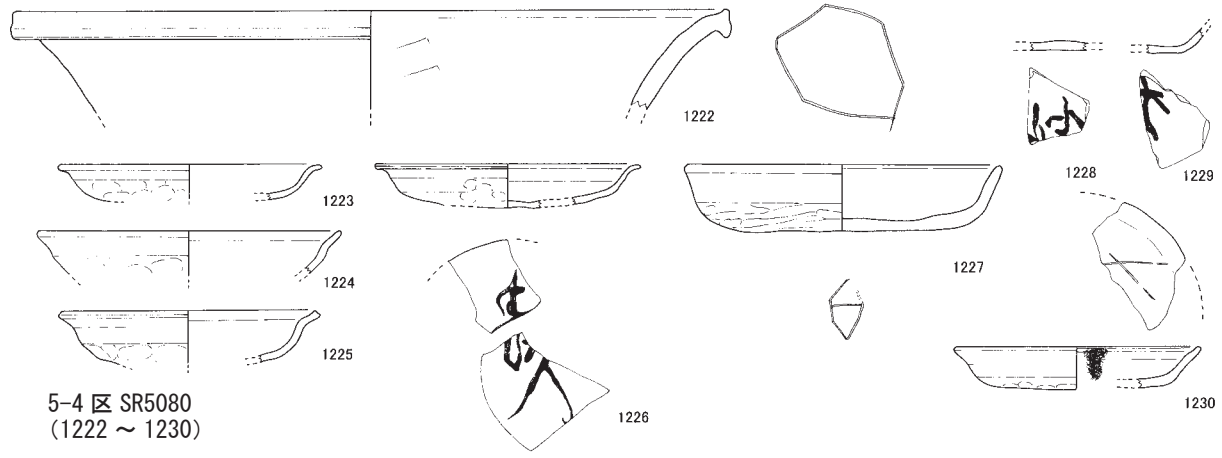
第80図　溝出土遺物９（1:4）



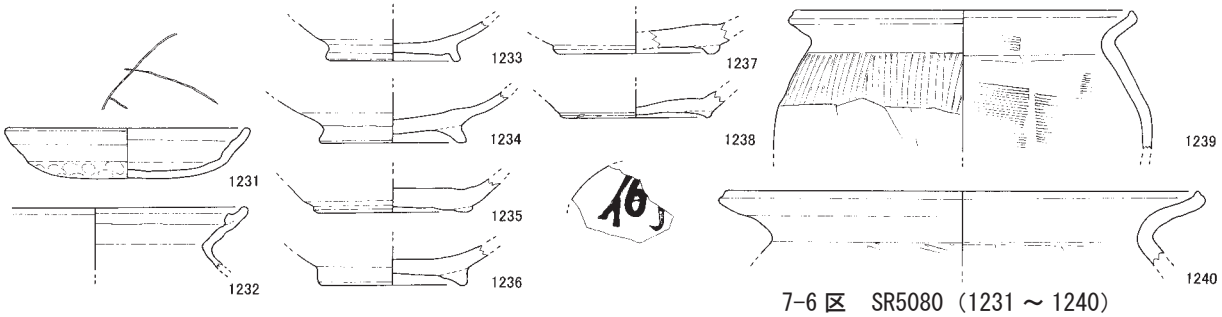
第81図　溝出土遺物10（1:4）



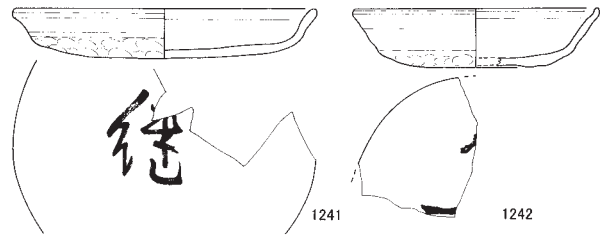
第82図　自然流路出土遺物１（1:4）

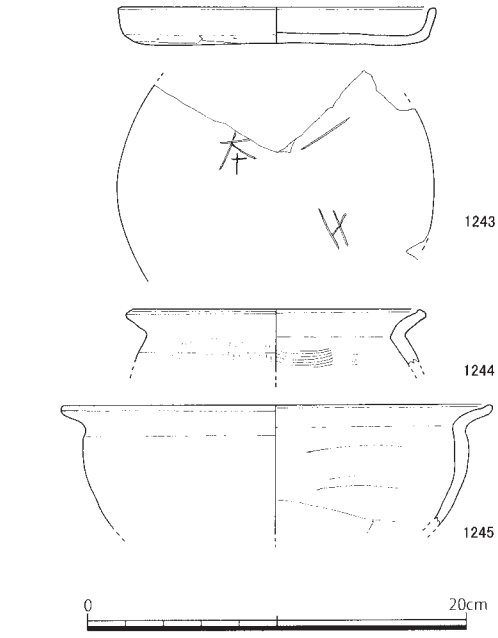


5-4 区 SR5080
（1222 ～ 1230）



7-6 区　SR5080（1231 ～ 1240）





7-8 区　SR5080（1241 ～ 1245）

第83図　自然流路出土遺物２（1:4）

⑥表土・包含層等（第 84 図）

青磁など、出土数の少ない遺物や、遺構との関係がうかがえるものを中心に図化した。

1246 は底部穿孔のみられる平安後期の土師器皿である。1250 ～ 1253 は中世Ⅳ期の土師器皿で、本来はＳＤ 5297 に伴うものであろう。1252 は油煙が付着する灯明皿である。

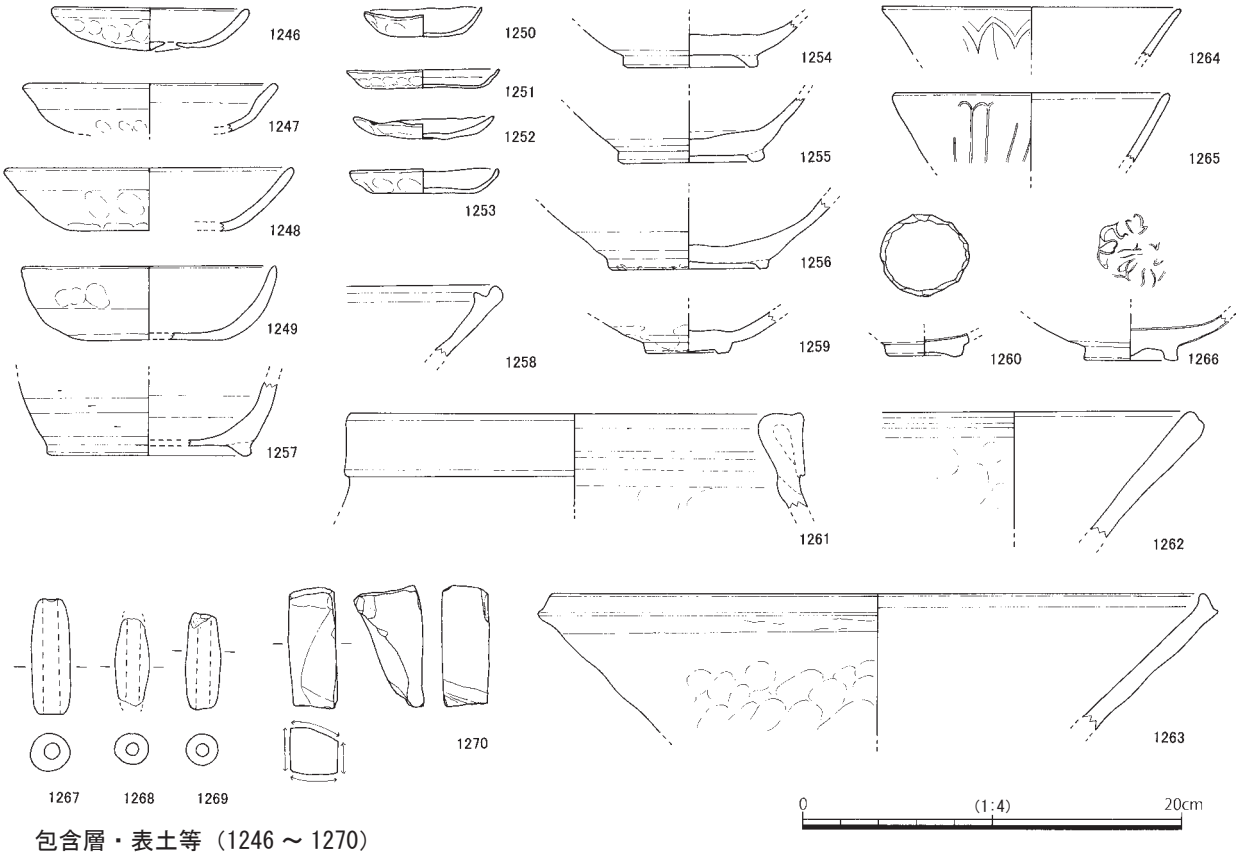
中世後期の陶器類は同じく 7-9-4 区で出土した。1258 は古瀬戸の卸目付大皿片、1259 は古瀬戸後Ⅳ期の平椀。1260 は瀬戸美濃天目茶碗で、鉄化粧の錆釉は濃い。1264 ～ 1266 は青磁椀である。1261・1263 は常滑 11 型式で焼成は真焼、1262 は軟質の片口鉢で 12 型式に相当する。

1270 は極細目の凝灰岩製砥石で、全面に使用痕がある。損耗で三角形を呈する。

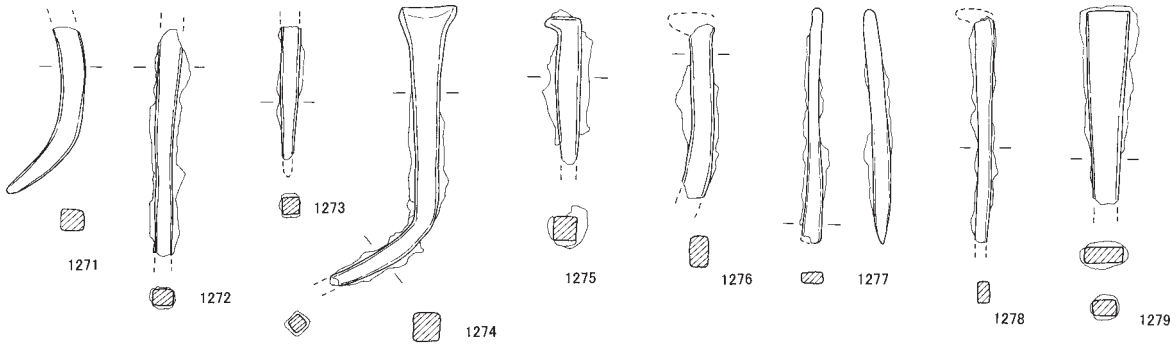
（２）金属製品（第 84 図）

金属製品の出土量は非常に少ない。鉄釘や不明棒状具片、北宋～明代の銭貨が出土したのみである。

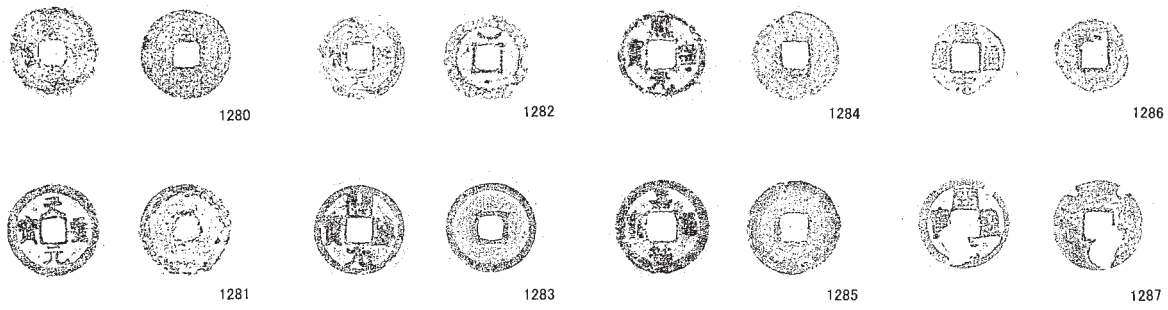
銭貨 1280・1281 は 7-9-1 区の同一ピットから出土した。地鎮に伴うものであろう。



包含層・表土等（1246 ～ 1270）



鉄製品（1271 ～ 1279）



銭貨（1280 ～ 1287）

第84図　表土等出土遺物（1:4）、鉄製品・銭貨（1:2）

（3）木製品

木製品は井戸枠材が大半で、これらには建築部材が多く含まれている。日常雑器類では井戸水溜に転用された曲物や、曲物底板が多い。その他の道具はあまり出土していない。

①井戸枠材（第 85 ～ 106 図）

井戸枠材は加工痕や部材の特徴がよく残るもののみを図化した。遺構ごとに説明する。

ＳＥ 5008（第 85 図） 1288 ～ 1292 は下段の土居桁部材で、木の最外部の形状を残す板目材を用いる。1289・1290・1292 は側面にも枘穴を持つが、土居桁としては不要な枘穴であり、いずれも転用材である可能性が高い。1293 は本来上段にあった土居桁が落ち込んだもので、３ヶ所に釘穴ないしエツリ穴が認められる。これも建築部材の転用であろう。

1294・1295 は縦板で、いずれも建築部材を転用している。1294 は板目取りの幅広材で、下部に枘穴がある。1295 は扉板を転用（写真図版 85）。扉軸側の側面は丸みを帯び、反対側の側面には継手の枘穴がある。扉軸付近には加工痕が顕著である。

ＳＥ 5015（第 86 図） 1296 ～ 1298 は土居桁の固定・支持に用いられた杭で、割材の先を削り出している。

ＳＥ 5026（第 86 図） 1299 ～ 1301 は土居桁の補助材、1302 ～ 1305 は土居桁の部材である。

1304・1305 は両側面に仕口の欠き込みをもつ。朝見遺跡２次ＳＥ 72（９世紀）の井戸枠材に同形のものがあり、元は板組井戸の横桟だったと考えられる。また、1302・1303 の仕口も、出土時の木組みでは機能しない部分がある。

以上から、これらは前身井戸ないし近在の古井戸の井戸枠材を転用したと考えられる。

ＳＥ 5067（第 87 図） 1306 ～ 1324 は水溜（曲物）を外側から補強した板材である。表面や木口（小口）に加工痕があるものを図示した。これらは、厚さが１cm 前後とほぼ一定で、幅は一寸刻みで３～５寸の各種がある。屋根の葺板や野地板など、榑板を転用したものが多く含まれていよう。

表面は大半が割肌のままだが、ヤリガンナやチョウナで調整されたものもある（1322 ～ 1324）。端部切断にはオノ（1314・1319・1324）、ノコギリ（1307・1308・1312・1318）が用いられており、上下両端を残す 1306・1314・1315・1318 などの例から、長さ 50 ～ 60cm に切断し、水溜の高さに合わせた上で用いたことが知られる。木取りは板目取りが多いが、柾目板もみられる。

ＳＥ 5187（第 88 ～ 93 図、写真図版 78 ～ 84） 建築部材を多く含み、井戸枠の構築過程が判明する。井戸枠材は縦板・横板・横桟の三種がある。

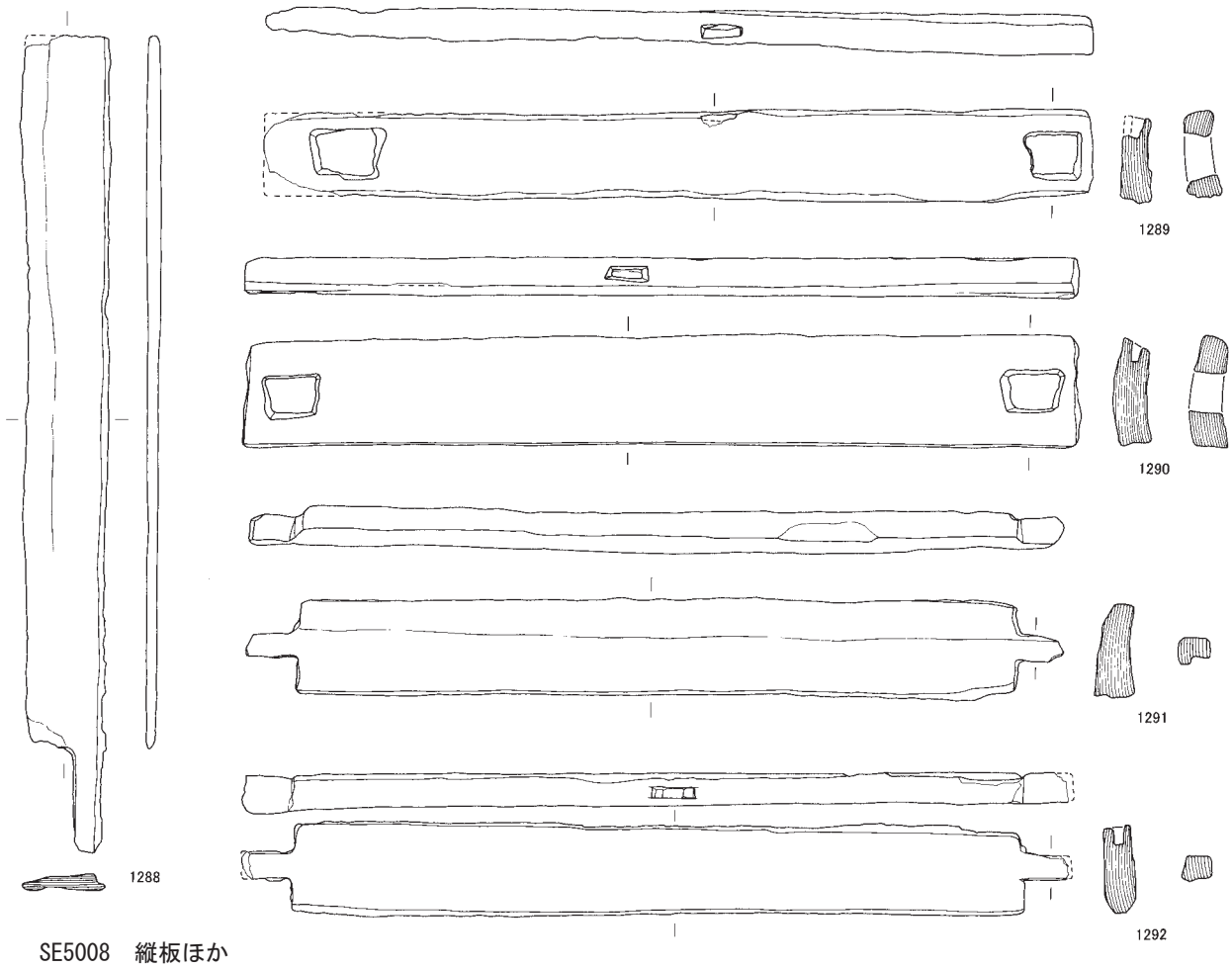
縦板（1325 ～ 1330）は主面・側面ともチョウナで仕上げられている。調整が入念で、基部をノコギリで切断するもの（1325・1328・1329）と、主面の大半を割肌のままとし、若干の調整のみに留めるもの（1326・1327・1330）がある。前者は建築部材を転用した可能性が高い。特に対向して配され、チョウナ痕が酷似する 1325・1328 は、同一材を短軸方向に半裁したものであろう。また後者は、木取りや幅、調整痕の類似から、同一材を切断したか、同一母材から割り裂かれた兄弟材の可能性が高い。

横板・横桟（1331 ～ 1344）は、同一母材をノコギリで短軸方向に半裁し、対向して配置する。また、切断痕が明瞭なものは接合も可能である。横板・横桟の兄弟関係は以下のとおり。第Ⅶ章（第 124 図）でも詳述しているので、併せて参照されたい。

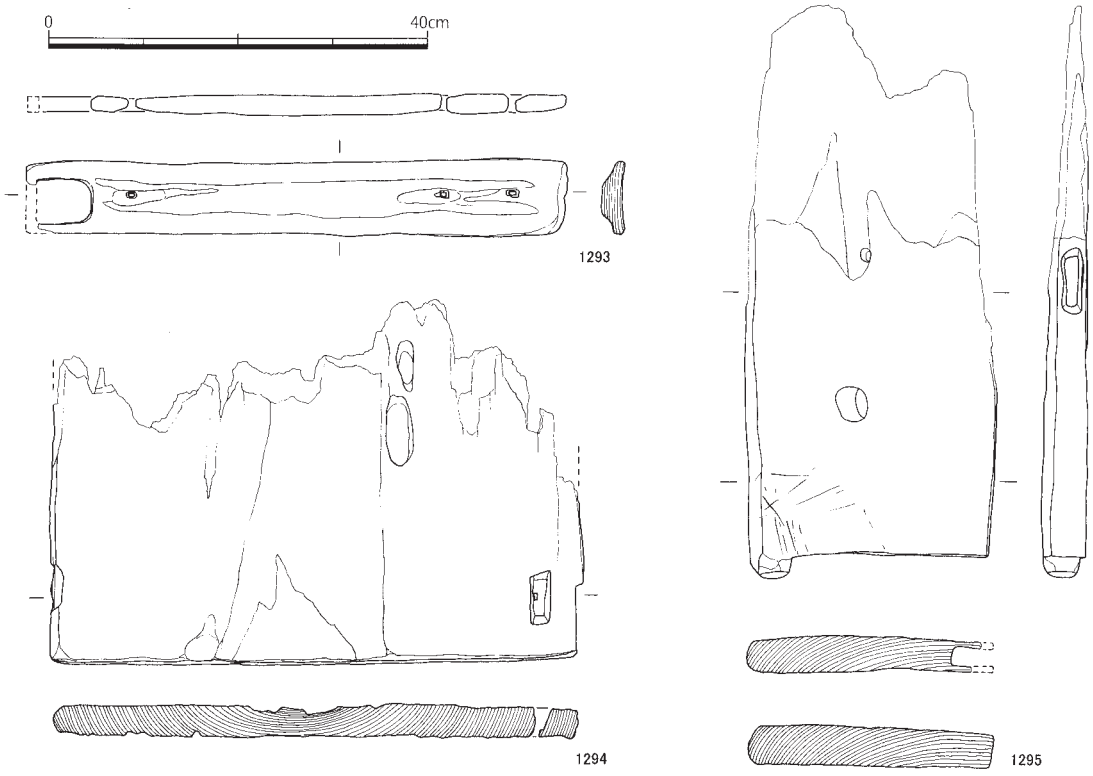
横板　・1331 － 1332　　・1333 － 1334
　　・1335 － 1336　　・1337 － 1338
　　・1341 － 1342
横桟　・1339 － 1340　　・1343 － 1344

1331－1332 は側面に本核平矧ぎ[4]の矧ぎ代があり、床板などの可能性が考えられる。分割前は、両端に枘穴のある板材であったが、枘穴の用途は不明。1333 － 1334 は表面加工の粗い板材で、片面や側面は平滑にするが、裏面は割肌のままである。1333 にはオノの切断痕が残る。1335 － 1336 も床板か。主面中央がやや凹むが、地覆の圧痕かもしれない。幅広のチョウナで丁寧に表面調整され、端部はノコギリで切断される。1335 には枘穴を穿ちかけた痕がある。

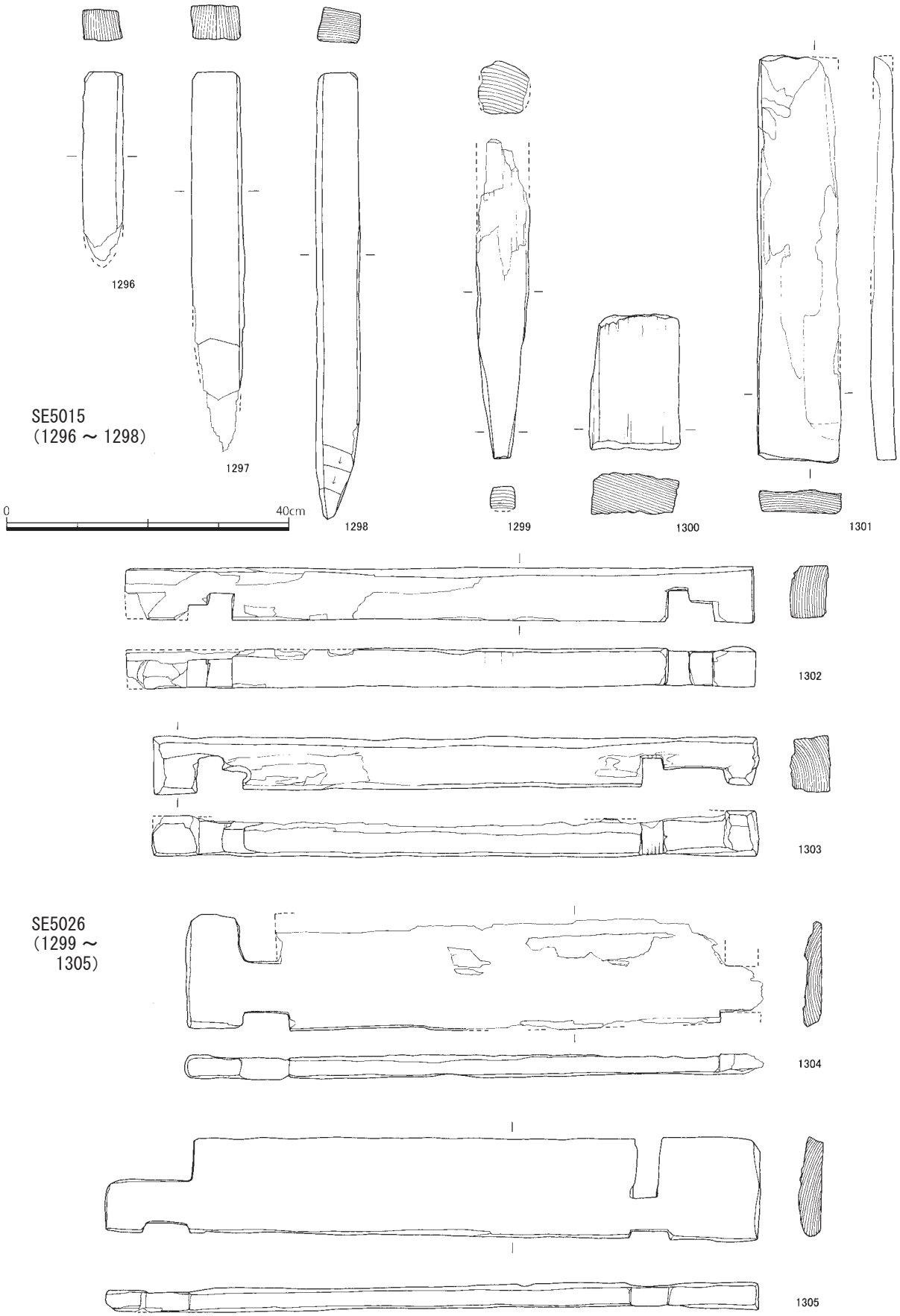
1337 － 1338 は閾（蹴放）[5]の転用で、接合後は完形となる（写真図版 80）。中世の閾は出土例がなく重要な資料である。想定される開口部の構造は第Ⅶ章で論じたい。全長は 210cm（約７尺）、幅 27 ～ 30cmで、両端には半円形の柱の欠き込みがある。扉軸穴は 1337・1338 とも右上端にあり、1337 には



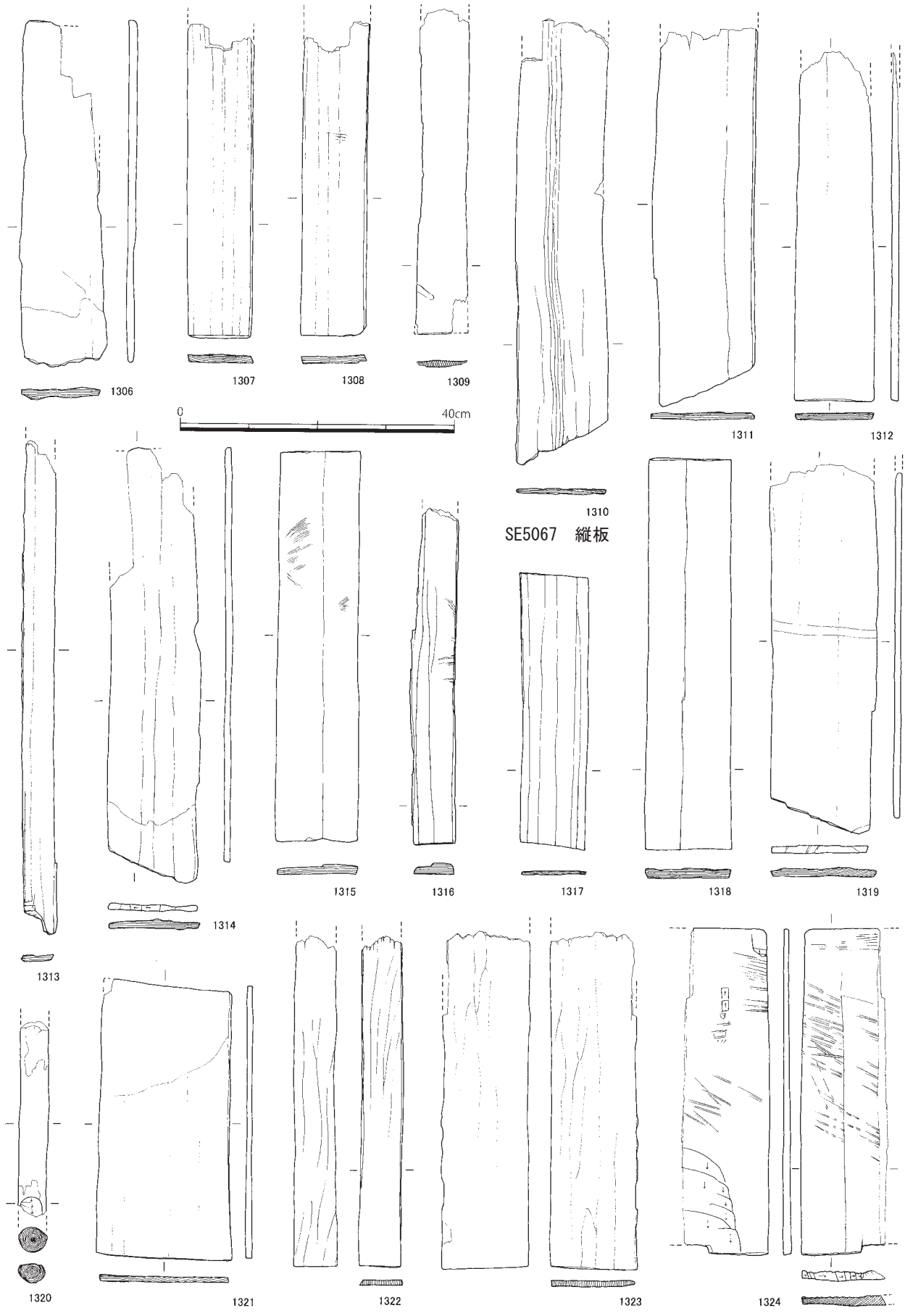
SE5008　縦板ほか



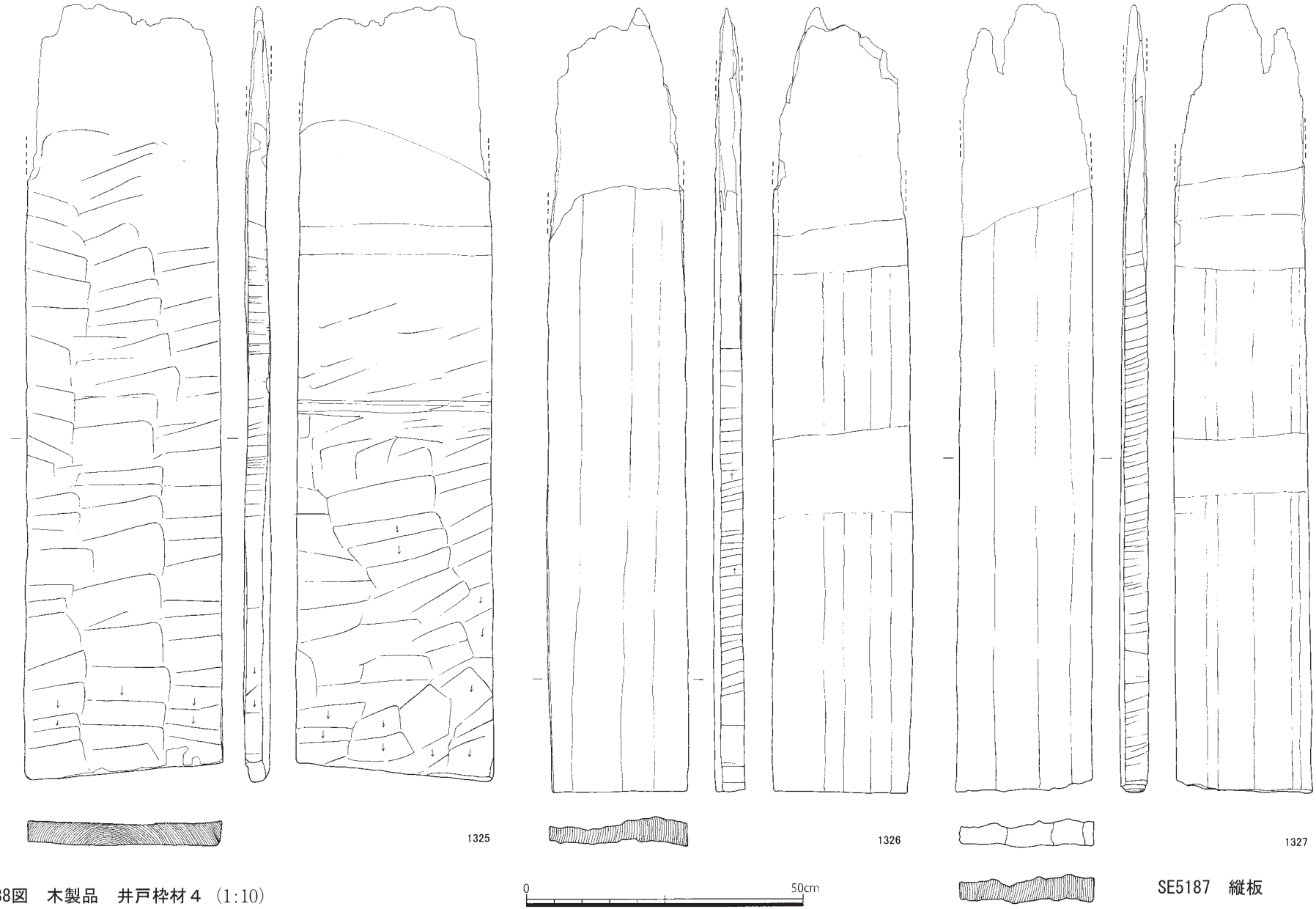
第85図　木製品　井戸枠材１（1:8）



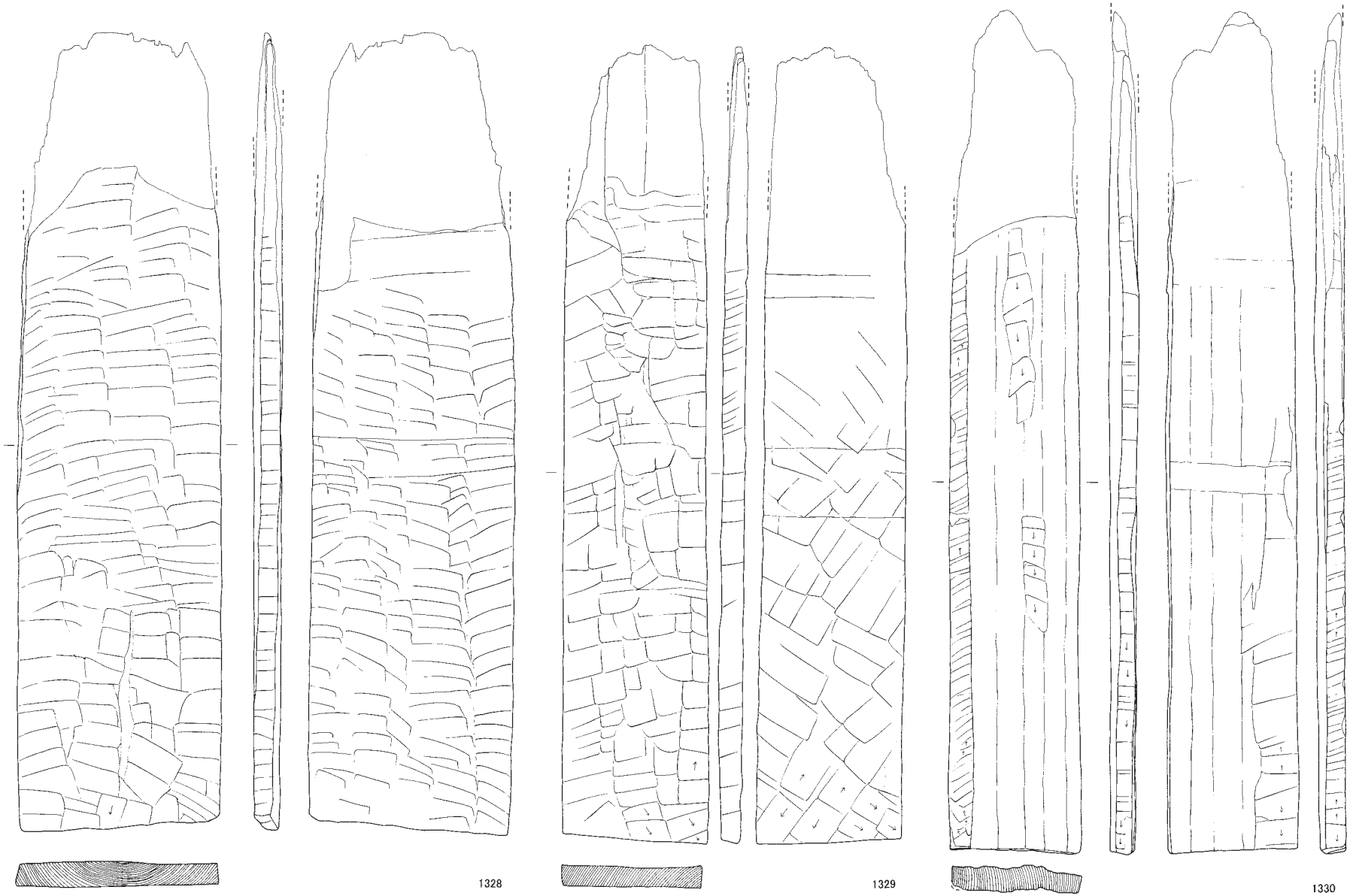
第86図　木製品　井戸枠材２（1:8）



第87図　木製品　井戸枠材３（1:8）

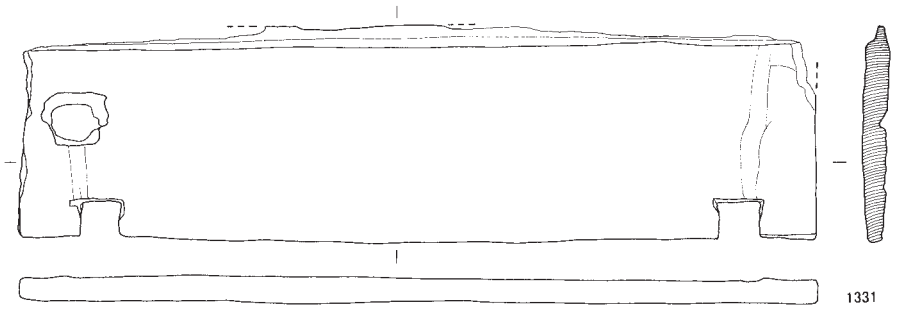


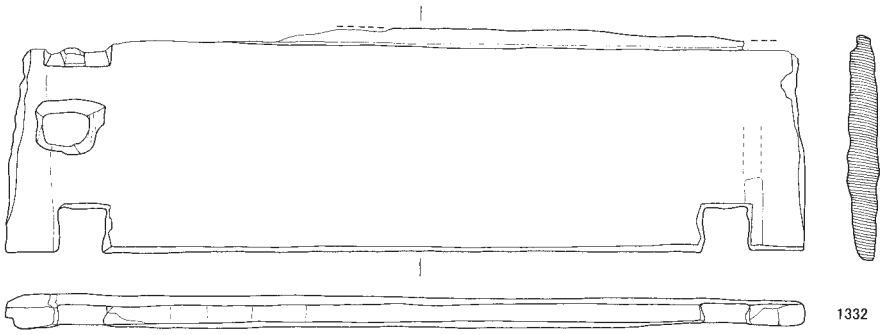
第88図　木製品　井戸枠材４（1:10）



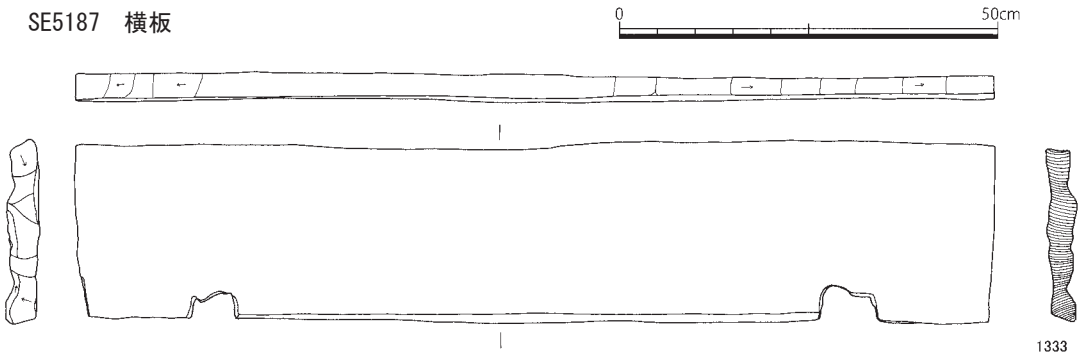
第89図　木製品　井戸枠材５（1:10）

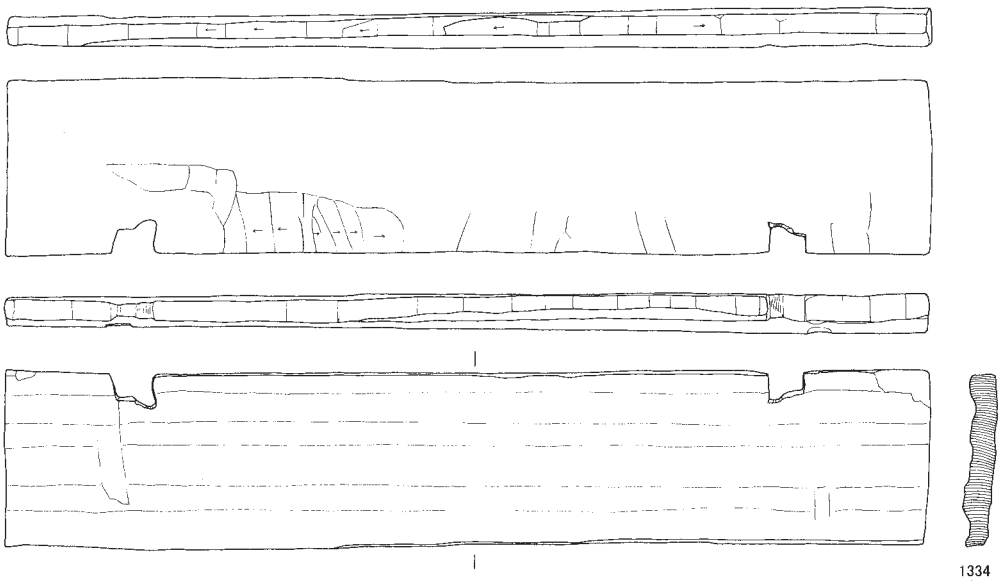
SE5187　縦板



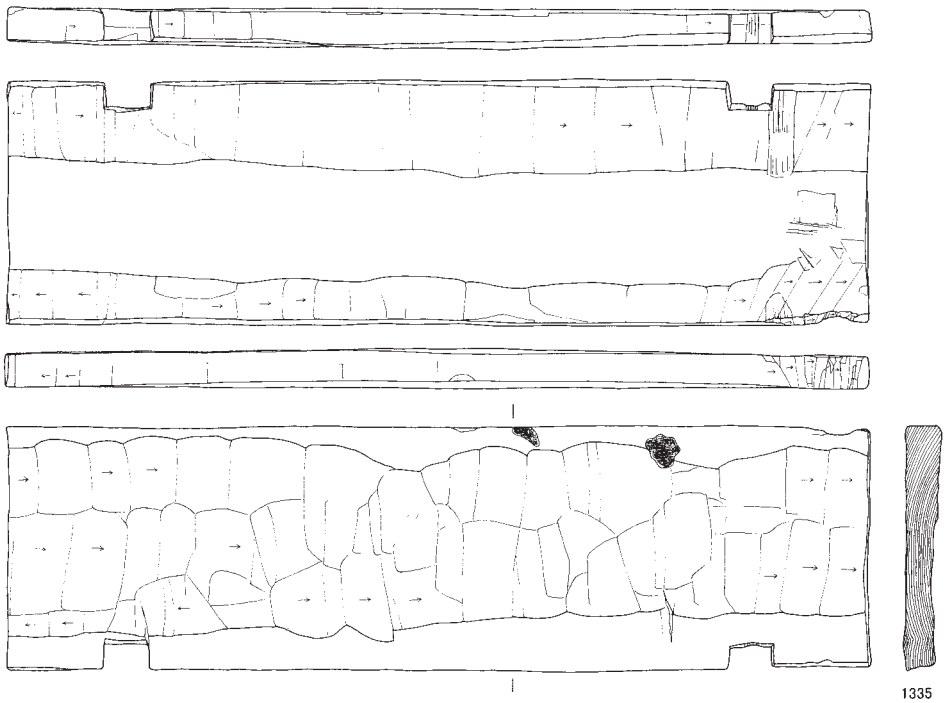


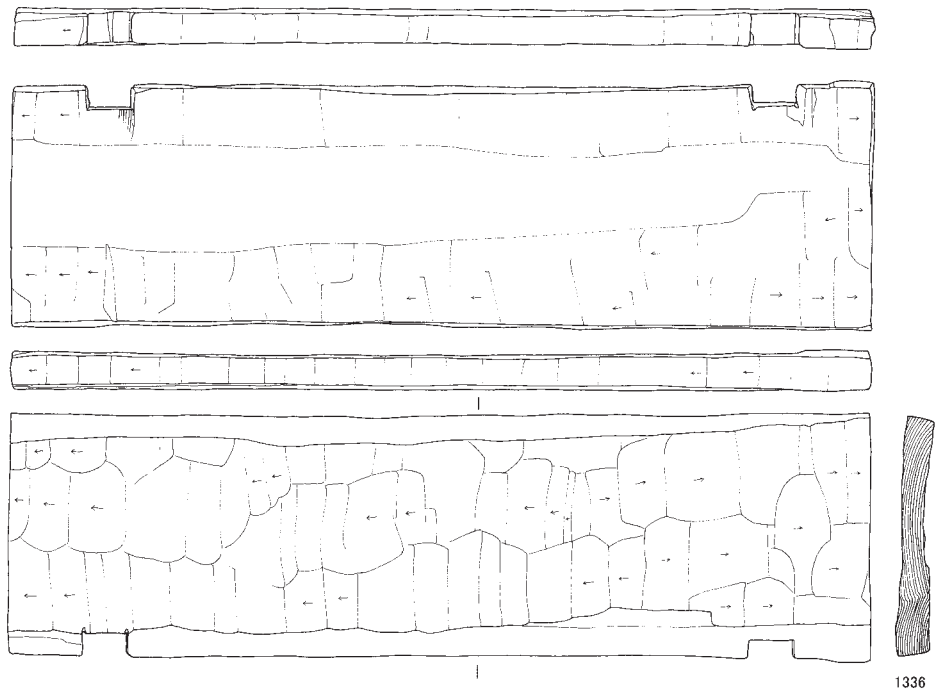
SE5187　横板





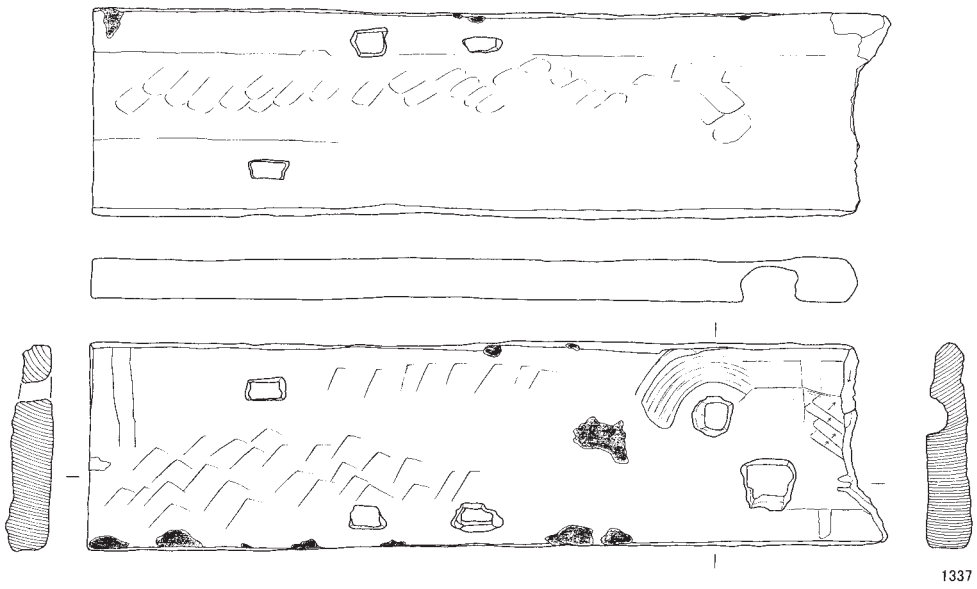
第90図　木製品　井戸枠材６（1:10）

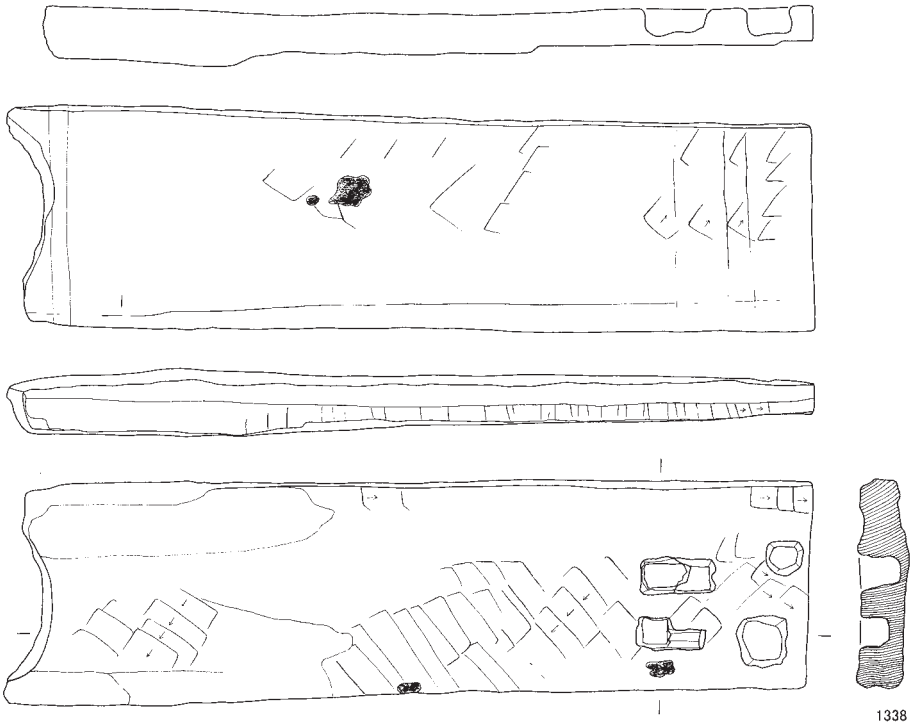




SE5187　横板

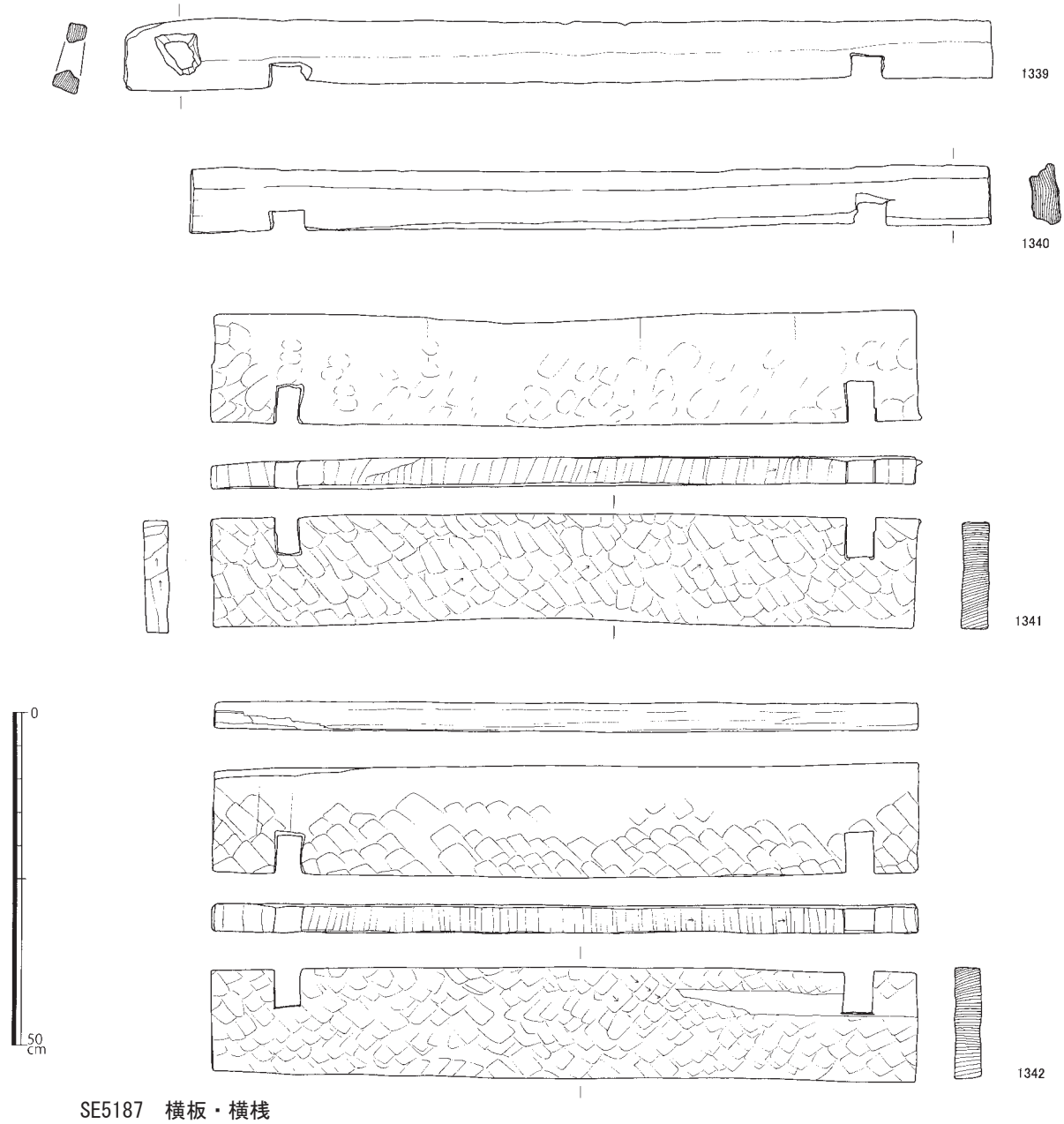
第91図　木製品　井戸枠材７（1:10）



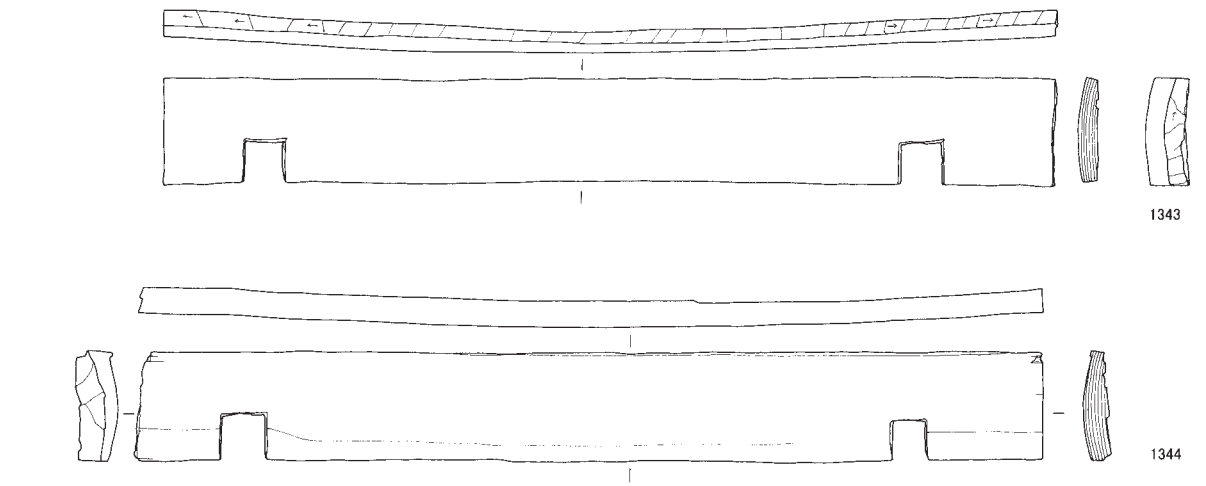


SE5187　横板

第92図　木製品　井戸枠材８（1:10）



SE5187　横板・横桟



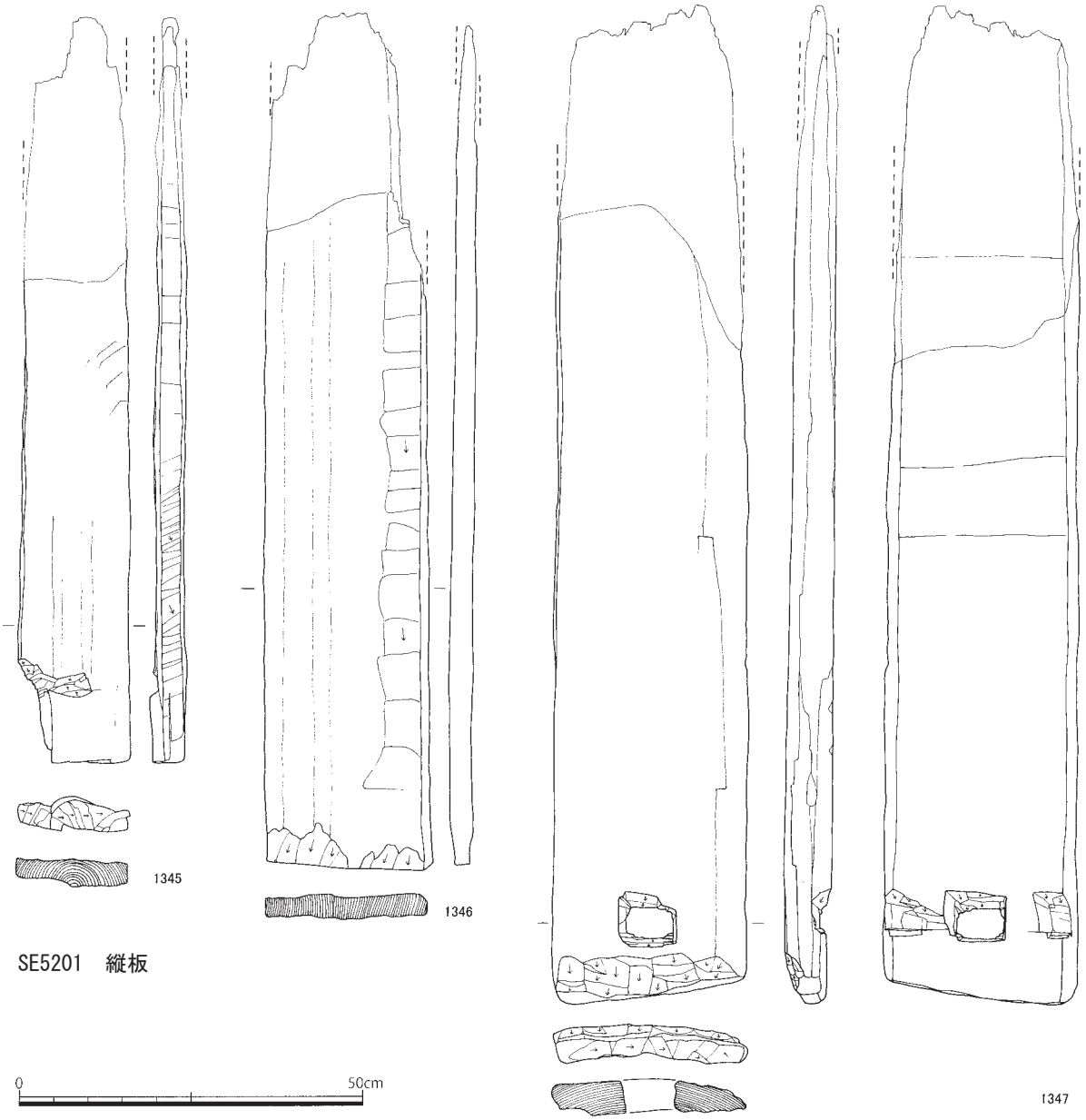
第93図　木製品　井戸枠材９（1:10）

扉の擦痕が残るが、1338では明確でない。表面（扉軸穴側）はチョウナで平滑に整えるが、裏面は割肌面を大きく残す。側面はチョウナで仕上げる。

1339 － 1340はやや厚手の割材を用いた横桟で、1339の端部付近には粗く穿たれた枘穴がある。垂木を固定する木栓穴の可能性も考えられるが、非常に粗い仕事のため、樋穴かもしれない。1341 － 1342は表面加工が非常に丁寧であり、刃端が蛤刃状のチョウナが用いられている。欠込仕口はノコギリで切り込み、ノミで裁ち落とす。1343 － 1344は最外部付近の板目材を半裁する。側面以外は未加工である。両者とも一方の木口にオノ痕が残っており、転用前の材の全長が判明する。なお、これと同規格の材は、ＳＥ5008土居桁やＳＥ5201横桟にも認められ、堀町遺跡では多用されている。大和葺の屋根板など、特定用途に供された材の可能性もあろう。

ＳＥ5201（第94～97図、写真図版85～87）　ＳＥ5187と同じく建築部材を多く含む。井戸枠材は縦板・横板・横桟の三種がある。

縦板（1345～1350）は材運搬用の樋穴（鼻繰）を複数残すもの（1345・1347・1350）、角を面取りしたもの（1347・1350）があり、建物の垂直材（角



第94図　木製品　井戸枠材10（1:10）

柱）を割り裂いたことがわかる。対向する1345・1350は接合が可能で（写真図版87）、分割後にチョウナで幅を整えている。1347・1348・1350の裏面、1345は両面とも割肌のままとし、側面のみチョウナで加工する。また、下端のオノ切断痕はそのまま残る。1346・1349は表裏の大半を割肌のままとし、若干チョウナで整える。下端はノコギリで切断され、1346は下端付近を両面からチョウナで削ぐ。

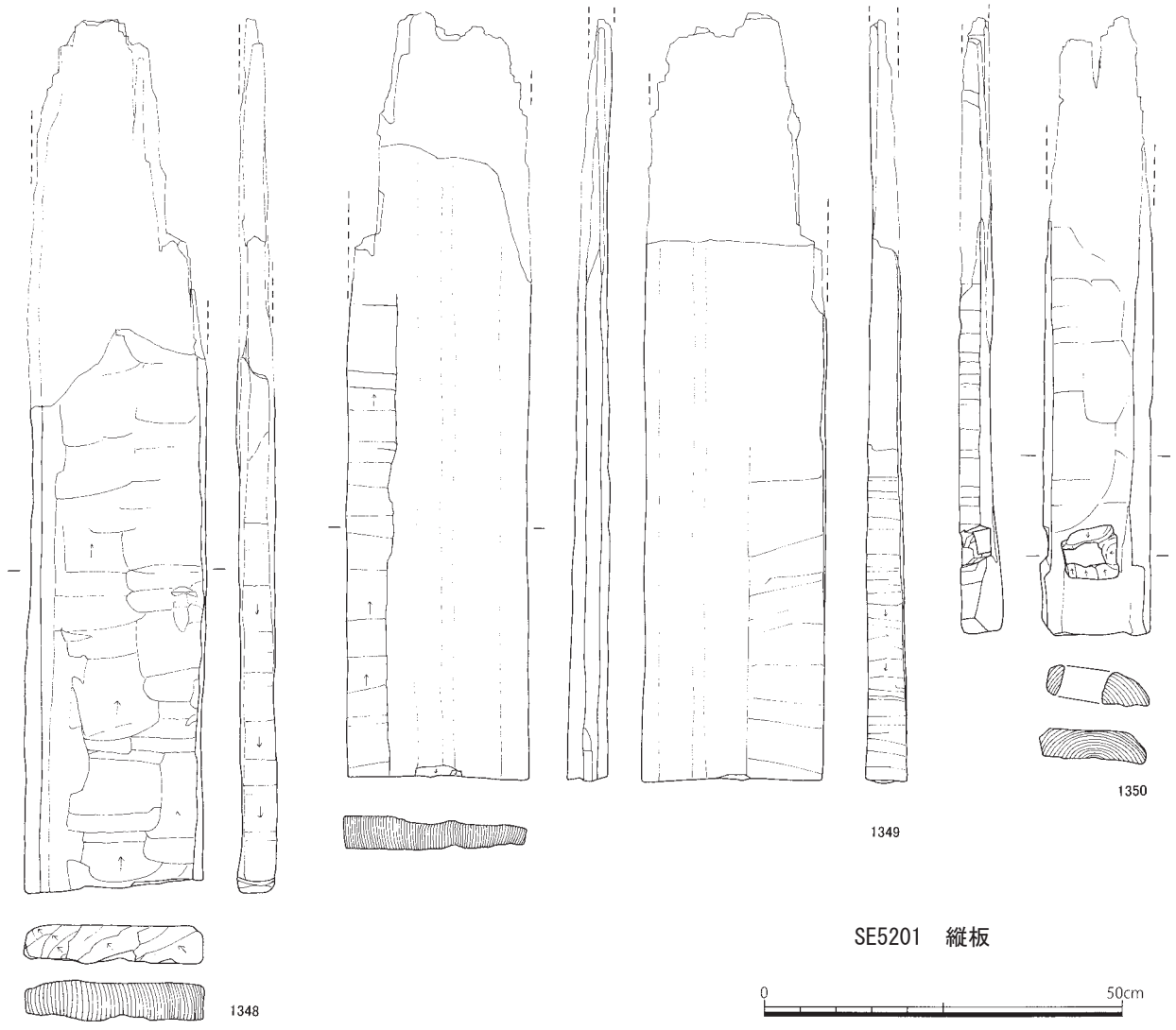
横板（1351～1356）は、ＳＥ5187横板と同じく、板状の建築部材を短軸方向に分割するが、ノコギリを用いず、チョウナを両面ないし片面から粗く打ち込んで切断している。遺構内に同一母材の横板はなく、横板の長さも不揃いで、ＳＥ5187に比べると仕事は粗い。あるいは付近に同一母材を用いた井戸が存在したかもしれない。1351は両端に切断痕のある板材である。

1352は閾で、1337－1338よりもやや小型だが、扉軸穴や枘穴の位置は類似している（写真図版85）。垂直材に接する欠き込みは方形である。

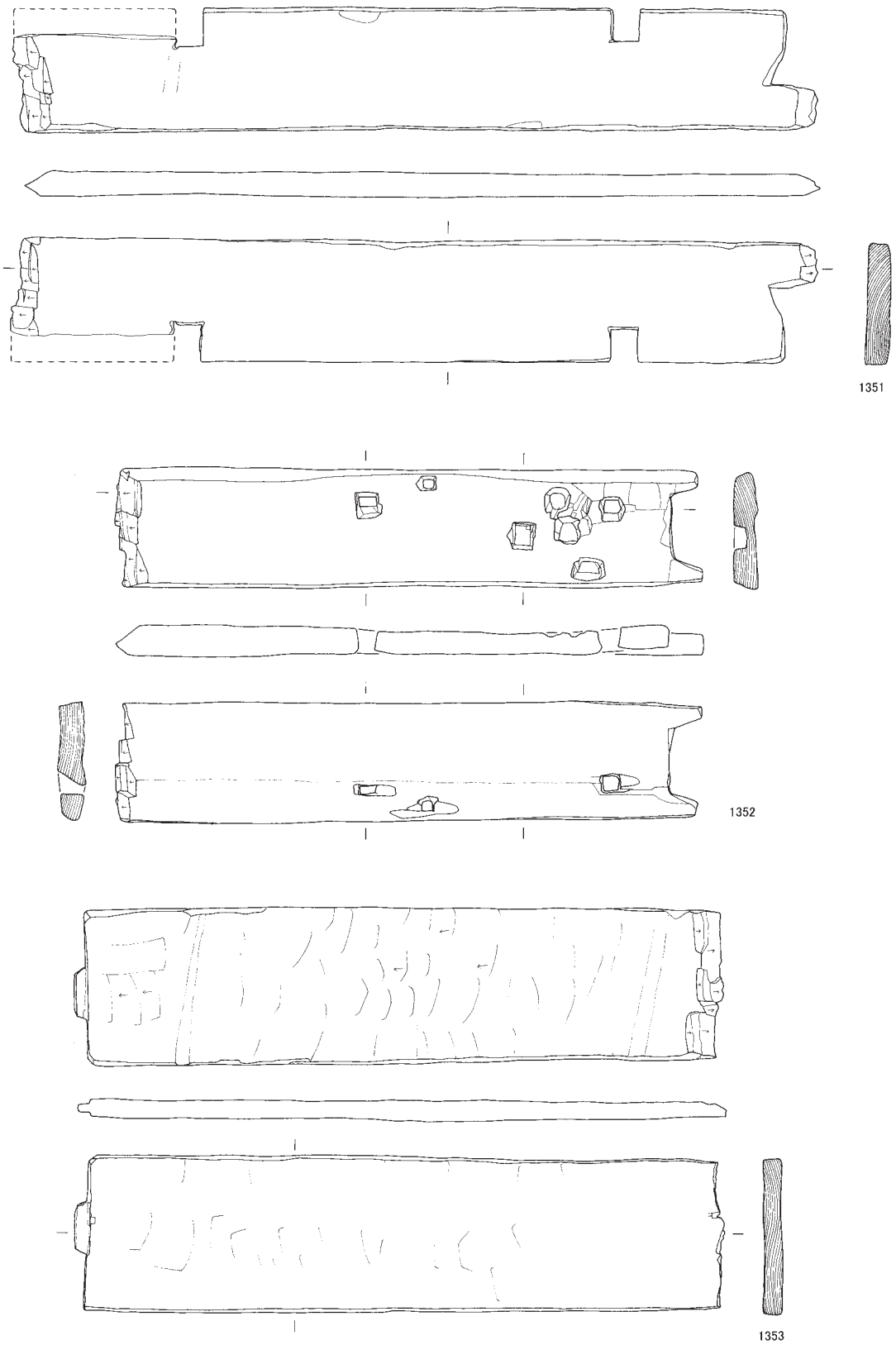
1353・1354は小口に幅広の枘を持つが、枘の用途は不明。壁ないし床板であろうか。1353は右端をチョウナ、1354はノコギリで切断している。1356は両端部を切断しているが、中央の枘穴の位置が1337－1338や1352と類似しており、閾の可能性があろう。表面は片面･側面のみ平滑に整える。

横桟（1357・1358）は板目材を半裁して対向配置したものであろう。

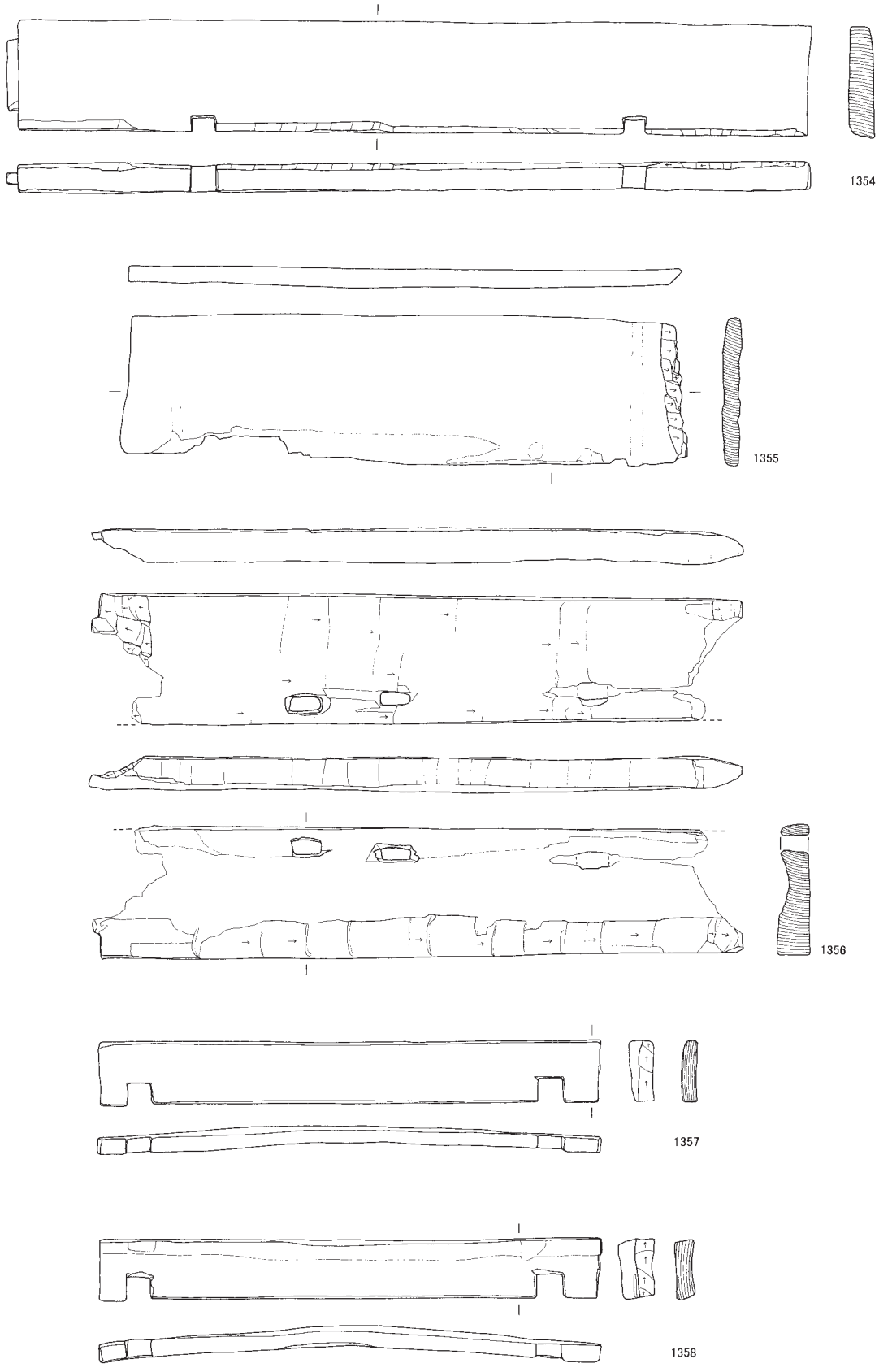
ＳＥ5218（第98･99図）　1359～1372は結物（結筒）



第95図　木製品　井戸枠材11（1:10）

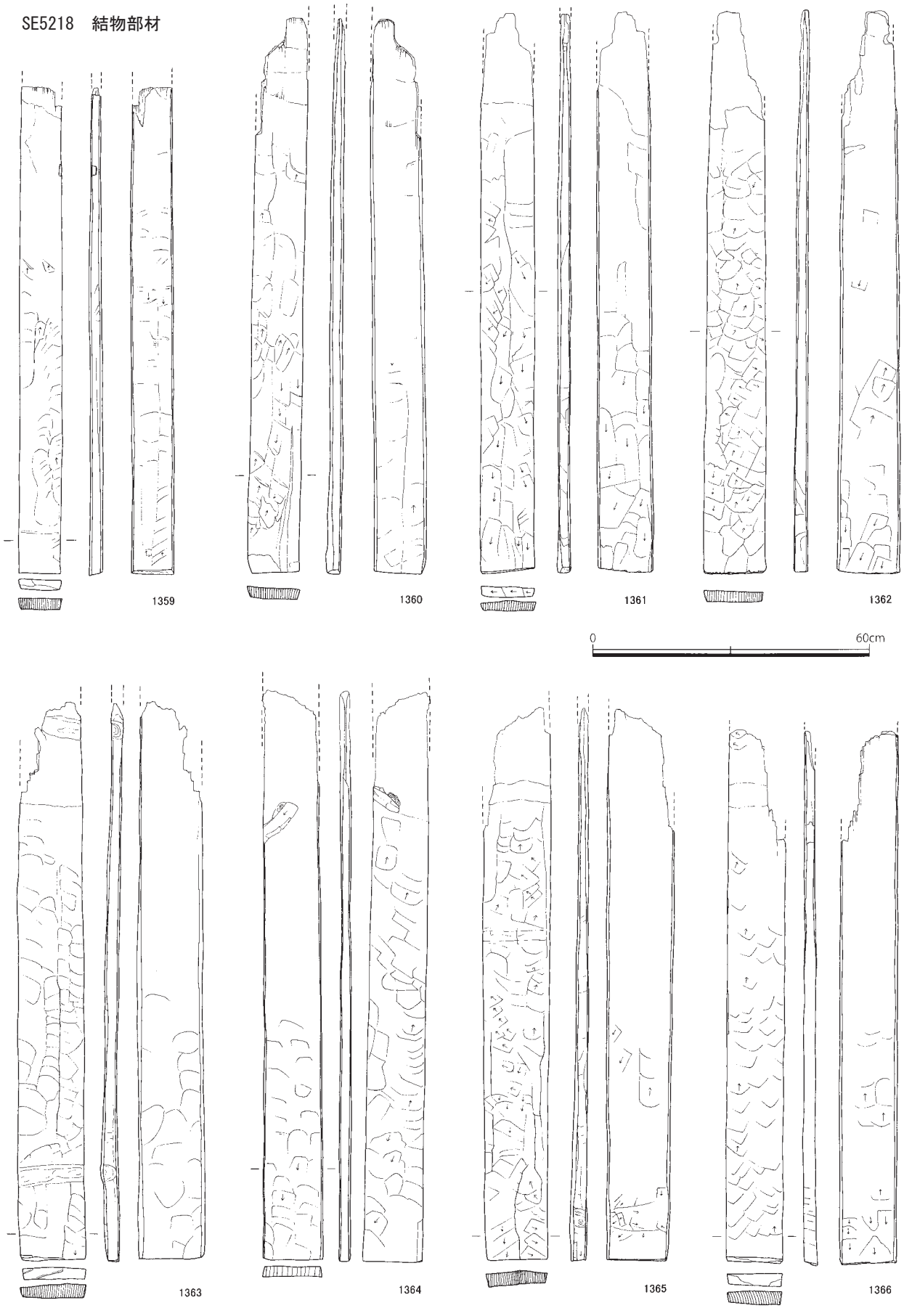


第96図　木製品　井戸枠材12（1:10）

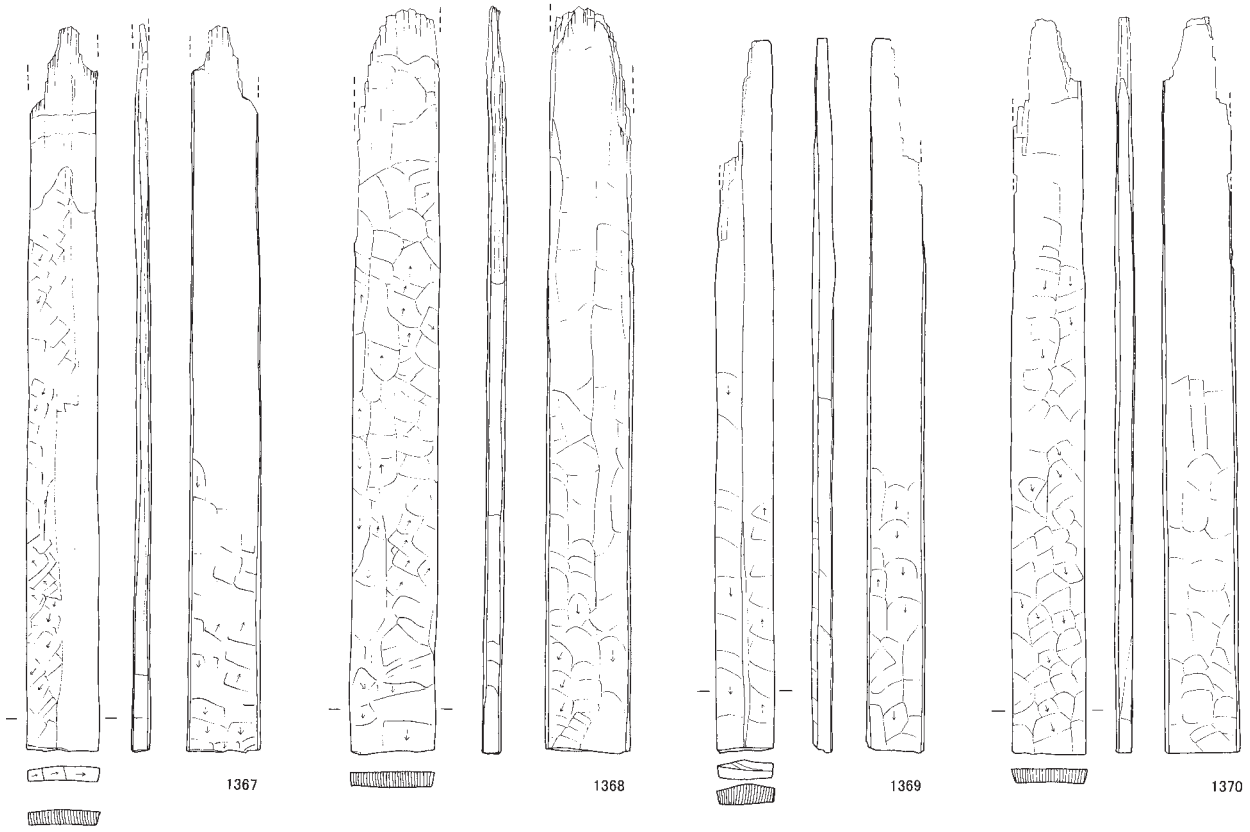


第97図　木製品　井戸枠材13（1:10）

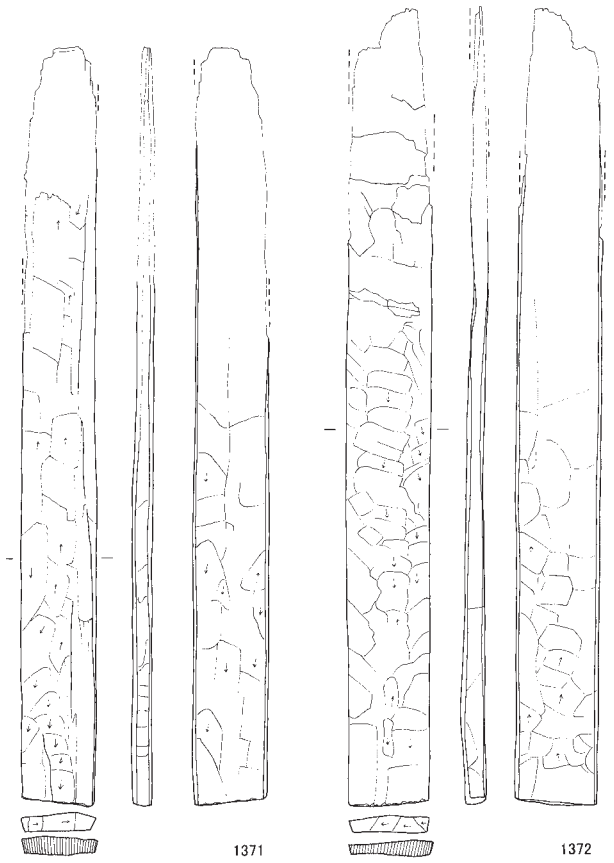
SE5218　結物部材



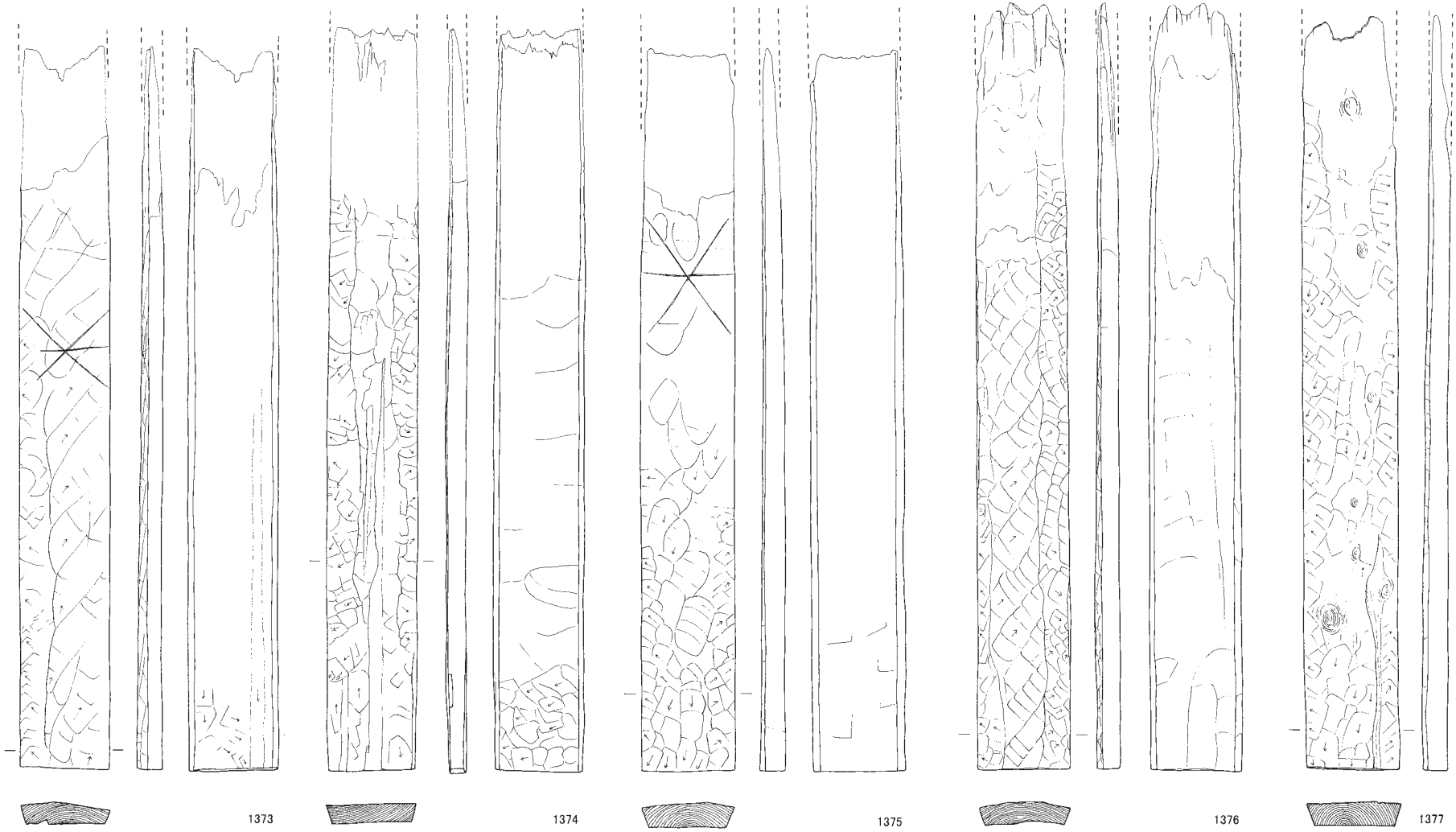
第98図　木製品　井戸枠材14（1:12）



SE5218　結物部材



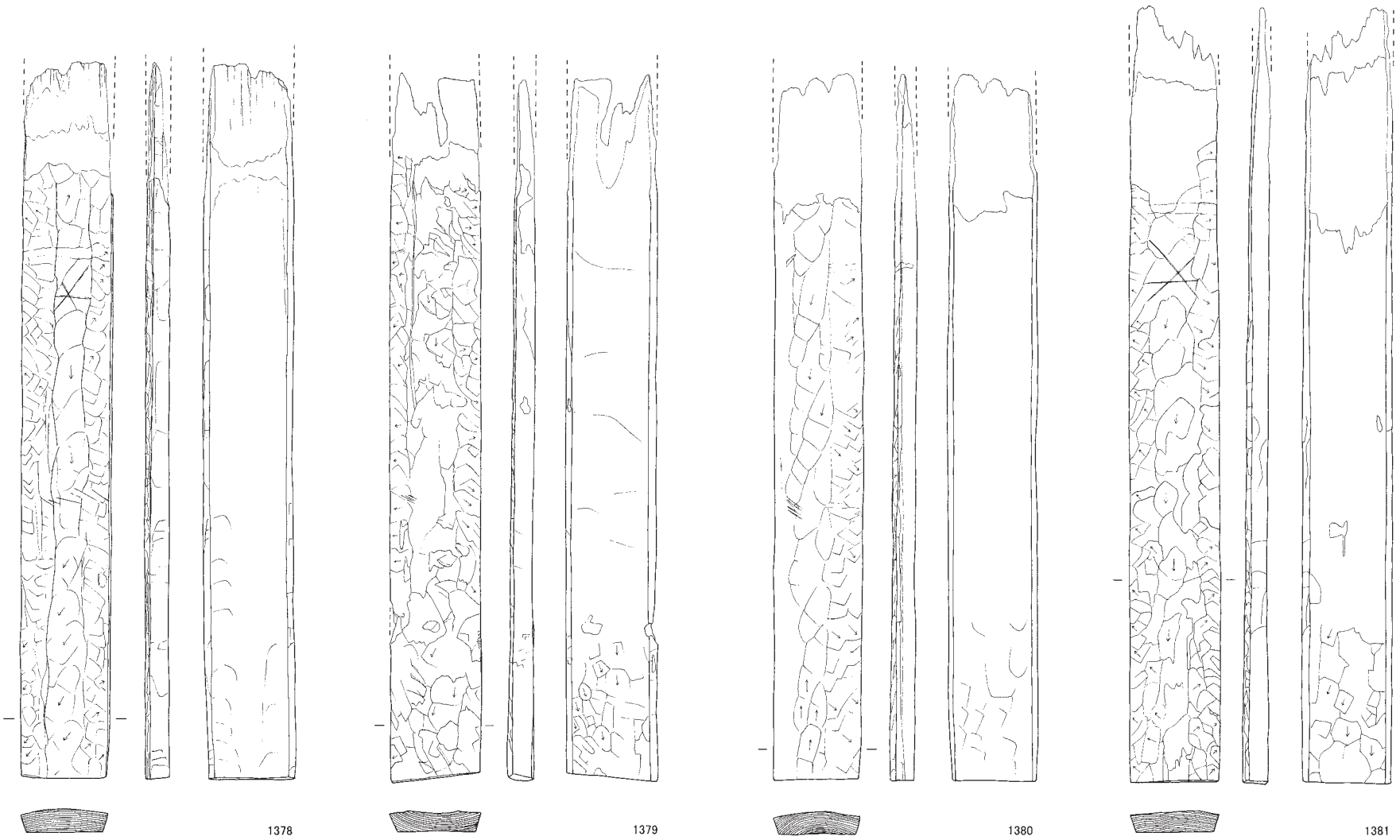
第99図　木製品　井戸枠材15（1:12）



SE5319　結物部材

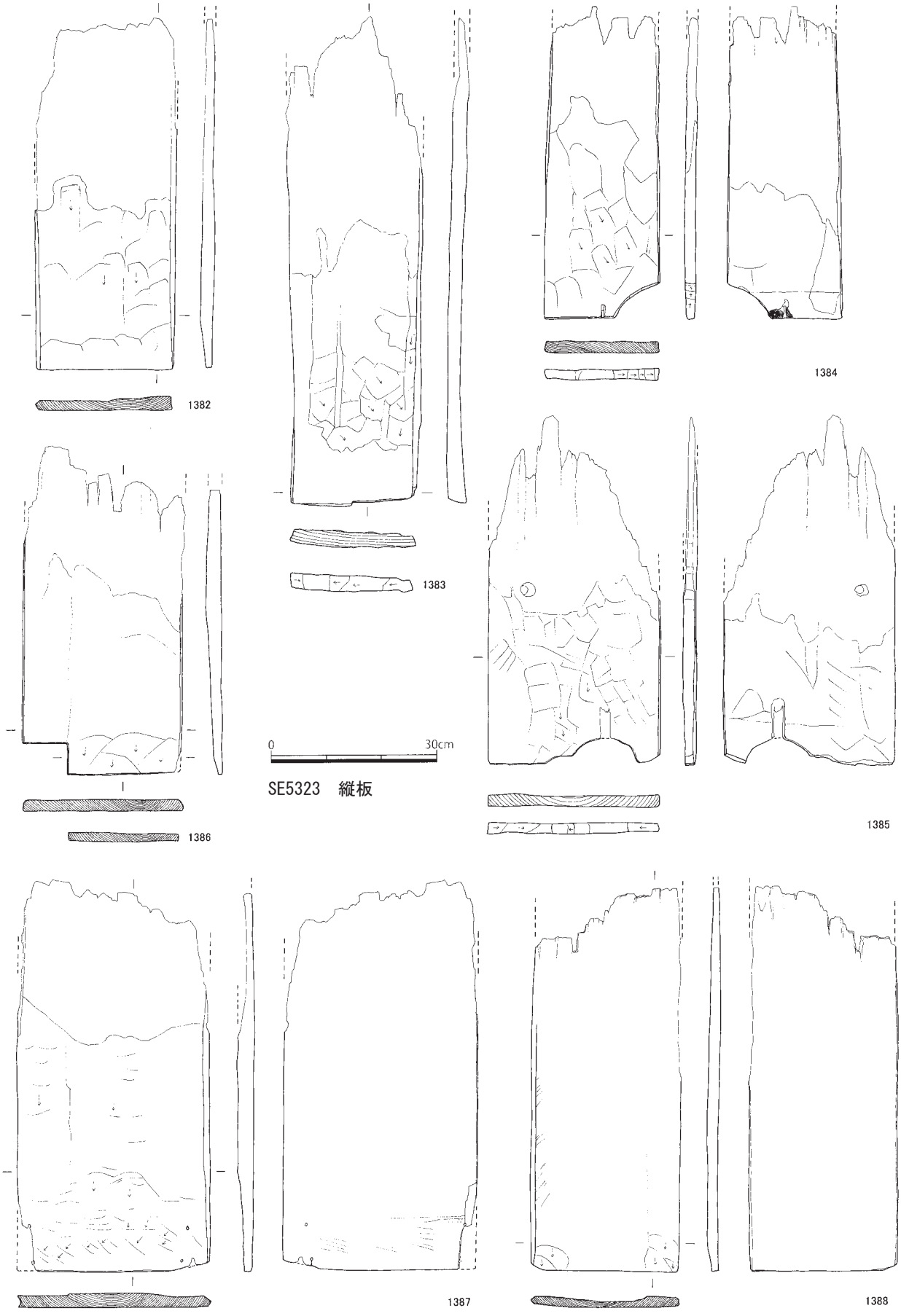
0　80cm

第100図　木製品　井戸枠材16（1:16）

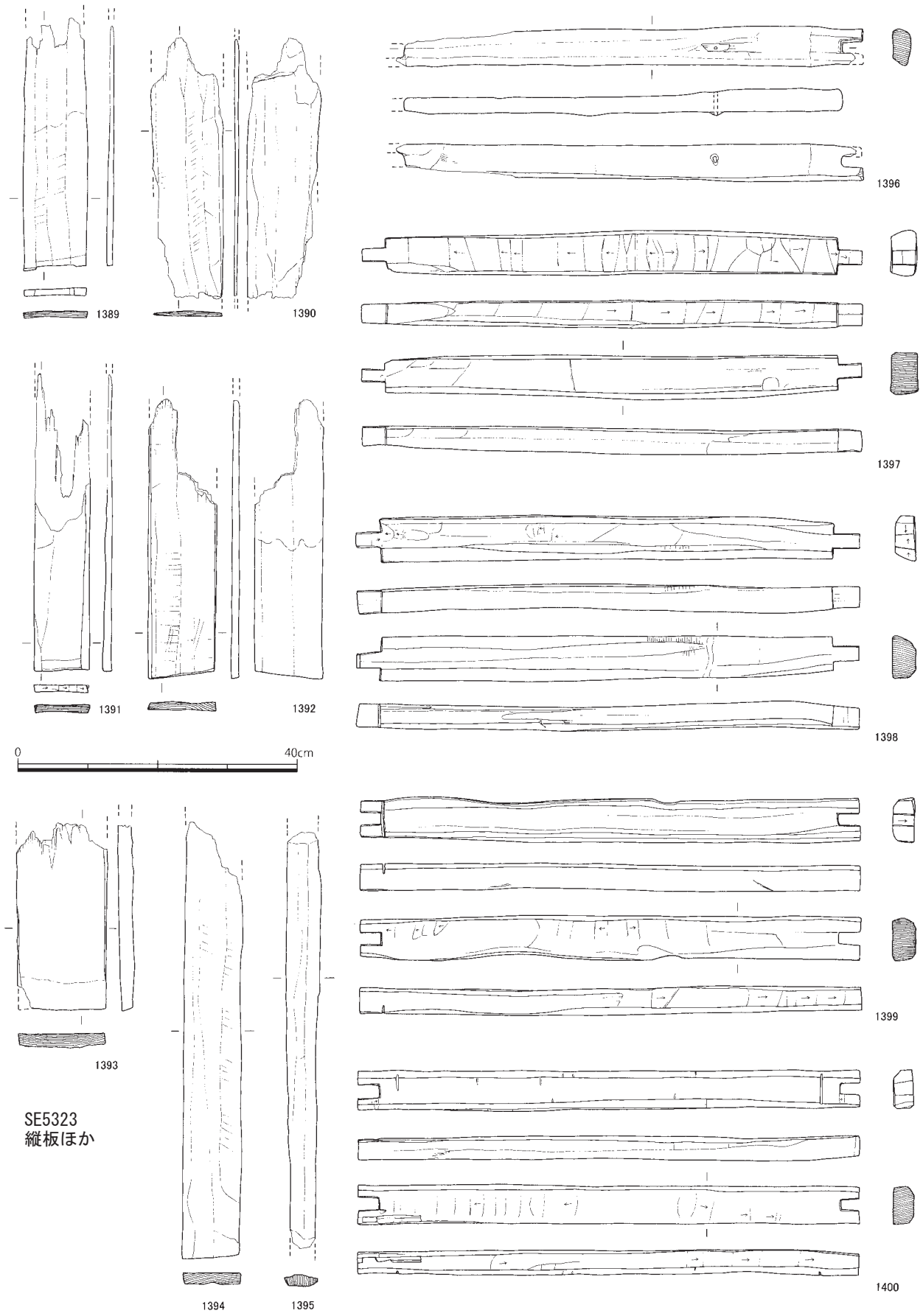


SE5319　結物部材

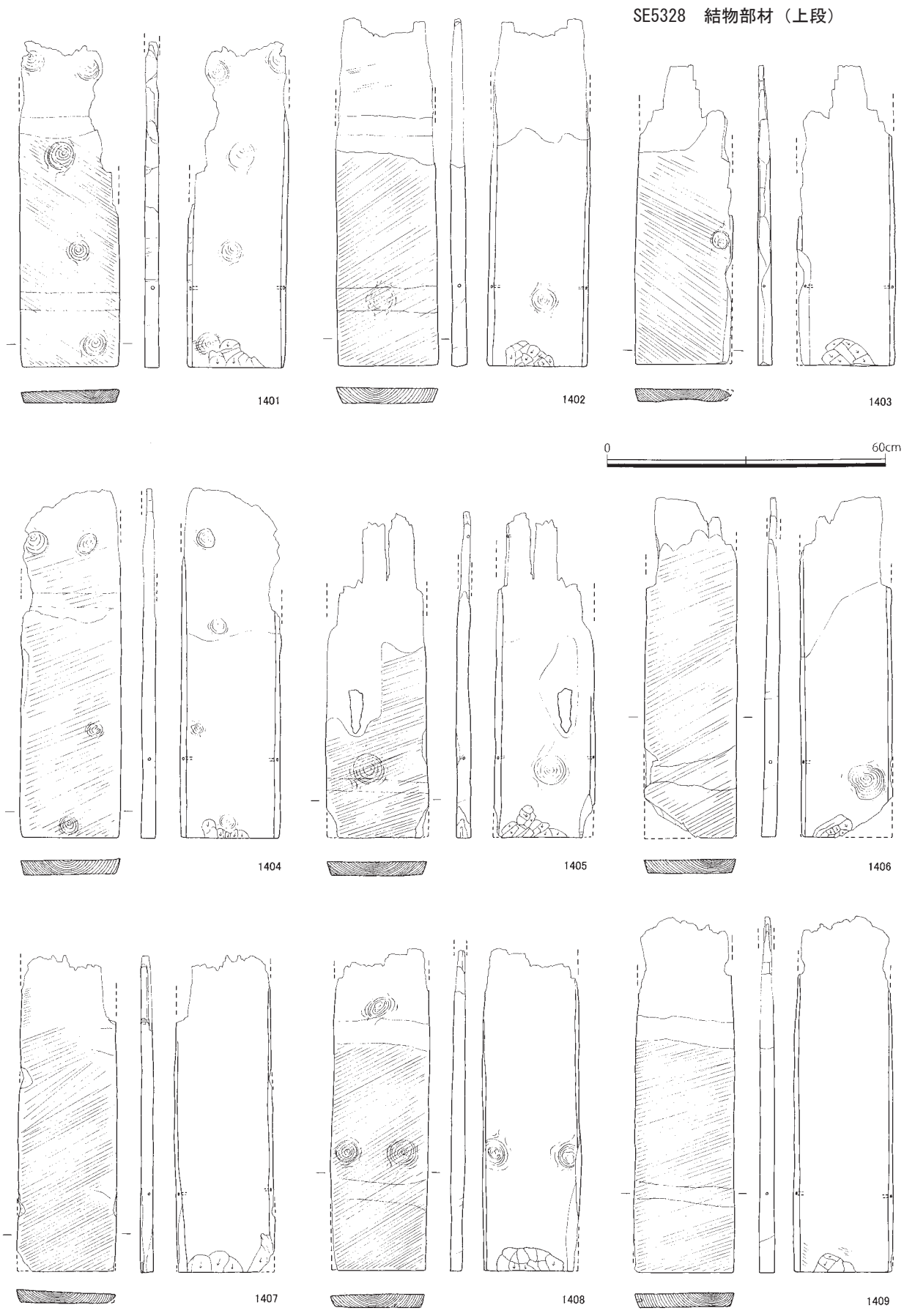
第101図　木製品　井戸枠材17（1:16）



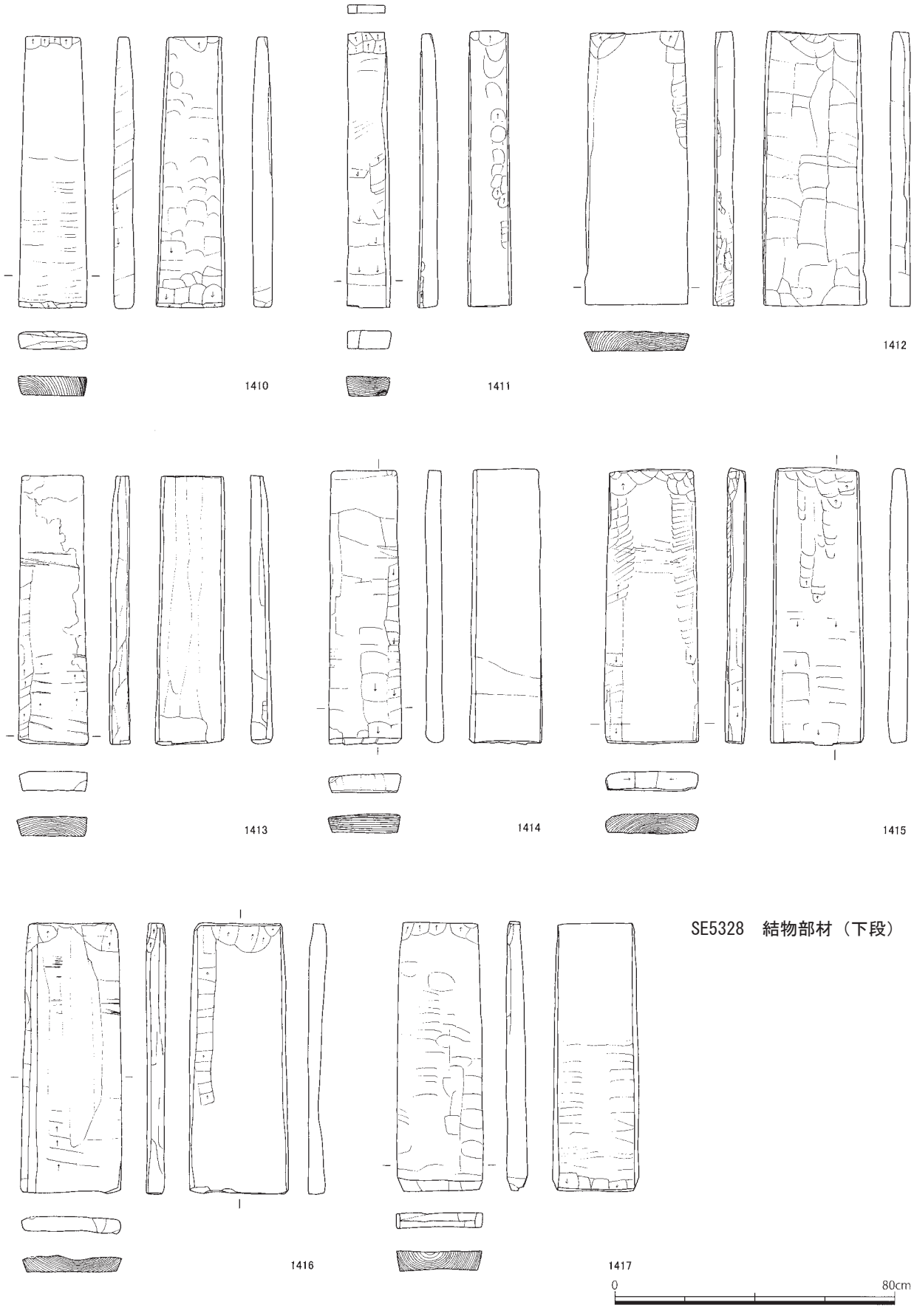
第102図　木製品　井戸枠材18（1:10）



第103図　木製品　井戸枠材19（1:8）



第104図　木製品　井戸枠材20（1:12）



第105図　木製品　井戸枠材21（1:16）

部材である。同一母材から得たであろうスギの柾目板を、平面長方形、断面逆台形に仕上げている。外面のチョウナは非常に粗いが（写真図版89）、内面側は比較的平滑に整えられる。側面には長軸に直交する幅広の工具あたりがみられ、台カンナと判断した。小口はオノやノコギリで切断する。

ＳＥ5319（第100･101図） 1373～1381は結物（結筒）部材で、節が多く癖の強いコウヤマキの中杢目～板目板を用いている。設置時は木表を外側とするものが多いが、1374・1379は木裏を外に向ける。

1373・1375・1378・1381の外面には線刻がみられ、線刻はチョウナ痕に切られている（写真図版89）。伐採や製材時の目印などであろうか。

主面は表裏ともチョウナ、側面は台カンナ、下端はノコギリで加工し、平面長方形、断面逆台形に仕上げている。板の外面は、まず幅広円刃のチョウナで縦または斜めに荒く削ぎ、両側をやや幅狭のチョウナで加工する。内面は幅広直刃のチョウナで平滑に仕上げている。

加工痕には共通の凸状刃こぼれ痕が認められ、基本的には同一工人（同一工具）で井戸枠製作を行ったと考えられる。

ＳＥ5323（第102図） 加工痕が明瞭なものや建築部材を中心に図化した。1382～1395は縦板である。

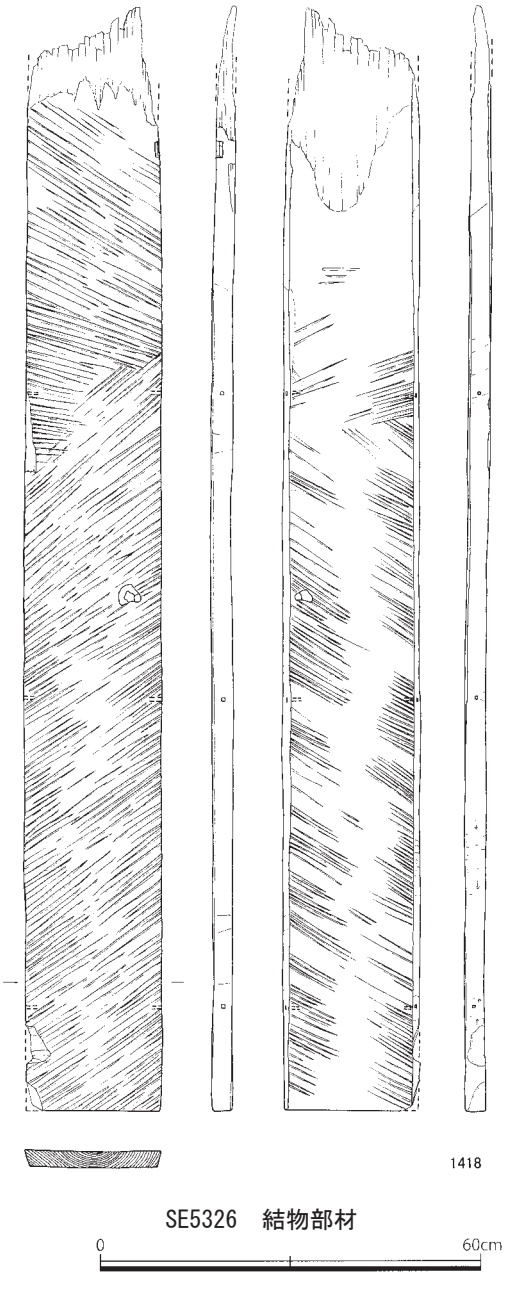
1382～1388は壁板ないし床板の転用で、幅は様々だが、厚さはほぼ均一である。1385以外は全てヒノキで、木取りもよく似る。1382・1387・1388は側面に矢筈矧ぎ（ひぶくら矧ぎ）の矧ぎ代がある（巻頭図版８）。1387下部には、釘穴が４ヶ所ある。1386は方形、1384・1385は垂直材避けの半円形ないし扇形の欠き込みがみられる。

1389～1392はスギ榑板で、部分的にチョウナやノミ痕がみられる。1393～1395は厚さ２㎝前後の板材である。1394は表面の調整痕が1389～1392と類似しており、これも榑板ないし榑の残核かもしれない。

1396～1400は土居桁の部材で、木取りのよく似た割材を用いている。1396は上部の土居桁材が落ち込んだものであろう。一ヶ所釘穴がみられる。1397～1400は下部の土居桁である。まずチョウナで一面を特に平滑にし、側面はやや粗く仕上げ、断面蒲鉾状とする。その後、ノコギリで切り込みを入れ、最後にノミで裁ち落して、三枚組接ぎの枘とする。1399・1400は枘周辺にノコギリ痕が残る。

ＳＥ5326（第106図） 1418は原位置で１枚だけ残されていた結物部材である。ＳＥ5328上段（1401～1409）と同じくカヤを用い、木目や幅・厚さや加工痕の状況がまったく一致することから、本井戸の部材を抜き取って短く切断し、ＳＥ5328上段に用いた可能性が高い。

表裏のノコギリ痕は、途中で右肩下がりから右肩上がりに変わり、オガ挽きの作業単位が判明する。側面の木釘穴は48cm（約１尺６寸）間隔で３段ある。



第106図　木製品　井戸枠材22（1:12）

ＳＥ 5328（第 104・105 図） 1401 ～ 1409 は上段結物（結筒）部材。樹種はカヤで、節が目立ち癖の強い材である。表裏に縦挽きノコギリの痕跡が残り、製材にはオガが用いられる（巻頭図版８）。1401・1403 はノコギリ痕が右肩下がりだが、他は右肩上がりである。側面は台カンナを用い、板は平面長方形、断面逆台形に仕上げる。また、両側面下部に１ヶ所づつ、板接ぎの方形木釘穴がある。内面下端はチョウナで削ぎ、下段結物との重ね代としている。

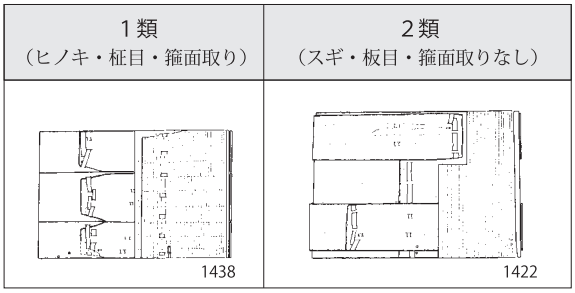
1410 ～ 1417 は下段の結物部材である。材は厚手のスギ板を用いる。木表・木裏の向きは統一されない。表裏はチョウナで粗く削り、側面は台カンナで仕上げ、平面台形・断面逆台形とする。上端小口はノコギリで切断されるが、下端小口はオノの痕跡が残り、加工は粗い。外面上端は、上段結桶に填め込むため、チョウナで角を削り落としている。

上段・下段とも、底板の痕跡は認められず、結合時の内形も多角形を呈することから、初めから井戸枠として製作されたものと考えられる。

②曲物（第 108 ～ 113 図）

径 20cm 前後の小型品、径 40 ～ 50cm 未満の中型品、径 50cm を超える大型品がある。小型品は井戸の釣瓶などに、中型品以上はすべて井戸の水溜に用いられていた。曲物には、小型内面に柿渋様の黒色塗布物が見られるもの（1438）、別の箍を新たに締めたもの（1432）、異なる曲物の側板を重ねて補修したもの（1433）、側板を接ぎ合わせたもの（1425）があり、長期間容器として使用されたのち、井戸枠に転用されたことがわかる。こうした事例は、松阪市小津遺跡でも多数確認されている。

曲物の属性を記す上では、樺皮の綴じ方や内面ケビキ（罫引）の方向などが注目されてきたが[6]、



第107図　曲物分類図

堀町遺跡ではこれらに有意な差はない。むしろ、樹種と木取り（柾目取り・板目取り）、箍の端部の面取りの有無といった属性の組み合わせから、第 107 図のように２大別が可能であり、木材産地や製作地（檜物師）の違いが表れていると考える。なお、小型品は側板・底板ともヒノキ製、大型品は側板・底板ともスギ製が多いという作り分けもある。

本次調査の曲物利用樹種の変遷を見ると、鎌倉時代まではスギが多いが、中世Ⅲｂ期（14 世紀末～）以降、中型品にヒノキが多用される（1432 ～ 1438）。ヒノキ製・曲物１類の側板から読み取れる年輪数は、100 年以上におよぶものがある。また、スギ製・曲物Ⅱ類の側板は、板目取りで高さ 70cm を測るもの（1421）があり、原木の直径は１ｍを超えたと考えられる。こうしたヒノキ・スギの大径木は、遺跡近辺で潤沢に得られたとは考え難く、奥伊勢や木曽・東紀州などの主要木材産地からもたらされたと見るべきであろう。詳しくは第Ⅶ章で再論したい。

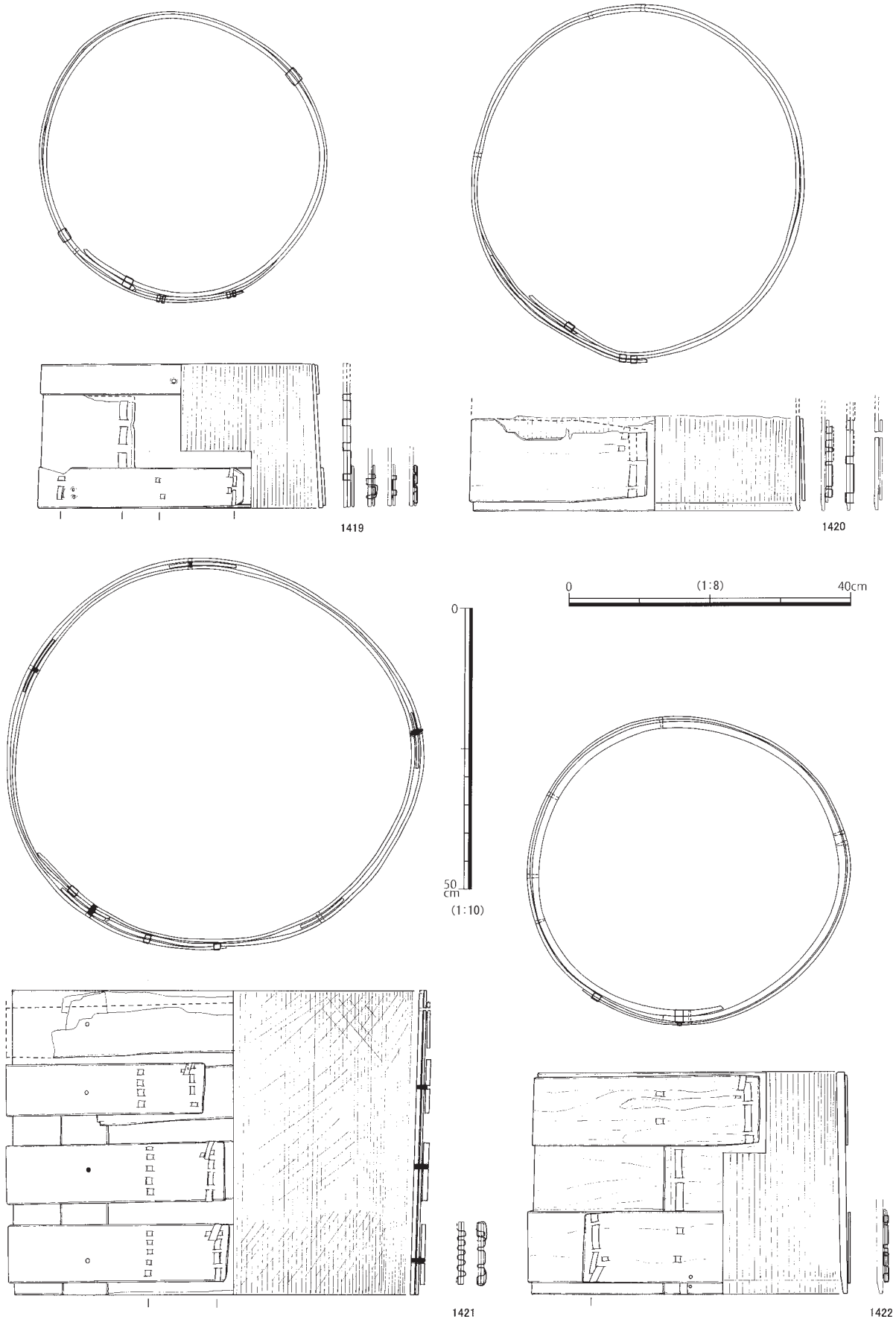
曲物側板と底板との結合方式は、小型品（1439・1440 など）は底板を釘結合ないし無釘で填め込むのに対し、大型品（1454）や方形曲物（1460）は紐結合である。箍は上下２段を基本とし、高さによって４段までである。箍締めに縦板（楔）を挿すもの（1421・1424・1425・1426）は、いずれも曲物２類である。

1441 ～ 1460 は曲物底板である。ヒノキの柾目板が多く、1460 などは年輪数も多い。表面調整にはヤリガンナが用いられる。1457 は蓋で、両面に刃傷が無数に残る。1447・1454 なども刃傷があり、俎板として再利用されている。1455 は線刻がみられる。

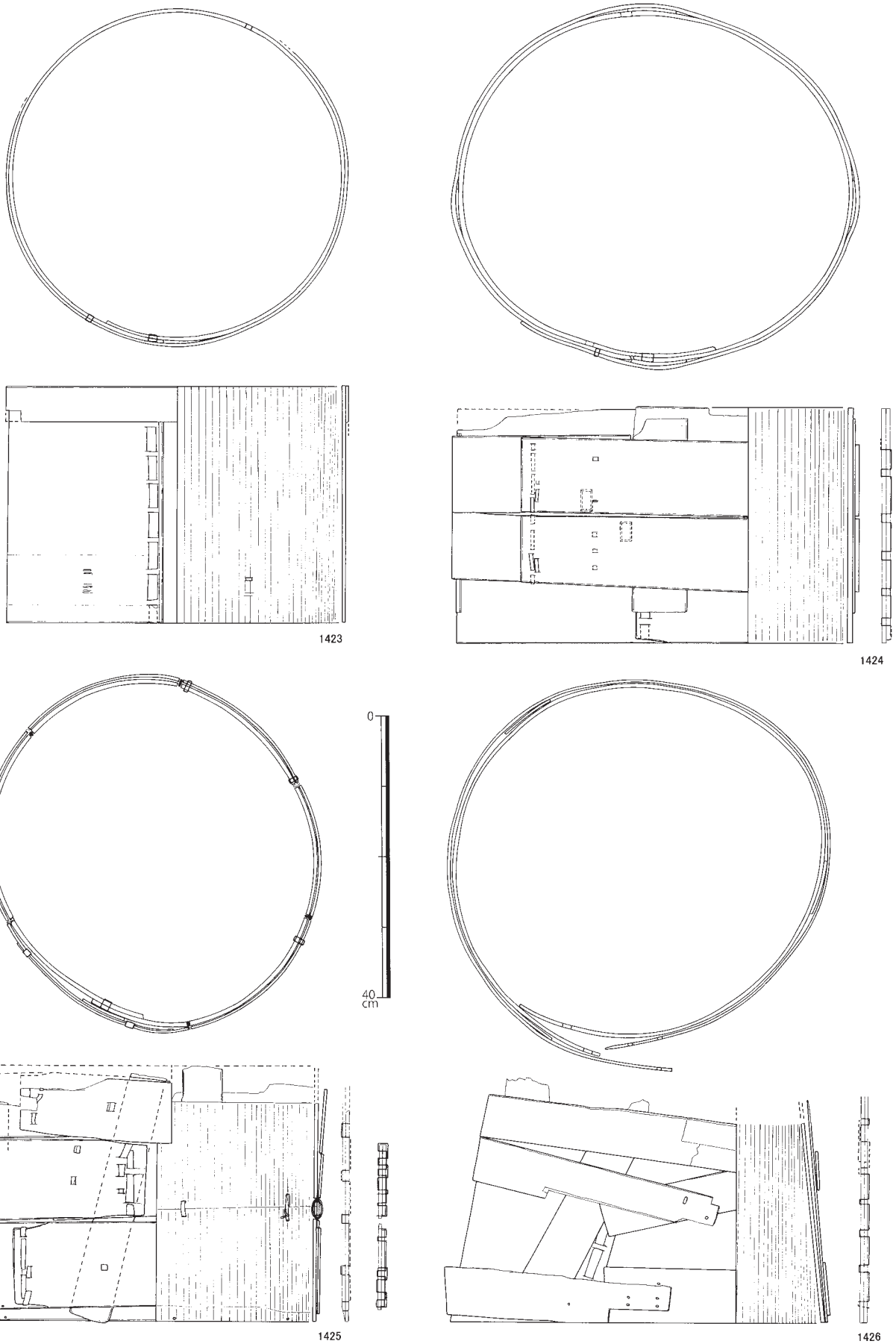
③楔（第 114 ～ 116 図）

結物の箍を締めた楔である。楔の製作技法は、板材や角材を打ち割り、先端の片面を刀子で削ぎ落とし片刃とする。主面や側面は割肌のまま残すことが多い。使用時は、片刃の刃部が箍側に接するよう用いる。板状の楔は曲物底板、杭状の楔は建築部材を転用したものがあり、樹種や木取りは転用前の製品のものが反映される。また、同一遺構出土の楔は接合するものがある（写真図版 95）。

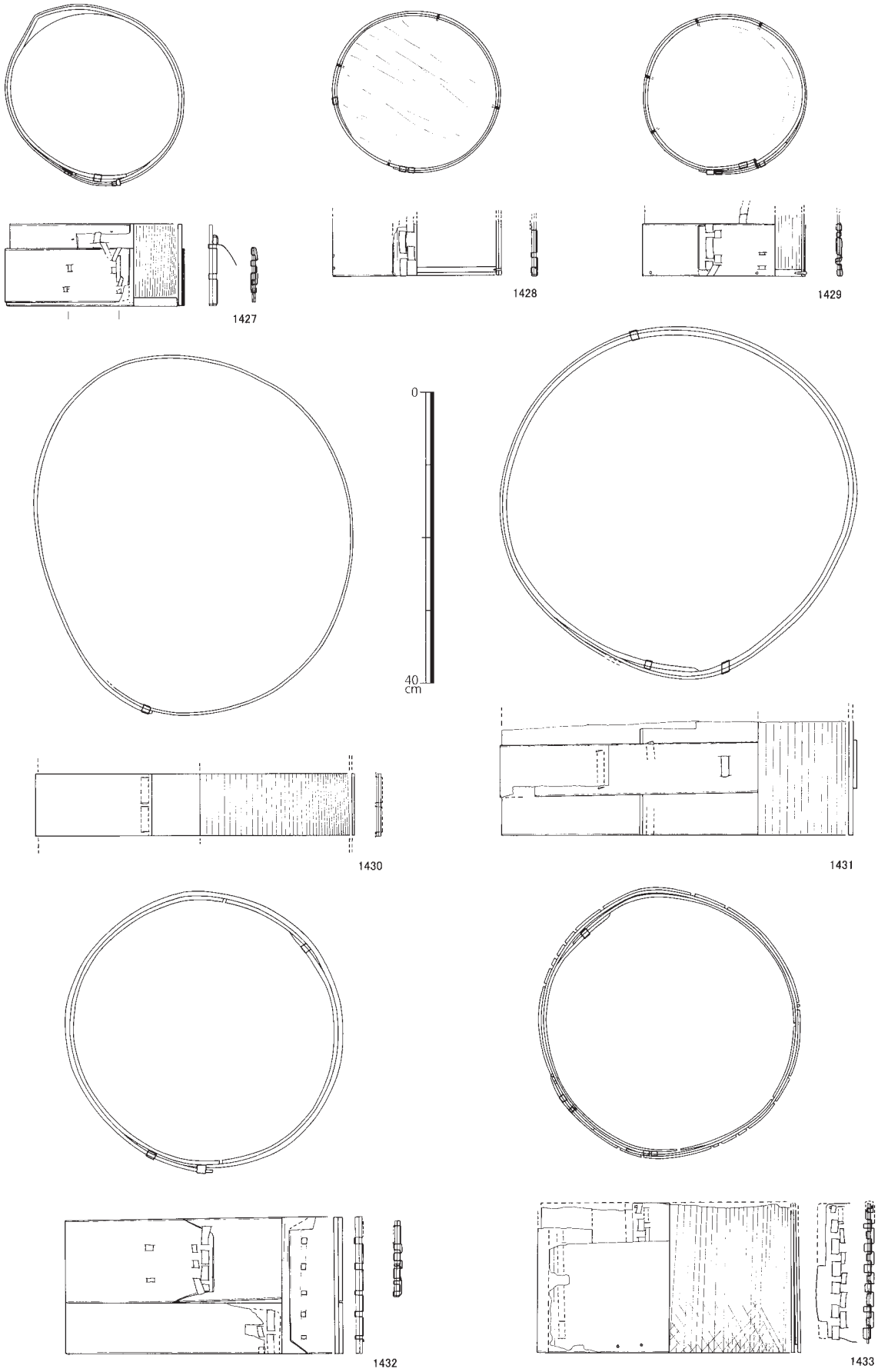
これらから、楔は古材や端材などを原材として、即時的に製作・使用されたことが知られる。



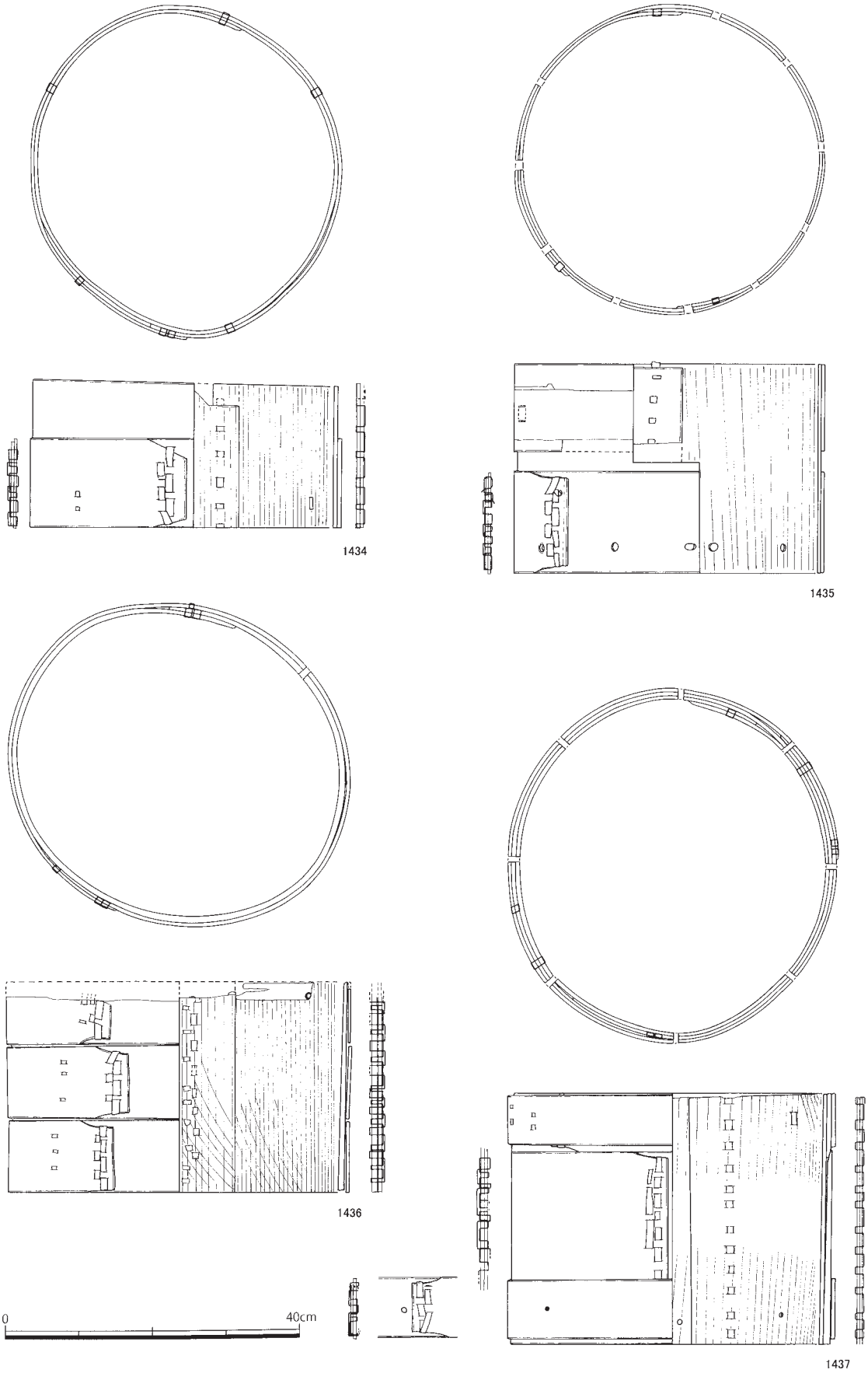
第108図　木製品　曲物１（1:8、1421のみ1:10）



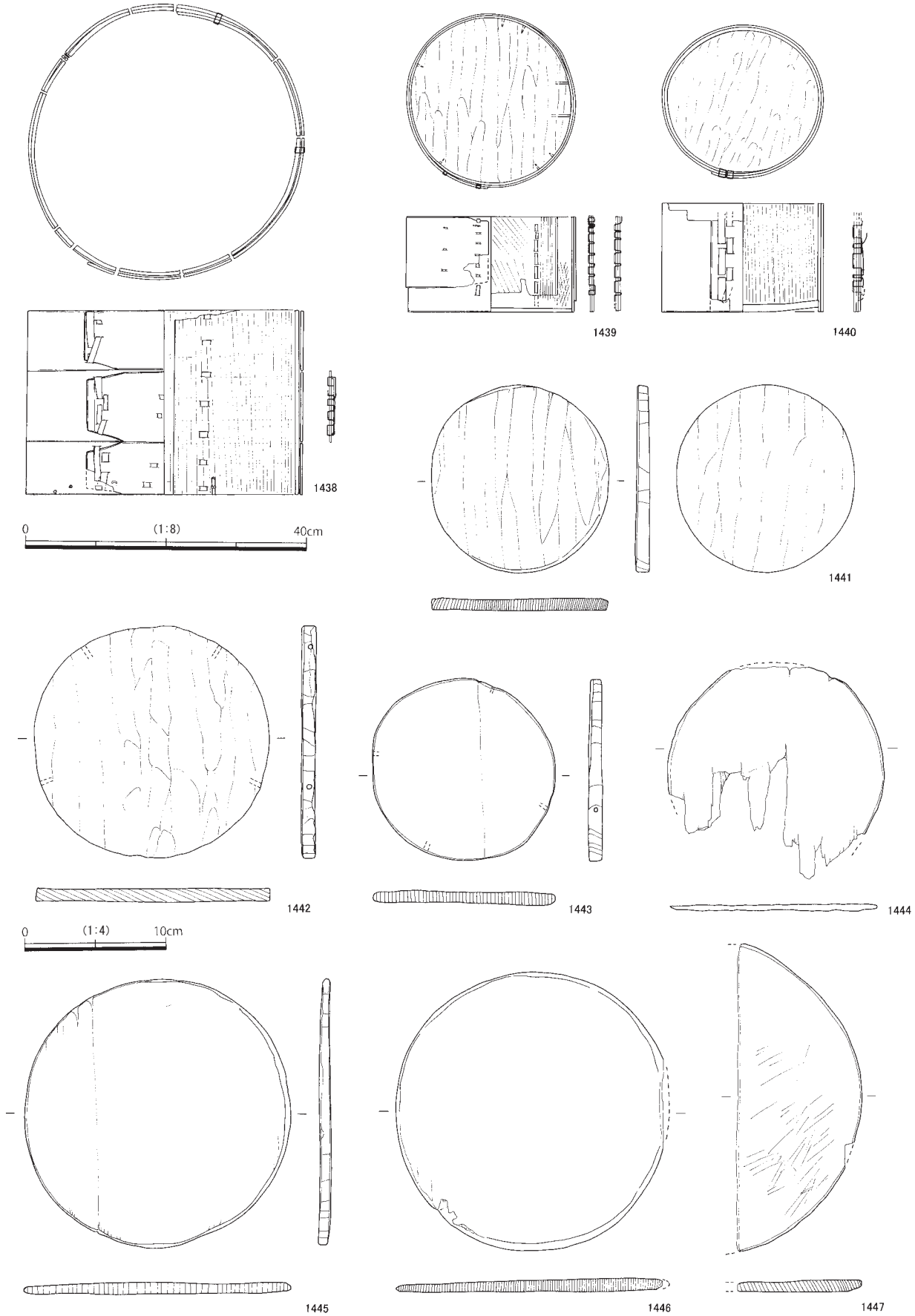
第109図　木製品　曲物２（1:8）



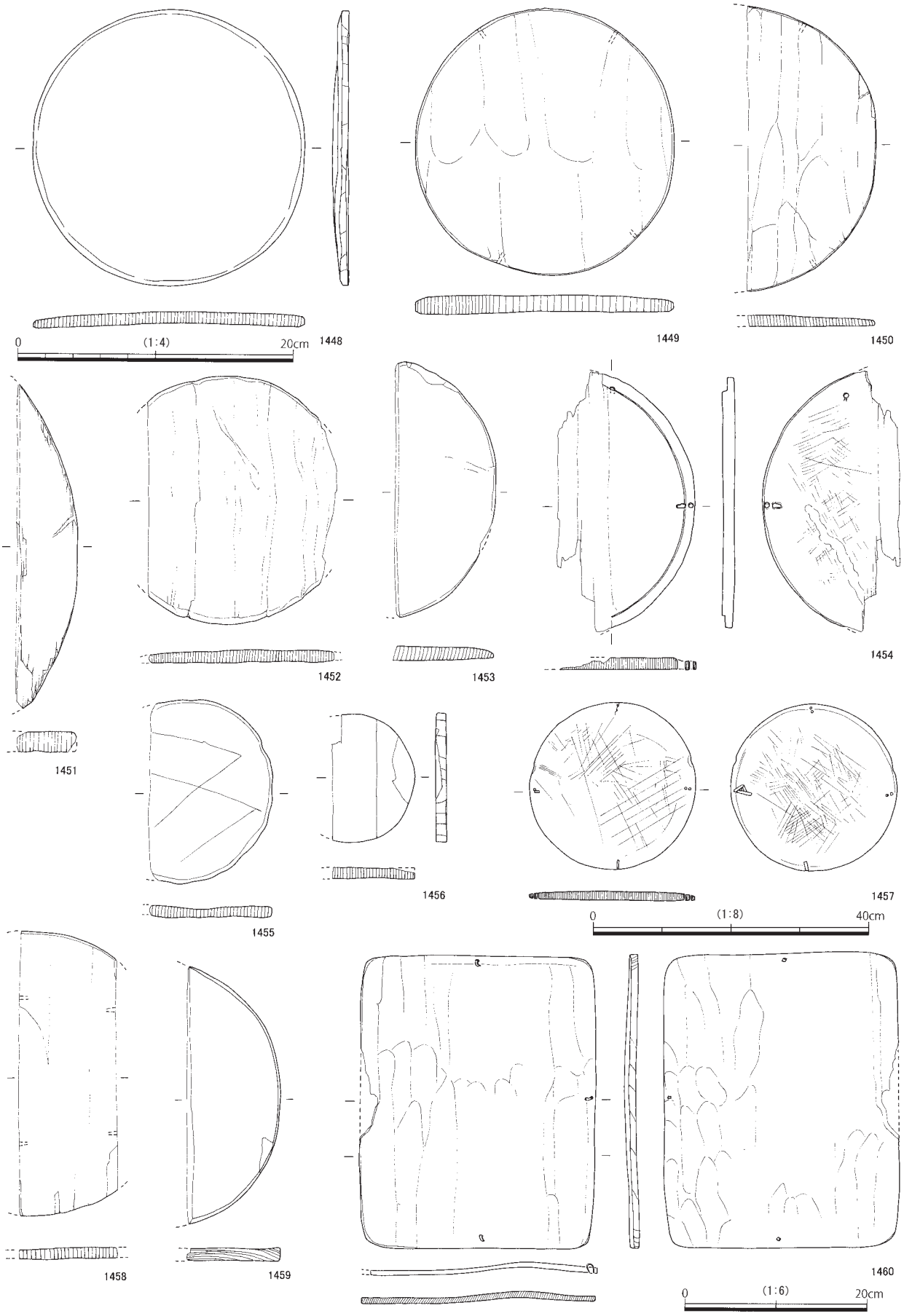
第110図　木製品　曲物３（1:8）



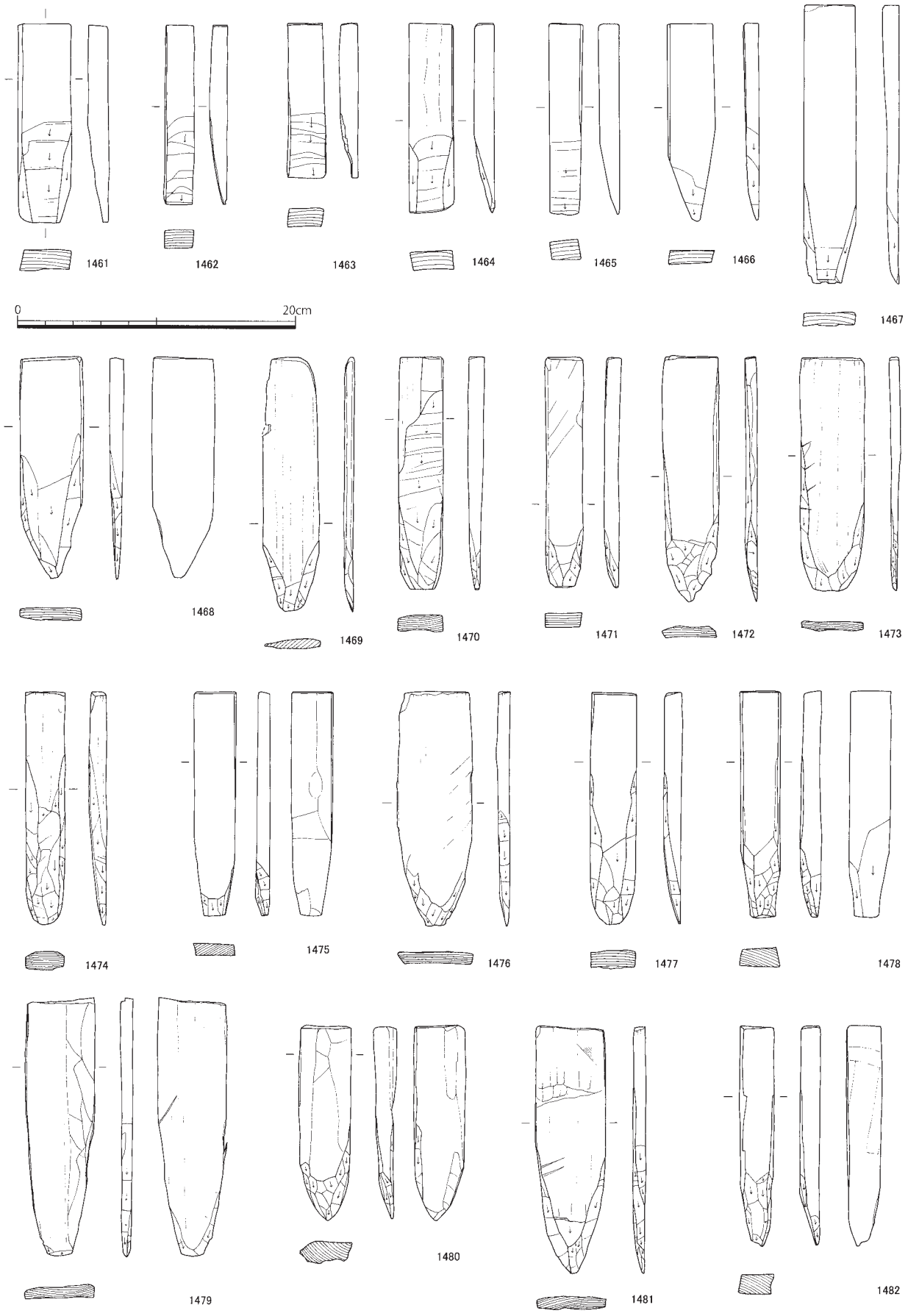
第111図　木製品　曲物４（1:8）



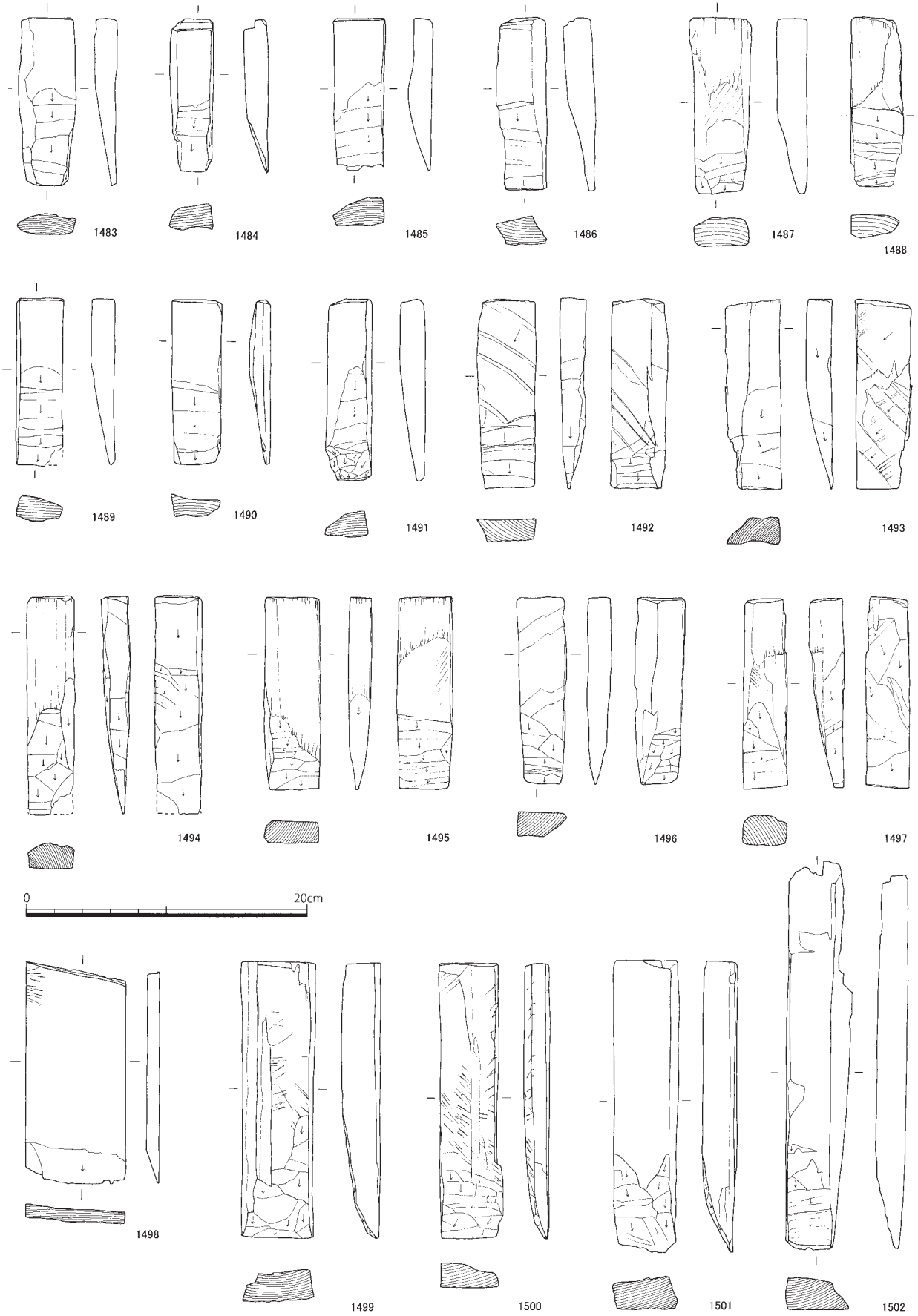
第112図　木製品　曲物（1:8）・曲物底板（1:4）



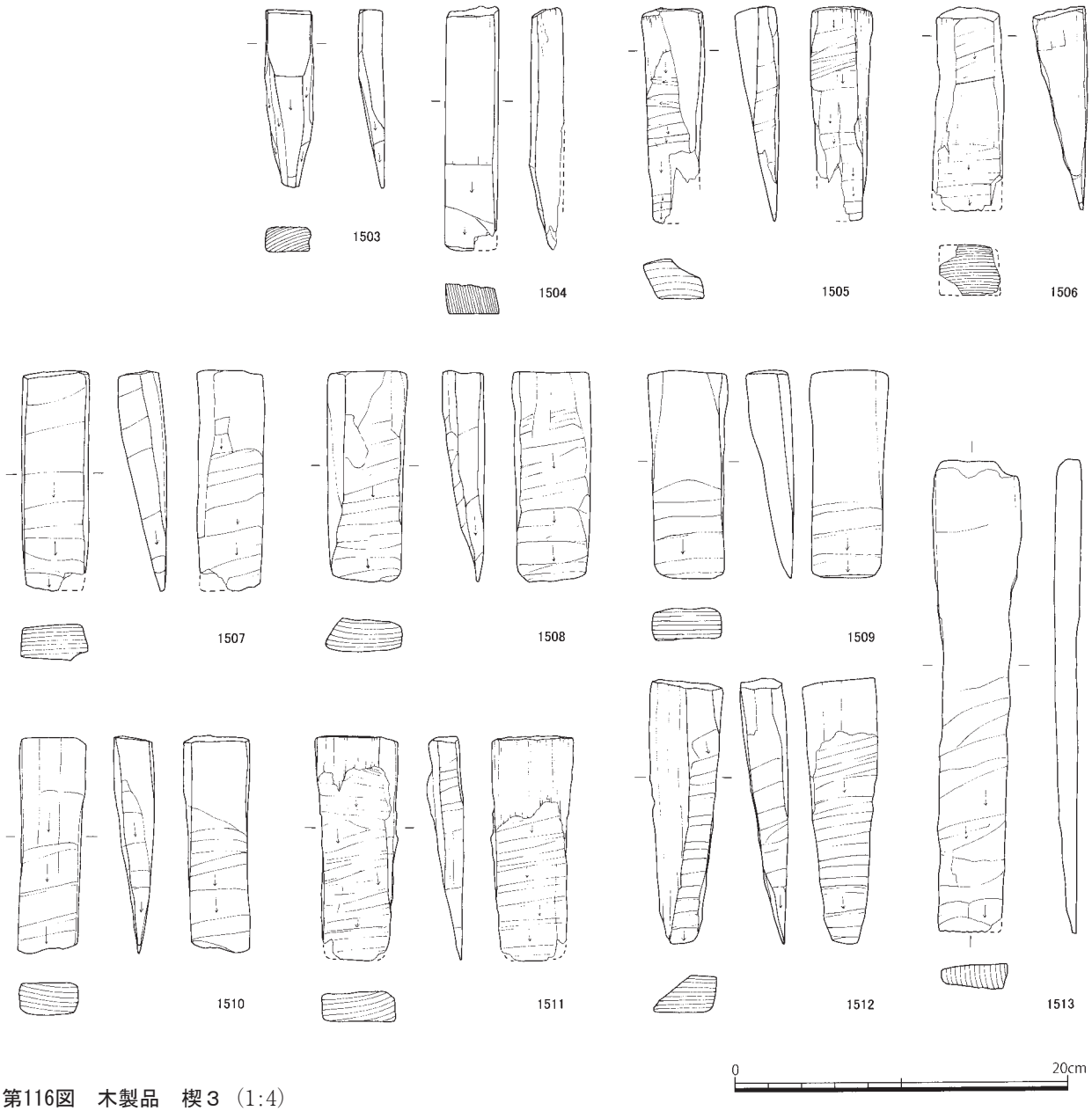
第113図　木製品　曲物底板・蓋（1:4、1460は1:6、1454・1457は1:8）



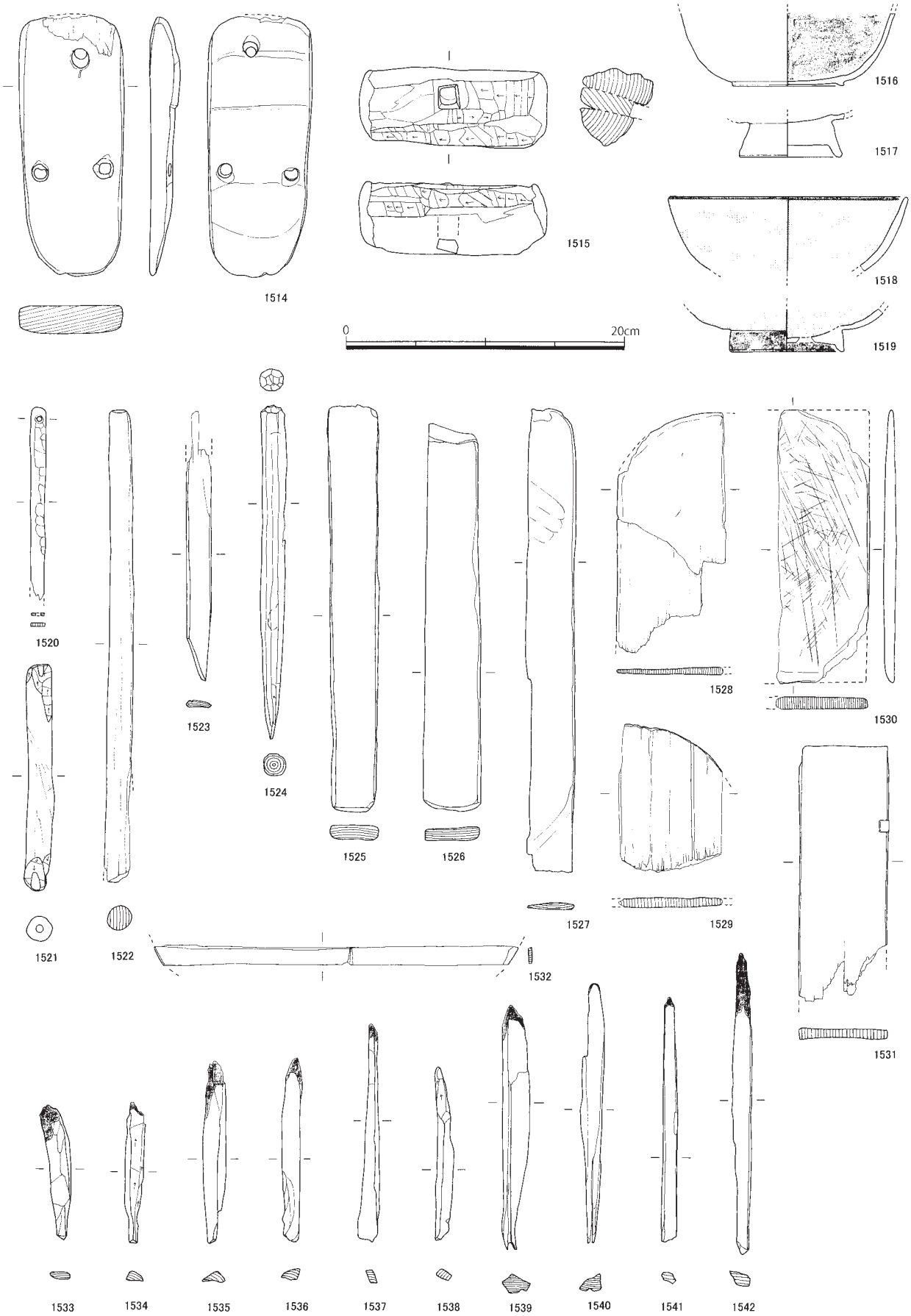
第114図　木製品　楔１（1:4）



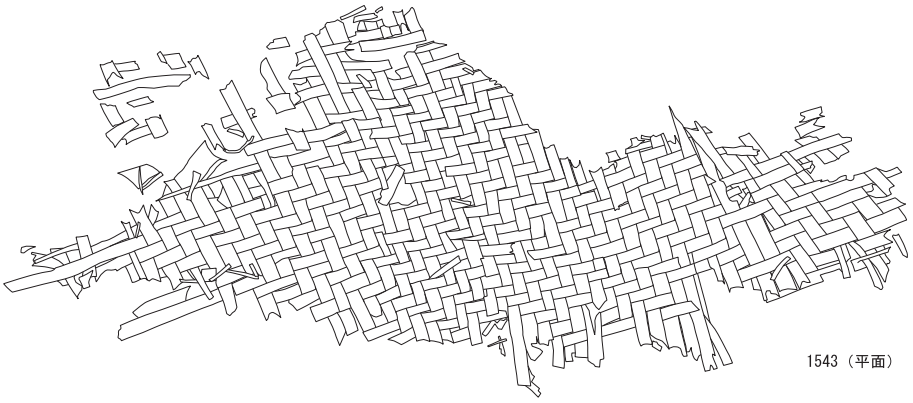
第115図　木製品　楔２（1:4）



第116図　木製品　楔３（1:4）



第117図　木製品　その他（1:4）



第118図　木製品　籠（1:4）

④その他の製品（第 117・118 図）

1514 は連歯下駄で左足用。歯は大きく磨り減っている。1515 は木槌。側面の加工は非常に粗い。また柄の一部が枘穴に残されている。1516 ～ 1519 は漆器椀で、1516 は外面木胎、内面は黒漆とする。1518・1519 は口縁端部と高台を黒漆、その他を朱漆とする。1520 はスギ製の薄板を丁寧に削り、基部に円孔を穿つ。紡織具の木針などか。1528 ～ 1532 は曲物や折敷の底板や側板か。1530 には包丁等の傷跡が無数に残る。1533 ～ 1542 は火付け木である。打ち割りや刀子等で削ぎ落とした木片の一部が炭化したもので、樹種は概ね樹脂の多いマツ属を用いるが、建築部材等の転用品（1539）もある。1543 は籠で、ヒノキのヒゴを二本飛び網代編みする。　（櫻井）

註

（1）土器等の分類・編年については以下の文献による。

弥生土器・古式土師器：三重県埋蔵文化財センター『村竹コノ遺跡』2000 年 / 愛知県埋蔵文化財センター『廻間遺跡』1990 年。

古代の土師器：斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』2001 年。

灰釉陶器：楢崎彰一「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告』Ⅲ、愛知県教育委員会、1983 年。

中世土器：伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古２、三重県、2008 年 / 伊藤裕偉「中世成立期における伊勢の土器相」『嶋抜Ⅱ』三重県埋蔵文化財センター、2000 年。

山茶碗：藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』３、三重県埋蔵文化財センター、1994 年。

古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤澤良祐「瀬戸美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第 10 輯、2002 年 /「施釉陶器生産技術の伝播」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』（発表要旨集）2005 年 /「古瀬戸前期・中期・後期様式の編年」『中世瀬戸窯の研究』高志書院、2008 年。

常滑：中野晴久「渥美・常滑」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』（発表要旨集）2005 年。

貿易陶磁：山本信夫「中世前期の貿易陶磁器」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社 / 續伸一郎「中世後期の貿易陶磁器」（同上）。

瓦：山崎信二『中世瓦の研究』奈良国立文化財研究所、2000 年 /『近世瓦の研究』奈良文化財研究所、2008 年。

（2）前川嘉宏「三重県における山茶椀の出土状況」『研究紀要』３、三重県埋蔵文化財センター、1994 年。

（3）鎌倉出土資料により復元された中世鳴滝砥の規格は、幅１寸～１寸２分、長さ６寸、厚さは１～２cm という。汐見一夫「砥石について」『中世北陸の石文化』Ⅰ、北陸中世考古学研究会、1999 年。

（4）継手・仕口の呼称は、鳥海義之助『図解木工の継手と仕口』理工学社、1980 年、に拠る。

（5）出土建築部材の研究では蹴放と称されるが、現存する建築部材では閾（しきみ）と呼ばれる。蹴放も閾の一種で、蹴放は取り外せる部材を指し、扉を受ける材は蹴放とは別材となる（彰国社編『建築大辞典』1993 年、海野聡氏の御教示による）。このため、本書では閾の語を用いた。

（6）奈良国立文化財研究所『木器集成図録』近畿古代編、1984 年。

第４表　遺物観察表

①土器・瓦・土製品

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
1	7-1	土師器	甕	範確 No. 13			口縁～胴部 1/12	20.2	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
2	3-4	土師器	甕	範確 No. 52			口縁部 4/12	16.6	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
3	7-2	土師器	甕	範確 No. 13			口縁～頸部 1/12	17.6	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
4	5-2	土師器	甕	範確 No. 41		包含層	口縁～頸部 1/12	16.2	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
5	5-1	土師器	甕	範確 No. 41		包含層	口縁～胴部 完形	24.3	-	-	内：ｹｽﾞﾘ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｵﾋｴ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
6	1-1	土師器	鍋	範確 No. 61		SE ？	胴～頸部 3/12	-	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾊｹ 外：ﾅﾃﾞ、ﾊｹ	やや粗	-	にぶい黄橙	
7	1-2	土師器	鍋	範確 No. 36		SE ？	底部片	-	-	-	内：ｹｽﾞﾘ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ	やや粗	-	赤灰	
8	3-3	土師器	鍋	範確 No. 50		包含層	口縁部 1/12	20.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ、板ﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹ		-	褐灰	
9	2-6	土師器	杯	範確 No. 15		SD	3/12	10.0	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
10	2-5	土師器	杯	範確 No. 15		SD	3/12	11.0	-	2.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	浅黄橙	口縁部に油煙付着
11	6-3	土師器	杯	範確 No. 41		包含層	4/12	13.1	-	3.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
12	6-2	土師器	杯	範確 No. 41		包含層	ほぼ完形	13.0	-	3.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
13	6-4	土師器	杯	範確 No. 41		包含層	2/12	13.1	-	3.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
14	6-1	土師質土器	椀	範確 No. 41		包含層	6/12	15.0	7.0	5.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	淡橙	
15	4-2	土師器	鍋類	範確 No. 33		SD	把手	-	-	-	内：ﾊｹ 外：ﾅﾃﾞ	やや粗	-	浅黄橙	
16	3-6	土製品	土錘	範確 No. 50		包含層	完形	長 3.5	径 1.3	-	ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい赤褐	6.18g
17	7-4	灰釉陶器	椀	範確 No. 13			底部完形	-	6.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
18	2-7	灰釉陶器	椀	範確 No. 25		包含層	底部 2/12	-	7.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
19	3-2	土師質土器	椀	範確 No. 59		SE ？	底部 8/12	-	6.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	-	灰白	
20	2-3	灰釉陶器	椀	範確 No. 15		SD	底部 2/12	-	7.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
21	2-1	山茶碗	椀	範確			底部 1/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
22	2-2	山茶碗	椀	範確 No. 18		包含層	底部 2/12	-	7.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
23	7-3	緑釉陶器（近江）	椀	範確 No. 13			底部 1/12	-	5.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	深緑	
24	2-4	土師質土器	椀	範確 No. 15		SD	底部 1/12	-	6.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰白	
25	7-7	陶器（瀬戸）	鉢	範確 No. 38			口縁部 1/12	18.0	-	-	内：灰釉、ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：灰釉、ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	浅黄	
26	7-8	陶器	鉢	範確 No. 38			底部 8/12	-	14.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、鉄釉、ﾄﾁﾝ痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ、鉄釉	密	良	褐灰	
27	7-6	陶器（瀬戸）	鉢	範確 No. 38			口縁部小片	-	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉	密	良	浅黄	
28	3-1	陶器（瀬戸美濃）	緑釉小皿	範確 No. 42		包含層	6/12	10.8	5.3	3.1	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕、鉄釉	密	良	灰黄褐	
29	7-5	陶器（瀬戸）	灯明皿	範確 No. 38			3/12	7.8	1.4	2.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ、灰釉	密	良	灰白	
30	3-5	陶器（瀬戸）	壺	範確 No. 49		包含層	底部 6/12	-	2.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、鉄釉	密	良	黒褐	
31	4-1	陶器（常滑）	甕	範確		包含層	口縁部 1/12	44.8	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	粗	良	にぶい黄橙	
32	14-6	弥生土器	広口壺	3-2	B-l14	SK5001 2層	口縁部 2/12	12.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ、扇形文、波状文 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ、棒状浮文	密	-	にぶい橙	
33	14-4	弥生土器	細頸壺	3-2	B-l14	SK5001 2層	口縁～頸部 3/12	9.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、櫛描横線文、波状文、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
34	14-2	弥生土器	高杯	3-2	B-l14	SK5001	杯部 1/12	17.6	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
35	14-3	弥生土器	甕	3-2	B-l14	SK5001 上層	口縁～頸部 1/12	15.0	-	-	内：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
36	14-5	弥生土器	台付甕	3-2	B-l14	SK5001	底部完形	-	6.6	-	内：ｵﾋｴ、ﾊｹ 外：ｵﾋｴ、ﾊｹ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
37	14-1	弥生土器	壺	3-2	B-l14	SK5001	胴～底部 9/12	-	4.5	-	内：ｵﾋｴ、ﾊｹ、ﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	
38	11-1	弥生土器	壺	3-2	B-l14	SK5001 1層	胴～底部 9/12	-	7.3	-	内：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾐｶﾞｷ	密	-	橙	
39	50-1	弥生土器	高杯	1-2	I-t10	SK5020	杯部 9/12	11.8	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
40	58-7	弥生土器	広口壺	2-1	E-j17	SK5033	口縁～頸部 2/12	25.6	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ、櫛描横線文	密	-	にぶい橙	
41	56-3	弥生土器	甕	1-2	I-t11	SD5027	ほぼ完形	8.7	3.7	9.1	内：ﾊｹ、ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
42	19-5	弥生土器	甕	3-2	B-g13	SK5003	口縁部 3/12	13.6	-	-	内：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	粗	-	黒褐	
43	19-1	弥生土器	甕	3-2	B-g13	SK5003	口縁部 1/12	16.0	-	-	内：ﾊｹ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい褐	
44	18-2	弥生土器	甕	3-2	B-g13	SK5003	口縁～頸部 1/12	20.0	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰褐	
45	15-1	弥生土器	鉢	3-2		SK5003	9/12	12.8	4.4	9.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
46	15-2	弥生土器	台付甕	3-2		SK5003	6/12	13.7	7.2	17.5	内：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
47	19-3	弥生土器	鉢	3-2	B-g13	SK5003 最上層	口縁部 2/12	16.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい褐	
48	19-2	弥生土器	鉢	3-2	B-g13	SK5003 最上層	口縁部 2/12	15.8	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
49	13-1	弥生土器	台付鉢	3-2	B-f12	SK5003 上層	口縁～胴部 6/12	20.6	-	-	内：ﾊｹ、ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
50	18-1	弥生土器	壺	3-2	B-g13	SK5003 下層	底部 6/12	-	5.0	-	内：ﾊｹ 外：ﾊｹ、ﾐｶﾞｷ	やや粗	-	黒褐	
51	18-5	弥生土器	甕	3-2	B-g13	SK5003	底部 1/12	-	3.7	-	内：ｹｽﾞﾘ 外：ｹｽﾞﾘ	粗	-	灰褐	
52	20-1	弥生土器	高杯	3-2	B-f12	SK5003 上層	口縁部 2/12	19.8	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい橙	
53	12-1	弥生土器	高杯	3-2	B-f12	SK5003 上層	9/12	27.8	19.6	25.1	内：板ﾅﾃﾞ、ﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ、櫛描横線文、波状文	密	-	にぶい橙	透孔 4 方向
54	20-3	弥生土器	高杯	3-2	B-f12	SK5003 上層	脚部 7/12	-	16.1	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ	やや密	-	にぶい橙	透孔 3 方向
55	20-2	弥生土器	高杯	3-2	B-f12	SK5003 最上層	脚部 3/12	-	18.0	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	明褐灰	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
56	51-2	弥生土器	甕	1-4	D-u23	SK5025	6/12	14.9	5.4	16.0	内：ｹｽﾞﾘ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹ、ﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい赤褐	
57	48-2	弥生土器	甕	1-4	D-t23	SK5025	口縁～頸部 1/12	32.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
58	58-8	弥生土器	無頸壺	2-1	E-a17	SK5035	口縁部 2/12	11.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾅﾃﾞ、ﾊｹ	密	-	にぶい黄橙	
59	59-1	弥生土器	広口壺	2-1	E-a17	SK5035	口縁～頸部 2/12	12.0	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
60	59-2	弥生土器	壺	2-1	E-a17	SK5035	頸部 1/12	15.6	-	-	内：ﾊｹ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ、直線文、櫛刺突文、波状文	密	-	にぶい橙	
61	56-2	弥生土器	甕	2-1	E-a17	SK5035	口縁～胴部 4/12	19.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	黒褐	
62	65-3	弥生土器	広口壺	1-4	D-v16	SK5042	口縁部 3/12	21.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ、竹管文	密	-	にぶい橙	
63	64-2	弥生土器	壺	1-4	D-u16	SK5042	底部 12/12	-	8.0	-	外：板ﾅﾃﾞ、ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
64	64-3	弥生土器	甕	1-4	D-v16	SK5042	口縁～胴部 4/12	10.9	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
65	64-1	弥生土器	甕	1-4	D-u15, 16	SK5042	口縁～胴部 4/12	20.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
66	65-1	弥生土器	甕	1-4	D-u16	SK5042	口縁～胴部 4/12	17.9	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
67	52-3	弥生土器	広口壺	1-2	I-t8	SD5021	口縁～頸部 9/12	14.0	-	-	内：ﾊｹ、ﾅﾃﾞ、ｵｻｴ 外：ﾊｹ、竹管文、直線文、波状文	密	-	橙	
68	51-1	弥生土器	広口壺	1-4	I-t5	SD5023	9/12	13.0	4.8	25.3	内：ﾊｹ、ﾅﾃﾞ、ｵｻｴ、ﾐｶﾞｷ 外：ﾊｹ、ﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ	やや密	-	にぶい橙	
69	118-2	弥生土器	高杯	5-2	G-i11	SD5143	杯部 2/12	22.0	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
70	120-2	弥生土器	高杯	5-2	G-i11, 12	SD5143	杯部 11/12	14.7	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
71	118-1	弥生土器	高杯	5-2	G-i11, 12	SD5143	杯部 11/12	12.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
72	120-1	弥生土器	広口壺	5-2	G-i11, 12	SD5143	口 8/12 頸 12/12	15.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ、櫛描横線文	やや密	-	橙	
73	118-4	弥生土器	高杯	5-2	G-i11, 12	SD5143	脚部 10/12	-	6.8	-	外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ	やや密	-	にぶい黄橙	
74	118-3	弥生土器	蓋	5-2	G-i11, 12	SD5143	10/12	-	4.9	-	内：ﾊｹ、ﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ	やや粗	-	褐灰	
75	119-1	弥生土器	甕	5-2	G-i12	SD5143	口縁～胴部 7/12	20.0	-	-	内：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	黒褐	
76	119-2	弥生土器	甕	5-2	G-i11, 12	SD5143	底部 12/12	-	3.5	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ	粗	-	にぶい褐	
77	119-3	弥生土器	甕	5-2	G-i11, 12	SD5143	底部 5/12	-	5.7	-	内：板ﾅﾃﾞ 外：ﾀﾀｷ、ﾅﾃﾞ	粗	-	灰黄褐	
78	117-1	弥生土器	広口壺	5-2	G-i11, 12	SD5143	10/12	11.8	6.8	29.3	内：ｵｻｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい褐	
79	78-3	土師器	甕	1-3	J-d9	SD5072	口縁部 1/12	19.2	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
80	244-7	土師器	甕	1-3		表土	口縁部小片	-	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
81	78-6	土師器	台付甕	1-3	J-d9	SD5072	口縁部小片	-	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、押引刺突	密	-	にぶい黄橙	
82	78-7	土師器	台付甕	1-3	J-d9	SD5072	口縁部小片	-	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、押引刺突	密	-	にぶい黄橙	
83	78-4	土師器	台付甕	1-3	J-d9	SD5072	口縁～頸部 2/12	11.2	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
84	75-2	土師器	台付甕	1-3	J-d9	SD5072	口縁部 2/12	14.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	暗灰	
85	78-5	土師器	台付甕	1-3	J-d9	SD5072	口縁～頸部 2/12	15.8	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
86	75-3	土師器	台付甕	1-3	J-d9	SD5072	口縁～肩部 2/12	12.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	灰	
87	79-5	土師器	台付甕	1-3	J-d9	SD5072	台部 2/12	–	10.3	-	内：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
88	78-1	土師器	高杯	1-3	J-d9	SD5072	口縁部 2/12	20.8	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
89	78-2	土師器	高杯	1-3	J-d9	SD5072	口縁部 3/12	24.0	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
90	79-2	土師器	高杯	1-3	J-d9	SD5072	口縁部 1/12	19.8	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
91	79-4	土師器	高杯	1-3	J-d9	SD5072	脚部片	-	-	-	内：ﾊｹ 外：ﾊｹ、ﾐｶﾞｷ、櫛描横線文	密	-	橙	透孔 3 方向
92	79-3	土師器	高杯	1-3	J-d9	SD5072	脚部片	-	-	-	外：ﾅﾃﾞ、爪形文、横線文、赤彩	密	-	浅黄	
93	75-4	土師器	高杯	1-3	J-d9	SD5072	脚部 2/12	-	12.0	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい褐	透孔
94	80-1	土師器	壺	1-3	J-d9	SD5072	底部 4/12	-	4.4	-	内：板ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
95	79-1	土師器	広口壺	1-3	J-d9	SD5072	口縁部 2/12	16.2	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
96	79-6	土師器	壺	1-3	J-d9	SD5072	肩部 1/12	-	-	-	内：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、刺突文、櫛描横線文	密	-	にぶい黄橙	
97	87-1	土師器	広口壺	1-3	J-d9	SD5072	口縁～胴部 3/12	15.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ、刺突文	密	-	にぶい黄橙	
98	80-2	土師器	甕	1-3	J-d9	SD5072	口縁～胴部 3/12	13.0	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい赤褐	
99	243-6	土師器	甕	1-3		表土	台部 3/12	-	7.4	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
100	75-1	土師器	細頸壺	1-3	J-d9	SD5072	口縁部 2/12	8.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
101	45-4	土師器	台付甕	1-1	I-w14	SD5016	口縁部 1/12	15.8	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、押引刺突	密	-	灰白	
102	45-1	土師器	台付甕	1-1	I-w14	SD5016	口縁～頸部 1/12	12.3	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
103	45-2	土師器	台付甕	1-1	I-w14	SD5016	口縁～頸部 2/12	12.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹ	密	-	浅黄橙	
104	45-6	土師器	広口壺	1-1	I-w14	SD5016	口縁部 2/12	17.0	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
107	49-5	弥生土器	甕	1-2	I-t11	SD5019	口縁～胴部 3/12	13.6	-	-	内：ﾊｹ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
108	250-7	弥生土器	壺	1		表土	底部 5/12	-	4.9	-	内：ﾊｹ 外：ﾐｶﾞｷ	やや密	-	にぶい黄橙	
109	250-1	弥生土器	高杯	1-2	I-t10	包含層	杯部 1/12	18.0	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
110	114-1	弥生土器	高杯	5-2	G-i12	SD5138	杯部 3/12	27.6	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、櫛描横線文、波状文	やや密	-	明赤褐	
111	247-2	弥生土器	広口壺	2-1		表土	口縁部 2/12	36.4	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、刺突文 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ、竹管文、刺突文	密	-	にぶい橙	
112	243-3	弥生土器	広口壺	2-1		廃土	口縁部 1/12	17.6	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、刺突文 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	にぶい橙	
113	249-1	弥生土器	広口壺	1		廃土	口縁部 2/12	40.0	-	-	内：ﾊｹ、刺突文 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ、竹管文	密	-	橙	
114	247-3	弥生土器	広口壺	2-1		表土	口縁部 2/12	27.8	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
115	77-7	弥生土器	壺？	1-3	I-w9	SE5065	底部 12/12	－	2.4	-	外：ﾐｶﾞｷ	やや密	-	灰黄	ミニチュア土器
116	97-6	土師器	杯	6-1	F-d13	SD5095	2/12	13.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ｵﾓｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
117	97-5	土師器	椀	6-1	F-d13	SD5095	2/12	12.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ｵﾓｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
118	94-4	土師器	高杯	6-1	F-d11	SD5095	杯部 2/12	13.1	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾅﾃﾞ	密	-	淡橙	
119	94-2	土師器	高杯	6-1	F-d12	SD5095	11/12	12.1	6.9	8.0	内：ﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、脚部接合時の刻み	密	-	浅黄橙	
120	94-3	土師器	高杯	6-1	F-d13	SD5095	脚部 11/12	-	9.8	-	内：ﾊｹ、ﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
121	97-4	土師器	高杯	6-1		SD5095	脚部 7/12	-	8.6	-	内：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
122	96-1	土師器	甕	6-1	F-d11	SD5095	口縁部 2/12	17.2	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
123	98-2	土師器	甕	6-1	F-d13	SD5095	口縁部 2/12	18.6	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
124	96-2	土師器	甕	6-1	F-d11	SD5095	口縁部 3/12	17.0	-	-	内：ｹｽﾞﾘ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
125	96-3	土師器	甕	6-1	F-d10	SD5095	口縁部 2/12	16.8	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
126	97-2	土師器	甕	6-1	F-d10	SD5095	口縁部 1/12	19.4	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
127	97-3	土師器	甕	6-1		SD5095	口縁部 1/12	18.6	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
128	97-1	土師器	甕	6-1		SD5095	口縁部 4/12	19.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
129	98-1	土師器	鉢	6-1	F-d12	SD5095	口縁部 1/12	22.4	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
130	96-4	須恵器	杯蓋	6-1	F-d13	SD5095	2/12	12.6	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
131	95-3	須恵器	杯蓋	6-1	F-d12	SD5095	1/12	9.3	-	2.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	青灰	
132	96-5	須恵器	杯身	6-1	F-d12	SD5095	1/12	11.0	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
133	96-6	須恵器	杯身	6-1	F-d13	SD5095	2/12	12.0	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
134	95-1	須恵器	𤭯	6-1	F-d12	SD5095	頸～胴部 8/12	-	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、沈線	密	良	青灰	
135	95-4	須恵器	高杯	6-1	F-d11	SD5095	7/12	10.8	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	灰白	長脚２段透し、２方向
136	96-7	須恵器	高杯	6-1		SD5095	脚部 1/12	-	10.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、沈線	密	良	暗灰	長脚２段透し、２方向
137	95-2	須恵器	高杯	6-1	F-d12	SD5095	2/12	12.3	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ、沈線	密	良	灰白	
138	98-7	土製品	土錘	6-1	F-d14	SD5095	完形	長 7.3	径 2.7	-	ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄	46.76g
139	98-3	土製品	鞴羽口	6-1	F-d13	SD5095	小片	-	-	-	芯棒巻き付け	やや密	-	灰	鉄滓付着
140	98-5	土製品	鞴羽口	6-1	F-d13	SD5095	小片	-	-	-	芯棒巻き付け	やや密	-	灰	鉄滓付着
141	98-4	土製品	鞴羽口	6-1	F-d11	SD5095	小片	-	-	-	芯棒巻き付け	やや密	-	灰	鉄滓付着
142	98-6	土製品	鞴羽口	6-1	F-d14	SD5095	小片	-	-	-	芯棒巻き付け	やや密	-	灰	
143	125-7	須恵器	杯	5-1-2	H-c20	SD5160	1/12	12.8	-	-	外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰	
144	19-4	須恵器	短頸壺	3-2	B-m14	SK5004	口縁～胴部 2/12	14.0	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	やや密	良	灰白	
145	258-1	土師器	高杯	8-2	G-e6	Pit3	7/12	13.0	9.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	やや粗	-	灰白	須恵器製作技法による
146	250-2	須恵器	高杯	1-2	I-t12	包含層	脚部 3/12	-	12.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
147	253-11	土師器	杯	7-5	O-v12	SB5342-P1 (Pit8)	2/12	10.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
148	254-1	土師器	杯	7-5	O-v12	SB5342-P1 (Pit8)	1/12	13.5	-	3.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
149	253-13	土師器	小皿	7-5	O-v12	SB5342-P1 (Pit8)	1/12	8.6	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
150	253-7	土師器	小皿	1-4	D-t19	SB5059-P1 (Pit1)	2/12	7.8	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
151	253-12	土師器	皿	7-5	O-v13	SB5344-P1 (Pit9)	1/12	11.2	-	2.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
152	253-10	土師器	皿	7-5	O-v10	SA5341-P1 (Pit7)	3/12	10.1	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
153	254-4	土師器	甕	7-5	O-v12	SB5342-P1 (Pit8)	口縁部 1/12	17.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
154	255-5	灰釉陶器	段皿	1-4	D-t17	SB5060-P1 (Pit2)	1/12	13.6	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉ﾊｹﾇﾘ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
155	254-2	山茶碗	椀	7-5	O-v13	SB5344-P2 (Pit9)	底部 1/12	-	5.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
156	255-4	志摩式製塩土器		5-2	G-g11	SB5181-P1 (Pit2)	小片	-	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	粗	-	橙	
157	255-2	土製品	土錘	5-2	G-f12	SB5181-P2 (Pit2)	小片	長 3.8	径 1.5	-	ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	黒褐	39.66g
158	255-3	土製品	土錘	5-2	G-g11	SB5181-P1 (Pit2)	ほぼ完形	長 7.8	径 2.5	-	ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	7.69g
159	260-2	土師器	小皿	7-5	O-v14	Pit20	3/12	6.8	-	1.0	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ	密	-	にぶい橙	
160	260-3	土師器	小皿	7-5	O-v14	Pit20	3/12	7.6	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ	密	-	にぶい黄橙	
161	257-7	土師器	小皿	8-2	G-e9	Pit1	完形	7.9	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ	やや密	-	浅黄橙	
162	253-8	土師器	皿	7-1	L-c13	Pit1	3/12	9.8	-	1.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
163	258-3	土師器	台付皿	5-4	A-o18	Pit1	5/12	9.1	4.1	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
164	259-5	土師器	小皿	7-7	Q-s4	Pit2	3/12	5.2	-	0.9	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ	密	-	浅黄橙	
165	253-2	土師器	小皿	7-8	Q-t11	Pit1	5/12	5.9	-	1.0	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	橙	
166	253-1	土師器	小皿	7-7	Q-s5	Pit1	完形	6.7	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
167	253-6	土師器	皿	7-7	Q-s4	Pit2	2/12	7.8	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
168	260-5	土師器	小皿	7-8	R-c11	Pit6	5/12	7.0	-	0.6	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	
169	257-6	土師器	皿	8-2	G-e9	Pit1	完形	8.0	-	1.3	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
170	259-3	土師器	皿	7-7	Q-s4	Pit1	1/12	7.8	-	1.3	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
171	253-3	土師器	皿	7-7	Q-s5	Pit1	4/12	8.9	-	1.4	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
172	259-2	土師器	皿	7-7	Q-s4	Pit1	2/12	8.8	-	1.3	内：ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	密	-	灰白	
173	259-4	土師器	小皿	7-7	Q-s4	Pit1	2/12	6.4	-	1.5	内：ナデ 外：オサエ、ナデ	密	-	浅黄橙	
174	259-6	土師器	皿	7-7	Q-s4	Pit2	2/12	8.2	-	1.1	内：ナデ 外：オサエ、ナデ	密	-	浅黄橙	
175	253-5	土師器	皿	7-7	Q-s4	Pit2	3/12	7.0	-	1.4	内：ナデ 外：オサエ、ナデ	密	-	にぶい黄橙	
176	253-4	土師器	皿	7-7	Q-s5	Pit1	2/12	9.6	-	1.9	内：ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	密	-	にぶい橙	
177	258-6	土師器	杯	2-1	D-s17	Pit1	3/12	11.0	-	2.8	内：板ナデ、ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや密	-	にぶい橙	
178	257-3	土師器	杯	1-3	I-v9	Pit5	2/12	13.6	-	3.0	内：ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや密	-	にぶい橙	
179	257-5	土師器	杯	6-2	K-n12	Pit1	1/12	12.6	-	-	内：ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや密	-	にぶい褐	
180	255-1	土師器	杯	5-2	G-f12	Pit2	2/12	15.0	-	3.0	内：ナデ、ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	密	-	橙	
181	262-1	土師器	杯	7-7	O-s23	Pit5	4/12	15.5	-	3.7	内：ナデ、ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	密	-	にぶい黄橙	底部外面に墨書
182	254-3	山茶碗	椀	7-1	L-b16	Pit3	底部 4/12	-	7.0	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白	
183	258-2	灰釉陶器	椀	5-4	A-j17	Pit1	5/12	15.5	7.9	-	内：ロクロナデ、灰釉ワケカケ 外：ロクロナデ、糸切り痕	やや粗	良	灰白	
184	251-1	土師器	杯	5-2	G-v12	Pit1	3/12	12.4	-	3.0	内：ナデ、ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや密	-	灰白	
185	258-5	土師器	杯	8-2	G-e9	Pit1	7/12	13.9	-	2.9	内：ナデ、ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや密	-	灰白	
186	253-9	土師器	皿	7-5	O-v10	Pit4	2/12	10.3	-	2.0	内：ナデ 外：オサエ、ナデ	密	-	灰白	
187	246-2	土師器	皿	6-2	K-l12	Pit3	9/12	8.8	-	2.6	内：ナデ 外：オサエ、ナデ	密	-	浅黄橙	
188	257-4	土師器	皿	6-2	K-j12	Pit3	3/12	10.0	-	-	内：ナデ 外：オサエ、ナデ	やや粗	-	灰白	
192	259-7	土師器	甕	7-7	Q-s1	Pit2	口縁部 1/12	14.8	-	-	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	密	-	にぶい黄橙	
193	259-8	土師器	甕	7-7	Q-s1	Pit2	口縁部 1/12	16.2	-	-	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	密	-	灰白	
194	257-1	土師器	甕	7-1	L-b22	Pit1	口縁～胴部 3/12	18.0	-	-	内：板ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	やや粗	-	にぶい黄橙	
195	258-4	土師器	鍋	1-4	D-u16	Pit2	口縁～胴部 2/12	17.0	-	-	内：ハケ、ヨコナデ 外：オサエ、ハケ、ヨコナデ	やや密	-	灰白	
196	260-4	土製品	土錘	7-8	Q-u11	Pit11	ほぼ完形	長 4.1	径 1.4	-	オサエ、ナデ	密	-	にぶい赤褐	7.11g
197	254-6	磁器染付（中国）	皿	7-8	Q-u11	Pit2	1/12	8.9	4.7	2.6	草花文など	密	良	灰白	
198	256-2	灰釉陶器	壺	7-5	O-v11	Pit2	頸～肩部 1/12	-	-	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰 オリーブ	
199	256-1	須恵器	甕	7-5	O-v11	Pit2	口縁～頸部 2/12	24.0	-	-	内：タタキ、ヨコナデ 外：タタキ、ヨコナデ	密	良	灰白	
200	257-2	製塩土器		1-2	I-t8	Pit1	2/12	14.0	-	-	内：ナデ 外：オサエ、ナデ	粗	-	にぶい橙	
201	259-1	土師器	茶釜形鍋	7-8	Q-t11	Pit1	口縁部 2/12	18.6	-	-	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	密	-	にぶい橙	
202	254-5	青磁（中国）	椀	7-7	Q-s5	Pit1	底部片	-	4.7	-	内：青磁釉 外：削出高台、畳付は露胎	密	良	オリーブ灰	加工円盤に転用
203	256-3	陶器（常滑）	甕	7-5	O-v13	Pit3	胴部小片	-	-	-	内：オサエ、ナデ 外：ナデ、押印文	粗	良	オリーブ灰	
204	260-1	陶器（常滑）	壺	7-5	O-v13	Pit3	口縁部 1/12	18.6	-	-	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	密	良	灰白	
205	246-1	土師器	羽釜形鍋	7-5	O-v13	Pit3	口縁～胴部 1/12	35.6	-	-	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	密	-	にぶい橙	
206	23-3	灰釉陶器	椀	3-2	B-g13	SE5008	底部 6/12	-	7.4	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白	
207	23-4	灰釉陶器	椀	3-2	B-g13	SE5008 上層	底部 5/12	-	7.1	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白	
208	26-4	灰釉陶器	椀	3-2	B-g11	SE5008	底部 12/12	-	6.6	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	良	明青灰	
209	23-5	灰釉陶器	椀	3-2	B-g13	SE5008	底部 5/12	-	7.5	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白	
210	24-4	土師器	小皿	3-2	B-g11	SE5008	8/12	9.5	-	1.5	内：ナデ、ヨコナデ 外：オサエ、ヨコナデ	やや粗	-	にぶい橙	
211	24-6	土師質土器	台付皿	3-2	B-g13	SE5008 上層	4/12	11.3	3.9	2.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	-	橙	
212	24-1	土師質土器	椀	3-2	B-g13	SE5008 上層	台部 10/12	-	7.2	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	-	灰白	
213	23-7	土師質土器	椀	3-2	B-g13	SE5008	底部 10/12	-	7.5	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	-	にぶい黄橙	
214	23-6	土師質土器	椀	3-2	B-g13	SE5008 上層	底部 4/12	-	6.6	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	-	灰白	
215	21-2	土師器	鍋	3-2	B-g13	SE5008 上層	口縁部 2/12	25.3	-	-	内：ハケ、ヨコナデ 外：オサエ、ヨコナデ	密	-	灰白	
216	21-1	土師器	鍋	3-2	B-g13	SE5008 上層	口縁～胴部 7/12	25.5	-	-	内：板ナデ、ヨコナデ 外：板ナデ、オサエ、ヨコナデ	密	-	灰白	
217	26-2	土師質土器	台付皿	3-2	B-g12	SE5008 井戸枠内	底部 12/12	-	3.2	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	-	浅黄橙	
218	26-1	土師質土器	台付皿	3-2	B-g13	SE5008	底部 12/12	-	4.0	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	-	浅黄橙	
219	25-2	土師質土器	皿	3-2	B-g13	SE5008 上層	5/12	8.8	4.5	1.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	やや密	-	浅黄橙	
220	25-4	土師質土器	皿	3-2	B-g13	SE5008	6/12	8.7	4.6	1.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	-	浅黄橙	
221	25-5	土師質土器	皿	3-2	B-g13	SE5008 上層	4/12	9.0	4.2	2.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	-	にぶい橙	
222	25-3	土師質土器	皿	3-2	B-g13	SE5008 上層	8/12	9.0	4.8	2.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	-	明褐灰	
223	24-3	土師器	小皿	3-2	B-g12	SE5008 井戸枠内	11/12	9.5	-	1.7	内：ナデ、ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや粗	-	にぶい黄橙	
224	21-4	土師器	小皿	3-2	B-g13	SE5008 井戸枠内	12/12	8.9	-	1.8	内：ナデ、ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	密	-	にぶい黄橙	
225	24-2	土師器	小皿	3-2	B-g13	SE5008 曲物内	5/12	8.5	-	-	内：ナデ、ヨコナデ 外：オサエ、ナデ、ヨコナデ	密	-	浅黄橙	
226	25-1	土師質土器	椀	3-2	B-g12	SE5008 井戸枠内	底部 12/12	-	6.7	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	-	灰白	
227	23-2	灰釉陶器	椀	3-2	B-g13	SE5008 井戸枠内	底部 9/12	-	7.9	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白	
228	22-1	山茶碗（渥美）	椀	3-2		SE5008 井戸枠内	8/12	16.8	7.8	5.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕、	密	良	灰白	内面煤付着
229	26-3	山茶碗（尾張）	椀	3-2	B-g12	SE5008 井戸枠内	4/12	15.5	8.0	4.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	良	明紫灰	
230	21-3	山茶碗（尾張）	椀	3-2	B-g13	SE5008 井戸枠内	7/12	16.3	6.8	5.2	内：ロクロナデ、重焼痕 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白	
232	22-2	山茶碗（尾張）	椀	3-2	B-g12	SK5008 井戸枠外	底部 10/12	-	7.6	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
233	23-1	山茶碗	椀	3-2	B-g13	SE5008 曲物外	4/12	16.7	8.7	4.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	明紫灰	
234	22-4	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-g13	SE5008 曲物外	5/12	16.2	7.6	5.7	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	輪花
235	22-3	陶器（渥美）	鉢	3-2	B-g12	SK5008 井戸枠外	底部 2/12	-	13.7	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ、糸切り痕	密	良	灰白	
236	46-1	土師器	皿	1-1	I-u13	SE5018	1/12	16.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	内面に刻書
237	45-7	土師質土器	椀	1-1	I-u13	SE5018 曲物内	底部 9/12	-	6.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	黄灰	
238	45-5	土師器	甕	1-1	I-u13	SE5018	口縁部 8/12	14.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
239	45-8	灰釉陶器	椀	1-1	I-u13	SE5018	底部 3/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
240	52-2	山茶碗（渥美）	椀	1-1	I-u13	SE5018	10/12	16.7	7.1	5.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
241	59-3	土師器	小皿	2-1	D-y17	SE5037 曲物内	2/12	7.6	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	
242	59-4	土師器	杯	2-1	D-y17	SE5037	2/12	12.2	-	2.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
243	59-5	土師質土器	皿	2-1	D-y17	SE5037	8/12	10.1	4.8	1.7	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	にぶい褐	
244	57-1	土師質土器	椀	2-1	D-y17	SE5037 曲物内	完形	15.7	6.8	5.1	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰白	
245	59-6	土師器	甕	2-1	D-y17	SE5037	口縁部 3/12	14.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
246	59-8	灰釉陶器	椀	2-1	D-y17	SE5037 上層	底部 6/12	-	6.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
247	267-1	灰釉陶器	椀	2-1		SE5037 曲物内	底部 7/12	-	7.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	内面に墨痕（転用硯）
248	59-7	灰釉陶器	椀	2-1	D-y17	SE5037	底部 6/12	-	8.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
249	59-9	灰釉陶器	椀	2-1	D-y17	SE5037 上層	底部 4/12	-	8.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
250	43-3	土師器	小皿	3-2	B-b11	SE5015	5/12	9.0	-	1.6	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
251	44-2	土師器	小皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	4/12	7.3	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
252	43-7	土師器	小皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	7/12	7.9	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
253	43-8	土師器	小皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	4/12	8.1	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
254	44-1	土師器	小皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	4/12	9.4	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
255	31-5	土師器	小皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	9/12	9.0	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
256	35-3	土師器	小皿	3-2	B-b11	SE5015	完形	8.4	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
257	43-4	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	11/12	15.0	-	3.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
258	43-9	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	4/12	14.2	-	3.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
259	29-1	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	完形	14.2	-	3.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
260	43-5	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	12/12	14.6	-	3.2	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
261	31-3	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	12/12	15.4	-	2.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
262	43-6	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	2/12	15.5	-	3.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
263	44-3	土師質土器	皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	3/12	9.0	5.2	1.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰白	
264	38-2	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015	口縁～胴部 2/12	23.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
265	37-1	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 上層	口縁～胴部 2/12	21.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
266	38-1	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015	口縁～胴部 4/12	21.3	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
267	28-1	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015	口縁～胴部 9/12	20.8	-	-	内：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
268	16- 1	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015	口縁～胴部 12/12	22.8	-	-	内：ｹｽﾞﾘ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
269	38-3	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 上層	口縁～胴部 3/12	25.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
270	41-2	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 上層	口縁～胴部 4/12	22.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
271	41-1	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 上層	口縁～胴部 2/12	22.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
272	37-2	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 上層	口縁～胴部 2/12	21.9	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
273	39-2	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 上層	口縁～胴部 3/12	23.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
274	39-1	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015	口縁～胴部 3/12	23.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
275	36-4	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015	2/12	16.6	6.9	5.7	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
276	36-5	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	5/12	16.5	7.4	5.4	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	輪花
277	42-4	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	5/12	15.1	7.0	4.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	輪花
278	42-3	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	11/12	15.5	6.4	4.1	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉ﾂｹｶﾞｹ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	輪花
279	43-2	山茶碗（尾張）	椀	3-2	B-b11	SE5015	3/12	16.2	9.2	4.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
280	36-3	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	3/12	15.3	8.0	5.7	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	輪花
281	35-5	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015	7/12	15.8	7.1	5.4	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	輪花
282	32-3	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	ほぼ完形	16.2	7.1	6.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉ﾂｹｶﾞｹ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや粗	良	灰白	輪花 内面煤付着
283	42-5	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	7/12	15.2	6.5	5.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
284	42-6	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	底部 12/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
285	36-1	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	3/12	17.8	7.5	6.4	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	にぶい黄橙	
286	27-1	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	完形	16.1	7.9	5.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	輪花
287	27-2	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	完形	16.5	7.6	5.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉ﾂｹｶﾞｹ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	輪花
288	31-4	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	5/12	16.0	8.0	5.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	輪花
289	36-6	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	底部 9/12	-	7.9	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
290	35-6	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	底部 12/12	-	8.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
291	42-7	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	底部 12/12	-	7.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
292	36-2	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 上層	底部 12/12	7.8	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰黄	
293	35-4	山茶碗（渥美）	皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	8/12	8.6	4.0	2.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	にぶい黄橙	
294	44-4	山茶碗（尾張）	皿	3-2	B-b11	SE5015 上層	7/12	8.4	4.2	2.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
295	27-4	山茶碗（尾張）	皿	3-2	B-b11	SE5015	完形	8.6	4.6	2.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
296	44-5	陶器（渥美）	甕	3-2	B-b11	SE5015 上層	口縁部 2/12	38.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
297	33-4	土師器	小皿	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	6/12	8.1	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
298	27-5	土師器	小皿	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	6/12	8.9	-	1.6	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	
299	33-3	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	3/12	13.7	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
300	41-4	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	4/12	15.9	-	3.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
301	35-2	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	口縁部 1/12	15.8	-	2.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
302	34-1	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	8/12	15.2	-	3.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
303	31-1	土師質土器	皿	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	10/12	15.0	6.5	4.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	粗	-	灰白	
304	41-3	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	口縁～肩部 4/12	20.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
305	33-1	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	口縁～胴部 8/12	19.9	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
306	40-2	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	口縁～胴部 3/12	20.8	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
307	35-1	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	口縁～肩部 3/12	21.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
308	40-1	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	口縁～胴部 4/12	19.6	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰褐	
309	40-3	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	口縁～胴部 3/12	22.0	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
310	42-1	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	11/12	15.8	6.8	6.4	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	輪花
311	29-5	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	6/12	15.9	7.3	5.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	輪花
312	30-2	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	ほぼ完形	15.8	6.8	6.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	輪花
313	34-3	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	7/12	16.9	7.6	5.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕、灰釉ﾌｹｶﾞｹ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	輪花
314	32-1	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	7/12	15.9	7.2	5.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉ﾌｹｶﾞｹ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	黄灰	輪花
315	34-2	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	11/12	15.6	6.5	5.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	口縁片口状
316	42-2	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	10/12	15.4	7.3	5.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉ﾌｹｶﾞｹ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	輪花
317	30-1	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	11/12	16.3	6.7	6.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉ﾌｹｶﾞｹ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	輪花
318	32-2	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	9/12	15.6	7.4	6.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	粗	良	灰白	輪花
319	34-4	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	8/12	16.9	6.1	6.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	輪花
320	27-3	山茶碗（尾張）	皿	3-2	B-b11	SE5015	口 12/12 底部 12/12	8.0	4.1	2.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
321	33-2	陶器	瓶	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	底部 6/12	-	10.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	褐灰	
322	43-1	白磁（中国）	椀	3-2	B-b11	SE5015 南側一括	底部 12/12	-	5.3	-	内：施釉 外：施釉、削出高台	密	良	灰白	
323	29-3	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 井戸枠内	2/12	16.3	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
324	29-2	土師器	皿	3-2	B-b11	SE5015 井戸枠内	5/12	15.6	-	3.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
325	29-4	土師器	鍋	3-2	B-b11	SE5015 曲物内	口縁～肩部 2/12	21.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
326	30-3	陶器（渥美）	甕	3-2	B-b11	SE5015 4 層	口縁部 2/12	36.5	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
327	53-5	土師器	杯	1-2	I-t11	SE5026 上層	3/12	13.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
328	52-5	土師器	杯	1-2	I-t11	SE5026 堀形	2/12	14.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
329	54-4	土師器	杯	1-2	I-t11	SE5026 上層	3/12	12.8	-	2.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
330	54-6	土師器	杯	1-2	I-t11	SE5026 上層	2/12	14.0	-	3.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
331	54-7	土師器	杯	1-2	I-t11	SE5026 上層	1/12	14.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
332	53-2	土師器	杯	1-2	I-t11	SE5026 3 層	1/12	13.2	-	2.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
333	54-5	土師器	杯	1-2	I-t11	SE5026 上層	2/12	12.5	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
334	53-7	土師器	杯	1-2	I-t11	SE5026 上層	4/12	23.1	-	3.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	明赤褐	内面に刻書
335	55-2	土師器	杯	1-2	I-t11	SE5026 上層	2/12	16.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ、暗文 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ	密	-	橙	
336	55-1	土師器	椀	1-2	I-t11	SE5026 上層	2/12	19.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ、暗文 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ	密	-	にぶい橙	
337	55-4	土師器	杯	1-2	I-t11	SE5026 上層	2/12	20.2	-	3.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ、暗文 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
338	52-4	土師器	杯	1-2	I-t11	SE5026 堀形	2/12	21.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ、暗文 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ	密	-	橙	
339	55-3	土師器	皿	1-2	I-t11	SE5026 上層	1/12	16.0	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
340	54-3	土師器	皿	1-2	I-t11	SE5026 上層	1/12	17.6	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
341	54-2	土師器	皿	1-2	I-t11	SE5026 上層	1/12	17.8	-	2.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
342	53-1	土師器	皿	1-2	I-t11	SE5026 堀形	1/12	19.2	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ	密	-	橙	
343	56-1	土師器	甕	1-2	I-t11	SE5026 最下層	5/12	16.4	-	15.6	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
344	53-6	土師器	甕	1-2	I-t11	SE5026 上層	口縁部 1/12	19.3	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	
345	53-3	土師器	甕	1-2	I-t11	SE5026 3 層	口縁部 1/12	22.8	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
346	53-4	土師器	甕	1-2	I-t11	SE5026 井戸枠内	口縁部 1/12	24.8	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
347	54-1	土師器	甕	1-2	I-t11	SE5026 上層	口縁部 2/12	27.2	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
348	55-5	土製品	土錘	1-2	I-t11	SE5026 上層	完形	長 4.4	径 1.9		ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	12.0g
349	73-4	土師器	小皿	1-3	I-xy9	SE5067 2 層	2/12	7.9	-	1.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
350	73-3	土師器	小皿	1-3	I-xy9	SE5067 上層	1/12	9.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
351	72-5	土師器	小皿	1-3	I-xy9	SE5067 上層	2/12	10.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
352	71-2	土師器	小皿	1-3	I-xy9	SE5067 2 層	4/12	10.0	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
353	74-2	土師質土器	台付皿	1-3	I-xy9	SE5067 2 層	3/12	9.0	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
354	74-1	土師器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 2 層	底部 9/12	-	8.3	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
355	75-7	土師器	杯	1-3	I-xy9	SE5067	1/12	16.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
356	75-6	土師器	杯	1-3	I-xy9	SE5067	口縁部 2/12	17.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
357	74-3	土師器	杯	1-3	I-xy9	SE5067 2 層	4/12	15.5	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
358	73-6	土師器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 2 層	2/12	12.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
359	72-6	土師器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 上層	1.5/12	13.9	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ	密	-	橙	
360	72-4	土師器	皿	1-3	I-xy9	SE5067 上層	1/12	15.2	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
361	75-5	土師器	甕	1-3	I-xy9	SE5067	口縁～肩部 1/12	17.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい黄橙	
362	71-3	土師器	甕	1-3	I-xy9	SE5067 上層	口縁～肩部 2/12	21.2	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	淡黄	
363	70-1	土師器	甕	1-3	I-xy9	SE5067 1 層	口縁部小片	-	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
364	73-7	黒色土器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 上層	1/12	15.8	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	内黒
365	73-5	黒色土器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 2 層	2/12	14.0	-	-	内：磨耗のため不明 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
366	72-7	黒色土器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 上層	底部 4/12	-	7.0	-	内：ﾐｶﾞｷ 外：ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	内黒
367	73-8	灰釉陶器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 2 層	底部 2/12	-	6.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
368	73-2	灰釉陶器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 上層	底部 2/12	-	8.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
369	72-8	灰釉陶器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 上層	底部 2/12	-	8.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
370	71-1	灰釉陶器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 2 層	底部 3/12	-	8.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
371	69-4	山茶碗（渥美）	椀	1-3	I-xy9	SE5067 1 層	底部 12/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	黄灰	
372	69-5	山茶碗（渥美）	椀	1-3	I-xy9	SE5067 1 層	底部 12/12	-	5.7	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
373	69-2	山茶碗（尾張）	椀	1-3	I-xy9	SE5067 1 層	8/12	16.8	7.4	5.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
374	69-1	山茶碗（尾張）	椀	1-3	I-xy9	SE5067 1 層	11/12	16.7	6.4	5.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	輪花
375	73-1	灰釉陶器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 上層	底部 5/12	-	7.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
376	69-3	山茶碗（尾張）	椀	1-3	I-xy9	SE5067 1 層	底部 9/12	-	7.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
377	72-3	陶器	鉢	1-3	I-xy9	SE5067 2 層	1/12	23.6	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	灰	
378	74-4	須恵器	甕	1-3	I-xy9	SE5067 2 層	口縁部 2/12	22.2	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	黄灰	
379	100-8	土師器	小皿	1-3	I-xy9	SE5067 4 ～ 5 層	3/12	7.7	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄	
380	100-9	土師器	小皿	1-3	I-xy9	SE5067 4 ～ 5 層	2/12	10.7	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
381	100-5	土師器	小皿	1-3	I-xy9	SE5067 4 ～ 5 層	3/12	9.1	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
382	100-7	土師器	小皿	1-3	I-xy9	SE5067 4 ～ 5 層	3/12	9.8	-	1.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
383	100-4	土師器	小皿	1-3	I-xy9	SE5067 4 ～ 5 層	完形	9.4	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	て字状口縁
384	99-3	土師器	小皿	1-3	I-X9	SE5067 曲物内	1/12	9.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	て字状口縁
385	100-6	土師質土器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 4 ～ 5 層	底部 11/12	-	7.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	にぶい橙	
386	99-4	土師質土器	椀	1-3	I-x9	SE5067 曲物内	底部 6/12	-	7.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
387	100-1	土師器	甕	1-3	I-xy9	SE5067 井戸枠内	口縁～頸部 3/12	22.2	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
388	100-10	灰釉陶器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 4 ～ 5 層	底部 12/12	-	6.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰黄褐	
389	100-3	山茶碗（渥美）	椀	1-3	I-xy9	SE5067 4 ～ 5 層	底部 12/12	-	7.9	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
390	100-2	山茶碗（渥美）	椀	1-3	I-xy9	SE5067 4 ～ 5 層	底部 4/12	-	7.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰	
391	99-1	灰釉陶器	椀	1-3	I-x9	SE5067 曲物内	底部 8/12	-	7.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
392	76-6	緑釉陶器（近江）	椀	1-3	I-x9	SE5067 井戸枠内	底部 1/12	-	5.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	緑	
393	99-2	黒色土器	椀	1-3	I-x9	SE5067 曲物内	口 1/12	15.0	-	-	内：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	暗灰	両黒
394	99-5	黒色土器	皿	1-3	I-x9	SE5067 曲物内	11/12	10.4	-	2.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	暗灰	両黒
395	99-7	土製品	土錘	1-3	I-x9	SE5067 曲物内	完形	長 5.3	径 1.8	-	端部は刀子で切断 陶製	密	-	にぶい赤褐	16.47g
396	99-9	土製品	土錘	1-3	I-x9	SE5067 井戸枠外	完形	長 5.3	径 1.7	-	端部は刀子で切断 陶製	密	-	にぶい赤褐	15.42g
397	99-8	土製品	土錘	1-3	I-x9	SE5067 井戸枠外	完形	長 5.4	径 1.5	-	ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	12.07g
398	99-6	土製品	土錘	1-3	I-x9	SE5067 曲物内	完形	長 3.9	径 1.1	-	ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	3.88g
399	76-8	土師器	小皿	1-3	I-xy9	SE5067	3/12	9.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい黄橙	
400	70-4	土師器	皿	1-3	I-xy9	SE5067 2 ～ 3 層	1/12	10.8	2.0	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
401	70-6	土師器	杯	1-3	I-xy9	SE5067 2 ～ 3 層	1/12	11.8	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
402	70-5	土師器	杯	1-3	I-xy9	SE5067 2 ～ 3 層	2/12	12.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
403	76-4	土師器	杯	1-3	I-xy9	SE5067	2/12	14.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
404	70-7	土師器	杯	1-3	I-xy9	SE5067 2～3層	1/12	12.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
405	76-3	土師器	杯	1-3	I-xy9	SE5067	2/12	14.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
406	76-7	土師器	杯	1-3	I-xy9	SE5067	1/12	14.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
407	70-2	灰釉陶器	椀	1-3	I-xy9	SE5067 2～3層	底部 12/12	-	5.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
408	70-3	山茶碗（渥美）	椀	1-3	I-xy9	SE5067 2～3層	底部 8/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	黄灰	
409	76-2	灰釉陶器	椀	1-3	I-xy9	SE5067	底部 1/12	-	9.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
410	76-1	土師質土器	皿	1-3	I-xy9	SE5067	底部 7/12	-	5.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	にぶい橙	
411	77-5	土師器	杯	1-3	I-w9	SE5065	口縁部 1/12	16.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
412	72-1	土師器	杯	1-3	I-w9	SE5065	4/12	12.4	-	2.9	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
413	77-6	土師器	杯	1-3	I-w9	SE5065	口縁部 2/12	11.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
414	77-4	土師器	甕	1-3	I-w9	SE5065	口縁部 1/12	14.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
415	72-2	灰釉陶器	瓶	1-3	I-w9	SE5065	1/12	15.8	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
416	77-2	志摩式製塩土器		1-3	I-w9	SE5065	小片	-	-	-	ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	粗	-	にぶい橙	
417	77-3	志摩式製塩土器		1-3	I-w9	SE5065	小片	-	-	-	ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	粗	-	にぶい橙	
418	76-5	志摩式製塩土器		1-3	I-w9	SE5065	小片	-	-	-	ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	粗	-	にぶい橙	
419	77-1	志摩式製塩土器		1-3	I-w9	SE5065	小片	-	-	-	ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	粗	-	にぶい橙	
420	68-5	山茶碗（渥美）	椀	1-3	I-w9	SE5065 4層	底部 4/12	-	7.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	明紫灰	
421	76-9	山茶碗（渥美）	椀	1-3	I-w9	SE5065	底部 6/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
422	112-4	土師質土器	皿	5-2	G-g11	SE5135	10/12	8.8	4.9	1.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	浅黄橙	
424	121-4	山茶碗（渥美）	椀	5-2	G-f12	SE5142	底部 3/12	-	6.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
425	121-5	土師器	鍋	5-2	G-f12	SE5142	口縁部 1/12	24.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
426	116-2	土師器	杯	5-2	G-g12	SE5136	2/12	11.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄	
427	113-1	山茶碗（渥美）	椀	5-2	G-g12	SE5136	完形	14.7	4.7	6.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
428	113-2	山茶碗（渥美）	椀	5-2	G-g12	SE5136	11/12	15.0	5.3	7.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
429	114-2	土師器	鍋	5-2	G-g12	SE5136	口縁部 4/12	25.0	-	-	内：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
430	115-2	土師器	鍋	5-2	G-f11, 12	SE5136 上層	口縁部 2/12	29.6	-	-	内：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
431	116-3	土師器	皿	5-2	G-f11, 12	SE5136 下層	3/12	14.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
432	113-3	山茶碗（渥美）	椀	5-2	G-f11, 12	SE5136 下層	完形	15.6	6.1	6.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	内面煤付着
433	113-5	山茶碗（渥美）	椀	5-2	G-f11, 12	SE5136 下層	9/12	15.1	5.6	6.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
434	113-4	山茶碗（渥美）	椀	5-2	G-f11, 12	SE5136 下層	9/12	15.7	5.4	6.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	内面煤付着
435	113-6	山茶碗（渥美）	椀	5-2	G-f11, 12	SE5136 下層	8/12	15.4	5.7	6.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	内面煤付着
436	263-1	山茶碗（渥美）	椀	5-2		SE5136 曲物内	8/12	15.4	6.1	5.7	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰黄	底部外面に墨書 内面煤付着
437	116-1	土師器	鍋	5-2	G-f11, 12	SE5136 下層	口縁～胴部 1/12	23.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄	
438	114-3	土師器	鍋	5-2	G-f11, 12	SE5136 下層	口縁部 1/12	26.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
439	115-1	土師器	鍋	5-2	G-f11, 12	SE5136 下層	口縁～胴部 1/12	27.6	-	-	内：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
440	137-6	土師器	小皿	8-1	L-d17	SE5187	4/12	6.9	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ	密	-	橙	
441	137-5	土師器	小皿	8-1	L-d17	SE5187	完形	7.5	-	0.7	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ	密	-	橙	
442	137-2	土師器	小皿	8-1	L-d17	SE5187	3/12	10.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄	
443	137-4	土師器	皿	8-1	L-d17	SE5187	3/12	14.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
444	136-3	山茶碗（尾張）	椀	8-1	L-d17	SE5187 上層	2/12	15.8	8.2	5.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
445	139-3	山茶碗（尾張）	椀	8-1	L-d17	SE5187 上層	6/12	14.1	5.7	5.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや粗	良	灰白	
446	137-3	山茶碗（尾張）	椀	8-1	L-d17	SE5187	口縁部 3/12	17.2	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
447	136-4	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d17	SE5187 上層	底部 4/12	-	7.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
448	136-5	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d17	SE5187 上層	底部 4/12	-	6.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
449	136-6	山茶碗（尾張）	椀	8-1	L-d17	SE5187 上層	底部 5/12	-	5.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
450	136-2	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d17	SE5187 井戸枠内	底部 3/12	-	7.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
451	137-1	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d17	SE5187 上層	底部 11/12	-	6.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
452	138-1	土師器	鍋	8-1	L-d17	SE5187 上層	口縁部 2/12	26.0	-	-	内：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	黒褐	
453	136-1	土師器	鍋	8-1	L-d17	SE5187 井戸枠内	口縁～肩部 2/12	26.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
454	137-7	白磁（中国）	水注	8-1	L-d17	SE5187 上層	注口片	-	-	-	施釉	密	良	灰白	
455	140-6	土師器	皿	8-1	L-d7	SE5194 上層	1/12	12.8	-	2.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
456	140-8	須恵器	杯	8-1	L-d7	SE5194 下層	2/12	9.3	-	3.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ヘラ切り痕	密	良	灰	
457	140-7	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d7	SE5194 上層	2/12	14.5	6.4	4.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	内面煤付着
458	138-5	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d7	SE5194 上層	底部 2/12	-	6.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
459	139-2	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d7	SE5194 上層	7/12	16.0	6.2	5.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
460	141-2	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-e7	SE5195 上層	6/12	16.4	6.9	5.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
461	141-1	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-e7	SE5195 上層	6/12	15.9	7.4	4.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
462	138-2	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-e7	SE5195	8/12	17.0	6.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
463	142-2	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-e7	SE5195 上層	底部 12/12	-	6.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
464	138-3	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d7	SE5195	底部 12/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
465	138-6	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-e7	SE5195	底部 6/12	-	6.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	内面煤付着
466	142-3	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-e7	SE5195 上層	底部 12/12	-	6.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	明紫灰	内面煤付着
467	141-3	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-e7	SE5195 上層	底部 12/12	-	6.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
468	139-1	土師器	鍋	8-1	L-d7	SE5195	2/12	29.0	-	-	内：ｹｽﾞﾘ、ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	粗	-	にぶい黄橙	
469	263-2	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d7	SE5195 曲物内	底部 12/12	-	6.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
470	141-4	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d7	SE5195 曲物内	底部 9/12	-	7.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
471	141-5	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d7	SE5195 曲物内	底部 12/12	-	6.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
472	141-6	土師器	鍋	8-1	L-d7	SE5195 曲物内	口縁部 2/12	26.8	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	暗灰黄	
473	261-1	山茶碗（渥美）	椀	7-5	O-u8	SE5219 下層	底部 12/12	-	7.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	体・底部外面に墨書
474	155-4	山茶碗（尾張）	椀	7-5		SE5219 上層	底部 4/12	-	5.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
475	155-5	山茶碗（渥美）	椀	7-5		SE5219 下層	底部 3/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
476	161-5	山茶碗（渥美）	椀	7-5	O-u8	SE5219 下層	底部 11/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	内面煤付着
477	145-8	土師器	小皿	8-1	G-d25	SE5201 黒褐土	3/12	10.6	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
478	146-6	黒色土器	椀	8-1	G-d25	SE5201 黒褐土	底部 2/12	-	7.2	-	内：ﾐｶﾞｷ 外：ﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	-	ｵﾘｰﾌﾞ黒	内黒
479	145-4	青磁（中国）	杯	8-1	G-e25	SE5201 褐灰色土	底部 3/12	-	6.6	-	内：施釉 外：施釉	密	良	灰	
480	146-4	灰釉陶器	椀	8-1	G-e25	SE5201	底部 4/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰黄	
481	150-3	土師質土器	椀	8-1	G-e25	SE5201 1層	完形	16.0	7.1	6.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや粗	-	灰白	
482	150-4	土師質土器	椀	8-1	G-d25	SE5201 黒褐土	底部 12/12	-	6.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	粗	-	浅黄橙	
483	146-2	土師質土器	椀	8-1	G-e25	SE5201 褐灰色土	底部 12/12	-	6.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰白	
484	145-5	土師器	甕	8-1	G-d25	SE5201 黒褐土	口縁部 2/12	15.8	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
485	145-9	土師器	小皿	8-1		SE5201 曲物内	3/12	9.8	-	2.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
486	145-6	土師器	甕	8-1		SE5201 井戸枠内	口縁部 2/12	16.8	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
487	145-7	土師器	杯	8-1		SE5201 掘方	2/12	14.3	-	3.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
488	146-1	土師質土器	椀	8-1		SE5201 掘方	底部 12/12	-	7.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰白	
489	146-5	土師質土器	椀	8-1		SE5201 井戸枠外	底部 8/12	-	7.0	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
490	146-3	灰釉陶器	椀	8-1		SE5201 掘方	底部 8/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
491	154-5	土師器	小皿	7-4		SE5218 曲物内	2/12	8.8	-	1.6	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄	
492	154-6	土師器	小皿	7-4		SE5218 曲物内	9/12	7.2	-	0.9	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄	
493	157-3	土師器	皿	7-4	O-v7	SE5218	12/12	10.3	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
494	154-4	土師器	皿	7-4		SE5218 曲物内	2/12	10.0	-	2.2	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
495	155-1	山茶碗（尾張）	椀	7-4	O-vw7	SE5218	底部 4/12	-	6.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
496	155-2	山茶碗（渥美）	椀	7-4	O-v7	SE5218	底部 2/12	-	6.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
497	154-2	山茶碗（渥美）	椀	7-4		SE5218 井戸枠内	底部 3/12	-	7.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
498	267-2	山茶碗（渥美）	椀	7-4	O-v7	SE5218 下層	底部 6/12	-	6.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
499	154-3	青磁	椀	7-4		SE5218 曲物内	口縁部 1/12	15.8	-	-	内：施釉 外：施釉、蓮弁文	密	良	緑	
500	157-1	土師器	鍋	7-4		SE5218 井戸枠内	口縁～胴部 2/12	33.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
501	154-1	陶器	片口鉢	7-4		SE5218 井戸枠内	口縁部 2/12	29.2	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰	
502	155-3	陶器	片口鉢	7-4	O-v7	SE5218 下層	底部 1/12	-	13.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	灰白	
503	154-7	陶器（常滑）	甕	7-4	O-v7	SE5218 下層	口縁部 1/12	32.2	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	灰	
504	216-4	土師器	小皿	7-9-4	T-c25	SE5305 上層	8/12	6.9	-	0.7	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
505	216-3	土師器	小皿	7-9-4	T-c25	SE5305 上層	3/12	9.0	-	0.9	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰黄	
506	216-1	土師器	皿	7-9-4	T-c25	SE5305 曲物内	4/12	11.6	-	2.6	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
508	220-4	土師器	小皿	7-9-4	T-c21	SE5316	完形	7.2	-	0.6	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
509	220-5	山茶碗（渥美）	椀	7-9-4		SE5316 曲物内	底部 4/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
510	267-3	山茶碗（尾張）	椀	7-9-4	T-c21	SE5316	1/12	14.8	6.8	5.1	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	体部外面に墨書（花押）
511	233-4	陶器（常滑）	広口壺	7-9-4	T-c21	SE5316 上層	口縁部 1/12	23.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	黒褐	
512	241-6	土師器	小皿	7-9-4	T-c21	SE5317 上層	10/12	7.0	-	0.8	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
513	241-5	土師器	小皿	7-9-4	T-c21	SE5317 上層	10/12	7.0	-	0.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
514	241-7	土師器	小皿	7-9-4	T-b21	SE5317	完形	7.2	-	0.6	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
515	241-8	土師器	皿	7-9-4	T-b21	SE5317	3/12	10.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
516	241-1	土師器	皿	7-9-4	T-c21	SE5317	11/12	11.3	-	2.4	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	淡黄	
517	241-3	土師器	皿	7-9-4	T-c21	SE5317 上層	完形	10.6	-	2.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
518	220-3	土師器	皿	7-9-4	T-b21	SE5317	9/12	10.9	-	2.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	淡黄	
519	220-2	土師器	皿	7-9-4	T-b21	SE5317	9/12	10.6	-	2.7	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
520	241-4	土師器	皿	7-9-4	T-c21	SE5317 上層	2/12	10.3	-	2.4	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
521	241-2	土師器	皿	7-9-4	T-b21	SE5317	11/12	11.2	-	2.7	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
522	225-5	土師器	皿	7-9-4	V-c3	SE5319	3/12	9.2	-	2.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
523	225-3	土師器	皿	7-9-4	V-c3	SE5319 曲物内	2/12	10.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰黄	
524	225-4	土師器	皿	7-9-4	V-c3	SE5319 曲物内	2/12	11.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰黄	
525	225-2	土師器	皿	7-9-4	V-c3	SE5319 曲物内	2/12	10.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
526	225-6	土師器	皿	7-9-4	V-c3	SE5319 井戸枠内	2/12	10.6	-	2.4	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
527	221-5	土師器	小皿	7-9-4	V-c3	SE5319 曲物内	5/12	7.1	-	0.9	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰黄	
528	225-1	陶器	小皿	7-9-4	V-b3	SE5319	底部 5/12	-	5.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰黄褐	
529	221-4	陶器（古瀬戸）	小壺	7-9-4	V-c3	SE5319	完形	3.3	3.0	3.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕、灰釉	密	良	ｵﾘｰﾌﾞ灰	
530	221-3	陶器（古瀬戸）	折縁鉢	7-9-4	V-b3	SE5319 曲物内	3/12	17.4	9.0	5.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾄﾁﾝ痕、灰釉 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉、糸切り痕	密	良	灰 ｵﾘｰﾌﾞ	
531	221-2	陶器（常滑）	片口鉢	7-9-4	V-c3	SE5319 井戸枠内	底部 3/12	-	10.8	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	良	褐灰	使用により磨耗
532	221-1	青磁（中国）	椀	7-9-4	V-b3	SE5319 井戸枠内	底部 3/12	-	5.7	-	内：施釉、陰刻花文 外：施釉、削出高台（畳付は露胎）	密	良	にぶい黄	
533	228-2	土師器	小皿	7-9-4		SE5323 曲物内	3/12	6.4	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
534	241-9	土師器	小皿	7-9-4	T-c21	SE5323 上層	3/12	7.2	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
535	228-1	土師器	皿	7-9-4		SE5323 井戸枠内	2/12	10.2	-	2.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰黄	
536	246-4	土師器	皿	7-9-4	T-c21	SE5323 上層	2/12	11.2	-	2.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
537	242-1	土師器	鍋	7-9-4	T-c21	SE5323 上層	口 1/12 頸 1/12 体 1/12	22.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
538	228-3	土師器	小皿	7-9-4	V-c8	SE5326 上層	7/12	6.9	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
539	266-5	山茶碗（尾張）	椀	7-6	O-u15	SE5230	体部小片	-	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	体部外面に墨書
540	164-2	山茶碗（渥美）	椀	7-6	O-u15	SE5230	底部 5/12	-	6.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
541	164-1	山茶碗（渥美）	椀	7-6	O-u15	SE5230	底部 6/12	-	6.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
542	266-6	山茶碗（渥美）	皿	7-6	O-u15	SE5230	4/12	8.3	4.6	1.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
543	246-5	瓦質土器	火鉢	7-9-4	V-c6	SE5328 井戸枠内	口縁部小片	-	-	-	磨耗のため調整不明	密	-	灰	
544	240-2	陶器（常滑）	片口鉢	7-9-4	V-c6	SE5328 井戸枠内	4/12	32.0	14.0	11.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、板ﾅﾃﾞ	密	良	にぶい橙	使用により磨耗
545	13-5	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-f12	SK5002 2層	底部 4/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
546	13-3	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-f12	SK5002 上層	底部 4/12	-	8.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
547	13-2	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-f12	SK5002	底部 8/12	-	7.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
548	13-6	山茶碗（尾張）	椀	3-2	B-f12	SK5002 上層	底部 3/12	-	9.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
549	13-7	山茶碗（尾張）	椀	3-2	B-ef12	SK5002	底部 12/12	-	7.9	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
550	246-6	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-f12	SK5002	底部 5/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
551	13-4	山茶碗（尾張）	椀	3-2	B-f12	SK5002 2層	3/12	15.8	9.0	4.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰	
552	17-5	土師器	小皿	3-2	B-h13	SK5007	3/12	9.8		1.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
553	17-4	土師質土器	皿	3-2	B-h13	SK5007	6/12	10.3	4.1	2.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	-	にぶい黄橙	
554	17-2	土師質土器	皿	3-2	B-h13	SK5007	5/12	9.7	4.1	2.1	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	-	灰白	
555	17-3	土師質土器	皿	3-2	B-h13	SK5007	6/12	14.2	5.0	3.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	-	浅黄橙	
556	17-1	灰釉陶器	椀	3-2	B-h13	SK5007	6/12	16.2	7.8	5.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉ﾌｶｶﾞｹ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
557	58-5	土師器	小皿	2-1	E-lm17	SK5030	2/12	11.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
558	58-6	土師器	小皿	2-1	E-k17	SK5031	2/12	9.2	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	口縁部に油煙付着
559	60-2	土師器	甕	2-1	D-wx17	SK5038	口縁部 1/12	15.8	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
560	60-1	土師器	甕	2-1	D-wx17	SK5038	口縁部 2/12	15.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
561	92-7	陶器（瀬戸美濃）	天目茶椀	6-1	K-d11	SK5085	底部 11/12	-	3.6	-	内：鉄釉 外：削出高台、錆釉	密	良	にぶい赤褐	
562	60-3	須恵器	壺	2-1	D-v17	SD5039	口縁部 1/12	15.6	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰	
563	57-4	灰釉陶器	瓶	2-1	D-v17	SD5039	肩～底部 8/12	14.4	9.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	灰白	
564	108-8	土師質土器	椀？	8-2	G-e9	SK5131	台部 12/12	-	5.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
565	109-7	灰釉陶器	椀	8-2	G-e9	SK5131	底部 4/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
566	109-8	灰釉陶器	椀	8-2	G-e9	SK5131	底部 2/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
567	108-1	土師器	甕	8-2	G-e9	SK5131	口縁～胴部 1/12	28.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
568	68-1	山茶碗	皿	2-3	D-q17	SK5045	3/12	12.6	7.3	2.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	黄灰	
569	67-5	土師器	皿	2-1	D-j17	SK5058	6/12	11.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
570	68-3	山茶碗（渥美）	椀	2-3	D-q15	SK5052	底部 3/12	-	7.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
571	68-4	山茶碗（渥美）	椀	2-3	D-q15	SD5043	底部 3/12	-	8.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	明赤灰	
572	86-3	山茶碗（尾張）	椀	5-4	A-q18	SK5078	8/12	16.1	8.0	5.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
573	101-3	山茶碗（渥美）	椀	6-2	K-f12	SK5103	底部 12/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
574	109-9	山茶碗（渥美）	椀	8-2	G-e8	SK5130	底部 5/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
575	103-9	土師器	小皿	6-2	K-n12	SK5107 下層	2/12	8.0	-	1.25	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
576	103-4	土師器	小皿	6-2	K-n12	SK5107 下層	11/12	8.4	-	1.55	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	粗	-	灰白	
577	103-8	土師器	皿	6-2	K-n12	SK5107	2/12	14.0	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	灰白	
578	103-7	土師器	皿	6-2	K-n12	SK5107 下層	8/12	12.8	-	2.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
579	103-6	土師器	皿	6-2	K-n12	SK5107 下層	10/12	12.6	-	2.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	
580	104-1	土師器	鍋	6-2	K-n12	SK5107 上層	口縁部 2/12	18.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	粗	-	灰黄褐	
581	101-2	土師器	鍋	6-2	K-n12	SK5107 下層	口縁部 1/12	21.5	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	黒	
582	104-2	土師器	鍋	6-2	K-n12	SK5107	口縁部 1/12	24.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
583	101-4	山茶碗（尾張）	椀	6-2	K-n12	SK5107 下層	9/12	19.6	5.2	5.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書 内面煤付着
584	104-3	山茶碗（尾張）	椀	6-2	K-n12	SK5107	口縁部 1/12	13.6	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	やや密	良	灰白	
585	103-5	青磁	椀	6-2	K-n12	SK5107 下層	2/12	-	5.6	-	内：施釉 外：施釉、削出高台（畳付は露胎）	密	良	灰白	
586	102-1	陶器	片口鉢	6-2	K-n12	SK5107 下層	2/12	26.4	12.2	11.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ	密	良	灰白	内面煤付着
587	102-2	陶器	片口鉢	6-2	K-n12	SK5107 下層	7/12	29.9	13.7	10.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ	密	良	灰黄褐	内面煤付着
588	121-2	山茶碗（尾張）	椀	5-2	G-e11	SK5139	底部 6/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
589	121-1	山茶碗（尾張）	椀	5-2	G-e11	SK5139	2/12	15.6	7.0	5.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
590	109-3	土師器	小皿	8-2	G-e3	SK5119	12/12	7.6	-	1.15	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	口縁部に油煙付着
591	109-4	土師器	小皿	8-2	G-e3	SK5119	12/12	7.5	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
592	109-5	土師器	小皿	8-2	G-e3	SK5119 下層	4/12	8.4	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
593	109-6	土師器	小皿	8-2	G-e3	SK5119 下層	3/12	8.0	-	1.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	淡橙	
594	107-3	土師器	皿	8-2	G-e3	SK5119	6/12	12.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
595	107-2	土師器	皿	8-2	G-e3	SK5119	5/12	13.5	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
596	109-1	土師器	皿	8-2	G-e3	SK5119	6/12	14.0	-	2.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
597	107-1	土師器	鍋	8-2	G-e3	SK5119 下層	口縁部 3/12	32.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
598	105-1	土師器	鍋	8-2	G-e3	SK5119	11/12	32.3	-	-	内：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄	
599	106-6	山茶碗（渥美）	椀	8-2	G-e3	SK5119	底 12/12		6.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
600	106-5	山茶碗（渥美）	椀	8-2	G-e3	SK5119	底 12/12		6.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
601	106-4	山茶碗（渥美）	椀	8-2	G-e3	SK5119	3/12	16.0	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
602	109-2	山茶碗（尾張）	椀	8-2	G-e3	SK5119	3/12	15.0	6.2	5.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	内面煤付着
603	106-3	山茶碗（尾張）	椀	8-2	G-e3	SK5119 上層	6/12	15.6	6.7	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
604	106-2	山茶碗（尾張）	椀	8-2	G-e3	SK5119	完形	15.5	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
605	106-1	山茶碗（渥美）	椀	8-2	G-e3	SK5119	完形	15.0	6.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
606	110-2	土師器	皿	5-3	B-c24	SK5133	10/12	13.7	-	2.9	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
607	110-3	土師器	皿	5-3	B-c24	SK5133	5/12	15.8	-	3.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
608	111-3	山茶碗（渥美）	椀	5-3	B-d24	SK5133	底部 6/12	-	7.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
609	110-1	土師器	皿	5-3	B-c24	SK5133	11/12	11.0	-	2.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
610	111-1	土師器	鍋	5-3	B-c24	SK5133	口縁部小片	-	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
611	111-4	陶器（古瀬戸）	花瓶	5-3	B-c24	SK5133	10/12	-	4.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、横線文、灰釉、糸切り痕	密	良	灰白	
612	125-1	土師器	小皿	5-2	G-v11	SK5158	3/12	7.6	-	-	内：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
613	133-6	土師器	小皿	7-1	L-b20	SK5167	完形	7.4	-	0.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
614	133-3	土師器	小皿	7-1	L-b20	SK5167 上層	4/12	7.6	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
615	133-7	土師器	小皿	7-1	L-b20	SK5167	3/12	7.2	-	1.0	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
616	133-4	土師器	小皿	7-1	L-b20	SK5167	3/12	0.9	-	0.9	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
617	133-2	土師器	小皿	7-1	L-b20	SK5167 上層	10/12	7.9	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
618	133-8	土師器	小皿	7-1	L-b20	SK5167	5/12	7.3	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
619	133-5	土師器	小皿	7-1	L-b20	SK5167	完形	7.3	-	0.8	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
620	133-9	土師器	皿	7-1	L-b20	SK5167	10/12	11.5	-	2.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
621	134-2	土師器	皿	7-1	L-b20	SK5167	3/12	11.2	-	2.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
622	134-3	土師器	皿	7-1	L-b20	SK5167	6/12	11.2	-	2.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
623	133-1	土師器	皿	7-1	L-b20	SK5167 上層	4/12	11.2	-	2.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
624	134-1	土師器	鍋	7-1	L-b20	SK5167	口縁部 1/12	26.4	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
625	134-4	山茶碗（尾張）	椀	7-1	L-b20	SK5167	8/12	13.6	5.2	4.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
626	132-5	土師器	小皿	7-1	L-c18	SK5168	2/12	6.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
627	132-4	土師器	小皿	7-1	L-c18	SK5168	3/12	7.2	-	0.9	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
628	132-6	土師器	皿	7-1	L-c18	SK5168	4/12	11.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
629	130-4	土師器	皿	7-1	L-b18	SK5168 上層	6/12	12.0	-	2.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
630	130-1	土師器	鍋	7-1	L-b18	SK5168 上層	口縁部 2/12	22.4	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
631	132-1	土師器	鍋	7-1	L-c18	SK5168 上層	1/12	22.9	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
632	130-2	土師器	鍋	7-1	L-c18	SK5168 上層	口縁部 2/12	29.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
633	131-4	山茶碗（尾張）	椀	7-1	L-c18	SK5168 上層	4/12	14.0	6.0	5.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
634	132-2	山茶碗（尾張）	椀	7-1	L-c18	SK5168	2/12	14.4	5.0	5.1	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	黄灰	
635	131-5	山茶碗（尾張）	椀	7-1	L-b18	SK5168 上層	6/12	14.9	5.7	4.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	内面煤付着
636	131-6	山茶碗（尾張）	椀	7-1	L-c18	SK5168 上層	9/12	15.2	5.8	5.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
637	131-3	山茶碗（渥美）	椀	7-1	L-c18	SK5168 上層	6/12	14.4	6.8	5.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
638	131-1	山茶碗（渥美）	椀	7-1	L-c18	SK5168	5/12	14.1	6.5	5.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	内面煤付着
639	131-2	山茶碗（尾張）	椀	7-1	L-c18	SK5168 上層	6/12	14.2	6.5	5.7	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	内面煤付着
640	132-3	山茶碗（尾張）	椀	7-1	L-c18	SK5168	5/12	14.5	6.2	5.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
641	130-3	陶器	片口鉢	7-1	L-b18	SK5168 上層	8/12	21.1	10.8	9.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ	密	良	灰白	
642	140-1	土師器	皿	8-1	L-d16	SK5189	2/12	10.8	-	2.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
643	140-2	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d16	SK5189	底部 2/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
644	138-4	山茶碗（尾張）	椀	8-1	L-d16	SR5189	底部 1/12	-	6.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	粗	良	灰白	
645	140-5	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d6	SK5193 下層	底部 5/12	-	6.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
646	140-4	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-e6	SK5193 上層	底部 2/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
647	140-3	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-e6	SK5193 上層	底部 3/12	-	6.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰	内面煤付着
648	145-3	山茶碗（尾張）	椀	8-1		SE5198 最下層	底部 1/12	-	7.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
649	145-1	土師器	小皿	8-1	L-d3	SK5197 下層	6/12	8.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
650	145-2	土師器	小皿	8-1		SK5197	完形	8.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
651	144-7	山茶碗（尾張）	椀	8-1	L-e3	SK5197 上層	底部 2/12	-	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
652	144-6	山茶碗（尾張）	椀	8-1	L-e3	SK5197	4/12	17.0	7.8	5.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰黄	内面煤付着
653	144-5	土師器	小皿	8-1	L-e6	SK5196	3/12	8.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
654	144-4	土師器	小皿	8-1	L-e6	SK5196	4/12	9.0	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	淡黄	
655	144-3	土師質土器	皿	8-1	L-e6	SK5196	2/12	9.4	-	2.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	-	浅黄橙	
656	144-2	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-e6	SK5196	底部 8/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
657	144-1	土師器	鍋	8-1	L-e6	SK5196	口縁部 2/12	25.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
658	143-1	土師器	鍋	8-1	L-d6	SK5196	ほぼ完形	22.0	-	-	内：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	底部に焼成後穿孔
659	142-1	土師器	鍋	8-1	L-d6	SK5196 上層	口縁～胴部 3/12	30.0	-	-	内：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	明褐灰	
660	147-1	土師器	杯	8-1	G-e23	SK5202	8/12	14.2	-	2.6	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	口縁部に油煙付着
661	147-2	土師器	杯	8-1	G-e23	SK5202	7/12	15.8	-	4.9	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
662	147-3	土師器	杯	8-1	G-e23	SK5202	7/12	13.7	-	3.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
663	147-5	土師器	杯	8-1	G-e23	SK5202	3/12	15.3	-	3.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
664	148-1	土師器	甕	8-1	G-e23	SK5202	口縁～胴部 3/12	13.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
665	149-1	土師器	甕	8-1	G-e23	SK5202	口縁～胴部 4/12	17.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
666	149-3	土師器	甕	8-1	G-e23	SK5202	口縁～胴部 3/12	17.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
667	149-2	土師器	甕	8-1	G-e23	SK5202	口縁～胴部 4/12	17.0	-	-	内：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい黄橙	
668	147-4	灰釉陶器	瓶	8-1	G-e23	SK5202	底部 11/12	-	14.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	灰白	底部外面にヘラ描き
669	151-5	土師器	小皿	8-1	G-d22	SK5207	2/12	9.1	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
670	153-3	土師器	小皿	8-1	G-d22	SK5207 下層	4/12	7.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
671	151-6	土師器	皿	8-1	G-d22	SK5207	1/12	11.8	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
672	151-8	土師器	皿	8-1	G-d22	SK5207 上層	2/12	12.1	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
673	151-7	土師器	皿	8-1	G-d22	SK5207	2/12	13.6	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
674	152-3	土師器	皿	8-1	G-d22	SK5207 上層	2/12	13.5	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
675	152-4	土師器	皿	8-1	G-d22	SK5207 下層	11/12	13.0	-	2.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
676	151-2	山茶碗（尾張）	椀	8-1	G-d22	SK5207 2層	3/12	15.0	7.7	4.7	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
677	151-4	山茶碗（尾張）	椀	8-1	G-d22	SK5207 下層	3/12	14.3	6.5	5.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
678	150-2	山茶碗（尾張）	椀	8-1	G-d22	SK5207 2層	10/12	14.9	6.4		内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
679	151-3	山茶碗（尾張）	椀	8-1	G-d22	SK5207 2層	7/12	14.5	6.9	5.1	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
680	151-1	山茶碗（渥美）	椀	8-1	G-d22	SK5207 上層	10/12	16.7	6.6	5.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
681	150-1	山茶碗（尾張）	椀	8-1	G-d22	SK5207 2層	11/12	15.7	6.1	5.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
682	152-1	土師器	鍋	8-1	G-d22	SK5207	口縁部 2/12	27.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄褐	
683	153-2	土師器	鍋	8-1	G-d22	SK5207 下層	口縁部 1/12	28.8	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
684	152-2	土師器	鍋	8-1	G-d22	SK5207	口縁部 3/12	28.5	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
685	156-1	土師器	鍋	8-1	G-b22	SK5207 下層	4/12	26.3	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄褐	
686	153-5	山茶碗（渥美）	椀	8-1	L-d17	SK5210	底部 3/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰黄	底部外面に墨書
687	153-6	山茶碗（尾張）	椀	8-1	L-d17	SK5210	口縁部 2/12	15.9	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
688	263-3	山茶碗（尾張）	椀	8-1		SK5210	7/12	15.6	7.0	5.1	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
689	155-7	土師器	鍋	7-4	O-w6	SE5218 井戸枠内	口縁部 1/12	30.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	取上時 SK5220

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
690	161-2	瓦質土器	火鉢	7-4	0-w7	SE5218 井戸枠内	1/12	30.6	-	-	内：ﾐｶﾞｷ 外：ｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	密	-	灰	取上時 SK5220
691	155-6	陶器	片口鉢	7-4	0-w6	SE5218 井戸枠内	底部 3/12	-	9.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ	密	良	灰	取上時 SK5220
692	164-5	土師器	小皿	7-4	0-v7	SK5221	4/12	6.7	-	0.6	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
693	164-6	土師器	小皿	7-4	0-v7	SK5221	4/12	6.8	-	0.6	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	淡橙	
694	160-5	土師器	小皿	7-4	0-v7	SK5221 下層	7/12	7.3	-	0.8	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
695	161-4	土師器	皿	7-4	0-v7	SK5221	2/12	12.6	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
696	158-1	土師器	皿	7-4	0-v7	SK5221 上層	7/12	14.2	-	2.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
697	163-7	土師器	皿	7-4	0-v7	SK5221	4/12	13.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
698	160-7	土師器	皿	7-4	0-v7	SK5221 下層	7/12	11.9	-	1.9	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
699	160-6	土師器	皿	7-4	0-v7	SK5221 下層	5/12	12.0	-	2.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
700	160-4	青磁（中国）	椀	7-4	0-v7	SK5221 上層	口縁部小片	-	-	-	内：施釉 外：施釉、蓮弁文	密	良	ｵﾘｰﾌﾞ灰	
701	265-6	山茶碗（尾張）	椀	7-4	0-v7	SK5221 下層	5/12	14.9	5.7	5.15	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
702	261-3	山茶碗（尾張）	椀	7-4	0-v7	SK5221 下層	底部 5/12	-	6.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
703	261-4	山茶碗（尾張）	椀	7-4	0-v7	SK5221 下層	底部 4/12	-	6.9	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
704	261-5	山茶碗（渥美）	椀	7-4	0-v7	SK5221 下層	底部 3/12	-	7.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨痕
705	160-8	山茶碗（渥美）	椀	7-4	0-v7	SK5221 下層	8/12	15.9	6.3	4.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
706	157-2	山茶碗（尾張）	椀	7-4	0-v7	SK5221 下層	5/12	15.1	6.6	4.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
707	261-6	山茶碗（尾張）	椀	7-4	0-v7	SK5221 下層	底部 5/12	-	8.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨痕
708	160-1	山茶碗（渥美）	椀	7-4	0-v7	SK5221 上層	底部 7/12	-	6.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
709	160-3	山茶碗（渥美）	椀	7-4	0-v7	SK5221 上層	底部 7/12	-	6.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
710	160-2	山茶碗（尾張）	椀	7-4	0-v7	SK5221 上層	底部 3/12	-	6.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
711	158-2	山茶碗（渥美）	椀	7-4	0-y7	SK5221	底部 12/12	-	6.7	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
712	158-3	土師器	鍋	7-4	0-v7	SK5221 下層	口縁部 2/12	25.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	
713	161-1	土師器	鍋	7-4	0-v7	SK5221 下層	口縁部 3/12	26.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
714	156-2	土師器	鍋	7-4	0-v7	SK5221 下層	口縁～胴部 3/12	24.2	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄	
715	159-1	土師器	鍋	7-4	0-v7	SK5221 下層	11/12	25.2	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
716	163-6	土師器	小皿	7-5	0-v11	SK5226	4/12	7.1	-	0.9	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ	密	-	灰白	
717	158-5	土師器	皿	7-5	0-v11	SK5226	10/12	11.2	-	2.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
718	163-5	土師器	皿	7-5	0-v11	SK5226	2/12	11.5	-	1.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
719	163-4	土師器	皿	7-5	0-v11	SK5226	1/12	12.0	-	1.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
720	158-4	土師器	皿	7-5	0-u11	SK5226	11/12	12.1	-	2.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
721	162-5	土師器	鍋	7-5	0-v11	SK5226	口縁部 1/12	20.4	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
722	162-4	土師器	鍋	7-5	0-v11	SK5226 中層	口縁部 1/12	27.3	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
723	164-3	山茶碗（尾張）	椀	7-5	0-v11	SK5226	底部 10/12	-	6.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
724	164-4	山茶碗（尾張）	椀	7-5	0-v11	SK5226	底部 12/12	-	5.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	底部外面に墨書
725	165-1	土師器	鍋	7-5	0-v16	SK5238 下層	11/12	21.9	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
726	165-2	土師器	鍋	7-5	0-v16	SK5238 下層	5/12	-	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	粗	-	褐灰	
727	170-1	土師器	鍋	7-5	0-v17	SK5251	口縁～胴部 4/12	30.7	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
728	171-3	山茶碗（渥美）	椀	7-7	Q-r10	SK5257	完形	15.2	6.6	5.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
729	171-2	山茶碗（渥美）	椀	7-7	Q-r10	SK5257	完形	15.4	6.8	5.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨痕
730	167-2	土師器	鍋	7-5	Q-v17	SK5245	口縁～頸部 3/12	36.7	-	-	内：ｵｻｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
731	168-1	土師器	鍋	7-5	0-v17	SK5245	口縁～頸部 2/12	25.7	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	
732	167-1	土師器	鍋	7-5		SK5245	口縁～胴部 2/12	37.0	-	-	内：ｵｻｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
733	169-1	土師器	羽釜形鍋	7-5	0-v17	SK5245	口縁～胴部 3/12	38.0	-	-	内：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	淡黄	
734	166-3	陶器	鉢	7-5	Q-v17	SK5245	口縁部 1/12	29.0	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ	粗	良	灰白	
735	166-1	瓦	軒丸瓦	7-7	Q-r3	SK5248	瓦当のみ	-	-	-	ﾅﾃﾞ、燻し、巴文	密	良	灰	
736	172-5	土師器	鍋	7-7	Q-r10	SK5259	2/12	18.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
737	165-3	土師器	鍋	7-7	Q-r2	SK5261	2/12	20.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	
738	184-5	土製品	加工円盤	7-8	R-b11	SK5280	完形	長 4.1	幅 4.8	厚 1.0	打ち欠き	密	良	褐	常滑鉢を転用
739	266-4	山茶碗（渥美）	椀	7-8	R-c11	SK5278	底部 1/12	-	5.9	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰	底部外面に墨書
740	178-4	陶器（常滑）	片口鉢	7-8	R-b11	SK5280	口縁部小片	-	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	良	にぶい赤橙	
741	173-6	土師器	小皿	7-8	R-b11	SK5277	4/12	6.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
742	173-3	土師器	皿	7-8	R-b11	SK5277	5/12	10.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
743	173-5	土師器	蓋	7-8	R-b11	SK5277	2/12	13.4	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
744	173-7	土師器	鍋	7-8	R-b11	SK5277	口縁部 2/12	18.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ	やや密	-	にぶい黄橙	
745	173-4	土師器	鍋	7-8	R-b11	SK5277	口縁部 1/12	33.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
746	210-6	山茶碗（渥美）	椀	7-9-4	T-bc19	SK5299 上層	底部 4/12	-	8.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
747	209-4	山茶碗（渥美）	椀	7-9-4	T-bc19	SK5299 上層	底部 5/12	-	8.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや粗	良	灰	
748	209-3	山茶碗（渥美）	椀	7-9-4	T-bc19	SK5299 上層	底部 12/12	-	7.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰	
749	208-4	山茶碗（渥美）	椀	7-9-4	T-c19	SK5299	3/12	16.6	6.9	6.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
750	209-2	山茶碗（渥美）	椀	7-9-4	T-bc19	SK5299 下層	7/12	16.5	7.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
751	193-3	土師器	小皿	7-9-2	R-c20	SK5288	口縁部 5/12	6.8	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
752	203-2	灰釉陶器	椀	7-9-2	T-c4	SK5292	6/12	14.5	7.5	5.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰白	
753	203-4	土師器	皿	7-9-4	T-c15	SK5295 上層	5/12	11.2	-	2.8	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
754	203-3	山茶碗（尾張）	椀	7-9-4	T-c15	SK5295 下層	6/12	14.1	5.6	6.1	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰	体部外面に墨書
755	211-3	土師器	小皿	7-9-4	T-c25	SK5303 上層	4/12	7.0	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
756	211-1	土師器	皿	7-9-4	T-c25	SK5303 上層	3/12	11.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
757	210-5	土師器	鍋	7-9-4	T-c25	SK5303 下層	口縁部小片	-	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	暗灰	
758	211-4	瓦質土器	火鉢	7-9-4	T-c25	SK5303 上層	口縁部小片	-	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：押印文	密	-	灰白	
759	211-2	土師器	小皿	7-9-4	T-c25	SK5302	6/12	6.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	口縁部に油煙付着
760	219-5	土師器	皿	7-9-4	T-c14	SK5312	完形	12.2	-	2.7	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
761	226-4	青磁（中国）	椀	7-9-2	R-c19	SK5331	底部 5/12	-	5.6	-	内：施釉、陰刻花文 外：施釉、削出高台（畳付は露胎）	密	良	緑灰	
762	222-3	土師器	皿	7-9-3	T-c8	SK5309	2/12	9.0	-	2.6	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや粗	-	灰白	
763	223-2	土師器	鍋	7-9-3	T-c9	SK5309	4/12	22.0	-	9.4	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	粗	-	にぶい黄橙	
764	219-3	山茶碗（尾張）	椀	7-9-3	T-c6, 7	SK5310	3/12	15.4	7.2	5.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
765	219-2	山茶碗（渥美）	椀	7-9-3	T-c6, 7	SK5310	底部 12/12	-	7.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
766	219-4	山茶碗（尾張）	椀	7-9-4	T-c14	SK5312 上層	口縁部 2/12	13.3	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
767	222-2	土師器	鍋	7-9-3	T-c6, 7	SK5310	2/12	20.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
768	219-1	土師器	鍋	7-9-3	T-c6	SK5310	口縁～胴部 1/12	22.7	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
769	242-4	陶器（古瀬戸）	縁釉小皿	7-7	Q-s5	SK5314	5/12	10.4	5.2	2.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕、灰釉	密	良	ｵﾘｰﾌﾞ黄	
770	241-10	陶器（古瀬戸）	平椀	7-7	Q-s5	SK5314 南西	口縁部 1/12	16.6	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ、灰釉	密	良	ｵﾘｰﾌﾞ黄	
771	233-2	土師器	鍋	7-7	Q-s5	SK5314	口縁部 2/12	26.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
772	220-1	土師器	羽釜形鍋	7-7	Q-s5	SK5314	口縁～胴部 2/12	25.1	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
773	242-2	土師器	羽釜形鍋	7-7	Q-s5	SK5314 南西	口縁～胴部 2/12	24.2	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
774	232-6	土師器	皿	7-9-2	R-c25	SK5308	2/12	9.2	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
775	232-5	土師器	皿	7-9-2	R-c25	SK5308	2/12	12.0	-	1.8	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
776	231-4	土師器	皿	7-9-2	R-c25	SK5308	7/12	12.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
777	232-4	土師器	皿	7-9-2	R-c25	SK5308	3/12	12.6	-	2.8	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
778	232-7	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 2/12	21.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
779	232-3	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	21.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
780	212-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 2/12	20.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
781	236-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	20.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
782	232-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 2/12	23.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
783	233-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 2/12	21.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
784	215-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	24.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
785	231-3	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 2/12	24.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
786	238-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	30.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
787	236-4	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	26.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
788	235-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 4/12	26.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
789	238-3	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 4/12	27.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹ	やや密	-	にぶい黄橙	
790	232-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 2/12	24.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
791	240-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 4/12	28.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
792	237-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	28.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
793	239-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	27.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
794	237-3	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 2/12	31.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
795	231-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 1/12	31.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄	
796	231-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	32.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
797	234-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	33.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
798	223-1	土師器	鍋	7-9-2	R-cd25	SE5308 下層	口縁～胴部 4/12	33.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹ	やや粗	-	褐灰	
799	214-3	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	31.9	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
800	234-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 4/12	36.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
801	237-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 2/12	38.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
802	222-1	土師器	鍋	7-9-2	R-cd25	SE5308 下層	3/12	31.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
803	213-3	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 2/12	33.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
804	224-1	土師器	鍋	7-9-2	R-cd25	SE5308 下層	9/12	33.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい黄橙	
805	239-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	25.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
806	238-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	26.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
807	236-3	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 2/12	22.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄褐	
808	236-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～胴部 3/12	22.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
809	217-1	土師器	鍋	7-9-2	R-cd25	SK5308 下層	ほぼ完形	26.0	-	12.6	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
810	235-1	土師器	茶釜形鍋	7-9-2	R-c25	SK5308	口縁～肩部 6/12	12.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
811	218-1	土師器	茶釜形鍋	7-9-2	R-cd25	SK5308 下層	10/12	15.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
812	265-1	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019 下層	2/12	13.6	-	2.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	底部外面に墨書「南」
813	265-2	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	小片		-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	底部外面に墨書
814	47-1	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	1/12	14.2	-	4.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
815	49-2	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	1/12	12.5	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
816	46-5	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	2/12	15.4	-	3.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰褐	
817	46-4	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	2/12	17.8	-	4.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
818	49-3	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	4/12	12.0	-	3.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
819	47-3	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	1/12	16.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
820	47-2	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	2/12	16.4	-	4.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
821	50-2	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	1/12	16.9	-	4.7	内：ﾖｺﾅﾃﾞ、暗文 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ	密	-	橙	
822	49-7	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	1/12	19.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
823	50-4	土師器	皿	1-2	I-t11	SD5019	1/12	20.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ、暗文 外：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
824	46-3	土師器	皿	1-2	I-t11	SD5019	1/12	16.5	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
825	47-4	土師器	皿	1-2	I-t11	SD5019	1/12	15.8	-	1.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
826	46-6	土師器	皿	1-2	I-t11	SD5019	4/12	16.5	-	2.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
827	49-1	土師器	皿	1-2	I-t11	SD5019	2/12	16.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
828	49-4	土師器	皿	1-2	I-t11	SD5019	1/12	15.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
829	50-3	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	2/12	16.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ、暗文 外：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
830	46-2	土師器	杯	1-2	I-t11	SD5019	2/12	11.8	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ、暗文 外：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	内面に刻書
831	48-1	土師器	甕	1-2	I-t11	SD5019	口縁～胴部 3/12	21.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
832	48-3	土師器	甕	1-2	I-t11	SD5019	口縁部 3/12	20.4	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
833	49-6	土師器	鉢	1-2	I-t11	SD5019	口縁～胴部 1/12	21.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
834	50-5	土製品	土錘	1-2	I-t11	SD5019	完形	長 6.5	径 1.9	-	ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	20.42g
835	17-6	土師器	皿	3-2	B-l14	SD5006	2/12	10.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
836	18-4	山茶碗（渥美）	椀	3-2	B-l14	SD5006	底部 6/12	-	6.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
837	18-3	山茶碗（尾張）	椀	3-2	B-l14	SD5006	底部 3/12	-	7.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
838	24-5	土師器	杯	3-2	B-e12	SD5013	口縁部 3/12	12.3	-	3.1	内：摩滅のため不明 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	にぶい橙	
839	58-4	須恵器	蓋	2-1	E-m17	SD5029	2/12	-	13.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰	
840	58-3	土師器	杯	2-1	E-m17	SD5029	口縁部 2/12	16.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
841	58-2	土師器	杯	2-1	E-m17	SD5029	口縁部 3/12	10.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
842	58-1	黒色土器	椀	2-1	E-n17	SD5028	底部 5/12	-	5.5	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	内黒
843	67-3	土師器	杯	2-3	D-u14	SD5044	6/12	15.3	-	2.9	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	底部外面にヘラ描き
844	50-6	土製品	土錘	1-4	I-t6	SD5022	完形	長 4.4	径 1.6	-	ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	7.77g
845	61-3	土師器	小皿	2-1	D-v17	SD5039	4/12	10.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
846	61-2	土師器	小皿	2-1	D-v17	SD5039	4/12	10.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
847	61-1	土師器	小皿	2-1	D-v17	SD5039	3/12	10.2	-	1.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
848	61-4	土師器	小皿	2-1	D-v17	SD5039	9/12	9.9	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
849	61-6	土師器	杯	2-1	D-v17	SD5039	1/12	11.4	-	2.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
850	61-7	土師器	杯	2-1	D-v17	SD5039	7/12	11.3	-	2.6	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
851	57-2	土師器	杯	2-1	D-v17	SD5039	5/12	12.1	-	3.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
852	61-5	土師器	杯	2-1	D-v17	SD5039	4/12	12.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
853	60-4	黒色土器	椀	2-1	D-v17	SD5039	底部 8/12	-	7.2	-	内：ﾐｶﾞｷ 外：ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ	密	-	にぶい橙	内黒
854	60-5	黒色土器	椀	2-1	D-v17	SD5039	底部 12/12	-	6.2	-	内：ﾐｶﾞｷ 外：ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ	密	-	にぶい黄橙	内黒
855	57-3	土師質土器	皿	2-1	D-v17	SD5039	9/12	10.9	5.9	2.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	浅黄橙	
856	61-8	土師質土器	皿	2-1	D-v17	SD5039	5/12	10.2	4.9	2.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	にぶい橙	
857	61-9	土師質土器	皿	2-1	D-v17	SD5039	2/12	11.3	5.7	2.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	にぶい黄橙	
858	62-2	土師器	甕	2-1	D-v17	SD5039	口縁部 3/12	15.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
859	62-1	土師器	甕	2-1	D-v17	SD5039	口縁部 1/12	25.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
860	63-3	須恵器	壺	2-1	D-v17	SD5039	口縁部 2/12	14.0	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	黄灰	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
861	63-1	灰釉陶器	椀	2-1	D-v17	SD5039	口縁部 3/12	14.9	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
862	62-3	灰釉陶器	椀	2-1	D-v17	SD5039	4/12	14.8	7.0	4.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉ﾜｹｶﾞｹ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
863	62-4	灰釉陶器	椀	2-1	D-v17	SD5039	口縁部 7/12	15.8	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉ﾜｹｶﾞｹ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
864	63-2	灰釉陶器	椀	2-1	D-v17	SD5039	底部 6/12	-	7.7	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
865	62-5	灰釉陶器	椀	2-1	D-v17	SD5039	底部 4/12	-	8.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
866	67-4	土師器	皿	2-3	D-u14	SD5043	2/12	13.7	-	1.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
867	67-6	土師器	皿	2-3	D-u14	SD5043	1/12	12.1	-	2.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
868	68-2	山茶碗	椀	2-3	D-o15	SD5043	底部 6/12	-	7.7	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	加工円盤に転用
869	68-7	灰釉陶器	椀	2-3	D-u14	SD5043	底部 3/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
870	68-8	灰釉陶器	椀	2-3	D-u14	SD5043	底部 1/12	-	7.9	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	明赤灰	
871	68-6	山茶碗（尾張）	椀	2-3	D-o15	SD5043	底部 3/12	-	6.9	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	にぶい褐	
872	65-2	山茶碗（渥美）	椀	2-3	D-t14	SD5043	口 3/12 底部 10/12	15.5	7.0	5.1	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰	
873	67-7	須恵器	鉢？	2-3	D-t14	SD5043	底部 12/12	-	4.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛｶｽﾞﾘ	密	良	灰白	底部外面にヘラ描き
874	66-3	土師器	甕	2-3	D-q14	SD5043	口縁部小片	-	-	-	内：ｶｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
875	66-6	土師器	甕	2-3	D-s14	SD5043	口縁部 1/12	13.0	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
876	66-2	土師器	甕	2-3	D-p15	SD5043	口縁部小片	-	-	-	内：ｶｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
877	66-4	土師器	甕	2-3	D-q14	SD5043	口縁部小片	-	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
878	67-1	土師器	甕	2-3	D-s14	SD5043	口縁部小片	-	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
879	66-5	土師器	甕	2-3	D-s14	SD5043	口縁部 1/12	22.4	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
880	67-2	土師器	甕	2-3	D-o15	SD5043	口縁部 2/12	25.8	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	灰白	
881	66-1	土師器	甕	2-1	D-m17	SD5047	口縁部 2/12	25.0	-	-	内：ﾊｹ、ｶｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
882	92-8	土師器	杯	6-1	K-d9	SD5087	2/12	14.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	褐灰	
883	93-1	灰釉陶器	椀	6-1	F-d24	SD5087	4/12	15.8	7.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
884	93-2	山茶碗（渥美）	椀	6-1	F-c21	SD5087	底部 12/12	-	6.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
885	92-6	山茶碗（渥美）	椀	6-1	F-c22	SD5087	完形	-	6.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	加工円盤に転用
886	94-1	土師器	甕	6-1	K-d2	SD5087	6/12	15.1	-	-	内：ｵｻｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｶｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	–	にぶい橙	
887	92-1	山茶碗（尾張）	椀	6-1	K-e12	SD5082	底部 12/12	-	6.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
888	92-2	山茶碗（渥美）	椀	6-1	K-d5	SD5083	底部 3/12	-	6.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
889	92-3	山茶碗（渥美）	椀	6-1	K-d25	SD5083	底部 4/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
890	265-3	山茶碗（尾張）	椀	6-1	F-c23	SD5083	底部 9/12	-	5.7	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
891	92-5	山茶碗（渥美）	椀	6-1	K-c11	SD5084	底部 12/12	-	7.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
892	92-4	青磁（中国）	椀	6-1	K-c11	SD5084	底部 12/12	-	6.1	-	内：施釉、陰刻花文 外：施釉、削出高台（畳付は露胎）	密	良	灰	
893	93-3	灰釉陶器	椀	6-1	F-c19	SD5092	底部 2/12	-	8.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
894	93-4	山茶碗（渥美）	椀	6-1		SD5094	底部 2/12	-	8.7	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	良	灰白	
895	93-5	山茶碗（渥美）	椀	6-1		SD5094	底部 2/12	-	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
896	103-1	土師器	杯	6-1	F-e2	SD5098	6/12	13.7	-	2.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい橙	
897	103-2	土師器	杯	6-1	A-e17	SD5098	2/12	13.0	-	2.9	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
898	97-7	土師器	皿	6-1	F-e5	SD5098	2/12	15.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
899	261-2	山茶碗（尾張）	椀	6-2	K-e12, 13	SD5101	6/12	15.6	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
900	103-3	土師器	皿	6-2	K-e12, 13	SD5101	6/12	7.2	-	0.8	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
901	101-1	土師器	鍋	6-2	K-e12, 13	SD5101	口縁部 5/12	19.8	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
902	244-6	土師器	杯	6-2	K-hi12, 13	SD5102	口縁部 1/12	12.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
903	108-4	土師器	小皿	5-3	B-c25	SD5132	5/12	8.4	-	1.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい黄橙	口縁部に油煙付着
904	110-4	土師器	小皿	5-3	B-c25	SD5132	4/12	9.0	-	1.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
905	108-5	土師器	小皿	5-3	B-c25	SD5132	3/12	8.2	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
906	112-2	土師器	小皿	5-3	B-c25	SD5132	8/12	9.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
907	108-6	土師器	小皿	5-3	B-c25	SD5132	5/12	9.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	粗	-	にぶい黄橙	口縁部に油煙付着
908	108-2	土師器	小皿	5-3	B-c25	SD5132	8/12	9.2	-	1.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	不定形な被熱痕
909	108-3	土師器	小皿	5-3	B-c25	SD5132	6/12	9.8	-	1.9	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい黄橙	円形の被熱痕
910	110-5	土師質土器	椀	5-3	B-c25	SD5132	底部 12/12	-	5.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	にぶい黄橙	
911	112-3	土師質土器	皿	5-3	B-c25	SD5132	7/12	10.0	4.0	2.1	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	にぶい黄橙	
912	111-2	土師質土器	皿	5-3	B-c25	SD5132	底部 12/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	にぶい黄橙	
913	112-1	土師質土器	椀	5-3	B-c25	SD5132	5/12	16.6	6.7	5.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	にぶい黄橙	
914	108-7	山茶碗（渥美）	椀	5-3	B-c25	SD5132	底部 4/12	-	8.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
915	31-2	山茶碗（尾張）	椀	5-3	B-c25	SD5132	底部 12/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書「盛法寺」
916	121-3	山茶碗（渥美）	椀	5-2	G-i12	SK5145	底部 7/12	-	5.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
917	123-1	山茶碗（尾張）	椀	5-2	G-p12	SE5150	5/12	15.6	7.2	4.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
918	116-6	山茶碗（渥美）	椀	5-2	G-i12	SD5138	底部 5/12	-	6.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
919	116-5	山茶碗（尾張）	椀	5-2	G-h12	SD5138	2/12	14.8	5.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
920	116-4	山茶碗（尾張）	椀	5-2	G-i12	SD5138	底部 12/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
921	121-10	土師器	小皿	5-2	G-m12	SD5148	完形	8.4	-	1.6	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
922	123-6	土師器	小皿	5-2	G-q12	SD5148	10/12	8.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
923	123-7	土師器	小皿	5-2	G-q12	SD5148	4/12	9.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
924	121-9	土師器	小皿	5-2	G-r12	SD5148	5/12	8.4	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
925	123-8	土師器	小皿	5-2	G-q12	SD5148	3/12	8.0	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
926	121-6	土師器	小皿	5-2	G-m12	SD5148	8/12	8.8	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	淡黄	
927	121-8	土師器	小皿	5-2	G-m12	SD5148	11/12	8.1	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
928	121-7	土師器	小皿	5-2	G-q12	SD5148	11/12	8.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
929	123-5	土師器	小皿	5-2	G-q12	SD5148	10/12	8.2	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
930	122-4	土師器	皿	5-2	G-r12	SD5148	4/12	16.0	-	2.9	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
931	122-5	土師器	皿	5-2	G-r12	SD5148	4/12	14.4	-	3.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
932	122-6	土師器	皿	5-2	G-r12	SD5148	8/12	15.0	-	2.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
933	123-4	土師器	皿	5-2	G-q12	SD5148	4/12	13.1	-	3.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
934	124-6	土師器	皿	5-2	G-r12	SD5148	3/12	15.8	-	3.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
935	123-3	土師器	鍋	5-2	G-q12	SD5148	口縁～胴部 4/12	22.6	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
936	122-1	土師器	鍋	5-2	G-r12	SD5148	口縁部 2/12	28.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
937	122-3	土師質土器	皿	5-2	G-q12	SD5148	10/12	9.9	5.7	2.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	浅黄橙	
938	122-2	山茶碗（尾張）	椀	5-2	G-r12	SD5148	5/12	15.7	7.2	4.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
939	120-3	山茶碗（渥美）	椀	5-2	G-q12	SD5148	8/12	17.1	7.4	6.2	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
940	123-2	山茶碗（尾張）	椀	5-2	G-n12	SD5148	底部 12/12	-	8.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
941	120-4	山茶碗（渥美）	椀	5-2	G-m12	SD5148	9/12	16.5	6.5	5.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	明紫灰	
942	120-6	山茶碗（尾張）	椀	5-2	G-n12	SD5148	完形	16.3	8.8	4.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
943	120-5	山茶碗（尾張）	椀	5-2	G-p12	SD5148	9/12	16.9	7.5	5.0	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
944	124-2	陶器（渥美）	甕	5-2	G-q12	SD5148	底部 3/12	-	13.8	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ﾀﾀｷ、ﾅﾃﾞ	密	良	灰	
945	124-1	陶器	壺	5-2	G-q12	SD5148	底部 3/12	-	13.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、木葉痕	密	良	灰白	
946	124-4	土製品	土錘	5-2	G-q12	SD5148	完形	長 7.2	径 2.5	-	ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	橙	40.19g
947	124-3	土製品	土錘	5-2	G-q12	SD5148	一部欠損	-	径 2.4	-	ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	38.65g
948	124-5	土製品	土錘	5-2	G-q12	SD5148	一部欠損	-	径 1.8	-	ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	20.29g
950	125-6	灰釉陶器	椀	5-1-3	G-y16	SD5155	底部 3/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
951	125-4	須恵器	壺	5-1-3	G-x14	SD5155	底部 4/12	-	12.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	灰	
952	125-5	土師器	甕	5-1-3	G-w12	SD5155	2/12	17.8	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
953	125-2	土製品	土錘	5-1-3	G-w12	SD5155	完形	長 7.2	径 2.7	-	ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	39.12g
954	125-3	土製品	土錘	5-1-3	G-w13	SD5155	一部欠損	長 7.0	径 3.0	-	ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	47.53g
955	126-1	土師器	皿	5-1	H-b19, 20	SD5165 上層	9/12	6.9	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
956	126-2	土師器	皿	5-1	H-b19, 20	SD5165 上層	1/12	9.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	淡黄	
957	126-3	土師器	皿	5-1	H-b19, 20	SD5165 上層	3/12	9.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	淡黄	
958	126-4	土師器	皿	5-1	H-a19, 20	SD5165 下層	5/12	8.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
959	126-5	瓦	平瓦	5-1	H-b19, 20	SD5165 上層	小片	-	-	1.4	凹面：ﾅﾃﾞ 凸面：ﾅﾃﾞ	密	良	灰	
960	126-6	瓦	平瓦	5-1	H-a19, 20	SD5165 下層	小片	-	-	2.0	凹面：ﾅﾃﾞ、ｺﾋﾞｷA 凸面：ﾅﾃﾞ、縄ﾀﾀｷ	密	不良	にぶい黄橙	
961	128-3	土師器	小皿	7-1	L-bc21	SD5166A	10/12	9.0	-	1.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
962	129-1	土師器	小皿	7-1	L-d21	SD5166A	11/12	9.0	-	1.7	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
963	129-2	土師質土器	台付皿	7-1	L-d21	SD5166A	7/12	10.3	5.1	3.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
964	129-4	土師質土器	皿	7-1	L-d21, 22	SD5166	4/12	15.0	6.8	3.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰白	
965	128-2	土師質土器	皿	7-1	L-bc21	SD5166A	完形	9.6	-	1.8	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰白	
966	128-6	土師器	鍋	7-1	L-bc21	SD5166A	口縁～胴部 6/12	18.9	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
967	129-3	土師器	鍋	7-1	L-d21, 22	SD5166	口縁～胴部 3/12	24.3	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
968	128-1	灰釉陶器	椀	7-1	L-bc21	SD5166A	4/12	15.7	6.4	5.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
969	127-5	灰釉陶器	椀	7-1	L-d21	SD5166A	底部 12/12	-	7.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
970	127-9	灰釉陶器	椀	7-1	L-bc21	SD5166C	底部 8/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
971	127-6	灰釉陶器	椀	7-1	L-bc21	SD5166C	底部 4/12	-	7.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰黄	
972	127-7	灰釉陶器	椀	7-1	L-bc21	SD5166C	底部 1/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
973	127-8	山茶碗（渥美）	椀	7-1	L-bc21	SD5166C	底部 2/12	-	7.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
974	128-5	灰釉陶器	椀	7-1	L-bc21	SD5166 上層	底部 8/12	-	7.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰黄	
975	129-5	灰釉陶器	椀	7-1	L-d22	SD5166	底部 8/12	-	6.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、重焼痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
976	127-2	灰釉陶器	椀	7-1	L-b22	SD5166	底部 3/12	-	7.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
977	127-3	灰釉陶器	椀	7-1	L-bc21	SD5166 上層	底部 4/12	-	7.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
978	127-4	灰釉陶器	椀	7-1	L-d21, 22	SD5166	底部 5/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
979	128-4	土師質土器	椀	7-1	L-bc21	SD5166 上層	底部 11/12	-	7.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰白	
980	127-1	灰釉陶器	瓶	7-1	L-d22	SD5166	底部 2/12	-	15.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	灰白	
981	135-4	灰釉陶器	椀	7-1	L-b22	SD5170	底部 4/12	-	7.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
982	135-5	山茶碗（渥美）	椀	7-1	L-b22	SD5170	底部 4/12	-	6.7	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
983	135-3	土製品	土錘	7-1	L-b22	SD5170	一部欠損	-	径 1.0	-	ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	黄灰	
984	135-6	土師器	皿	7-1	L-b14	SD5172	4/12	8.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
985	135-1	山茶碗（渥美）	椀	7-1	L-b14	SD5172	底部 3/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
986	135-2	陶器（渥美）	壺	7-1	K-x11, 12	SD5180	胴部 3/12	-	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
987	153-4	山茶碗（渥美）	椀	8-1	G-e21	SD5209	底部 5/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	灰白	
988	163-2	土師器	甕	7-6	O-s12	SD5234	口縁部 2/12	14.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
989	163-1	土師器	甕	7-6	O-s12	SD5234	口縁部 2/12	17.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
990	163-3	土師器	甕	7-7	O-rs13	SD5235	口縁部 1/12	20.7	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい赤褐	
991	149-4	土師器	小皿	8-1	G-e21	SK5206	3/12	7.0	-	1.8	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
992	148-4	土師器	皿	8-1	G-e21	SK5206	2/12	11.2	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
993	148-2	山茶碗（渥美）	椀	8-1	G-e21	SK5206	底部 7/12	-	6.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
994	148-3	山茶碗（渥美）	椀	8-1	G-e21	SK5206	底部 4/12	-	6.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
995	162-3	土師器	鍋	7-5	O-y12	SD5225	口縁部 1/12	36.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
996	166-2	土師器	鍋	7-7	Q-rs 1, 2	SD5243	口縁～胴部 3/12	19.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰白	
997	162-2	陶器（常滑）	片口鉢	7-7	Q-rs 1, 2	SD5243	1/12	29.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	赤灰	内面使用による磨耗
998	162-1	土師器	羽釜形鍋	7-7	Q-rs 1, 2	SD5243	口縁～胴部 2/12	34.1	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	浅黄橙	
999	170-2	陶器（古瀬戸）	花瓶	7-7	Q-s5	SD5252	脚部 6/12	-	8.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕、灰釉	密	良	ｵﾘｰﾌﾞ灰	
1000	171-4	土師器	小皿	7-7	Q-r9	SD5256	5/12	7.7	-	1.7	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1001	171-6	土師器	小皿	7-7	Q-r9	SD5256	4/12	7.7	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1002	171-5	土師器	小皿	7-7	Q-r9	SD5256	5/12	8.7	-	1.6	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1003	170-4	山茶碗（渥美）	皿	7-7	Q-r10	SD5256	11/12	7.8	5.7	1.5	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1004	171-1	土師器	鍋	7-7	Q-r9	SD5256	口縁～胴部 1/12	28.1	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1005	170-3	陶器（古瀬戸）	緑釉小皿	7-7	Q-r10	SD5256	2/12	10.9	5.8	2.7	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、削出高台、灰釉	密	良	ｵﾘｰﾌﾞ黄	
1006	171-7	陶器（常滑）	片口鉢	7-7	Q-r8	SD5256	小片	-	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	橙	
1007	172-1	土師器	鍋	7-7	Q-r8	SD5258	口縁部 1/12	33.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄褐	
1008	172-4	土師器	皿	7-7	Q-r8	SD5258	6/12	8.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
1009	172-2	土師器	鍋	7-7	Q-r8	SD5258	口縁部 1/12	27.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
1010	172-3	信楽	擂鉢	7-7	Q-r8	SD5258	底部 2/12	-	10.6	-	内：摺目 4 条 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	やや不良	灰白	
1011	173-1	土師器	皿	7-7	Q-s8	SD5266	1/12	14.6	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
1012	173-2	土師器	皿	7-7	Q-s8	SD5266	1/12	17.8	-	2.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	橙	
1013	264-1	土師器	皿	7-9-1	R-c14	SD5279 下層	完形	16.1	-	2.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	底部外面に墨書「今林」
1014	177-5	土師器	甕	7-9-1	R-c15	SD5279	口縁～肩部 5/12	17.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや粗	-	灰褐	
1015	176-2	土師器	甕	7-9-1		SD5279	口縁～肩部 3/12	25.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰褐	
1016	178-3	志摩式製塩土器		7-9-1	R-c14	SD5279 下層	1/12	15.2	15.2	5.4	ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	粗	-	にぶい赤褐	
1017	178-2	土師器	皿	7-9-1		SD5279	4/12	8.4	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1018	177-3	土師質土器	椀	7-9-1	R-c15	SD5279	底部 9/12	-	6.9	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや粗	-	浅黄橙	
1019	177-2	灰釉陶器	椀	7-9-1	R-cd 15, 16	SD5279	底部 5/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、施釉 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、施釉、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	やや密	良	灰白	
1020	177-4	山茶碗（渥美）	椀	7-9-1	R-c14	SD5279	底部 9/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1021	177-7	土師器	皿	7-9-1	R-c14	SD5279	1/12	8.0	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
1022	177-8	土師器	皿	7-9-1	R-cd14	SD5279 褐灰粘	3/12	10.0	-	1.6	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや粗	-	にぶい橙	
1023	177-9	土師器	椀	7-9-1	R-cd14	SD5279 褐灰粘	口縁部 3/12	9.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1024	175-1	土師器	椀	7-9-1	R-c15, 16	SD5279	底部 12/12	-	4.0	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
1025	174-1	土師器	鍋	7-9-1	R-c15, 16	SD5279	口縁～胴部 2/12	20.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
1026	176-1	土師器	鍋	7-9-1		SD5279	口縁～胴部 3/12	28.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	黄灰	
1027	174-2	土師器	鍋	7-9-1	R-c15, 16	SD5279	口縁～胴部 2/12	34.6	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
1028	176-3	土師器	鍋	7-9-1		SD5279	口縁～胴部 2/12	38.0	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	褐灰	
1029	175-2	陶器（瀬戸美濃）	天目茶椀	7-9-1	R-c15, 16	SD5279	底部 10/12	-	4.2	-	内：鉄釉 外：削出高台、錆釉	密	良	褐灰	
1030	175-3	陶器（瀬戸美濃）	壺	7-9-1	R-c15, 16	SD5279	底部 4/12	-	4.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、鉄釉 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕、鉄釉	密	良	灰白	
1031	177-1	青磁（中国）	椀	7-9-1	R-c15, 16	SD5279	底部 3/12	-	5.0	-	内：施釉 外：施釉、削出高台	密	良	ｵﾘｰﾌﾞ灰	
1032	175-4	土製品	加工円盤	7-9-1	R-c15, 16	SD5279	完形	径 4.8	-	厚 1.2	打ち欠き	密	良	暗灰黄	常滑鉢を転用

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
1033	174-3	陶器（常滑）	甕	7-9-1	R-c14	SD5279	口縁部 3/12	33.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	やや良	灰	
1035	184-2	土師器	小皿	7-9-1		SD5285	6/12	7.7	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
1036	182-4	土師器	皿	7-9-1	R-c15,16	SD5285	2/12	13.0	-	1.9	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1037	182-5	土師器	小皿	7-9-1	R-c15,16	SD5285	2/12	8.0	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1038	177-6	陶器（瀬戸美濃）	丸皿	7-9-1	R-c15,16	SD5285	5/12	10.9	6.2	2.6	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉、ﾄﾁﾝ痕 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、削出高台、灰釉	密	良	ｵﾘｰﾌﾞ黄	
1039	176-4	青磁（中国）	椀	7-9-1	R-c15,16	SD5285	底部 5/12	-	6.4	-	内：施釉、陰刻花文 外：施釉、蓮弁文、削出高台	密	良	ｵﾘｰﾌﾞ灰	
1040	178-1	陶器（常滑）	甕	7-9-1		SD5285	口縁部小片	-	-	-	内：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	良	灰褐	
1041	184-3	土師器	鍋	7-9-1		SD5285	口縁～胴部 1/12	21.2	-	-	内：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1042	184-4	土師器	鍋	7-9-1		SD5285	口縁～胴部 2/12	19.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1043	187-3	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 2/12	20.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
1044	180-1	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	5/12	20.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
1045	182-3	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 1/12	22.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1046	186-3	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 2/12	24.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
1047	180-2	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	7/12	20.1	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄褐	
1048	185-1	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 4/12	37.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
1049	185-2	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 3/12	37.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1050	185-3	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 2/12	38.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	黒	
1051	187-1	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 2/12	36.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	褐灰	
1052	179-1	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 2/12	37.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1053	179-2	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 2/12	39.2	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄	
1054	181-1	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	3/12	36.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1055	183-2	土師器	羽釜形鍋	7-9-1		SD5285	口縁～胴部 2/12	35.0	-	-	内：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1056	183-1	土師器	羽釜形鍋	7-9-1	R-c14,15	SD5285	口縁～胴部 1/12	37.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄	
1057	187-2	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 2/12	29.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	黄灰	
1058	186-2	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	3/12	25.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1059	182-1	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 3/12	22.3	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	淡黄	
1060	184-1	土師器	鍋	7-9-1		SD5285	口縁～胴部 5/12	24.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1061	179-3	土師器	鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 2/12	21.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	暗灰	
1062	182-2	土師器	茶釜形鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～頸部 4/12	13.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1063	186-1	土師器	茶釜形鍋	7-9-1	R-c15,16	SD5285	口縁～胴部 3/12	12.8	-	-	内：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
1064	195-1	土師器	小皿	7-9-2	R-c23	SD5289	9/12	6.8	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1065	195-5	土師器	小皿	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	3/12	6.6	-	1.7	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
1066	195-3	土師器	小皿	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	9/12	6.8	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1067	195-4	土師器	小皿	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	10/12	6.7	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1068	195-2	土師器	皿	7-9-2	R-c22	SD5289	3/12	8.6	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1069	195-9	土師器	皿	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	10/12	9.0	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
1070	195-10	土師器	皿	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	12/12	9.1	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1071	195-8	土師器	皿	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	11/12	8.6	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1072	193-2	土師器	皿	7-9-2	R-c22	SD5289	10/12	11.1	-	1.7	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1073	195-6	土師器	皿	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	4/12	11.0	-	2.2	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1074	195-7	土師器	皿	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	5/12	10.8	-	2.2	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1075	194-4	土師器	椀	7-9-2	R-c22	SD5289	底部 3/12	-	3.8	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1076	198-3	土師器	鍋	7-9-2	R-c23	SD5289	口縁～胴部 5/12	21.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1077	193-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c22	SD5289	10/12	20.9	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1078	192-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	7/12	21.3	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1079	191-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c22	SD5289	9/12	22.2	-	-	内：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1080	189-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	8/12	21.9	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
1081	190-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	8/12	20.4	-	-	内：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1082	196-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c23	SD5289	口縁～胴部 5/12	26.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1083	198-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c23	SD5289	口縁～胴部 3/12	30.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
1084	191-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c22	SD5289	9/12	32.9	-	-	内：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1085	192-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c22	SD5289	4/12	38.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄	
1086	197-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c23	SD5289	口縁～胴部 3/12	43.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	褐灰	
1087	196-3	土師器	鍋	7-9-2	R-c20	SD5289	口縁～胴部 4/12	22.9	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1088	194-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c22	SD5289	口縁～胴部 2/12	24.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
1089	190-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	11/12	22.2	-	-	内：ｵｻｴ、板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄	
1090	189-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	11/12	22.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
1091	196-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c20	SD5289	口縁～胴部 2/12	28.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1092	198-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c23	SD5289	口縁～胴部 2/12	27.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
1093	188-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	9/12	26.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1094	194-1	土師器	茶釜形鍋	7-9-2	R-c23	SD5289	口縁～胴部 3/12	13.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1095	188-1	土師器	茶釜形鍋	7-9-2	R-c22	SD5289 土器一括	11/12	12.1	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1096	194-3	陶器（常滑）	甕	7-9-2	R-c22	SD5289	口縁部小片	-	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	灰赤	
1097	194-6	土製品	加工円盤	7-9-2	R-c20	SD5289	完形	長 4.4	幅 3.8	厚 1.0	打ち欠き	密	良	黒褐	22.54g 常滑製品を転用
1098	194-5	土製品	加工円盤	7-9-2	R-c21	SD5289	完形	径 3.4	-	厚 1.0	打ち欠き	密	-	橙	17.56g 常滑製品を転用
1099	193-4	土製品	加工円盤	7-9-2	R-c22	SD5289	完形	径 4.8	-	厚 1.2	打ち欠き	密	良	橙	30.41g 常滑鉢を転用
1100	201-3	土師器	小皿	7-9-2	R-c24	SD5290B	7/12	6.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
1101	201-5	陶器（古瀬戸）	腰折皿	7-9-2	R-c24	SD5290B	底部 12/12	-	4.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾄﾁﾝ痕、灰釉 外：削出高台	密	良	浅黄	
1102	201-4	土製品	加工円盤	7-9-2	R-c24	SD5290B	完形	長 4.0	幅 3.4	厚 1.0	ﾅﾃﾞ	密	良	褐灰	15.35g 常滑製品を転用
1103	199-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c24	SD5290	口縁～胴部 2/12	23.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
1104	200-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c24	SD5290	口縁～胴部 1/12	23.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
1105	200-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c24	SD5290	口縁～胴部 2/12	21.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
1106	199-3	土師器	鍋	7-9-2	R-c24	SD5290	口縁～胴部 2/12	23.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
1107	199-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c24	SD5290	口縁～胴部 3/12	25.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
1108	200-4	土師器	茶釜形鍋	7-9-2	R-c24	SD5290	口縁～肩部 2/12	13.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
1109	200-3	土師器	茶釜形鍋	7-9-2	R-c24	SD5290	口縁～肩部 2/12	11.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	淡黄	
1110	197-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c24	SD5290	口縁～胴部 3/12	38.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄褐	
1111	201-1	陶器（常滑）	片口鉢	7-9-2	R-c24	SD5290	口縁部 2/12	37.8	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	にぶい褐	
1112	201-2	陶器（常滑）	片口鉢	7-9-2	R-c24	SD5290	口縁部 1/12	37.2	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	灰褐	
1113	202-2	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SD5291	口縁～胴部 1/12	21.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
1114	203-1	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SD5291	口縁～胴部 2/12	27.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
1115	202-4	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SD5291	口縁～胴部 2/12	25.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
1116	202-3	土師器	鍋	7-9-2	R-c25	SD5291	口縁～胴部 1/12	26.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
1117	202-1	土師器	茶釜形鍋	7-9-2	R-c25	SD5291	口縁～肩部 6/12	13.6	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
1118	210-2	土師器	杯	7-9-2		SD5298	2/12	15.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
1119	210-1	土師器	杯	7-9-2		SD5298	5/12	15.0	-	2.9	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	口縁部に油煙付着
1120	210-3	土師器	杯	7-9-2		SD5298	6/12	13.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい褐	
1121	265-4	土師器	杯	7-9-2		SD5298	底部片	-	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	底部外面に墨書 「戊亥」
1122	265-5	土師器	杯	7-9-2		SD5298	底部小片	-	-	-		密	-	にぶい橙	底部外面に墨書
1123	209-1	土師器	甕	7-9-2		SD5298 下層	5/12	-	-	-	内：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	
1124	208-2	土師器	甕	7-9-2	T-c1	SD5298	口縁～胴部 1/12	12.6	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1125	209-5	灰釉陶器	椀	7-9-2		SD5298	底部 5/12	-	6.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	やや良	灰白	
1126	208-3	灰釉陶器	椀	7-9-2	T-c1	SD5298	底部 4/12	-	7.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、灰釉ﾌｶｶﾞｹ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	黄灰	
1127	210-4	土製品	加工円盤	7-9-2		SD5298	完形	長 5.6	幅 5.0	厚 1.2	打ち欠き後、側面を研磨	やや粗	良	褐灰	48.70g 常滑製品を転用
1128	228-6	土製品	土製支脚	7-9-4	V-c9	SD5327	一部欠損	-	幅 4.0	厚 3.6	ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1129	228-4	陶器（常滑）	片口鉢	7-9-4	V-c9	SD5327	1/12	28.8	10.0	9.7	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	褐灰	内面使用による磨耗
1130	228-5	土師器	鍋	7-9-4	V-c9	SD5327	口縁部小片	-	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1131	228-7	土製品	加工円盤	7-9-4	V-c9	SD5327	完形	長 5.7	幅 5.4	厚 1.6	打ち欠き	密	良	灰黄褐	常滑製品を転用
1132	204-3	土師器	小皿	7-9-2	T-c2	SD5297	完形	6.0	-	0.9	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1133	205-1	土師器	小皿	7-9-2	T-c2	SD5297	完形	5.9	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	口縁部に油煙付着
1134	206-5	土師器	小皿	7-9-2	T-c3	SD5297	5/12	6.4	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	橙	
1135	205-2	土師器	小皿	7-9-2	T-c2	SD5297	完形	6.0	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1136	205-7	土師器	小皿	7-9-2	T-c3	SD5297	6/12	6.7	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1137	206-6	土師器	小皿	7-9-2	T-c3	SD5297	4/12	6.5	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
1138	206-4	土師器	小皿	7-9-2	T-c3	SD5297	完形	6.7	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	橙	
1139	204-4	土師器	皿	7-9-2	T-c2	SD5297	完形	7.4	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1140	207-4	土師器	皿	7-9-2	T-c2	SD5297	9/12	8.2	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
1141	207-5	土師器	皿	7-9-2	T-c2	SD5297	7/12	7.6	-	1.4	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1142	204-5	土師器	皿	7-9-2	T-c2	SD5297	完形	8.0	-	1.2	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1143	205-3	土師器	皿	7-9-2	T-c2	SD5297	3/12	8.0	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1144	205-4	土師器	皿	7-9-2	T-c2	SD5297	8/12	8.1	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1145	204-6	土師器	皿	7-9-2	T-c2	SD5297	完形	8.0	-	1.1	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1146	204-2	土師器	皿	7-9-2	T-c2	SD5297	10/12	9.3	-	1.8	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
1147	205-5	土師器	椀	7-9-2	T-c2	SD5297	口縁部 3/12	9.7	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
1148	205-6	土師器	椀	7-9-2	T-c3	SD5297	底部 6/12	-	4.6	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
1149	207-1	陶器（常滑）	片口鉢	7-9-2	T-c3	SD5297	口縁部小片	-	-	-	内：摺目５条 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	浅黄橙	
1150	206-3	土師器	鍋	7-9-2	T-c2	SD5297	口縁～胴部 3/12	21.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1151	206-2	土師器	鍋	7-9-2	T-c3	SD5297	口縁～胴部 3/12	21.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1152	207-2	土師器	鍋	7-9-2	T-c3	SD5297	口縁～胴部 2/12	21.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1153	208-1	土師器	鍋	7-9-2	T-c2	SD5297	口縁～胴部 4/12	24.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1154	204-1	土師器	鍋	7-9-2	T-c2	SD5297	3/12	24.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1155	207-3	土師器	鍋	7-9-2	T-c2	SD5297	口縁～胴部 1/12	29.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1156	206-1	土師器	鍋	7-9-2	T-c3	SD5297	3/12	36.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1157	213-1	土師器	鍋	7-9-2	T-c2	SD5306	口縁～胴部 2/12	33.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1158	213-2	土師器	鍋	7-9-2	T-c2	SD5306	口縁～胴部 3/12	37.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1159	212-3	土師器	鍋	7-9-2	T-c2	SD5306	口縁～胴部 2/12	39.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1160	214-1	土師器	羽釜形鍋	7-9-2	T-c2	SD5306	口縁～胴部 1/12	35.5	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
1161	215-2	土師器	鍋	7-9-2	T-c2	SD5306	口縁～胴部 4/12	26.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1162	214-2	土師器	鍋	7-9-2	T-c2	SD5306	口縁～胴部 3/12	29.0	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰褐	
1163	212-2	土師器	鍋	7-9-2	T-c2	SD5306	口縁～胴部 2/12	28.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1164	216-2	土師器	小皿	7-9-2	T-c2	SD5306	7/12	6.3	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1165	215-3	陶器（常滑）	片口鉢	7-9-2	T-c2	SD5306	口縁部小片	-	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：板ﾅﾃﾞ	密	良	灰褐	
1166	227-4	土師器	皿	7-9-4	T-c20	SD5320	4/12	9.4	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1167	227-5	陶器（瀬戸美濃）	天目茶椀	7-9-4	T-c20	SD5320	2/12	11.4	-	-	内：鉄釉 外：ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ、鉄釉、高台は露胎	密	良	黒	
1168	225-7	陶器（常滑）	甕	7-9-4	T-c20	SD5320	底部 2/12	-	9.2	-	内：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ	密	良	黄灰	
1169	227-2	土師器	鍋	7-9-4	T-c20	SD5320	口縁～胴部 2/12	18.7	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1170	227-3	土師器	鍋	7-9-4	T-c20	SD5320	口縁～胴部 1/12	19.2	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1171	246-3	土師器	鍋	7-9-4	T-c20	SD5320	5/12	18.4	-	6.0	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1172	230-1	土師器	茶釜形鍋	7-9-4	T-c20	SD5320	口縁～胴部 10/12	13.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1173	229-1	土師器	鍋	7-9-4	T-c20	SD5320	3/12	39.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1174	226-1	土師器	鍋	7-9-4	T-c20	SD5320	口縁～胴部 1/12	33.4	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1175	226-2	土師器	鍋	7-9-4	T-c20	SD5320	口縁～胴部 1/12	31.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1176	227-1	土師器	甑	7-9-4	T-c20	SD5320	口縁部 2/12	21.2	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	混入遺物
1177	229-2	土師器	鍋	7-9-4	T-c20	SD5320	8/12	24.5	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1178	226-3	土師器	鍋	7-9-4	T-c20	SD5320	口縁～胴部 1/12	28.1	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1179	90-8	土師器	杯	5-3-2		SR5080 上層	1/12	14.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1180	90-7	土師質土器	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 6/12	-	7.1	-	磨耗のため調整不明	密	-	にぶい褐	
1181	83-6	土師質土器	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 3/12	-	6.7	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	-	浅黄橙	
1182	266-1	山茶碗	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 3/12	-	6.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
1183	90-5	灰釉陶器	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 4/12	-	8.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1184	83-4	灰釉陶器	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 2/12	-	7.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1185	81-2	山茶碗（渥美）	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 8/12	-	7.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	やや不良	灰白	
1186	85-2	山茶碗（渥美）	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 7/12	-	7.8	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1187	85-4	山茶碗（渥美）	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 12/12	-	7.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1188	90-6	山茶碗（渥美）	椀	5-3-2		SR5080	底部 4/12	-	6.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1189	83-5	山茶碗（渥美）	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 1/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1190	85-1	山茶碗（渥美）	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 12/12	-	6.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1191	85-3	山茶碗（渥美）	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 8/12	-	6.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1192	81-4	土製品	加工円盤	5-3-2		SR5080 上層	小片	-	-	-	打ち欠き	密	良	灰	須恵器甕を加工
1193	82-1	山茶碗（渥美）	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 12/12	-	5.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	加工円盤に転用
1194	81-5	山茶碗（渥美）	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 12/12	-	7.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	加工円盤に転用
1195	81-3	白磁（中国）	椀	5-3-2		SR5080 上層	底部 12/12	-	7.4	-	内：施釉 外：施釉、削出高台	密	良	灰白	加工円盤に転用
1196	89-2	土師器	杯	5-3-2		SR5080 下層	3/12	13.4	-	2.6	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1197	266-2	土師器	杯	5-3-2	G-c8	SR5080 灰色ｼﾙﾄ	1/12	16.3	-	3.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	底部外面に墨書
1198	82-4	灰釉陶器	椀	5-3-2	G-c10	SR5080 中層	底部 3/12	-	7.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	黄灰	
1199	83-1	山茶碗（渥美）	椀	5-3-2	G-d11, 12	SR5080 中層	底部 5/12	-	7.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1200	83-2	山茶碗（渥美）	椀	5-3-2	G-d11, 12	SR5080 中層	底部 11/12	-	6.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1201	82-2	土師器	甕	5-3-2	G-c10	SR5080 中層	口縁部 1/12	14.8	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1202	83-3	土師器	甕	5-3-2	G-d11, 12	SR5080 中層	口縁部 1/12	19.8	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	黒	
1203	91-2	志摩式製塩土器		5-3-2	G-c11	SR5080 中層	2/12	14.0	14.1	5.7	ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	橙	
1204	91-3	志摩式製塩土器		5-3-2	G-c8	SR5080 中層	1/12	14.6	15.0	6.4	ｵﾋｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	橙	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
1205	82-6	土製品	紡錘車	5-3-2	G-c10	SR5080 中層	完形	径 2.75	-	2.6	ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	15.63 g
1206	89-5	土師器	杯	5-3-2		SR5080 下層	2/12	13.8	-	3.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1207	90-2	土師器	杯	5-3-2		SR5080 下層	2/12	15.2	-	3.2	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄褐	
1208	90-1	土師器	杯	5-3-2		SR5080 下層	3/12	13.4	-	2.8	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1209	89-6	土師器	杯	5-3-2		SR5080 下層	2/12	14.9	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
1210	86-2	土師器	杯	5-3-2	G-c8	SR5080	1/12	15.2	-	2.9	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
1211	90-4	土師器	杯	5-3-2		SR5080 下層	3/12	16.4	-	-	内：暗文、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰黄褐	
1212	90-3	土師器	皿	5-3-2		SR5080 下層	1/12	16.0	-	2.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1213	89-3	土師器	皿	5-3-2		SR5080 下層	3/12	18.4	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
1214	89-4	土師器	皿	5-3-2		SR5080 下層	3/12	19.2	-	2.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1215	89-1	土師器	鉢	5-3-2		SR5080 下層	4/12	23.6	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
1216	88-1	土師器	鉢	5-3-2		SR5080 下層	4/12	22.4	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄橙	
1217	88-2	土師器	鉢	5-3-2		SR5080 下層	3/12	19.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
1218	85-6	須恵器	壺	5-3-2	G-c9	SR5080	ほぼ完形	4.0	3.5	9.9	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1219	87-3	須恵器	壺	5-3-2		SR5080 下層	肩～底部 10/12	-	6.3	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	灰	
1220	87-2	須恵器	壺	5-3-2		SR5080 下層	胴～底部 11/12	-	8.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ、糸切り痕	密	良	灰	
1221	88-3	須恵器	壺	5-3-2		SR5080 下層	肩～底部 10/12	-	11.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	灰白	
1222	81-1	陶器	鉢	5-4		SR5080 上層	口縁部 1/12	36.4	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ、錆釉 外：ﾖｺﾅﾃﾞ、錆釉	密	良	にぶい赤褐	
1223	80-3	土師器	杯	5-4	A-t19	SR5080 暗灰色ｼﾙﾄ	4/12	13.7	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	
1224	80-4	土師器	杯	5-4	A-t19	SR5080 暗灰色ｼﾙﾄ	2/12	15.8	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
1225	80-5	土師器	杯	5-4	A-t19	SR5080 暗灰色ｼﾙﾄ	2/12	13.3	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1226	262-2	土師器	杯	5-4		SR5080 暗灰色ｼﾙﾄ	1/12	13.8	-	2.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	橙	底部外面に墨書
1227	86-4	土師器	杯	5-4	A-w20	SR5080	完形	16.3	-	3.6	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	底部内外に刻書
1228	261-8	土師器	杯	5-4		SR5080 暗灰色ｼﾙﾄ	底部小片	-	-	-	不明	密	-	にぶい橙	底部外面に墨書
1229	261-7	土師器	杯	5-4		SR5080 暗灰色ｼﾙﾄ	底部小片	-	-	-	不明	密	-	にぶい橙	底部外面に墨書
1230	84-5	土師器	杯	5-4	A-t19	SR5080 暗灰色ｼﾙﾄ	1/12	12.7	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	口縁部に油煙付着 底部内面にヘラ描き
1231	82-5	土師器	杯	6-2	K-t12	SR5080 下層	5/12	12.8	-	2.6	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	褐	底部内面にヘラ描き
1232	84-1	土師器	鍋	6-2	K-u12	SR5080 上層	口縁部小片	-	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい黄褐	
1233	84-3	灰釉陶器	椀	6-2	K-u12	SR5080 上層	底部 3/12	-	6.5	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰	
1234	85-5	山茶碗（尾張）	椀	7-6		SR5080 上層	底部 5/12	-	7.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1235	84-2	山茶碗（渥美）	椀	6-2	K-u12	SR5080 上層	底部 5/12	-	8.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1236	84-4	山茶碗（渥美）	椀	6-2	K-t12	SR5080 上層	底部 3/12	-	7.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1237	83-7	山茶碗（渥美）	椀	6-2	K-u12	SR5080 上層	底部 3/12	-	8.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1238	265-7	山茶碗（尾張）	椀	7-6		SR5080 上層	底部 1/12	-	7.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	底部外面に墨書
1239	91-1	土師器	甕	7-6		SR5080 中層	口縁～胴部 3/12	17.7	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	褐灰	
1240	86-1	土師器	甕	7-6		SR5080 上層	口縁部 1/12	24.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい褐	
1241	263-4	土師器	皿	7-8		SR5080 暗灰色ｼﾙﾄ	7/12	15.8	-	2.6	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	底部外面に墨書「継」 取上時 SR5315
1242	266-3	土師器	杯	7-8		SR5080 暗灰色ｼﾙﾄ	2/12	12.8	-	3.1	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	底部外面に墨書 取上時 SR5315
1243	264-2	土師器	皿	7-8		SR5080 暗灰色ｼﾙﾄ	9/12	16.6	-	2.0	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	底部外面に刻書 取上時 SR5315
1244	233-3	土師器	甕	7-8	Q-wx11	SR5080	口縁部 2/12	15.2	-	-	内：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	取上時 SR5315
1245	242-3	土師器	鉢	7-8	Q-wx11	SR5080	2/12	22.8	-	-	内：板ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	灰白	取上時 SR5315
1246	247-1	土師器	小皿	1		表土	完形	10.3	-	1.9	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	-	浅黄橙	
1247	250-5	土師器	杯	1		表土	3/12	13.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
1248	250-6	土師器	杯	1		表土	1/12	15.0	-	3.3	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい黄橙	底部外面に墨書「継」
1249	250-4	土師器	杯	1		表土	1/12	13.2	-	3.4	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	淡黄	
1250	245-3	土師器	小皿	7-9-2	T-c2	包含層	8/12	6.1	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1251	245-4	土師器	小皿	7-9-2	T-c2	包含層	3/12	8.0	-	1.0	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1252	245-1	土師器	小皿	6-2	K-s12	包含層	10/12	7.3	-	1.0	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	橙	口縁部に油煙付着
1253	245-2	土師器	小皿	7-9-2	T-c2	包含層	10/12	7.8	-	1.3	内：ﾅﾃﾞ 外：ｵｻｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	
1254	244-2	山茶碗（渥美）	椀	7-5	O-v17	包含層	底部 5/12	-	7.1	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	明赤灰	
1255	244-1	山茶碗（渥美）	椀	7-5	O-v17	包含層	底部 10/12	-	7.7	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1256	248-3	山茶碗（尾張）	椀	5-2	G-r11	包含層	底部 11/12	-	8.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1257	243-5	灰釉陶器	瓶	7-9-2	R-c20	包含層	底部 2/12	-	10.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛｹｽﾞﾘ	密	良	明紫灰	
1258	244-5	陶器（古瀬戸）	大皿	7-9-2	R-d25	包含層	口縁部小片	-	-	-	内：灰釉 外：灰釉	やや密	良	灰白	
1259	248-2	陶器（古瀬戸）	椀	7-9-2	R-c19	包含層	底部 12/12	-	4.2	-	内：灰釉 外：削出高台、灰釉	密	良	灰白	
1260	243-4	陶器（瀬戸美濃）	天目茶椀	7-9-2	T-c2	包含層	底部 12/12	-	4.1	-	内：鉄釉 外：削出高台、錆釉	密	良	にぶい赤褐	加工円盤に転用
1261	243-1	陶器（常滑）	甕	7-9-2	R-c20	包含層	口縁部 2/12	21.2	-	-	内：ｵｻｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	赤褐	

NO	実測番号	種類（産地）	器種	調査区	地区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴 施釉（古代の緑釉・灰釉は省略）	胎土	焼成	色調（外面）	特記事項
								口径	底径	器高					
1262	243-2	陶器（常滑）	片口鉢	7-9-2	R-d24	包含層	口縁部小片	-	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓﾃｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	浅黄橙	201-1 と接合
1263	248-1	陶器（常滑）	片口鉢	7-9-2	R-c25	包含層	口縁部 2/12	34.2	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓﾃｴ、ﾖｺﾅﾃﾞ	密	良	褐灰	
1264	250-3	青磁（中国）	椀	7-5	O-v11	包含層	口縁部 1/12	15.6	-	-	内：施釉 外：施釉、蓮弁文	密	良	灰	
1265	244-4	青磁（中国）	椀	7-9-2	T-c2	包含層	口縁部 1/12	12.7	-	-	内：施釉 外：施釉、蓮弁文	密	良	灰白	
1266	244-3	青磁（中国）	椀	7-8	Q-s11	包含層	底部 10/12	-	4.9	-	内：施釉、陰刻花文 外：施釉、削出高台（畳付は露胎）	密	良	明緑灰	
1267	245-5	土製品	土錘	1-3	I-y9	包含層	完形	長 6.1	径 2.1	-	ｵﾓﾃｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	25.53g
1268	245-6	土製品	土錘	2-3	D-r14	包含層	一部欠損	長 4.6	径 1.8	-	ｵﾓﾃｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	11.01g
1269	245-7	土製品	土錘	2-2		表土	一部欠損	長 5.1	径 1.8	-	ｵﾓﾃｴ、ﾅﾃﾞ	密	-	にぶい橙	10.98g
1544	9-6	土師質土器	皿	大角遺跡		Pit4	底部 2/12	-	6.0	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	-	灰白	
1545	9-1	土師質土器	皿	大角遺跡		SD1	5/12	10.4	4.7	1.7	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	-	灰黄	
1546	9-2	土師質土器	皿	大角遺跡		SD1	底部 10/12	-	3.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	-	浅黄橙	
1547	9-5	土師質土器	皿	大角遺跡		SD1	底部 12/12	-	4.2	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	-	にぶい橙	
1548	9-4	土師器	鍋	大角遺跡		SD1	口縁部小片	-	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓﾃｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄褐	
1549	8-3	土師質土器	椀	大角遺跡		SD1	口縁部 1/12	17.4	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	-	灰白	
1550	8-5	灰釉陶器	椀	大角遺跡		SD1	口縁部小片	-	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
1551	8-2	灰釉陶器	椀	大角遺跡		SD1	底部 3/12	-	6.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
1552	8-6	灰釉陶器	椀	大角遺跡		SD1	口縁部小片	-	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	ｵﾘｰﾌﾞ黄	輪花
1553	8-1	山茶碗（渥美）	椀	大角遺跡		SD1	5/12	16.5	6.6	5.3	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰白	
1554	8-4	陶器	鉢	大角遺跡		SD1	口縁部 1/12	27.2	-	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	密	良	灰白	
1556	9-3	土師器	小皿	大角遺跡		包含層	3/13	8.8	-	1.5	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓﾃｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	灰黄	
1557	10-1	土師質土器	台付皿	大角遺跡		包含層	底部 12/12	-	3.6	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	やや密	-	浅黄	
1558	10-2	土師器	杯	大角遺跡		表採	口縁部 1/12	12.0	-	-	内：ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ｵﾓﾃｴ、ﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	にぶい橙	
1559	10-5	土師質土器	椀	大角遺跡		表採	底部 1/12	-	11.0	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	淡黄	
1560	10-3	土師器	甕	大角遺跡		表採	口縁部 1/12	14.0	-	-	内：ﾖｺﾅﾃﾞ 外：ﾊｹ、ﾖｺﾅﾃﾞ	やや密	-	浅黄橙	
1561	10-4	灰釉陶器	椀	大角遺跡		表採	底部 3/12	-	8.4	-	内：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、糸切り痕	密	良	灰 ｵﾘｰﾌﾞ	

②石製品

NO	実測番号	器種	調査区	地区	遺構・層位	法量（cm）			石材	重量（g）	特記事項
						長	幅	厚さ			
105	52-1	敲石	1-2	I-t11	SD5019	9.8	5.5	7.2	安山岩	470	敲打痕 2 ヶ所
106	252-2	RF	5-2	G-L12	SD5148	3.8	7.2	1.3	サヌカイト	27.8	
189	251-3	砥石	2-1	D-v17	Pit3	8.4	3.95	1.7	ホルンフェルス	70.5	#600 細目
190	252-4	砥石	7-5	O-v14	Pit16	6.6	3.0	1.1	泥岩	36.6	#1000 極細目、側面・小口ノコギリ痕、鳴滝砥か
191	251-2	砥石	7-5	O-u10	Pit1	8.2	5.4	3.8	凝灰岩	209.6	#600 細目、ノミ痕
231	251-4	砥石	3-2	B-g13	SE5008 曲物内	8.5	5.8	8.8	砂岩	674	#80 粗目
423	112-5	砥石	5-2	G-g11	SE5135	9.3	5.8	2.8	砂岩	134.3	#120 中目
507	216-5	砥石	7-9-4	T-c25	SE5305 曲物内	6.2	5.0	1.9	凝灰岩	96.9	#1000 極細目
949	251-5	砥石	5-2	G-q12	SD5148	7.7	7.1	10.7	凝灰質砂岩	810	#80 粗目、被熱
1034	252-1	砥石	7-9-1	R-c14	SD5279	19.6	14.0	3.5	緑色片岩	1700	#120 中目
1270	252-3	砥石	6-1	K-d6	包含層	6.4	2.5	3.4	凝灰岩	67.3	#1000 極細目

③金属製品

NO	実測番号	器種	調査区	地区	遺構・層位	法量（cm）				重量（g）	特記事項
						長	幅	厚さ			
1271	M1-2	鉄製品　釘	7-7	Q-s4	Pit1	4.4	0.7	0.6		4.0	
1272	M1-7	鉄製品　釘	7-5	O-u10	Pit3	7.0	0.5	0.4		5.6	
1273	M1-6	鉄製品　釘	7-5	O-u9	Pit3	3.5	0.6	0.5		2.3	
1274	M1-3	鉄製品　釘	6-2	K-o12	Pit1	7.4	1.5	0.8		11.9	
1275	M1-5	鉄製品　釘	1-3	I-xy9	SE5067 上層	4.1	0.7	0.6		6.5	
1276	M1-9	鉄製品　釘	3-2	B-b11	SE5015 上層	4.6	0.7	0.8		6.4	
1277	M1-8	鉄製品　釘	8-1	L-d7	SE5194 上層	6.2	0.5	0.4		2.8	
1278	M1-4	鉄製品　釘	8-1	G-d22	SK5207	5.9	0.5	0.5		4.6	
1279	M1-1	鉄製品　棒状具	5-2	G-p12	SD5148	5.1	1.6	0.6		7.7	
1280	M2-6	銭貨	7-9-1	R-d12	Pit2	径 2.3				2.7	判読不能
1281	M2-5	銭貨（天聖元宝）	7-9-1	R-d12	Pit2	径 2.4				3.0	
1282	M2-2	銭貨（淳熙元宝）	7-4	O-w7	Pit2	径 2.2				1.8	背月星
1283	M2-7	銭貨（開元通宝）	7-9-4	T-c14	SD5294	径 2.3				2.8	
1284	M2-4	銭貨（熙寧元宝）	7-7	Q-s4	SK5253	径 2.3				1.9	
1285	M2-8	銭貨（嘉祐通宝）	7-9-4	T-c14	SD5294	径 2.4				3.0	
1286	M2-1	銭貨（皇宋通宝）	7-5	O-v13	SK5227 上層	径 1.9				2.0	
1287	M2-3	銭貨（開元通宝）	7-7	Q-rS4	包含層	径 2.4				2.0	

④木製品

NO	実測番号	器種	調査区	地区	遺構層位	取上NO	法量（cm）			加工痕・観察所見	継手仕口	樹種	木取り	特記事項
							長／径	幅／高	厚					
1288	2004-3	井戸枠材（横板）	3-2	B-g13	SE5008	W 外ﾖｺ 1	86.8	9.4	1.5	加工不明		スギ	板目	
1289	2003-1	井戸枠材（土居桁）	3-2	B-g13	SE5008	E 下ﾖｺ	88.4	10.0	3.5	加工不明	両端：枘穴 2 側面：枘穴 1	スギ	板目	
1290	2003-2	井戸枠材（土居桁）	3-2	B-g13	SE5008	W 外ﾖｺ 3	89.3	11.8	3.7	加工不明	両端：枘穴 2 側面：枘穴 1	スギ	板目	
1291	2004-1	井戸枠材（土居桁）	3-2	B-g13	SE5008	S 下ﾖｺ	86.8	10.6	4.3	主面は加工なし	両端：枘	スギ	板目	
1292	2004-2	井戸枠材（土居桁）	3-2	B-g13	SE5008	N 下ﾖｺ	87.8	10.0	3.3	主面は加工なし	両端：枘 側面：枘穴 1	スギ	板目	
1293	2006-1	井戸枠材（土居桁）	3-2	B-g13	SE5008	W 内ﾖｺ 1	57.0	8.0	2.2	加工不明	枘穴 1 エツリ穴 3	スギ	板目	建築部材転用か
1294	2005-1	井戸枠材（縦板）	3-2	B-g13	SE5008	W ﾀﾃ 1	38.0	55.5	3.5	加工不明	枘穴 1	モミ属	中杢目	建築部材転用
1295	2005-2	井戸枠材（縦板）	3-2	B-g13	SE5008	E ﾀﾃ 2	60.3	26.3	4.0	木口：ﾉｺｷﾞﾘ	扉軸 側面：枘穴 1	ヒノキ	板目	建築部材転用（扉板）
1296	2037-1	杭	3-2	B-b11	SE5015		13.3	2.9	2.2	ﾉｺｷﾞﾘ、ﾁｮｳﾅ		スギ	割材	
1297	2037-2	杭	3-2	B-b11	SE5015		26.9	3.7	2.4	ﾉｺｷﾞﾘ、ﾁｮｳﾅ		スギ	割材	
1298	2038-1	杭	3-2	B-b11	SE5015		31.8	3.2	2.4	ﾉｺｷﾞﾘ、ﾁｮｳﾅ		スギ	割材	
1299	2048-4	杭	1-2	I-t11	SE5026		22.8	3.7	3.7	ﾉｺｷﾞﾘ、ﾁｮｳﾅ		スギ	割材	
1300	2047-1	井戸枠材（その他）	1-2	I-t11	SE5026		9.7	6.4	2.9	加工不明		スギ	割材	
1301	2001-3	井戸枠材（横板）	1-2	I-t11	SE5026	N4	58.0	11.5	3.5	加工不明		スギ	板目	
1302	2001-1	井戸枠材（土居桁）	1-2	I-t11	SE5026	W2	84.0	8.0	5.5	加工不明	欠込	スギ	割材	井戸枠材転用か
1303	2001-2	井戸枠材（土居桁）	1-2	I-t11	SE5026	E3	80.0	8.2	6.5	加工不明	欠込	スギ	割材	井戸枠材転用か
1304	2002-1	井戸枠材（土居桁）	1-2	I-t11	SE5026	S1	81.8	16.0	2.5	加工不明	相欠	スギ	板目	井戸枠材転用
1305	2002-2	井戸枠材（土居桁）	1-2	I-t11	SE5026	N1	92.5	9.5	3.5	加工不明	相欠	スギ	板目	井戸枠材転用
1306	1014-1	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W-15	50.2	12.3	1.4	加工不明			板目	樽板か
1307	1004-2	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W10	45.5	9.4	1.1	木口：ﾉｺｷﾞﾘ			板目	樽板か
1308	1003-3	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W7	45.6	9.5	1.1	木口：ﾉｺｷﾞﾘ			板目	樽板か
1309	1003-4	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W8	47.2	7.3	1.0	木口：ﾉｺｷﾞﾘ			柾目	樽板か
1310	1005-2	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W22	64.8	13.3	0.8	木口：ｵﾉ			板目	樽板か
1311	1006-1	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W23	54.4	14.8	1.0	木口：ｵﾉ			板目	樽板か
1312	1015-1	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W16	50.8	11.4	1.0	木口：ﾉｺｷﾞﾘ		スギ	板目	樽板か
1313	1004-4	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W11	71.0	4.4	0.7	加工なし			板目	樽板か
1314	1014-2	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W20	63.0	13.2	1.2	木口：ｵﾉ			板目	樽板か
1315	1003-2	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W6	56.7	11.0	1.2	木口：ﾉｺｷﾞﾘ			板目	樽板か
1316	1004-1	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W9	48.7	6.3	1.5	木口：ﾉｺｷﾞﾘ			板目	樽板か
1317	1004-3	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W13	39.0	9.4	0.6	木口：ﾉｺｷﾞﾘ			板目	樽板か
1318	1006-2	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W24	56.5	12.4	1.3	木口：ﾉｺｷﾞﾘ			板目	樽板か
1319	1012-1	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W12	53.4	15.4	1.0	木口：ｵﾉ		スギ	板目	樽板か
1320	1003-1	丸杭	1-3	I-x9	SE5067	W3	28.3	4.1	3.6	端部：ﾁｮｳﾅ		コナラ属 アカガシ亜属	芯持丸木	
1321	1012-2	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W14	40.8	19.1	0.9	木口：ﾉｺｷﾞﾘ		スギ	板目	樽板か
1322	1007-2	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W29	48.3	6.0	0.8	木口：ﾉｺｷﾞﾘ、主面：ﾔﾘｶﾞﾝﾅ			柾目	樽板か
1323	1007-1	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W26	49.1	12.3	0.9	木口：ﾉｺｷﾞﾘ、主面：ﾔﾘｶﾞﾝﾅ			柾目	樽板か
1324	1005-1	井戸枠材（縦板）	1-3	I-x9	SE5067	W18	47.5	12.6	1.4	木口：ｵﾉ、主面：ﾁｮｳﾅ		ヒノキ	板目	樽板か
1325	2026-1	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5187	W14	134.0	35.5	4.3	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		スギ	中杢目	建築部材転用か 1328 と同一母材？
1326	2024-1	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5187	W16	141.0	24.5	5.3	主面：加工なし、側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		スギ	柾目	1327・1330 と同一母材？
1327	2029-1	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5187	W15	141.0	24.2	4.8	主面：加工なし、側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ｵﾉ		スギ	柾目	
1328	2025-1	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5187	W18	139.3	35.8	5.0	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		スギ	中杢目	建築部材転用か 1325 と同一母材？
1329	2028-1	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5187	W19	139.7	25.3	3.7	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		スギ	追柾目	建築部材転用か
1330	2031-1	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5187	W20	147.5	21.2	4.5	主面・側面：大半が割肌で一部にﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		スギ	柾目	
1331	2021-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5187	W1	105.0	28.5	3.5	表面加工不明、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	枘穴 1、欠込 2 本核平矧ぎ	スギ	柾目	建築部材転用 1332 と同一母材
1332	2023-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5187	W9	105.0	29.3	4.0	側面：ﾁｮｳﾅ	枘穴 1、欠込 2 本核平矧ぎ	スギ	柾目	建築部材転用 1331 と同一母材
1333	2010-2	井戸枠材（横板）	8-1		SE5187	W2	120.9	24.0	3.7	主面：加工なし、側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ	欠込 2	スギ	柾目	1334 と同一母材
1334	2022-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5187	W10	121.5	23.0	4.5	主面：大半は割肌で一部にﾁｮｳﾅ、側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	欠込 2	スギ	柾目	1333 と同一母材
1335	2030-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5187	W4	113.5	31.5	4.7	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ、2 ヶ所に焦げ	枘穴 1 欠込 2	スギ	板目	建築部材転用 1336 と同一母材
1336	2027-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5187	W12	113.0	32.5	4.5	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	欠込 2	スギ	板目	建築部材転用 1335 と同一母材
1337	2019-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5187	W17	105.0	27.2	5.8	主面：ﾁｮｳﾅ、片面は割肌目立つ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ、扉軸孔は擦痕発達、円柱の欠き込み、複数の焦げあり	枘穴 4 扉軸穴 1	スギ	柾目	建築部材転用（閾） 1338 と同一母材
1338	2032-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5187	W13	105.3	29.0	8.9	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ、円柱の欠き込み、複数の焦げあり	枘穴 3 扉軸穴 1	スギ	柾目	建築部材転用（閾） 1337 と同一母材
1339	2009-1	井戸枠材（横桟）	8-1		SE5187	W5	129.2	10.5	3.6	表面加工不明、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	枘穴 1 欠込 2	スギ	割材	1340 と同一母材

NO	実測番号	器種	調査区	地区	遺構層位	取上NO	法量（cm）			加工痕・観察所見	継手仕口	樹種	木取り	特記事項
							長／径	幅／高	厚					
1340	2009-2	井戸枠材（横桟）	8-1		SE5187	W6	119.0	9.6	4.0	表面加工不明、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	欠込２	スギ	割材	1339 と同一母材
1341	2011-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5187	W11	105.7	16.4	4.5	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ	欠込２	スギ	柾目	1342 と同一母材
1342	2017-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5187	W3	105.4	16.5	4.2	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	欠込２	スギ	柾目	1341 と同一母材
1343	2010-1	井戸枠材（横桟）	8-1		SE5187	W8	117.7	14.1	3.0	主面:加工なし、側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ	欠込２	スギ	板目	1344 と同一母材
1344	2009-3	井戸枠材（横桟）	8-1		SE5187	W7	119.3	14.5	3.5	主面：加工なし、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ	欠込２	スギ	板目	1343 と同一母材
1345	2012-1	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5201	W7	108.2	24.3	5.2	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ｵﾉ		スギ	中杢目	建築部材転用（柱） 1350 と同一母材
1346	2014-1	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5201	W8	125.0	23.9	4.0	主面：大半が割肌、下端・側面のみﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		スギ	柾目	
1347	2033-1	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5201	W14	124.6	28.0	6.9	表面加工不明、木口：ｵﾉ、柱の面取り残る	楹穴	スギ	板目	建築部材転用（柱）
1348	2012-2	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5201	W11	122.0	24.8	5.5	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ｵﾉ、柱の面取り残る		スギ	柾目	建築部材転用（柱）
1349	2018-1	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5201	W10	108.0	25.0	5.5	主面：大半が割肌で一部にﾁｮｳﾅ、側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		スギ	柾目	
1350	2013-1	井戸枠材（縦板）	8-1		SE5201	W9	86.0	15.0	5.7	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ｵﾉ、柱の面取り残る	楹穴	スギ	芯去材	建築部材転用（柱） 1345 と同一母材
1351	2016-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5201	W1	128.6	19.3	4.0	表面加工不明、端部はﾁｮｳﾅで切断	欠込２	スギ	板目	
1352	2008-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5201	W2	92.4	19.5	5.0	主面：加工不明、方柱の欠き込み、端部はﾁｮｳﾅで切断	枘穴６ 扉軸穴１	スギ	板目	建築部材転用（閾）
1353	2020-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5201	W3	103.5	24.7	3.0	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ、端部はﾁｮｳﾅで切断	枘１	スギ	板目	建築部材転用か
1354	2034-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5201	W4	130.0	18.0	4.6	主面：加工不明、側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	枘１ 欠込２	スギ	柾目	建築部材転用か
1355	2007-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5201	W12	92.0	24.0	2.8	主面：加工不明、側面：ﾁｮｳﾅ、木口：ｵﾉ、端部はﾁｮｳﾅで切断		スギ	柾目	
1356	2015-1	井戸枠材（横板）	8-1		SE5201	W13	105.8	21.0	5.5	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、端部はﾁｮｳﾅで切断	枘穴３	スギ	柾目	建築部材転用（閾か）
1357	2006-2	井戸枠材（横桟）	8-1		SE5201	W5	81.5	10.0	2.5	主面：加工なし、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ	欠込２	スギ	板目	1358 と同一母材
1358	2006-3	井戸枠材（横桟）	8-1		SE5201	W6	81.5	10.0	3.0	主面：加工なし、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ	欠込２	スギ	板目	1357 と同一母材
1359	40-1	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W1	106.5	9.0	2.0	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ｵﾉ		スギ	柾目	1359 ～ 1372 は同一母材か
1360	40-2	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W2	120.6	11.3	3.1	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		スギ	柾目	
1361	41-1	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W3	122.5	11.7	2.7	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ｵﾉ		スギ	柾目	
1362	41-2	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W4	122.5	13.6	2.5	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		（スギ）	柾目	
1363	42-1	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W5	121.9	14.1	2.9	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ｵﾉ		（スギ）	柾目	
1364	42-2	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W6	124.5	12.5	2.3	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		（スギ）	柾目	
1365	43-1	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W7	121.1	14.3	3.7	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		（スギ）	柾目	
1366	43-2	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W8	116.7	12.4	2.8	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ｵﾉ		（スギ）	柾目	
1367	44-1	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W9	115.3	11.5	2.4	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ｵﾉ		（スギ）	柾目	
1368	44-2	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W10	117.8	13.3	2.5	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		（スギ）	柾目	
1369	45-1	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W11	113.2	9.0	3.0	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ｵﾉ		（スギ）	柾目	
1370	45-2	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W12	116.7	11.5	2.2	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		（スギ）	柾目	
1371	46-1	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W13	120.6	11.8	2.5	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ｵﾉ		（スギ）	柾目	
1372	46-2	井戸枠材（結物）	7-4		SE5218	W14	127.5	13.0	2.5	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ｵﾉ		（スギ）	柾目	
1373	47-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5319	W1	187.3	23.0	5.8	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		コウヤマキ	板目	線刻あり 1373 ～ 1381 は同一母材か
1374	48-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5319	W2	192.5	23.5	5.0	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		（コウヤマキ）	板目	
1375	49-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5319	W3	185.6	24.5	6.5	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		コウヤマキ	中杢目	線刻あり
1376	50-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5319	W4	198.1	26.1	5.5	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		（コウヤマキ）	板目	
1377	51-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5319	W5	194.6	23.7	6.0	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		（コウヤマキ）	中杢目	
1378	52-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5319	W6	187.2	23.0	6.2	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ、埋木１ヶ所あり		（コウヤマキ）	板目	線刻あり
1379	53-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5319	W7	186.0	23.5	5.5	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		（コウヤマキ）	板目	
1380	54-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5319	W8	185.4	23.2	5.8	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		（コウヤマキ）	板目	
1381	55-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5319	W9	203.0	23.4	6.5	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ		（コウヤマキ）	板目	線刻あり
1382	20-2	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W10	62.9	25.2	2.3	主面：ﾁｮｳﾅ、下端を薄く削ぐ	矢筈矧ぎ	ヒノキ	中板目	建築部材転用（床板等）
1383	20-1	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W9	88.9	24.4	3.0	主面：大半が割肌で一部ﾁｮｳﾅ、木口：ｵﾉ		ヒノキ	板目	
1384	1020-1	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W13	56.4	20.8	2.3	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、下端に半円形の欠き込み、木口：ｵﾉ		ヒノキ	板目	建築部材転用（床板等） 一部焦げあり
1385	19-1	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W4	63.1	30.9	2.5	主面：ﾁｮｳﾅ、木口：ｵﾉ、扇形の欠き込み		スギ	中板目	建築部材転用（床板等）
1386	21-1	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W11	59.6	28.6	2.0	主面：片面下端のみﾁｮｳﾅ、L字状の欠き込み		ヒノキ	中杢目	建築部材転用（床板等）
1387	22-1	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W20	70.8	34.8	3.0	主面：ﾁｮｳﾅ	矢筈矧ぎ 釘穴４	ヒノキ	中板目	建築部材転用（床板等）
1388	18-1	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W2	69.7	26.7	1.9	主面：片面下端のみﾁｮｳﾅ	矢筈矧ぎ	ヒノキ	中板目	建築部材転用（床板等）
1389	1018-1	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W8	34.4	9.1	1.1	主面：ﾁｮｳﾅ、木口：ｵﾉ		スギ	板目	榑板か
1390	1013-2	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W3	37.3	9.9	0.6	主面：ﾁｮｳﾅ		スギ	板目	榑板か
1391	1017-2	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W15	42.5	7.9	1.3	主面・側面：加工なし、木口：ｵﾉ		スギ	板目	榑板か

NO	実測番号	器種	調査区	地区	遺構層位	取上NO	法量（cm）			加工痕・観察所見	継手仕口	樹種	木取り	特記事項
							長／径	幅／高	厚					
1392	1013-1	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W1	40.0	9.6	1.1	主面・側面：加工なし、木口：ｵﾉ		スギ	板目	樽板か
1393	1017-1	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W5	26.6	12.7	2.2	加工なし		ヒノキ	板目	
1394	1018-2	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W14	62.3	8.3	1.5	主面：ﾁｮｳﾅ		スギ	板目	
1395	1022-1	井戸枠材（縦板）	7-9-4		SE5323	W26	59.3	4.8	1.6	加工不明		ヒノキ	柾目	
1396	1022-2	井戸枠材（土居桁）	7-9-4		SE5323 井戸枠内		66.1	5.6	3.2	加工不明	釘穴 1	ヒノキ	割材	井戸上部の土居桁材か
1397	1011-1	井戸枠材（土居桁）	7-9-4		SE5323	W22	71.0	6.3	4.0	側面：ﾁｮｳﾅ、木口・仕口：ﾉｺｷﾞﾘ	枘 2	コウヤマキ	割材	
1398	1019-1	井戸枠材（土居桁）	7-9-4		SE5323	W24	71.2	6.5	3.6	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、台ｶﾞﾝﾅ、木口・仕口：ﾉｺｷﾞﾘ	枘 2	コウヤマキ	割材	
1399	1016-1	井戸枠材（土居桁）	7-9-4		SE5323	W23	70.9	6.4	3.8	側面：ﾁｮｳﾅ、木口・仕口：ﾉｺｷﾞﾘ	枘 2	コウヤマキ	割材	
1400	1021-1	井戸枠材（土居桁）	7-9-4		SE5323	W25	71.2	5.7	3.6	主面・側面：ﾁｮｳﾅ、台ｶﾞﾝﾅ、木口・仕口：ﾉｺｷﾞﾘ	枘 2	コウヤマキ	割材	
1401	23-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W1	70.3	21.4	2.9	主面：ｵﾀﾞ、下端にﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	側面：木釘穴	（カヤ）	中板目	
1402	24-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W2	74.8	20.5	3.3	主面：ｵﾀﾞ、下端にﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	側面：木釘穴	（カヤ）	中板目	
1403	26-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W4	64.6	20.8	2.8	主面：ｵﾀﾞ、下端にﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	側面：木釘穴	カヤ	中板目	1401 ～ 1409、1418 は同一母材か、節が顕著
1404	25-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W3	74.9	21.5	3.0	主面：ｵﾀﾞ、下端にﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	側面：木釘穴	カヤ	中板目	
1405	27-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W5	69.9	21.7	2.9	主面：ｵﾀﾞ、下端にﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	側面：木釘穴	（カヤ）	中板目	
1406	28-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W6	73.2	19.9	2.8	主面：ｵﾀﾞ、下端にﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	側面：木釘穴	（カヤ）	中板目	
1407	29-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W7	67.9	20.8	2.5	主面：ｵﾀﾞ、下端にﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	側面：木釘穴	（カヤ）	中板目	
1408	30-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W8	70.1	20.9	2.9	主面：ｵﾀﾞ、下端にﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	側面：木釘穴	（カヤ）	中板目	
1409	31-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W9	76.0	21.4	3.0	主面：ｵﾀﾞ、下端にﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	側面：木釘穴	（カヤ）	中杢目	
1410	32-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W10	76.8	19.5	5.6	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ		スギ	柾目	1410 ～ 1417 は同一母材か
1411	33-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W11	79.0	12.0	5.5	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ｵﾉ		スギ	柾目	
1412	34-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W12	78.3	29.1	5.5	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ		（スギ）	中板目	
1413	35-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W13	77.0	19.4	5.2	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ		（スギ）	板目	
1414	36-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W14	78.2	20.5	5.2	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ		（スギ）	板目	
1415	37-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W15	78.4	26.5	5.6	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ		（スギ）	中板目	
1416	38-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W16	76.8	28.5	5.3	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ		（スギ）	中板目	
1417	39-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5328	W17	76.7	24.2	5.4	主面：ﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ・ｵﾉ		（スギ）	中杢目	
1418	56-1	井戸枠材（結物）	7-9-4		SE5326		173.5	21.0	3.0	主面：ｵﾀﾞ、下端にﾁｮｳﾅ、側面：台ｶﾞﾝﾅ、木口：ﾉｺｷﾞﾘ	側面：木釘穴 3 段	カヤ	中杢目	1401 ～ 1409 と同一母材か、節が顕著
1419	1001-1	曲物	1-3	I-x9	SE5067	W30	41.5	20.3	0.6	内面：ｹﾋﾞｷ（縦）	木釘穴 1	スギ	板目	
1420	4-1	曲物	5-2		SE5136	1	48.4	13.4	0.5	内面：ｹﾋﾞｷ（縦）		スギ	追柾目	
1421	7-1	曲物	1-3	I-x9	SE5067	W19	70.3	54.0	0.7	内面：ｹﾋﾞｷ（縦・斜）、箍・楔・側板を木釘で結合、楔 5 ヶ所		スギ	追柾目	ほぼ完存（箍 4 段）
1422	5-1	曲物	5-2		SE5136	2	43.5	31.5	1.0	外面：ﾔﾘｶﾞﾝﾅ、内面：ｹﾋﾞｷ（縦）	木釘穴 7	スギ	側：追柾目 箍：板目	完存（箍 3 段）
1423	17-1	曲物	8-1		SE5187	W24	48.2	33.5	0.5	内面：ｹﾋﾞｷ（縦・斜）		スギ	板目	箍欠損
1424	11-1	曲物	8-1		SE5187	W21	57.0	33.2	0.6	内面：ｹﾋﾞｷ（縦）、方形水入れ穴 2		スギ	追柾目	ほぼ完存（箍 2 段）
1425	6-1	曲物	8-1		SE5195	3	48.4	36.0	0.6	内面：ｹﾋﾞｷ（縦）、側板は上下を樺皮で結合	木釘穴 6	側板：スギ 楔：スギ	側：追柾目 箍：板目	
1426	3-1	曲物	8-1		SE5201	W15	52.5	34.5	0.5	内面：ｹﾋﾞｷ（縦）		スギ	板目	
1427	1002-1	曲物	1-3	I-x9	SE5067 曲物内		25.0	11.3	0.4	内面：ｹﾋﾞｷ（縦） 底板は填め込み		側：スギ 底：スギ	側：追柾目 底：板目	
1428	1010-2	曲物	8-1		SE5187	W22	23.0	7.5	0.4	内面：ｹﾋﾞｷ（縦） 釘結合曲物	木釘穴 4	側：ヒノキ 底：ヒノキ	側：柾目 底：柾目	
1429	1010-1	曲物	8-1		SE5187	W23	22.5	8.7	0.3	内面：ｹﾋﾞｷ（縦・斜） 釘結合曲物	木釘穴 5	側：ヒノキ 底：スギ	側：追柾目 底：追柾目	箍はスギ製で後補か
1430	2-1	曲物	8-1		SE5201	W17	49.4	8.5	0.4	内面：ｹﾋﾞｷ（縦）		スギ	板目	1431 の箍か
1431	1-1	曲物	8-1		SE5201	W16	48.7	15.7	0.5	内面：ｹﾋﾞｷ（縦）		スギ	追柾目	
1432	12-1	曲物	7-4		SE5218	W15	38.0	18.7	0.5	木釘穴は箍まで貫通せず、箍は後補か。	木釘穴 2	ヒノキ	柾目	完存（箍 2 段）
1433	13-1	曲物	7-9-4		SE5316	2	36.9	20.5	0.6	内面：ｹﾋﾞｷ（縦・斜）、側板を 3 枚重ね補修、木釘穴は貫通せず。	木釘穴 20 木釘穴 3	ヒノキ	柾目	
1434	9-1	曲物	7-9-4		SE5317		44.5	20.0	0.5	内面：ｹﾋﾞｷ（縦）		ヒノキ	柾目	外面に焦げあり
1435	16-1	曲物	7-9-4		SE5319		41.8	28.4	0.5	内面：ｹﾋﾞｷ（縦・斜）、下部に円形水入れ穴 10		ヒノキ	柾目	
1436	15-1	曲物	7-9-4	T-c25	SE5305		45.5	28.5	0.8	内面：ｹﾋﾞｷ（縦・斜）、箍・側板結合穴 1		ヒノキ	側：柾目 箍：柾目	ほぼ完存（箍 3 段） 曲物使用時は天地逆
1437	14-1	曲物	7-9-4		SE5323		46.5	34.0	0.7	内面：ｹﾋﾞｷ（縦・斜）	結合穴 8	ヒノキ	柾目	完存（箍 2 段）
1438	10-1	曲物	7-9-4		SE5325		39.0	36.2	0.6	内面：ｹﾋﾞｷ（縦・斜）、箍・側板緊縛用の補修孔 4	木釘穴 12	ヒノキ	柾目	完存（箍 3 段） 内面に黒色塗布物
1439	1008-1	曲物	7-9-4		SK5312		24.3	13.5	2.0	内面：ｹﾋﾞｷ（縦・斜）、底板：ﾔﾘｶﾞﾝﾅ、木釘で補修、釘結合曲物	木釘穴 6	側：ヒノキ 底：ヒノキ	側：柾目 底：柾目	
1440	1009-1	曲物	7-9-4	T-c14	SK5312 下層	W1	22.5	15.5	0.4	内面：ｹﾋﾞｷ（縦）、底板：ﾔﾘｶﾞﾝﾅ 底板は填め込み		側：ヒノキ 底：ヒノキ	側：追柾目 底：追柾目	
1441	2039-4	曲物（底板）	8-1		SE5201		13.3	-	1.0	ﾔﾘｶﾞﾝﾅ		スギ	柾目	
1442	2035-2	曲物（底板）	7-8	Q-wx11	SR5080 (SR5315)		16.5	-	1.0	ﾔﾘｶﾞﾝﾅ	木釘穴 4	ヒノキ	追柾目	
1443	2045-2	曲物（底板）	5-4	A-x20	SR5080		12.9	-	1.0	ﾔﾘｶﾞﾝﾅ	木釘穴 4	ヒノキ	柾目	

NO	実測番号	器種	調査区	地区	遺構層位	取上NO	法量（cm）			加工痕・観察所見	継手仕口	樹種	木取り	特記事項
							長／径	幅／高	厚					
1444	2047-2	曲物（底板）	7-9-1	R-c14	SR5080（SD5279）		15.4	-	0.5			ヒノキ	柾目？	腐食激しい
1445	2057-1	曲物（底板）	7-9-4	T-c25	SE5305		19.0	-	0.8	ﾔﾘｶﾞﾝﾅ		ヒノキ	柾目	
1446	2057-2	曲物（底板）	7-9-4	T-c25	SE5305		19.8	-	0.8			ヒノキ	柾目	
1447	2051-2	曲物（底板）	7-9-4		SE5319		21.8	-	0.8	細かい刃傷		ヒノキ	柾目	
1448	2050-3	曲物（底板）	7-9-4		SE5325		20.0	-	1.2	ﾔﾘｶﾞﾝﾅ		ヒノキ	柾目	
1449	2043-1	曲物（底板）	7-9-4		SE5323 最下層		19.2	-	1.3	ﾔﾘｶﾞﾝﾅ	木釘穴 4	ヒノキ	柾目	
1450	2051-1	曲物（底板）	7-9-4		SE5319		20.5	-	0.8	ﾔﾘｶﾞﾝﾅ	木釘穴 2	ヒノキ	柾目	
1451	2041-2	曲物（底板）	7-7	Q-s3	SK5247		23.4	-	1.5			スギ	柾目	
1452	2058-1	曲物（底板）	7-9-4	V-c3	SE5319		18.0	-	0.9			ヒノキ	柾目	
1453	2051-3	曲物（底板）	7-9-4		SE5319		18.5	-	1.0			ヒノキ	柾目	
1454	2036-1	曲物（底板）	7-8	Q-wx11	SR5080（SR5315）		37.7	-	1.8	裏面に細かい刃傷あり	紐結合穴	アスナロ属	柾目	
1455	2035-1	曲物（底板）	7-8	Q-wx11	SR5080（SR5315）		13.3	-	0.8	線刻あり		スギ	柾目	
1456	2041-1	曲物（底板）	7-8	R-c11	SK5278		9.3	-	0.8	ﾔﾘｶﾞﾝﾅ		ヒノキ	柾目	
1457	1008-2	曲物蓋	7-9-4		SK5312		24.0	-	1.1	縁辺に焦げ、両面とも細かい刃傷多数あり	紐結合穴 4	ヒノキ	柾目	蓋の天板
1458	2046-1	曲物（底板）	1-3	I-xy9	SE5067		20.6	-	0.8	木釘で補修		スギ	柾目	
1459	2045-4	曲物（底板）	1-3	I-xy9	SE5067		18.6	-	1.0	ﾔﾘｶﾞﾝﾅ		スギ	板目	
1460	2040-1	方形曲物（底板）	5-2	G-f12	SE5142 下層		31.7	25.4	0.7	ﾔﾘｶﾞﾝﾅ	紐結合穴 4	ヒノキ	柾目	
1461	2069-2	楔	7-9-4		SE5325		14.3	3.8	1.5	先端：刀子		スギ	割材	1461 ～ 1465 は接合
1462	2053-2	楔	7-9-4		SE5325		12.9	2.1	1.7	先端：刀子		（スギ）	割材	
1463	2053-1	楔	7-9-4		SE5325		11.1	2.7	1.8	先端：刀子		（スギ）	割材	
1464	2049-2	楔	7-9-4		SE5325		13.6	3.2	1.5	先端：刀子		（スギ）	割材	
1465	2069-1	楔	7-9-4		SE5325		13.7	2.4	1.5	先端：刀子		（スギ）	割材	
1466	2049-3	楔	7-9-4		SE5325		14.2	3.4	1.2	先端：刀子		（スギ）	割材	1467 と接合
1467	2049-1	楔	7-9-4		SE5325		20.0	3.8	1.2	先端：刀子		（スギ）	割材	1466 と接合
1468	2060-3	楔	7-9-4	T-c25	SE5305		15.9	4.5	1.0	先端：刀子			板目	
1469	2067-3	楔	7-9-4	T-c25	SE5305 下層		18.3	4.0	0.7	先端：刀子			追柾目	転用か
1470	2067-4	楔	7-9-4	T-c25	SE5305 下層		16.7	3.2	1.1	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1471	2048-2	楔	7-9-4	T-c25	SE5305 下層		16.6	2.7	1.1	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1472	2055-2	楔	7-9-4	T-c25	SE5305 下層		17.6	4.0	0.9	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			板目	
1473	2067-2	楔	7-9-4	T-c25	SE5305 下層		16.7	4.6	0.6	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		スギ	板目	転用
1474	2056-4	楔	7-9-4	T-c25	SE5305		16.7	2.8	1.3	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1475	2060-2	楔	7-9-4	T-c25	SE5305		16.0	3.0	1.0	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			追柾目	
1476	2056-3	楔	7-9-4	T-c25	SE5305		16.8	5.4	0.9	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			板目	
1477	2061-1	楔	7-9-4	T-c25	SE5305		16.6	3.4	1.3	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		スギ	割材	
1478	2060-1	楔	7-9-4	T-c25	SE5305		16.2	2.9	1.5	先端：刀子			割材	
1479	2067-1	楔	7-9-4	T-c25	SE5305 下層		18.5	5.0	0.9	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		コウヤマキ	板目	転用
1480	2061-2	楔	7-9-4	T-c25	SE5305		13.9	3.6	1.7	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1481	2066-3	楔	7-9-4	T-c25	SE5305 下層		17.7	5.0	0.9	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	板材を転用
1482	2061-3	楔	7-9-4	T-c25	SE5305		11.8	2.5	1.4	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		ヒノキ	割材	
1483	2063-2	楔	7-4		SE5218		11.9	4.1	1.6	先端：刀子			割材	
1484	2062-4	楔	7-4		SE5218		10.8	3.1	1.7	先端：刀子			割材	
1485	2062-2	楔	7-4		SE5218		10.8	3.7	2.0	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		コウヤマキ	割材	
1486	2062-3	楔	7-4		SE5218		12.2	3.6	2.0	先端：刀子			割材	
1487	2042-2	楔	7-4	O-w7	SE5218		12.5	4.4	2.1	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		コウヤマキ	割材	
1488	2041-4	楔	7-4	O-w7	SE5218		12.0	3.7	1.6	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		コウヤマキ	割材	
1489	2063-1	楔	7-4		SE5218		11.9	3.3	1.7	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1490	2062-1	楔	7-4		SE5218		11.7	3.5	1.5	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		コウヤマキ	割材	
1491	2063-3	楔	7-4		SE5218		12.9	3.2	1.8	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1492	2052-3	楔	7-9-4		SE5319		13.5	4.1	1.8	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1493	2066-1	楔	7-9-4	V-c3	SE5319		13.5	4.0	1.8	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		コウヤマキ	割材	
1494	2066-2	楔	7-9-4	V-c3	SE5319		15.5	3.4	1.8	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		コウヤマキ	割材	
1495	2056-1	楔	7-9-4	V-c3	SE5319		13.7	4.1	1.6	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	

NO	実測番号	器種	調査区	地区	遺構層位	取上NO	法量（cm）			加工痕・観察所見	継手仕口	樹種	木取り	特記事項
							長／径	幅／高	厚					
1496	2049-4	楔	7-9-4		SE5319		13.3	2.5	1.8	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		コウヤマキ	割材	
1497	2056-2	楔	7-9-4	V-133	SE5319		13.5	3.1	2.2	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1498	2065-2	楔	7-9-3	T-c6	SK5310		15.7	7.1	0.9	先端：刀子		コウヤマキ	板目	
1499	2065-1	楔	7-6		SE5230下層		19.6	5.2	2.4	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	細かい刀傷
1500	2055-3	楔	7-6	O-u15	SE5230		19.6	4.5	1.7	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1501	2064-2	楔	7-6		SE5230下層		20.8	4.7	2.5	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		コウヤマキ	割材	
1502	2064-1	楔	7-6		SE5230下層		27.7	4.6	2.2	先端：刀子		ヒノキ	割材	板材の端部を転用
1503	2064-3	楔	7-9-4	T-c21	SE5316上層		10.7	2.7	1.5	先端：刀子		コウヤマキ	割材	
1504	2048-3	楔	7-9-4	T-c25	SK5329下層		14.7	3.2	2.0	先端：刀子		コウヤマキ	割材	
1505	2042-1	楔	7-9-4		SE5328		12.8	3.7	2.4	先端：刀子			割材	
1506	2048-1	楔	7-9-4		SE5328		12.2	4.2	3.2	先端：刀子			割材	
1507	2054-2	楔	7-9-4		SE5328		13.2	4.0	2.9	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1508	2055-1	楔	7-9-4		SE5328		12.6	4.8	2.5	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		クリ	割材	
1509	2053-3	楔	7-9-4	V-c6	SE5328		12.5	5.7	2.8	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1510	2054-3	楔	7-9-4		SE5328		13.0	4.1	2.4	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1511	2041-3	楔	7-9-4		SE5328		13.4	4.9	2.6	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子			割材	
1512	2052-2	楔	7-9-4		SE5328		15.9	4.4	2.8	基部：ﾉｺｷﾞﾘ、先端：刀子		クリ	割材	板材の端部を転用か
1513	2054-1	楔	7-9-4	V-c6	SE5328		28.3	5.4	1.7	先端：刀子		スギ	柾目	
1514	2047-3	連歯下駄	7-9-1		SD5285下層		18.7	7.5	2.1			スギ	追柾目	底面摩耗、左足用
1515	2044-3	木槌	7-5	O-u8	SE5219下層		13.4	-	5.8	ﾁｮｳﾅ		身：ヒノキ 柄：シイ属	芯去材	
1516	2068-1	漆器椀	6-2	K-v12	SR5080中層		底径8.0			外面：木胎、内面：朱彩		アカメガシワ	横木取り	
1517	2068-3	漆器椀	7-9-1	R-d16	SR5080(SD5279)		底径7.5			外面：木胎		トチノキ	横木取り	
1518	2068-2	漆器椀	7-9-2	R-cd25	SK5308下層		口径17.2			内外面朱彩、口縁端部のみ黒漆		ケヤキ	横木取り	1519と同一個体か
1519	2068-2	漆器椀	7-9-2	R-cd25	SK5308下層		底径8.2			内外面朱彩、底部外面のみ黒漆		ケヤキ	横木取り	
1520	2036-2	紡織具？	1-3	I-x9	SE5067		13.9	1.1	0.2	表面・側面ｹｽﾞﾘ		スギ	柾目	
1521	2050-1	棒状具	7-9-4		SE5319		16.2	-	1.9	端部ｹｽﾞﾘ		ウツギ属	丸木	中空
1522	2045-3	棒状具	5-4	A-x20	SR5080		34.0	-	1.7	表面ｹｽﾞﾘ		スギ	割材	
1523	2044-2	板状具	7-9-2		SR5080(SD5298)		19.2	1.8	0.5			スギ	板目	
1524	2036-3	棒状具	1-3	I-x9	SE5067		24.0	-	1.6	表面ｹｽﾞﾘ		ムクノキ	芯持削出	
1525	2043-2	板状具	7-9-4		SE5316		29.0	3.6	1.0				板目	
1526	2043-3	板状具	7-9-4		SE5316		28.0	4.0	1.0			スギ	板目	
1527	2044-1	板状具	7-9-4		SE5316		33.2	3.5	0.5			スギ	板目	
1528	2058-2	曲物(底板)	7-9-4	V-c3	SE5319		17.3	-	0.5			ヒノキ	柾目	
1529	2059-1	曲物(底板)	7-9-4	V-c3	SE5319		10.6	-	0.7			ヒノキ	柾目	
1530	2059-2	方形曲物(底板)	7-9-4	V-c3	SE5319		19.5	6.5	0.9	細かい刀傷多数、樺皮		ヒノキ	柾目	
1531	2052-1	板状具	7-9-4	T-b24	SK5321		18.3	6.5	0.8	台ｶﾞﾝﾅ		スギ	柾目	
1532	2039-3	蓋片？	7-4	O-v7	SK5221		26.0	-	0.3			ヒノキ	柾目	
1533	2065-4	火付木	7-9-4	T-c21	SE5316上層		9.6	1.6	0.5				割材	
1534	2069-5	火付木	7-9-4		SE5319		10.1	1.3	0.7	ｹｽﾞﾘ		マツ属複維管束亜属	割材	
1535	2069-4	火付木	7-9-4		SE5319		13.0	1.7	0.7			マツ属複維管束亜属	割材	
1536	2050-2	火付木	7-9-4		SE5319		13.2	1.3	0.8			マツ属複維管束亜属	割材	
1537	2069-3	火付木	7-9-4		SE5319		15.7	1.4	0.9			マツ属複維管束亜属	割材	
1538	2065-3	火付木	7-9-4	V-c8	SE5326上層		12.4	1.2	0.8	ｹｽﾞﾘ		マツ属複維管束亜属	割材	
1539	2039-1	火付木	8-2	G-e3	SK5119		17.5	2.0	1.3			スギ	割材	板材等の転用
1540	2039-2	火付木	8-2	G-e3	SK5119		18.6	1.5	1.2			スギ	割材	
1541	2046-2	火付木	1-3	I-xy9	SE5067		17.6	1.1	0.8			マツ属複維管束亜属	割材	
1542	2045-1	火付木	1-3	I-xy9	SE5067		21.6	1.4	1.0			マツ属複維管束亜属	割材	
1543	-	籠	7-9-4		SK5295		-	-	-			ヒノキ	角材状	
1555	2068-4	火付木	大角遺跡		SD1		9.5	0.9	0.8			マツ属複維管束亜属	割材	
参考	2051-4	曲物(底板)	7-9-4		SE5319		15.1	3.2	0.8			ヒノキ	柾目	
参考	-	筵	7-9-1		SD5279		-	-	-			ヒノキ	板目	

V　自然科学分析

1．分析の種類と対象

出土した木製品の樹種同定、種実の同定を行い、植生利用と古環境の推定を行った。

（1）樹種同定

樹種同定では、井戸枠など同一母材とみられる材のセット、出土量の多い楔については、各遺構出土点数の２割を目途に同定に供した。なお、樹種同定は３社実施しているため、ここでは大半の器種・樹種を網羅したパレオ・ラボの報告文を掲載し、文中の樹種別点数は編者が補っている（第５・６表）。

樹種同定の委託先と内容は以下のとおりである。

・吉田生物研究所

「三重県堀町遺跡５次出土木製品の樹種調査結果」

保存処理を実施した工具１点、曲物底板 19 点、板状具１点、用途不明品１点の合計 22 点

・古環境研究所

「堀町遺跡第５次における樹種同定」

保存処理を実施した曲物の側板、底板、蓋などの木製品 33 点

・パレオ・ラボ

「堀町遺跡出土木製品の樹種同定」

井戸枠材を中心とする木製品 140 点

（2）大型植物遺体（種実）同定

種実は、多くが井戸や溝の掘削中に、埋土から回収したものであり、分析対象は肉眼で認識し得る大型種実に偏っているという問題はある。

（3）その他

この他に、曲物を中心とする木製品の年輪年代測定を試みているが、まだ成果がまとまっておらず、今後の朝見上地区の発掘調査報告書の中で触れることにしたい。

なお、今回は近隣の植生の示すことが多いとされる自然木や杭まで整理を広げることができなかった。また、鉄滓の成分分析や獣骨等の同定については、次年度以降に実施したい。（櫻井）

2．樹種同定

黒沼保子・小林克也（パレオ・ラボ）

堀町遺跡・大角遺跡から出土した木製品の樹種同定を行った。

（1）試料と方法

試料は、井戸枠や楔を中心とする木製品 140 点である。発掘調査所見によると、遺構の時期は平安時代前期～戦国時代である。

木取りの確認後、これらの試料から剃刀を用いて３断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。

（2）結果

同定の結果、針葉樹はモミ属、マツ属複維管束亜属、コウヤマキ、スギ、ヒノキ、カヤの６分類群、広葉樹はクリ、コナラ属アカガシ亜属（以下、アカガシ亜属）、ムクノキ、ケヤキ、ウツギ属、アカメガシワ、トチノキの７分類群、計 13 分類群が確認された（編者注：他にブナ科シイ属も認められた）。

器種別の樹種構成を第５表に示す。以下、器種別の樹種同定結果について記載する。

楔はコウヤマキが 12 点で多く、スギが４点、ヒノキとクリが各２点であった。火付木はマツ属複維管束亜属が８点と、スギが２点であった。漆器椀はケヤキとアカメガシワ、トチノキが各１点であった。曲物はヒノキとスギが同数程度みられた。蓋と籠、筵はヒノキであった。井戸枠材はスギが 60 点と最も多く、次いでヒノキが 11 点、コウヤマキが６点、カヤが３点、モミ属が１点であった。不明板材はすべてスギであった。棒状具はスギとムクノキ、ウツギ属がみられた。杭はスギが４点、丸杭はアカガシ亜属が１点であった。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

①モミ属　*Abies*　マツ科　写真３ 1a–1c (No.1294)

仮道管および放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射組織で数珠状末端壁がみられる。分野壁孔はスギ型で、１分野に１～４個存在する。

モミ属は暖帯から温帯の山地に生育する常緑高木で、ウラジロモミやシラベ、トドマツなど約５種がある。材は柔軟で加工容易であるが、割れや狂いが出やすく、保存性が低い。

②マツ属複維管束亜属　Pinus subgen. *Diploxylon*
マツ科　写真３　2a–2c（No.1537）

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側向きに鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属は暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、靱性は大である。

③コウヤマキ　*Sciadopitys verticillata*（Thunb.）Siebold et Zucc.　コウヤマキ科　写真３　3a-3c（No.1400）、4a–4c（No.1490）

仮道管と放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。分野壁孔はやや小型の窓状となる。

コウヤマキは、福島県以南の温帯から暖帯上部に生育する常緑針葉高木である。材は耐朽性および耐湿性が強く、強靱である。

④スギ　*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don　スギ科　写真３・４　5a–5c（No.1389）、6a-6c（No.1394）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、１分野に通常２個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木であ

第５表　器種別の樹種構成（柄や底板など、組合せ部材の結果も含む）

樹種＼器種	小型製品			曲物			井戸枠						その他						編組		計
	下駄	木槌	漆器椀	側板	底板	蓋	結桶	横板	縦板	横桟	土居桁	その他	板状具	棒状具	楔	火付木	杭		籠	筵	
モミ属								1													1
マツ属複維管束亜属																8					8
コウヤマキ							2				4				12						18
スギ	1			12	6		5	18	21	6	9	1	5	1	4	2	4				95
ヒノキ		1		11	19	2			10		1				2				1	1	48
カヤ							3														3
クリ															2						2
コナラ属アカガシ亜属																	1				1
ブナ科シイ属		1																			1
ムクノキ														1							1
ケヤキ			1																		1
ウツギ属														1							1
アカメガシワ			1																		1
トチノキ			1																		1
計	1	2	3	23	25	2	10	18	32	6	14	1	5	3	20	10	5		1	1	182

第６表　井戸枠材の時期別樹種構成

樹種	平安前期	平安後期	平安末～鎌倉	室町時代	戦国期	計
	SE5026	SE5067 SE5201	SE5008 SE5187	SE5218 SE5319 SE5323	SE5326 SE5328	
モミ属			1			1
コウヤマキ				6		6
スギ	6	17	26	9	2	60
ヒノキ		1	1	9		11
カヤ					3	3
計	6	18	28	24	5	81

る。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

⑤ ヒ ノ キ *Chamaecyparis obtusa*（Siebold et Zucc.）Endl. ヒノキ科 写真４ 7a-7c（No.1396）、8a-8c（No.1384）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、１分野に２個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

⑥カヤ *Torreya nucifera*（L.）Siebold et Zucc. イチイ科 写真４ 9a-9c（No.1403）

仮道管と放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。仮道管壁に２本対のらせん肥厚がある。分野壁孔はヒノキ型で、１分野に４個程度存在する。

カヤは宮城県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は木理直通で緻密であり、弾性および耐久力が強く、水湿にも強い。

⑦クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 写真４ 10a-10c（No.1512）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

⑧コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 写真４・５ 11a-11c（No.1320）

円形でやや大型の道管が、単独で放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織がある。

アカガシ亜属は主に暖帯に分布する常緑高木で、アカガシやシラカシ、ツクバネガシ、アラカシなど８種がある。イチイガシ以外は木材組織からの識別が困難なため、イチイガシを除いたアカガシ亜属とする。材は、きわめて堅硬および強靱で、水湿に強い。

⑨ムクノキ *Aphananthe aspera*（Thunb.）Planch. ニレ科 写真５ 12a-12c（No.1524）

径が中型で厚壁の道管が、単独ないし２～３個複合して均等に分布する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状～５列幅程度の帯状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は１～６列幅で、方形細胞もしくは直立細胞が上下端に２細胞程度連なる異性である。

ムクノキは関東以西の暖帯から亜熱帯に生育する落葉高木である。材は堅く、密で強靱である。

⑩ケヤキ *Zelkova serrata*（Thunb.）Makino ニレ科 写真５ 13a-13c（No.1518）

大型の道管が年輪のはじめに１列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は３～５列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や渓畔によく生育する。材は重硬だが、加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い。

⑪ウツギ属 *Deutzia* ユキノシタ科 写真５ 14a-14c（No.1521）

小型で丸い道管が、ほぼ単独で密に分布する散孔材である。道管の穿孔は 40 段以上の階段状である。放射組織は異性で１～５列幅、高さは１mm 以上で鞘細胞がある。

温帯に分布する落葉低木である。ヒメウツギとマルバウツギ、ツクシウツギ、ウメウツギ、ウツギ、ウラジロウツギがある。

⑫アカメガシワ *Mallotus japonicas*（Thunb. ex Murray）Muell. Arg. トウダイグサ科 写真５ 15a-15c（No.1516）

やや厚壁で丸い道管が、晩材部に向けて徐々に径を減じ、晩材部では小道管が放射方向に配列する半環孔材である。軸方向柔組織は短接線状である。道管の穿孔は単一である。放射組織は単列の異性である。

アカメガシワは宮城県および秋田県以西の温帯から暖帯に分布する落葉高木で、日当たりのよい二次林にふつうに生育する。材は軽軟で､耐久性が低い。

⑬トチノキ　*Aesculus* turbinata Blume　トチノキ科　写真５　16a-16c（No.1517）

やや小型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して均等に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は単列で、すべて平伏細胞で構成される同性である。接線断面において放射組織は層界状に配列する。

トチノキは温帯から暖帯に分布する落葉高木で、やや湿り気のある肥沃な土地の深い谷間や中腹の緩傾斜地によく生育する｡材は柔らかく緻密であるが、保存性は低い。

（３）考察

試料全体では、スギを中心とする針葉樹の利用が多く見られ、広葉樹は楔と漆器椀、丸杭、棒状具で、若干数が使用されているのみである。

井戸材以外の木製品では、楔にコウヤマキと、スギ、ヒノキ、クリが確認された。針葉樹のコウヤマキと、スギ、ヒノキは比較的軽軟だが、クリは重硬な材である。津市に所在する六大Ａ遺跡では、弥生時代後期～古墳時代の楔でマキ属とヒノキが確認されているが、全国的に見ると多様な樹種が用いられている（伊東・山田編 2012)。したがって、材質を重視した樹種選択は行われていない可能性がある。

火付木ではマツ属複維管束亜属と、スギが確認された。マツ属複維管束亜属は樹脂が豊富に含まれており、火付木として多用される。

漆器椀はケヤキとアカメガシワ、トチノキが各１点であった。ケヤキの材は重硬で靭性があり、トチノキは軽軟だが緻密で、ともに漆器の木地としてよく用いられる樹種である。しかし、アカメガシワは軽軟で耐久性も低く、有用材とはいい難い。漆器としては、千葉県の神門遺跡で奈良時代以降の漆器椀が１点確認されているのみである（伊東・山田編 2012)。

曲物は、底板にヒノキ、側板にスギが利用されており、蓋片はヒノキであった。ヒノキは軽軟で割裂性も大きく、加工容易な材である。また、保存性が高く、狂いも少ないため（平井 1996)、水場での利用にも適している。

籠と筵のヒゴは、どちらもヒノキであった。木取りは、筵が角材状、笊が板目方向の割裂であった。編組製品に用いられる素材は、全国的にみると単子葉類のタケ亜科が最もよく利用されており、木本植物ではヒノキが比較的多い（伊東・山田編 2012)。縄文時代では素材に地域性が確認されており、九州や四国では照葉樹林に生育する広葉樹材、本州の太平洋側ではタケ・ササ類（タケ亜科)、日本海側では針葉樹やツル性植物の利用が多い（佐々木 2014)。この素材の地域性には、地域の植生が反映されていると考えられる。三重県では編組製品の分析例は確認できなかったが、やはり周辺に生育していた樹木が使用された可能性がある。

板状具および板材はすべてスギであった。棒はスギとムクノキが各１点､棒状具はウツギ属であった。これらの器種については詳細な用途は不明である。

杭はスギが４点と、アカガシ亜属が１点であった。杭材には、周辺に生育していた樹木が利用されるため、遺跡周辺の植生を反映する傾向がある。分析点数が少ないが、スギを含む針葉樹林とアカガシ亜属を含む常緑広葉樹林が周辺に存在したと推測される。

分析点数の多い井戸材には、スギを中心とする針葉樹が用いられていた。部材別にみると、スギはすべての部位で使用されている。ヒノキは縦板で比較的多く、曲物、横桟、土居桁にもみられた。コウヤマキは結桶と土居桁、カヤは結桶、モミ属は縦板で確認された。部材による樹種構成の明確な特徴は確認できない。一方、井戸の時期別にみると、平安時代後期と平安時代末期～室町時代で木材利用傾向が異なっていた。井戸材の時期別の樹種構成を第６表に示す。平安時代前期はすべてスギであるのに対して、平安時代末期～室町時代は引き続きスギの利用も多いものの、ヒノキやコウヤマキ、カヤ、モミ属の利用も確認できる。堀町遺跡では、以前に調査された鎌倉時代と平安時代の井戸枠も、ほぼスギであった（伊東・山田編 2012)。したがって、堀町遺跡の井戸材は、鎌倉～平安時代にはスギを多用し、平安時代末期～室町時代になるとスギ以外の針葉樹も用いられる傾向になったと考えられる。

引用文献

平井信二 1996『木の大百科』朝倉書店、394p

伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学－出土木製品用材データベース－』海青社、449p

伊東隆夫･佐野雄三･安部　久･内海泰弘･山口和穂 2011『日本有用樹木誌』海青社、238p

佐々木由香 2014「下宅部遺跡の編組製品および素材束からみた縄文時代の植物利用」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 187 集、pp323-346

3．大型植物遺体（種実）同定

佐々木由香・バンダリ スダルシャン

（パレオ・ラボ）

ここでは、平安時代から中世の遺構から出土した大型植物遺体の同定結果を報告し、当時の利用植物や栽培状況について検討した。なお、チャノキの同定にあたっては、千葉大学大学院園芸研究科の百原新氏にご教示いただいた。

（1）試料と方法

試料は、発掘調査時に目視で確認された種実が回収された。試料が回収された遺構は、平安時代前期の井戸ＳＥ 5026（井戸枠内）、平安後期のＳＥ 5037（曲物内）、ＳＥ 5067（曲物内）、ＳＥ 5065（4 層）、平安末～鎌倉時代の井戸ＳＥ 5008（曲物内）とＳＥ 5015（曲物内）、ＳＥ 5187（井戸枠内）、平安時代の川跡ＳＲ 5080（下層）、室町時代の井戸ＳＥ 5323（曲物内）、ＳＥ 5305（曲物内）、16 世紀の溝ＳＤ 5279、ＳＤ 5285 とＳＤ 5297、ＳＤ 5320 である。

同定･計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても 1 個体とみなせるものは完形として数え、1 個体に満たないものは破片とした。モモとウメ、スモモについては、計測可能な個体を全点計測した。計数が難しい分類群については、おおよその数を記号で表記した。試料は、三重県埋蔵文化財センターに保管されている。

（2）結果

同定の結果、木本植物では針葉樹のアカマツ球果の 1 分類群、広葉樹のオニグルミ核とクリ果実、エノキ核、ムクノキ核、アカメガシワ種子、カラスザンショウ種子、サンショウ種子、イヌザンショウ種子、チャノキ種子、ツバキ属種子、モモ核、ウメ核、スモモ核、トチノキ種子、カキノキ種子、エゴノキ果実・核の 16 分類群、草本植物ではアサ核、ソバ果実、イヌタデ果実、アカザ属種子、コウホネ種子、クサネム果実、ノブドウ種子、ヒョウタン仲間種子、カラスウリ種子、オナモミ属果実、ヒエ属有ふ果、イネ籾殻・炭化種子、オオムギ炭化種子の 13 分類群の、計 30 分類群が見いだされた（第 7 表）。大型植物遺体以外には昆虫遺体が見られたが、同定の対象外とした。

以下、産出した主な種実について遺構別に記載する。

ＳＤ 5279　モモが少量、アカマツとムクノキ、エゴノキがわずかに得られた。

ＳＤ 5285　モモがわずかに得られた。

ＳＤ 5297　チャノキとツバキ属、モモ、ウメがわずかに得られた。

ＳＤ 5320　モモがわずかに得られた。

ＳＥ 5008　ウメとスモモ、カキノキがわずかに得られた。

ＳＥ 5015　ムクノキとカラスザンショウ、モモ、スモモ、カラスウリ、オオムギがわずかに得られた。

ＳＥ 5026　サンショウとモモ、アサ、ヒョウタン仲間、オオムギがわずかに得られた。

ＳＥ 5037　スモモがやや多く、モモとノブドウがわずかに得られた。

ＳＥ 5065　イヌザンショウとイヌタデ、アカザ属がわずかに得られた。

ＳＥ 5067　カキノキが少量、モモとスモモ、カラスウリ、ヒエ属、イネ、オオムギがわずかに得られた。

ＳＥ 5187　オニグルミとクサネムがわずかに得られた。

ＳＥ 5305　エノキとソバ、イネがわずかに得られた。

ＳＥ 5323　モモがわずかに得られた。

ＳＲ 5080　クリとアカメガシワ、トチノキ、カキノキ、エゴノキ、コウホネ、クサネム、オナモミ属がわずかに得られた。

次に、大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

①アカマツ　*Pinus densiflora* Siebold et Zucc.　**球**

第７表　出土した大型植物遺体（括弧内は破片数）

		整理No.	7・8・18	16	1・15	14・19	10	9	6・13	5・12
		遺構名	SD5279	SD5285	SD5297	SD5320	SE5008	SE5015	SE5026	SE5037
		層位	褐灰粘ほか	−	−	−	曲物内	曲物内	井戸枠内	曲物内
分類群		時期	15～16世紀	16世紀	16世紀	16世紀	平安末	平安末	平安前期	平安後
アカマツ	球果		1							
ムクノキ	核		1					(9)		
カラスザンショウ	種子							1		
サンショウ	種子								1	
チャノキ	種子				1					
ツバキ属	種子				1					
モモ	核		3 (8)	1	(1)	3		(2)	1 (1)	1 (1)
ウメ	核				1		1 (2)			
スモモ	核						2 (1)	1 (1)		12
カキノキ	種子						(2)			
エゴノキ	果実		1							
	核		3							
アサ	核								2	
ノブドウ	種子									(3)
ヒョウタン仲間	種子								1	
カラスウリ	種子							1		
オオムギ	炭化種子							1	6 (1)	

		整理No.	26	3	4	21・22・23・24・25	11	17	20	2
		遺構名	SE5065		SE5067		SE5187	SE5305	SE5323	SR5080
		層位	4層		曲物内	曲物内 最下層他	井戸枠内	曲物内	曲物内	下層
分類群		時期	平安後	平安後	平安後	平安後	鎌倉	室町	室町	平安
オニグルミ	核						1			
クリ	果実									1
エノキ	核							7		
アカメガシワ	種子									1
イヌザンショウ	種子		1							
モモ	核				1 (1)	4 (1)			1	
スモモ	核			3	3					
トチノキ	種子									(2)
カキノキ	種子				5 (9)					1
エゴノキ	核									3
ソバ	果実							2		
イヌタデ	果実		1							
アカザ属	種子		4 (1)							
コウホネ	種子									4
クサネム	果実						(1)			(1)
カラスウリ	種子					1				
オナモミ属	果実									1
ヒエ属	有ふ果				(2)					
イネ	籾殻							1		
	炭化種子			2						
オオムギ	炭化種子			1						
昆虫					(+)	(+)				

1-9:+

果　マツ科

茶褐色で、狭卵形。種鱗はくさび形で、木質化しており、硬い。露出部は菱形状。長さ 37.8mm、幅 18.3mm。

②オニグルミ　*Juglans mandshurica* Maxim. var. sieboldiana（Maxim.）Makino　**核　クルミ科**

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。溝や凹凸の間には微細な皺がある。高さ 23.5mm、幅 24.1mm、厚さ 22.1mm。

③クリ　*Castanea crenata* Siebold et Zucc.　**果実　ブナ科**

黒褐色で、側面観は広卵形。表面全体に浅い縦筋が密にある。殻斗着痕は果実幅と同じ程度の幅広で、不規則で微細な丘状の突起が密にある。高さ 24.6mm、幅 24.5mm、幅 15.8mm。

④エノキ　*Celtis sinensis* Pers. var. *japonica*（Planch.）Nakai　**核　ニレ科**

灰褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観はいびつな円形で稜がある。頂部にはやや突出した嘴状の肥厚がある。表面は平滑。着点はややくぼむ。長さ 3.9mm、幅 3.0mm。

⑤ムクノキ　*Aphananthe aspera*（Thunb.）Planch. **核　ニレ科**

明茶褐色で､広倒卵体。片側に顕著な稜線がある。表面は平滑で、木質。長さ 7.4mm、幅 7.2mm、厚さ 5.4mm。

⑥アカメガシワ　*Mallotus japonicus*（L.f.）Müll. Arg.　**種子　トウダイグサ科**

黒褐色で、基部がやや平たい球形。Y 字形の小さな着点があり、表面には隆線状突起が密生する。種皮断面の柵状組織は内側で屈曲する。長さ 4.1mm、幅 3.5mm、厚さ 2.8mm。

⑦カラスザンショウ　*Zanthoxylum ailanthoides* Sieb. et Zucc.　**種子　ミカン科**

茶褐色で、上面観は卵形、側面観は倒卵形。網目状隆線は高く大きい。一方の側面に稜があり、稜全体に大きな臍がある。長さ 3.8mm、幅 2.7mm、厚さ 2.7mm。

⑧サンショウ　*Zanthoxylum piperitum*（L.）DC.　**種子　ミカン科**

黒褐色で、上面観は卵形、側面観は楕円形ないし倒卵形。基部側面に稜線があり、内側には短く斜め下を向く臍がある。網目状隆線は低く細かい。種皮は厚く硬い。長さ 3.8mm、幅 3.0mm、厚さ 2.8mm。

⑨イヌザンショウ　*Zanthoxylum ailanthoides* Sieb. et Zucc.　**種子　ミカン科**

黒褐色で、上面観は卵形、側面観は狭卵形。表面にはやや細かく稜の鋭い網目状稜線がある。側面の稜線は種子の基部から頂部まであって、臍はその大部分を占める。臍面は斜め下を向く。長さ 4.1mm、幅 3.5mm、厚さ 2.8mm。

⑩チャノキ　*Camellia sinensis*（L.）Kuntze　**種子　ツバキ科**

暗褐色で、上面観は円形、側面観は楕円形。下部中央に楕円形の大きな臍があり、臍の周囲に胚珠の痕跡がクラック状に入る。表面は平滑。長さ 14.2mm、幅 14.7mm。

⑪ツバキ属　*Camellia japonica* L.　**種子　ツバキ科**

黒褐色で、完形ならば上面観は不整円形で不定形の綾がある。また臍が突出する。種皮は非常に堅い。残存長 21.2mm、残存幅 17.9mm、残存厚 12.5mm。

⑫モモ　*Amygdalus persica* L.　**核　バラ科**

褐～茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。図版に示した核の大きさは、長さ 33.1mm、幅 22.7mm、厚さ 18.0mm（完形）と、長さ 21.5mm、残存幅 14.3mm、厚さ 13.7mm（動物食痕）。計測可能な 19 点の大きさ（半割と動物食痕を含む）は、長さ 17.2 ～ 33.3（平均 25.5 ± 4.4）mm、幅 13.9 ～ 22.7（平均 18.7 ± 2.4）mm、厚さ 8.5 ～ 18.0（平均 13.7 ± 2.6）mm。

⑬ウメ　*Prunus mume* Siebold et Zucc.　**核　バラ科**

赤褐色で、上面観は両凸レンズ形。側面観は卵形。表面には、全体的に不規則な深く小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。長さ 16.7mm、幅 11.0mm、厚さ 9.1mm。

⑭スモモ　*Prunus salicina* Lindl.　**核　バラ科**

黄褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は紡錘形。縫合線に沿ってやや深い溝が入る。表面は平滑だが、臍付近に縦方向の不規則な皺がある。下端がやや窄まる。図版に示した核の大きさは、長さ 15.1mm、幅 11.0mm、厚さ 7.7mm。計測可能な 19 点の大きさは、長さ 11.5 ～ 17.0（平均 14.2 ± 1.4）mm、幅 8.6 ～ 13.7（平均 11.2 ± 1.1）mm、厚さ 6.1 ～ 9.2（平均 7.8 ± 0.6）mm。

⑮トチノキ　*Aesculus turbinata* Blume　**種子　トチノキ科**

黒褐色で楕円形。下半部は褐色で光沢がなく、上半部は黒褐色でやや光沢がある。上下の境目の下に少し突出した着点がある。種皮は薄くやや硬い。種皮は 3 層からなり､各層で細胞の配列方向が異なる。種皮表面には指紋状の微細模様が密にある。残存長 25.8mm、幅 30.0mm、残存厚 23.5mm。

⑯カキノキ　*Diospyros kaki Thunb.*　**種子　カキノキ科**

茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で基部がやや曲がり突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。明らかに大型の果実であったと想定される種子をカキノキとした。長さ 17.6mm、幅 10.4mm。

⑰エゴノキ　*Styrax japonicus* Sieb. et Zucc.　果実・核　エゴノキ科

果実は茶褐色で、上面観は円形、側面観は卵形。表面はざらつく。長さ 10.7mm、幅 8.0mm。核は茶褐色で、紡錘形。縦方向に 4 条の溝が走り、先端で収束する。黄白色の大きな着点が斜め方向に下端に付く。長さ 9.8mm、幅 7.0mm。

⑱アサ　*Cannabis sativa* L.　核　アサ科

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で側面に稜がある。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点がある。表面には下端から伸びる脈がある。長さ 3.7mm、幅 3.2mm、厚さ 2.8mm。

⑲ソバ　*Fagopyrum sagittatum* Gilib.　果実　タデ科

黒褐色で、上面観は三稜形、側面観は先端がやや尖る紡錘形。稜の端部は翼状に突き出る。長さ 5.7mm、幅 3.5mm。

⑳イヌタデ　*Persicaria longiseta*（De Bruyn）Kitagawa　果実　タデ科

黒色で、上面観は三角形、側面観は広卵形。果皮は厚く硬い。表面は平滑で、他のタデ属よりも光沢がある。また、稜となる部分が幅広である。大きさは他のタデ属よりも小さい。長さ 1.8mm、幅 1.5mm。

㉑アカザ属　*Chenopodium* spp.　種子　アカザ科

黒色で、上面観はやや扁平、側面観は円形。種皮は強い光沢があり、硬い。着点の一端がやや突出し、中心部方向にむかって浅い溝がある。長さ 1.4mm、幅 1.4mm。

㉒コウホネ　*Nuphar japonica* DC.　種子　スイレン科

黒褐色で、ゆがんだ倒卵形。一端に円形の着点がある。表面は平滑で光沢がある。長さ 4.8mm、幅 2.2mm。

㉓クサネム　*Aeschynomene* indica L.　果実　マメ科

褐色で、上面観は楕円形、側面観は完形ならば片面の臍部が顕著に凹む楕円形。臍は全長の 1/3 未満で楕円形、ほぼ中央に付く。臍の縁辺が肥厚する。種瘤が 2 つ並ぶ。残存長 6.4mm、幅 5.7mm。

㉔ヒョウタン仲間　*Lagenaria* spp.　種子　ウリ科

やや淡黄褐色～褐色で、上面観は扁平、側面観は逆三角形。やや湾曲して左右は非対象、本来ならば先端は W 字状で、基部から先端まで、浅く広い溝が 2 本走る。壁はややスポンジ質。長さ 13.2mm、幅 6.5mm。

㉕カラスウリ　*Trichosanthes cucumeroides*（Ser.）Maxim. ex Franch. et Sav.　種子　ウリ科

黒褐色で、倒卵形。やや薄く、表面は平滑。基部両側は厚く膨れる。表面に細かい皺がある。長さ 6.4mm、幅 9.2mm、厚さ 5.2mm。

㉖ノブドウ　*Ampelopsis glandulosa*（Wall.）Momiyama var. *heterophylla*（Thunb.）Momiyama　種子　ブドウ科

茶褐色で、上面観は円形、側面観はほぼ円形。背面のカラザはへら状。腹面には深く長い溝が 2 つある。長さ 4.1mm、残存幅 3.4mm、厚さ 2.9mm。

㉗オナモミ属　*Xanthium* sp.　果実　キク科

褐色で、楕円体。果実全体にかぎ状の刺がある。長さ 13.3mm、幅 6.2mm。

㉘ヒエ属　Echinochloa spp.　有ふ果　イネ科

明褐色で、紡錘形。先端と基部はやや尖り、内頴側は膨らまない。縦方向に細かい筋がある。壁は薄く、弾力がある。長さ 3.8mm、幅 1.7mm。

㉙イネ　*Oryza sativa* L.　籾殻・炭化種子（頴果）　イネ科

籾殻は黄褐色～淡褐色で、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。長さ 6.9mm、幅 3.8mm。種子（頴果）は上面観が両凸レンズ形、側面観が楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の 2 本の浅い溝がある。長さ 4.5mm、幅 2.5mm。

㉚オオムギ　*Hordeum vulgare* L.　炭化種子（頴果）　イネ科

側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る 1 本の溝がある。背面の下端中央部には三角形の胚がある。断面は円形。長さ 4.5mm、幅 3.0mm、厚さ 2.3mm。

（3）考察

以下、時期別に考察を行う。

［平安時代前期］

井戸である S E 5026（井戸枠内）から、栽培植物のモモとアサ、ヒョウタン仲間、オオムギが得られた。サンショウは野生植物で食用可能な種実である。

モモやヒョウタン仲間は井戸の祭祀に伴って意図的に入れられた可能性もあるが、他の遺物の出土状況ともあわせて総合的に判断する必要がある。オオムギは炭化していたため、保管中の種子や調理前後の種子が何らかの要因で炭化し堆積したと考えられる。

[平安時代後～鎌倉時代]

井戸であるＳＥ 5008（曲物内）、ＳＥ 5015（曲物内）、ＳＥ 5037（曲物内）、ＳＥ 5067（曲物内）、ＳＥ 5187（井戸枠内）、ＳＥ 5065（4 層）から、栽培植物のウメとモモ、スモモ、カキノキ、イネ、オオムギが得られた。比較的果樹が多く、食用や祭祀に用いられて遺構内に堆積した可能性や、遺構周辺にこれらの果樹が植栽されていたために遺構内に果実が自然落下した可能性などが考えられる。草本のイネとオオムギはいずれも食用とされる部位が炭化して得られており、保管中の種実や調理前後の種実が何らかの要因で炭化し、堆積したと考えられる。オニグルミは食用可能であるが、完形個体が産出したため、利用された痕跡はみられなかった。カラスザンショウやイヌザンショウは、近辺の陽地に生育していた可能性や、油を採取するために採集された可能性などが考えられる。カラスウリは生食できないため、薬用などに利用されていた可能性があり、利用できないノブドウなどと同じように、木本類に絡んでいたと推定される。ヒエ属は野生のイヌビエに近い形態であった。クサネムは湿った湿地に、イヌタデやアカザ属は乾いた道端や遺構周辺に生育していたと推定される。

[平安時代]

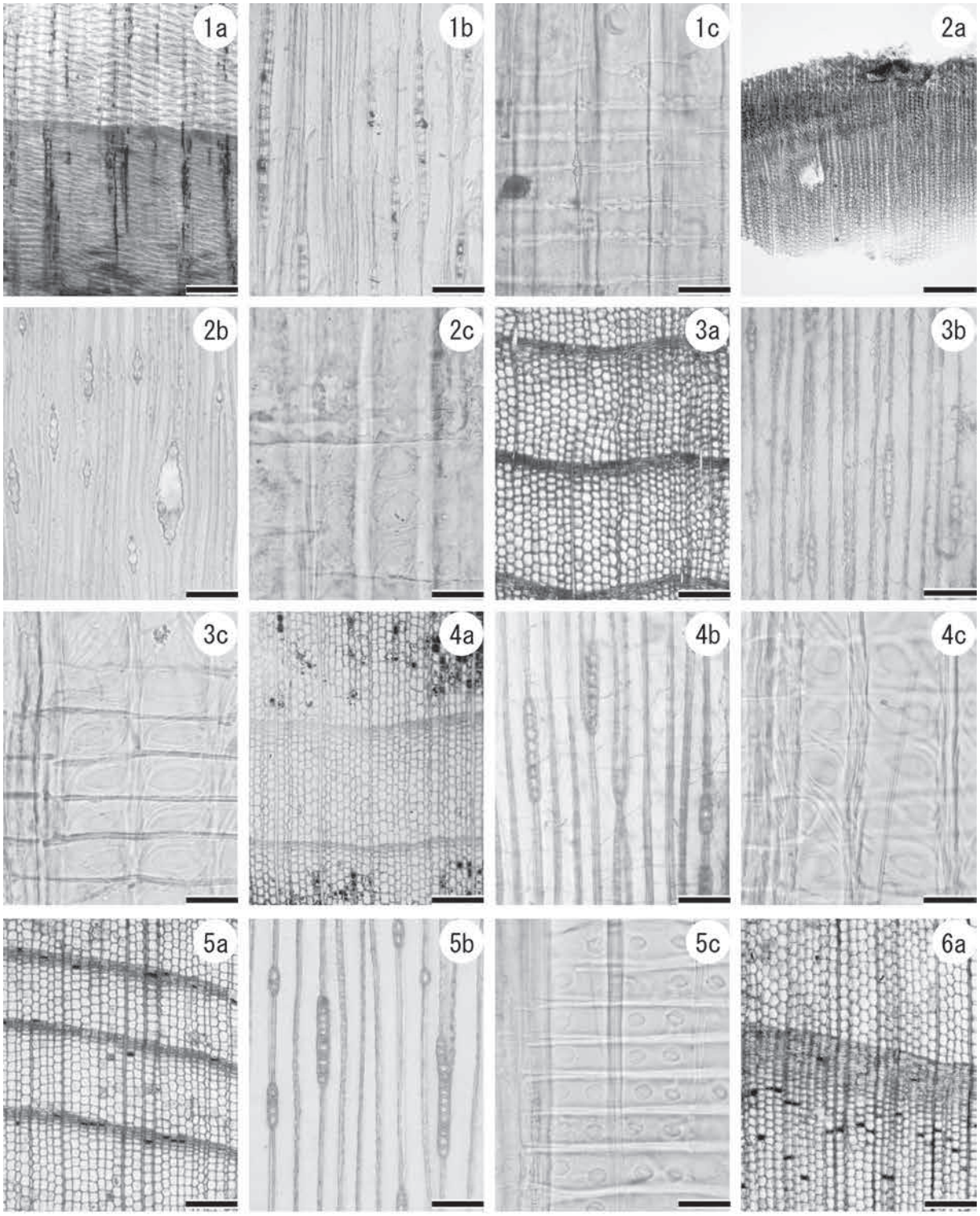
川跡であるＳＲ 5080（下層）からは、栽培植物のカキノキと、食用可能なクリとトチノキが得られた。陽樹のアカメガシワやエゴノキは川跡周辺の明るい場所に生育していたと考えられる。抽水植物のコウホネが得られており、川跡の流れが緩い場所や池状に水が溜まった場所に生育していたと考えられる。川岸の湿地にはクサネム、乾いた道端などにはオナモミ属が生育していたと考えられる。

[室町時代]

室町時代の井戸であるＳＥ 5323（曲物内）からは、栽培植物であるモモがわずかに得られた。また、ＳＥ 5305（曲物内）からはエノキと、栽培植物のソバとイネが得られた。エノキは落葉高木で、果実が食用可能である。15 ～ 16 世紀の溝であるＳＤ 5279からは、栽培植物のモモ、それ以外にアカマツとムクノキ、エゴノキが得られた。アカマツや林縁に生育するムクノキ、エゴノキは溝周辺に生育していたと考えられる。16 世紀の溝であるＳＤ 5285 とＳＤ 5297、ＳＤ 5320 からは、栽培植物のモモとウメ、チャノキと野生植物のツバキ属が得られた。チャノキが産出したため、本遺跡では 16 世紀以降にお茶の栽培が行われていたと考えられる。ツバキ属は花を観賞するほか、油を採取するために植えられた可能性もある。

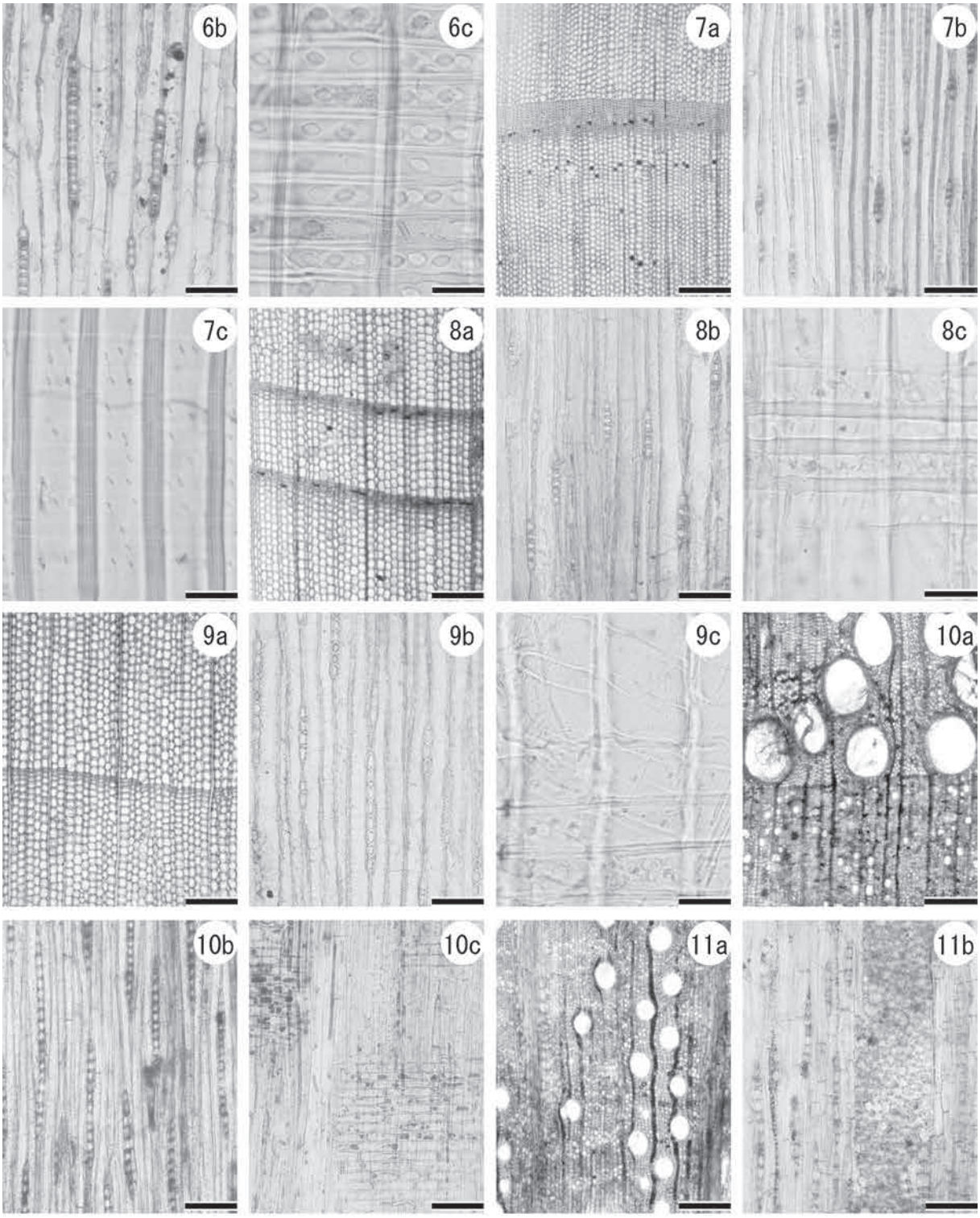
第８表　モモ・ウメ・スモモの大きさ
（括弧内は破片値、単位mm）

整理 No.	分類群	部位	長さ	幅	厚さ	形態
1	モモ	核	21.4	14.7	(5.4)	半割
	ウメ	核	18.8	15.3	11.7	完形
3	スモモ	核	13.8	10.9	7.7	完形
	スモモ	核	13.8	8.6	6.1	完形
	スモモ	核	13.9	10.9	7.7	完形
4	モモ	核	33.2	21.5	14.4	完形
	モモ	核	21.7	19.1	(7.4)	半割
	スモモ	核	15.9	13.7	9.2	完形
	スモモ	核	14.1	10.7	7.7	完形
	スモモ	核	12.7	11.1	8.1	完形
5	モモ	核	27.8	19.3	(7.6)	半割
9	モモ	核	33.3	20.7	(7.0)	半割
	スモモ	核	14.1	9.3	7.4	完形
10	ウメ	核	16.7	11.0	9.1	完形
	スモモ	核	17.0	11.6	8.4	完形
	スモモ	核	16.2	11.9	8.7	完形
12	モモ	核	27.8	20.4	14.8	完形
	スモモ	核	15.0	12.0	7.6	完形
	スモモ	核	15.0	12.3	7.8	完形
	スモモ	核	14.3	12.2	8.3	完形
	スモモ	核	14.7	11.2	7.5	完形
	スモモ	核	15.3	10.9	7.8	完形
	スモモ	核	12.9	11.8	7.8	完形
	スモモ	核	11.5	12.3	8.3	完形
	スモモ	核	15.1	11.2	7.8	完形
	スモモ	核	12.1	10.6	7.7	完形
	スモモ	核	12.7	10.2	7.0	完形
13	モモ	核	21.3	18.7	17.0	完形
14	モモ	核	25.6	18.5	12.2	完形
	モモ	核	23.5	16.7	12.6	完形
16	モモ	核	28.2	19.6	14.8	完形
18	モモ	核	33.1	22.7	18.0	完形
	モモ	核	26.5	19.2	14.4	完形
	モモ	核	26.2	18.1	12.8	完形
19	モモ	核	21.5	(14.3)	13.7	動物食痕
20	モモ	核	26.4	19.4	15.4	完形
21	モモ	核	24.6	18.6	14.1	完形
	モモ	核	23.1	20.4	14.8	完形
23	モモ	核	17.2	13.9	8.7	完形
25	モモ	核	22.0	14.5	8.5	完形



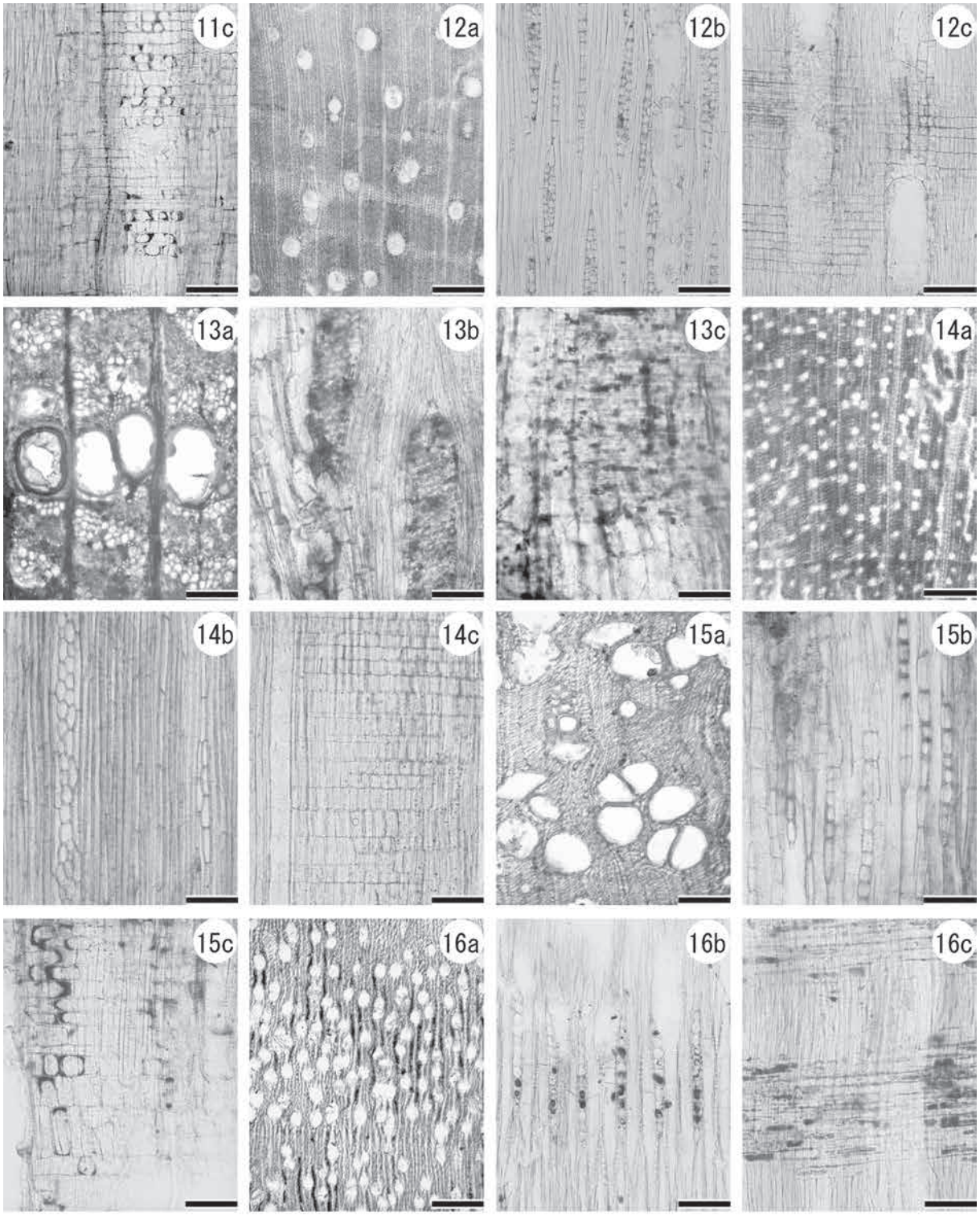
1a-1c．モミ属（No.1294）、2a-2c．マツ属複維管束亜属（No.1537）、3a-3c．コウヤマキ（No.1400）
4a-4c．コウヤマキ（No.1490）、5a-5c．スギ（No.1389）、6a．スギ（No.1394）
a：横断面（スケール=250μm）、b：接線断面（スケール=100μm）、c：放射断面（スケール=25μm）

写真３　堀町遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（１）



6b-6c．スギ（No.1394）、7a-7c．ヒノキ（No.1396）、8a-8c．ヒノキ（No.1384）、9a-9c．カヤ（No.1403）、10a-10c．クリ（No.1512）、11a-11b．コナラ属アカガシ亜属（No.1320）
a：横断面（スケール=250μm）、b：接線断面（スケール=100μm）、c：放射断面（スケール=6-9：25μm、10:100μm）

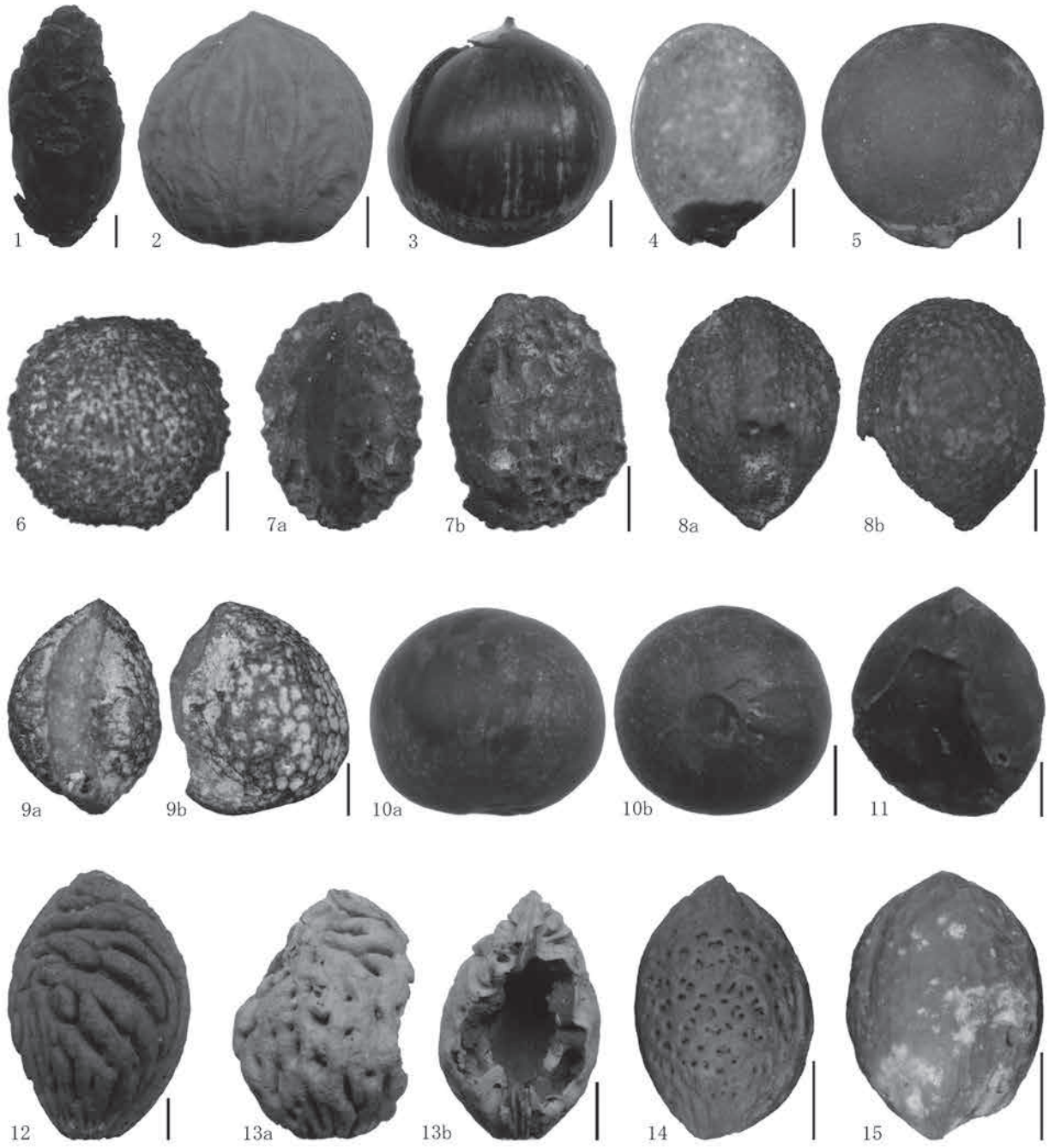
写真４　堀町遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（２）



11c．コナラ属アカガシ亜属（No.1320）、12a-12c．ムクノキ（No.1524）、13a-13c．ケヤキ（No.1518）、14a-14c．ウツギ属（No.1521）、15a-15c．アカメガシワ（No.1516）、16a-16c．トチノキ（No.1517）

a：横断面（スケール=250μm）、b：接線断面（スケール=100μm）、c：放射断面（スケール=100μm）

写真５　堀町遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（３）



スケール 1-3, 10-15：5mm, 4-9：1mm

1. アカマツ球果(SD5279褐灰粘ほか、No. 7)、2. オニグルミ核(SE5187井戸枠内、No. 11)、3. クリ果実(SR5080下層、No. 2)、4. エノキ核(SE5305曲物内、No. 17)、5. ムクノキ核(SD5279褐灰粘ほか、No. 18)、6. アカメガシワ種子(SR5080下層、No. 2)、7. カラスザンショウ種子 (SE5015曲物内、No. 9)、8. サンショウ種子 (SE5026井戸枠内、No. 13)、9. イヌザンショウ種子 (SE5065、4層、No. 26)、10. チャノキ種子(SD5297、No. 15)、11. ツバキ属種子(SD5297、No. 1)、12. モモ核(SD5279褐灰粘ほか、No. 18)、13. モモ核動物食痕(SD5320、No. 19)、14. ウメ核(SE5008曲物内、No. 10)、15. スモモ核(SE5037曲物内、No. 12)

写真６　出土した大型植物遺体（１）

スケール 16-19, 26, 27, 29:5mm, 20-25, 28, 30-33:1mm

16. トチノキ種子(SR5080下層、No.2) 、17. カキノキ種子(SR5080下層、No.2)、 18. エゴノキ果実(SD5279褐灰粘ほか、No.8)、19. エゴノキ核(SR5080下層、No.2)、20. アサ核(SE5026井戸枠内、No.13)、21. ソバ果実(SE5305曲物内、No.17)、22. イヌタデ果実(SE5065 4層、No.26)、23. アカザ属種子(SE5065 4層、No.26)、24. コウホネ種子 (SR5080下層、No.2)、25. クサネム果実 (SR5080下層、No.2)、26. ヒョウタン仲間種子 (SE5026井戸枠内、No.13)、27. カラスウリ種子(SE5015曲物内、No.9)、28. ノブドウ種子(SE5037、曲物内、No.5)、29. オナモミ属果実(SR5080下層、No.2)、30. ヒエ属有ふ果(SE5067曲物内、No.4)、31. イネ籾殻(SE5305曲物内、No.17)、32. イネ炭化種子(SE5067曲物内、No.3)、33. オオムギ炭化種子(SE5026、井戸枠内、No.13)

写真７　出土した大型植物遺体（２）

Ⅵ　大角（たいかど）遺跡

１．調査の経緯と経過

（１）総説

大角遺跡は松阪市朝田町、堀町遺跡の西方に隣接する遺跡である。平成 24 年度高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴い、工事立会調査を実施した。調査実施日は平成 24 年 10 月 24 日で、水路施工部分を対象として、長さ 37.5 m × 幅 1.7 m の調査区を設定した。調査面積は 63.8㎡である。

（２）協議・調査の経過

現在、大角遺跡の一帯は水田となっているが、昭和期に大規模な砂利採取が行われ、遺跡の大半が滅失している（第 119 図）。ただし、今回調査対象とした範囲については､砂利採取の際に遺物が出土し、破壊を免れたため、平成 23 年度に範囲確認調査を行った。その結果、東西方向の溝などの遺構が見つかり、平成 24 年度に調査を実施することとなった。

調査は、三重県松阪農林事務所からの労務提供を受けて実施した。工事施工者である丸亀産業株式会社が、現物供与の形で作業員を手配するとともに、現場の安全管理等を行った。

２．基本層序・遺構

（１）基本層序

耕土直下（標高 1.9 m）で遺構面に達する。基盤層は黄灰色シルト（2.5Y6/1）で、遺構の埋土は黒褐色粘質土（10YR3/1）である。

（２）遺構（第 120 図）

柱穴と溝がある。なお、調査区の東半分は砂利採取が行われた際の攪乱を受けている。

ＳＤ１　幅約 1.5 m・深さ約 12cm の南北溝で、両岸ともゆるやかに傾斜する。南側に円形状の窪みがみられるが、これは溝底がえぐれているものと考えられる。出土遺物は土師器のほか百代寺窯式の灰釉陶器や尾張第３型式の山茶碗などがある。

柱穴群　Pit ２～３、５は径約 30cm、深さ約 30 ～ 40cm である。Pit ４はやや大きく径約 55cm、深さが約 27cm で、建物に伴う柱穴と考えられる。埋土はいずれも黒褐色粘質土で、時期はＳＤ１と同じく平安後～末期であろう。（相場）

３．出土遺物（第 121 図）

1545 ～ 1555 はＳＤ１出土遺物である。土師質土器や百代寺窯式の灰釉陶器など、平安後期の遺物が主体だが、わずかに中世Ⅰ期の土師器や山茶碗も認められる。1555 は火付木で、割り裂いたマツ属木片の先端を粗く削り落としている。付近で火を用いる儀礼などが行われた可能性があろう。こうした遺物の構成は、堀町遺跡と概ね共通するものである。

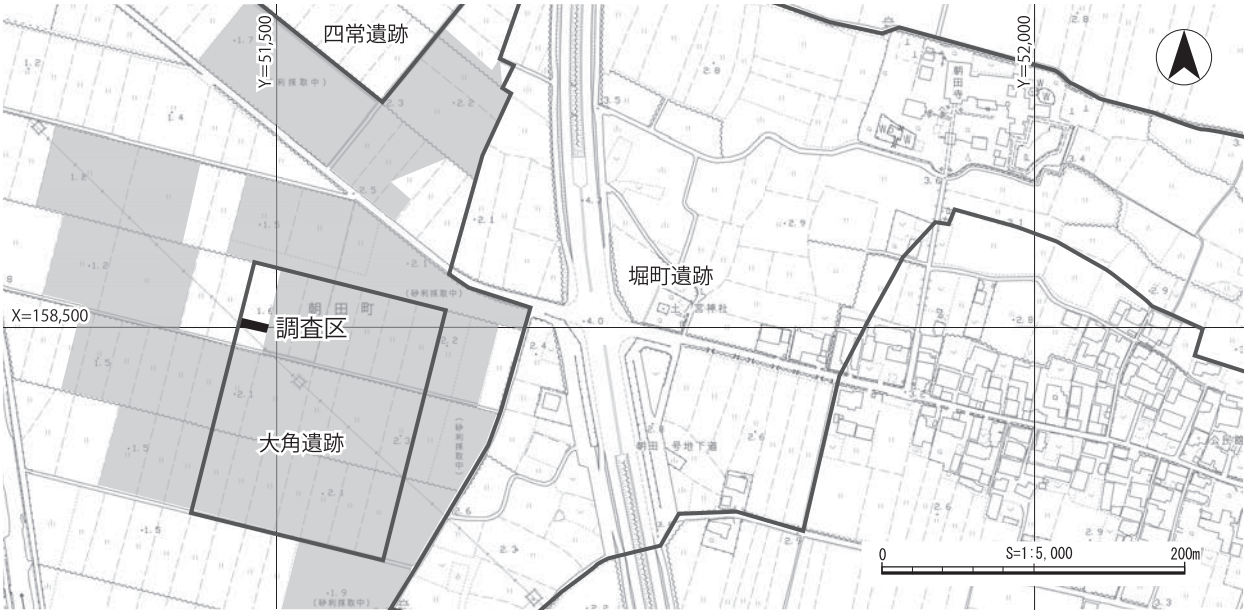
1556 ～ 1561 は包含層・表採資料などで、平安前期の土師器なども認められる。

各遺物の詳細は第４表を参照されたい。

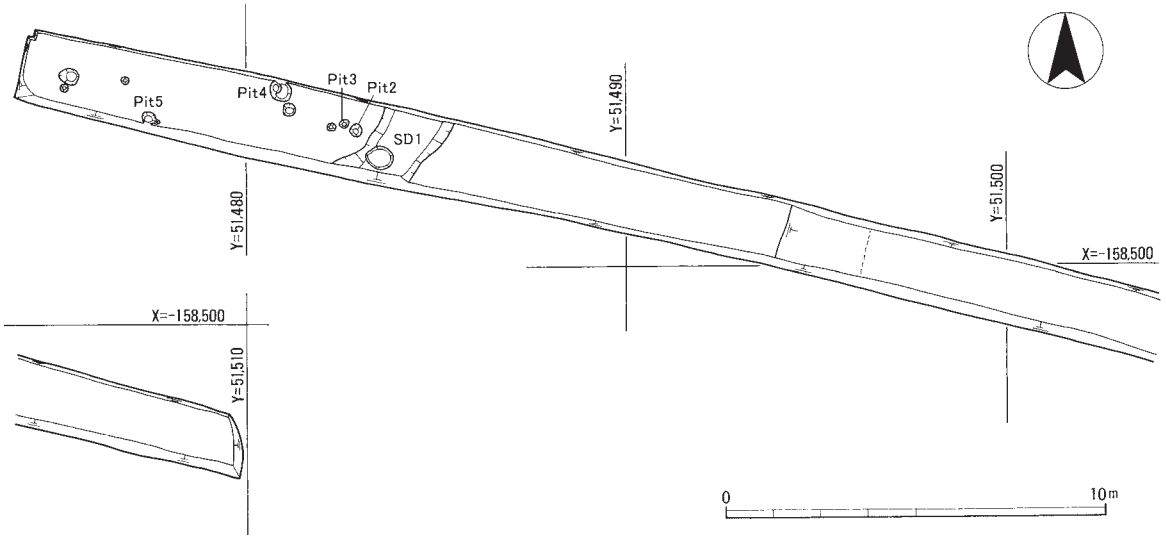
４．結語

大角遺跡は、室町時代の遺物散布地とされていたが、今回確認した遺構・遺物から、堀町遺跡より連なる平安後･末期集落の一部であることが判明した。地表高や基盤層の状況から、堀町遺跡第５次１・２区付近を頂部として、当地付近までが遺構の分布する微高地であり、西側は湿地状に変化していくものと推測される。（櫻井）

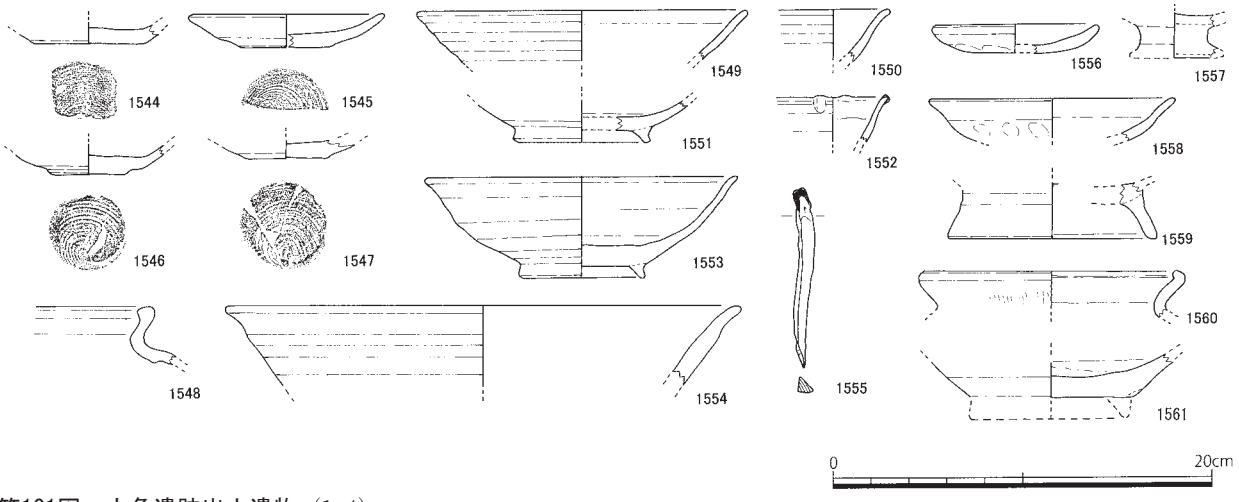
写真８　大角遺跡調査地全景（西から）



第119図　大角遺跡調査位置図（1:5,000、網掛けは砂利採取地）



第120図　大角遺跡遺構全体図（1:200）



第121図　大角遺跡出土遺物（1:4）

Ⅶ　総　括

１．弥生～飛鳥時代の集落

（１）弥生・古墳時代の集落と地形

今回の調査では、主に弥生後期の遺構が認められ、わずかに弥生末～古墳時代初頭のものもみられた。

当該期の遺構は、国道 42 号バイパス交差点付近の１～５区、特に基盤層の砂礫層が表出する、南北径約 300 m、東西約 150 mの範囲にのみ認められる。

遺構は、井戸とみられる大型土坑や溝が中心で、竪穴住居や柱穴は既に削平された可能性が高い。一帯には安定した微高地があり、加えて湧水層が浅く、地下水の利用も容易であったとみられる。

堀町遺跡では墓域が不明であるが、同時期の松阪市村竹コノ遺跡[(1)]のように、居住域の外縁に墓域・生産域が展開する集落景観が想定される。また、村竹コノ遺跡に比べると集落規模はやや小さい。

（２）飛鳥時代の鍛冶関連遺物

７世紀後半の遺構・遺物が断片的に出土している。6-1 区では鉄滓や鞴羽口といった鍛冶関連遺物が多く得られ、8-2 区でピットなどを検出したことから、この付近に鍛冶工人が居住したと考えられる。

古墳時代から飛鳥時代までの鍛冶関連遺構・遺物は段丘上に多く、低地の遺跡では鞴羽口などが１～２点出土しているに過ぎない。本例は低地の比較的明瞭な鉄器生産の事例として貴重なものといえよう。鉄滓の分析は今後の課題としておきたい。

２．平安時代の集落と祭祀

（１）遺構の分布と時期

調査区の制約から、建物の詳細な時期や変遷を示すのは困難である。ここでは、大まかな遺構の分布状況をまとめておきたい（第 122 図）。

検出遺構は既往の調査と同じく平安前期・後期が主で、この間の断絶は明確である。当該期の遺構分布域の中心は、前～後期を通じて１・２区から１～４次調査地点までの間にあると考えられる。しかし、調査地中央の 6-3 区においても本遺跡で最大規模となるＳＢ 5177（９世紀前半）が所在しており、微高地や自然流路ＳＲ 5080 の縁辺に、複数の建物群が展開していたと予想される。一方、7-2 区以東では、流路以外の遺構は希薄となる。

（２）自然流路と水辺の祭祀

①ＳＲ 5080 の変遷

5-4 区から 7-9 区の各地区で確認したＳＲ 5080 は、幅約 20 mの自然流路であり、第２次調査ＳＲ 210 の延長にあたる（流路は東から西へ流れる）。

過去の調査では、斎串をはじめとする祭祀関連遺物が大量に出土しているが、層序や埋没年代に関する情報が十分でなかった。本次調査では、この点を補うデータが得られているので、ＳＲ 5080 の変遷を元に遺跡の動向を明らかにしたい。

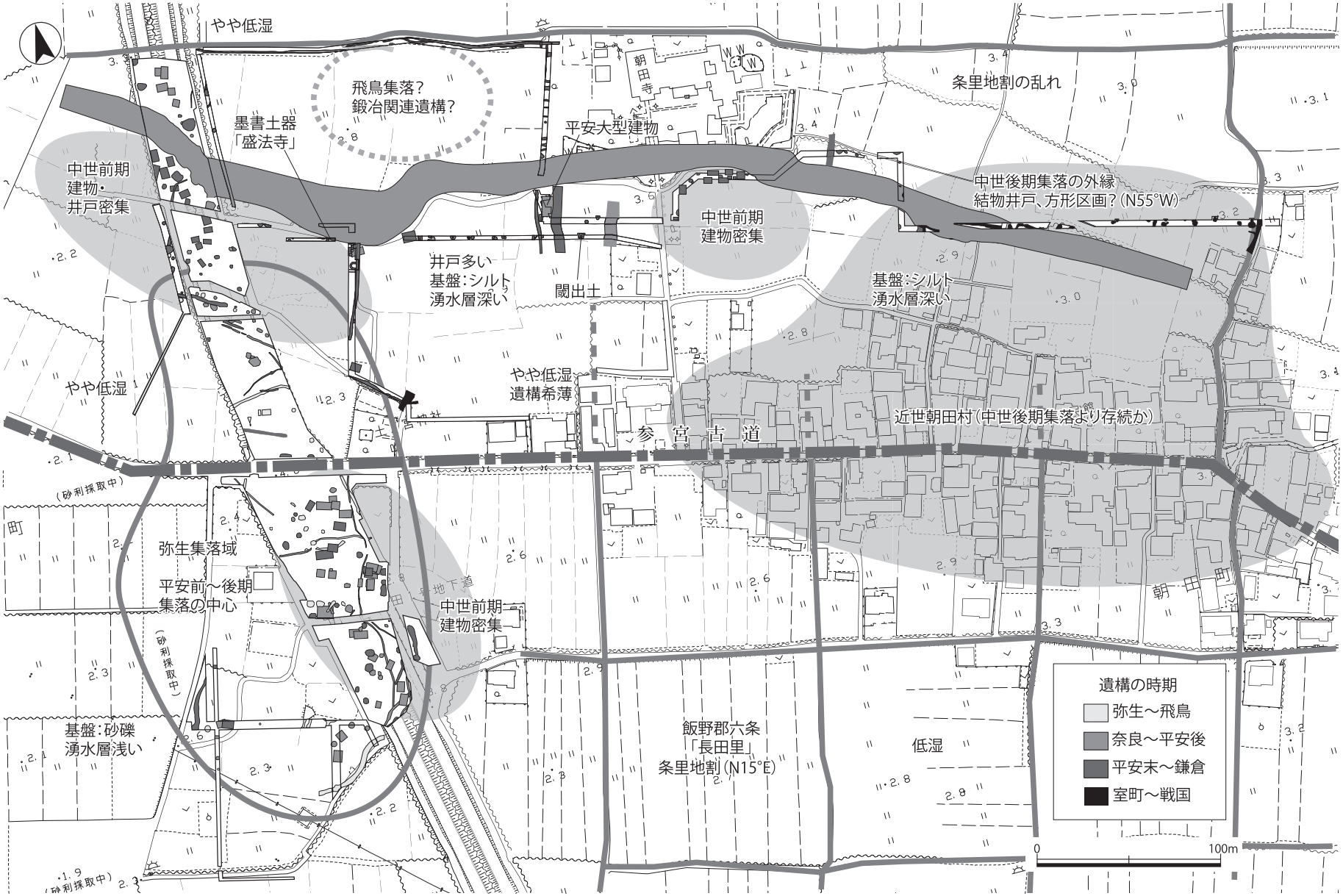
下層　堆積は砂とシルトの互層で、比較的流水量は多かったとみられる。遺物は奈良時代の須恵器も混じるが、９世紀代を主体とする。墨書土器「今林」他、刻書土器、須恵器壺などが出土した。土師器は煮沸具も若干あるが、杯・皿・平底鉢が目立つ。

第２次調査ＳＲ 210 の斎串や舟形・人形等の形代、墨書土器なども、概ねこの時期に該当しよう。

中層　平安中・後期。中層以上は均質な粘土質シルトとなる。遺物量は少なく、志摩式製塩土器などが若干出土している。

上層　平安末～鎌倉時代。遺物は山茶碗など、日常雑器が多く廃棄されているが、貿易陶磁の加工円盤も若干認められる。

以上のように、平安前期は斎串や形代、吉祥句の墨書土器や刻書土器を流路に捧げているが、以後、祭祀の痕跡は認められず、遺跡の性格は大きく変質したことがわかる。また、堆積状況から、流路の流水環境も大きく変わったこともうかがえる。平安前期までは流水の激しい流路であったが、次第に流れは淀み、水の制御も容易になった。中世には流路に接続する井堰（ＳＤ 5279）や条里地割に即した溝が本格的に出現しており、当流路は幹線用水路の役割を強めただろう。流路内で検出した杭列も、平安前期までの埋土の上に打ち込まれたものである。上層



第122図　堀町遺跡概略図（1:3,000）

で出土した加工円盤も、水辺の農耕祭祀に伴うものと見るべきかもしれない。

ＳＲ5080は中世Ⅳ期には完全に埋没しており、中世前期の用水体系は再編されていったと考えられる。

②平安前期の流路祭祀の性格

流路下層から出土した遺物は、吉祥句の墨書土器、斎串や舟形・人形等の形代などがあり、水辺の祓所としての性格が如実である。一方で、いわゆる律令的祭祀の構成要素であり、斎宮でもわずかに出土する小型の土馬や墨書人面土器を欠く点で、都城や斎宮の祭祀とは若干の相違も認められる。

堀町遺跡では祭祀空間の広さも特筆され、各遺物は東西約700mにわたる流路のほぼ全域から出土しており、地点ごとに祭祀の様相も異なるものがある。遺跡東端（第６次調査）では、斎串のほか、灯明皿が大量に出土し、万燈会など夜間の儀礼・祭祀が想定しうる。しかし、こうした夜間の祭祀や歌舞・会飲は、律令国家が規制するところであった[(2)]。

以上のような律令期の祭祀秩序からすれば、堀町遺跡の水辺の祭祀は、櫛田川対岸に位置する斎宮の影響を受けつつも、在地性が強く表れたものとみる必要があるだろう。同じく、当時規制された殺牛馬祭祀を行う朝見遺跡の例も想起されよう。

堀町遺跡に似た流路祭祀は、松阪市杉垣内遺跡でも確認され、旧一志郡と飯高郡の郡境に近いことが祭祀の背景に挙げられている[(3)]。堀町遺跡もまた飯高郡・飯野郡の境界（金剛川）付近に位置し、神の遠堺（下樋小川）との関係も視野に入ることから、神境・郡境の越境に関わった祓所の可能性がある。

もうひとつ考慮すべきは、櫛田川下流域の開発進展である。朝見上地区の発掘調査によって、当地は、平安時代以降に急激に開発が進むことが判明している。その背景には、櫛田川の度重なる氾濫により耕地経営が困難であったこと、『万葉集注釈』に「已に渚は江湖と化成れり」（平安頃か）と記された、的形（潟湖）の後背湿地化・陸化があろう。堀町遺跡は櫛田川低地開発のフロンティアであり、自然領域との境界でもあった。こうした境界は、自然の猛威に接する場であるとともに、近年の環境史研究ではエコトーン（生態学的移行帯）とよばれ、生物多様性に富む豊かな有用地帯として注目されている[(4)]。この環境下で、自然と接触する祭祀が行われた可能性も想定しておきたい。

（３）周辺遺跡との比較

先の検討も踏まえ、朝見遺跡・中坪遺跡・大蓮寺遺跡との共通点や相違をまとめておく（第９表）[(5)]。

飛鳥・奈良時代は、朝見遺跡・中坪遺跡に若干の遺構・遺物がみられるが、遺構密度は薄い。

平安前期は朝見遺跡の最盛期である。多量の緑釉陶器や初期貿易陶磁など奢侈品を有し、石製銙帯から実務官人の関与が想定されるほか、鍛冶関連遺物、多量の製塩土器が出土しており、物流や手工業生産のセンター機能を有するとみられる。堀町遺跡ではこれらが欠如しており、祭祀への特化が明白である。

平安中期以後、朝見遺跡は性格を変じたらしく、上記のような特殊遺物は確認できないが、館的な大型建物が広く分布し、古代荘園にも似た景観が想定できる。平安後・末期の集落は実態が不明確であるが、水辺の鏡祭祀が確認され、条里坪境溝が掘削されるなど、耕地開発拠点としての性格は存続したと考えられる。大蓮寺遺跡は緑釉陶器の優品を有するなど、朝見遺跡の遺物構成とよく似るが、平安中期以降は四面庇付建物が複数みられ、有力者の居館や宗教性の強い施設が存在したと考えられる。

第９表　朝見上地区の遺跡消長

	飛鳥	奈良	平安				平安各期の特殊遺物・遺構
			前	中	後	末	
堀町	■	■	■	■	■	■	前：墨書土器、刻書土器、木製祭祀具、風字硯、大型建物　末：墨書土器「盛法寺」
中坪		■	■				前：墨書土器、緑釉陶器
朝見	■		■	■	■	■	前：墨書土器、緑釉陶器多量（緑彩含む）、木製祭祀具、石製銙帯、初期貿易陶磁 中：二面庇付大型建物（居館？）　後：青銅鏡３（流路祭祀）
大蓮寺			■	■	■	■	前：緑釉陶器（陰刻花文含む） 中～後：四面庇付建物、鍛冶関連遺物

堀町遺跡と朝見遺跡は９世紀に最盛期を迎え、それ以後衰微ないし再編される点はよく似通っている。後述するように、当地域の遺跡の消長は、一帯の条里施工とも深く関連するだろう。さらに細かな画期は今後の調査の中で追求していきたい。

３．井戸と木材資源利用

今回の第５次調査では27基の井戸を認め、６次調査までで約100基の井戸が確認されている。県内では、明和町斎宮跡に次ぐ多さである。また、井戸枠から多くの情報が得られる点も特筆されよう。これらから井戸の変遷や木材資源利用の諸相をみたい。

（１）井戸の構造と変遷

県内の井戸の変遷については、駒田利治氏による詳細な整理と集成があり、古代の井戸は、都城の隅柱を持つ板組井戸が簡素化したものが多いという。また、戦国期以降は、結物の使用が盛んになることも指摘されている[(6)]。本遺跡では、この特徴や変遷を一遺跡内で追証できた。

井戸は大きく以下の２種類があり、さらに細別が可能である（第123図）。朝見上地区の調査で、構造ごとの消長も詳しく判明しつつあるが、ここでは、本次調査に関わるもののみ触れておく。

Ⅰ：板組井戸。平面形が方・円形の井戸枠を持つ。井戸枠は大型の掘形の中央に設置する。

①縦板・横板組横桟止め…縦板と横板を井桁状に組み、横桟と裏込めの土圧で支持するもの。ＳＥ5187・5201、朝見２次ＳＥ72などがある。

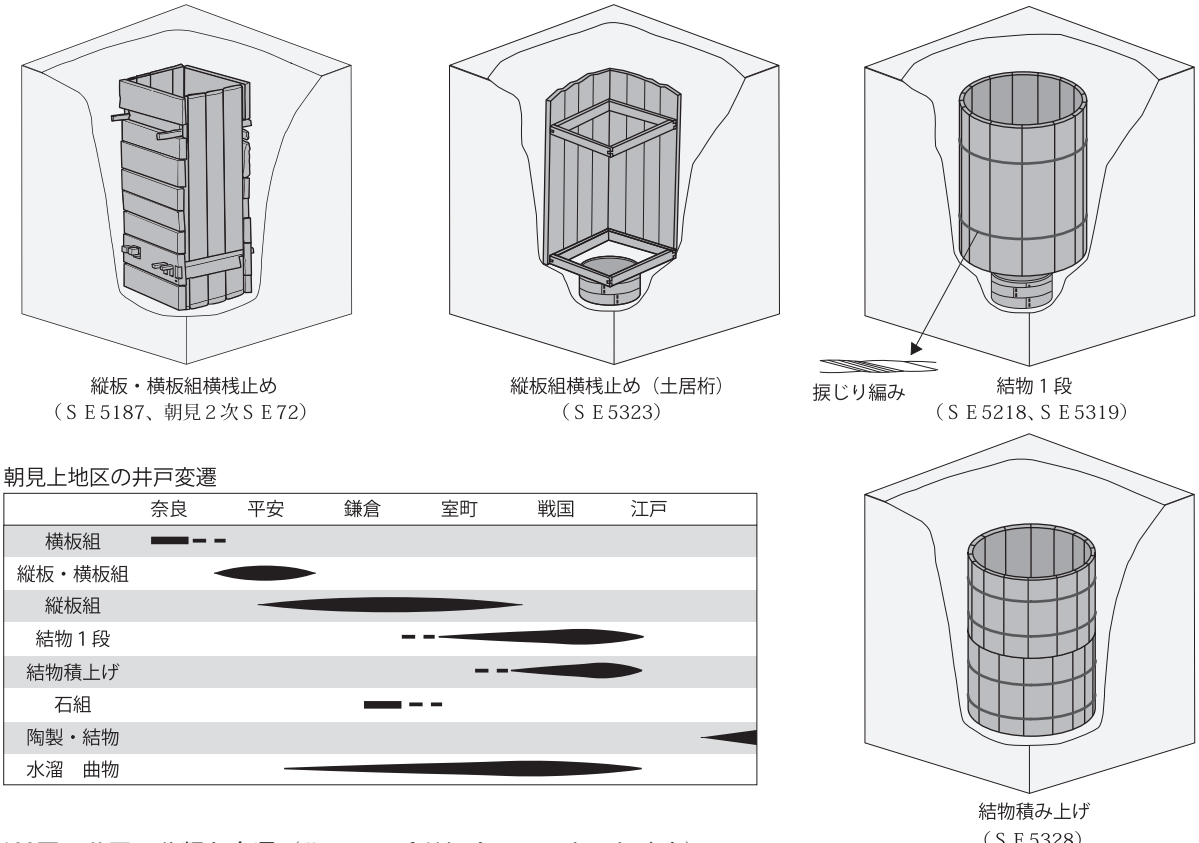
②縦板組横桟止め…上部と下部に横桟や土居桁を組み、土圧で縦板を支持するもの。ＳＥ5008・5323など。湧水層が浅い地点で多用される。

Ⅱ：結物（結桶・結筒）井戸：掘形はやや小さく、擂鉢状となるものもある。作業空間確保のため、井戸枠は掘形の隅に設置される。

①結物１段…長手の結筒を１段据えるもの。ＳＥ5218・5319などがある。

②結物積み上げ…結桶ないし結筒を２段以上積み上げるもの。ＳＥ5328がある。

平安～鎌倉時代に盛行する板組井戸は、内法の大きな井戸を作れるが、井戸枠設置のために大型の掘形を作る必要があり、当地のような軟弱地盤では多



第123図　井戸の分類と変遷（註５、三重県埋文セ2015を一部改変）

大な労力と危険が伴う。対して、室町時代に多い結物井戸では、地山掘削の作業量が大幅に削減されている。こうした井戸の特徴から、当遺跡の井戸の変遷は、軟弱地盤により適した新式井戸の普及過程として捉えることができよう。ただし、湧水層が浅い地点では、結物井戸廃絶後、板組井戸に変わる例（ＳＥ5316→ＳＥ5323）も認められ、基盤層の状況に応じた柔軟な井戸製作が行われているようである。

このように、井戸が集落立地の変遷と基盤層の関係を理解する上で重要な鍵となりうるのである。

（２）井戸枠の構築パターンと転用材

本遺跡の板組井戸には、建築部材の転用が多く認められた。特に、平安～鎌倉時代のＳＥ5187、ＳＥ5201、室町時代のＳＥ5323では、横桟や土居桁を除く大半が建築部材の転用であった。このうち、ＳＥ5187では、井戸枠の構築過程が良好に観察できる（第124図）。本例は、長い板状の建築部材を横挽きノコギリで半裁し、各々を対向配置することで井戸枠の不陸を防いでいる。材の置き方は異なるものの、転用材を積極的に用いる井戸枠構築パターンは朝見遺跡２次ＳＥ72などにも認められ、今後も板組井戸を調査する際には注意が必要である。

朝見上地区で出土した主要な建築部材を第125図にまとめた。建築部材は壁･床板や開口部材（扉･蔀、閾）など板材が多いが、垂直材も含まれている。

これまで見落しがちだったのは、ＳＥ5067・ＳＥ5323で多用される榑板（榑から分割された薄板）である[7]。これらは屋根の葺板や野地板などの可能性が考えられ、朝見遺跡では長さ1.3mに及ぶものも認められる。厚さはほぼ一定で、幅は三～五寸相当のものが多い。古代・中世に流通した、公用榑の規格[8]に合致するものが含まれよう。

室町時代の結物井戸では、建築部材は用いられない。ただし、ＳＥ5326・5328では、長手の結筒材を抜き取った後にノコギリで切断し、小型の結筒を製作している。また、水溜の曲物も長期の利用と補修を経た後、井戸に供されたことが判明している。

このような、屋根板から柱までのあらゆる建築部材や廃材をリサイクルする循環型の木材消費様式は、木材資源を外部依存せざるを得ない低地集落の環境適応戦略をよく示すものである。

（３）ＳＥ5187出土閾（蹴放）の検討

宮本長二郎氏によれば、古代・中世の建物開口部材の出土例は非常に少なく、扉口材に至っては「７世紀以後の出土例は皆無」という[9]。ＳＥ5187閾（1337･1338）は、稀少な例のため詳しく検討を加え、部材の元となった建物についても考察したい。

なお、本部材については海野聡氏（奈良文化財研究所）に多くの教示を得た。

全体の構造　扉軸穴が二ヶ所あり、各々が柱付近に位置せず、片側に偏る。各扉軸穴付近にあるやや大型の方形枘穴は、位置がほぼ揃うことから、扉の隙間を埋める方立の枘穴と考えられる。柱の欠き込みは半円形で、直径約30㎝の円柱を用いる大型の建物であったことが知られる。

壁と地覆　開口部以外は壁であろう。これは、方立穴付近に、幅15cm程度の圧痕ないし風食の少ない部分があり、ここが壁・木舞受けの地覆の当たりと考えられるためである。上下に並んだ二つの枘穴は、壁を支える間柱のものと推測される。

既往の出土例は、柱間の短い弥生～古墳時代の事例が大半で、本例のように柱間一間分（約７尺）の中に間柱を立て、壁と扉を持つ事例はない[10]。

鍵穴　扉軸穴よりも下に位置する、方形の貫通穴は鍵穴であろう。これは扉から細い角材を穴に落とし込むもので、法隆寺金堂扉などに例がある。鍵穴の位置から、内開きの扉とみられる。

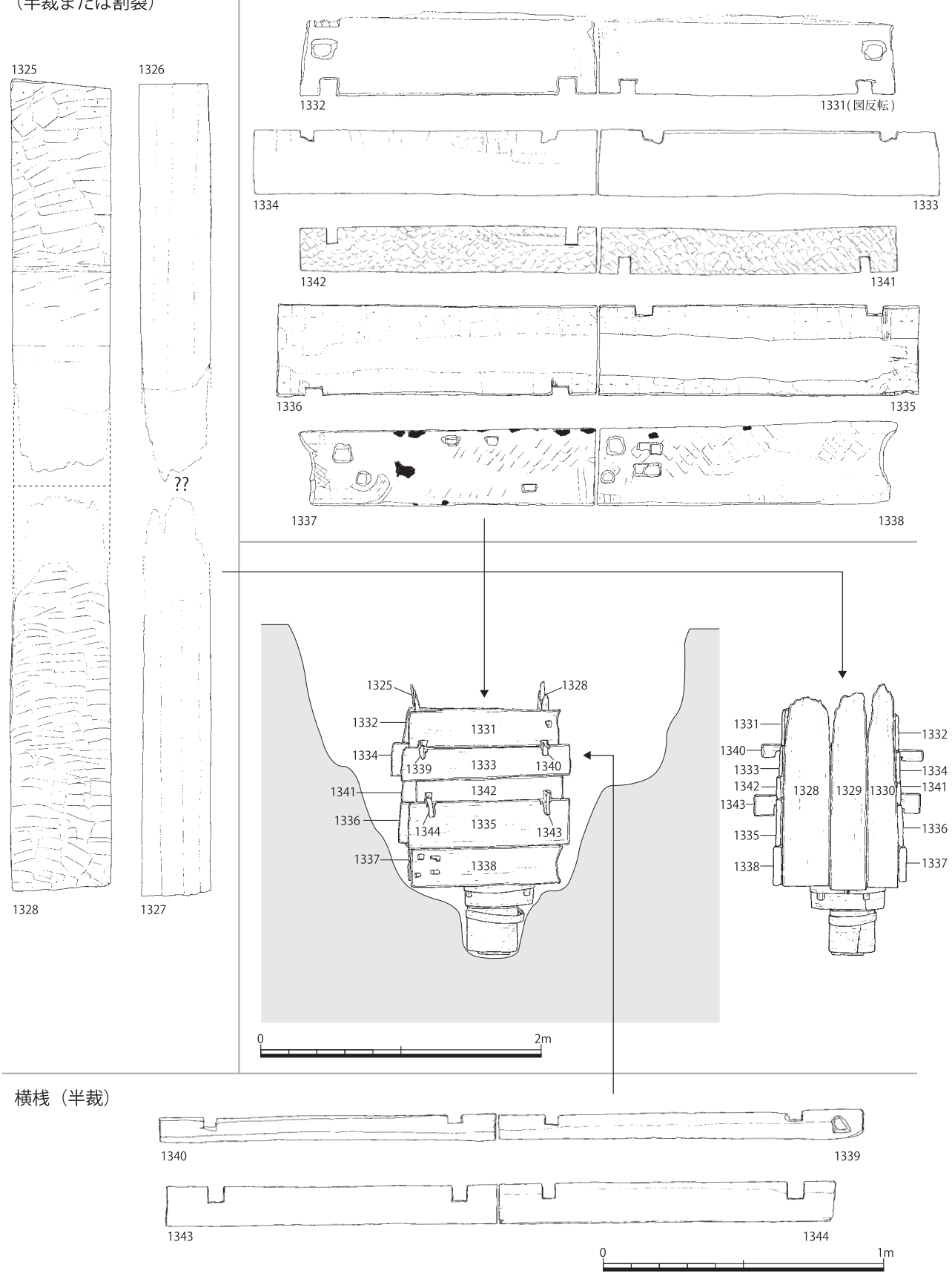
扉　観音開き、片開きの両方が考えられる（第126図）が、片開きの場合、片方の「扉軸穴」が浮いてしまう。観音開きの場合、片側の扉軸穴に擦痕が確認できない、扉の幅がやや小さい、閂（かんぬき）ではなく鍵を使う、などが問題となる。また、いずれの場合でも、下方の２つ並ぶ貫通穴の用途が不明である。扉の振れ止めは楣側にあろう。

扉の擦痕は、片側を閉め切りとしたか、軸の長さから擦痕が発達しなかった可能性がある。扉の幅は、片開きで約90cm、観音開きで各45cmとなり、こちらはやや狭い。観音開きであれば一枚板の扉、片開きだと一枚板としてはかなり大きく、板を矧ぎ合わせた扉板であろう。本報告の扉板（1295）が幅26㎝であるから、これらを３～４枚矧ぎ合わせた扉であればよい。鍵は、定規縁などを用いれば一つの鍵

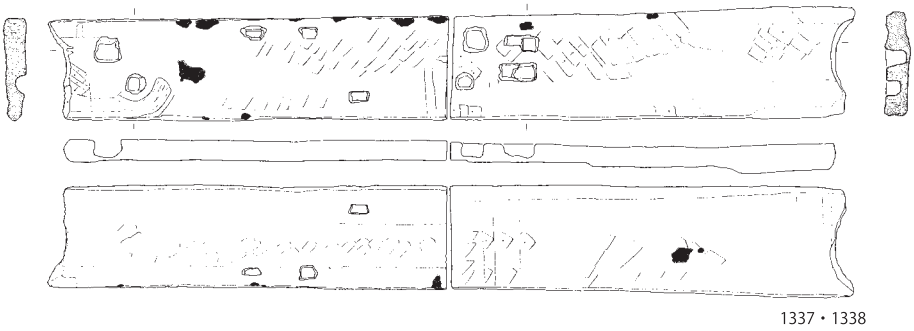
縦板
（半裁または割裂）

横板（半裁）

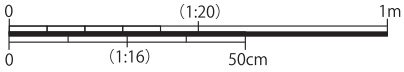
横桟（半裁）

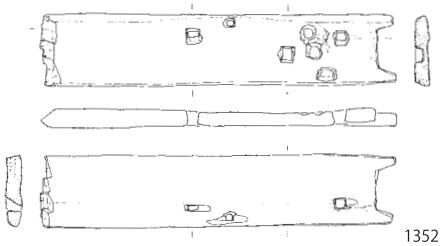


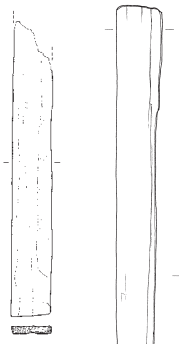
第124図　ＳＥ5187井戸枠の構成



閾（蹴放）1:20

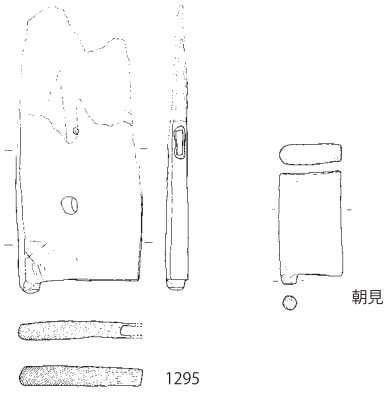




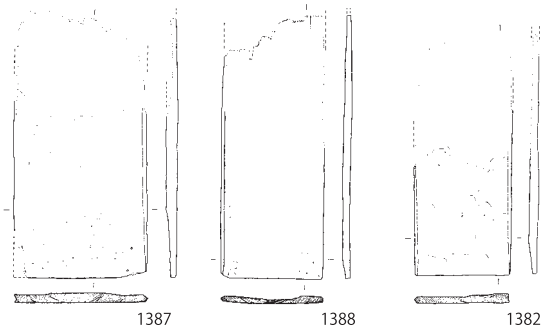


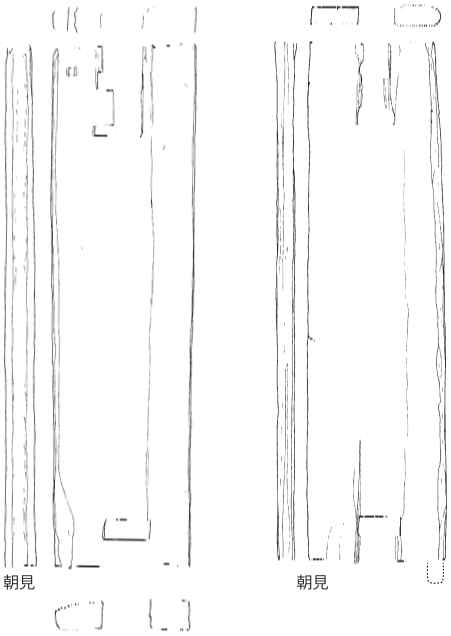
榑板（屋根板など）1:16

扉・蔀 1:16

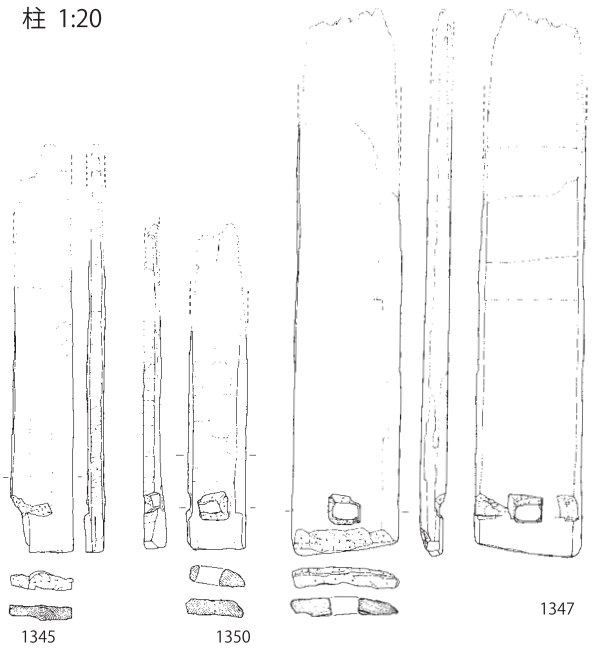


壁板・床板 1:16

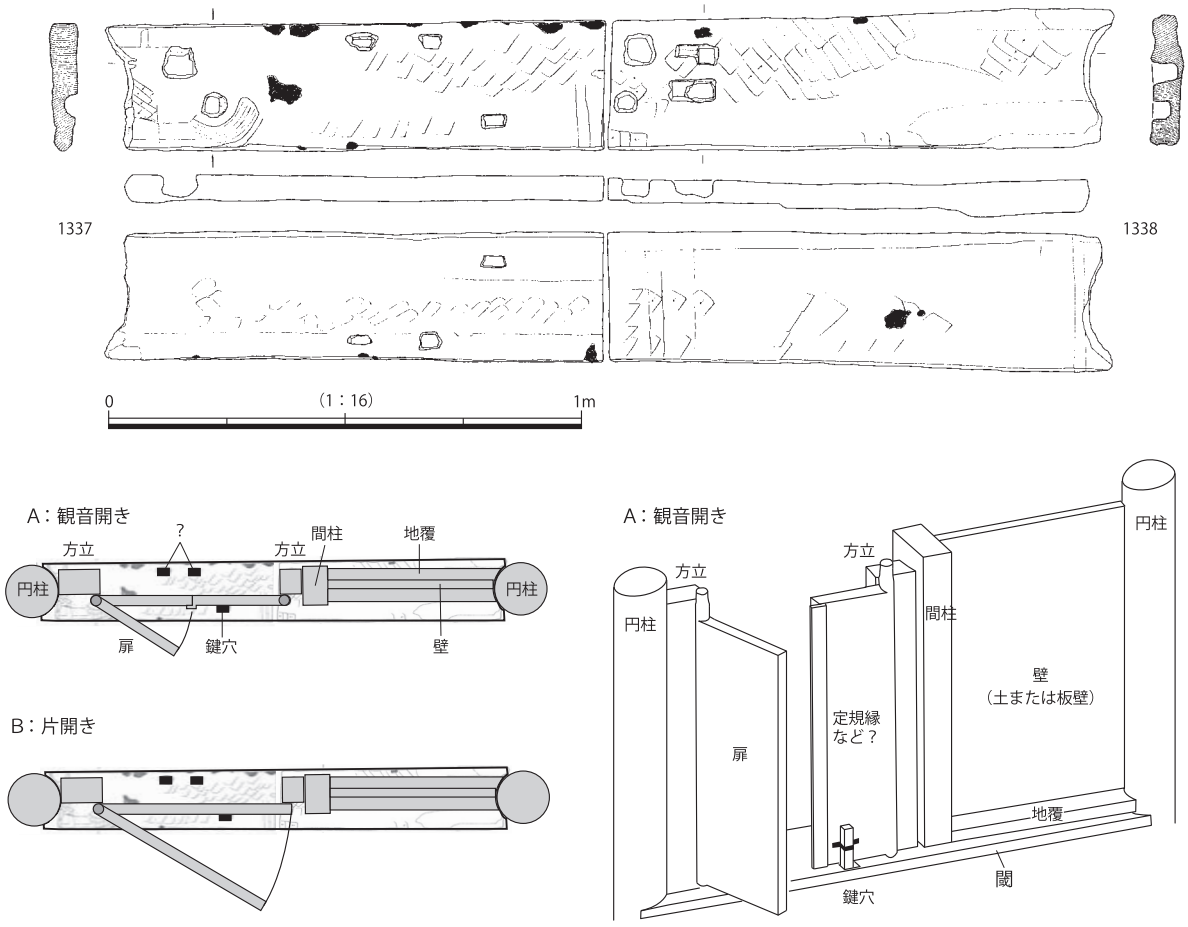




柱 1:20



第125図　堀町遺跡・朝見遺跡出土建築部材（1:16または1:20）



第126図　ＳＥ5187出土閾の復原想定図（実測図は1:16）

で観音開きの扉も施錠することができる。

現状では、扉軸穴を重視して観音開きを主にしつつ、片開きの可能性も残しておきたい。

ＳＥ5201出土の閾（1352）については、約半分しか残存せず、詳細を復元するのは困難であるが、扉軸穴や方立穴の位置、貫通穴の位置などから、落とし込みの鍵を用いた片開きで、一方に壁をもつ同様の構造が考えられよう。

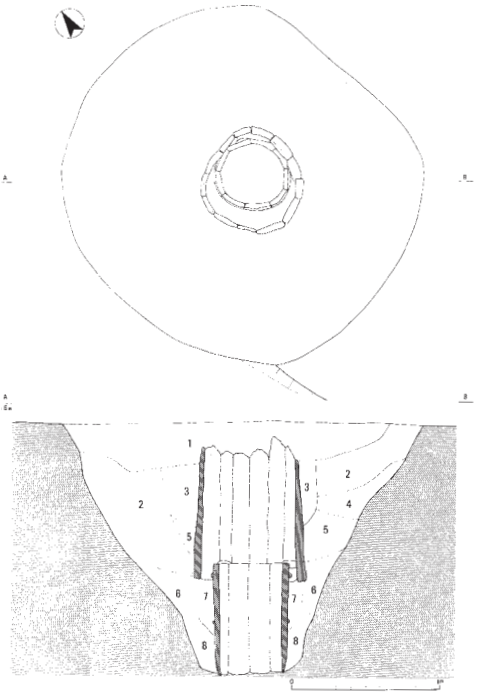
建物の評価　以上から、ＳＥ5187井戸枠材の母体となった建物は、径30㎝前後の円柱や、板扉を有する格式のものであり、寺院ないし上位階層の居館などの建築部材であったとみるのが妥当であろう。転用材であるため、製作の場･時期と使用の場･時期の差は考慮する必要はあるが、こうした建築部材を入手し得た階層は、ある程度限定しうるものと考えたい。本次調査では、中世前期の大型建物は確認できないが、7-5区付近に中世Ⅱ期の建物が密集している。集落の一つの核が付近に存在したことが、建築部材の分析からも追認されるのである。

（4）結物井戸の普及過程

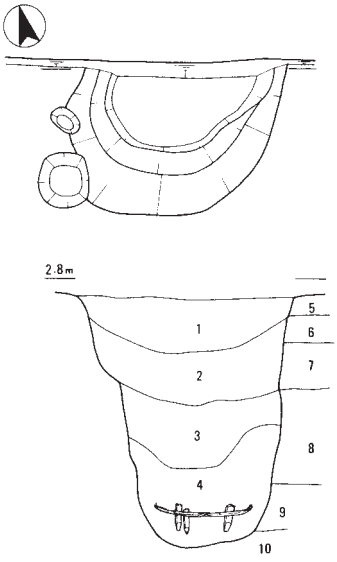
三重県中・南勢地域の結物井戸は、松阪市松坂城跡を除き、すべて標高10m未満の低地で確認されている（第128図）。これは結物を多用する中世末～近世の遺跡が、浜堤帯や沖積低地に位置することと関係し、城下町・湊や宿場町など、当該期の急激な都市の形成と軌を一にして結物井戸が普及していく様子がうかがえる[(11)]。県内の遺跡では津市安濃津遺跡群がその代表といえ、15世紀以降、多くの結物井戸が確認できる。一方、国内の結物出現期に比較的近い事例には、松阪市宮ノ腰遺跡の結桶積み上げ井戸（13世紀）がある[(12)]。本遺跡では、両遺跡の間を埋める資料が得られたので、結物の製作技法を検討しつつ、変遷を述べたい（第127図）。

堀町遺跡では、県内の結物出現期である13～14世紀の事例が認められる（ＳＥ5316、5230）。抜き取り痕のみで詳細は不明だが、掘形形状や箍・楔の

結物導入期

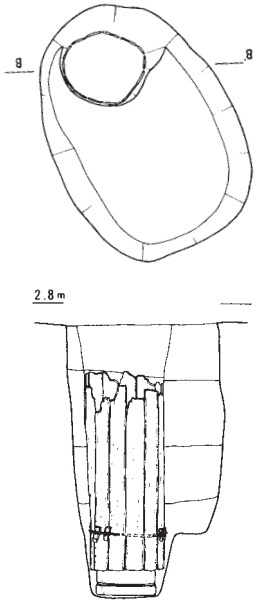


宮ノ腰２次 SE10　結物積み上げ（13 世紀前半）

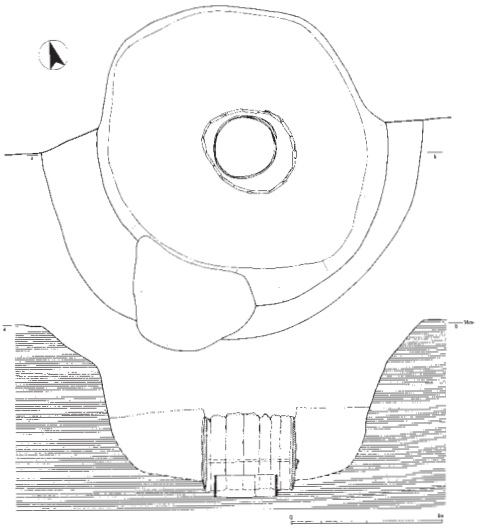


堀町５次 SE5230
結物１段？（13 ～ 14 世紀）

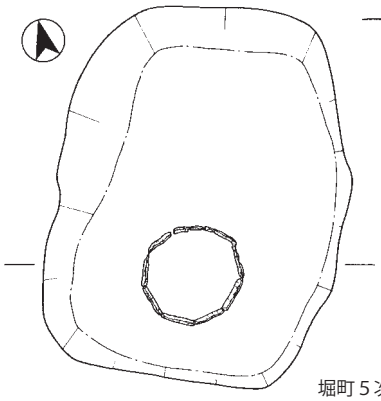
台カンナの出現

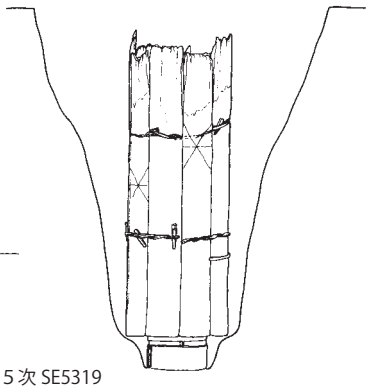


堀町５次 SE5218
結物１段＋曲物（14 世紀末～
15 世紀初頭）



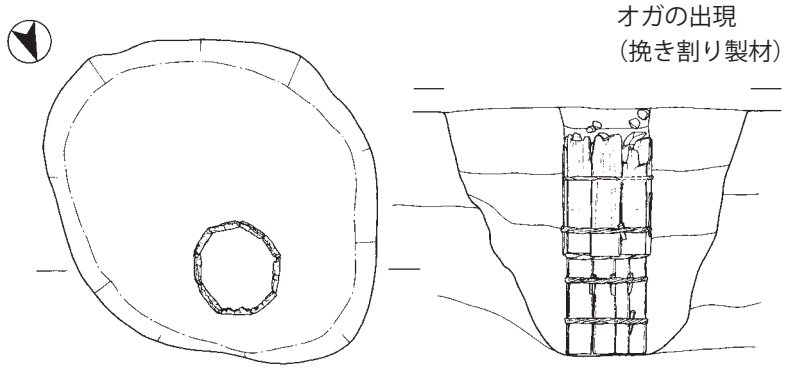
安濃津遺跡群 SE53　結物１段？＋曲物（15 世紀中葉）





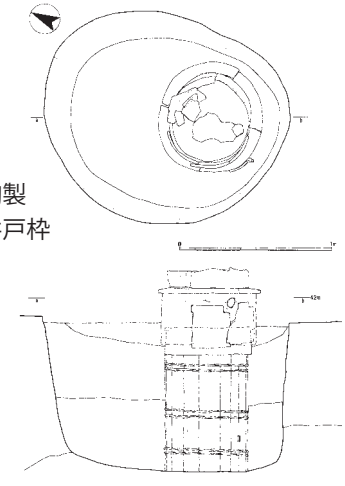
堀町５次 SE5319
結物１段＋曲物（15 世紀前半）

オガの出現
（挽き割り製材）



堀町５次 SE5328　結物積み上げ（16 世紀）

陶製
井戸枠



宮ノ腰１次 SE5328
結物＋陶製井戸枠（19 世紀）

第127図　結物井戸の変遷（1:50）

残り方からみて、長大な結物を据えたものであろう。ただし、これらの例は、抜き取り痕に山茶碗が混入した可能性を払拭できず、この時期の結物技術の解明も今後の課題として残されている。

中世Ⅲｂ期以降は側面加工に台カンナが確実に認められ、ＳＥ5218など結物1段の井戸が多くみられる。ＳＥ5319も台カンナを用いるが、厚手の板を九角形に組むもので、広島県草戸千軒町遺跡の「木組多角形板組井戸」（13世紀～14世紀）に酷似している。草戸千軒町遺跡では、鉄釘や縄で縦板が結合されており、在来技術で結物を志向した井戸製作が行われたと評価されている[13]。また、石村真一氏は、大工が結桶の修理を担当した14世紀の史料から、専業の桶師でなくとも結物製作の一端を担うことは可能であったとしている[14]。

堀町遺跡の中世結物井戸枠には、桶底板の圧痕や内面の曲面加工がなく、いずれも当初から井戸枠（結筒）として製作されたと考えられる。また、小型容器としての桶も出土例がない。この状況から、県内でも13～14世紀以降、結物技術の断片が結物普及に先駆けて広まっていたのではないだろうか。

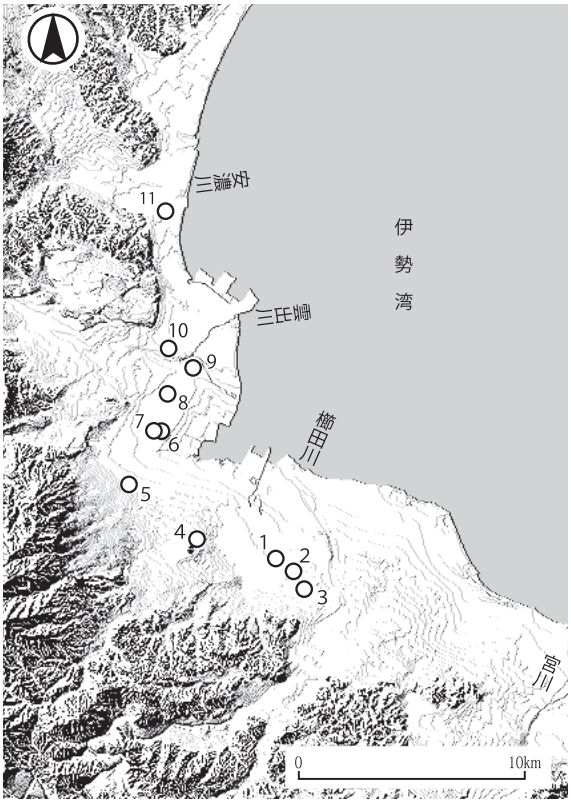
オガによる挽き割り製材は、16世紀のＳＥ5326・5328に認められ、オガ・台カンナが出揃う。

（5）製材工具と井戸枠材の樹種

建築史学では、室町時代における台カンナ・オガの普及を、打ち割り製材に適した良質の針葉樹材（スギ・ヒノキ）の枯渇と関連づけている[15]。また盛本昌広氏は、中世の山林破壊による松山化・草山化の様相などを通じて、室町時代以降、畿内を中心に山林資源の枯渇が進行していったとしている[16]。

堀町遺跡では、平安～鎌倉時代の井戸にスギが多用され、室町時代の結物井戸出現とともにカヤ・コウヤマキなどの針葉樹が現れるので、上記の諸説と井戸枠利用樹種の変化は一見調和的にみえる（第129図）。特にＳＥ5326・5328のオガで製材されたカヤは、非常に節の多い材が用いられており、挽き割り製材の有効性・革新性が看て取れる。

他方で、ＳＥ5323の壁・床板転用材にはヒノキが多く用いられており、次節の曲物樹種の変化と合わせて、室町時代のヒノキの利用増についても注意を払う必要がある。結物井戸は、建築部材の転用が不可能であるため、雑多な針葉樹の利用が早くに現れている可能性もあろう。



1．堀町遺跡　2．中坪遺跡　3．朝見遺跡
4．松坂城・松坂城下町遺跡　5．宮ノ腰遺跡
6．小津遺跡　7．中林・中道遺跡　8．松本権現前遺跡
9．前田町屋遺跡　10．雲出島貫遺跡　11．安濃津遺跡群

第128図　結物井戸の分布（カシミール３Ｄにより作成）

（6）曲物樹種の変遷

樹種同定の結果、平安時代から鎌倉時代にかけて、中型品以上の曲物にスギが多用される状況が明らかになったが、近県の樹種利用とは明らかに異なる。

主要な針葉樹・曲物産地の木曽を控えた愛知・岐阜、『多聞院日記』（中世末）に登場する吉野（洞川）を擁する奈良、徳島県や高知県といった南海道沿い、静岡県以東の東海道沿いの古代・中世遺跡でも主にヒノキが用いられており、スギ利用は北陸や東北など積雪量が多い北日本地域で顕著となる[17]。紀伊半島は出土例が乏しく実態が不明であるが、現在は良質のヒノキ産曲物産地となっている。

このような曲物樹種の傾向からみれば、曲物へのスギの多用は伊勢地域に特有の現象であり、曲物２類の産地は、奥伊勢や櫛田川上流域あたりに求めておくのが穏当かと思われる。

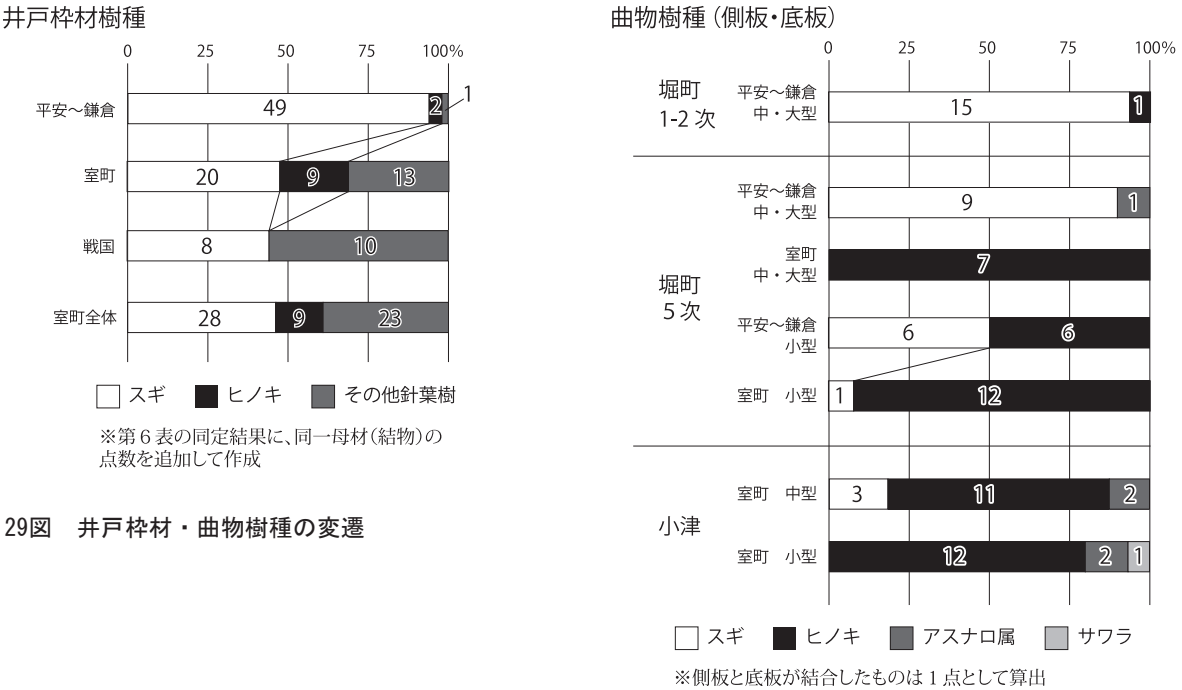
曲物にスギ板目～追柾目板を用いる利点は、やや小径の木からもへぎ板を取れる点にあろう。また、建築部材の残材や端材も用いることができる。これに対して柾目板を用いるヒノキ製品では、少なくともへぎ板幅の倍以上の大径木を要し、その年輪数は数百年ともなるため、木材産地はより限定される（民俗例では三百年生が良材という）。また、柾目板を取る際は、他の建築部材との材の共有は困難となる。しかし、板目板は反りや割れが生じやすく、民俗例では専ら柾目板が用いられるから[18]、基本的にはヒノキ製曲物１類のほうが良品といえるだろう。

現状では、曲物にスギを多用し始める時期を特定することは難しいが、伊勢平野の曲物出現期（古墳時代、津市六大Ａ遺跡）には、主にヒノキやアスナロ属が用いられている[19]。県内の９世紀代の井戸には曲物製水溜が確認できないことから、10 世紀以降にスギ製中・大型曲物の需要が高まっていったと予想しておきたい。平安～鎌倉時代にスギが多用される状況は、堀町遺跡のほか、松阪市中林・中道遺跡や舞出北遺跡で認められ、津市立花堂遺跡でも中型品は曲物２類、小型品はアスナロ属である。また北勢地域の桑名市志知南浦遺跡でも鎌倉時代のスギ製曲物が一定量出土している[20]。

この様相は室町時代（中世Ⅲｂ期）に入って一変し、中・大型品におけるヒノキ製品の割合が高くなる（第 129 図）。当遺跡のほか、松阪市小津遺跡（室町～戦国）においても小型品・中型品ともにヒノキ製品がスギ製品を圧倒しており[21]、近隣県の利用樹種傾向とも遜色ない。

当該期の激的な利用樹種変化の背景には、木曽山の材木流通に関わった桑名[22]をはじめ、主要湊津を介した木材・曲物製品流通の発展、それに乗じた檜物師や杣の進出などが想定しうるが、こうした仮説は、先に製材工具の項でみた、中世後期に木材資源の枯渇が生じたという説と一見相反するように思える。あるいは、当該期に進行したとされる木材資源の枯渇が、より厳密な樹種選択を推し進め、スギは建築部材への利用に限定されていったのかもしれない。また、優良材であるヒノキの積極的利用が資源の競合を生み、その後の枯渇を招いたともとれる。

いずれにせよ、本遺跡の曲物が古代から中世にかけての木材・木製品流通とその変遷を知る上で重要であり、上記の仮説を今後の出土事例や文献史料から検証する必要がある。ヒノキ製曲物の側板は、時に数百年の年輪が観察でき、酸素同位体比による年代測定や年輪年代法の恰好の対象となる。こうした理化学的な応用研究を交えて木材産地の同定を進め、資料的価値をさらに高めていく必要があろう。



第129図　井戸枠材・曲物樹種の変遷

4．中世集落の形成と画期

（1）墨書土器「盛法寺」の評価

堀町遺跡では、平安時代の墨書土器が計41点出土している。墨書は土師器杯・皿の底部外面に記され、文字は1・2字で「律」「大吉」「宮」「西」「南」「戌亥」「今林」などがあり、方位や吉祥句など、単体では意味が明確にできないものが多い。また、中世には、山茶碗の底部に記号や花押などを記すものがほとんどである（写真図版55）。こうした中で、「盛法寺」と墨書された初期の山茶碗が出土したことは特筆されよう。墨書土器の固有名詞は、一般に土器や使用者の所管を示すと解されるから、平安末期の逸名寺院が近辺に存在、あるいは当地に影響を及ぼした可能性が出てきたのである。墨書土器「盛法寺」が出土したＳＤ5132からは、灯明皿や抹香などの置台とみられる土師器皿が出土しており、仏教的祭祀との関わりも想定しうる。

山茶碗が出現する中世Ⅰ期（11世紀後半～12世紀）は、井戸の存続期間を見る限り、平安後期集落との大きな断絶はないと推測される。この時期には、飯野・多気郡の東寺領大国荘・川合荘をめぐる所領争いの中で成願寺や中万寺といった在地寺院が地域経営の主体として名を見せている[23]。堀町遺跡の平安後～末期の集落再編や条里施工に、こうした在地寺院が関与した可能性は十分にあろう。

（2）朝田寺の成立と堀町遺跡

今回の調査では、朝田寺に関連する寺域溝の検出や瓦の出土が期待された。ところが、朝田寺付近には、平安末～鎌倉時代の大溝ＳＤ5172や、自然流路ＳＲ5080があるにも関わらず、これらから寺院に関わる古代・中世の瓦は一片も出土していない。従って、当該期には寺自体が存在しないか、檜皮葺や板葺の堂だったと考えざるを得ない。さらに、ＳＲ5080は現寺域内を横断しており、こうした溝や流路が埋没する室町～戦国期以降でなければ、一定の寺域（縁起では方一町という）確保は難しいだろう。

以上から、朝田寺は室町時代以降、現地で成立した可能性が非常に高い。この所見は、中世末～近世初頭に当地に移ったという朝田寺の寺伝（第Ⅱ章）とも齟齬はない。ただし、中世前期までの当地に、宗教的色彩が皆無というわけではない。墨書土器「盛法寺」や、内面に煤が付着した山茶碗など火を用いた儀礼・祭祀の痕跡、ＳＥ5187出土の鍔・白磁水注などは注目でき、朝田寺の前身となりうる宗教的中核の存在を全く否定するものではない。

最終的な結論は、朝田寺境内の発掘調査を待つほかないが、現状では、朝田寺の存在と中世朝田郷の展開は、一端切り離して考える必要があるだろう。

（3）中世集落の画期

集落形成の大きな画期となるのは中世Ⅱａ期（12世紀末～）で、朝田寺南東の7-2～7-5区に多くの遺構が形成される。遺構の分布域は最大となり、他に、3-2区など遺跡北西、1・2区など遺跡南西にも建物・井戸が集中する地点がある。当該期の集落は複数の微高地に核があり、建物の空閑地には条里方向の大溝や中世素掘溝が形成され、ある程度耕地化も進んでいったと考えられる。いわゆる疎開村に近い、ややルーズなまとまりをもつ集落が想定されよう。

中世Ⅲａ期の遺構は希薄である。中世Ⅲｂ期（14世紀末～15世紀前半）には、結物井戸が遺跡南東に多数現れることから、近世村の前身となる中世後期の集村が形成されつつある段階と考えられる。このころ、史料上に「朝田郷」の名がみえる（第Ⅱ章）。

中世Ⅳ期（15世紀後半～16世紀）までには、ＳＲ5080は完全に埋没し、7-8・7-9区で16世紀代の溝などが掘削されるが、これらは条里地割に即さず、N55°W（N35°E）を指向する。コの字状のＳＤ5297・5306などから、方形区画（屋敷地）の存在が予想されよう。遺物は土師器煮炊具が中心で、量も多い。

このように、広域に展開した中世前期の集落が、参宮古道沿いの集村に変わる過程が明確になった。

（4）集村化を支えた結物井戸

中世後期における集村化は、戦国期の緊張的情勢や自治組織の発展、交通路との関係などが背景にあげられ、堀町遺跡のように中世前期の集落域が大きく移動する事例がまま認められる。これを堀町遺跡の基盤層や湧水層の状況（第５図）からみると、弥生時代以来、湧水層が浅く安定した微高地に展開した集落が、湧水層が深く居住に適さなかった場所に移動した（せざるをえなかった）ということになろう。この集落の移動に合わせて結物井戸が増加する

ことに、改めて注目する必要がある。

結物井戸は、軟弱地盤で効率的に井戸を作る新来技術とされ、今回の調査でもそれが追認された。台カンナやオガの普及を前提とするこの技術革新は、城下町や宿場町といった都市の形成だけでなく、低地部の集村化に伴う集落立地の変化を支えるものでもあった可能性が高いのである。

堀町遺跡は、低地の集村化と井戸の変遷を関連付けて理解しうる貴重な事例であり、今後、他地域との比較検討も含めて詳しく検討を進めていきたい。

5．条里地割と生業

（1）条里施工の年代と段階

第Ⅱ章でみたように、堀町遺跡は「飯野・飯高郡条里図」（沢氏古文書）の六条長田里に相当する[24]。

条里方向の溝・大溝は、いずれも中世Ⅱａ期（12世紀末～）以降に開削されている。平安後期以前の溝は非常に少なく、わずかに6-1区のＳＤ5098があるが、これは自然地形に即して配置された溝であると考える。つまり、堀町遺跡内では平安後期以前に条里関連遺構は基本的には存在しないか、極めて希薄だと考えられるのである。ただし、平安時代の掘立柱建物の主軸などを見る限り、見えない条里プランが意識されていた可能性は高いといえよう。

一方で、朝見遺跡の調査では、坪境溝の掘削時期や花粉分析の結果に基づき、11世紀以降に一帯の条里施工が大きく進展したとしている[25]。

朝見遺跡に比べて堀町遺跡内の条里施工が遅れ、部分的な施工に留まる理由は、当地の地形にあろう。基盤層の砂礫が表出する微高地をはじめ、起伏に富んだ地形があり、現在でも条里地割が貫徹されているわけではないのである。遺跡内の地割はＳＲ5080の付近で大きく乱れており、基盤層の状況から、ＳＲ5080の前身となる旧河道ないし谷地形が長期間存在したと推測される。

遺跡外の南北低地部では、条里地割が整然とみられるが、遅くとも堀町遺跡の平安集落が大きく再編される平安後期（特に11世紀前半）には遺跡外の条里施工がある程度進み、集落規模が最も拡大する中世前期に集落内の空閑地にも水路掘削が及ぶという発展段階を仮に考えておきたい。集落域の調査のみから条里の施工段階を論じるのは自ずと無理があり、今後も朝見上地区全体の集落や遺構の消長から、復原的・広域的に条里施工のプロセスを論じていく必要があろう。

（2）条里内部の生業

多気・飯野両郡にまたがる10～12世紀の東寺領大国荘の内部には、広大な空閑地や川成荒地、桑畠（神郡内では桑の栽培が勧奨）も含まれていた[26]。また、中勢地域の花粉分析等の結果でも、平安時代にはイネ科・アブラナ科・ソバ科の栽培が確認されており、中世の特産品であった絹・綿栽培と合わせて、多様な生業が展開したことがわかっている[27]。

今回の大型植物種実の分析においても、イネやオオムギ、ソバ、ヒエなどの雑穀類や、戦国期にはチャノキ種実も認められた。また、ウメやモモ核、カキなどの果実類も盛んに食されている。また、遺構内からマツの葉や球果がしばしば出土し、微高地では広葉樹林がさほど発達せず、マツの二次林が広がるような貧弱な植生環境にあったことも予想される。これらは、集落域・微高地の分析結果であり、周辺低地との比較が今後の検討課題となろう。

（3）中世後期井戸の性格と生業

以上のような条里内の多様な生業や、当地の地形環境を踏まえると、7-9区のような中世後期集村の外または外縁で見つかる多数の井戸は、日常の飲用ではなく畠作用の野井戸とみるべきかもしれない。

奈良盆地の民俗例では、野井戸は渇水時に緊急的に用いられるものであるというが[28]、7-9区ＳＥ5305にみるように、屋敷地外においても執拗に掘り直すなど、積極的な地下水利用が試みられていた。現在でも、畠地の一角に野井戸をみることができる。

中世後期におけるＳＲ5080の埋没後、起伏に富む地形で条里プランに即した水路施工を徹底するよりは、各耕地に井戸を配し、畠作や陸稲を行うほうが合理的であり、条里地割内の多様な生業にも合致していたのではないだろうか。

6．今後の課題と展望

今回の調査では、弥生時代から戦国期における多

くの遺構を広範囲にわたって検出し、古代から中世の集落変遷に関する知見や木材資源利用に関する多くの情報を得ることができた。各時期の遺構は翌年度に行った第６次調査でさらに増加しており、出土遺物や井戸の数も、本次調査を大きく凌駕している。このため、詳細な遺跡の変遷や評価は第６次調査の報告書に委ね、主要論点を網羅的に示すこととした。

しかし、井戸枠材などの自然遺物のもつ情報は予想以上に多く、調査時の問題意識の欠如から、それらを十分に回収・整理・記録化できなかったことが悔やまれる。また、古環境復原に関する花粉分析や自然木の樹種同定などを実施することができなかった。こうした欠落した情報は、今後の朝見上地区の調査、整理作業の中で補いたい。　　（櫻井）

註

（1）三重県埋蔵文化財センター『村竹コノ遺跡』2009 年。

（2）三宅和朗『時間の古代史－霊鬼の夜、秩序の昼－』吉川弘文館、2010 年。

（3）三重県教育委員会『昭和 61 年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』1989 年。

（4）佐野静代「日本における環境史研究の展開とその課題」『史林』89-5、史学研究会、2006 年。

（5）三重県埋蔵文化財センター 2000『堀町遺跡』/ 同『朝見遺跡（第１・２次）発掘調査報告』2014 年 / 同『大蓮寺遺跡発掘調査報告』2014 年 / 同『水と大地といにしえの人びと～松阪市朝見地区の発掘調査から～』2015 年。

（6）駒田利治「井戸跡」『三重県史』資料編考古２、2008 年。

（7）冨島義幸「日本建築の歴史に見る木の利用」『木の中世－資源・技術・製品－』（第 12 回考古学と中世シンポジウム資料）、考古学と中世史研究会、2014 年。

（8）古代の公用樽は幅六寸・厚さ四寸、鎌倉時代は幅五寸・厚さ三寸とされる。
盛本昌広「木の利用と種類・産地・規格・加工・価格」（註７前掲書）

（9）宮本長二郎「開口部材」『日本の美術 No490　出土建築部材が解く古代建築』至文堂、2007 年。その後、平城京や藤原京の出土例が知られるようになった（奈良県立橿原考古学研究所『奈良時代の匠たち－大寺建立の考古学－』2010 年）。

（10）奈良文化財研究所『出土建築部材における調査方法についての研究報告』2010 年。

（11）鈴木正貴「出土遺物からみた結物」『桶と樽－脇役の日本史－』法政大学出版局、2000 年。

（12）三重県埋蔵文化財センター『安濃津』1997 年 / 同『宮ノ越遺跡発掘調査報告Ⅱ』1999 年。

（13）註 11 前掲。

（14）石村真一「第３章　日本の生産技術」『桶・樽Ⅱ』（ものと人間の文化史 82-Ⅱ）、法政大学出版局、1997 年。

（15）村松貞次郎『大工道具の歴史』岩波書店、1973 年 / 渡邊晶『日本建築技術史の研究－大工道具の発達史－』中央公論美術出版、2004 年。

（16）盛本昌広「植生の変化と資源管理」『草と木が語る日本の中世』岩波書店、2012 年。

（17）全国の曲物樹種データは、下記を参照した。
伊藤隆夫・山田昌久編『木の考古学　出土木製品用材データベース』 海青社、2012 年。

（18）岩井宏實「曲物の技術」『曲物』（ものと人間の文化史 75）、法政大学出版局、1994 年。

（19）三重県埋蔵文化財センター『六大Ａ遺跡発掘調査報告（木製品編）』2000 年。

（20）三重県埋蔵文化財センター『中林・中道遺跡発掘調査報告』2007 年 / 同『舞出北遺跡発掘調査報告』2007 年 / 同『立花堂遺跡発掘調査報告』2008 年 / 同『志知南浦遺跡発掘調査報告』2008 年。

（21）三重県埋蔵文化財センター『小津遺跡発掘調査報告』2007 年。

（22）盛本昌広「木の利用と流通」（註 16 前掲書）

（23）水野章二「大国・川合荘」『講座日本荘園史』６、吉川弘文館、1993 年。

（24）星野利幸「神三郡の土地利用について－条里復元を中心に－」『斎宮歴史博物館研究紀要』16、2007 年 / 稲本紀昭「飯野・飯高郡条里図について」『三重県史研究』26、三重県、2011 年。

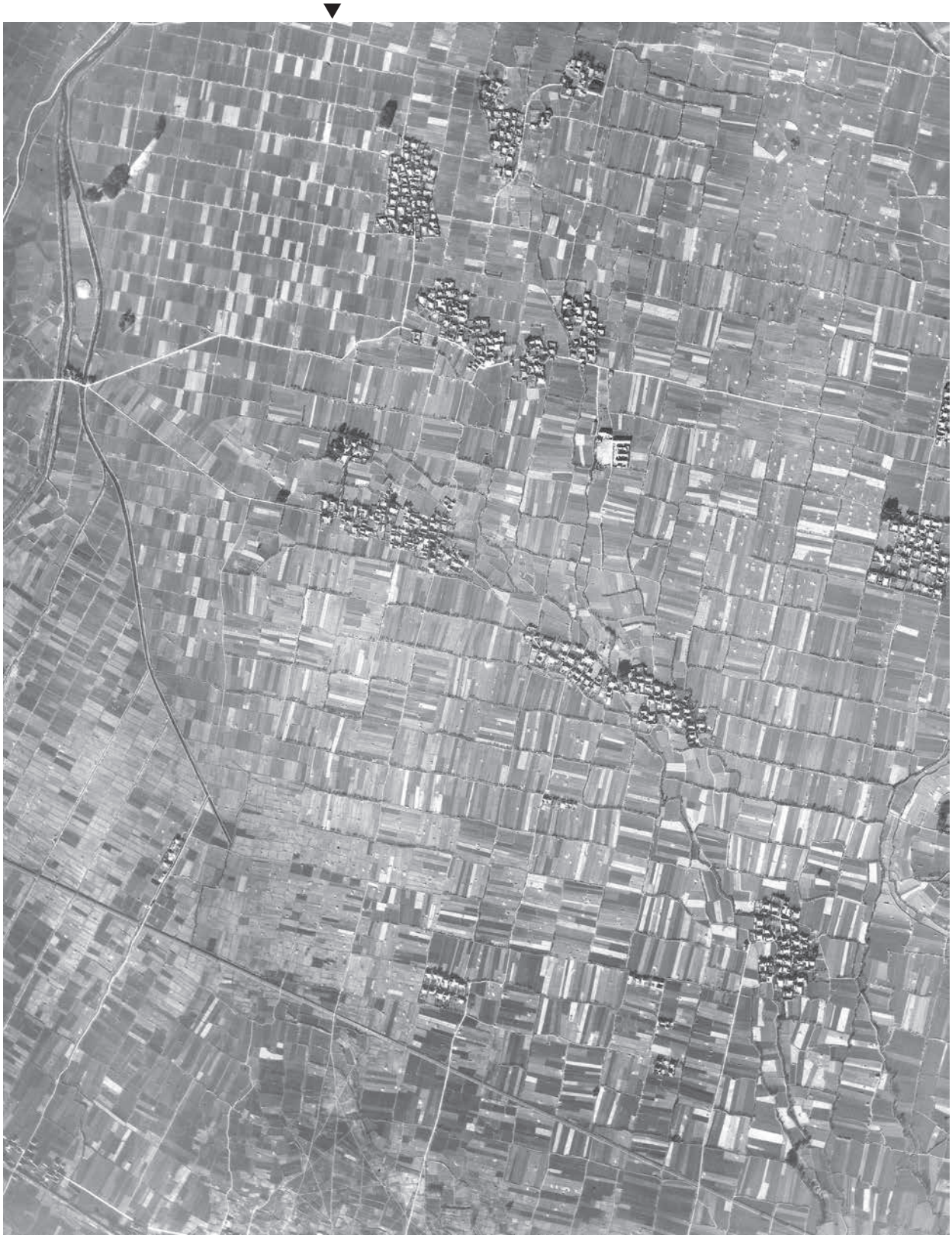
（25）三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第１・２次）発掘調査報告』2014 年。

（26）註 23 前掲。

（27）伊藤裕偉「海岸線の変動と交通環境」『環境の日本史』３、吉川弘文館、2013 年。

（28）鐘方正樹「野井戸掘削の背景」『井戸の考古学』同成社、2003 年。

写　真　図　版



1948 年米軍撮影航空写真（上が北、矢印先が遺跡中心）

１・２区調査前（東から）

３区調査前（南から）

４～６区調査前（西から）

５区調査前（西から）

7-1・８区調査前（東から）

1-1 ～ 1-2・1-4 区全景（東から）

1-3 区全景（北から）

２区全景（北から）

3-2 区全景（南から）

2-1 区南端（北から）

2-2 区全景（東から）

ＳＢ 5059・ＳＢ 5060（西から）

ＳＢ 5069（南から）

ＳＥ 5008 曲物検出状況（西から）

同　井戸枠検出状況（西から）

同　土居桁除去後（西から）

同　土居桁の枘結合（西から）

同　縦板除去後（木製品 1293 出土状況）

ＳＥ 5067 井戸枠検出状況（西から）

同　上層埋土（東から）

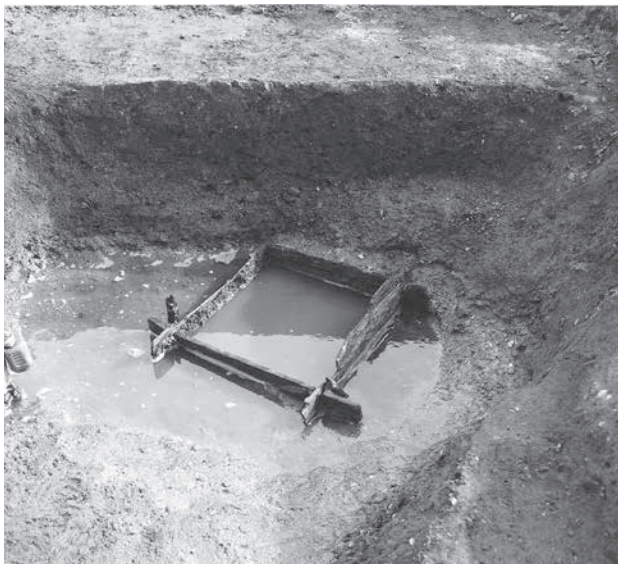
同　水溜検出状況（西から）

同　縦板除去後（西から）

同　曲物取り上げ後

ＳＥ 5015 井戸枠（南から）

ＳＥ 5015 南側一括遺物（南から）



ＳＥ 5026 土居桁（北から）

ＳＥ 5065（東から）

ＳＥ 5037 水溜（西から）

ＳＥ 5018 水溜（東から）

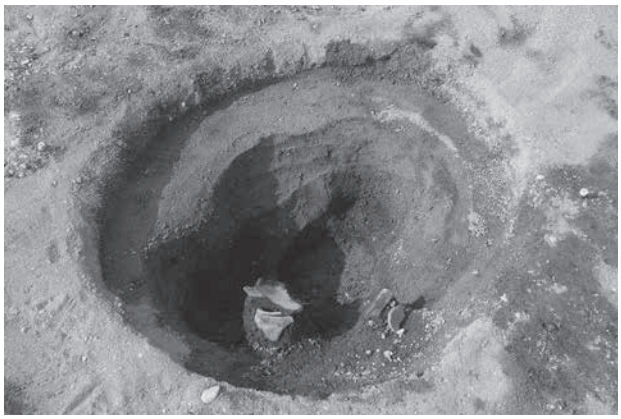
ＳＫ 5003（東から）

同　上層遺物出土状況（西から）

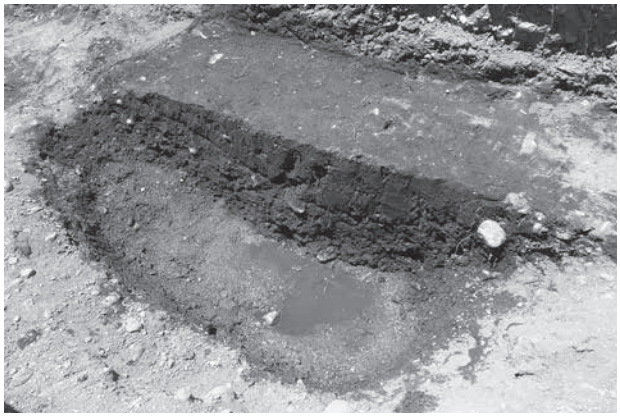
ＳＫ 5001（南東から）

ＳＫ 5042（北から）

ＳＫ 5017（西から）



ＳＫ 5025（南から）

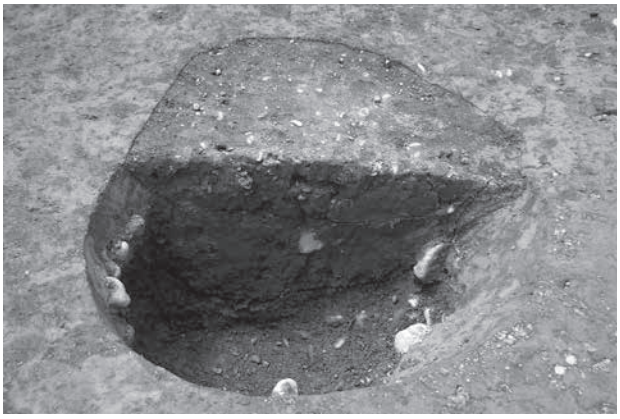


ＳＫ 5033（東から）

ＳＫ 5035（北から）

ＳＫ 5002（東から）

ＳＫ 5007（北東から）



ＳＫ 5036（北から）

ＳＫ 5041（東から）

ＳＥ 5037 上層（西から）

ＳＤ 5013（北から）

ＳＤ 5006（西から）

ＳＤ 5039（北西から）

ＳＤ 5022・5023（北東から）

ＳＤ 5072（東から）

ＳＤ 5021（南から）

ＳＤ 5016（東から）

ＳＤ 5043（北東から）

5-2 区全景（北から）

5-2 区北側（東から）

ＳＢ 5181、ＳＥ 5135・5136・5142、ＳＫ 5139・5141（南東から）

ＳＥ 5136 水溜（南から）

ＳＫ 5139・ＳＥ 5142（西から）

ＳＥ 5142 曲物底板出土状況（西から）

ＳＥ 5150（西から）

ＳＤ 5138（西から）

ＳＢ 5182（北から）

ＳＤ 5143（東から）

ＳＤ 5148（北から）

ＳＤ 5165（南西から）

ＳＤ 5165 獣骨出土状況（南から）

5-1-3 区全景（南東から）

4-1 区全景（北から）

5-1-1 区全景（北東から）

8-2 区全景（南西から）

5-3-1 区全景（南東から）

ＳＫ 5133（南から）

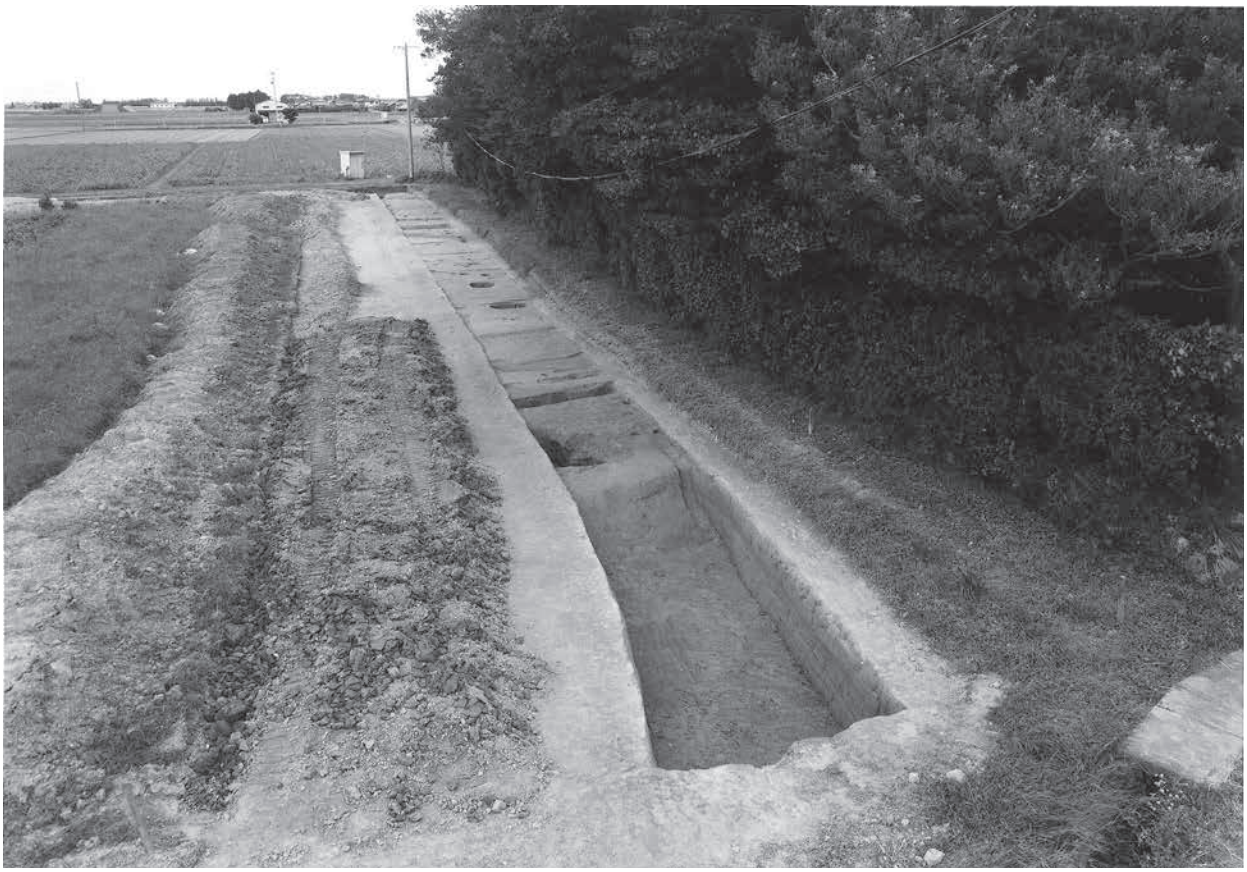
ＳＫ 5119（北から）

ＳＤ 5132（南から）

G-e6 Pit3 遺物出土状況（東から）

5-3-2 区　ＳＲ 5080 下層杭列（東から）

5-4 区　ＳＲ 5080（南西から）

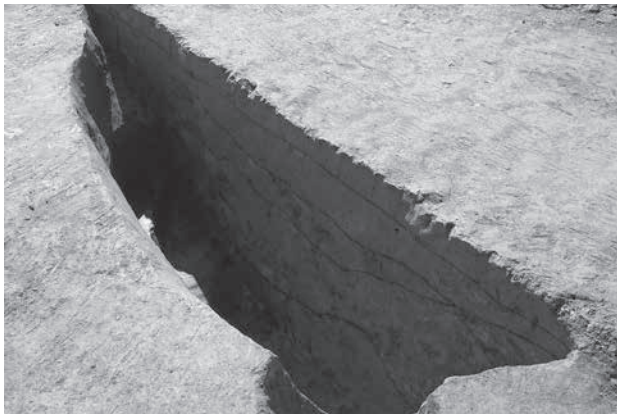


6-2 区全景（南西から）

6-1 区東側（西から）

6-1 区西側（西から）

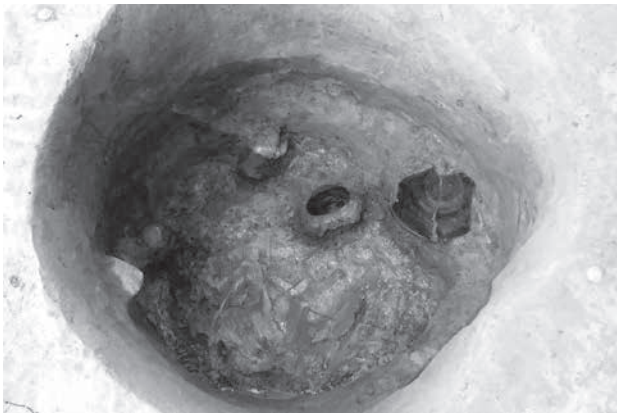
ＳＫ 5093（北から）



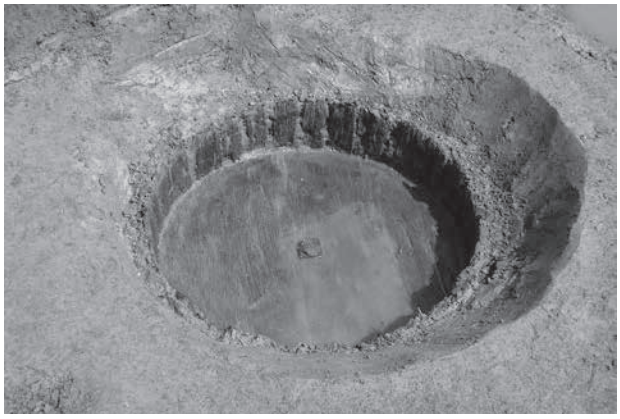
ＳＫ 5091（北西から）

ＳＫ 5089（北から）

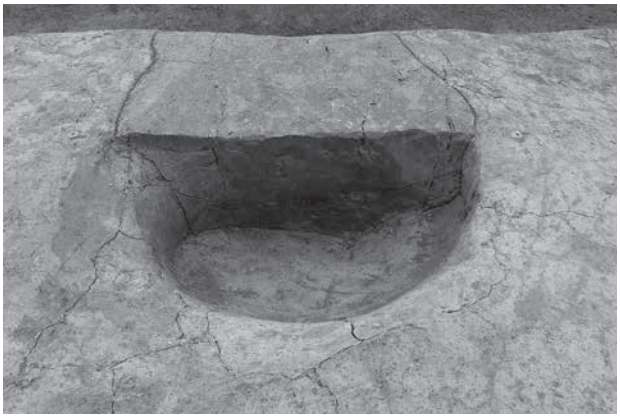
ＳＫ 5117（東から）



ＳＫ 5107 遺物出土状況（南から）



ＳＫ 5081（南から）



ＳＫ 5115（北から）

ＳＫ 5110（南から）

ＳＤ 5095（北から）

ＳＤ 5095 断面（西から）

ＳＲ 5128 下部（北から）

ＳＤ 5098（西から）

ＳＤ 5083・5087 断面（東から）

ＳＤ 5098 断面（東から）

ＳＤ 5116（西から）

ＳＤ 5106（西から）

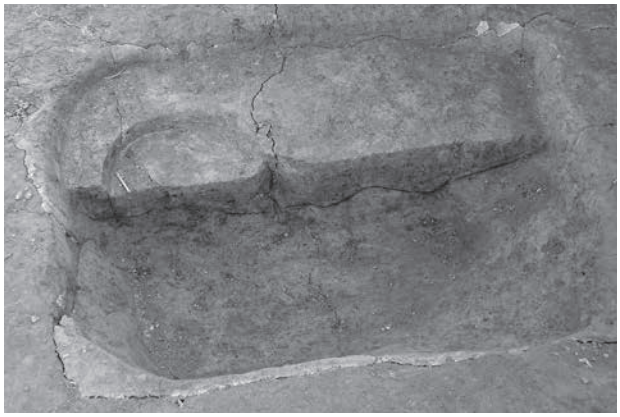
ＳＤ 5102（西から）

ＳＤ 5101（北西から）

6-3・7-1・8-1 区全景（西から）

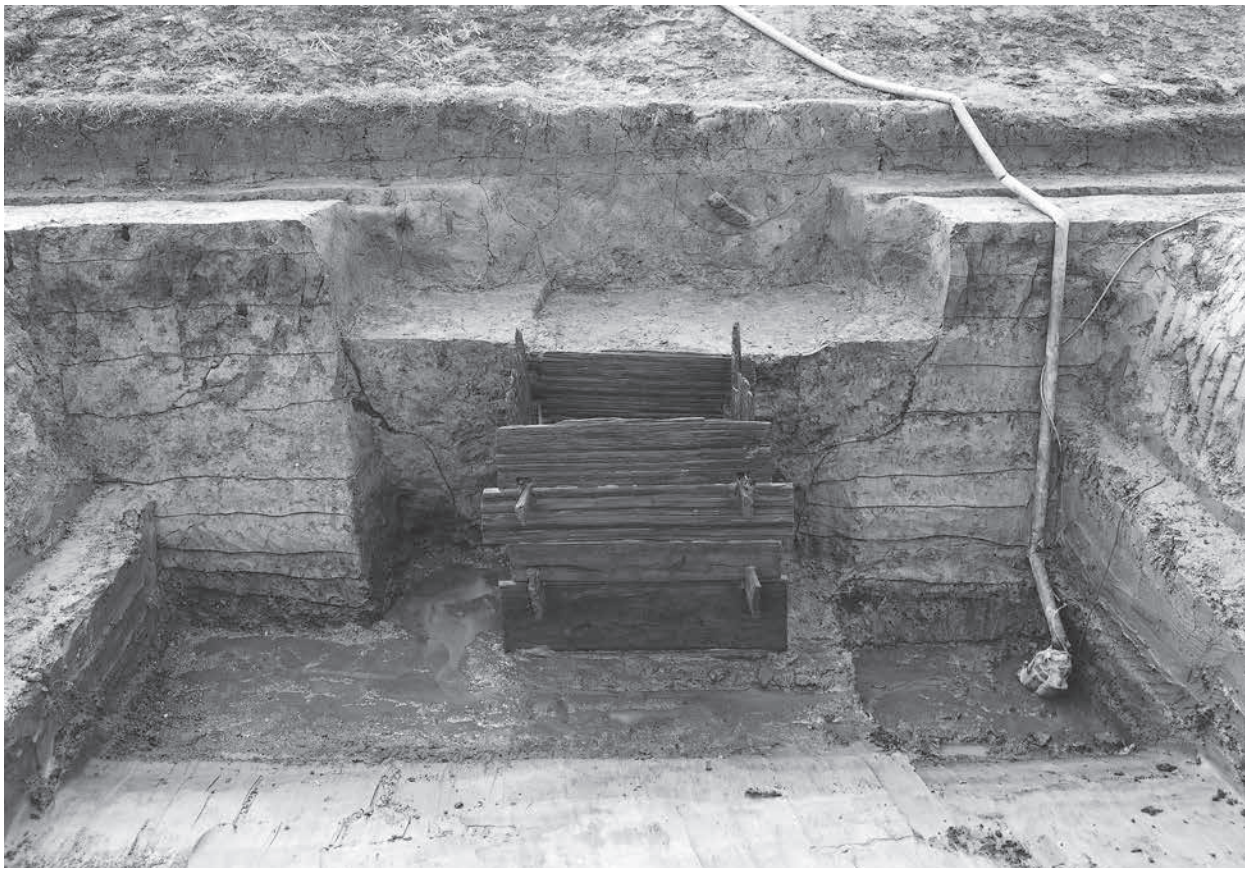
8-1 区全景（西から）

ＳＢ 5177（北西から）



ＳＢ 5177 Pit 断面

ＳＥ 5187 井戸枠検出状況（北西から）



同　断割後（北から）

ＳＥ 5187 井戸枠（北西から）

同　縦板（西から）

同　最下段および横桟（北から）

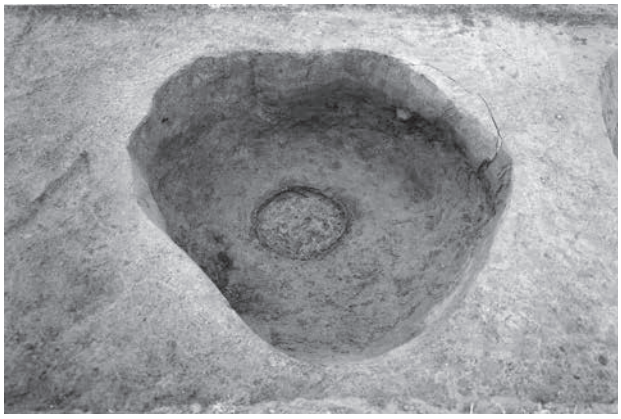
同　水溜内小型曲物出土状況（北から）

ＳＥ 5201 井戸枠（南東から）

同　縦板（西から）

同　井戸枠検出状況（南西から）

同　水溜（南から）



ＳＥ 5198（南から）

ＳＫ 5193・5196（南西から）

ＳＥ 5195 井戸枠検出状況（西から）

ＳＥ 5195 水溜（西から）

ＳＫ 5167（南から）

ＳＫ 5168（東から）

ＳＫ 5197（北東から）

ＳＫ 5202（北東から）

ＳＤ 5172（北から）

ＳＤ 5166（南西から）

7-2 ～ 4 区（北から）

7-5 区（北から）

7-5 区掘立柱建物群（南西から）

7-2 ～ 7 区全景（東から）

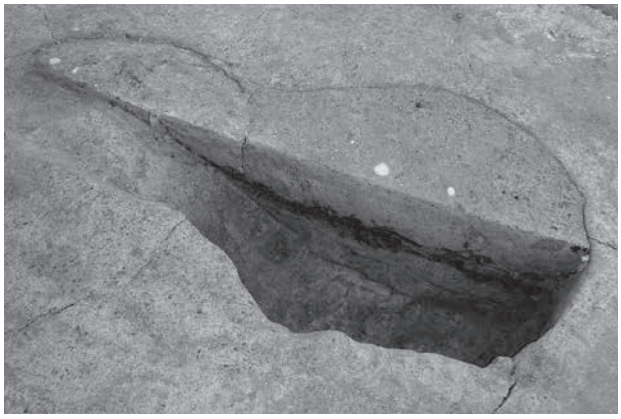
7-8 区北側（東から）

7-8 区南側（南から）

ＳＥ 5219（南西から）

ＳＥ 5230（南から）

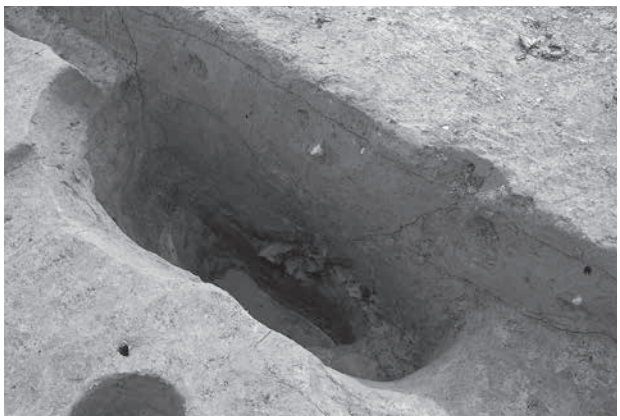
ＳＫ 5226（北から）



ＳＫ 5345 断面（南から）

ＳＫ 5241・5249（南西から）

ＳＫ 5238（南西から）



ＳＫ 5245（北から）

ＳＫ 5212（南から）

ＳＫ 5248（東から）

ＳＫ 5314（西から）

ＳＫ 5261（南西から）

ＳＤ 5243（南から）

ＳＫ 5268（南東から）

ＳＫ 5260（南東から）

ＳＫ 5277（東から）

ＳＫ 5278（東から）

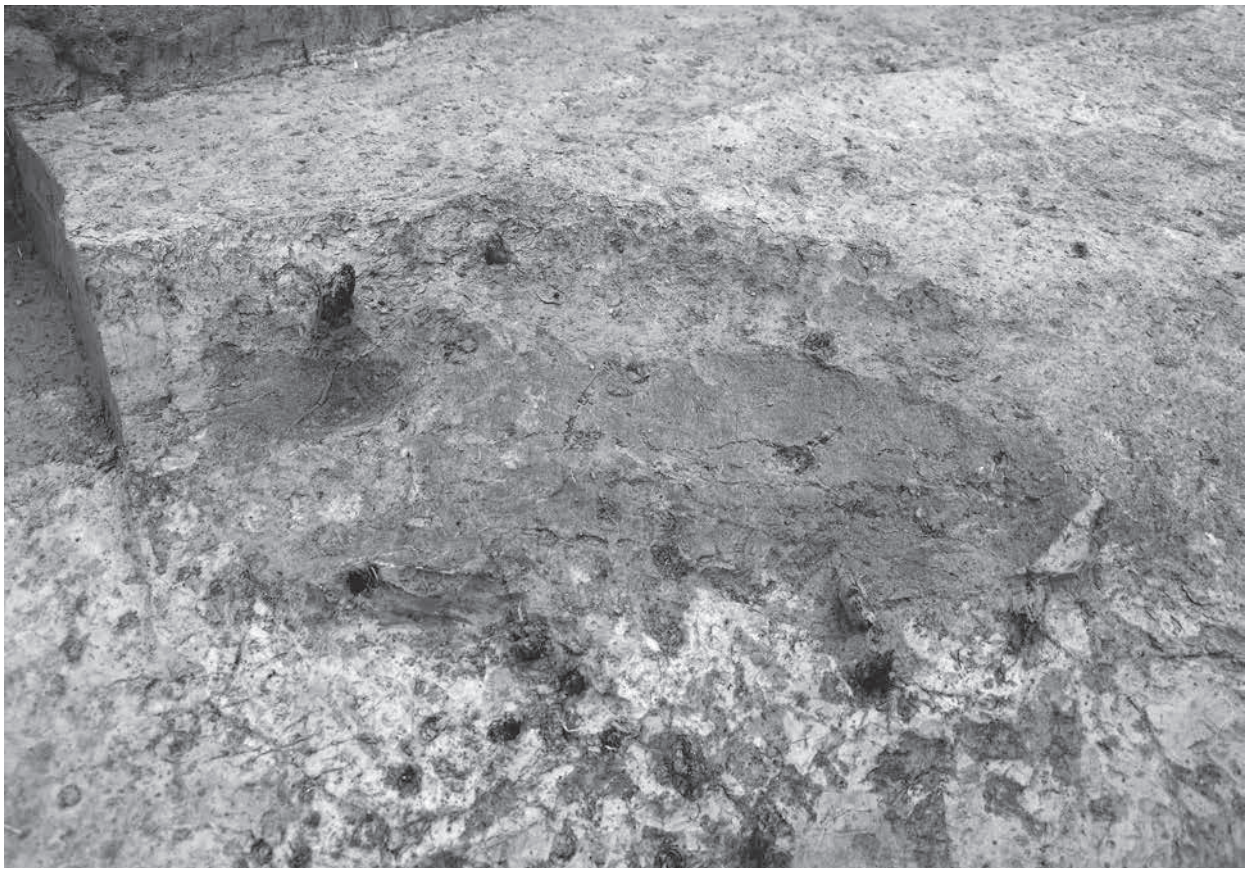
ＳＲ 5080（南から）

同　土層断面（南西から）

ＳＤ 5285・ＳＲ 5080（西から）

ＳＤ 5279 井堰検出状況（西から）

ＳＤ 5279 井堰検出状況、土層断面（北から）



ＳＤ 5279　筵（南から）

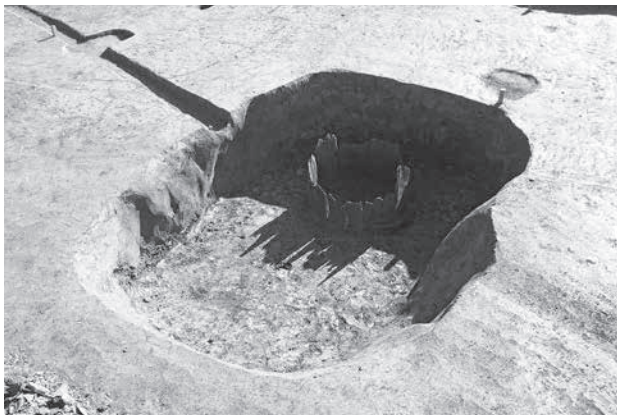
ＳＥ 5218 井戸枠（北から）

同　井戸枠閉塞状況（南から）

同　曲物取り上げ後

同　水溜検出状況（北から）

ＳＥ 5319 井戸枠（南から）



同　井戸枠検出状況（南から）

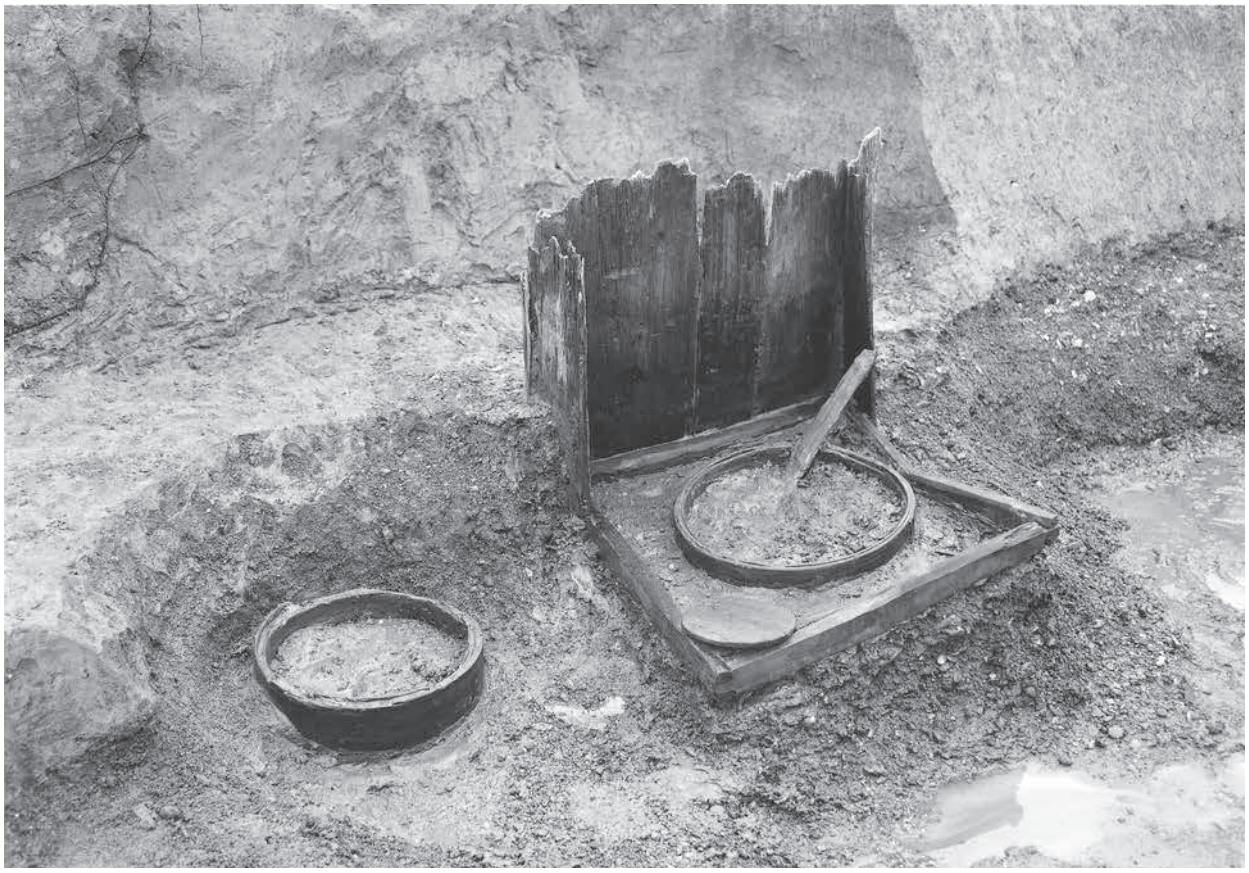
同　結物上段箍・楔（南から）

同　井戸枠材の線刻（南から）

同　水溜検出状況（南から）

ＳＥ 5323 井戸枠検出状況（南から）

ＳＥ 5316・5323 井戸枠（北東から）



ＳＥ 5316・5323 水溜検出状況（北東から）

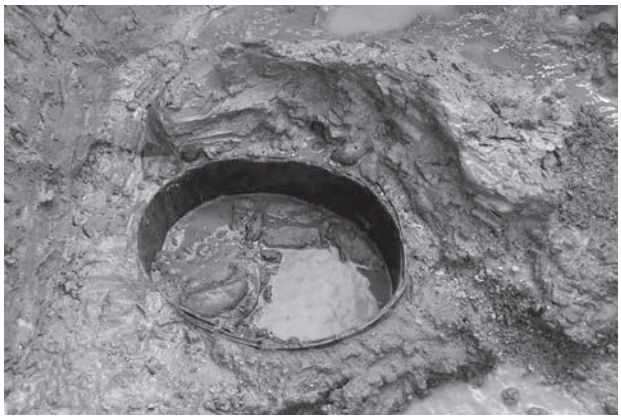
ＳＥ 5316 結物箍（上から）

ＳＥ 5323 井戸枠縦板（西から）

ＳＥ 5323 土居桁仕口（北東から）

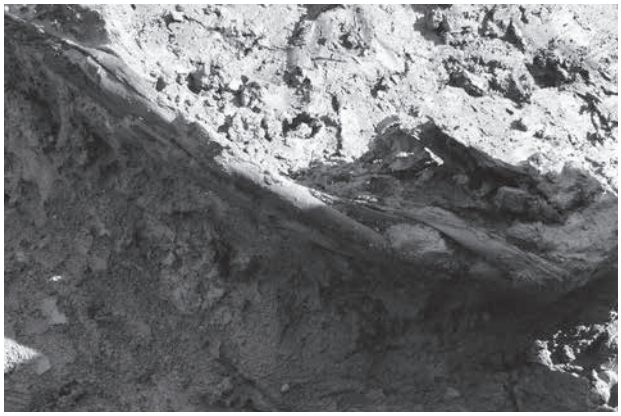
ＳＥ 5323 水溜（北から）

ＳＫ 5302・5303、ＳＥ 5304・5305・5329（北から）



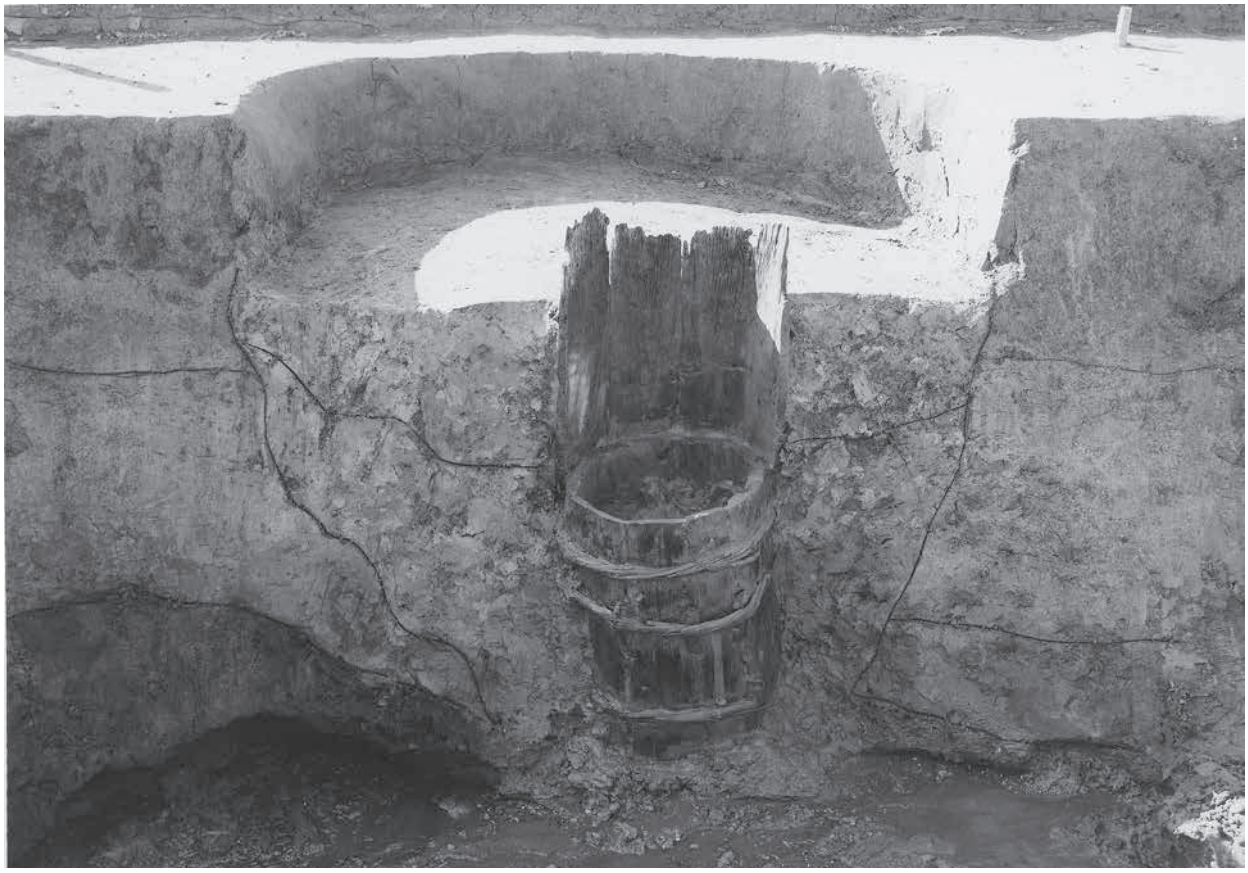
ＳＥ 5305 水溜、結物箍検出状況（北から）

ＳＥ 5325 結物箍検出状況（北西から）



ＳＥ 5325 結物箍詳細

ＳＥ 5325 水溜（北から）

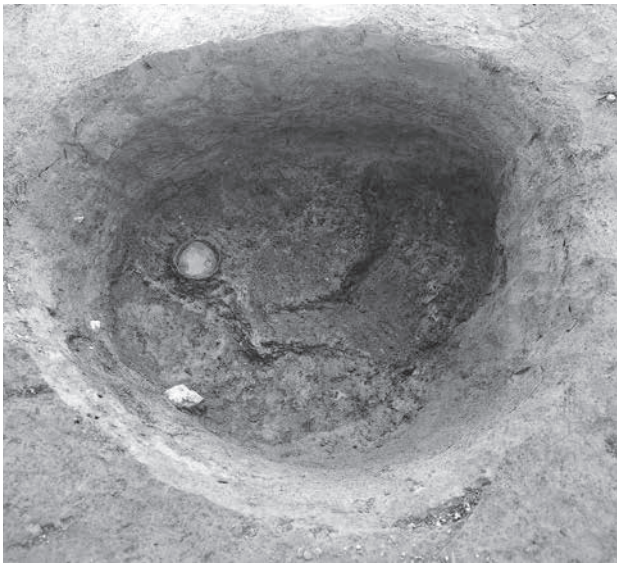


ＳＥ 5328 井戸枠（北から）

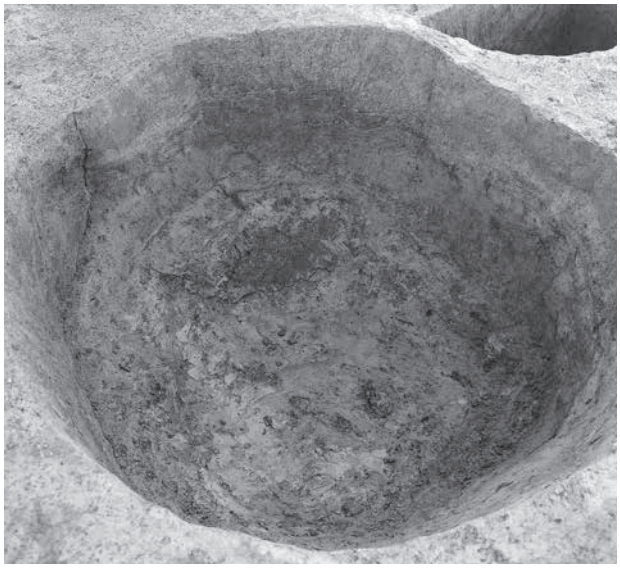
同　井戸枠検出状況（北西から）

同　上段結物（北から）

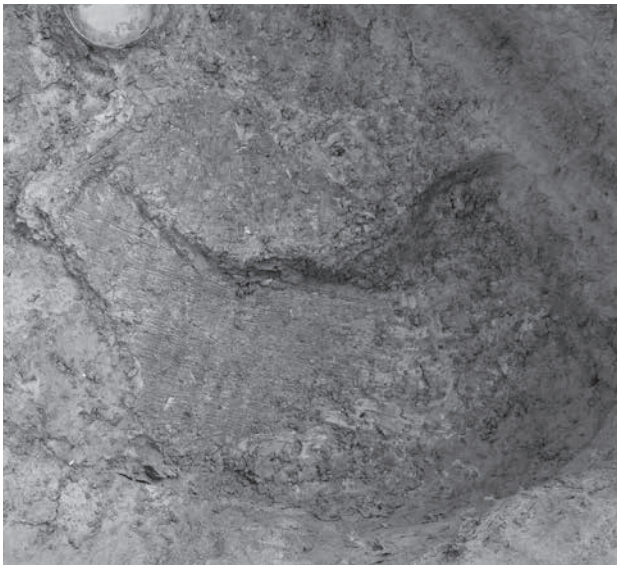
同　下段箍と楔（北から）



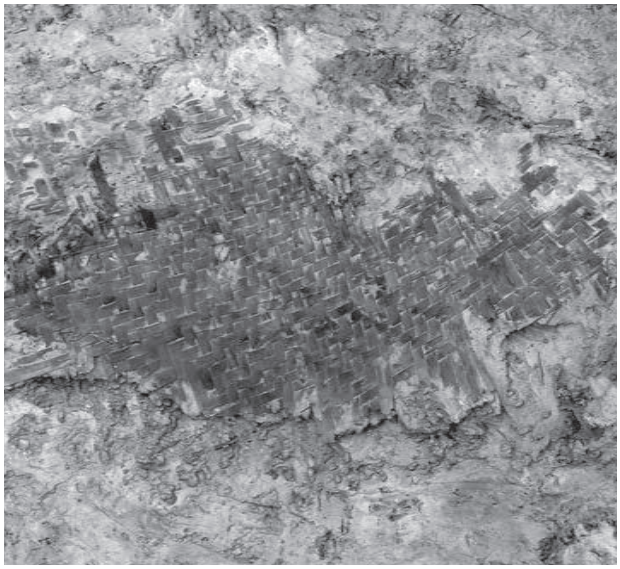
ＳＥ 5317 籠出土状況（北から）



ＳＫ 5295 籠出土状況（北から）

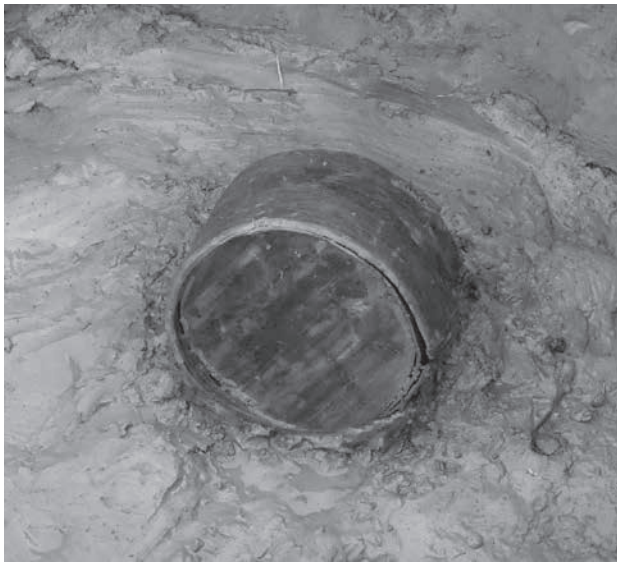


ＳＥ 5317 籠詳細



ＳＫ 5295 籠詳細

ＳＥ 5317 水溜（北から）



ＳＫ 5312 曲物出土状況（北から）

7-9～10区全景（西から）

7-9-2区（東から、ＳＲ5080埋没後）

7-9-4区全景（西から）

7-9-3区全景（北西から）

7-10区全景（西から）

ＳＤ 5289（東から）

ＳＤ 5289 土器出土状況（北東から）

ＳＤ 5290（北から）

ＳＤ 5297 断面（東から）

ＳＤ 5320（北から）

ＳＤ 5297・5306（東から）

ＳＤ 5306 土層断面（西から）

ＳＤ 5327（北から）

ＳＫ 5308（北から）

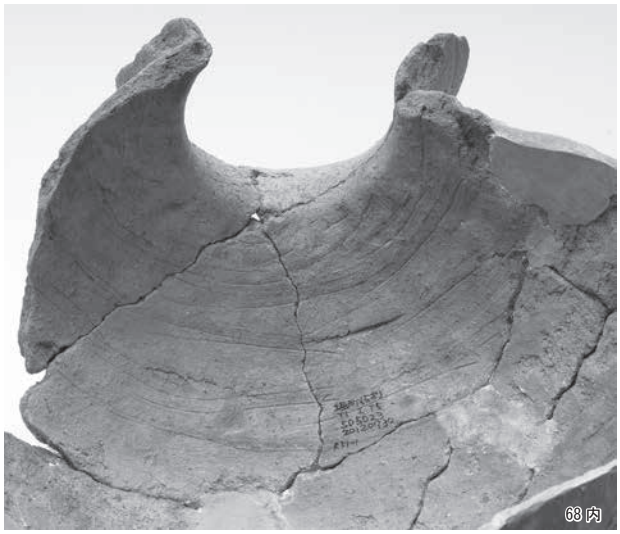
7-9-4 区　ＳＤ 5080 土層断面（東から）

7-9-4 区　ＳＲ 5080（西から）

78

68

38


68 内

45

97

67

113

72

113

62

111

112

111

32

96

60

70

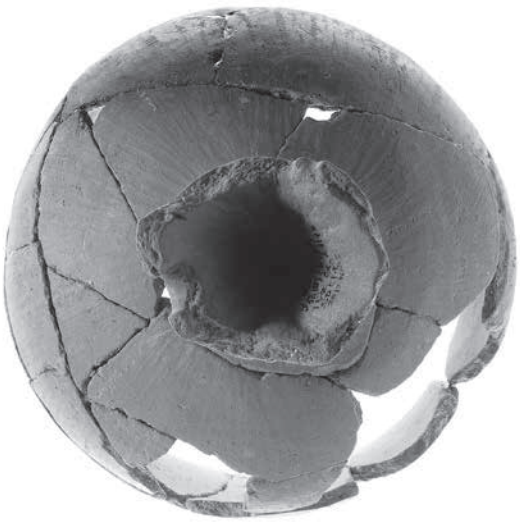
53

69

71

110

39

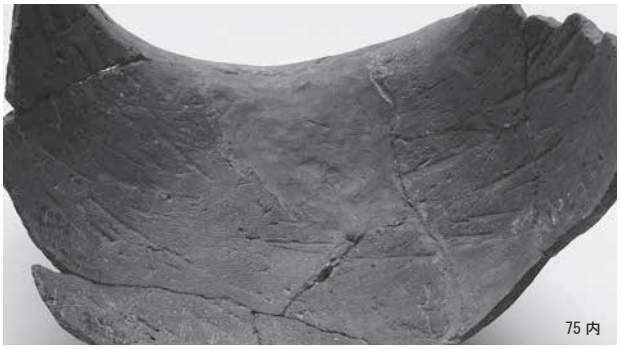

71

56

61

46

65


75 内

41

115

79

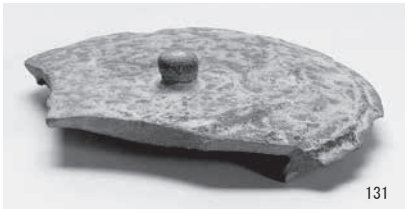
84

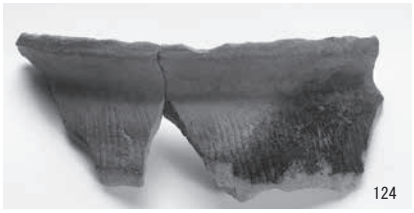
81

101

83

86


131


124

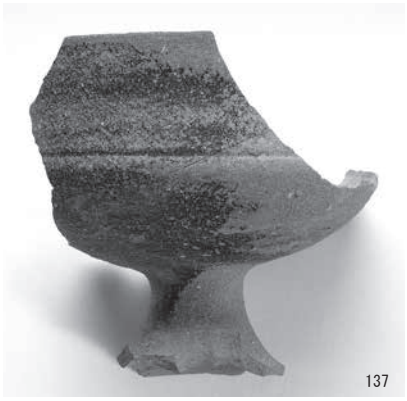
121

135

128

120

125


137

129

120 底

134

134 内

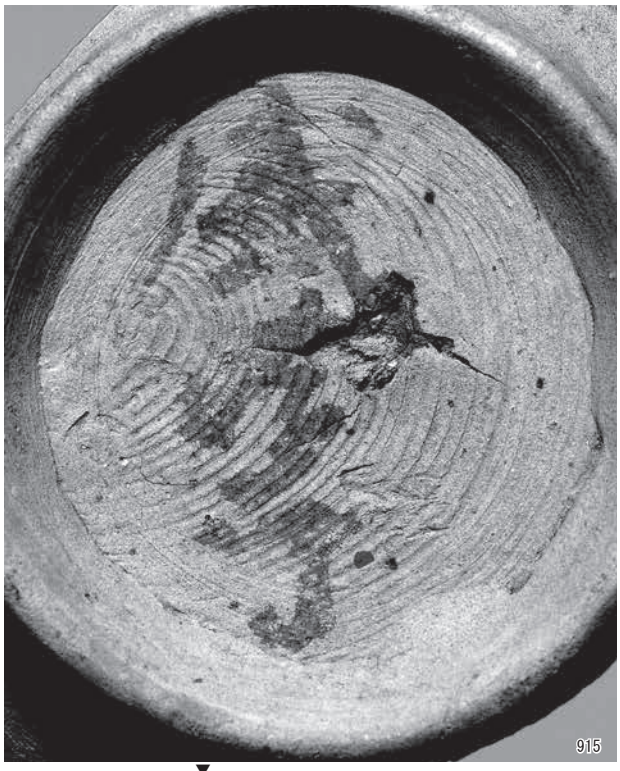
119

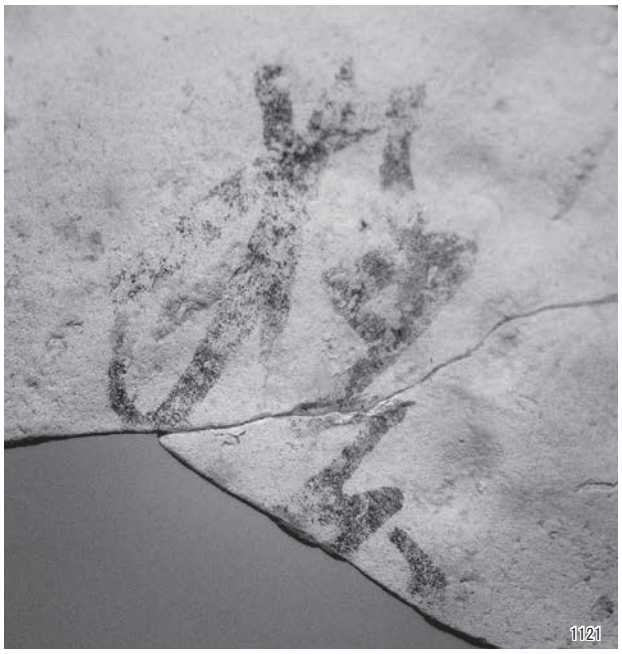
145

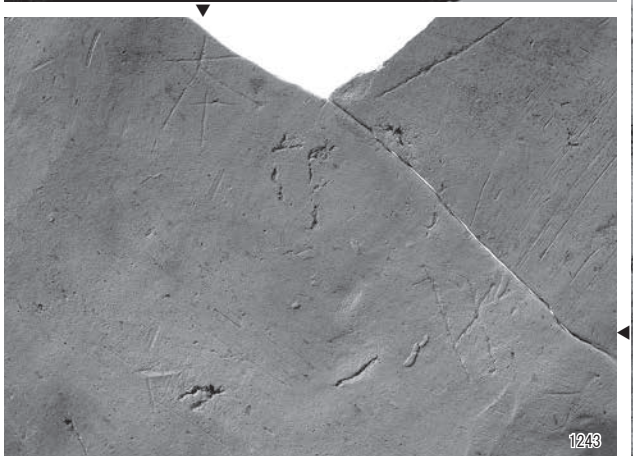
119 接合技法

1013

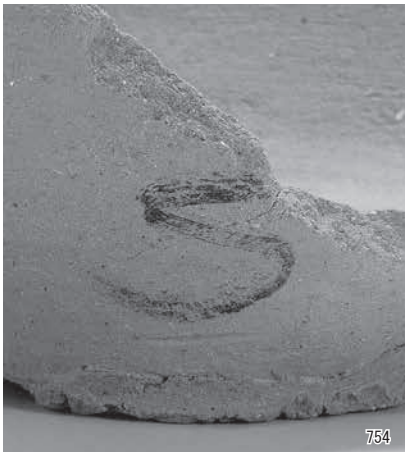
1241


915

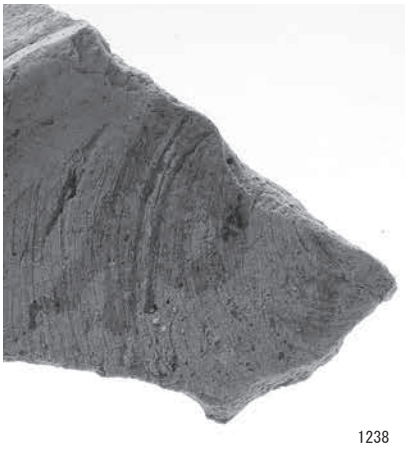

1121


1243

812


754

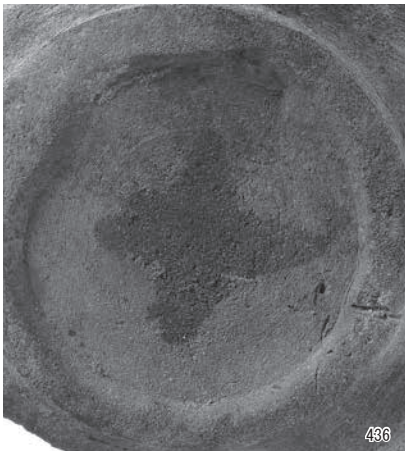
510


1238

890

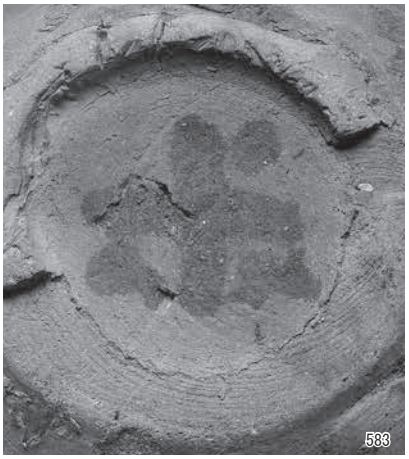
469

899


436

483

688


583

739

435

161

848

961

169

850

962

12

660

896

258

661

1013

334

662

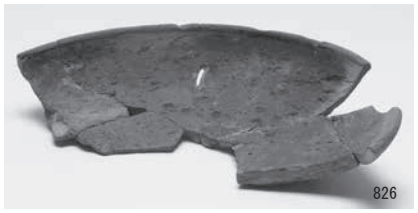
1196

339

817

1119

341

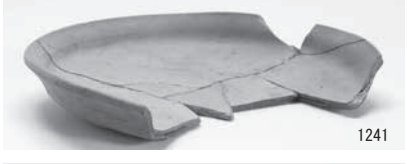

826

1213

412

851

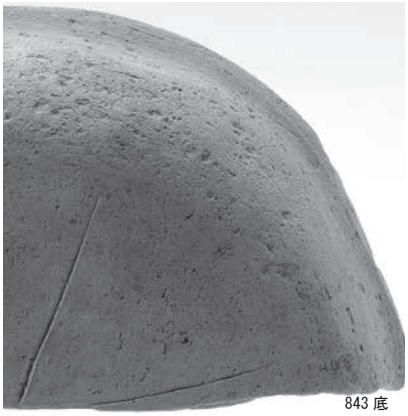
1214


1241

1243

土師器杯・皿

843


843 底

線刻・刻書

1231

830 内

1227

1227 底

14

354

土師器椀

386

853

383

て字状口縁皿

394

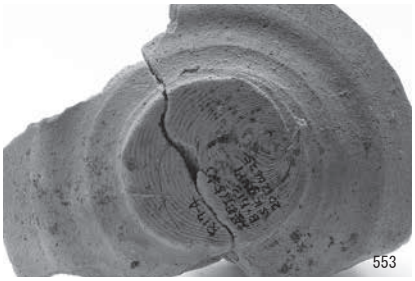
黒色土器

554

855

965

243


553

237

303

554

482

244

481

163

963

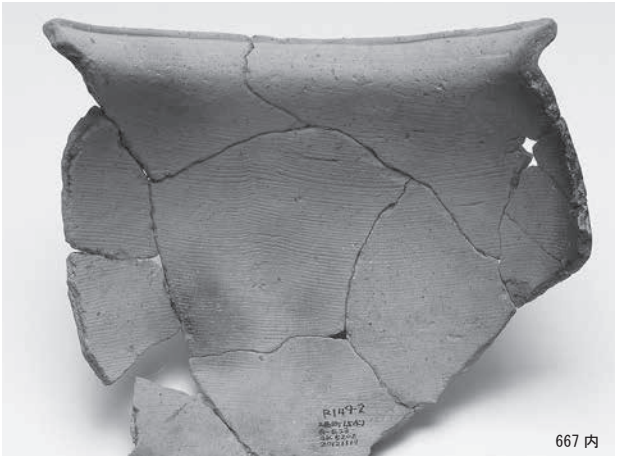
481 底

567

881

667

343


667 内

1123

1123 内

1216

5

甕・鉢

183

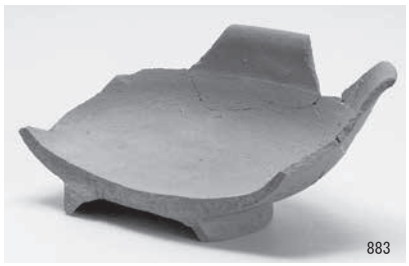
230

234

556

752

862


883

1553

247 墨痕

灰釉陶器

228

432

434

435

436

476

583

706

587

山茶碗等煤付着状況

293

294

320

276

286

314

277

287

315

278

310

316

281

311

312

282

317

318

285

313

319

ＳＥ5015上層・南側一括

240

445

636

373

461

637

374

462

638

427

605

640

428

604

678

433

728

680

1003

729

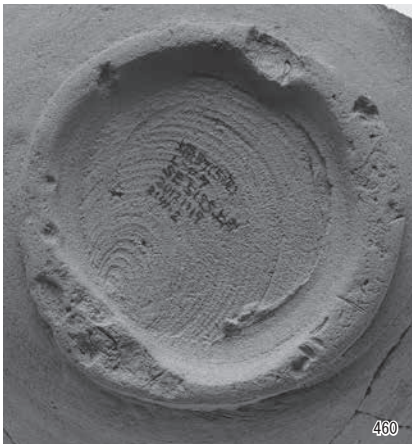
681

975

652

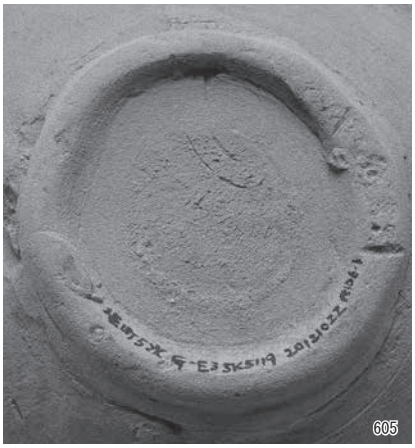
389

938


460

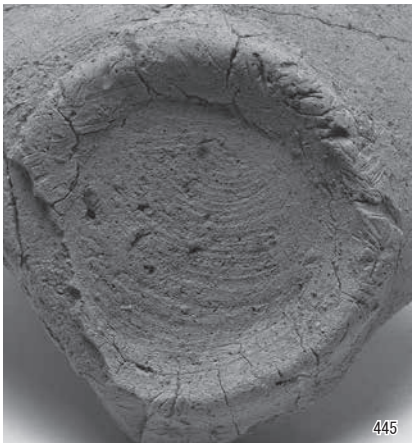
941

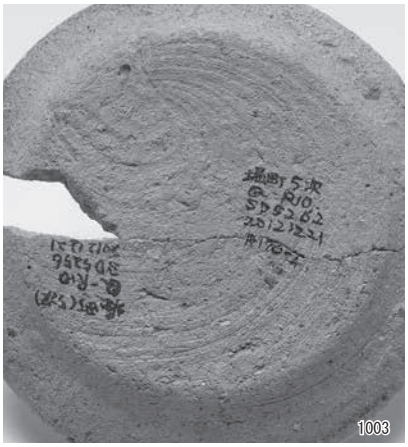
678


605

459

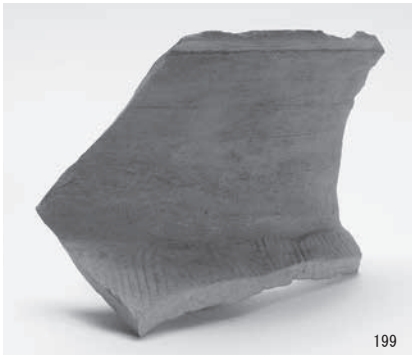
679


445


1003

底部詳細

1218


199

1221

1219

1220

563

668

321

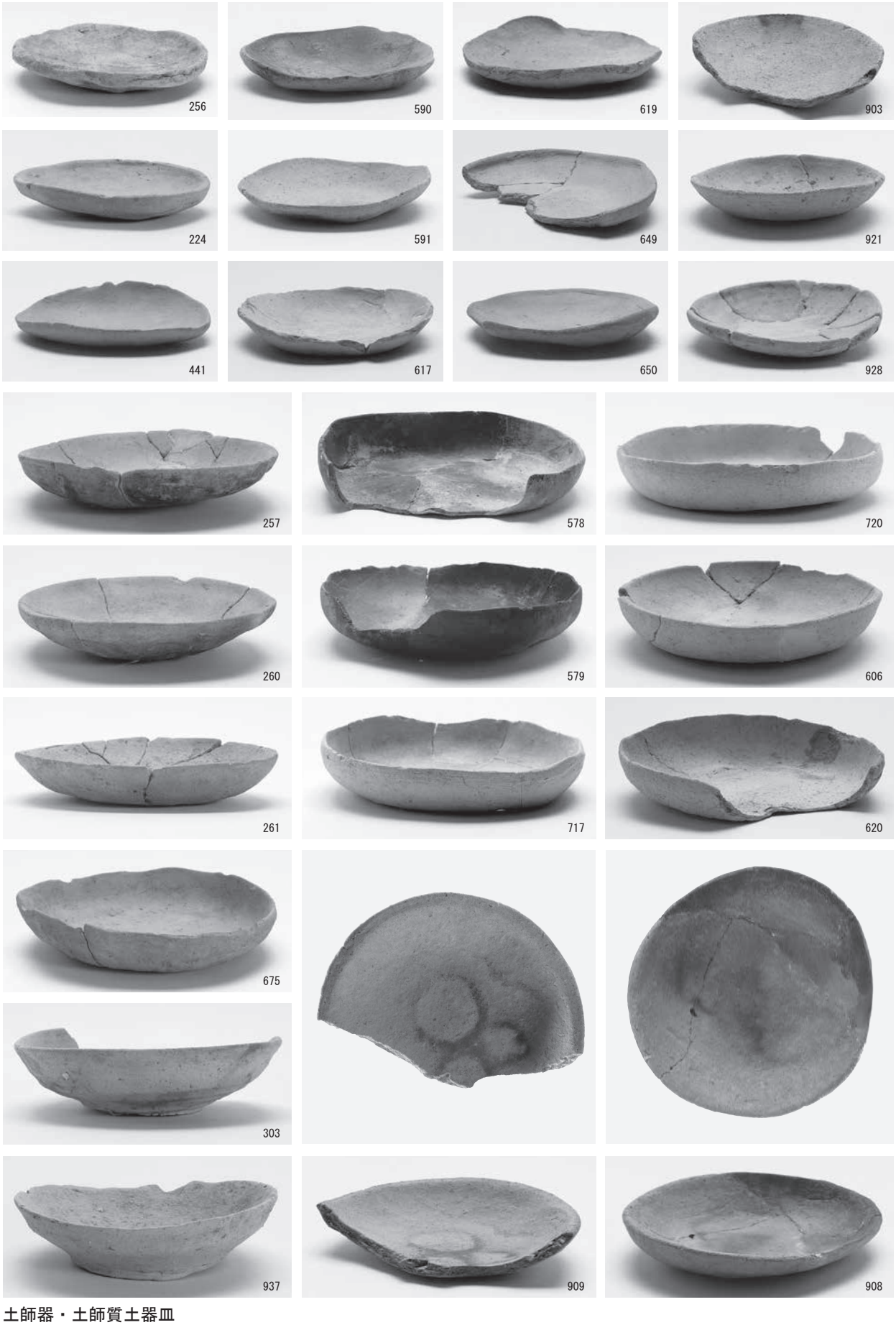
641

326

587

586

壺・甕・片口鉢

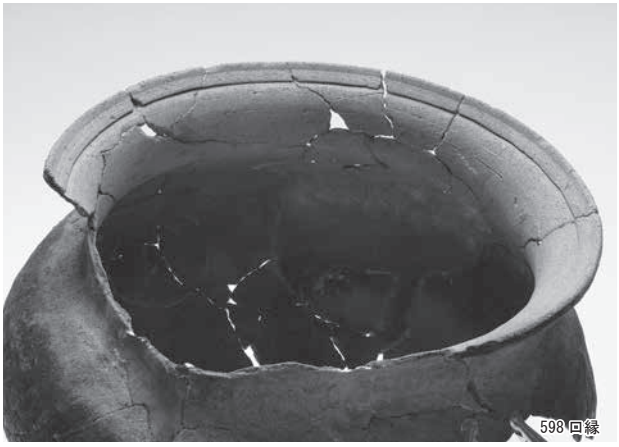

256
590
619
903
224
591
649
921
441
617
650
928
257
578
720
260
579
606
261
717
620
675
303
937
909
908

土師器・土師質土器皿

267

268

598


598 口縁

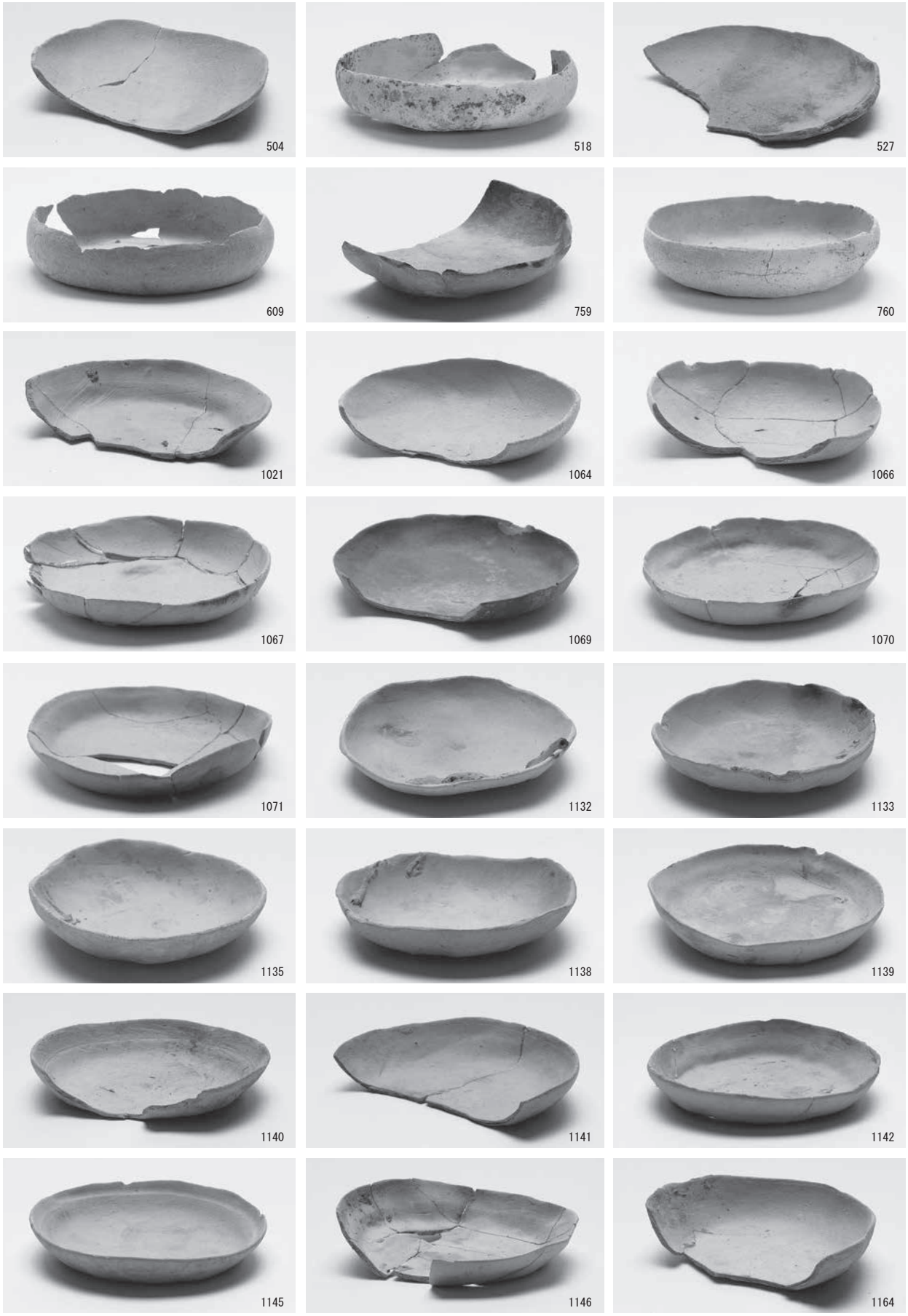
658

725

715

725 底

土師器鍋


504
518
527
609
759
760
1021
1064
1066
1067
1069
1070
1071
1132
1133
1135
1138
1139
1140
1141
1142
1145
1146
1164

土師器皿

732

763

732内

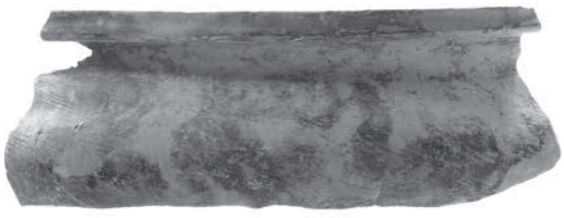
1077

730内

1079

733

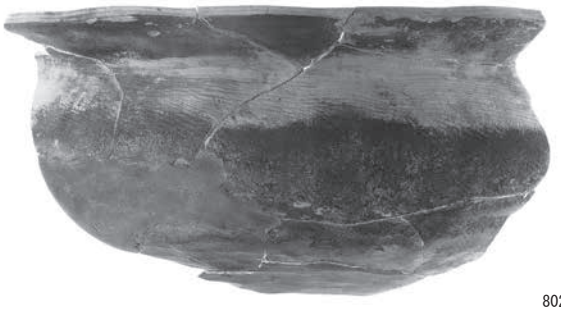
1081


1052

1082

土師器鍋等

1158


802

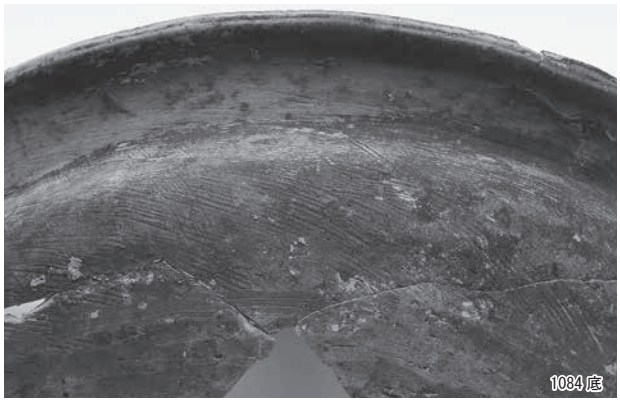
1110

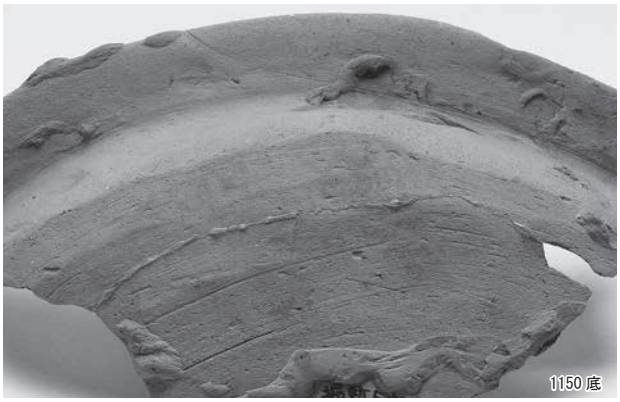
803

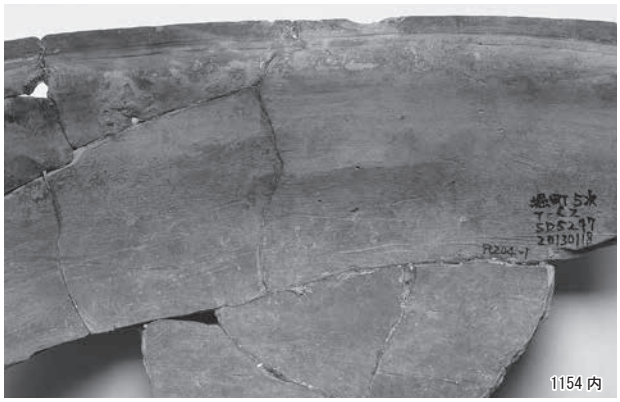
1086

804

1054 底


1084 底


1150 底


1154 内

土師器鍋

809

1089

1090

1060

811

1093

1172

1095

土師器鍋等

611

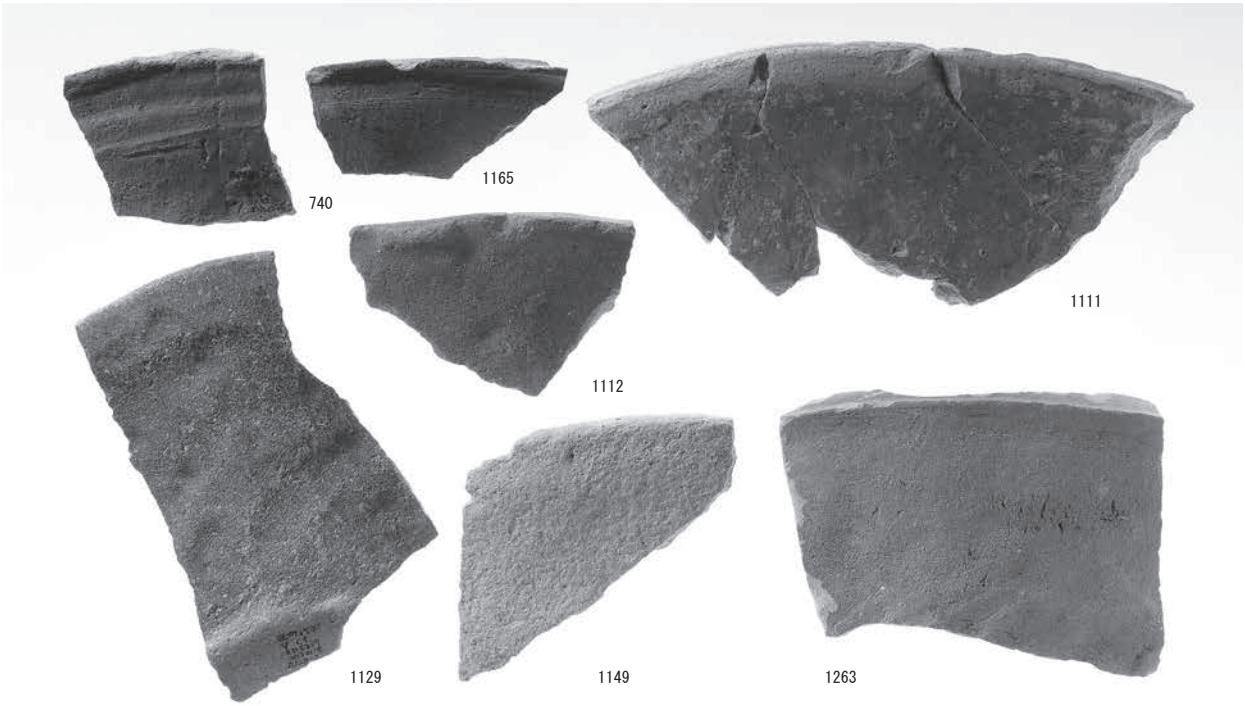
529

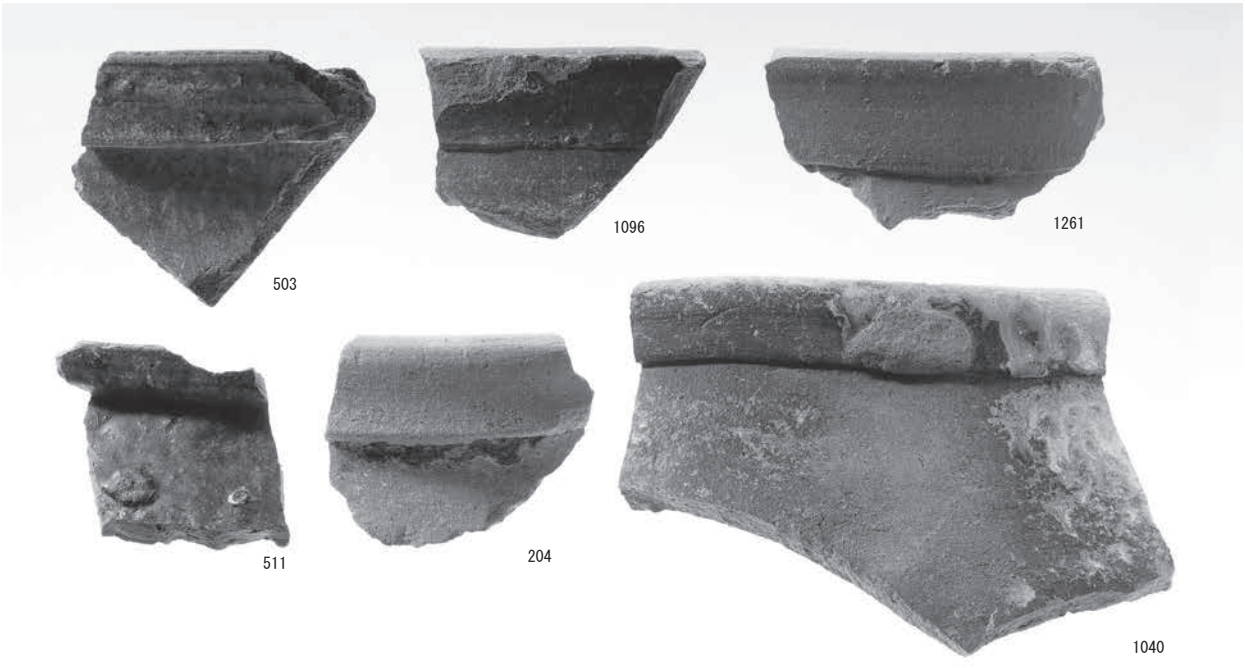
769

1010

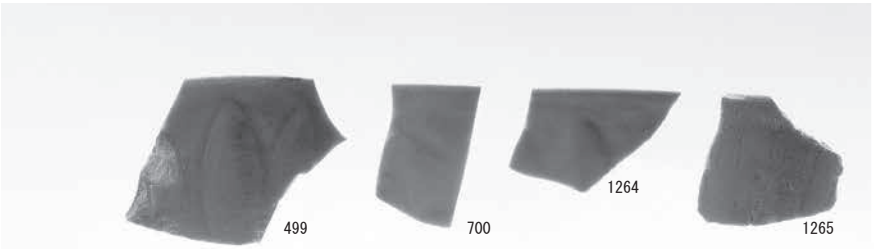
28

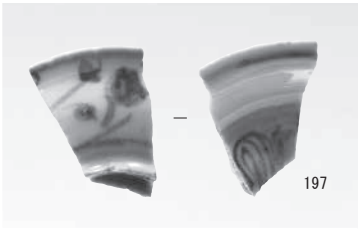
信楽

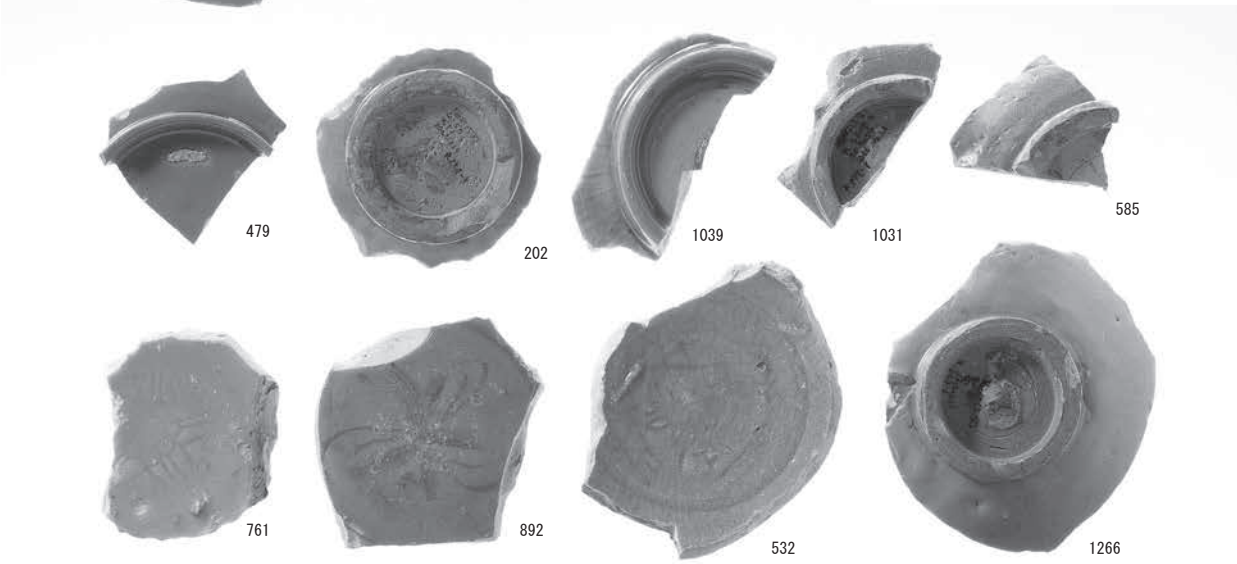

740
1165
1111
1112
1129
1149
1263


503
1096
1261
511
204
1040

1033







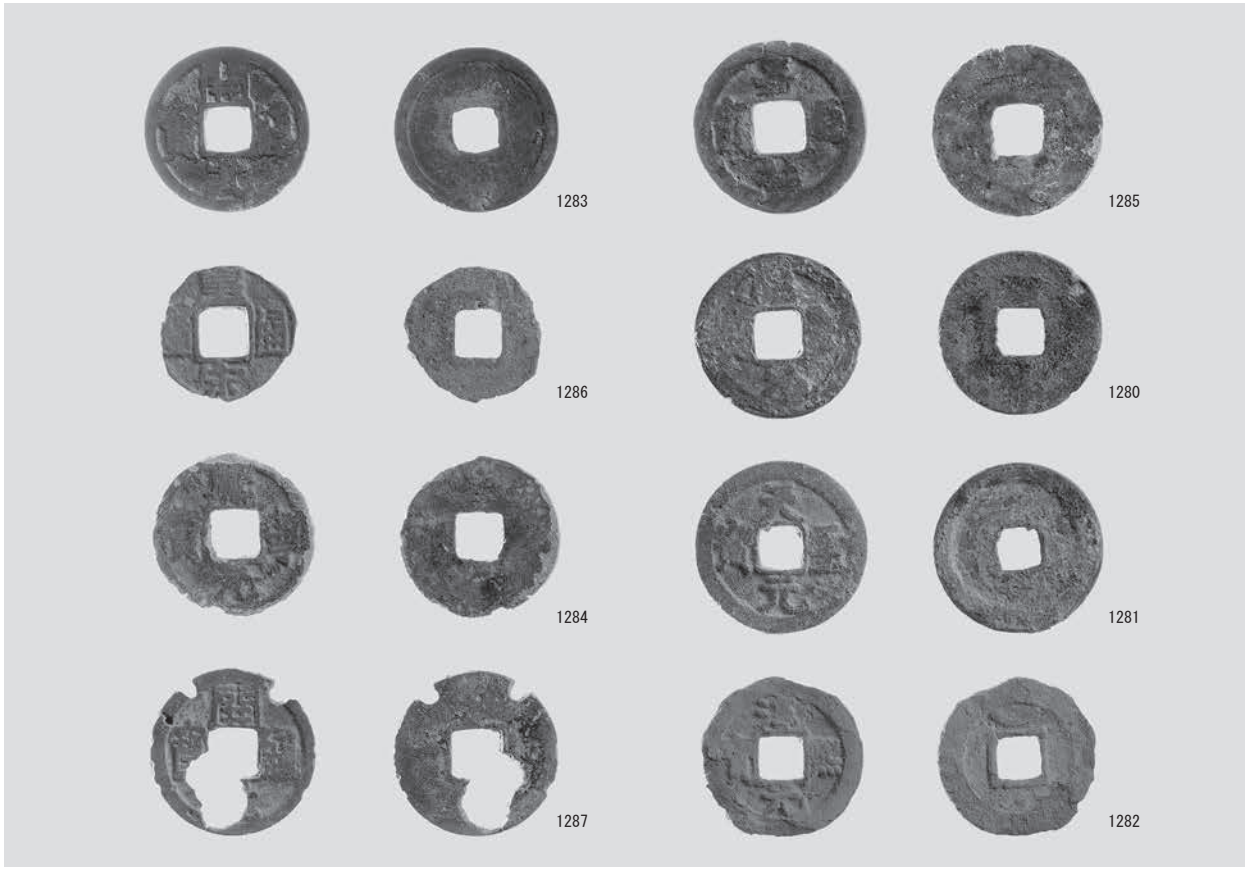
磁器

瓦質土器

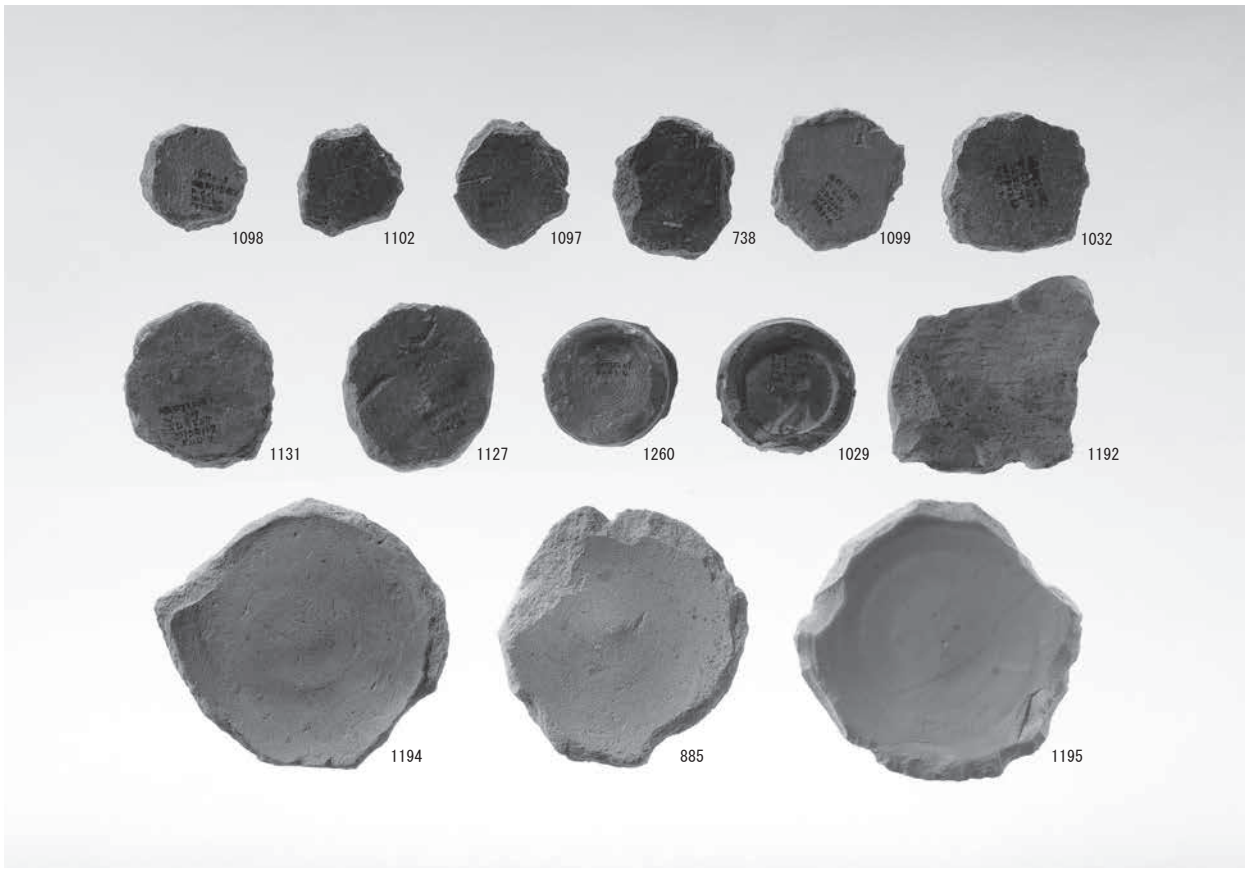
鉄製品

緑釉陶器

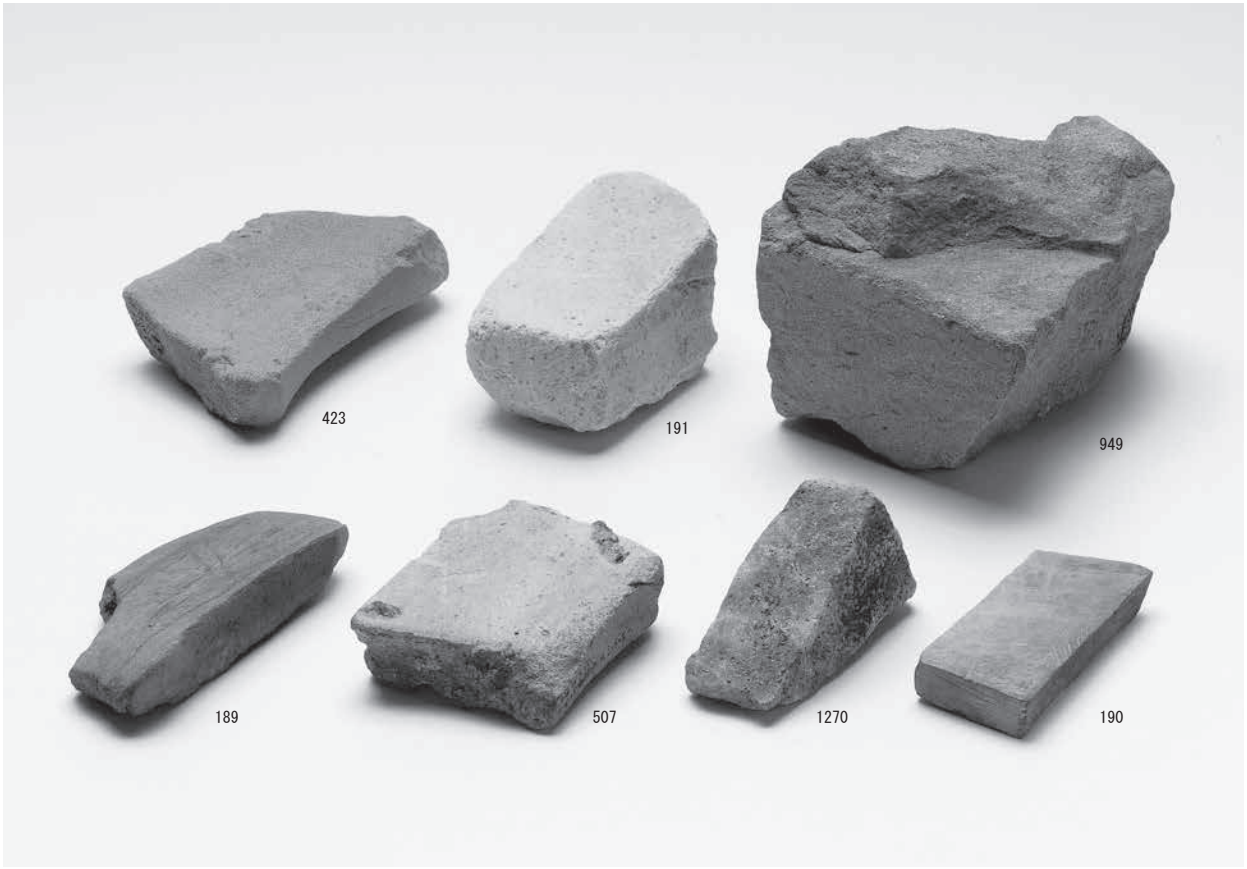
瓦


1283
1285
1286
1280
1284
1281
1287
1282

銭貨


1098
1102
1097
738
1099
1032
1131
1127
1260
1029
1192
1194
885
1195

加工円盤



砥石

191 ノミ痕

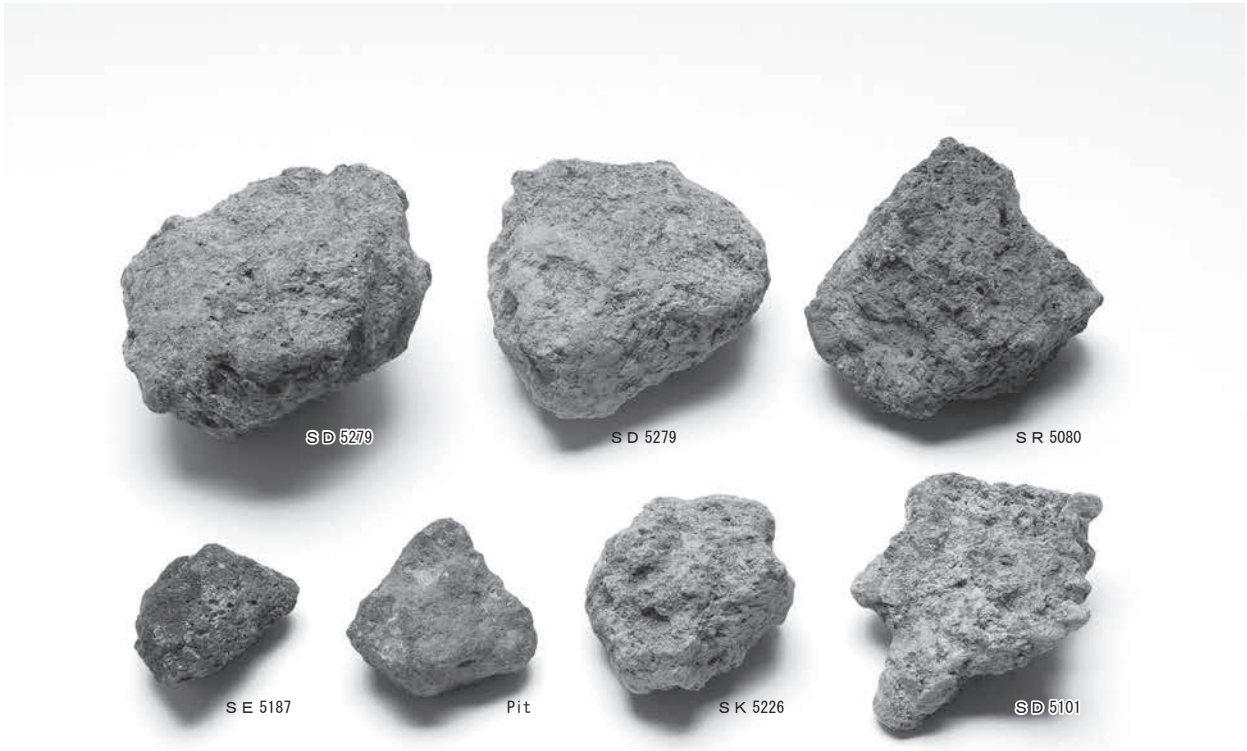
1034

190 ノコギリ痕

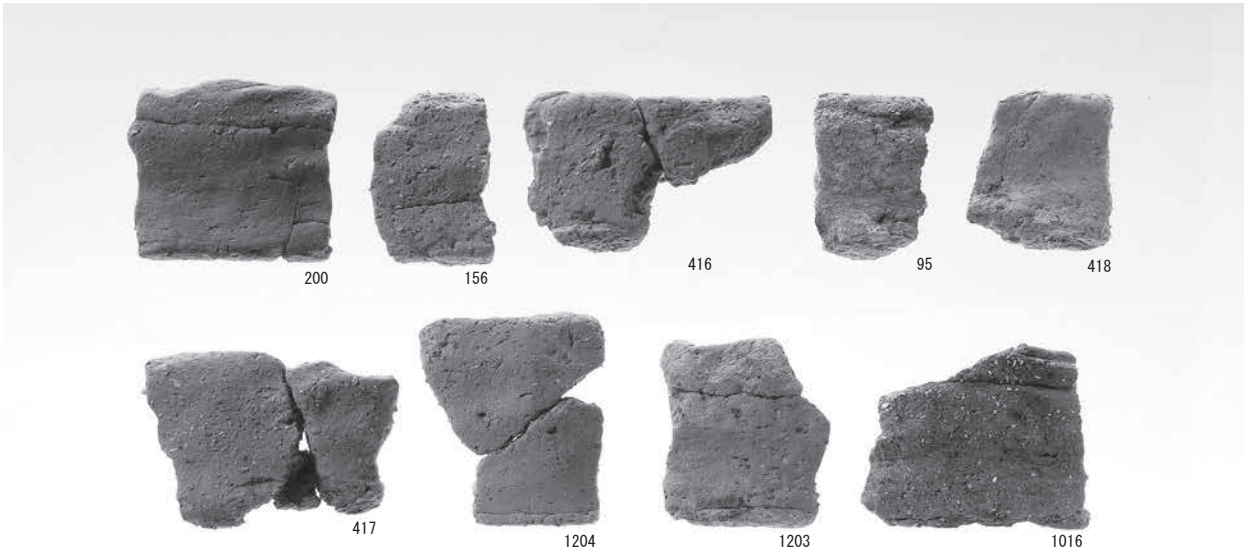
105

106

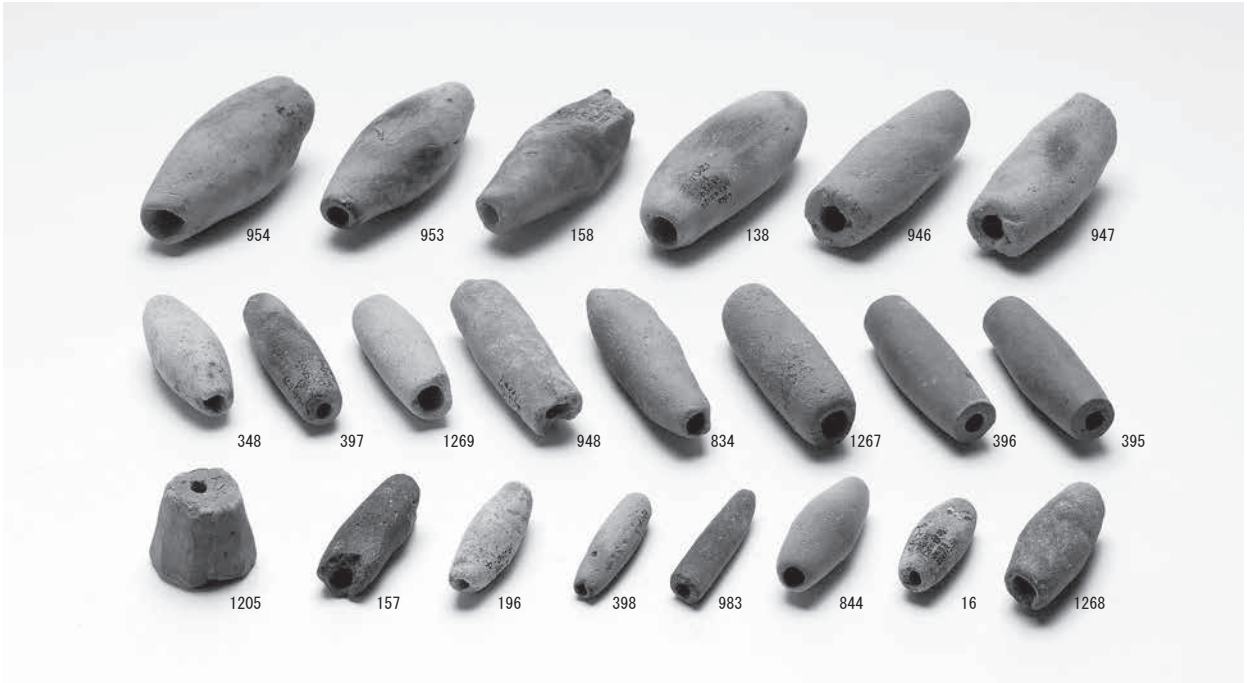
ＳＤ 5095 出土鉄滓・鞴羽口



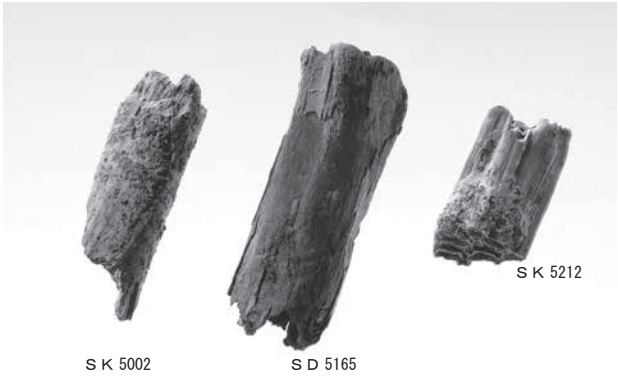
ＳＲ 5080 他出土鉄滓



志摩式製塩土器



土錘・紡錘車



獣骨

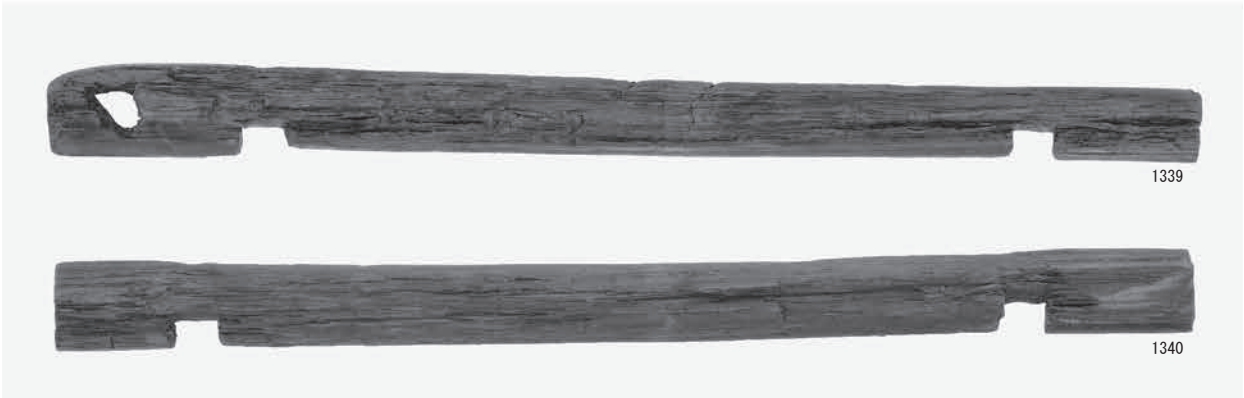
SE 5319 出土貝

1331

1332

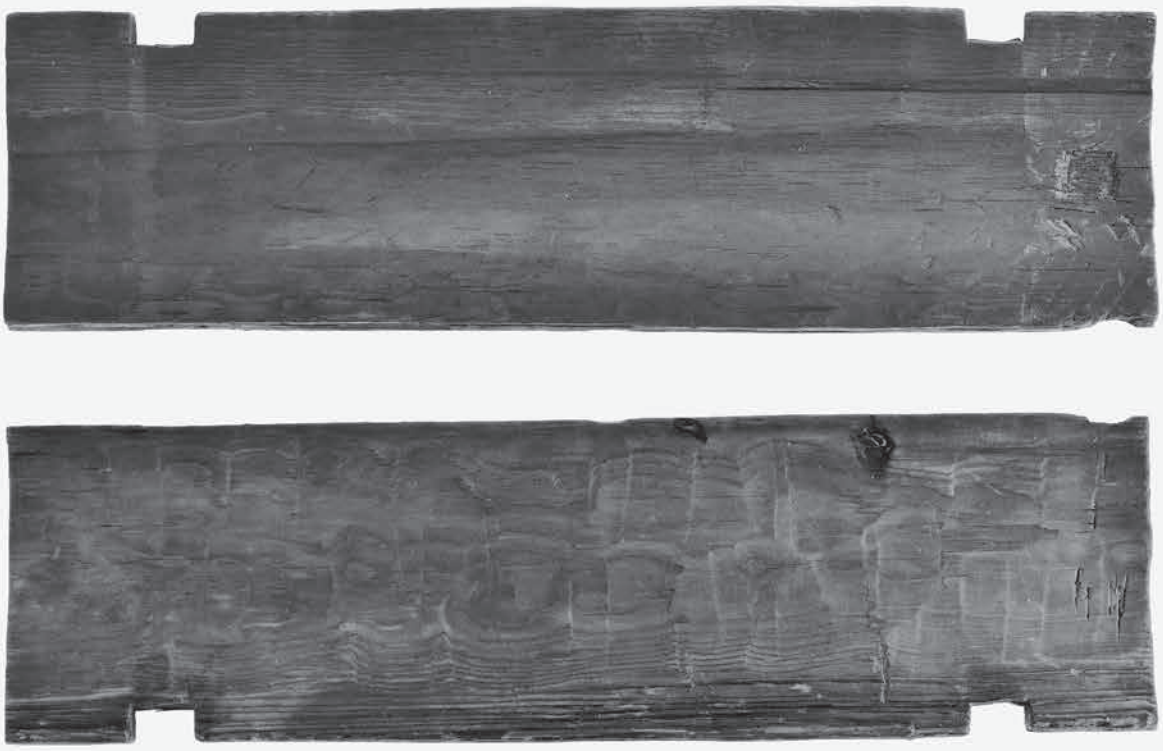
1333

1334


1339

1340

ＳＥ 5187　井戸枠横板・横桟



1335

1336

ＳＥ 5187　井戸枠横板

1337・1338

1337

1338

ＳＥ 5187　井戸枠横板（闕転用）

ＳＥ 5187　井戸枠横板・横桟

1339

1340

1333

1334

1331

1332

1335

1336

ＳＥ 5187　井戸枠横板・横桟詳細

1325

1326

1327

1325

1326

ＳＥ 5187　井戸枠縦板

1328

1329

1330

1328

1329

ＳＥ 5187　井戸枠縦板

1352

1352 扉軸穴付近

1352 切断痕

1295

1295

ＳＥ 5008・5201　井戸枠材（閾・扉転用）

1351

1351

1357

1358

1355

1354

1356

1353

1353

ＳＥ 5201　井戸枠横板・横桟詳細

1348

1348

1350

1347

1345

1349

1345・1350 接合関係

1346

ＳＥ 5201　井戸枠縦板詳細

1303

1302

1398

1400

1399

1397

1290

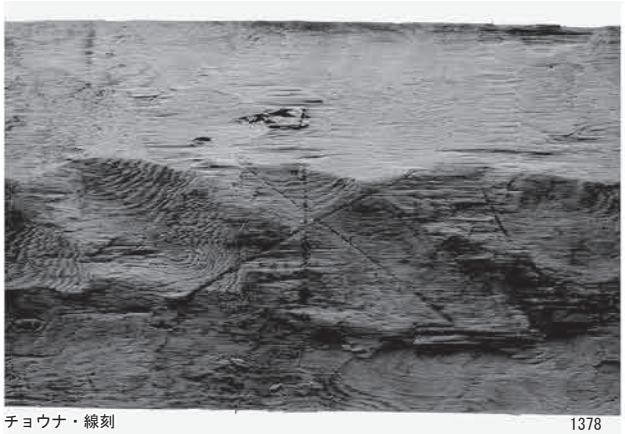
1291

1292

1319

1383 切断痕

ＳＥ 5026 他　土居桁詳細、榑板、縦板



チョウナ・線刻　1378

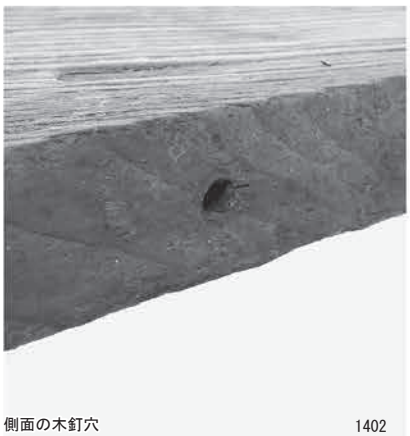
1381

チョウナ　1365

1414

縦挽きノコギリ（オガ）　1418

1418



側面の木釘穴　1402

1409

1381

井戸枠（結物）詳細

1437

1422

1421

1438

1436

1425

1433

1424

1434

1432

1439

1427

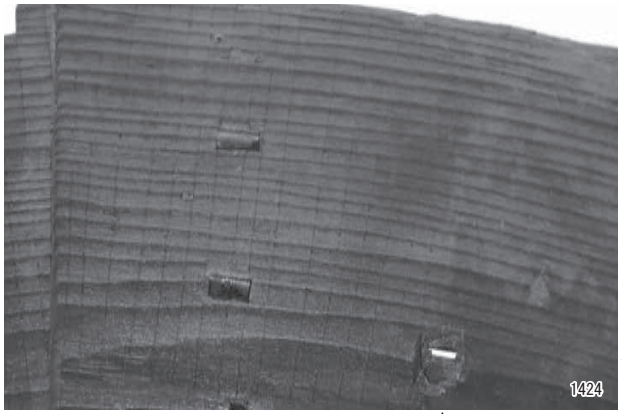
1429

1428

曲物１類　木取り・箍

曲物２類　木取り・箍

水通し穴

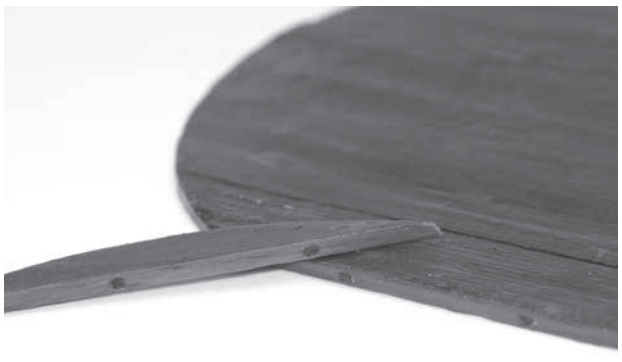


内面ケビキ・水通し穴

側板補修痕（紐結合）

内面ケビキ

内面黒色塗布物



底板補修痕（釘結合）

1442

1454

1448

1445

1441

1458

1457

1447

曲物底板・蓋

1440

1427

1460

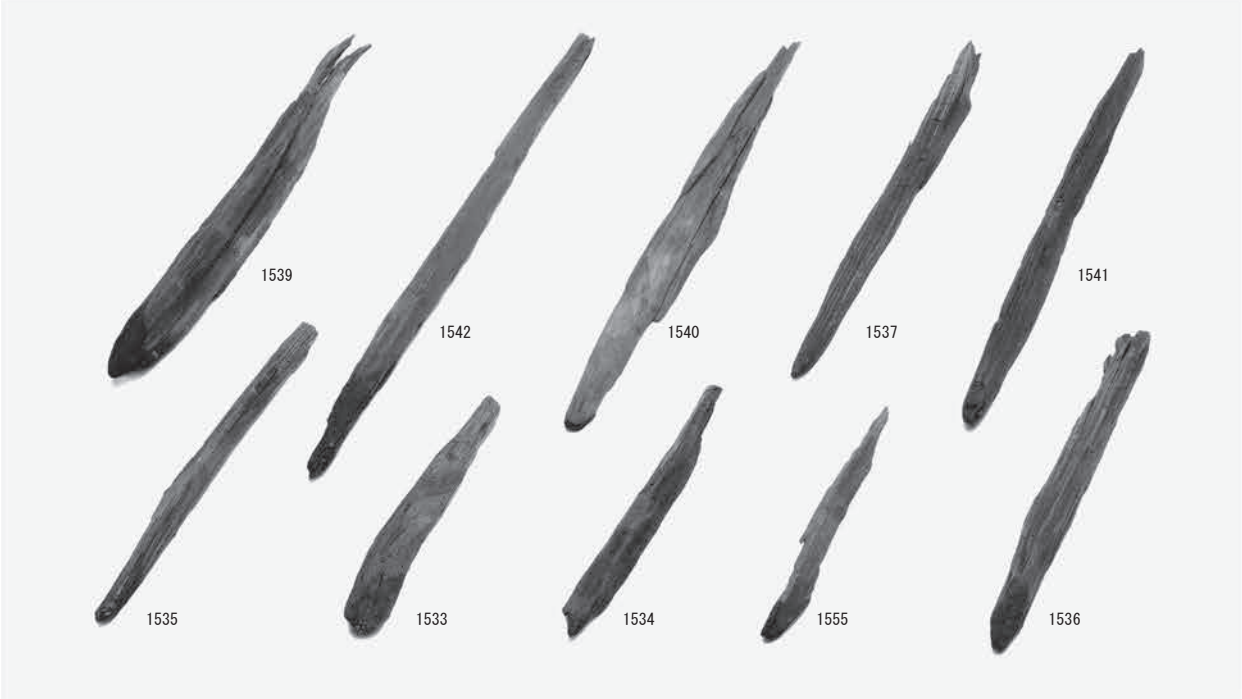
1428

1515

1530

1514 表

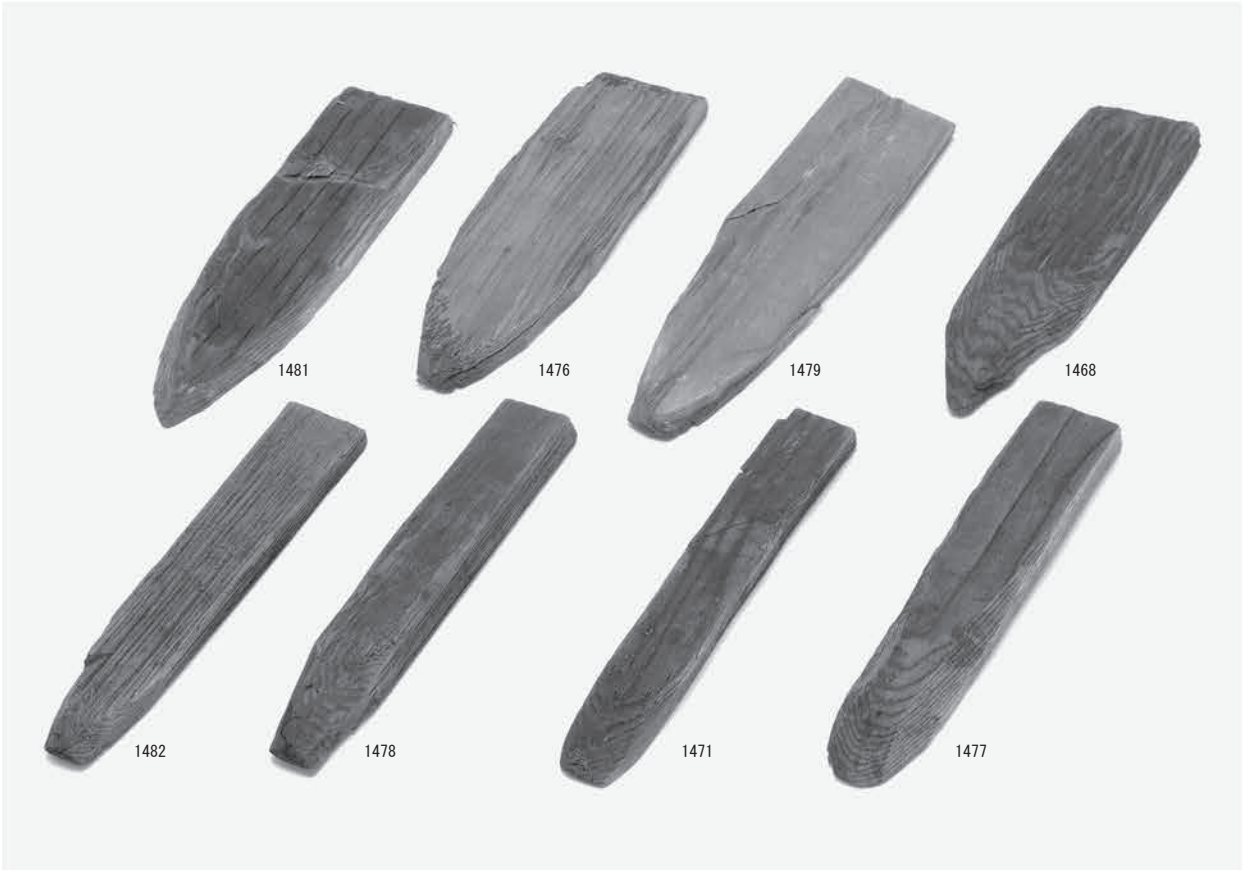
1514 裏



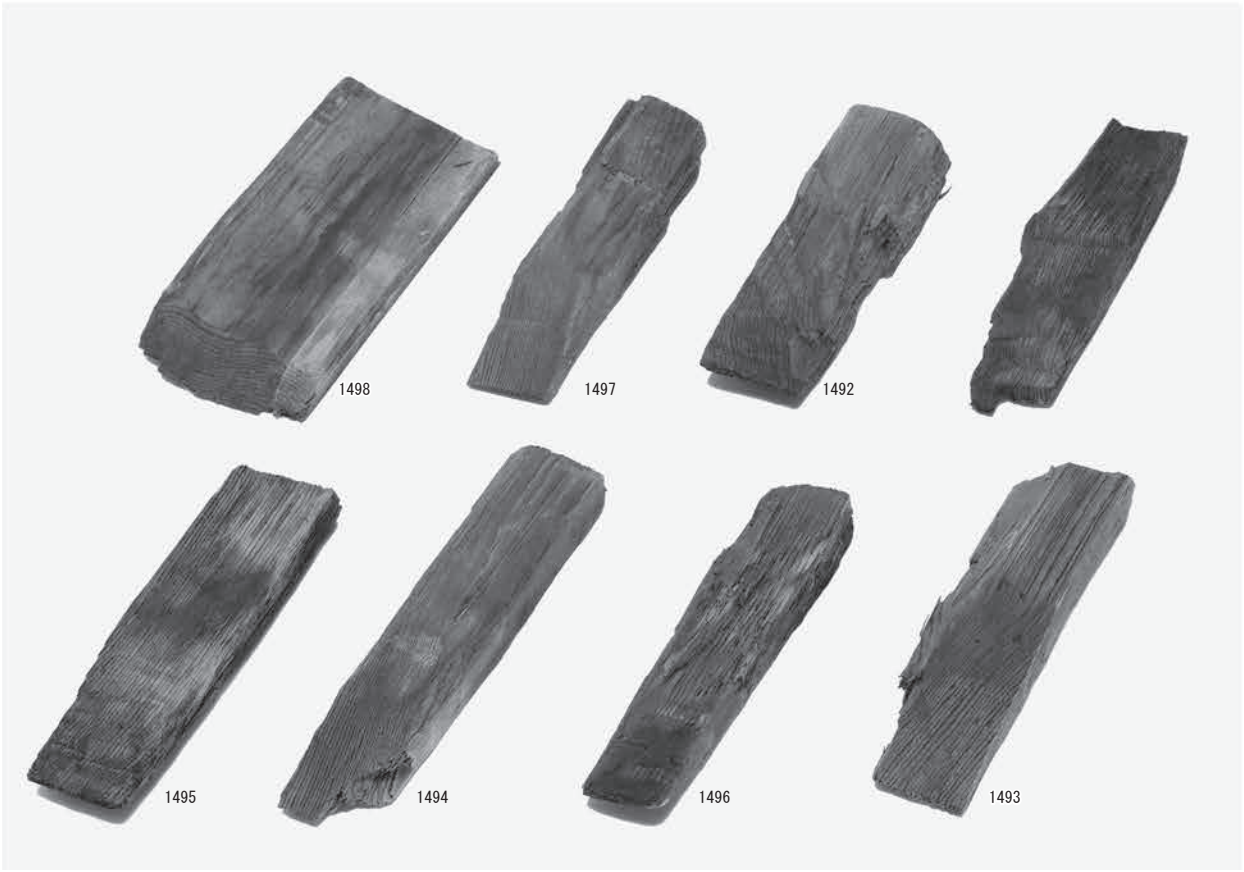
火付木

棒状具

ＳＥ 5305 楔　接合関係


1481
1476
1479
1468
1482
1478
1471
1477

楔（板状）


1498
1497
1492
1495
1494
1496
1493

楔（杭状）

報　告　書　抄　録

ふりがな	ほりまちいせき（だい５じ）はっくつちょうさほうこく
書　　名	堀町遺跡（第５次）発掘調査報告
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	３６５
編 著 者 名	櫻井拓馬（編）、相場さやか
編 集 機 関	三重県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒515－0325　三重県多気郡明和町竹川503　TEL 0596（52）1732
発行年月日	2016(平成28)年 ３月22日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほりまちいせき 堀町遺跡	まつさかしあさだちょう 松阪市朝田町	204	a 646	34度 34分 16秒	136度 33分 58秒	20120523 ～ 20130222	4,396㎡	高度水利機能確保基盤整備事業(朝見上地区)
たいかどいせき 大角遺跡	まつさかしあさだちょう 松阪市朝田町	204	a 871	34度 34分 12秒	136度 33分 39秒	20121024	64㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
堀町遺跡	集落跡	弥生～室町	掘立柱建物 井戸・土坑 溝・自然流路	土器・陶磁器 金属製品 木製品	
大角遺跡	集落跡	平安後期	溝・ピット	土器・陶器 木製品	

要約

堀町遺跡は櫛田川左岸の低地に位置する。今回の調査では、耕土直下で弥生時代後期から室町時代（戦国期）の遺構を確認した。

調査地西側の１～３・５区は弥生時代後期、平安前期～鎌倉時代の遺構が中心であるが、中央～東側の７・８区は鎌倉～室町時代（戦国期）の遺構が主体となる。４・６区は遺構が希薄だが、６区では飛鳥時代の溝から鉄滓等が多数出土しており、近辺に鍛冶関連遺構が存在した可能性が高い。

調査地中央には、平安前期の創建と伝えられる古刹、朝田寺が所在するが、付近の調査区では、朝田寺に関連する寺域溝や瓦は確認できなかった。現境内を横断する自然流路の埋没時期などから、当寺の現地成立は室町時代以降のことであると推測される。大角遺跡は、堀町遺跡と同じ平安集落の外縁部にあたると考えられる。

遺構は、大型の掘立柱建物や土坑のほか、27 基の井戸を確認し、長期にわたる井戸の変遷を知ることができた。井戸枠材には闕（蹴放）や壁板など、建築部材が多数含まれている。出土遺物では、「盛法寺」銘の墨書土器が特筆され、遺跡周辺に逸名寺院が存在した可能性が出てきた。また井戸枠材や曲物から、木材資源利用に関する多くの情報が得られた。

自然科学分析は、樹種同定、種実同定を行い、古環境に関する資料を得た。

三重県埋蔵文化財調査報告３６５

堀町遺跡（第５次）発掘調査報告
～松阪市朝田町～

2016（平成 28）年３月 22 日
編集・発行　三重県埋蔵文化財センター
印　　刷　株式会社アイブレーン